

衝動的なの

ソウクイ

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

此処に置かれてる作品は衝動的に書いたのです。

だいたい単品です。

中途半端です

続きはたぶん無いです。

目次

猫いち	1
ネコに	19
ネコさん	32
ねこよん	48
ねごご	59
ねころく	68
罪なフクロ、1	80
奇道戦士ガンダム	97
ハルヒーローの世界	109
師匠が囁ませ	124
第11話	142
蒼いヒーロー	155

蒼いヒーローに	164
蒼いヒーローさん	179
蒼いヒーローよん	193
蒼いヒーローご	205
大魔王INハイスクール	213
セル	222
セル2	229
セル3	239
インプモン	250
インプモン2	265
インプモンさん	276
ゲートに巫女さん	284
ゲートに巫女さん2	297

ゲートに巫女さん3	309
ゲートに巫女さん4	319
ゲートに巫女さん5	330
ゲートに巫女さん6	338
ゲートに巫女さん7	349
ゲートに巫女さん8	359
カストロ憑依?	375
カストロ憑依に	386
カストロさん	396
カストロよん	407
カストロご	420
カストロろく	430
まどかマジカINバーンさま	443

まどかマジカINバーンさま2	451
まどかマジカINバーンさま3	460
ドラゴンボール	466
ドラゴンボール2	480
ドラゴンボール3	505
ドラゴンボール4	519
ドラゴンボール5	539
ドラゴンボール6	554
ドラゴンボール7	571
ドラゴンボール8	586
ドラゴンボール9	609
ドラゴンボール10	624
もしもセル、ワンパンマン	640

もしもセル、ワンパンマンに	649
もしもセル、ワンパンマンさん	659
ネギマスレ	668
ネギマスレに	689
ネギマスレさん	708
ドラゴンボール?	723
第58話	738
先生	753
先生に	765
フエイト in	774
第62話	806
第63話	818
日記	839

日記から掲示板	852
日記に	885
日記から掲示板に	896
日記さん	915
ポケモン151	925
ゲート	943
ゲート、転生者	956
怪獣配信	968
怪獣配信2	989
変なことになった	1006
第75話	1039
第76話	1066
第77話	1082

第90話	第89話	第88話	に	よこしま	第85話	第84話	第83話	第82話	第81話	第80話	シャアさん	第78話

1295127712571233121812051194118111681153113011101098

横島、違うの	横島8	怪獣配信さん	第92話	第91話

13911369134913311308

猫いち

んーんー

もー朝かー。

むううーんー…ねむー

とても眠い。また寝たい。眠いときは眠るに限る。二度寝最高…あーけど、お腹も空いてる。お腹空いた。眠い…うーんー…起きよ。ボク専用の寝床（段ボール）の中でうーんーと体を伸ばす。毛深い手で顔をくしくしと洗う。手じゃなくて前脚かー。

改めて思うと、完全に猫の習慣が身に付いちやってるなー。猫と言っても普通に人の言葉を話せたり人に変身したり変な能力持っていたりと猫なのか謎なだけだね。ボクはなぜか人から転生して猫ぼい何かに成っていたネコだよ。分類したらネコかな。きつとネコだね。

生まれは捨てネコみたいな立場で、変な奴等に拾われてピトーと名付けられ、捕獲さ

れたり、誘拐されたり、戦ったり、逃げたり、暴れたり、色々であったりして、独りで長いこと野良で放浪してたけど……変な子供に拾われて今は飼い猫。

最初はちよいとムカいついたけど、馴れると飼い猫生活いいよー。だって野良猫の時と比べたら雲泥の差、安心できる寝言に何もしいでも貰える御飯、食っちゃ寝生活は最高だよ！

元人としてのプライド？何処に行ったのかなー。地平線の向こう辺りにあるんじゃない。人の時より長く猫として過ごしてるし人のプライドが百倍ぐらいに薄めたカルピスみたいに味がしなくなるぐらい希薄になるのも仕方ないよね！

あとこの世界も地球ほいけど”個性”なんて訳のわからない力のある元とは違う世界だし。別世界の人だった頃のプライドとか気にしなくていいかなーと思う。

ぐううう

ふあああ……あーお腹が減った。

今の自分の事とか思い出してる暇はないね。段ボールから降りてゴハンのある筈のリビングに向かったよ。

さて優雅に朝御飯。

リビング端に置かれたボク専用のお皿を見る。

今日のご飯はなにかなー。何かなー

カラっぽだー

うん、見間違いかなー

もう一度お皿の中を見る。

カラっぽだー。

可笑しいなあ。

とても可笑しいなあ

朝御飯がねえ。

皿から顔を上げて時計を見る。トテトテ走って移動、ドアのノブに飛び乗りガチャとドアを開ける。これ普通の猫でもやるよね。ドアをあけて部屋の中を見る。相変わらずヒドイセンスの部屋だよ。部屋の中は筋肉男のポスターや人形やグッズが飾られている。変態臭がキツイよー。

「……zzzz」

予想通り。この変態部屋の主でボクの朝ごはん係りの変態がまだ寝てる。朝ごはん用意せずに寝てるとは不貞なやつ。腹へりご立腹の可愛いニャンコの怒りを受けるがいい。

とう!!

「zzz……ぐふあ!!???」

ジャンプして下僕、もとい飼い主の腹部に飛び乗る。そしてバンバン肉球でほつぺたを叩く。

「いずくー。おきろー」

「ぐふう……おき、ぐふ!お、ぐふ……起き……起きたから!叩くの止めて!」

ボクのお陰さまでスッキリ目覚めた見掛けモブな感じの飼い主。キモオタな感じなんて思わないなんて凄い配慮してるよね。

「ようやく起きた。」

「頬が痛い。ピト……叩き起こすの止めてよ……」

「だってイブク!警報が鳴ってんだよ!」

「え、け、警報!?避難警報でも出たてるの!?!」

「そんなもんじゃないよ。もっと大変な警報だよ。イブクの大切な相手に危機が迫る警報だよ!!」

「えええ!?!いい、いったい何が起きたの!?!」

ぐうう。

「聞こえたでしょ腹へり警報！イズクの大切な愛猫がピンチだよ！早く起きてご飯の皿に至急ご飯を用意する！ピトーさんは焼いたサンマをご希望だよ！」

美味しそうなサンマは昨日の夜に冷蔵庫にはいつてたのを見たよ！

「……………」

なーんで焦った顔からスンと感情が抜け落ちるかな。ドブのようにドンよりした目、とても大事なプリティーな愛猫に向ける視線でないなー。

「もう、ご主人さ、ゲフン、愛らしい飼い猫がお腹を空かせてるんだから迅速に起きてご飯の用意をする」

「いや自分で用意したら？」

「いづくが酷い鬼畜。可愛い飼い猫にエサを自分で用意しろなんて」

前肢で涙を隠すみたいに目を覆う。

「可愛い……かわいいい???'」

猫。パンチ

「ガフ!?!」

「もうイズク寝惚けてるの」

目覚めの一発で起きたよね。起きたなら早く朝ごはんって、あれ？白目向いてる？

「たかが猫パンチで寝るなー」

鳩尾にドスって入ったけどたかが肉球ネコパンチだよ。石が砕けるぐらいの威力だよ。肉球でペチペチしてたら起きた。

「う、うう……痛いし眠いよ。今何時……まだ5時じゃないか。後一時間寝かせてよ。昨日の訓練のせいで辛いんだよ。一時間後に起きたらごはん用意するから」

一時間、一時間かあ。うん無理！一時間とかお腹が持たない。

「ええ一時間お預けなんてとても我慢できないよおー。お腹をすかせた可愛い子猫を助けてにゃ」

ネコの上目使い

この魅惑の眼差しに叶うモノなし！

「うわ、気持ちわる」

まだ寝ぼけてるみたいだから口で布団をひっぺがした。

「うわああ!!ひぐえー」バキ

布団とると勢いでベッドから落ちた。

ちよつと異音が聞こえたね。

「流石におきた？全く、ご飯を早く用意する。これは『師匠』命令」

「……うう了解です師匠」ゴギゴキ

イズクとボクの関係はペット兼師弟関係。勿論師匠はボクだよ。ペットもイズ……ボ

クだよ？個性が出来てから個性持ちを働かせるヒーローって職業が公式に認められた。なのに無個性の癖にヒーローに成りたいって言うイズク、そんなイズクの為にヒーローになるのに鍛えてあげる師匠をしてるボクは飼ひ猫の鏡だよねー。

ウマイうまい。

サンマの焼いたのは良いよね。

ネコになってから魚が美味しく感じて仕方ないんだ。

「生で食べたら良いのに」バキバキ

「むぐむぐ、サンマは焼いた方が格別なんだよ。と言うかお刺身の魚でないとなんか体に悪い。体調崩しちゃうよ」

「……フグを毒をそのまま食べても平気そうな癖に……」ビキビキ

「なにか言った？さて、いづく、折角早く起きたんだから朝御飯の前に昨日の修行の続きでもする？」

「あのね。身体からヤバイ感じの音が鳴ってるの気づいてるよね？少し動くのでもつらいんだよ」ゴキ

んーそう言えばさつきからイズクの骨からいい感じの音が鳴ってるね、これじゃあ運動も無理かな。なら仕方ない。

「あ、な、なんでもないです！やっぱり大丈夫です!!!」ブチフマチ

「優しいボクが治療してあげるよ」

「大丈夫だからああ!!!!げほげほ！」

遠慮すんなよー

この世界には個性って不思議な能力がある。個性って一人ひとつなのにボクは複数ある感じ、複数と言うのかな。ハンター×ハンターに出てきた念能力ならだいたい使える感じ。あと人型にもなれるよ？人型は、うん、名前のまんま。

玩具修理者（ドクターブライス）

背後に現れるナースさん（？）原作的には普通の人に見えたりしないけど此方は見えたりするよ。外見は原典まんま、ぐろい。見えない方がいいよね。

「うわああ!!でたああ!!!!」

イズクにも普通に見えるよ。

「まって！その治療はやめて!?それ受けるぐらいならこのまま修行のほうがいいからああ!!」ゴギゴギ

「もー遠慮しなくていいよ」

「遠慮ちがーう!!」ボギ!

逃げようとするイズク、沢山のメスが迫る。身体はマトモに動けなくて逃走も不可能。這ってでも逃げようとしてるね。

「遠慮無用だよ。さ、やるよ治療（修理）」

「いやあああ!!何度もいつてるけど!!遠慮じゃなーい!!や、やめて!たすけて!!ころさないで!いやあああ……あ」

ぐぎいいいああ!!?

断末魔みたいな声が聞こえた?

気のせいだよ。

イズクは気絶した。

さて、ドクタープライスを消して…ナース服の女の子が代わりに現れる。

「治療完了」

ふういい仕事したー

ナース服の女の子の幻影を直ぐに消す。

またドクタープライスを出す。

イズクをブスリと起こす

「フギヤアアア!!!」

イズクを痛みで気絶させて年齢詐称な人のクイキーなマジカルな念能力で回復。ちゃんと人に使えるの。マッサージで回復は此方が主。ドクタープライスは痛みで気絶させるだけ、え?理由?優しい治療に馴れたらダメだしね。ヒーローになったら猪突

ボクが言うのもなんだけど良くこんな適当な言葉で納得するよね。イズクって折れないよね。はじめてから10年、泣き言は毎回言うのに止めることはないド根性もち。根性ない見かけな癖に……それが生粋のDMなのかな。

「回復は済んだしこれで朝の特訓できるね!」

「うん…」

頷いたね!日曜が終わって月曜って感じのドンよりした顔だけど!あ、そうだ思い出した。

あるものを取ってきてドンとイズクの前におく。

「あのそれは…」

「担ぐ重りを新しくしたよ。ちよつと重いけど頑張つて乗り越えてね!」

「……」

「どうしたの?」

「うん、それ重り…重りが重くなったのは……良くないけど、良いけど、ほんとよくないけど、いいとして…いいとしても…!つだけ文句をいわせて、何で亀の甲羅!これで表を走らされたりするのすごい恥ずかしいんだよ!用意するなら別の形の用意してよ!」

「何をいうかな。由緒正しい偉大なヒーローを育てた武術の神様が修行には亀の甲羅を使つてたんだよ。これ以上にヒーローに成るための修行に最適なモノは無いね」

実際は海を散歩してて見付けた亀を食べちゃったから残りを有効利用してるだけだ
けど。

「亀の甲羅を背負う武術の神様なんて聞いたことないんだけど」

え、そういうえばこの世界にはあの有名アニメは無かったっけ。

「(この世界には)知られてないだけでスゴイ人なんだよ。それが無くてもヒーローは見
られる職業なんだし体を鍛えるついでに視線に馴れられるの良いよね。一石二鳥だよ
！」

「……ヒーローがされる注目と違うよね」

不満そうだなあ

「んーこう言う特訓がイヤなんだ……」

「な、なに考えてるの。悪寒がすんだけど」

「あ、そうだ。別に思い付いた事があるんだけどやってみる？ヒーローへの近道だよ！
と言うか此れをやればヒーローに直ぐに成れるよ！」

「それは…なに」

「改造人間系のヒーロー！」

「か、改造人間?！」

特訓でヒーローになるのも王道だけど、ヒーローの王道には改造人間もあるよね。仮

面ライオン、ロマンあるよね。出来るかなドクタープライスとか他の念能力で、うん、いけそうかも、うまく行くかな？挑戦しないとわからないよね。まずは試してみようか。ヒーローに成りたいイズクの為にもやってみよう！

期待に満ちた視線をイズクに向けた。

「よく見たらこの甲羅カッコいいね！うん！修行には甲羅が最適だよ!!」

なんかイズクがいきなり亀の甲羅を誉め出した。亀の甲羅がカッコいいってイズクの感性残念だなあ。

「改造の方が（失敗しなきゃ）お手軽に強くなれるよ。ヒーローへの近道だよ！個性持ちにも負けないよ！改造しない？」

「しません」

これはガチな拒否反応。改造なしで修行だけでヒーロー目指すの。うーん、イズクがイヤならしかたない。ならもつと鍛えなきゃダメだね。

「そっかーじゃあ特訓を多めにしないとダメだね」

「な、なんですと」

「だってハンデありでヒーローになるんだしね。とりあえずは甲羅を背負って町内5周、その後は腕立て、腹筋〇百回の3セット…これを朝御飯までにね」

「……………何時もより”ちよつと”多いね」

「うんちよつとで済まして上げたボクは優しいね！ほら学校の時間もあるし急がないとダメだよ」

朝のちよつと多目の追加トレーニングも終わった。朝ゴハンはイズクの口に突っ込んだ。イズクを見てみる。

「……………」ビクビク

死にかけのトンボ…？

「イズクー!!もう学校の時間！急がないと遅刻するわよ！」

あ、ママさんの慌てた声

時計を見ると…………ヤバイね。

「いづく！学校の時間。寝てたら遅刻するよ！」

「…………」白目

ゴハンを食べた後に気持ちよく二度寝するなんて仕方のない飼い主だなー。ユサユサ揺すってみる。起きない。まるで永眠したみたいに深く寝てる。すぐに起きそうにない。起きててもマトモに身体動かないかな？また治癒するのは少し時間かかるし。治癒してからだと遅刻、遅刻するのはよろしくない。

「しょうがないから学校まで連れて行ってあげるよ。」

僕以外がね。制服にズバツと着替えさせ、次に学校のカバンとイズクを引っ張ってポイと外に出す。ズシヤって顔面から地面に落ちた。ボクも外に出てニヤヤーと合図を出すとガサガサと集まってきた。

『ボス!!おはようございます!』

『どうされました』

ニヤーニヤヤーと集まる近隣の部下（猫）たち。部下にする気はなかったけどなか部下になってたんだよね。

「いづくが学校なのに寝てるから学校まで運んでほしいんだよ」

『寝て…永遠にですわね…』

『葬儀場にするの間違いでは』

こら死体を見るような視線を向けられない。体がビクビク震えて白目向いて意識がないだけだよ？死んでないよ？……死んでないよね？

「いふ……い……一応生きてるよ」

あ、イズクが目を覚めた。

「生きてた…じゃなくて意外と早く起きたね」

『ボスが恐ろしい事を言ったような……』

『兄弟、なんで朝から死にかけんの？』

「…ピトーが…」

「そんな事は良いから早く運んでね」

『へ、へい、じゃあイズク運ぶからな』

沢山の肉球持ちの畜生に御輿のように持ち上げられるイズク。

「……皆、ありがとう運んでくれて」

『気にするにや兄弟子、ボスの命令だからな』

『朝からボスにしごかれて大変だったろうし仕方ない』

「うん…ほんと大変だったんだよ」

『うう辛さは俺達もわかる』

二足歩行の猫達に御輿みたいに運搬されてくいく。黒猫ばかり集めてこれぞクロネコヤマトやってみたいね。

亀の甲羅を背負うより目立ってるけど思うけど良いのかな？イズク物凄い見られるねー。アイルーみたいに二足歩行の猫に運ばれてるんだしね当然か。二足歩行はたぶんボクが鍛えた結果だけど、鍛えたからって二足歩行になれるのかな。ドクタープライスで改造とかしてないよ？するわけないよ。改造してみたいなー。

アレ？なんか皆が足早になって離れた？

『い、今寒気したにや!ぼ、ボスが悪巧みしてた?!』

「たぶん正解だよ。…今朝改造とか思い付いてたから試そうとかしてくるかも、みんな気を付けてね」

『か、改造!?!』

『(ボスの近くの) 此所は危険だ。早く学校にいこう』

「うん、急いで」

イズク、ネコ達と話してない?

ネコと話すとか頭大丈夫?

魔女の宅急便の裏設定、主人公だけが飼い猫のキキかジジってネコの声を聞いているけど実は、魔女の能力とかでなくて、妄想……

あの映画の事を思い出しながら、イズク達についてボクもイズクの学校に行く。学校に侵入して猫達がイズクをクラスに放り込んだの確認した後、飼い主の為に爆発三太郎に野暮用を済ましてから早急に帰る。

「誰だ膝かつくんしやがったのは!!……って!!アイツしかいねえ!!どこだクソネコ!!」

盛大な爆発音、やって、来てる教師。

怒られるの確定。

今日もいい天気だなー！。

ネコに

ボク緑谷出久はそこら辺に居るヒーロー志望の少年、ボクはもう中学三年、先生が高校の進路の話しをしている。ボクもヒーロー科目指してるけど大体がヒーロー科狙いなんだ。無個性のボクが思うのも何だけど……本気でヒーローになろうってつもりなのかな。

「爆豪は雄英のヒーロー科志望か」

「ま、マジか！あの雄英を受けるのか」

「雄英なんていけるのか!?!」

「は、オレはモブ共とは格がちがう。俺なら確実に合格なんだよ」

うーん、幼馴染は相変わらず自信過剰、ヒーローに成れるとかよく思えるよね。強さならプロヒーローにもなれそうだけど、才能と性格が反比例してるタイプだしね。雄英に人格審査とかあったら跳ねられるよね。

それに雄英に行くのに成績はともかく内申は大丈夫？今朝も個性の無断使用とかで怒られてたよね。何故かその件でボクに怒ってきたし知ってる。

「そう言えば緑谷も雄英高校志望か」

!!?

驚くよ。隠したかったボクの進路希望を先生が勝手に皆の前でバラしたんだから、え、なんで言ったの。先生は無神経なのか、性格が悪いのか。どっちにしても担任としては大外れだよな。

『『……………』』

ほら戸惑ったような空気が発生した。

「緑谷…が？雄英に？」

「成績は良いけど無個性の緑谷にキツイだろ？」

「そっかな。緑谷は無個性だけど…体育だとスゴいし」

「試験次第じゃね」

だから言つて欲しくなかった。この微妙な評価はイヤだ。無個性でももしかしたら行ける？って感じの評価か。

無個性だけど、個性抜きな体育ではトップだし。ボクが拷問、もとい、死ぬほど努力してる姿はイヤでも見られてたからこれぐらいの反応なんだろうなあ。これで何の努力もしてないようだったら笑われたりするのかな。ありそう。約一名とか絶対に笑う

あ、笑うんじゃないやなくて怒るのか。

いま実演してる。

「おら!! デク! 凡個性どころか無個性のテメエが俺と同じ雄英だと。ふざるな!」

また個性使つて机爆破する。爆竹ぐらいで机に焦げもつかない程度なのは小物というべきか。力の制御が凄いと言うべきか。

先生の目の前だつて知ってる?

まああの先生はスルーしてるけど、やっぱ担任として大外れだよな。

話しを聞いてみると要するに自分が雄英に行くから邪魔? 邪魔つて、なに考えてるんだろ。ヒーロー科目指して内申とか気にしてる筈なのに、一応先生の前で暴言プラスして机を軽くでも爆破してる。これで雄英のヒーロー科に合格できたらある意味怖いよ。

面倒だしスルーした。

「無視すんじゃねー!!!」

面倒くさいなあ。昔は怖がつてた時もあるけど何時もの事だし慣れた、ピトーのやることの怖さと比べたらねえ。チンピラと大物ヴィランぐらい差がある。例えに特に深い意味はないよ。

授業は終わった。

「デク! 話しはまだ終わってねーぞ!」

帰るときにもまだ絡んでくるとかしつこい。

そんなだから……

「迎えに来たよイズクーー！」

「ぐはああああ!!!」

「カツキーー!!」

迎えに来たピトーに轢かれて白目向くことになるんだよ。どんな威力でぶつかつたら人が空を飛ぶのかな。

「何か轢いたかな？気のせいだね。それより帰るよイズク」

ボクが小さな頃から家にいるネコみたいな生き物、ペットを自称するボクのお師匠さまのピトー。気絶させた人の顔をわざと踏むのは良くないよ？脚で顔をゲシゲシして

る。

「緑谷いいかげんそのネコの躰ちゃんとしろよ！」

幼馴染みの友人（手下？）が文句を言ってきた。遠くにいるのは前にピトーを止めようとして酷いめにあつたからかな。

「躰られてる方に無茶言わないでほしい」

「おまえが躰られてる方なのか!？」

躰られてるし！僕が小さい頃から世話をしてもらつてるし逆らえないんだよ！本当に小さい頃から……あれ、昔を思い返すと全くピトーの姿かわつてない。ピトーつて年齢

いくつなんだろ。あ、ごめんなさい考えないので野生の目を向けなくてください。

その後気絶してる幼馴染を放置して帰ることに、ほんの少し悪いと思ったから起きるまで待つてようかと思つたけど、そのネコ居るとややこしくなるから帰れと幼馴染みの友人に言われた。まあ確かにピトーなら謝るところか追い打ちかけるとかしそうだからお言葉に甘えることにした。

帰り道は独りと一匹

「で、今日はなんでアレは絡んできたの」

帰りながら今日の事を話した。

「ふーん、イズクがヒーローに成るのが気に入らないって、それにやっぱりアレも雄英に行くって？それもトップヒーローになるって。プツ、こんな可愛いネコにぶつかっただけで気絶するのにトップヒーローって笑わせるよね」

「……ピトーと車がぶつかった時って吹き飛んでたよね？車が」

無視して頭に乗るピトー。

「重たい」

「イズク乙女に重たいとかデリカシーがない」

食い気しくないピトーに乙女心って、というか

「重たいのピトーが持つてきた亀の甲羅のことなんだけど。また重さが増量してるよ

ね」

持ってきたんだ亀の甲。

そんなのもって頭に乗るから首がグキツて言ったよ。首の骨が折れると思ったよ。

修行の道具ってボクの為なんだよね。昔ピトーにボクはヒーローに成りたいって言ったんだけど、ヒーローになる為に協力してあげると修業という名の拷問を色々してくるようになった。無個性のボク相手にヒーローになるの賛成して協力してくれるのピトーぐらいだし。有り難いと思うんだけど……ヒーローに成る前に生きてるかどうか不安なんだ。わりと毎日臨死体験するんだ…

「ボクみたいなそこら辺に居るネコに持てる程度の重さのモノを楽に背負えないと、ヒーローなんて夢のまた夢だよ」

ピトーはネコみたいな超生物だよ。最低でもボクの何10倍、何百倍の筋力あるよね？ピトーがそこら辺に居るネコなら人類は淘汰されて世界がネコに支配されてるよね？ネコ好きには嬉しい世界だろうな。ピトーがたくさんかー

「どうしたのイズク真っ青な顔をして」

「うん、ちよつと地獄絵図が脳裏に浮かんでね」

「ふーん？そう言えばイズク」

「なに」

「なにか近付いてるの気付いてる？ たぶんヴィラン」

「うん……」

ピトーから散々その手の訓練は受けさせられたからね。主にピトーの手下で兄弟子な野良猫相手に。二足歩行とかしてるし凶器は手で持てるし。本当にネコか疑問がある兄弟子な猫相手に。ピトー既に改造とかしてないよね？

気配的にヴィランっぽいし。流石に今は修業とかしてられない。ボクは亀の甲羅を落としたらドシンと落ちて地面にヒビが入った。地面にヒビが

「ねえ？ やっぱり重さが可笑しいよね？」

「それより出てくるよ」

出てくるって、姿は見えない。変だな気配は近くに感じるのに姿がまるで見えない。隠れてるのか。見えないほど小さい。それか透明な相手…あ…そうか。彼処か。

マンホールから液体の様なモノが溢れた。やっぱり地下から来てたのか。

「お、ラッキーだ。Mサイズの隠れ蓑が直ぐ近くにあるなんてな」

げ、液体系のヴィラン。それにMサイズの隠れ蓑、たぶん僕の体狙いつて事だよね。なんでこんな面倒そうな相手と帰宅してる時に出会うんだらう。不幸だ。液体だけで本体みたいなのは見えない。液体しかないのか本体が見えないのか。どっちにしても

無茶苦茶厄介そうな相手だ。

「い、イブク」

ピトーの声が震えてる。まさかピトーが怯える程の相手なの!?

「臭い」

なんだ。ピトー鼻が良いからか。

頭が軽くなった。

「イブク頑張れ」

声の方向を見ると風上の臭いが届かない家の屋根の上にあった。ボクの頭から一瞬で移動した?瞬間移動とかしてない?相変わらず早すぎる。

それで頑張れって、頑張ってヒーローが来るまで足止めしろってことだよー。逃げろなんて優しいことを言うわけがない。

「な、なんだあのネコ!」

ヴィランの人が驚いてる。

まあ驚くよね。

向こうの猫を狙いません?

「つてアイツが来るんだ猫なんてどうでも良い!急いでそのMサイズの隠れ蓑、体を貰わないとな!」

液体が飛び掛かってきた。遅い。野良猫のマタタビくんがデブになった時より遅い。相手から視線を外さないようにバックステップで避けれた。

「避けるな！」

「いや避けるに決まっていますよね?」

速度を上げて連続で飛び掛かってくるのをバックステップでかわしていく。ピトーに餌を全身に付けられて野良猫相手に耐久レースやらされたときに比べたら楽勝! あ、楽勝なんて顔をしたらピトーの訓練が悪いこと考える! ひい! ピトーが何か考えてる! ど、どうしよう。このあとが怖くて仕方ないよ! 今襲ってるヴィランよりピトーの方が万倍怖いってどうなんだろ……!!

「時間が無いっていうのに!」

「時間が無い?」

そう言えばさつきから慌てた様子かな、何か用事がある。それか追われてる? あ、追われてるが正解か。確かに時間はないね。もう来たみたいだから。誰かがマンホールから飛び出して液体ヴィランに飛び掛かった。

あ、あの人は!!

「君! 動かないでね! S M A S H !」

拳の一撃に液体ヴィランが飛散した。

拳一発でとんでもない衝撃！

いやボクにとつて物理的な衝撃より精神的な衝撃の方が大きい。眩しい笑顔にVの字に見える金髪の巨漢。あの一撃の強さ！こ、こここの人は、この人は！

「さ、サイン下さい！オールマイト！」

ボクはノートを取り出してそう言った。

「は、H A H A H A H A！いいよ！」

一瞬オールマイトからなにこいつみたいな目で見られた気がするけど気のせいだね！

「ただちよつと待ってね！」

オールマイトがヴィランの液体を集めて500ミリのペットボトルに……え、今どうやって入れたの!?明らかに容量越えてたよね!?さ、流石はナンバーワンヒーロー常識が通用しない!?

「さて！サインを書いてあげるよ！」

摩擦熱でノートが燃えるかもって速度でサインを書いてもらった。

「それじゃあ！急ぐから！」

オールマイトが跳び去っていかうとしてる。

「あ！ちよつと待ってください！」

ボクはとびたつオールマイトの腰に抱きついていた。

「はやっ！って、君なにしてるの!？」

うん、本当になにしてんの。

聞きたいことがあるからって何で抱きついてるんだろうねボクは。オールマイトに抱きついたまま空の旅にでることになった。

下にピトーがいるのが見えた。

ピトーの唾然とした顔は始めてみた。

え、なに、イズクが液体のヴィラン倒した巨漢の野郎と飛んでいった。

本当、何してるのイズク。

なんで巨漢の人に…あ、そう言えば、あの巨漢、何度も見たことある。物凄く、物凄く見覚えが、あ、ああ!!イズクの部屋に大量に貼ってあった巨漢だ!!ナンバーワンヒーローの!!?い、イズク?本人を見て我慢できずに思わず抱きついたの!!セクハラ!!痴漢!!何て言うの!?!このままだとイズクが警察送りになる!?!流星に飼い主が巨漢の男に痴漢

して捕まるとか勘弁してほしいよ！

「イズク早まった真似はしないで！」

抱きつくとかもう早まってる真似かな！そこから更に進むかもしれない？阻止しないといと！

ボクは肉体を人型にして巨漢を追い掛けた。どうか無事でいて巨漢の人！直ぐに追いついて……す、姿が見えない、ま、まだなんとか飛んだ方角と匂いでおえるはず！直ぐに見付けないと！ちよつと探すの手間取るだけでも焦る！！

どこいった！

あ！イズクの匂いがこちら辺から……

あそこ！あのビルの上か！！

ビルの上に登るとイズクがいた。イズクが居るってことはあの巨漢の人も思ったけど、居ない？イズクの他にも人は居るけど、え、もしかしてあれ？ガリガリだけ……ふ、服装的に巨漢の人としか……ま……まさかそんな！！ふ、服が乱れて見るも無惨に生気が抜けた様なガリガリな姿になってる……ってことは……ってことは……

て

手遅れだったあああ!?

ネコさん

平和の象徴であるオールマイト。

今の骸骨の様な彼を平和の象徴のオールマイトとは先ず思わないだろうが、彼は紛れもなくヒーローのオールマイト。オールマイトは五年前にヴィランにより大きな負傷、その負傷が原因で今の本来の姿は骸骨の様な姿にまで弱体化、更に活動に制限時間がついていた。

日本の治安を支えている平和の象徴の弱体化、世間に知られる訳にいかない秘密を抱えていた彼だが、ヒーロー活動を休止もせず、今日も制限時間ギリギリな状態まで活動しヴィランを撃破し少年も助けた。

ソコまでは良かったが：

助けた少年に秘密を知られた。

つい先程、制限時間間近にヴィランを倒し焦りながら跳び去ろうとしたのだが、助けた少年が跳ぶオールマイトにくっついてきた。オールマイトが思わずはやつ！と言ってしまう素早い動きで

制限時間ギリギリなオールマイトはビルの上に着地し少年を下ろして急いで去ろうとしたが、しかし其処で無個性でヒーローに成れるかと言う：助けを求めような少年の言葉に足を止めてしまふ。ここで限界を迎え少年に秘密を知られる事になってしまった。バレてはいけない秘密を知った少年を前にオールマイトは困惑していた。

いや今困惑している理由はバレた事についてでない。黙ってくれるように頼もうとしたら、突然やってきて少年の頭を引っ付かんで、少年共々に土下座をした猫耳の少女。理由として考えられるのは：オールマイトの秘密を知った事について

(ま、ま、まさか：私が秘密を知った事で口封じをするなんてとんでもない誤解をされる!?)

「この大バカ変態の飼猫として謝らせてもらいたい。この度は本当に申し訳ない。心の傷は謝られただけで済まないって言うのは重々承知してるよ。それでも謝罪だけで勘弁してもらいたい。……もし許せないと言うなら、この場でボクが今すぐバカの下モノを切り取って微塵にして海にまいて……」

「うんん?!」

発言の内容が意味不明だが、オールマイトは口封じ云々の誤解はされてない事はわかった。わかったがホツと出来ない。ある意味で更に酷い誤解をされてる様な感じがしたからだ。オールマイトの下半身が身震いするほどに酷い発言もしていた。

「あ、あのピトー何を言ってるかわからないけど！たぶんんでもない誤解してるよね!?!……スゴく恐ろしいことを言ってるよ!?!」

「か、彼のいう通り君はなにかヒドイ誤解をしてるよ!?!」

緑谷もオールマイトも誤解をしていると言う。それに対して少女は目を逸らしてこう言った。

「う、うん、そうだね！何も起きてないんだよね。ゴメン、蒸し返したら余計に辛いよね……」

「……」

「……」

明らかに誤解を解けない猫耳少女にオールマイトは自分の尊厳のためにも事情を話した。勢いでオールマイトの秘密の大怪我の話まで話してしまったが誤差だろう。

「び、ピトーわかってくれた?」

「うん、勘違いだったみたいだね。よかった。そうだね。良く考えたらボクが見逃した短時間に……事を及べないよね」

緑谷もオールマイトも猫耳少女の発言の意味を理解する事を避けた。オールマイトはヒーローとして言わなければいけないことを言った。

「いや、誤解が解けてよかった。けど……キミ、ピトー君だったかい。ビルの屋上に来たって事は彼が心配だったの解るけど”個性”を町中で使って追ってきたんだよね?」

良くないよ」

「はい、ごめんなさい」

とりあえず謝つとこうと言う適当な謝罪。さっきの土下座謝罪と比べ無くても真剣さが欠片もないのが良くわかった。まあオールマイトも少年を助けようとしてここまで来たので軽い注意だけで許すことにした。……助けにきた対象を少年という事にしていた。

オールマイトは気になったことを聞いた

「君は何処から追い掛けて来たんだい？」

「ドロドロが居た所からだよ」

「ドロドロ……ああへドロヴィランが居た彼処からかい？彼処からこのビルの屋上まで追いかけて来れるって、それも私が着いた時間とそんなに変わらない。君は随分と機動力があるね。ヒーローに成るのに余程に厳しい特訓をしたんだね。……ヒーローを指しているなら個性の使用には注意しないとイケないよ」

弱体化したとはいえオールマイトはそれでも尚ナンバーワンヒーローとして現役で活躍しているトップヒーロー。そのオールマイトに追い付けるなら少女はトップレベルの機動力。そんな機動力は相当に厳しく鍛えてないと無理だろう。オールマイトはそれをヒーローを目指して特訓をした結果と考えた。

「だいぶ昔に特訓はしたことあるけど、別にヒーローは目指してないよ?」

「…………え、そうなのかい」

力があるのにヒーローになる気がない。力のある人は得てしてヒーローかヒーローとは真逆な道へ進む事が多い。オールマイトは少女の将来に不安を感じた。

「喰っちゃ寝して家でグータラするのがボクの役目だし。ブラックそうなのヒーローなんて絶対になりたくないよ」

「…………そうなのかい」

さつきとは別の意味で相手の将来が不安になっていた。緑谷はダメ人間と思われかけてる師匠に対する誤解を解くことにした。

「あのオールマイト…………ピトーは動物が”個性”を持ったネコですから」

「ネコ…………動物の猫??君は猫なの」

「え、うんネコだよ」

ピトーの軽い言葉は何だか信用できない。オールマイトは緑谷の顔を見る。嘘をついている様子は見えない。猫耳少女をもう一度みる。

「…………うーん、君猫なの」

「なんで二度聞くのさ」

幅広く色々な個性と出会ってきたオールマイトだが、知る限り動物が個性を持った相

手は一人しか見たことがない。知ってる個性持ちな動物は人間の見掛けはしてない。オールマイトはマジマジとピトーを見た。目の瞳孔と耳と尻尾以外は人だ。

「……………本当に根津校長と同じなのかな」

オールマイトは独り言で呟いたつもりだった。

しかしネコの聴覚には聞こえた。

「根津…うん？もしかしてそれってネズミ？」

オールマイトはその反応に知ってるのかと聞こうとしたが、しかしその前にヒーローとして優先すべき音を聞いた。

爆発音。

「おお爆発だ」

ピトーは爆炎が上ったそこをみて軽い声を出す。

「なにか事故か!?!……………いや爆発が連続して起きている。ヴィランか!」

「ヴィラン!?!」

町中の同じ場所で何度も起きる爆発の光景、それは事故の可能性を無くした。確実にヒーローが必要とする事態だとヒーローであるオールマイトに伝わってしまった。

「……………」

活動時間という制約は既に限界に近く悩むオールマイト、あれだけ派手な爆発なら他

のヒーローが行くだろう。今のオールマイトでは行っても下手をすると足手纏いになる。

先ほどヘドロのヴィランに襲われたばかり、こんな近くでヴィランが現れるなんて偶然だろうか……嫌な予感がして、緑谷はオールマイトを見て青くなる。オールマイトがズボンのポケットにいられたアレがない。

「あ、あのオールマイト、あのヘドロのヴィランを閉じ込めてたペットボトルは？」
「それはポケットに……って、は!!ない!」

ヴィランの入ったペットボトルが無いことに気付く。活動限界で慌てていて乱雑にポケットに入れていた。落ちてても可笑しくなかった。ピトーはそう言えば追ってる時になにか落ちたの見たような?と他人事のように思い出す。

「すみません!!ボクのせいだ落として……あ、あの爆発も、あのヴィランが原因!」
「いや、少年、私がつとシツカリポケットに入れてなかったのが悪い。そもそも一度逃がした事が原因だし」

お互いに相手が悪いと思わずに自己嫌悪に落ち込む二人、それをネコは眺めた。
「……と、落ち込むのは後だ」

しかし流石はプロヒーローと言うべきか。直ぐに落ち込む事をやめ、オールマイトは大きく息を吐いて下へ向かう階段へ向かった。

「お、オールマイト、どこへ行くんですか」

「勿論あの爆発の現場だよ。ヴィランが現れたなら行かなきゃならない。もし原因がヘドロヴィランなら私の責任だしね」

ピトーは首を傾げて不思議そうに聞いた。

「その状態で行ってどうするの？ さっき言ってたけど今日はもう限界なんだよね。行つてどうするの。行かない方がいいんじゃない」

「……うん、そうだね。けどいいかないのも無理なんだ」

答えてる様な、答えてない台詞を言い屋上の出口から出ていくオールマイト。個性を使つて行かない所を見るとやはり余力がない。本当に行つてどうするのか。

「なんかイズクに似てる人だね」

ピトーは何となくそう感じた。あこがれの相手と似ている。イズクにとって嬉しい発言の筈だが本人が聞いてちやいなかった。

「ぼ、ボクのせいだ。ボクも行かなきゃ！」

緑谷もオールマイトの後を追って走っていた。ヒーローの資格もない緑谷が行つてどうするとうんだらうか？ 長く緑谷を見てきたピトーはわかる。あれは後先は深く考えてない。

「やっぱり似てるなー」

二人が屋上から出ていった後、ピトーは爆発のある所を眺めた。見覚えがある爆発な気がするのは気のせいかな？

「ヴィランとかどうでもいいけど、あの二人がどうするかは気になるかな……」

そう呟くとビルから消えるピトー。ビルの上を足場に現場近くまで移動する。

「あのヘドロで正解かい、ってあれ」

現場を見るとやはり騒ぎを起こしていたのは、オールマイトが退治して捕まえていたヘドロヴィラン。予想はしていた。ただヘドロヴィランに1つだけ違う点があった。ヘドロには爆発なんてさせる力はない。ヘドロヴィランが誰かを取り込んでいる。その誰かを見てピトーは呆れた顔をした。

見覚えがあると思ったのは気のせいではなかった。

「囚われのヒロイン役がアレツて……」

爆豪かつき、ヘドロヴィランに体に乗っ取られていたのはピトー的に気紛れでも助ける気に絶対にならない相手。触手的なドロドロに捕まる。そこは少女が囚われてる所だろうとピトーは思いながら眺めた。

既にヒーローが集まってきてるが人質が居るせいかな、個性の相性のせいかな何も出来ない。向かってる二人の事が無ければ早々にピトーは帰っていただろう

「変だな。あのオールマイトって人は知らないけど、イズクならもう着いてて可笑しく

ない時間がたつてる。∴ビルの人に捕まった？あ、きた」

ピトーは到着したのを見付ける。病院に連れてくべきだと思える男性、オールマイトと、オールマイトの後ろに心配そうな緑谷がいる。オールマイトが倒れないか心配で後ろについていたのだろう。

「どうするのかな」

ピトーは単なる好奇心と師匠目線で弟子の行動を見守った。

現場を見て弟子の緑谷は何をしたか。かつちゃん!!とイジメてる相手がヘドロに囚われてるのを見て駆け出した。ヴィランに向かつて。

「ええ、イブクなにしてんの？」

イジメてる相手が捕まってるなら普通なら見捨てる。良い気味だと思う。まあピトーはお人好しすぎるバカな緑谷なら助けに動くとは思ってはいた。別に助けようとすることは別に良かった。ただ……即座に突っ込んでるのは怒っていた。個性持ち相手に何も対策もせず突っ込んでは駄目だと散々に教えてきたから当然か。

何故か背中にゾツと寒気がした緑谷だが走る足は緩めず、陸上選手並みの素早さで爆豪の元まで移動した。

「な、なんでデク、お前が来るんだよ!!」

爆豪が目の前まで来た緑谷（幼馴染）に怒りを露にして怒鳴る。

「君が助けを求める目をしていたから！」

即座に緑谷はそう怒鳴り返す。絶句する爆豪。爆豪を助けようと緑谷は手で絡み付くヘドロを剥がそうとした。予想以上にヘドロに粘性があり剥がれない。

「なんだこいつ」

「なにしてやがる！どけ！デクがどっかいけ!!」

ヘドロヴィランよりむしろ助けようとされている爆豪の方が忌々しいという反応をしていた。

「邪魔するな」

ヴィランが爆破と触手で排除しようと掛かる。緑谷は素早くネコの様なしなやかさで攻撃を回避していく。地味に人間離れた動き。爆豪は驚愕のプロヒーロー含めた観客も驚きの目で見ている。ピトーは良くわからない表情で見ている。オールマイトはちよつと出るタイミングをはずしてしまった。

しかし幾ら回避が見事でも回避だけでは意味がない。助けることができなければ意味がない。助けるどころか爆破で爆豪の疲労も蓄積しているのか顔色が悪くなっている。緑谷の顔に焦りが浮かぶ。その焦りが隙を生じさせ爆破の一部が当たった。

「あつっ！」

「ぐううう!!」

爆破の一部が当たる。さらにその隙に触手が当たり弾き飛ばされる。数メートルは弾き飛ばされゲホゲホツと痛みで咳き込み膝をついた緑谷、しかし再び立ち上がると痛みが弱気に成るところかより諦めるものかとはばかりに強い目をした。触手がとんできた。

「全く情けない」

そんな緑谷の目の前に巨大な背中が立つ。堂々たるその姿に周囲から歓声が上がった。

『オールマイイト!!』

それは限界時間を迎えたはずの平和の象徴

「……後は私に任せなさい! S M A S H !!」

オールマイイトの一撃が炸裂しその衝撃破でヘドロヴィランは爆豪の体から離れる。圧倒的な勝利にさらに大きな歓声が上がった。実際には薄氷の上の勝利だという事を誰も気付いてはいなかった。

ピトーは何故かゾクツと寒気を感じた。自分の姿と名前が同じ相手がオールマイイト

ばりに巨漢の男に自分がぶん殴られる光景が浮かんでしまったからかもしれない。

事件の解決。乱入した緑谷は当然ながらヒーロー達から説教を受けた。緑谷は当然だと思いい大人しく説教を受けた。

緑谷よりも先に見ていたネコは、その場にいたヒーローたちは個性が不利だとヘドロと戦っていた訳でもない。人が巻き込まれないようにしていた。ならイズクを止められなかったヒーローが責めるのは格好悪いと思う。

あとヒーロー達が助けられなかった爆豪の個性を誉めてるのは、助けられなかった事を誤魔化す為か。暗にお前のせいで被害が拡大したと言いたいんだろうか？

爆破で少し出来た火傷の治療と説教を終えて帰ろうとする緑谷の顔色は悪い。顔色から察すると恐怖していた。今さらながらヴィランが怖かった……なんて事はない。恐怖してるのはそんな事でなく……

誰かが近づいてくる緑谷は来た！と恐怖して

「おいデク！お前に助けられた訳じゃねえからな！」

爆豪でホツとした。

と態々やって来てそうやってきた爆豪に『え、うん。そうだね』と返答。何故か肯定したのに爆豪は余計にキレて帰っていった。

キレちらかす爆豪が去ってから飛び出す影、緑谷は来た！と恐怖で体を固めたが相手を見て驚いた。

「私が来た!!」

「え、お、オールマイト」

それは先程まで人に囲まれていたナンバーワンヒーロー。

「ハハハ驚いてるね少年、ちよつと君に伝ええない事があってね。ついさつきだけど、あのビルの屋上で君は私に聞いてきたよね無個性でヒーローに成れるかって……私はまだ君に答えてなかったよね」

「は、はい」

「無個性でヒーローに成れるか……現実的に言えば、無個性でヒーローに成るのは厳しい。個性があってもヒーローは命懸け、とても無個性でヒーローをやるなんて言えない。人を助けたいならヒーロー以外にも道がある」

「……」

俯く緑谷にオールマイトは言った。

「と、こんな感じに本当は無理だと答えるつもりだったんだけどね!」

緑谷は顔をあげた。

「君はどうしてヴィランに立ち向かったんだい。あの立ち回りを見ると随分と鍛えてる

ようだけど、あの場にはプロヒーローが何人もいた。プロヒーローに頼れないと思ったのかい？ それか自分じゃないとダメだと思ったのかい？」

「いえ！ そんな事は思ってもいませんでした！ ただ……あの時は、なにも考えないで、氣付いたら飛び出して……すみません」

「そうか。氣付いたらか……そうか」

「オールマイト？」

オールマイトが感慨深そうにしていた。

「人は危険を目の前にするとリスクをどうしても考えてしまう。怪我したらどうかとかね？ そんなリスクを怖れず考えずただ人のために飛び出せる人の事を私は、ヒーローと言うんだと思うんだ」

言葉を理解すると緑谷の身体は熱くなる。

まるで心に火が灯るようだ。

「だから少年、私は思う。あの時、私を含めて沢山のプロヒーローが居るなかで、あの場で誰よりもヒーローだったのは間違いなく無個性の筈の君だよね。だから私は君の問いにこう答えよう」

緑谷の目には自然と涙が溢れていた。

「君はヒーローになれる」

尊敬するヒーローから温かい笑顔と共に言われたそのたった一言を、緑谷はこれからの生涯で死ぬまで忘れる事はないと思う。しかしオールマイトの真後ろに猫耳の何かを見てしまった。緑谷は即座に動いた。身体が自然にそう動いていた。

「そして……そんな君だからこそ、私から提案がある。私の個性それは……」

オールマイトは自分の極秘の個性について語った。初めて聞いたときの時分のように驚くだろう緑谷の反応を予期した。

「って、なにしてるんだい!？」

緑谷はオールマイトが見逃してしまうほど滑らかな動きで土下座していた。土下座している緑谷に逆に驚かされた。

驚きながら……なんだか感動シーンが盛大に台無しに成ったような気がした。

ねこよん

ボクはヒーローに成るために幼い頃から今まで、飼い猫と言う名の獄卒、師匠のピトーから来る無茶な特訓を受け続けてきた。

ピトーに回復されても三途の川が身近な日常、川の向こうに渡りそうになる日常、ヒーローに成るために周りの誰よりも努力してきたと自負してる。特訓の密度がボク以上の人は居ないと思う。ピトーの回復無しでボクより努力してたら……川の向こう側に逝ってるからね。

個性抜きの身体能力は同年代ではトップ。個性を含めたらトップとはとても言えないけど簡単には負けると思わない。個性もちとも十分に戦えるだけ鍛えてきた。

だけどそんなボクでも無個性ならヒーローに成ることは無理だと言う人ばかり。実際、此だけ努力しても何とか個性持ち相手に食らい付けてるだけ……個性持ち相手に負けない可能性もある。そんな微妙な立ち位置でヒーローになれるのかな。

心の中でヒーローになるのは無理なのかもと思ってた。無個性はヒーローになれないそんな不安は何時も抱えていた。

だけどそんな弱気な思いは今日消し飛んだ！

あのオールマイトにボクがヒーローになれると言ってもらえたんだ…!!

オールマイトはすごい。ただの言葉で、オールマイトの言葉で此までの何年も続けた努力が報われた気がしたんだ。ずっと心の中で疑ってきたのにボクはヒーローになれる！そう強く信じられる様になった。もし人生最高の日があるなら今日だと思う！

ただ

命日も今日かなって？

は、はは名前の横に故人って文字がつきそうで膝が震える。オールマイトの後ろから僕を見てる死神、鬼、猫耳が鬼の角に見えるだ。オールマイトの話が嬉しすぎて忘れてたんだ。絶対に怒ってる。スゴい怒ってる顔だ。助けに来てくれたのにビルの屋上に放置した。あと、さっきのヴィランとの戦闘、特訓を無駄にした感じ……はは……許してもらえない気がしない!!

あわわわ……も、もし予想より怒られなくても……と、特訓増やされる……。今でも命の崖つぶちの特訓増やされたら崖つぶちから落ちる！増量は勘弁してくださいと命乞い

をしなければ！そう思考した瞬間にボクは土下座していた！

「少年!?いきなり土下座してどうしたんだい!？」

「あ、スミマセンオールマイト、命乞いをしないとイケないので」

「命乞い!?!…命乞いに土下座もそうだけなんで私に向かつて、後ろに誰か…:…っ!」

オールマイトは後ろにいたピトラーに凄く驚いていた。万全とは程遠そうなオールマイトだけど、オールマイトの後ろをとるとかとんでもない事をしてるよね。うちのお師匠が化け物だ。

「君はさっきの!?!何時から後ろに!」

「あ、驚かせたみたいでゴメン。話の邪魔もしたみたいだし」

「話!?!き、きみ!?!何時から話を、ま、まさか…:…私の個性についても…:聞いたのかい」

「え、オールマイトの個性ってなんの事ですか」

「少年が聞いてなかった!?!」

嘘、オールマイトが個性にまつわる話をしてたの!?!もしかしてボクはピトラーを見て命の危険を感じて聞いてなかった!?!そんな!?!日本のヒーロー界限で最も謎とされてるオールマイトの個性、秘密のはず!!それをオールマイトは意図せずに聞かれた!?!た、大変だ!!ピトラーに聞かれ…:って問題ないじゃない。

「聞いたけどどうでもいいよ」

「どうでも?!?」

ほらね。やっぱり欠片も興味ない。ピトーなら五分もしたら忘れる。ピトー猫みたいに興味ない事にはとことん興味ないからね。猫みたいにじゃなくて猫だった。オールマイトの秘密を知ってもネコに小判。

「それよりイズク」

「はい！なんでございましょう!!」

「人前で土下座は止めなよ。命乞いつても人間き悪い」

「怒ってません?」

「怒ってないよ。たださっきのヴィランを相手にする時の行動がダメダメだったから、ダメだった所をジックリ教えるつもりなだけなのに」

それなら…怒ってなくても命乞必要じゃないか○

「あと別の文句も言いたいかな。イズク…：師匠のボクのこと忘れてたよね? 屋上まで追いつけてあげてボクの事を放置したよね?」

やっぱり怒ってる。背景にプンプンって擬音が見えてもうって可愛い顔だなー。死神の幻影が見えるんだ。ボクは恐怖で泣いてるんだ。

「え、えーと、緑谷少年、彼女が君の師匠なのかい」

見かけから同い年の女の子を師匠にしたのって聞きたいんですか? ボクが恐怖で

泣いてる所を気にしてもらえませんか？泣いてる理由を聞いて助けてください。

「はい素晴らしい崇拜すべき尊敬しているお師匠さまです」

「そ、そうなんだ。彼女はそんな素晴らしい師匠なのか……それだと……私が少年の師匠になるって提案しようと思っただけけどダメかな」

オールマイトが師匠になってくれるつもりだったの!?!なんで!?!わからない！師匠になつてくれる理由は全くわからないけど!!

「まったくダメじゃないです！お師匠になつてほしいです!!オールマイト以上にお師匠さまになつてほしい人なんて存在しません!!……あ」

ボクは反射的にそう言った。

言つてしまったよ。

なんでボクは考えて声を出さないかなあ。

あ、あはは……どうしよう。師匠のピトーに許可をとらずに新しい師匠をとろうとした、それも怒つてるピトーの目の前で許可をとらずに………

「……………」

オールマイト、顔が青くないですか。あのオールマイトが顔を青くするなんてレアな光景だなー。ピトーの方を見てどうしたんですか。わかりたくないです。オールマイトの体でピトーの顔が見えないんです。物凄い怖いです。タスケテ。

「その、うん！今日は遅いからまた後日！これ連絡先！明日出来たら連絡してね！」

ピトーに念入りに個性の事は内緒にして欲しいとお願ひしてから、そそくさとオールマイトが去っていった。とても足早に去っていった。命綱が去ってしまった。明日またオールマイトと会うんだ。オールマイトとの師弟生活が始まるんだ。明日から……

明日から……

「イズクお話ししようか」

……ボクに明日あるかな

イズクは好きな筋肉の人、オールマイトって人にヒーローになると認めて貰った。良かったねイズク。ボクの事を脳から忘れるぐらい嬉しかったみたいだね？

筋肉の人と別れた後、二時間ほどしてからイズクをおぶって家路を歩いてる。やれやれ、まったくボクは優しいなー。師匠の目の前で新しい師匠をとろうなんて不届き者で不忠で浮気者なバカ弟子をゴミ捨て場に捨てて行かずに部屋まで背負ってあげるなんてね。

二時間なにしてた？

これもまたボクの優しさだよ。イズクが対抗策無しにヴィランの前に出るなんて危険な事をしたから確りとお説教してあげた。あんなの助けるの無理で危険で無謀なだけだからね。お馬鹿な弟子に師匠としてキチンと脳が忘れないぐらい注意しないとね。それと僕の目の前で喜んで師匠の鞍替えした事への説教もちよっぴりとだけ。

「い、イズク?!ピトー、イズクどうしたの!？」

家に帰るとママさんがぼろ雑巾なイズクの姿に大絶叫した。うん、ヴィランと遭遇した結果こうなったと説明した。大元をただせばヴィランのせいだから嘘じゃないよ？

「うぐえ」

イズクを優しくベッドに放り込んだ。

色々あったから今日はイズクの修行は休みにしてあげた。疲れてたら休みをあげるなんてボクって本当に優しい師匠だよ。その代わり明日二倍やって遅れを取り返さないといけないけど。あ、もつと修行も増やした方がいいかな。新しい師匠がほしいそうだしね。

覽されるイズクを布団に投げてボクも猫の姿に戻って自分の寝床に入った。

ねよーって思ってたんだ、寝る前にどうしても考えてしまうなあ。

興味ないフリしたけど、筋肉の人の個性は受け継ぐ個性なんだよね。イズクがああ肉の人の個性を受け継ぐかあ。違うものなんだろうけど個性の受け渡してスゴく嫌なヤツのことを思い出す。はあこんないやこと忘れてイズクに増やす修行内容を考えながら寝ることにしよ。

もうすぐイズクも高校。

高校からヒーロー科がある。もう一年もなく高校、今日のイズクの行動的にも修行内容も今のままだと甘いよね。ちよつと厳しい修行を増やそうかなー。

例えば：んー知り合いの熊さんとの鬼ごっことか？ヴィランって熊より強いのが普通に居そうだしこの程度の課題は良いよね。

数十メートルくらいの絶壁からのバンジージャンプ（ノーロープバージョン）ヴィラ

ンの攻撃を考えるとこれぐらいどうにか出来る耐久性は必要。

路地裏探索でヴィランの人達と遊ぶ。度胸付けとヴィランに慣れる為にやってみよう。たとえば覆面被ってヒーローorヴィランに暴言吐いて逃走

。もしもの時に逃げるための逃げ足が必要だよ。

これは初級コースであとは……あんな事をしたイズクの為にこんなに考えるなんて本当ボクは良い師匠だと思うよ。

「いやあああ!!しぬううう!!ムリムリ!ヒギヤア!!死んじやう!!いやだああ!!オールマイト助けてー!!は!!…はあはあはあ!……え、部屋?ゆ、夢、夢だったの」

そ、そうだあんな事は現実には起きないよね。よ、よかった!本当によかった。

と、とても恐い悪夢を見た。なんて恐ろしい夢を見てるんだボクは!こ、高校に入るためにピトーの特訓(拷問)が更に過激になるなんてあり得るわけないよね!

ああ夢でよかった。

何であんな夢を見たんだろ。昨日なにかあつ……そ、そうだ。ボク生きてる?生きてる!!ピトーが激おこで昨日で本当にダメだって…グスツ…よかった。生きて今日を向

かえられた…!!

うう生き延びたって事は！オールマイトと師弟関係になれるんだ!!うわーうわーオールマイトの連絡先を貰ったんだ！さ、早速オールマイトに連絡して…あ、時間が早すぎるからダメか。

ああ本当なのかな。

オールマイトの弟子になれるなんて。

連絡先は登録してある……

オールマイトと出会ってヒーローになることも肯定されて弟子にして貰える。ボクに都合が良すぎる。今も…昨日の事も、全部夢じゃないかな。夢じゃなかったらいいんだけどなあ。

頬を引っ張てみた。

痛い…夢じゃない…

「イズクー起きたー。…なんで頬を引っ張てるの？やつぱりドM…じゃなくて。昨日やらなかった分の修行今日やるから早く着替えて。あと新しい師匠がほしいぐらいだし修行が足りないって事みたいだから修行を増やすからね」

はは……これって夢？夢だったらいいなあ。

ね(づ)

イズクが筋肉の人から呼ばれたのはゴミ山のある海岸。ボクは寝てるイズクを此処まで運んできた。筋肉の人、骨の人もいた。

「ついたよイズク。もう骨の人もいるよ」

イズクを砂浜に優しくおいた。

ドサツ！

「ぐえー！」

砂浜にうつ伏せに倒れてる痙攣してるイズク。別の師匠を勝手に作ろうとかしたイズク、その寝とり師匠の所まで連れてくるとか、ヤレヤレ、ボクは本当にお人好しだね。

「少年？！少年、生きてるよね?!死んでないよね?!」

寝とり犯、みかけ骸骨の人からそんな事は言われたくないと思うよ。これがあの筋肉の人になるって、個性って不思議だよねって久し振りにおもう。……この人の個性を継承するってことはイズクもムキムキになるのかな？それはイヤだなあ。

「はーあ、オールマイト……此処はあの世、天国ですか」

「い、生きてた。良かった。……このゴミ山を見て天国に見える？それとあの世だと私も死んでることになるからそう言うこと言うのはやめてよ」

骸骨な人を見て天国と思うの変だよね。

そこは地獄だよね。ボクをみて転属と思うなら仕方ないけどな。

「あ、あの世じゃない。よ……よかつたあ。今日も無事に何とか生きてたんだ。おはようございませう」

「普通に挨拶するんだ!? うんおはよう。…挨拶の前にスゴイこと言ったね状態に。今日もって、もしかして結構さつきと同じなるの」

「アハハハ、修行がキツくて」

「目が虚ろで怖いよ。私もわりとキツイ修行はしてきたけど君ほど酷い状態には成ったことは……あんまりないよ。君の師匠はどんな修行をさせてるの」

「どうか師匠に聞いてください……」

「つまりピトーくんに直接かい……えーピトーくん？君はピトーくんで良いんだよね」

「ん？そうだよ見たらわかるよね」

「ふ、普通にその状態で喋れるんだ……猫の見た目で見たら判るかとか言われても困るな」

「そう言えば昨日は人型で会ってたね」

「君は本当に猫なんだね……君が少年の師匠何だよ。修行なんだけどどんな感じのこ
とさせてるの」

「まだ中学生だから軽い修行だよ」

「全く信じられない」

骸骨の人は失礼だな。

まあ骸骨の人も師匠になるんだしイズクの修行内容を話しておいた。

「……つていうのと」

「ええ!!」

猫と骸こ、ごふオールマイトの会話……物凄いシユールだ。オールマイトよく猫相手に平然と話せるよね……と、ボクは地面に突っ伏しながら思う。起き上がりたいけど身体がガタガタで動けない。

ボクは放置されてるなあ。オールマイトにピトーがボクの修行内容を話してる。うん……色々和省いた修行内容を話してた。ボクが聞いててそんな優しい内容なら嬉し
いなあつて思うオブラートに包まれた修行内容を聞いたオールマイトに言われた。

「少年、なんで死んでないの?」

オールマイトに説明されたの修行の半分ぐらいなのにこんな評価だよ。笑えるよね。笑えや。

「いや、流石にさっきの修行内容は可笑しいよね。けど嘘をついてるようにも…」

半分でも素なら死ぬと思う。なんで普段の修行で普通に臨死体験出来るのに生きてるか、ピトリーの治療?修理?のお陰……これが死んだ方がマシと思いつながら死んでない理由なんだけどオールマイトには言い難い。治療ってどう考えても法律的に免許とかいるし。猫が治療って法律でどんな扱いに成るのか不明だけどダメだよな。

そう言えばピトリーがオールマイトの治療を出来ないのかな………オールマイトなら最高の治療を受けられたんだろうし無理かな。いやけどピトリーのはだいたい特殊な感じだし少しだけ、いけそうな気も……ただやっぱりオールマイトでもピトリーの治療を教えるのは……あんなんでも師匠だし

「…むう、これは困ったな。君の話した修行内容が半分事実としても、其処まで過密で過酷だと、此処から私の修行を増やすのは危険すぎる」

オールマイト、危険かなじやなくて絶対に危険です!死にます!致死ですよ!だからピトリーのを減らしてオールマイトの修行に…

「大丈夫、大丈夫。ある程度はボクの個性である程度は回復できるから。まだまだイズ

クには余裕はあるよ」

ピトー!!なんで普通にバラしてるの!?

それと余裕なんて欠片もねーよ!?

「……回復?」

ほら!オールマイトの顔が険しくなってる!

「うん。マツサージで疲労を回復させる事ができるんだよ」

え?マツサージ?……あれがマツサージ?何を言ってるのかサツパリわからない。

誤魔化しにしても納得いかない。

「ふむ疲労の回復か……どんな感じなんだい」

オールマイトの声色が変だ。これはオールマイトに怪しいって思われているの?マツサージって言ったけど回復を個性だって思われている。ぴ、ピトーどうするの。

「体験してみる?」

「え」

「……あ、ああよろしく頼むよ」

ちよ!出すの!オールマイトの前にあのグロテスクなのだすの!……あれ綺麗な少し透明な感じの女の人が出た。なにそれ。

「むう!それは!ゆ、幽霊?」

「エネルギーが人の形に見えるだけだよ。じゃあマッサージを始めていい？」
「よ……よろしく頼むよ」

綺麗な女の人がオールマイトの全身をマッサージしはじめた。んんんん?!

「…………お、おお…………こ、これは…………疲労が溶けるように消えていく…………それに…………痛みが薄れていく……………」

綺麗な女の人にマッサージされてオールマイトがスゴく気持ち良さそうにしてる。
あ、あれーピートーさん。それは何ですか？ボクがいつも体験してる絶叫必至な悪夢のようなトラウマ治療と全く違うよね…………。

「ふうふうう…………きくなああ」

骸骨の人は極楽にそのまま逝きそうな顔をしてる。それに対して地面に突っ伏したままイズクは名状しがたい顔芸をしてる。どうしたのかな？まるでわからないなー。

某ハンターの年齢詐称の人がやってた能力、実はこれも何時もイズクにしてるんだよ。ドクタープライスだと疲労回復は出来ないしね。ドクタープライスでわざと痛くして気絶させてからやってるんだよ。理由はあるよ。イズクって無茶するからね。怪我をしたら酷い治療されるなら無茶も避けると思ってね。

其れにしてもこの骸骨の人、疲労多すぎない？何時もの倍やったイズクの修行終わりより酷いかも。よくこんなヒーロー活動とかできるよね。これがヒーローかー。イズクもそうだけど……ヒーローに成ろうって人はDMなんだなあ。

「そろそろ終わりでいいかな」

「…ああ」

一時間ぐらいやってようやく筋肉の人の疲労が抜けた。イズクはその間一人で寂しそうにしてた。あと何故か羨ましそうにしてた。まさか……憧れの筋肉の人にマッサージしたかった？前のは誤解だったけど、イズクが筋肉の人に何かしないように見張らないとダメかな…。

「はあ気持ちよかった。ありがとう。こんな清々しい気分は久し振りだ……それにしても、このマッサージもそうだけど、高い身体能力に人への変化、ピトーくんの個性ってなんだい。まるで複数の個性があるようだけど……」

ジツと見てる。

なにか警戒されてる？

回復させたのに酷くない？

複数の個性ねー…ボクにそんな事を聞いてくる人って久し振りだなー。わりと聞いて欲しく無いんだけど、まあ此方も相手の弱味を握ってるし良いかな。

「んー気付いたらこんな感じだったからね。個性が複数なのか、応用力が可笑しい1つだけの個性なのかボクにもわかんない」

容姿とか能力考えるとボクの個性はハンター×ハンターの念能力かな？昔、だいぶボクの事を調べる奴等が居たけど個性は不明ってしてたね。もっと調べようとしてたけどその前にちよつと復讐してから逃げた。あの時に逃げてなきや個性の事をわかってたのかな？昔に戻れたとしても絶対にまた逃げてるけどね。

「生まれつきか……」

「あ、君の個性も秘密にするからあんまりボクの事も広めないでね。結構前とかボクを狙ったイヤなヤツも居て大変だったし」

もうイヤなんだよね。しつこいアイツに終われるの。イズクの家に住み込んでからは大丈夫だけど、もしアイツがまた狙って来るようなら今度は仕止めるしかないよね。わりとボクでも危険で面倒な相手だから見付かったら逃げてたけど……今の生活は気に入ってるしね。

「狙うヤツが居たのか……いや複数でなくても回復する個性があるなら当然か……わかったそう言う事なら秘密にしないとイケないね……政府機関に保護して貰おうというのはダメなのかい」

「んーそういうのはイヤかな」

「そうかい。君の能力が埋まれたままに成るとのはとても惜しいけど本人の意思も大事だしね」

ってイズクの弟子入り初日に筋肉の人、オールマイトに秘密含めて話したんだよね。ボクってこれでも結構秘密主義な所があるのに、あの筋肉の人って義理堅そうだし信じて能力見せたりしたんだよ？本当に信じてたんだよ？

ねえ？それなのになんでボクはプロヒーローっぽい人達に囲まれてるのかな？そこの気まずそうにしてる筋肉の人に教えてもらいたいな？教えて貰いたいな――。

「やあ！お久し振り！」

特にあのネズ公が居るところとかをね。

ねころく

「いやー…ほんと…久し振りだねエセ猫。40年ぶりぐらいかな。エセ猫の噂だけは聞いてたけど最近はずもきかないし三味線の材料にでもなつてると思ってたよ。あ、ダメか君の皮つて無茶苦茶固かったし品質的にダメだね！」

「うん此方こそネズ公、お久し振りだね。害獣扱いで駆除されてなかったんだね。相変わらず変なマスコットみたいな見掛けだ。そう言えばネズミつてねずみ算とか言われるぐらい子供が一杯居るのが普通だけど、40年も経ったんだしネズ公にも子供は一杯いるんだらうな。昔のよしみで子供を紹介してよ？まさか40年たつて童貞ネズミなんて事はないよね」

「はは…相変わらず性格が格別に悪くて何よりだよ」

「性格悪いのから見て性格が悪いなら逆にボクの性格は良いつて事になるよね。ん？性格悪いつて思うつて事はもしかして子供は一匹もいなかった？ええ、そんな事あるかな。ああけどネズ公だし…ゴメンね情けないことをこんな人前で言わせて」

「ハハハ、落ちてる魚に反射的に食いついて檻に入った畜生よりは情けなくないのさ」

「……………」

ボクは結構昔の知り合いのネズ公と特殊合金製ばい檻の中で再会していた。周りには雄英の教師がいる。…筋肉もいるよ。ホネで汗をかいてるよ。

雄英に行きたいとかイズクが言ってたから、先生がどんなの居るのか確認したし教師の人達で間違いない筈。人を覚えるの苦手だし確かだけど…少なくともネズミだけは教師で間違いない。時間も経ってたしポックリいつてると思ってたネズミが雄英の校長として記載されてるの見た時は吹いたし。

雄英の教師はプロヒーロー、檻の中でプロヒーローに囲まれるなんてまるで凶悪犯だなー。ネズ公の野郎の粋な計らいだなー……。

なんでこんな事になったの？

今はイズクの師匠に筋肉の人が追加せられ半年ぐらい経ってる。イズクは肉体トレーニングとして海岸のゴミ拾い慈善活動もするようになった。ゴミ拾いは筋肉の人の主導、別に粗大ゴミを片付けるのは特訓のついでだったなら良いけど…奉仕活動がヒーローの基本だからやるんだって…うーん……爆なんとか言うのを思い出すと、ヒーローらしい行動を心掛ける事も大事で必要な事だとわかるけど……イズクが盲信

とかしそうで困る。教え方も全く慣れてない。師匠になるの反対しなかったの失敗だったかな。

で、そんな筋肉の人から呼び出された。

場所は雄英つて有名なイズクが目指してるヒーローになるための高校。雄英の施設を筋肉の人の伝でイズクの特訓に使わして貰えるから君にも見て貰いたいと言われた。ボクは筋肉野郎をイズクの師匠としてはあんまり信用してないけど、それ以外は信用してたから疑問には思わず雄英まできた。

案内された建物：魚の山があった。物凄く怪しいとは思ってたけどネコのサガって言うの本能的に食いついてしまうよね。

檻が展開して閉じ込められた。

で、今の状態。

校長だとは知ってたけど、ネズミがまさか捕まえて来るとか予想だにしてなかった。そもそもボクの事を知ってると思わなかった。機会があったらボクから教えて脅かす気だった。

ボクの事を教えた可能性あるの一人しか居ない。と言うか縮こまってる姿勢に犯人でない方が驚けるよ。

「筋肉の人を信じてたのになぁー！ボクの事を教えても酷いことをしないで信じてたのになぁー」

ボクはジトツとした目を向けた。

「い、いや……そのね……君が以前根津校長の名前を気にしてたから、知り合いかなーと思つてね。根津校長にたずねたらね……知つてると言われて、久し振りの再会でドツキリを仕掛けたいって言われて……まさかこんな対応するなんておもつてもみなくて……」

つまり仲が良いと騙されてた？ネコとネズミが仲が良いわけないんだよなー。まあいいや筋肉の人というよりネズ公が悪いんだね。それにしても根津校長つて言つたね。ほんとうに校長なんだ。

「あのネズ公が校長つて何処をどう間違つたらそうなるの」

文字通りボクと同じで人権すら無かつたのに。どうして良いところの学校の校長に、別れた頃から考えると生きてても八割方ドブネズミ辺りになつてると思つてた。

「……エセ猫と別れてから色々と有つたのさ」

「ふーん」

「聞きたい？」

「ドブネズミの色々とかどうでもいいかな」

「……ヒドイのさ」

なに傷ついた演技をしてるのかな。

「…で、何時此処から出してくれるの?」

この閉じ込められた環境って昔を思い出してボク的にムカムカする状態。ワリと真面目にヤバイ感じだよ。

「ハハハ…君みたいな危険物を出せると思うかい。公安か研究所に送って……………」

「…………ふーん」

「なんてね!!」

ネズ公が何かのリモコンを押すと檻がパツと開いた。随分とアツサリ開けるね。出したのは良いけどネズ公の野郎は嫌がらせに閉じ込めただけかな? 耳を噛み千切っていいかな?

「おっと、本能がヤバイと囁いてるのさ」

「その本能危機感覚えるの遅いよ」

昔はもつと危機感強かったよね。

老碌してるのかな。

昔の知り合いのよしみで引導を渡してやろうか。

「落ち着いてよエセ猫」

「ネズ公、君の耳を千切ってドラえも○みたいにしたら落ち着くよ」

ネズミとネコの立場は逆だけだね。

「じ、ジリジリ近付くのは止めるのさ。エセ猫用に大トロとかサケとかハマチ、君の好きそうなお寿司を沢山用意したんだけど要らない？」

「流石こんな大きな高校の校長になつてただけあるね。ネズ公なのにとても素晴らしく思えるよ。で、その素敵なモノは何処にあるのかな」

「……………ハハハ、うん、昔と変わらず食い気の欲望に正直だね。此方に用意してあるから着いて来るといいのさ」

ネズミに呆れた顔をされた。罨に掛かったばかりで即答したらそうなるか、だけど本能には勝てないしね。

「うーん……………久しぶりに自分の本能を何とかしたいって思ったよ。今もネズ公とか美味しそんでもないのに本能的に食いつきたくなってるし」

「あ、やっぱり怖いから前を歩いてほしいのさ。オールナイトも護衛に来てほしいのさ。聞きたいこともあるだろう」

「あの校長……………私たちは……………」

「集まってもらつて悪いけど、他の皆には後から説明するから今は解散しておいて欲しいのさ」

「……………わかりました」

凄い不満そうな顔だ。集めてネコを囲んだだけで解散って事？酷くない？これが職場の地位を利用した。パワハラかあ。

校長室に連れ込まれた。

お寿司があつたので食いついた。

はぐはぐ

既に桶に入れた高級寿司が用意されてるとは思わなかった。つまり予定どおり、ネズ公の目的が不明だし警戒しなきゃいけないんだけど、旨い…とんでもなく旨い。で、ネズ公はこんな準備をしていったいなんのつもりなのかな。財力をアピールするっていう理由ならネズミ取りを全身にくつつけるよ。粘着のシートでなくてバチン！つてする昔ながらの方をね

「食べながら聞いて欲しいんだけど良いかな？」

はぐはぐ

「よし、じゃあ話すよ」

「あの校長、食べるのに夢中で聞いてくれるように見えないのですが」

「大丈夫さ。聞いてくれてるよ」

「…本当ですか？」

「こんなお寿司を用意されたんだしネズ公の話でも一応聞くとよ。ネズ公のプライベート

トなことなら右から左に聞き流すけど

「さて、君に来て貰った理由を説明するよ。実はオールマイトには今年度から雄英の教員になって貰うつもりなのさ」

だからなに、ヒーローのトップが教師になるのは世間的には大きな話なのかな。イズクならともかくボク的にはどうでもいいよ。

「私の話をなぜ…?」

筋肉の人もわかかってないみたい。

「で、教員になつてもらおうオールマイトなんだけど、プロヒーローとしてはともかく教師としての信用はあんまりね」

「校長!? って…ピトー君も領いてなかった!?!」

イズクに特訓させてる時を思い出すと領くしかないよ。人に教えることに全く慣れてない感じがした。

雄英の教師って筋肉の人以外もどうなのかな。雄英ってプロヒーローを教員に採用してるって有名だけど、教員がプロヒーローって不安だよ。人気は出るだろうけど、筋肉の人みたいに有名なプロスポーツの選手が監督としても一流なんて事は先ず無いし。それに相当に厳しいって話しも聞く。容赦なく退学させるとか。一流に成れないならヒーローに成らない方がいいみたいないない。まあ強くないと死んじゃう職

だしそれは仕方ないか。

厳しいのは良いよ。問題はプロヒーローって職業意識が無駄に高そうなの。流石に筋肉の人並みには酷くなくても、ヒーローの精神みたいな教えそうなのがあるんだよね。子供に自己犠牲は当然なんて洗脳、もとい教育してそう。

ヒーローとしては有能になっても本人が幸せになる未来が想像できないよね。
「で、筋肉の人が教師として落第生だからどうしたの?」
一旦食べるのは止めて聞いた。

「落第生なんて言っただけでなかったよね?」

「落第生の為に猫の手も借りたのさ」

「あの落第生と言うのは止めてもらえませんか」

「ネコの手を借りるって具体的にはどうするの?」

「判ってるよね。雄英に来てもらいたい。オールマイトの補佐として」

「ボクを補佐にして正気?」

「すごく不安だけど、オールマイトの話を聞く限り君は教育者として優秀そうだからね。
……まさかあの君がヒーローを目指す子供を親身に育てるなんてね」

筋肉野郎はイズクの教育についても話してたのか。ジロツとみたら冷や汗を掻いてた。

「どうせなら他の子も育ててみない」

「ボクみたいなか弱いネコに教えられるなんて普通の子はいやだと思うよ」

「か弱いって言葉に謝るのさ。報酬は用意するよ」

「報酬？」

「お給料と、公安と交渉して君の身分の保証」

怪しいな。特に公安と交渉して辺り……ネズ公はもう話を通してそう。逃げ道は防がれてる可能性が高そう。此処からどうにかするとしたら……飼い猫生活は終わるな

「それと今回の食事を用意してくれたランチラツシユの食事の毎日の提供を約束しよう！ランチラツシユはプロヒーローと同時に一流シェフなのさ」

即答しそうになるのをグツと堪えたボクを誉めてもいいよ。

「……………イズクが雄英に入った場合にはその報酬で手伝うよ」

「ありがとう！じゃあ明日から仕事を初めて貰おうかな」

ん？明日から？

「イズクが入った場合って言ったよね？」

「君とオールマイトに育てられてる子だろ？試験に合格できないなんて事は考えられないのさ！あ、もしかして自信が無いのかな」

「誰が自信がないとか言ったかな。イズクなら合格確定だよ」

「なら！そのイズクくんが入ったも同然なんだから、エセネコに直ぐにでも仕事を手
伝って貰っても良いよね」

「そんな直ぐにネコに働けとか可笑しい。心の準備とか色々あるよ」

「ボクはネズミだけど働いてるよ…エセネコだけ働かずに食っちゃ寝とか許されないの
さ」

「このネズ公、まさか手伝いとか口実で僕を働かせるのが目的なのか！」

「H a h a h a まさかー」

「イズクの訓練あるし無理だよ」

「それについては雄英で特別に訓練して貰っても良いよ」

「そんな特別扱いして良いの？」

「特別扱いするのも仕方ないさ！なにせ君の弟子で…オールマイトの後継者だからね」

それとイズクを囲いこんでボクを制御するつもりだからだよ。言わなくても腹黒
い思いは伝わるよ。

「あの一話は一段落したようですので、質問よろしいでしょうか」

放置されてた筋肉の人が手を上げて質問した。

「何か聞きたい事があるのかな」

「色々と有りますが、先ずは40年ぶりなど言っていましたがお二人の関係を聞いても良いですか?」

「関係か…なんて言えばいいかな」

ネズ公との関係…一番近い言い方は………うーん

「宿敵かな」

罪なフクロ、 1

今日はいいい天気だ。

でも寒い。いい天気でも寒い。分厚いコートを着ても寒い。天気が良くても季節が冬だからしかたないか。あとコートの中は何も着て無いのも関係有るかな。あー寒すぎて痛い。

身体を暖めるのに市街地をコートをマントの様にして走る事にした。ひゃっふー！通学中や通勤中の皆様の視線が熱烈だ！ふうー！興奮して身体が暖かくなるぜ！よし無事に暖かくなってきた。

「そこの変態止まれ!!!」

おっとお邪魔虫（ヒーロー）だ。

コートを着ないと

「君……ここに変態が来なかったか!?!」

いえ、知りません

「そうかありがとう。くそ!!何処にいった!」

よしやり過ごせた。

自分は極々平凡で善良な少年。

名は通御之 復呂（ツミノ フクロ）。

ただ頭に罪と書かれた袋を被つてただけのムキムキな普通の少年である。敬愛や尊敬の眼差しを向けられ親しみを込めこう呼ばれている。変人袋や歩くワイセツ物などとね。 前科はない。

訂正、摩訶不思議な個性なんて無い時代から生まれ変わった転生者であるので、普通から若干は離れてるか。まあ誤差の範囲なので普通でF A。ホント過去の記憶があるぐらい誤差だろう。今の人類を見ればね！…人類なのかな？

目の前に学友達がいた。

二足歩行なクワガタ虫な女子。彼方を見れば菌茎を出したペンギン。

通報してゐるめつきが鋭いウサギ。

スク水着たクマの男の子。くまがお巡りさんに連れてかれてる。

ホモサピエンスと思えない学友達を見るとこの世界は本当に地球の未来なんだろうかと少し疑問を感じる。私の様な真つ当な姿の人間はクラスには少ないんだ。

「やあ復呂くん、相変わらず極まった格好をしてるね」

と、クマと遭遇して声を掛けられた。

友人のクマ吉くんか。さつきスク水姿で逮捕されてたような。気のせいかな。

それにしても極まった格好？ちゃんとコートを着ている。まったく失礼な。もし格好が変だとしても彼にだけは極まったと言われたくない。

頭部に女性ものの下着を被っている。そして女子用のブルマの体操服を着ている。まったくこんな季節に半袖ブルマなんて良く着てられる。見てるだけで寒そうだな。寒くないのかと聞いてみた。

「ふふ、判つてないな。このコスチューム時のボクのテンションは常にマックス！」

「つまり興奮していて寒くない？」

「ううん、無茶苦茶さむい」

ニヒルに笑うクマ。キモい

「そつちこそほぼコートの中は全裸だよ。寒くない？」

「ちゃんとコートの中にはネクタイを締めて靴下とパンツは履いてるよ。だから」
息を溜めて言う。

「無茶寒い」

「ハハハハ」

爽やかな朝だなあ。

「ちよつと其所の猥褻物コンビ、朝から現れないでよ。目が腐るじゃない」

「あ、宇佐美ちゃん」

同じクラスの宇佐美ちゃんだ。ウサミミを付けた女の子だ。とうかほぼウサギだ。我々と話してくれる稀少な女子だ。しかしこのクマと同じ猥褻物扱いは酷い。

「宇佐美ちゃん、ワイセツ物って酷いよ」

女子のパンツを頭に女子のブルマを履いてるクマが文句をいつていた。

「彼処の電柱の貼り紙をみなさい」

電柱に張られているのは変態クマに注意。シルエットにとっても見覚えがある。

「ええ変態クマって物騒だね！同じクマとして許せないよ！」

「……」

「なんでこつちを見るの。ボクはクマでも紳士であつて変態ではないから関係ない」

そう言い切るブルマの体操服に頭に女子もののパンツを被ったクマ。

「ふーん、変態じゃないんだ。じゃあチョツと彼処の交番の前まで行つてくれる」

「それはできないよ」

「……」

二人のやり取りを守矢ダンスをしながら眺める。寒いから身体を動かさないとね。

「おはよう」

「……おはよう宇佐美ちゃん」

「あら、おはよう羽生ちゃんに梅雨ちゃん。よくこんな二人が近くに居るのに近づいてきて挨拶できるわね」

カエル風な少女に頭が蛇な少女。ふと思う。此所にいる全員が顔からは感情がわからない。

「どうしたの羽生ちゃん、暗い顔をして」

暗い？暗いの？蛇の顔色とかサツパリわからない。

「やっぱ判る。…羽生ちゃんの下着が盗まれたそうなの」

「ふーん、復呂くん犯人（クマ）を拘束して」

ガシッ！

「宇佐美ちゃんクマと書いて犯人とか止めてよ！そして福路くんも犯人で言葉で友人をノンタイムで拘束とかやめてよ！冤罪だよ！弁護士呼んでよ！」

と、騒ぐ頭に女子パンツ（犯行の物的証拠）を被ったクマ。とりあえず此のまま向こうの交番まで持っていけば良いだろうか。

「黙りなさい。この町の性犯罪の9割犯人のクマ吉くん、というか頭に証拠が乗ってるじゃない」

クマ吉くんの頭には女子のパンツ。クマ吉くんが持つてるのは可笑しい。堂々と女子用のパンツを購入したか母親のパンツなんて冒険をしてない限り。クマ吉くんなら

しそうだ。

「違う！このパンツは違うよ！梅雨ちゃん助けて！」

「ケロ……クマ吉ちゃん。羽生ちゃんに謝って」

お人好しの梅雨ちゃんですらクマ吉くんの犯行と断定。ただ本人の羽生さんが首ふってる。

「えっと違う……ぬ、盗まれたの上、ブラ」

クマの頭にあるのはパンツ。

「じゃあ違うのかしら」

「そっだよ！違うよ！全く失礼しちゃうよ。ボクは羽生ちゃんの”蛇柄のブラ”なんて知らないよ。」

「「「……………」」」

クマ吉くんの体操服が汗で透けてる。

よく視るとブラの形に透けてる。蛇柄。

「いやん」

「シャアアア!!」がぶり

「ギャアオア」

学校に着いた。

「あー危うく三途の川を渡りかけたよ」

さつきまで羽生ちゃんの毒で泡を吹いてたクマが復活した。梅雨ちゃんと宇佐美ちゃんの口から舌打ちが聞こえたのは気のせい気のせい。もしかして致死性？

「渡れば良かったのよ。全く次にやったら血清の代わりにA型の血液入れるからね」

「やめてよ！ボクはB型だよ！A B型になっちゃうじゃないか」

「じゃあトマトケチャップにするわ」

「それやられたら必ず死ぬと書いて必死になるよ!？」

二人のやりとりを聞いて思う。

「うむ、いつも通りの普通の朝の会話、平和を実感する」

これぞ何時もの光景

「ケロロ：普通の、平和、そうね」

「梅雨ちゃん！すっかり！常識を見失わないで！」

はて？常識的な光景しかないのにどう見失うんだろう。

そうこうしてホームルーム。

先生の話し

「もうすぐ君達も卒業です。皆さんの進路は全員進学ですね。半数はヒーロー科への進学。皆さん色々な高校に行くようですが、なんと、この塩ノ洲中から蛙吹さんが雄英高校への挑戦をします！」

なんと雄英高校、噂だと相当に入学困難な高校なそう。合格できなかった場合を考えると公開処刑。

「ええ！雄英!!」

「梅雨ちゃん本当に受験するの」

「ケロ、本当よ……そんなに注目されると恥ずかしいわ」

「がんばって！梅雨ちゃんならいける！」

「ああ梅雨ちゃんなら雄英もいけるよ！」

「梅雨ちゃんはこの高校の希望の星だ！」

「梅雨ちゃんがヒーローか。将来あのヒーローの同級生みたいに取材されたりするかもしれないのよね。楽しみ」

「その時は良い風と言うから安心しろよ！」

「もう良い風と言わなくても梅雨ちゃんに悪い話なんてないでしょ！」

「みんな……ありがとう。何処までやれるか判らないけど頑張るわ」

「それと……通御之くんと熊野くんも雄英志望……」

実は英雄志望、折角二回目の人生なので大きいことに挑戦をしてみたい。クラスメイ ト諸君から梅雨ちゃん相手みたいに応援をされるなあ。恥ずかしいなあ。

「はあああ!!」

「そんなに注目されたら恥ずかしい」 テレテレ

「注目の意味チゲえ!!」

「お願いやめて!」

「お前らどつちもヒーローに捕まる側だろし!」

「イヤアア!!うちの中学の来年からのイメージが最悪になる!」

「取材されたらいつかやると思っていましたってコメント出すしかないじゃない!」

「いや、もうやらかしてる

」

「ウオオオオオ!!」

クラスメイ トからの叱咤と緊張しないようにとの激励、頑張ろうか。クマが興奮して脱いで叫んでるのを見ながら決意。必ずこの同級生たちの為にヒーローになると

ファンファン

ボクガワルイジヤナイ ジョウシキガワルインダ

あ、いつの間にかクマが黒白の車に連行されてる。宇佐美ちゃん通報早い。警察が早

いと言うべきか。毎回同じ犬のお巡りさんだけど、お巡りさん常駐してない？

「……宇佐美さんも雄英志望でしたね。梅雨さんも、二人のブレーキをお願いします」

「判りました。もしもの時は仕留めます」

「……ケロ」

「頼みます」

え、頼むの？

うさみちちゃん首をカッ切る動作を指でしてたよ

と、言うのも10ヶ月前、来ました。

雄英の試験会場。

今日は試験と言う事で正装。

梅雨ちゃん宇佐美ちゃん、クマ吉くんとやって来た。

「ふうん此所が雄英の……大きいわね」

「あの雄英の試験会場にもうすぐ入るのね」

「大きいとか入るって何だかエロいよね」ハアハア

「クマ吉くん、変な事をしたら彼処の防衛システムにぶつけるわよ」

「あれレーザーが出るのだよね！焼けちゃうよ!? ジュワツて焼きクマになっちゃちゃうよ！

……怖いと言うの止めてよ。ぶつけられるの怖いし早く入ろう」

そう言うクマと一緒にはいった。

普通にはいれた。

「あれ？」

女子二人が首を傾げた。

なんだろう。

隣のクマも不思議そうな顔をしている。

「二人ともどうしたの？」

「この防犯装置、害獣も防ぐのよね。」

「なんで作動しなかったの？」

「うん？害獣なんて居ないし動いてなくても可笑しくないよね」

「……クマ吉ちゃんとかが入ったのよ？」

「害獣って僕らのこと!？」

確かにセーラー服を着てるクマは害獣だろうか。

ん？とかつて複数形

「じゃあね。私とこのクマはサポート科の試験だから。」

「……クマ吉ちゃんがサポート科？」

サポート科、たしかヒーローの為のサポートアイテムを作る科、あのクマって物作りとかしたことあっただろうか。普通科を受験すると思つてた。熊で発明…凄いいことになりそう

「女の子専用の装備を造りたいからね」

ヨダレを垂らすクマの思惑はわかりやすい。

「そう……宇佐美ちゃん”は”試験頑張つてね」

「あれ？宇佐美ちゃん、ボク今、梅雨ちゃんにボクは落ちろと言われた様な」

「気のせいじゃないわよ」

「そっか気のせい……気のせいじゃないの!?!」

「煩いわね。あ、忘れてた。クラスの皆からクマ吉くんへのプレゼント」

「え、なにプレゼントって」

「はい」

ガシャン

「ふぐおおおおふぐおおおお!! (ねえこの猛犬対策みたいなマスクと首輪はなに!?!)」

「ウチの中学の恥を晒さない為よ」

「ふぐおお (この状況が恥だよ)」

クマは首輪を付けられ宇佐美ちゃんは去っていく。全く何をしてるのか。まあクマ吉くんが変な事をしないようにと思うと仕方がない。まだ試験まで時間があるし準備体操でもしてようかな。

グルグル

なんで身体が梅雨ちゃんの舌で巻かれてるのか。

「なにこれ」

「フクロちゃんもクマ吉ちゃんと同類なのよ」

「同類じゃないよ」

「ベクトルが違うだけで同じ変態さんではあるわよね」

ズルルル

そのまま引きずられて試験の会場にはいる。誰もが目を逸らすよ。

なんだかんだ試験が終わった。

合格かは不明だけどそこそこの手応えを持てたも。

「……試験の合否より、袋ちゃんが何かやらかさないかの不安の方が大きかったわ」

試験終わった後に試験は会場が別々だった梅雨ちゃんと合流、合流後の第一声が可笑し

い、

それにしても……

「此方の試験会場は変な人ばかりだったよね」

自作のヒーロースーツみたいなの着てた。

「……此方も変な人はいたけど、フクロちゃん以上に変な人は居なかったわ」

そこはクマ吉君ではない？

「そっちも終わったのね」

「ええ、無事には終わらなかったわ」

宇佐美ちゃんとも合流

……ん？無事に終わらなかったの？

何時もならここでクマのツツコミがあるのに無い。

「あれクマ吉ちゃんは？」

「ああクマなら彼処よ」

ボクガワルイジヤナイ セケンガワルインダ

犬種が違う犬のお巡りさんだ。

「……………」

四人で着たのになぜか帰る時は宇佐美ちゃんと梅雨ちゃんと三人となった。

試験終わりのモニター室。

「……………」

「どうしますか」

「どうしようって……」

「今試験のトップ……」

「P78、救助P30……合計108」

「救助ポイントが無くても上位合格、筆記も特に問題ないですね」

「成績は優秀だね。本当に成績は……」

室内の空気は重たい。

「え、えーこの子の個性は何ですかね。剣で攻撃したり銃撃してたり、増えてたり」

「パンツ一枚なのも個性が関係あるのか？ただの変態じゃないよな？」

「資料によると個性は袋」

「袋ってなんだよ」

「袋と言えば物を入れるモノですよ。頭の袋の中に剣や銃を保管して……犯罪ですよ。ね？まさか、袋の罪のマークはそういう意味ですか？」

「資料ではただの中学生ですよ。武器は個性で造ったモノでは」

「……個性の産物なら問題ないのかな？」

「試験の結果は完全に合格ですが……学校から送られた資料をみても色々な意味で危険人物だと……前代未聞の試験中に全裸になったクマと同じ学校みたいです」

「あのクマと同郷かよ。中学はどんだけ可笑しな所なんだ」

「不合格……には」

「……どう思います校長」

「心情的には不合格だけど、不正をしてないのに不合格にするのはダメだし。これ野放しにするのも、ヴィランになったらスゴく困るよね」

「ohマイゴット、厄介ごとに立ち向かうのもヒーローの定めか」

「真つ当なヒーロー、いえ、真つ当な人になるように導くんですか」

「教師としての責任は重いですね……」

「クラスはAとBどちらに？」

「ここはB組が「A組にしよう！」

「ほら！A組の担任のイレイザーには抹消があるしな！」

「そうですね。イレイザーヘッドのクラスが良いですね。袋の子のよくわからない個性を考えると」

「確かに、もしもの時の為に個性を消せるイレイザーがいいか？」
「そうよね」

「いえ待ってください。B組も一考の余地があるかと」

「ないな」

「うんA組で決まりだね」

満場一致にA組

「……B組に」

満場一致したら満場一致

奇道戦士ガンダム

転生つて有るもんなんだと染々と実感させられてる。前世つて本当に有るもんだなあ。二度目の生を授かるなんてな。しかも二度目の人生も日本…日本かもしれない。ただ世界が違うかもしれないな。

現在、産まれた病院にて二人目の母親に抱かれながらテレビ試聴中、ニュース番組。強制的に見せるならニュースよりアニメにしろよと思う。まあ世界の事を知りたいとも思うし駄々はこねない。

女子アナウンサーの背景が宇宙。ニュースも宇宙関連ばかり。宇宙コロニーについて放送されてる。宇宙に人類が出てる時代に成ってるのか。相当に未来に来たんだなと…初めは思ってた。

『宇宙世紀0063年、記念すべき…』

アニメで同じ年歴があった。サイドつて名前のコロニー、ムンゾ、ラプラス…新しい人類のニュータイプつて単語も出た。偶然とかねー。

「きゃんたむ（ガンダム）やん」

「え？ねえ何か話さなかった？」

母親の疑惑の声に赤ちゃんのフリを敢行。

「うー？うー？」

「んー…気のせいかしら」

誤魔化し成功した。赤ちゃんプレイは得意だ。決して前世で性癖的な意味の赤ちゃんプレイをやった事はない！

ガンダム世界にどうしてか。そう言えば、二度目に生まれる前に夢を見てた記憶がある。光る何か恐らく神様っぽい何かに出会っていて、その神様から日本の有名アニメの世界に酷似した世界に転生すると説明されてた。バツサリと夢だと思つて忘れてた!!

ガンダム世界か。

ガンダムってシリーズで世界観が、宇宙世紀つてガンダムの本家の年表だなあ。ガンダムはW以降の作品しか見てない、ゼータとかは見たけど本家の宇宙世紀のガンダムは余り見たことない。初代ガンダムの主人公とそのライバルぐらゐは知ってる程度。

ライバルはシャアで主人公はアムロ。ネットでシャアは赤くて三倍の速さのロリコンと聞いたことがある、アムロはガンダムシリーズで最強と聞いたことがある。ゲームでアムロは強かった。アニメではZに出てたの見た記憶が、アムロはZでスゴく強かった。シャアっぽい人は…主人公に殴られてた。

Zでライバルの筈のシャアっぽい人はそんなに強いってイメージはない。けどガンダムシリーズで最強か。Wは主人公が自爆しても生きてた化物。Gは生身でMFを壊してた化物。此を入れても最強。どんだけ化物なのか。

Zでは落ち着いてた気がするけど、ネットで見たアムロさんの台詞は確かこんな
…。

『負けんぞ…絶対に貴様らなどに負けるものか!!』

『きさまらの思い通りにはさせせん!オレのガンダムが相手だ!』

『来るなら来いジオン軍、ガンダムがある限り平和な宇宙をオマエたちの勝手にはさせんぞ!!』

『ぶったな!親父の拳に比べたらこんなモノ!』

多少記憶違いがあつたとしても台詞から考えて熱血ヒーローなのは間違いない!MSを生身で壊すガンダムファイターみたいな主人公?

Zの時は輸送船をMSに突っ込ませてた…。あのシーンとんでもない事してんなと思っただけど、若い頃はもつととんでもなかったんかな。

この世界がアムロが居る世界ならちよつと…関わりになるのは避けたいな…そう思ってた。無理かもしれない。

「アムロは良いこね」

新しい名前がアムロ!!

名前が同じって違う可能性はまだある。他にガンダムのアムロで覚えてる事は!アムロの声優は有名な人、聖闘士とか荒野の狼とか。大リーグボールとか、首だけサイボーグとか、配管工とかしてた大物。声変わりしてないから現在その声なのか不明。

それから何年かして声を張り上げてみた。

「燃え上がれオレのコスモ!」

笑えないぐらいあの声に近くなってきた。

名前も声も同じで偶然と思いきものもきつい。

しかし生まれつき強いなんて事はないみたいだ。声優的に特訓で強くなってるキャラばかり。

身体能力は普通:母親は普通、父親は技術者で強くなりそうな特別な血筋でもない。無理やり特訓をする環境でもない。アムロとしたら幼少期ってこんな平凡?と戸惑うほどだ。もしかして自分が転生した事で原作と違う状況か。

ある日、父親がコロニー、宇宙に仕事で行くと言出し、母親は地球に残ると言いました。父親に着的いてくか母親と残るかどうするか。父親なら宇宙、母親なら地球。母親の名前はカマリア、父親の名前はテム・レイ。

母親は知らんけど、ガンダム関係のネタで聞いたことがあるテムレイ装置、テムレイ装置はガンダムに取り付けるととんでもない効果を発揮する強化パーツと聞いたことがある。

装置の名前にどう考えても父親関係

父親の作る装置がガンダムに取り付けられるとなると、ガンダム開発に父親が関わっている。Gガンダムみたいに父親がガンダム開発者？家族が開発したロボに息子が乗るとかロボットの王道。つまり父親に着いていくと必然的にガンダムと出会うことになる筈。たぶん父親と行くのが本家アム口の正規ルート：幼い頃に別れた父からガンダムが届くみたいな王道もあるか。

コロニーに行くのが正規ルートと思おう。

よし此所はゴネて母親の所に残ることに。だって最強のアム口の代わりにガンダムで戦い抜くとか無理、あと宇宙とか怖い!!

「アム口、アレが地球だ」

父親と一緒に宇宙に旅だったが？

いやさだって：母親の近くに別の男が居るのを見たらしかたない!!浮気あかん!Zのカミーユも親が浮気していた。そういう繋がり主人公なのか。やむ終えなく父親を選んだけど此のままだとガンダムと出会うルートを辿る！

ガンダム：此れからの事を考えたら腹が痛い。ガンダムは戦争するロボットアニメ。アムロの出る初めのガンダムは見たことないけど：初代と続編を比べたら初代が世界大戦で後の作品は小競り合いって聞いた事がある。世界大戦みたいな戦争に参加したくない。

参加しなくても済んでも弱ければ不味いか。

アムロは最強……もし本当にアムロとしても、なにもしないで最強になれると思えない。強くなる素養はあるはず……原作のアムロは最強になるのに：自主的に特訓をしたのか無理矢理させられたのか。鍛えるような師匠になりそうな相手はいない。師匠と出会う可能性もあるけど、鍛えておいて損はないか。

出来る限り鍛えよう。アニメや漫画の鍛え方を参考にしたら良いだろうか：？よし！オヤジに特訓道具を作ってもらおう！！

宇宙に出て中学生ぐらいの年齢となった。

今いるのはスペースコロニーのサイド7、スペースコロニーとは全長にして35キロ、直径にしては6キロを越える人工物であり、宇宙に浮かぶ巨大な人工の人類の居住地。光も空気も自然も全部が作り物の空間。コロニーのモノは偽物ばかり。偽物の自

然と世界か。東方先生ならブチキレそう。

「ふ、ふ、ふ、オヤジの作った今回のギブスは中々にキツイな！」

宇宙に出る前に思った事は忘れずにちゃんと鍛えている。今は走り込みをしてる。オヤジに作って貰った重り兼のギブスを着てコロニーの作業用パイプの不安定な足場を走ったり街中ヲ走ったりしている。人の居るところを目を瞑っていても普通に走れる。感覚が鋭くなってるのか。人の気配もわかる。無機物でも視界に入ってなくても周りに何が有るのかも何となくわかった。

この世界のガンダムの原作は知らない。しかしアニメの主人公は10代の主人公が主流。大体主人公が活躍するのは高校生か中学生、つまりもし主人公のアムロというのが正解なら年齢的に何時戦争に巻き込まれても可笑しくないという気がする。キングオブハートは20だっけか？

いやアニメやらの事を抜きにも今は危険だ。

最近ニュースで見えない日がないサイド3のジオン公国。ジオン：前世のネットで見えたことあるアムロさんの台詞。

『来るなら来い』ジオン”軍、ガンダムがある限り平和な宇宙をオマエたちの勝手にはさせんぞ!!』

ジオンが敵じゃない可能性あるか？

現実とアニメなら違うと思うにも、ニュースやネットで調べたらジオンはザビ家の独裁政治、モロに悪役。ムンゾから続いてジオン共和国として連邦とは20年らしいの敵対関係。ガンダムとかそんな情報なくても無関係のコロニーを巻き込んで戦争しちゃうと思う。平和で終わる方があり得ないと思えてしまう。コロニー、宇宙に住むスペースノイドは独立したい。コロニー側は地球の植民地扱い。独立を求めるなら戦争になる。独立を率先して求めそうなのはジオン、隕石とかでサイド3ごとジオン滅んでほしいと思いう切実に：

戦争が始まるの何時だろうかと悩みながら走り込みを終えて家に帰った。

ん？家の前にトレラー、オヤジが何か機械を運び込んでるみたいだ。

「ただいまオヤジ」

「ああアムロかお帰り。ちょうどいい所に来てくれた!!業者の持ってきたリフトだと運ぶのが厳しいそうさ。頼んでいいか」

結構デカイ機械の山。

どうやらオヤジの新しい発明品か。

「もしかしてオレのトレーニング器具の新作？仕事が忙しかったんじゃ」

「ん？ああ仕事のオマケでできた様なモノで大した時間も掛かってないから大丈夫だ」

「それならいいけど」

ずっと使ってきたトレーニング用具の新しいのか。前には血と涙と汗が染み付いてる。文字通りにだからとても猟奇的だ。トレーニング器具というより拷問器具に見える。見てる業者の人が青ざめていた。それは青ざめる

トレーニンング器具、親父に頼んだ特訓器具。

……自分で頼んだ特訓器具で死にかけたのは何回か。何度死なないための特訓で死にかけるって本末転倒やない？と思ったか。初めは普通の市販の特訓器具だった。徐々に危険性が増して今では処刑道具と言える代物だ。

オヤジを普通の親だと思っていたのは訂正する。脳のネジがブツ飛んでいる。ガンダムのアムロが最強と呼ばれる理由よくわかった。

「スミマセン、直ぐにリフトをとってきますんで」

「ああ業者さん、別のリフトは良いですよ。帰ってきた息子に下ろしてもらいますから」
「え、人数増やしても人力で下ろすのはちよつと」

「いえいえ息子なら一人で軽いものです」

「…は、いや一人で大丈夫って、軽いものって、重さは軽く見てもトンありますよ。一度戻って違うリフトを持ってきますから…は？」

「よいしょつと」

「アムロ、前の器具はトレーラーの上に置いてくれ」

人工の地面に足跡を付けながらトレーラーの前まで、前の拷問もとい特訓器具をトラックに詰め込む。

「……」

引越し業者の人は子供一人にやらせて手伝わないのはどうなんだ。

「アムロ、これも、もうダメだな」

父さんが見てるのはサンドバック代わりの装甲板。ベコベコに歪んで割れてる。数日前に貰ったばかりなのに

「ゴメンやり過ぎた」

これ幾らぐらいするんだろう。

「いや謝る事はないぞアムロ。……装甲板は耐久実験だからな」ボソツ

「おい……ここつてまさか、噂のマッド博士の家なんじゃ」

「む、息子を人体実験して怪物にしたって話のか!? 与太話しじゃなかったのか! あの少年で噂の怪物……!」

「あ、アムロさん??」

「(は!?! あ、あれがアムロさんなのか!?! 警備部隊でも手こずる不良集団をレーニングの邪魔だから潰したとか聞いたことがあるぞ!)」

「俺が聞いた話だと、アムロさんのトレーニングの邪魔をした連邦の部隊が壊滅させられたって」

仕事しないで何を話してるんだ？

人体改造とか聞こえた。オレが改造人間だつて言うのか。失礼な。別に改造なんてしてない。何故か見掛けは細いままだけど……オヤジ、コッソリ改造してないよな？

作業が終わった。

「ご苦労様アムロ」

「オヤジ、ソコにある箱は？」

「ああーそれはアムロへのプレゼントだ」

緑の丸いボールの様なのを渡された。

そう言えば今日は誕生日か。

確かバンダイ関係のCMで出てた気がする。ガンダムに出てるものだった？

GとかWでは見てない

見掛けは…マスコットか相棒みたいなモノかな。マスコットか相棒…あのアムロの立場なんだろうか。

「ハロって言う市販のペットロボなんだが、父さんが色々と改造をしたから結構役に立つぞ」

捨てたくなった。

なぜに市販のままに出来ないのか。父さんの改造とか魔が付くやん。ペットロボとか言って殺戮ロボになってても可笑しくない。愛らしい見掛け…何かガンダムのゲームで同じ様なのが恐ろしい事をしてたような？

「じゃあ電源を入れるぞ」

バカン

パカッて開いた。

口が裂けるように割れてちよつとグロい気がした。中はメカメカしい。

蓋を閉じると目が光った。

オヤジの作品だ。

目からビームでも出ないか警戒してしまう。

「起動、起動…ハ口、ハ口…オハヨウ、アム口、アム…アム口？…ナンカチガウ」

何が？

ハルヒーの世界

涼宮ハルヒの憂鬱。

主要キャラとして、万能可愛い宇宙人、ほM：胡散臭い超能力者、年齢不詳な未来人、特異点や神さまみたいな扱いな面倒くさいツンデレヒロイン、そしてツツコミ、一番正体が怪しい語り部の主人公、この五人の高校生が織り成す物語りである。

人物紹介でわかる通り真つ当な人が居ない。表向きは普通に見えて裏では、ヒロイン関係の宇宙や未来まで入り込んだ大規模な派閥争いがあり、メインヒロインによる世界改編リセットも起こりうる sondern 世界。

メインヒロインが危険物。本人の性格も傍若無人なツンデレタイプ、暴力系ツンデレの元祖、ピンク頭のヒロインと並んで好かれる場合と、嫌われる層には無茶嫌われてるヒドイン。ハルヒを嫌った層ですがなにか？

そんな好感ゼロの涼宮ハルヒが神様みたいな世界に事前に転生したの。

転生直後はブルトン、じゃなくてブルブルとふるえた。ヒロインが何時ハルマゲドンするか不明な世界に居るのだからそれも当然。ストレスで死にそう：とシリアスに

思ってたのはわりと始めのみ

「涼宮ハルヒちゃんの憂鬱、11巻好評発売中!!」

学校の窓から空に向かって放たれるメタ発言。

放ってるのは涼宮ハルヒ…ちゃん。

3頭身

やだ可愛らしい。

これは、涼宮ハルヒは涼宮ハルヒでも涼宮ハルヒ”ちゃん”の世界だった模様。

本当に早々にちゃん側の世界だと判った。だって人間が三頭身になったりしたりする世界だから!ギヤグ補正あるし…ある意味元祖のハルヒよりも狂気の(ギヤグ)世界。元祖より好きです。原作者ですら”ちゃん”の方が良いとか言ったとか言わないとか。

転生して16年。

原作開始の高校生。

転生者補正なのか涼宮ハルヒちゃんと同クラス。

「あ、おはようさんタナカ」

教室に入ったらいきなりリアル頭身の男が挨拶してきた。今日は三頭身でない。漫

画みたいに頭身が変わったりするよ。それはともかく挨拶してきた男子同級生はメイ
ンキャラ。

「おはようキョン氏……『キョン』この世界一のツツコミキャラである」

言わずと知れた本名不詳の主人公、この世界に居ても本名が不明なツツコミ役である。ハルヒちゃんのキョンはボケにも頻繁に回るので要注意。因みに後ろにハルヒちゃんもいる。影薄いぞヒロインがんばれ。

「なんだその人物紹介っぽいのは」

「おはよーータナカちゃん…世界一とかキョンには過分な誉めでしょ」
「ハルヒお前は黙ってる」

バサツリ切られハルヒちゃんは（・ω・）って顔をした。ハルヒより雑に扱われるハルヒちゃん、不満を溜め込んだら世界改編する涼宮ハルヒなら世界の危機！ハルヒちゃんがプルプルしてる。ならもちろん！……ハルヒでなくハルヒちゃんなのでスルーをする。

「何故か二重に酷い扱いを受けてる気がする!!」

クラスで叫んでも特に気にされずスルーされるハルヒちゃん。涙目が可愛い。

「タナカ、俺が世界一のツツコミならハルヒの紹介はどうなるんだ」

「キョンが私を巻き込んだ！」

「涼宮ハルヒ嬢、ボケに見えてツツコミ役もソコソコ多い微妙なキャラ」

「わ、私の紹介、微妙…」ガビーン

ガビーンが文字として見える。

因みに涼宮ハルヒは嫌いですがハルヒちゃんは大好きです。大好きなのに扱いが悪い？そこはほらハルヒちゃんだから。

「ふふ仲が良いわね」

「ん、委員長か。おはよう」

「はい、おはよう」

いきなり来たのは眉毛、いや朝倉涼子さん。クラス委員長の眉毛、いや宇宙人である。原作的には唯一判りやすく物理的に攻撃してきた危険な眉毛。“ちゃん”なので小さくなる前段階。

「因みにタナカさん私の紹介ならどうなるのかしら」

「え、自分から聞くのか」

「勇者、無謀な勇者がいるわ」

「蛮勇だな」

「えらい言われようね」

紹介…眉毛、朝倉さんの紹介…

「眉毛、朝倉涼子嬢、眉毛、クラス委員長的な存在、後にマスコット幼児の姿あちやくらりようここにパワーアップする眉毛」

「うん、何を言ってるか解らないけどとても失礼な事を言われてる？ 幼女になるのってパワーアップなの？」

ネタと出番的には圧倒的なパワーアップ。と言うかハルヒちゃんだとリアル頭身の出番が初期の初期にしか……。

「(眉毛の事はスルーでいいのか朝倉(さん))」

「まあそれはいいとしてタナカさんに聞きたい事があるんだけど」

「なにかね。クラス名簿なんて見せて」

「このクラス名簿にね……あなたの所に田中・ターロアナタ・ロウミティス・ウスティアアと書いてあるんだけど、どういうこと？」

「なにそれ？ そんな長い名前が書いてあるわけ……うわ本当に書いてある!!」

「マジか!?! マジだ!! 周りの人の名前欄まで侵食してるぞおい」

二人仲良く名簿を見てガビーンと文字を出して驚いている。そんな二人を無視して朝倉さん

「クラス名簿に乗ってるし此方が本名なの？」

宇宙人が質問してくる……疑われてる？ 単に疑問？

「いやいや、これが本名とか可笑しいだろ。タナカタロウの方が本名だろ。此方も本名だと可笑しいわ!!」

ノリツツコミされた。

「で、これ、どっちが本名なの、それかどちらも偽名なの?」

何故かドキドキした面持ちで見てるハルヒちゃん。

「本名は名簿の方」

「マジ!?!」

「え、タナカタロウって名乗ってたでしょ?」

「田中・ターロアナタ・ロウミテイス・ウスティアを略してタナカタロウ」

「略して原型が残ってねえ!」

「まあ本人も略が苦しいと思うけど、純血の日本人だし日本人な名前にしときたいかなーと思って」

「「ん、純血の日本人?」」

ハモった

「あなた日本人要素とか皆無よね。名前もそうだし髪も銀髪だし」

容姿がナゼか銀髪碧眼、某踏み台仕様なの。

髪の色を言えば人の事を言えない人が多いよね。特に宇宙人組

「しかし生まれも育ちも日本で両親ともに日本人な混じりつけなしの日本人でありま
す」

「嘘よね」

「本当ですよ？純日本人な黒髪黒目の両親がお互いの浮気疑惑で壮絶な夫婦喧嘩とかし
たそうだけどホントウ純日本人ですよ」

「ごめんなさい！疑ってごめんなさい！謝るからハイライト消した目で見詰めないで
！」

この世界の神様ほいハルヒちゃんは平に謝った。

「う、うーん、生命の神秘、突然変異か、それかご先祖さまに外国人が居たみたいなパター
ンかしら？」

「容姿はそれで納得するとして、あの長い外国人風な名前はどうかということ？」

「謎」

両親に聞いてこんな長い名前になった理由とか思い出せないそう、両親は日本人らし
い普通の名前。親の名字は旧姓ふくめて田中ですらない。

「謎なの」

「謎…なん…です」

「そう、謎なら仕方ないわね」

遠い目で窓の外を見る朝倉さん。

「朝倉さんが謎で納得した!?!え!?!いいの謎ってだけで!?!」

ハルヒちゃんが吠えた。

不思議発見が好きなモノとして放置ができないと

「……………」

ハルヒちゃんが突っ込んだからツツコミ男子が仕事してない。楽ダナーって顔をしてる。

「んー名前の謎とか置いとくとして、本名を略すのも良いけど略し方を変えたらどうだ? タロウはやめといた方がいいだろ」

「あ、あーたしかにね。女の子なんだからタロウはね」

ハイそうです女の子です。

転生前は男でしたよ。タロウは唯一自分に残る男子成分だから残したいんだよ!!

「ハルヒお前もタナカタロウは可笑しいと思ってたのか」

「そりゃ思うわよ」

「けど自己紹介の時に突っ込まなかっただろ?」

「そうだけど……自己紹介の時は私だけじゃなくてアンタも含めてクラスの全員がツツコミしてなかったじゃない」

「あの時みんなお前に突っ込めよ的な期待の視線送ってたの気づいてなかったか」
あつたあつた。

けどまるで気付いた様子はなかった。

「え、わたしそんな期待されてたの！気付かなかったわ！……ん？なんで私はそんな期待されてたの？」

「ほらハルヒはあんな事故紹介をしたし空気を読まずにツツコミしてくれるかと」

「……それ喜んでいい評価？」

「自己紹介と言えば、正直お前の宇宙人、超能力者、未来人こいより、銀髪少女のタナカタロウの方がインパクト有ったな」

「!？」

あー反応からもしかしたらって思ってたけど……ハルヒちゃんの代表的な台詞を台無しにした。

「……そ……そうなの？私……印象薄かったの」

ハルヒちゃんがワナワナしながら朝倉さんを見た。眉毛が目逸らした。此方を見た。

「えっと……黒歴史の印象は薄い方が良かったんだと思う？」

「」

ハルヒちゃんがズーンと影を落として落ち込みました。やつぱりハルヒちゃんなので特に問題ない。何処かの超能力者が大変なことになりそうだけど。

それから数日。SOS団が結成された。

そんな重要でもないからどうでもいいか。

「はーなにか我がSOS団が貶められてる気がするわ！」

「気のせいだろ」

無駄に勘がいい団長さん。

そしてまったく信じないSOS団員その1。

場所は文芸部の部室（故）

現在はSOS団の部室。

自分は何を間違ったのかSOS団の部員その3。役職は裏番長らしい。裏番長ってなんだろう

「いやー古泉くんも入って、SOS団のメンバーも六人まで増えたわねー」

原作通り超能力者とか宇宙人とか未来人は今は居ないけど揃ってます。

「そうだな。まあ女子四人の中に男一人だったから男メンバーは有りがたい」

自分も男枠、では今はなかった。男枠に入れない悲しさよ。

「あ、そう言えば世界一のツツコミのキョン」

「その称号は止めるよ。クラスからもツツコミとか言われてるんだぞ微妙なハルヒ」
「それ本当にやめて」

「あ、すまん」

涙目になられて速攻謝るキョン氏

「女のこを泣かすとか最低ー」

「おい元凶、お前がつけたあだ名のせいだからな」

「……タロちゃん的人物紹介の浸透力は恐怖だわ。朝倉さんとか眉毛委員長とか幼女化
予定委員長とか言われてるのよ」

タロちゃんとは自分の事らしい。

「あーそうだな…他にも谷口の事故紹介してたけど広まってるよな」
してたっけ？

なんて紹介してたかな。

「ほんと…悲惨な事に浸透してるんだよな」

「うん、あの呼び名には正直同情したわ」

白々しく涙を拭う仕草を見せる二人。

なんか空に笑顔の谷口の顔が浮かんでる。

……本当になんて言っただけ？

「あ、そう言えばタロちゃんやんが古泉さんとユキとみくるちゃんの紹介をしたらどうなるか気にならない」

ん？

「うーん気になるちゃ気になるな」

気になるのかー。

面倒くさいから逃げよう。

「そうよねー……ウリヤアア!!」

ドアから出ようとした所をハルヒちゃんにタックル抱きつきで捕獲された。

で、現在。

「あ、遅れてすみません」

「皆さんこんにちは」

「……」

他SOS団メンバーが部屋に来てしまう。

「ふふふふ来たわね」

ゲンドウポーズで不敵な笑いする三頭身少女。

「あ、あのどうしたんですか涼宮さん。なにか嫌な予感が」

オツパイが大きなメイド服な女の子。

3 頭身だから欠片も色気がない。完全にマスコットに近い萌えキャラと化した朝比奈さん。良い子は声優さんの事は知らないフリをしよう。

「いやいや朝比奈さん大した事じゃないですよ。ただタナカの人物紹介みたいなの聞くだけです」

「人物紹介ですか？」

「そういうこと！じゃあ！さっそく人物紹介！タロちゃん言ってみよう！」

「涼宮ハルヒ嬢、SOS団の団長、SOS団の中で一番キャラ的に薄い気もする」

「ゴフ！なんで私」

「涼宮さん!？」

何故か古泉くんが電話で呼び出されたりした五分後ぐらい。

「じ、人物紹介…ぐふ…先ずはユキからよ！」

「まだダメージが残ってるな。あと先ずはって自分の紹介無かった事にする気か」

ユキ、長門有希さん。

さつきからワレ関せずとパソコンゲームをしてる。目だけ向けてる。ゲームしながら此方の事も認識してる模様。

「長門嬢、超スペックな廃人」

「おおアツサリだな」

「こら、女の子に廃人とかヒドイわよ」

「ん、構わない。廃人は誉め言葉」

「そうなの!? 誉め言葉なの!？」

「うん、まあ、長門は超スペック廃人、なんかシツクリくる気もする」

「の、ノーコメントで」

それ同意見と同じ意味だと思ふよ朝比奈さん

「あー…まあ本人が良いなら同じくノーコメントで…次はみくるちゃん!」

「わ、私ですか？」

「朝比奈みくる嬢、色々とギリギリな人である」

「ふえ、ギリギリですか？」

「(そのギリギリはどういう意味のギリギリなんだ)」

「えーとギリギリの内訳はなんだか聞かない方がいい気もするから!! 次はさつきギリギリ

りって所でエロい顔をしたキョン!」

「し、してないぞ。変なことを言うなよ。それと俺はもう紹介されただろ」

「そんなの私も同じよ! 安心しなさいキョンを仲間はずれになんてしないわ!」

「道連れの間違いだろ」

「まあいいから！キヨンの紹介スタート！」

『『キヨン』将来的に謎の空間でハルヒちゃんとキス』うん最後のとりの古泉くんに行ってみよう！」

「自分でふっっておいて俺の紹介スルーするのかよ。いや何となく俺も嫌な予感したから止めてくれて良かったんだけどな！」

「古泉くんの紹介ですか……」

古泉、イケメンだけど、3頭身。

じゃなくて……

「古泉一樹、SOS団副団長になりそうな参謀キャラ。SOS団一の苦勞人兼ボケキャラ」

「「……」」

現在緊急の謎のバイトに急行してていない。

師匠が嘯ませ

クールな荒野のロンリーウルフと呼ばれる噂のナイスガイ、俺の名はヤムチャ!!

昔はこんな自己紹介してたかな。ちよっぴり違うか？やってなかった気もするな。記憶がぼやけてるな。名乗りとかしてたの何十年前の事だし仕方ないか。若かったんだな。今じゃこんなカッコいい名乗りは無理だな。

ナイスガイではある。歳はいつてるが今でもイケメンフェイスは健在だし問題ない。ウルフ的な強さは……はああ。

マトモに動けないもんなあ。

体が重い。昨日までは動けたのに今日はもう起き上がるのもキツイ。どれだけ強くなっても人間年には勝てないんだな。サイヤ人とか武天老師さまはあんな例外だ。

なんとなくわかるんだよな。たぶん次に寝たら、二度と目覚めない。もうすぐあの世に行きそうだ。俺は重い体を動かして外に置いてあった椅子に座り荒野を見た。

俺が盗賊してた頃に縄張りしていた荒野。最後の場所を選んだのは荒野に昔作ったアジト。もう何十年も昔に造ったアジトがボロボロでも残っていてくれていた。

ここは前と変わらず人なんて滅多に來ない。誰もいない。嫁さんは居ないし、子供もいないし。最近だと友人や仲間とも連絡もとつてない。静かな所で最後を迎えたいと思つたけどいざ最後となると寂しいな。

プーアル……。

プーアルだけはずっと居てくれると思つてたんだけどなあ。居なくなつたのは何時だったか。プーアルはいつの間にか何処かにきえていた。

俺つて愛想つかされたんだらうかな？

……はあ……心当たりは有りすぎる。

そもそもプーアルはなんで俺を慕つてくれたのかな。なんだっけ、何でだったのか思い出せない。やつぱ年か。出会いを歳でも忘れるなんて見捨てられるのも当然か。

プーアルが居ないけど荒野はあの頃と変わらんないなあ。ここで色々とあつたよな。

走馬灯みたいなもんか遠い昔の記憶を思い出してきた。記憶を思い出すと俺の人生つて結構摩訶不思議だったんだなとつくづく思う。

死んだのに二回も生き返つてるとか。地球のピンチに戦士として戦つたとか。宇宙で最強になつた奴と仲間だったとかさ。自分の事ながらけつこうスゴい人生だったな。

荒野に居た頃、16までは普通だったんだ。アイツ等との出会いで俺の人生がかわつ

たんだな。この荒野で出会った宇宙最強になる孫悟空と初の恋人のブルマ。盗賊だった俺は荒野に来たブルマ等を襲った。今だと信じられないけどあの時の俺はあの悟空に勝ったんだよな！…翌日の再戦でボロ負けしたけど。後から知ったけど一回目に負けた理由も悟空は腹が減ってたから…。

負けん気がまだあった頃で…ぼろ負けしても懲りずにまた悟空たちを狙ったんだよな。そんな時に何でも願いを叶えてくれるドラゴンボールを知った。横取りしてやろうと俺は荒野を出てアイツ等を追ってドラゴンボールを探す冒険に出た。そう言えばあの時にドラゴンボールをお願いする予定だったの…女の子が苦手なの直してほし
いだったよな。

はははは…ドラゴンボールに願うことじゃないな。今思うとバカな願いだ…。
しかも結局願いは叶わなくて、いや、まあ…結果的にはブルマと付き合えたし…願いは叶ったと言ってもいいか。

ドラゴンボール探しのあのあとには…ブルマの恋人として付いて都会に行つたんだ。田舎育ちの俺は初めての都会を楽しんだけど…まだまだ若い頃だったから…悟空に負けたくなくて修行をした。

…ブルマを頻繁に放置して、それで強くなつたと思つて天下一武道大会に出て悟空との再戦を目指したら悟空と戦う前に負け。天下一武道大会あと悟空との差が判つて悟

空を強くした武天老師さまに弟子入りすることにした。その時に悟空が世界最強の軍隊のレッドリボンに戦いを挑んだとして、援軍に向かったけど倒された後だった。

また結構ブルマを放置しながら修行して、次の天下一武道大会では大分強くなったのに天津飯に負けた。実質悟空が勝ったけど天津飯は優勝して…クリリンが死んだ。

ピッコロ……ピッコロ大魔王の部下に狙われて殺されかけて見逃された。悟空や武天老師さまチャオズ俺より強かったみんなが殺された。もう残されたのは俺と天津飯だけと思って死を覚悟で戦いに行つたけど、悟空は生きててピッコロ大魔王は倒された後だった。

嬉しいけど仲間が死んだのに何も出来なかったのは悔しいよな。更に俺は厳しい修行をして強くなって三回目の天下一大会に参加、予選を通過した後、普通のオッサンばいのに足元お留守とか言われて負けた。後から神様だつてしつた…。

それから何年かして悟空が死んだ。悟空の兄のサイヤ人に殺されたんだ。まあ悟空は生き返るって話を聞いたし其所はよかつた。問題は悟空を殺した奴より強いサイヤ人が来る。俺達は神様の所で修行をした。

で、サイヤ人、ベジータ、ベジータ達の手下のサイバイマンに勝つたと思えばサイバイマンの自爆で死んだ。俺が死んだ後で生き返つた悟空がベジータ達を倒したんだよな。悟空みたいにあの世で界王様のところで修行した。フリーザを悟空が倒して、生き

返らして貰って、生き返った後は…修行の成果……

それから何年かして地球にフリーザがきた。悟空が居ない絶望、俺は戦いに向かった。なんか知らんやつにフリーザが倒された。

その知らんやつがトランクス、当事恋人だったブルマとベジータの子供……そういや悟空がブルマに元気な子供を生めとか言ってたような………思い出したらなんか……あの悟空が気まずそうな顔をしてたような……

未来で自分達を殺す人造人間が来ると教えられた。…有る意味で殺されるより悲惨な俺の未来については教えられなかった。いや、トランクスが教えてくれる方が可笑しいんだけど…思い返したらアレだなあ。

修行にかまけて恋人のブルマを放置した俺が悪いのか…自業自得か…いや!!?ベジータも絶対に修行でブルマ放置してたよな!!なんでベジータも俺みたいに別れなかった…!子供か…トランクスみたいに子供が出来なかったら別れずにすんだかな……あとベジータみたいに遠慮なくトレーニングに設備とかブルマを頼ったりしなかったのも……

止めよ……思い出しても悲しくなるだけだ。

未来の情報を知った後、正直、あのフリーザを軽く倒せるトランクスが勝てない人造人間相手に役に…立つのか疑問だったけど、修行はした。

で、何年も修行をして強くなって、人造人間と戦いに挑むのに、人造人間を探してたら不意打ちで腹を貫かれた。仙豆で治ったけど戦力外だから病気の悟空を連れて逃げた。

未来を破壊した人造人間より人造人間のセルが現れて、地球の存亡をかけた大会を開くと聞いて一応また修行した。チビセルに負けた。悟空が死んだ。悟飯がセルを倒した……悟飯が悟空を越えた……悟飯は10才少し……才能が総てだつてのを見せ付けられた感じで……悟空も自分より上の悟飯が居るからあんなにアツサリ死んだようにみえて……年齢も有るけど、精神的にも折れてセル以降は一線から退いた。

それから悟飯が高校に通う頃に悟空があゝの世から帰つてくると聞いて、久しぶりに天下一武道大会に集まった。クリリン出てたな。悟空とか出て俺が出て俺も恥をかくだけと思つてたけど……出てみても良かったかな。大会は界王神様やらが出てきてクリリンも悟空とか居なくなつたしな。……あ、18号が出てたしダメか。

それから俺は天界に居るとブウに食われた。死んだあとまた界王様の所で修行した。で、また生き返つて……それから……それから……色々あつたけど……もう何があつてもそこら辺の一般人と同じ立場だつたなあ……見てるだけの立場だ。

ウーロンとかと立場は同じだな。

ウーロンか……泣けてきた。

年取ると涙もろいな。

俺って一線を退く前も、あれだけ修行したのに勝つどころかなんの活躍もしてないな。

天下一武道大会ぐらいの頃はそれなりに戦えてた。だけどサイヤ人が来てから……レベルが……悔しいよな。どんな努力しても地球人と才能も肉体も違いすぎるんだよ。少しは活躍できたピッコロは宇宙人だし。天津飯も後から知ったら宇宙人の末裔らしいし。

地球人最強はクリリン……もつと頑張れば地球人最強にはなれたかな……挫折しなかったらいけたかも……挫折した理由は成長率の差も有るけど、年取って衰えが来てたからだよな。歳をとって衰える様に見えない悟空とか羨ましかったなあ。

あの世では肉体の衰えはない。だからブウに殺された後のあの世だと若い頃みたいになろうと修行もした。短い間だけ肉体の衰えがないあの世での修行は楽しかった。

そうだ……死んだらまたあの世で年齢とか気にしないで修行できるのか。界王様とか呼んでくれるよな！皆とかあの世でもまた修行をしてそうだ。やってない方が驚くな。

少なくとも天津飯、俺と同じくリタイアしたクリリンもあの世で修行してそうだ……

ベジータは悪行的に怪しい……悟空、アイツは絶対居るな、またとんでもなく強くなつてそうだ。はは俺のやる気とかポツキリ折られそう……。けど……またみんな修行か。悟空風に言えば……ワクワクしてきたな。

ふう……瞼が重い……眠くなってきた……たぶん、もう起きることはないよな。けど怖くない……あの世で皆と会うのが楽しみだ……皆と。まだ皆が逝つてあの世にいるのかわからないか。はは……もし俺がああの世への一番乗りなら……皆が来る前に修行して強くなつて驚かせて……

……チャ……サマ……

「と、言う感じで寝て……死んだよな俺つて？」

此処つてどう見てもあの世じゃないよな。空には青い空に白い雲。黄色い雲ばかりだったあの世の景色でない。幽霊も居ないし案内の鬼もない。なにより死人につく輪っかが頭がない。俺はまだ死んでないよな？

ここあの世でも、元いた荒野でもなくて……何処かの町中の路地裏だよな。どうなったんだ。

路地裏だしあの世って景色じゃない。

けど死んではいるのか？

だって体がさ……若くなってる。

肌の感触がカサカサしてない。張りや弾力は悟空とあつた頃ぐらい。下手をすればもつと若い感じの肌だ。肌だけじゃくてあんな消えかけの線香花火みたいだった肉体が、線香花火の火が原子炉にかわつたみたいに力が溢れてる。

死んで若い頃の肉体が再現された、つて事じゃ無ければ若返ってる。

若返る事はドラゴンボールであり得るけど、俺の若返りとか願う相手なんて居ない。自分の若返りとか願うような相手の心当たりなら有るけど……万一反返りを願われたとしても、現在地が路地裏になつてる意味がわからない。

「何が起きたんだ。それに此所はいつたいたいどこなんだ」

町中なのはわかるけ路地裏じゃどこかわからない。

「体も動くんだし上から見るか」

トウツとビルの上まで跳んだ。

「おお！体が軽い！」

やる気になれば天界までジャンプで行けそうだ。流石にジャンプでは無理。そんな気持ちちつてことだ。軽い体に感動しながらビルの屋上に着地して周りを見る。

「……………だよ(´)は?」

まったく見知らぬ町の光景が広がっていた。

ただの町なんだろうけど、なんというか町並みに違和感がある。地球の建物と少し違うよな。ここは地球なのか?

悟空の瞬間移動みたいなので別の星に飛ばされたとかないよな。一応地球の町にも見える気もするけど……違和感が……何年も前から外に出歩く事なんて無くなったけど……最近だとこんな感じなのか?

「悩んでてもしかたないか……人に聞こう……ってあれで良いかな?」

下の方に男達が居るのを見付けてはいた。さっきの路地裏の近くだ。見るからにチンピラばいけど場所を聞くぐらいできるだろ。あとコソコソとなにか悪事してる感じだし気になる。何かを運んでるな。

俺はビルから飛び降りてチンピラ達の前におりる。

「うお!」

「空から人が降ってきた!」

チンピラたちが俺を驚いて見ている。俺が予想したより警戒した様子を見せてる。何か悪いことでもしてたのか。

「驚かせてすまないな。すこしいいか」

そう言つてチンピラのリーダーぼいのに声をかけた

「な、なんだテメエ！」

「ここは俺たちの縄張りだぜ！」

外見的にチンピラと思えば言葉遣いもチンピラ。つまりやつぱりチンピラ：自分の若い頃を思い出すからちよつと恥ずかしくなるな。

「まあそんな怒るなよ。ただ少し聞きたいことがあるだけだ。聞いたら直ぐに去るからさ」

「知るか！別の奴に聞け！俺達はお楽しみを邪魔されて我慢できないんだよ！さつさとどっか行け！」

お楽しみ？こんなチンピラ達だと、ろくなお楽しみとは思えないな。何を隠してるのかと思えば、口を塞がれた涙目の小柄のお嬢様つて感じの長い蒼髪の可愛い女の子がいるな。なんだ：何故か知つてるような気がした。

「……………?!?!?!」

此方を見て目を見開いて女の子が何を言つてるのかわからないな。こんな路地裏で口を塞がれて涙目の女の子、マトモなお付き合ひじゃ無いな。見過ごせない。この手のヤツには無駄だろうけど一応警告はするか。

「おいおい、女の子には優しくしなきゃいけないって教わらなかつたのか？その子を離

してやれよ」

「うっせえ！ぶち刺すぞ！」

「…ならハツキリ言つてやる…悪いことは言わない。その娘を置いて消えろ。この俺に
ブツ飛ばされんうちにな」

決まった。強者感溢れ「死ねよ」

「うおおおう!!」

と、驚くフリをしたけどコイツの拳ぐらい簡単に避け…うおう！手から刃物が生えて
きた!?

「あ、アブなあいなあ！」

フリじゃなくてマジで慌てたぞ！いきなり手から生えてきた刃物で刺してくるとか
短気すぎるだろ！手からいきなり刃物を生やすのか最近のチンピラは、んう？手から刃
物が生えてる？うわ…見間違いないじゃない。刃物が手から直接生えてる。痛そう。刃物
を手に埋め込んでんの。そういや…手に刃物といえはサイボーグの桃白白が手に刃物
を仕掛けてたな。機械ならともかく生身には無茶だろ。

「それ痛くない？」

「…俺の不意打ちを避けやがった？」

おい心配してる声は無視か！

「タダ者じゃねーな。テメエ見ない顔だがプロヒーローか！」

「は？」

こう言う場面だとヒーロー気取りとかじゃないか。プロのヒーローってのはなんだよ。ヒーローにプロとかあるのか。ヒーローと言えば昔悟飯がやってたグレート何とかみたいなのかな。あんな色物と同列扱いか勘弁してくれ。

色物…いやプロのヒーローね。俺を見てどうしてヒーローなんて勘違いをしたんだ？…あ…服が最期だと思つて着てた亀仙流の胴着。まさか、これがヒーローのコスプレと思われたのか？

「プロヒーローじゃないのか？てことは趣味のヴィジランテかよ」

趣味のヴィジランテ…自警団？自警団って趣味というのか。あと自警団が居るってここらへん治安が悪いのかよ。目の前の奴等を見たら良くないのは一目瞭然か。

「別に自警団じゃないが俺は可愛い女の子の味方だ。女の子を置いて去る気が無いなら掛かってきな」

「ふざけやがって！」

へー掛かってくる気か。何十年ぶりの戦闘だ。相手にしては相手が役不足と言いたいが、手から刃物を出したヤツ以外にも体に変化してる。だけど感じる気は大した事無い。初見じゃ不意打されたけど相手にも成らないな。…つて!!!油断はしない方がいい

か!!……油断したら大抵酷い目にあってきたしな。

「久し振りにこのヤムチャさまの武術のさえを見せてやるぜ！」

「お、おぼえてろおお」

いや……うん……武術のさえとか見せる暇もなかったなあ。

なんだよ。警戒したのに強さは感じた気相応か。全員合わせてもたぶん悟空と会う前の俺より弱かった。弱くて体を変化させるとか……ウーロン居たな。もしかしてアイツら妖怪だったのか？

「……」

助けた女の子が呆然とした感じでこちらをみてる。

「お嬢さんもう大丈夫ですよ」

口を塞いでた布を外しナイスガイな俺は安心させるように微笑む。目がウルウルしてる。安心してか。ふ、それかナイスガイな俺に惚れたかな!!

「……さま」

「ん、なんて」

さまつて言ったか？

「……ムチャさま……ヤムチャさま？」

「ああヤムチャさまつて言つてたのか。……つて！え、俺の名前を知つてるのかお嬢さん？」

いやさつき自分で名前を言つたのか。

「ほ、本当に……や、ヤムチャさま？……！！」

「うお!!」

な、なんだ！抱きついてきた。柔らかい。じやない！しりあいなのか!? そう言えば何処かであつた気がしたな。声も何度も聞いた覚えが……アイツの声、いや違うよな。

相手は可愛い女の子。嬉しそうに胸に顔を頬づりしてる。アレ？この感じって。

冷や汗が……いやいや……ど、どこぞの武天老師さまみたいに年齢を忘れてナンパとかした覚えはない。大体この娘の年齢は守備範囲外で、女性関係なんてこの娘が産まれる前ぐらいしか……けど知つてる感じが……見覚えがあるの昔の彼女のこ、こど……とか……冷や汗が、それなら覚えが有る理由も、いや！違うよな！違うはず！違つててくれよ……。この歳で知らなかつた子供が発覚とか！

「お……お嬢さんは、俺とどんな知り合いなのかな」

「え？……なにをいって……」

な、なんで絶望したような顔を!?

「いやあー! すまない! 年のせいかな物忘れが酷くてね!! たまに自分の名前を忘れてりするぐらいなんだよ!」

「ご、ごまかしのつもりだったけど、まさか本当にボケて記憶から消えてるなんて事はないよな!」

「ぐす、年って……ヤムチャさまボクですよ! プールです!」

僕っ娘、お嬢さんの名前はプールか。聞いたことあるな。プール……プールって……プールの茶……は?」

「プール?」

「はい! 僕ですプールです!」

俺の知ってるプールって名前は一人、一匹しか居ないぞ……え、プール?

「まさか……猫ばい妖怪のプール?」

「そうです! そのプールです!!」

「……砂漠で一緒に盗ぞ、いけない事をした事があるプール?」

「砂漠じゃなくて荒野ですよねヤムチャさま」

「ハハハハ引つ掛からなかったか。それを知ってることは本当にプールか……え、マジでプールなのか!? 本当にプールだっていうのか!」

「グス、なんでそんなに念押しするんですか。ボクの事を見忘れたんですか」

「いや……女の子の姿で見忘れたとか言われてもな」

「え……ああああ!!そ、そうでしたね!すみません!この姿だとボクだとわかりませんよね!ちよつと待つてください!……変化!」

ボフンと煙が吹いて中から女の子の代わりに空に浮く青い猫ぼい生き物。嘘だろ……
おい……プーアル……本物のプーアルだったのか。

「……………プーアル……」

「……………はいヤムチャさま!」

「プーアル!!」

「わあ!ヤムチャさま!」

俺はプーアルを抱いた!!

プーアル、プーアルだ!!

涙が出てきてとまらないぞ!……こら!!

「プーアル!久し振りだな!何処に行つたと思えばこんな所にいたのか!!」
グルングルンと回った。

「ひゃ!!あの!ヤムチャさま!!」

ボフン!!

「はは、オイオイ、プーアルなんでまたその女の子に変身するんだ。そんなに気に入ってる姿なのか？」

プーアルと判つてても可愛いから微妙な気分になるからやめてほしいな!!

「あ、いえ、実は今は此方が本当の姿なんです」

「へー」

なんだって？

第11話

亀と書かれた胴着を着た中学生ぐらいの少年、天寿を迎えた筈のヤムチャは見知らぬ場所にいた。其処にはチンピラに絡まれていた美少女がいた。美少女は長年連れ添った相棒のプーアルと名乗った、ヤムチャはプーアルから話を聞いて……頭を抱えていた。

「な、なるほど……プーアル、お前は死期を悟って俺の前から消えて……それから生まれ変わったって人になってて、此処は地球でなくて、いや地球だけど、名前が同じだけで別の地球なのか」

「流石はヤムチャさま、ご理解と納得が早いです!!僕なんて初めて別の地球と知った時なんて、スゴく長いこと現実なんて納得出来ませんでしたよ!」

「ま、まあな!悟空と会ってから摩訶不思議な体験は此でもかとしてきたからな!あの世に行ったり生き返る事と比べたら別の地球に行くぐらいそんなに驚くことじゃないだろ!」

ヤムチャはプーアル(美少女)相手に胸を張って強がった。内心はハチャメチャに動

揺っていた。

「い、いや、しかし…お前が生まれ変わった事も、別の地球来た事も納得いったが、何で俺も異世界に来たのかだよな。それとこの若い身体だ。この世界に来た拍子に若返ったのか？」

「ヤムチャ様、この世界に来た理由はわかりませんが、若返ったのでしようか、ヤムチャ様もボクと同じ様に生まれ変わったのでは」

「俺も生まれ変わったのか？…死んだと思っただし生まれ変わったなら若い体になるのも納得出来る、か？…いや、やっぱり可笑しいだろ」

「どうしてですか」

「…生まれ変わったなら今は赤ちゃんじゃないか？」

「…そう、ですね」

「プーアルが生まれ変わった時に赤ちゃんじゃなかったのか」

「ボクが生まれ変わった時は赤ちゃんからでした…」

「普通そうだよな。なら俺も生まれ変わったなら赤ちゃんでないのは可笑しいだろ」

「な、なら何なんでしょうね…」

「ウーン…生まれ変わりでないと、若返りなんてそれこそドラゴンボールの願いでもないのだよな…他に考えられるのは」

ふとヤムチャは思い付いた。

冷や汗がダラダラと流れていた。

「どうしたんですか!？」

「い、いやな…も、もしかしてこの身体は俺のじゃないって事はないか？」

「え、どうしてそう言う話になるんですか」

「…俺の顔ってどうだ。昔の俺と同じか？」

「は、はい。ヤムチャさまの顔です」

「プーアルが言うなら俺なのか、若返った俺のからだか、いやソツクリさんの可能性もあるか……」

持ち物で確認できないかとポケットを探ると、財布と長方形の薄い機械がでてきた。

「なんだこれ？」

「それはスマホですよ。この世界の通信端末です」

「へー……通信端末か。へー……この世界の通信端末持つてるってやつぱり誰か別人の体に入ってるのか。」

「あの、それに持ち主の情報があると思います！」

ダラダラと冷や汗をかくヤムチャにプーアルはいった。

「そうなのか？」

ヤムチャはスマホを操作しようとするが…ボタンがない。ヤムチャはどう使うのかわからない。

「……」

そのさまはガラケーからスマホに乗り換えただけの素人の有り様。

「あのボクが調べてもいいですか」

ヤムチャは素直にプーアルに渡した。

「あ、ボタンは横にあったのか。え、画面に直接触れて操作するのか」

プーアルがスマホを動かしていると、ヤムチャは見掛けが若いのにお爺ちゃんみたいな反応をした。プーアルはコツソリと笑っていた。

暫くスマホを操作するプーアル。

「ど、どうだ。情報はあったか」

「………ヤムチャ様、これヤムチャさまのスマホですね」

「なんでそんな事を言えるんだ」

「見てください。これ検索履歴です」

「検索履歴？」

見るとネット検索の一覧が表示されていた。

「この履歴は……」

ドラゴンボール、武天老師、パフパフ、カプセルコーポレーション、バニーガール、ピッコロ大魔王、パオズ山、西の都、エロ画像、レッドリボン、セル、ミスターサタン、ピクナのお店、天下一武道大会。

「見覚えあるのばかりだな。なんでこんな調べて……あ」

プーアルはここを別の地球だと言っていた。

「なあ……この世界にも武天老師さまやピッコロ大魔王とかがいたのか？」

「いません。ボクも調べましたが……。なので……」

「なるほど、そうなる、オレじゃねーとこんな検索しないよな……元からこの体は俺なのか？なら記憶はなんで無いんだよ……どうなってるんだ？……覚えてないだけでオレもプーアルみたいはこの世界に生まれ変わったのか。何かの拍子でこの世界の記憶だけ消えた？……説明つくけど……ピンポイントに今の記憶だけが消えるとか無いよな？」

「な……無いとも言えません」

「どういうことだ」

「この世界の人は個性という特殊能力を皆が使えるんです」

「特殊能力？つまりさっきのチンピラやら、プーアルの変身みたいなモノを皆が持つてるのか？」

「はいボクの変化もこの世界だと個性扱いです。で、その個性なんです色が色々種類が有りまして……だから、」

「…わかったぞ！記憶を消せる個性で俺の記憶が消されてるかもって話だなプーアル！」

「はい、そうです！」

「しかし、それが正解として…何の目的で俺の記憶が消されたんだ………記憶なんて消して得なんてあんのか？」

「そ、それは、なんなんでしょう…人の記憶を奪うのが趣味の愉快犯とか？」

「なんだそれ!?この世界にはそんな質悪いヤツいるのか？」

「す、スミマセン、そう言う犯罪者が居る可能性はあるって話です」

「そっか。本当に記憶を消したヤツが居るなら！そいつ見つけたら絶対にブツ飛ばしてやる!!………そういう俺が元からこの世界に居たとすると、この世界での生活があったんだよな………どうしよ」

「ボクが………ヤムチャさま、も、持ち物に何か有りませんか」

「持ち物か。あるのはそのスマホってヤツと…あ、財布あるな。財布の中に身分証明書みたいなのは………無いなあ」

ヤムチャはガツクリと項垂れた。

「お、落ち込まないでくださいヤムチャ様！ そうだスマホに電話帳もあります！ お知り合いに連絡すれば……あ」

「あつてなんだ。電話帳になにか問題でもあったのか」

ヤムチャが見ると電話帳には幾つか番号と名前が登録されていた。しつかりとある。5件しかないが。

戦闘力たつたの5かゴミめ。何故か情けない兄の声が聞こえた。

「……………同じ名字的に二件は親か？ 他は学校、店の名前らしいの、この緑谷つて奴は知り合いかな……」

「ヤムチャさま……」

プーアル（美少女）の涙ぐむ姿に泣きたい気分となった。ヤムチャは若い頃はロンリーウルフ、一匹狼と名乗っていた。今思い返せばカッコ悪く言い替えると寂しい奴。傍にいたのは手下みたいな扱いのプーアルぐらい。悟空たちみたいな特殊な例を除いたら普通の友達が出来るかと言えば……

ヤムチャが人付き合いが上手いなら一人で山賊になってたりブルマと別れてない。生まれ変わっても人付き合いが改善できてないとしたら……ブルマや悟空の様な繋がりには普通は中々出来ない。ならこの世界のヤムチャは……

ヤムチャから冷や汗が流れた。

もし愉快犯などに記憶を消されたとして、そのまま放置するだろうか。記憶を消されて混乱する様を見るんじゃないか。周りに見られてるような気配はない。そもそも力をそのままもって若返った様なヤムチャの記憶を消せるほどの手練がいるんだろうか。(も、も、もしかして、記憶を消したのオレ自身？ほら、生まれ変わった俺は寂しい生活し過ぎてて自棄になって自分で記憶を消したとか無いか？……この世界だと個性って特殊能力皆が持つてるなら、この世界の俺がそう言う特殊能力があつて記憶を消して……)

「あの誰に電話します」

「え!?そ、そうだな電話しないとな……うん」

ヤムチャはスマホとにらめっこした。

「や、ヤムチャ様……その、ボクが……」

「……………ははは、ちよつと誰に連絡するか悩んでただけだから」

検討したような沈黙はあつたがそういつた。

「さて!連絡するか……これ親?にかけるのが良いのか……待てよ、いきなり息子が記憶喪失とかショックだろうし……まずは緑谷って奴から情報聞いてからか」

「そうですね」

「……できたら、緑谷は友達、親しい友人であつてくれよ!ほぼ他人で電話番号だけ何故か

ある関係とか止めてくれよ……ここ押せば電話出来るんだよな？」

「はっ」

「よ、よし……か、かけるぞ」

ヤムチャは真剣に其なりに親しい相手で居てくれと祈りながら電話番号を押した。

『も、もしもし、どうしたのヤムチャくん』

少年の声が聞こえた。声色からして最低限の関係が有りそうでホツとした。ホツとしたがそれよりも気になることもあった。

「この世界でも俺の名前はヤムチャなのか……」

『え？何を言ってるの？』

「いや、そのな……なんて話せばいいんだろうな」

『あの、本当にどうしたの一体』

「いやな………えーと……俺記憶が無いらしいんだよ」

ヤムチャは悩んだ末に単刀直入に言った。

『はい？記憶がない？記憶が無いって……ええ』

当然ながら相手は困惑していた。

ヤムチャは自分の言葉選びの酷さを心の中で罵倒、変な冗談は止めろと言われて電話を切られなくて良かったとヤムチャは思う。

『記憶が無いってどう言うこと?』

「どういうって言われても…言葉のまんまの意味としか言えないんだ。(この世界の)自分の事も含めて何の記憶が無いんだ。電話帳にあったから電話してるだけで、悪いけどそっちの事とかもしらないんだよ」

『…じ、自分の事もわからないの、そ、それって頭をぶついたりしたせいで!?それともヴィランに襲われて!?大丈夫!』

疑う様子もなく心配してくれているようだ。

「大丈夫と言えば大丈夫じゃない。…電話帳の名前で見たけど緑谷くんか、緑谷くんは俺の友達って事で良いのか?」

『えっ、それは…:ボクは友達だと思ってるよ。ヤムチャくんがどう思ってたかわからないけど』

少し引つ掛かるが友達だったようだ。

「そうか!友達かよかった!…:それだな緑谷くん、記憶がないのに友達だって知って、こんな事を頼むの利用するみたいで悪いけど、色々と聞きたいことが有るから出来れば会うこととかできないか?」

『う、うん、わかった。何処で待ち合わせしやうか』

「待ち合わせ場所か……:」

『あ、ごめん、記憶がないなら待ち合わせは難しいよね。ボクの方から行くよ。今どこに居るのかわかる?』

即決で来てくれるようだと言ムチャヤの中でまだ見ぬ緑谷への好感度が上がった。

「()は……………えー…」

ヤムチャはプーアルを見た。

何を求められたか察するプーアル。

「()は〇〇〇の三番地ですよヤムチャさま」ボソボソ

「〇〇〇の三番地だ緑谷くん」

『(女の子の声?) 〇〇〇の三番地近くだね。30分ぐらいでいけると思うけど、〇〇〇の三番地なら……………わかりやすい所だと……………駅前が合流しやすいかな…』

ヤムチャは上から見たときに線路を見たことを思い出した。

「あー線路は見えたし多分駅にはいける」

『そうなの? じゃあ駅で、もし無理そうならもう一度連絡してよ。ボクは今から移動するね』

「お、おう、わかったありがとう」

『それじゃあ成るべく直ぐに行くから気を付けてね』

電話は切れた。

ヤムチャは上手くいったとホツとした。

「この世界の俺も良い友達がいたみたいだな」

ヤムチャはこの世界でも友人運には恵まれてると喜んだ。ヤムチャの前世の友人たちは数年単位で会わなかったり、音信不通になったりもする友人だが…。

(しかし友人がいるなら自棄になって自分で記憶を消したとかないのか?)

「……よかつたですなヤムチャさま」

何かプーアルの表情が…台詞とちよつと違わないか?とヤムチャは思う。

「そうだな。せつかく来てくれるのに待たせたら悪いし早速駅まで行かないと…」

「……」

プーアルは何か困ったような様子を見せていた。まるでヤムチャに着いていつて良いのかどうかという様子。

「あ…その、プーアルここら辺の道とか知ってたりはするか?できたら案内頼めるか。もし知らなくても二人で行く方が安心なんだけどな」

ヤムチャはプーアルに頼んだ。

「はい!お任せくださいヤムチャさま!!」

プーアルはヤムチャの言葉に何かを察した様に明るい顔をして、喜んだ様子で返事をした。

ヤムチャは喜んだ様子にはホツとした。

ただ…プーアルの面影もある。

しかしやっぱり見かけは美少女。

「……………」

ヤムチャは言葉を呑み込んで美少女プーアルと一緒に駅に行くことにした。

蒼いヒーロー

現実って意外とスゴいなあ。

うん、本当にすごい。

凄すぎて笑える。

出るのは乾いた笑いだけだね。

はあ……まさか！こんな事があるなんて！

現実の凄さアホさについて考えてるボクの名前は『スバル』と”言うよう”。なんで自分の名前なのに他人事みたいな言い方かと言うと、ついさつき母親ぽい人に名前を呼ばれて知ったばかりだからだよ？

「おぎゃー（棒）」

どうも生まれたばかりの赤ちゃんです。

今は動物が描かれたベビーベッドに寝かされています。ベビーベッドに寝る趣味があるとかじゃないです。赤ちゃんプレ○とかじゃねーよ。本当に赤ちゃんだから。現在の肉体年齢は生まれたてのゼロ歳。精神年齢は20数歳ぐらい。

改めて自己紹介、どうやら転生したらしい極普通の男児のスバルくんです。スバルって漢字どう書くんでしょうかね。亡くなった記憶とか無いですが赤ん坊になった身に転生したよう。輪廻転生ってあるものなんですネー。あるんですねええ……。

有り難いと思って良いのかな。世界が前の現代日本なら有り難いと思うよ。転生と言えばファンタジーな世界に行くとか思うものですか、母親の言語が日本語、服装は普通、家電は未来風、元と同じチタマ地球の日本ぽい……日本て思ってた良いのかな？

母親は日本語話してるし日本かな。言語不明なところでなくて良かった。此れからの人生どうなるか。記憶ありな転生、転生特典とかチートとかありそうですが（二次脳）、特に有るのかわからない。まあ無くても平和な日本ぽいですし特別な力とかありませんでしょうか（フラグ）

それはともかくもう一度今は赤ちゃん。

精神年齢2×才にしてリアル赤ちゃんプレイ。成人男性が死んだ目できやわいいベビーベットで寝てると考えて下さいいね！ついでに心情を考えてみて下さいいね！正解者にはもれなく憂鬱な気分をプレゼントフォーユー。

あと気になることが……

「スバルどうしたの？」

お母さんと思われるちよつと髪型が特徴的な人が若い。若過ぎない。

高校生：下手したら中学生。未成年にしか：家族は未成年らしき母親と祖父らしい人は見たけど、父親は見てない。複雑な家庭でしようかね？

「スバルは君に似てかわいいわいなあ」

「ふふ、もう」

なんで祖父が母親の距離感可笑しくない（白目）祖父（老人）と母親（高校生？）がイチャイチャ。複雑な家庭でしようか（震え声）。

産まれて一月ぐらい経ちまして悲報。

どうやら祖父と違ってた人が実のファーザー。

高校生ぐらいの母親を見てサイドにしか髪の毛が無い人を父親と思う？あり得ない。フサフサだった前世の僕は奥さんどころか恋人すら居なかった。年齢差40ぐらいの若妻ゲットしたサイド残しハゲはギルティ（嫉妬）

いやしかし身内が祖父×若妻なんて関係でない事には救われたような。危うくゼロ歳にして胃に穴が開くところだったし。

それはともかく名字が判り。

名字は星河。つまり星河スバル。

スバルの漢字はまだ不明。

なんか聞き覚えがある名前。

母親の名前は星河光。職業は研究者。道理で家が研究所ぼくて服がずっと白衣。(趣味かと思ってた)。同じく研究者な父親の名前は星河アルバート、旧姓アルバートWワイリーなそう。父親が入婿。入婿な事も気になりますが、アルバート、ワイリー。おいら最後でわかってしまったぞチクシヨウ。

母親の名前は光と書いて、ライト。

飼犬の名前はラツシュ。

イチャイチャしてるときの会話、もし妹が産まれるなら名前は呂流と書いてロールちゃんらしい。ボクへの止めか。

改めてボクの名前は星河スバルくん。

前世でやってた大作ゲームシリーズがチラついて仕方ないよね。シリーズ的によく考えるとボクだけ仲間外れ感がする。

父親が不安で仕方ない。世界征服とか目論んでない？ 研究員ほいけどロボとネットどちらか研究開発してない。名前入の軍団とかW三つの組織を作りそう。たまに『ワアハハハこれが有れば世界はワシの手の内に!!』とか『愚かな奴等にワシのスゴさを見せつけてやる!』とか叫んでるし。と言うか完全にアウトやないかな。

名前にボクは主役的な立ち位置？

将来父親ぶちのめさなきや駄目なの？

父をぶちのめすなんて！そんなこと!!…あ、特に罪悪感とか無しにやれそう。

そもそもボクがやらなくても大丈夫そうか。世界征服なんて叫ぶとお母上さまがストッパーとして説得して止めてくれて一安心。どんな説得してるか知りません。説得後は土下座して父は包帯グルグルでミイラ状態になりますが、たまに手足が稼働しない方向に曲がってましたが、ボクは子供なので何が起きたか全くわかりません（ガクガク）

そんな家庭に産まれ生後3歳になる。

初めて外に散歩に行くことに。

初めてのお外が遅い？

なんでかお外に出るのは危険とかで中々外に出れなかった。過保護、それか未来の日本の治安は悪い？未来な日本はどんな感じか見るのが楽しみだったのに三歳まで生殺し。治安悪くなっても日本ならそこまで酷いことになってる事は無いと思えて、お外に出るの怖くはなかった（フラグ）

さあ！外はどんな日本なのかな！

母親に抱えられてお外に出た。

お外から帰ってきた。

お外ヤバかった（速攻フラグ回収）

お外は未来都市でロボとか居るかなーと思ってたら、町中は普通で……ロボでなく怪人が居た。怪人が町を破壊してた。母に抱えられながら逃げて家に帰った。

「まったく、スバルの初の散歩が台無しだわ。ごめんね。また明日いきましようね」

まるで怪物が居たことに驚いてない母の反応が怖いよ。

いや、うん、正直、わかってたよ。ニユースでね。地名がねA市とかB市などだったんだよ。虎やら龍やらランク分けされた怪人、S、A、B、C級とランクわけされたヒーローとか、ニユースで聞いてたしね！

三年間気のせいと全力で気にしない方向にしてた。テレビなんて嘘だからと思って……怪人居たし嘘でなかった。

oh……ワンパンマン

親があれなのにロックマンの世界でなかったのか！前世で見たウェブ漫画。ヒーローやら怪人の等級的にワンパンマンの世界。泣きそう。

ワンパンマン……物語としては大好き。しかし人類が詰みかけ、絶望的な世界観で、絶対に行きたくない世界筆頭の一つ。

だって、怪人に追われて人類が1つの大陸まで追い詰められてた設定。頻繁に怪人とか襲ってるし。まあ此だけなら似た危険の世界はあるよ。

更に加えて怪人は元の一部が明らかに人だったりする事実。怪人になるのが条件が

厳しいならまだセーフだけど：サラリーマンを首になるやら、キグルミが脱げなくなる
：で、それで怪人化したみたいな。

怪人になる条件が軽すぎるわポケエえ!!

そりや怪人に人類が追い詰められる。条件が軽いし人類の何割か怪人になってない
？

普通に生きてて起きることで誰でも怪人になる可能性あり。つまりこの世界で生き
なきやいけないボクも怪人化する可能性はありってことだよチクショウ。

怪人そのものと怪人化する事が怖くてお外に出れない。小学5年になる今は不登校
児童。両親の研究を手伝ったり同人ゲームを作ったりネットしたり。立派な引きこも
り。なんか星河スバルって名前に引つ張られてる気も：気のせいかな。父親は行方不明
になってないし。

怪人が怖い。町が壊滅するとか日常的、ネットで会話してた人が突然だんまり、
ニュースを見たらその人が居る所が木っ端微塵なんて事もある。ヒーローが負けて被
害が拡大して自分の所も何時巻き込まれるかわからない。

強いヒーローが怪人をどうにかしてほしいと祈るしかない。具体的には先生とか：
はダメだ。被害が酷いわ。始めに敵を倒してウツカリで市とか潰してた。

S級のヒーローより上で、先生より弱くても周りの被害を気にする龍クラスの怪人で

もモノともしない強いヒーローがいてほしい。ボクがいる時点でワンパンマンの原作と違うしそんなヒーローが現れないかな。居たら良いなあ。

毎日を引きこもりながら送っていた。

両親はあんまり引きこもりについては煩くは言わない。ただボクの一つ下に妹がいる。予定通りロールって名前を付けられた妹がね。妹はずっと一緒に学校に行こうと誘ってくるんだよね。

妹の誘いを受けたけれど、やっぱり学校に行きたくない。正確には怪人が怖くて外に出たくない。妹は良く外に出て学校にいけると思う。妹が何時怪人に襲われたりしないか不安で仕方ない。

で、気付いたら……鏡には蒼い人がいた。

これ鏡にいるのボクだよな？

気付いたら……こんな格好になってた。

装甲やらタイツとヘルム……もつと詳しく言えば、赤いバイザー付きのヘルメット、全身蒼いタイツの様な身体、蒼い獣の顔付きの腕。この姿って……

流星のロックマン

これ、うん、ボクの名前にこの姿になるの当然って気もするような。なんで、こんな姿に、これって………

怪人？ヒーロー？どちら？

蒼いヒーローに

『流星のロックマン』

DSにて発売されたロックマンシリーズ。

アドバンス名作ロックマンエクゼの未来作品。

流星のロックマンは一作目は正直にいうと微妙、二作目はまあ普通、三作目は文句なしの名作。なんで出なかった4作目、物語としては父親的に区切りがついてたけど、せめてシステムを継承したシリーズの継続が…DASHにしても何で無いのか！EXEから流星の中間辺りの続編ほしい！！EXEやら！流星3やら！無茶苦茶プレミア価格だしよほどに酷い駄作でも無ければ続編が人気でるはず！続き作れ…つくって…!!

じゃないわ。気にするのソコじゃない。そこじゃない！

鏡を見てもう一度姿を確認しよう！赤いバイザー付きのヘルムに全身蒼タイトなこの姿！うん、やつぱり姿が流星のロックマンぽく変わってる。なんでよさ。

なんで気づいたらこんな姿になってるのか。しかもコスプレの衣装とかじゃなくて体の一部みたいな感覚がある。いや、これ…この世界だと考えると…

これ怪人化？

この世界、人が怪人になったりするワンパンマンの世界だし。他にこんな事になった理由が思いつか……あ、転生したから転生特典みたいなのがあってロックマンの姿になる能力があったとか？

どっちだろ。

怪人な場合だと、流星のロックマンは設定的に電波体。現実とネットワーク世界で活躍するロックマン。ボクは外が怖くて引き込もってネットを四六時中やっていた。

怪人とした場合、ネットをしてたからネットワークの怪人みたいなこと？

いやいや、ネットしてたからって怪人化するなら、ボク以外にも同系統の怪人がワンサカいてネット禁止とかなるんでないかな。ボクより年季の入ったネット中毒が相当にいるだろうし。

あ……知らないだけで相当なネット怪人が居たとか？ ネット怪人なら怪人になってもネットして家から出ないと思うし知られてない可能性も…。

怪人の可能性あるかな。できれば転生特典って事だとありがたい。

まあどっちにしても姿が変わってるし怪人って扱いに成るのかな。怪人に分類される存在になるなんて発狂モノ……と、思ったけどあんまり動揺してない気がする。怪人としても好きだったロックマンの姿だから……姿が変わったのは家族にバレない様

に……して、ガチャ？……扉が開いた。

「スバル……よね。そのかつこうなに？」

その……姿を確認するのに鏡を見る必要があるよね？鏡が有るのって風呂場だよね。……お風呂場に入ってきた母親に見られた。

「こ、コスプレだよ」

「……コスプレ……いえ、違うわね………スバル、あなたの今の体はどうなってるの」

コスプレで押しきろうと思ったのに何でそんな直ぐに察するかな。科学者だから、もうだめだ。父さんも呼ばれた。

「す、スバル、おお！その姿は……まさか！まさかなのか!？」

「うん、……怪人になったんだと思う」

怪人化したんだらうと正直に話した。転生特典なんて事でも向こうからしたら怪人になるのと同じ認識になるだらうし。

「そうなのか」

引きこもってても許してくれるし、家族仲は悪くなかったけど、流石に怪人だし追いつかれるだらうな……あーあ、これから野良ロックマン生活か。

「お父さんお母さんなにしてるの!!」

「ろ、ロール」

妹がきた。ぼくをみた。

「……兄さん？」

この姿でなんで一目でわかるんだろ。

「スバル兄さん！なにその格好、カッコいい!!」

おおう！カッコ良さがわかるとは！

「まあカッコいいか？しかし何でかその姿は嫌な感じが……色が特に……黒か赤になれないか？」

父さんがへんなことを言ってきた。父さんが母に絞められた。あれー深刻な感じになるとおもったのに、空気は良くも悪くもそんなに重くない。

「スバル、二つだけ答えて」

元のスバルに戻るのか

無理じゃないかなと思いついて試してみた。

「戻るのね」

アツサリと戻れた。

正確には戻れたじゃなくて人の姿に変身できた感じだ。ロックマンの姿が本来の姿って元ネタ的に逆か。

『妙な感じだな』

人の姿だと腕の獣、(元ネタから名付けた)ウォーロックが原作的な姿になって出てくる。ただ原作と違ってウォーロックはボクと別の存在って訳でなく、二つ目の人格というか、分身って言うか、このウォーロックも自分である。自分の人格付きのエネルギーを対外に出してゐるみたいな感じ。

次に聞かれたのは

「怪人は本能的に人を襲いたいそうだけどそう言うのは無い?」

「これは無いと断言出来た。」

「父さんにも母さんにも妹に敵意とか欠片もないし。同じ怪人ならともかく…まさか実は怪人?」

叩かれた。

二つの質問を終えたあと

「これなら…怪人でも問題ないわね」

「良かった…よかったなスバル」

涙を流しながら父が良かったなと言ってくれた。

「母さんがなにもしなくて」

え? どういうこと?…母さん、排除とかは無いけど修正するつもりだったそうで…

「ま、まあ! 怪人だろうと何だろうとスバルにはかわりない! しかし何か弊害がないか

スバル、体の調査をするぞ！」

つてことでまず健康面に問題ないか身体検査された。次に身体能力が解ってないと危険と調べられた。

「…うちの測定機では測るの無理だな。」

身体能力の測定。

測定不能な領域。

なんかワンパンな人、サイタマ先生みたいな身体測定な事に、さすがにあんな恐ろしい御方と比べるのは無理かな。あんなとんでもないヒーローでは無い。だけどS級クラスはあると思える。流星のロッキマンの元ネタも電車ぐらいは持ち上げてたりするけど、パワーはそれ以上…

他の能力はロッキバスターを打てる。

文字通りバスター、原作だとチャージまへのバスターは豆鉄砲ってイメージなのに、父が作製した鋼鉄の何倍って硬さの対怪人用の合金を貫通。バスターと言うよりレーザーかビーム…。

電波に変わったたりも可。

電波になれば速度は文字通り光速。

人の姿だと軒並み能力は低下。

まあ分身のウォーロック側にエネルギーの大半を預けてる様なモノだし当然。とはいえA級ヒーローぐらいの身体能力はあるそう。

測定の結果はボクは完全に人とは違う何かになってた。

「わーはははは!!流石は我が息子だ!!スバル、お前は怪人になったのではない!正統に人から進化したのだ!!」

と、父は大喜び。母は難しそうな顔をした。妹はスゴいすごいと大はしゃぎ。怪人でなくて進化?前世では原作のヒーロー全般は進化したと言う説もあったような。……まあ進化を怪人化とも言えるしどのみち同じかな。

原作だと怪人化と似た感じに思いが肉体に反映されてる感じに見えた。主人公からしてヒーローに成りたいから最強のヒーローになってるし。他にも筋肉をつけたいなら鋼を越えたマッスルに、変態だとしたら変態に。と言う感じに。人に見えるだけで肉体の根本から変わってる。ワンパンマンの世界、ヒーローも怪人化もそうだけど…思いが肉体の変化に関係してそう。

そうなるよこの流星のロックマンぽい姿、ボクの思いが反映された成りたい姿……ネット関係以外の理由もある?

ロックマンはヒーロー

ボクはヒーローになりたかった？

うん

無いな

これは断言できる。自分がヒーローになりたいんでなくヒーローに助けてほしいと願ったぐらい……で……え、もしかしてそれが原因!? 助けて欲しいと思ったのに自分で何とかしろよみたいないな!?

なんかそんな気がしていた。

ヒーローでロックマンなのは……名前的にどうしてもずっと脳裏にロックマンはちらついてたし。

あとはストレスとか強い思いが無いと変化はしないって問題は……ストレスなんてずっとあったなあ。

それは平和な日本からね……人類滅亡の可能性のある何時死んだり怪人になるか不明な世界に来たんだし。よくもつと早く怪人化しなかつたなとも思える。12歳……元ネタのロックマンに合わせた感じの年齢だなあ。

あれ? そう言えば……ワンパンマン世界と知ってからずっとストレスがある生活を

してたのに……なんか今は感じてない？前まで吐き気してたのに、今だと全く平気。うん？考えてみたら本当に変だ。怪人になって不安とか逆に増大しそうなのに……全くない。

わあ……これタイミング的に……怪人化したせいで思考が変質しちゃってない。

そりや肉体が根本から変わって精神は無事なんて都合が良いこと無いかあ。

これが怪人化したら、怪人は人を襲う。怪人になるとそう言う思考が変化させられる？今は人を襲うのはイヤだなあと考える。けどその内イヤだとかも思えなくなりそうで怖い。ロックマンなら人を襲うわけないとも……思えるけど、現実でもない。

避けるにはやっぱリアルかなあ。

原作のあのキャラを考えると……

……を指すしかないかなあ……

ビルの建ち並ぶ繁華街、特徴的な格好の誰かが飛んで来てビルの三階のガラスを突き破った。ビルの下には地面に倒れて呻く複数の誰かがいた。格好は皆違うが、ヒーロー

コスチュームの様なモノと言う意味では同じだ。

「けけけけけ!!!弱い!弱い!弱い!あんさんらヒーローは!!このパンチドラッカーさまの一撃も受けられもしないんか」

サイズは二メートル越え、ヘッドギアが融合した頭部に灰色の皮膚、服はトランクスのみ。手には特大のグローブ。ボクサースタイル。

人類の敵の怪人だ。

「俺たちの出番はないのか」

ボクサー怪人の背後には柔道着や剣道着、弓道着、の格好をした三人の怪人がいる。

「すんまへんなー。まずは一人で戦って苦戦したら参加して貰おうと思ってたんやけど」

「予想よりヒーローが脆かったな。A級ヒーローと名乗った輩も居たのに…」

「あーA級言うても下位の方だったし仕方ないんちゃう」

ボクサー怪人は物足りなそうに立っているヒーロー達を眺めた。まだ怪人達の近くにはヒーロー達が居るが、向かってくるヒーローは居なかった。

「ヒーロー協会のバカ野郎が。なに虎級って判定してるんだ。最低でも鬼級じゃねえか」

負けたA級より格下の最大でもBクラスしか居ない。格上が一体の怪人も倒せず背

後には同格に見える怪人がまだ五体もいる。勝ち目なんて有ると思えない。

「自分等の方が弱いつてわかったよなヒーローのお兄さんら…で、まだやるん?」

怪人はグローブをヒーローに突きつけた。

「く、くそ!!怪人に舐められてたまるか!やってやるよ!!あーくそ最悪だ!」

「まったくだな!」

「ヒーロー協会のアホボケ!」

愚痴を言い逃げ腰でも逃げないのはヒーローの意地か、周りの野次馬を守るためだろうか。怪人ボクサーは嬉しそうに笑う。後ろの怪人達は立ち向かうヒーロー達を賞賛したように頷いている。怪人なのにヒーローたちに好感を持つてそうだ。

しかし後方にいたヒーローは一人コツソリと逃げた。観衆やヒーローは怪人に注目して見て見ないが怪人からは丸見え。ヒーローはタンクトップを着ていた。

「あ?」

怪人からブチツという音が聞こえた。

「カスが…:それもよりにもよってタンクトップ、怪人も倒せないお遊びつて!!ボクサーの俺をバカにしてきたタンクトップヒーローがよおおお!!!」

怪人ボクサーはブチキレて対峙するヒーローの真上を跳ぶ。逃げたヒーローを血走った目で追いつけた。

「ひいひいひい!!!」

「ふ、ふぎけんな!こつちにくるな!!」

「ばっ!そつちに行くな!」

追つてきた怪人に気付きあろうことか、タンクトップのヒーローは野次馬の中に紛れようとした。怪人ボクサーの目はさらに血走り、血管は浮き出て腕の筋肉は倍に膨れ上がった。

「この卑怯ものが!!」

怪人の怒りの咆哮、野次馬は押し退けられボクサー怪人の射程に逃げたヒーローが入る。

「ひいひい!!!」

「きやああ!!!」

「な!?!何してるんだ!!」

信じられないことに追い詰められたタンクトップは、咄嗟に近くにいた一般人の女性を引っ張り盾にした。怪人でなくヒーローから批難の声が出た。

タンクトップはタンクトップマスターの舎弟の証し。タンクトップマスター自身は最高位のS級、それに性格も真っ当、しかし数多くいる舎弟の中には問題行動をするヒーローも存在した。いやタンクトップマスターの庇護を受けてる舎弟と偽るのに、タ

ンクトップを着てるだけでヒーローですら無い可能性もあった。

「潰れるやクズが!!」

頭に血の登った怪人ボクサーの極太の殺人パンチが放たれる。盾にされた一般人ごとと碎けるだろう威力を秘めた文字通りの必殺パンチ。他のヒーローは邪魔できる距離に居ない。青い光が空から落ちてきた。地面が砕けたのか土煙が舞った。

土ぼこりの先には無惨に潰れた人がいる。潰されて殺されたと悲鳴が上がる。しかしボクサー怪人は首を捻った。

「……………なんや、お前」

そこにいたのは赤いバイザー付きのヘルメットに全身タイツの全体的に蒼いおかしな格好の小学生ほどの少年。

少年の年相応に見える太さの細い片腕が、人の胴体以上の怪人の拳を止めてる所を見ればただの少年と思える筈がない。少年の背後には生きたままの盾にされた女性とタレントトップがいた。

「A級ヒーローもぶっ飛ばした俺の必殺パンチを止めたんかガキ。そんな成りやけどただ者や無いな。…ああ、そうか。ガキのS級ヒーローが居るとか聞いたことがあるが…お前がS級ヒーローの童帝か!」

それを聞いて少年の唯一見える口元がひきつった。

「違う!! いや違う事もないけど、違うから! そんな悲しい称号のS級ヒーローとは違うよー!」

「なにいうてんの? なら、お前は何者や」

「名乗るほどの者じゃない……つて答えたいけど、名乗らないと勝手に名前をつけられそう。変な名前はいやだし、童貞みたいな名前を付けられるのは本当に嫌だし。名乗るとして……名乗るならやつぱりあの名前しか無いよね……」

「なにブツブツ言うてるん?」

隙をこれでもかと晒す相手にボクサー怪人は律儀にまってくれた。咳払いをしてから拳を握りしめ覚悟を決めた声色で少年は名乗った。

「ぼ……ボクはヒーロー……じゃなくて! これからヒーローを趣味? ヒーローを趣味としてやうとしてる者だ。名前は、ろ、ロックマン……蒼い流星のロックマンだ!」

グダグダだ。

「……………ヒーローのロックマンやて! ここにヒーローと名乗って現れたって事は俺達と戦うきか! 小さいくせに威勢がいいやないかロックマン!!! いいで! このボクサー怪人が相手に成ってやろうやないかい!」

「ありがとう! じゃなくて行くぞ怪人!」

蒼いヒーローの初めての怪人戦が始まる。空気を読んでくれた怪人に感謝してロツクマンはバスターを構えた。

蒼いヒーローさん

蒼いヒーローがボクサー怪人と出会う少し前。

「怪人がJ市で発見された。さあ行くのじゃ我が息子、いやロックマンよ！その力を愚民共に見せ付けるのだ！」

ドクターワイリーばい人にこんな台詞を言われるのアレだなあと少年スバルは思った。まるで悪役の出撃前の台詞だが今から行くのはヒーロー活動。

取り合えずそんな悪党まっしぐらな父は意識して無視して母と妹だけに向き直る。

「気をつけてね」

「お兄ちゃん頑張つてね！」

「無理だと思つたら直ぐに逃げるのよ」

「うん、行つてくるよ」

家族の応援を受け一筋の蒼い閃光となってスバル、ロックマンは流星のように天に飛

んだ。一人無視された父親はいじけていた。

数カ月前にボクは恐らく怪人化した。

今のところボクは大丈夫だけど、怪人は人類の敵、たぶん怪人は肉体が変化する時に思考も変わって人類の敵になる。

しかし怪人が絶対に敵対するかと言えばそうでもない。ボクの知るこの世界の原作
と考える物語では、人とは敵対してない怪人もいた。そんな人類の味方の怪人はヒー
ローをしていた。

むしろヒーローが怪人と同列とも思える、

原作を見てSランクの全般とAランクのヒーロー等、明らかに人を越えてる。見掛け
が人に見えるだけで存在としては同じに見えた。

ヒーローと怪人は紙一重の存在。たぶん

ボクは今は人の敵でないとしてももしかしたら怪人の心が目覚めるかも知れない。怪人にはなりたくない。怪人になる事も怖いけど今の家族も結構好きだから捨てたくない。

ボクはヒーローになればいいと思った。

ヒーローになるのが本当の意味で怪人にならない唯一の手段と思えた。イケメンな人を参考にして考えた結論

と言うことでボクはヒーローになることにした。

初めは両親に反対されたけど説得して何とか協力も取り付けた。

まあいきなりヒーロー活動とか無理、暫くは両親の作った兵器群と訓練した。

で、今日が初のヒーロー活動の実戦。

手頃な相手の方が有りがたいのに初の相手はボクサーのような怪人。ヒーローみたいな人たちが倒れてるし強いはず

「ほな！行くで！」

名乗った瞬間にボクサー怪人は殴る。十メートルぐらいの高さのビルの壁にぶつかり外壁が砕け、スッポリとビルの壁に埋まった。

随分と強く殴られたと思えるわりに痛くない。下を見ると結構高いところまで飛ばされてる。高いところが怖くないの思考が変わったせいかな。ボクは壁から抜け出て怪人の前に降り立つ。

「ほう……無防備に殴られたのに動けるんか。やるやないかロックマン!! 小さいなりに今を受けて立ってるなんて岩男って名乗るだけある頑丈さや!!」

岩男?

「岩じゃなくてロックオンのロックだから」

流星のほうだとウオーロックを縮めた名前なんだけど。

「なんやそうなんか。ロックオンって事はターゲットを狙うって事か? それか銃とか使うんか?」

「まあ銃が本命だけど……別に殴りあいが出来ない訳じゃないよ」

拳を突き付ける。

カッコつけるけど実際の所はバスターは流れ弾とか怖いからあんまり使いたくないって裏話は隠す。野次馬の人達が邪魔。なんでまだ居るの?

「俺を前にしてその台詞はええ度胸やないか! まさかさつきの一撃で俺の実力を見切つ

たとかおもてへんよな？元ライトボクサーの俺の本領は一撃やなくてスピードや！今度は格闘技最速のジャブを受けてみ！」

そう言つて左で殴つてくるボクサー怪人、拳を連打で撃つてくる。ボクは筋肉ガー、筋肉無いのでシールドで防御。ガキーン。

「そんなシールド砕いたる！」

シールドに打ち付けられるまるで拳の弾幕つて見える連続した攻撃。普通なら目視とか無理そんな速度つて気がするけど残念。電波を見る今のボクの動体視力には止まつて見えるほどスローリー。連打の中に大きな隙が見える。シールドを解除して拳を避け懐に潜り込む。

ボクは流星のロックマンを模したのかその通りの力を使える。流星のロックマンの尤も大きな力、それはカードスロット。ロックマンエクゼシリーズから継承してきた攻撃手段。

バイザーに映るゲームのようなカード、チップ欄。

チップを撰んで選択。加速した思考のお陰でチップの選択時間はまるで静止世界、現実時間ではチップ選択をコマ一秒以下の時間に終わらせる。

サイズ差も生かし体の位置は相手のがら空きの懐、必要無いけどチップ名は言う。格

式美って大切だよね。

「ヒートパンチ」

「ぐぎやああ」

昇竜拳、もといアツパーの炎の拳が怪人の顎を撃ち抜く。断末魔をあげて炎に燃えながら飛び怪人は倒れた。

今ので倒した？

頭も碎けてるし完全に死んだ？

怪人を殺した。

予想よりアツサリ

あんな強そうだったわりに……

怪人が完全に倒れた瞬間に何かが飛来してきた。当たらないけど矢に仕掛けがあるかもと少し跳んで逃げた。さっきいた足元にコンクリートの地面に矢が突き刺さってる。爆発もしてないし居ても大丈夫ポカッタ……

「なんと、なんと……パンチドロッカーを一撃で倒すとはお見事……次はこの私、ヒッ

チュウマンの相手してもらおう……」

そういつて前に出てくる今度は弓道ほい怪人。

他の怪人は後ろで見たまま。

ナゼか野次馬は観衆みたいになってるし。

各個撃破させてくれるほうがありがたいけどいいの？

何か試合みたいな形式になってない？

それにさっきの一撃も足元に撃ってたし。

格好からそうだけど怪人なのにスポーツマンシップみたいなのある？

「……」

ゴテゴテな大きい弓を構えてる。

「えっと、弓ってことは、銃で戦った方がいいかな？」

「……なんでもいい……遠慮なら必要ない。……私の弓は銃にも優るからな」

「……ボクの銃はバスター、光線銃みたいな感じだよ。それでもいい？」

「……光線銃………どういうものか詳しくは知らないが、……ただの銃より強いと言うこと
だろう。……臨むところ」

「……」

えーと、やりにくい!!

この怪人マトモすぎない? 怪人つてヒヤハー!!! みたいな感じと想ってた。ボクは腕をバスターの形態にして構えた。

お互いに準備は出来た……………

「……こちらから……いかせてもらう。……先ずはとあるヒーローの技を真似したもの」

弓を何本も上に射った?

あまりに隙だらけでうてなかつた。

あの打ち方何処かで見たような……ヒーローの技?

「あ…………おちてくる」

思い出した。原作にあった自称怪人と戦った弓を使ったヒーローの技。上を見たら予想通り落ちてくる明らかに射った本数より数多い矢の雨。あれどうなってるの?

チップ選択、数が多いならこれ。

「バルカン」

バルカンの砲が火を吹く。ズガガガとまるで実弾を射ってる様な重低音を出しながらバルカンは放たれ矢の雨に当たる。

矢の雨は地面に落ちてくる。ただボクの所に落ちてくるモノはバルカンで破壊した。

矢がまるでボクを閉じ込める柵の様になった。まあボクが撃った結果だけだ。

「……本命は……」

特大の矢を構えそして放とうとしたその瞬間には胸に焼け焦げた大きな穴を怪人は開けていた。射つ前に射っただけというシンプルな回答。

「……………はい、な」

弓の怪人はドツと倒れた。

熱を放つバスターの銃口を下ろしました。

あと怪人は二人。

あれ怪人は一人になつてゐる。

デカクなつてゐる。

「君の強さに敬服を評し。此方も本気になろう」

大きくなった怪人は野次馬の人達が消えたとか言う速度でボクサーと弓の怪人の死体の前に、死体を吸収してさらに大きくなった。まさかの初戦の相手が合体怪人

「少し違う。私は元々一体の怪人が分裂していたのだよ、私の正体それは……剣道や柔道など、戦う競技であるのに怪人を倒せないという理由で貶められた競技者たちの怨念から生まれた怪人、それがこの俺スポーツマンさ！」

なんか……デザインが古臭い。

剣道の面、袴に防具付きの柔道着、背中には弓とかバットとかテニスラケットとか、何か色々な競技の特徴が出てゴテゴテしい。どこかで見たこと有るような。

「さあ！尤も眨められ無念の度合いが大きい競技であり!!このスポーツマンが尤も得意な剣道で最後の勝負だ!!」

そういつて竹刀を構えた

剣道つて眨められてたん？

まあ怪人個人の感想だから本当かは宛にならないか。

それにしても竹刀に刃先とか付いてる。

剣道？

チップスロット、遠距離にしたいけど、此処で射撃系とかダメなんだろうなあ。

「ソード」

「銃でなく、剣を出してくれるとは、ふ」

嬉しげに竹刀を構えた。

勘違いしてそう。観客居なきや遠距離からうってるんだけど。

こうして対峙すると体格差が酷い。

二倍とか三倍の大きさがある。

突撃してきた。

「キエエエエエエ!!!」

えわ、あの叫び剣道でよくあるの。大声に思わず固まってしまい相手の先制を許してしまった。それに巨大になったのにボクサー怪人の何倍もはやい。

「突き!!籠手!!」

喉への突きをかわして次に手首を狙った剣をソードで弾く。斬撃が強すぎて地面のコンクリートやら遠くのビルの壁が深く裂けてる。

「どごー」

胴への一撃は剣の側面で受け止める。

剣と剣がぶつかる。

残念だけどパワーは見かけに反して此方が上、剣を振り払う。

「ぬおっ」

相手の腕は大きく上に仰け反った。

しかし仰け反った姿勢から戻る勢いで

「めええええん!!!」

頭に全力で竹刀が降り下ろされた。

まるで隕石が落ちてくるみたいに降り下ろされた竹刀が赤熱してる。全力の一撃つてのがわかる。けどロックマン的に言えば……攻撃範囲でないパネルが初見でわかる。安全地帯。

それは相手の目の前。

普通なら離れるだろうけど逆にボクは前に踏み込んで懐に飛び込む。

人の体格差ならともかく巨大化した体格差だと此処が攻撃範囲外。巨大化の弊害、強くなってるのにボクサーの方がまだ面倒と思える。初ステージに出そうな見掛け強そうな噛ませ巨大ボス。

袈裟斬りに斬った。

「一本、お見……と……」

怪人が倒れて最後に言った言葉

相手を褒めるの。

スポーツマン……

何にしても初の怪人討伐成功

強さの階級は虎ぐらい？相手の強さとか気にせずに戦闘に入るとかダメだ。これは

今後の反省点として、それより……逃げよう。

「わああああ!!」

ボクは周りの歓声と近付いてくる人波に飲み込まれる前に電波化して空に登った。
あぶなかつた怪人より人の方が怖かつた。

この日からボクはロツクマン(?)となりチヨクチヨクと怪人たちと戦った。

数カ月して、ロツクマンが世間で騒がれるのは予想できたけど、最年少のS級にも興味を持たれるとか予想外。

S級最年少に会い原作と違う部分が両親やボクの他にもあつた事を見せつけられることになるとかさらに予想外。

蒼いヒーローよん

君も知つての通り、ロックマンを名乗る謎の自称ヒーローが世間に現れて既に一月、その正体は未だに謎に包まれている。

判っていることは怪人を倒し人々を救っている事、それだけなら他に居ないわけでも無いが、最低でも鬼クラスとされる怪人を単独で討伐している事から、その戦闘力は君たちS級にも匹敵していると推測される。さらにその戦闘力に加えて数分の内に別々の市に現れた複数の怪人を討伐している記録もある事から、移動速度は現存する総てのヒーローを上回る事は確実。テレポルトに類する能力が有ると目されている。

S級に匹敵する戦闘力に類い稀なる移動能力、人格についてもこれまでの行動から考えれば問題が有ると思えない。

我々ヒーロー協会としては早急にロックマンと接触し、ヒーロー協会に所属して貰うことを強く望んでいる。なのでS級待遇で迎えようとしているのだが、肝心のロックマ

ンとの接触が中々出来ないでいる。そうだ。本人が怪人を倒せば直ぐに消えるからだ。

そこで童帝、君にロックマン探索と勧誘を頼みたいんだが、いいだろうか？ロックマンとの接触に君の技術力なら何らかの手段があると判断されたのだが

「大丈夫ですよ。ロックマンとはボクもとても会いたいと思つていたのでその依頼受けましょう……ええ、必ずミツケマスヨ……カナラズ……」

「ど、童帝、なにか怒つてない？交渉だよ？抹殺とか望んでないからね？」

ロックマンとしてヒーロー活動を初めて一月、評判はソコソコになるぐらい怪人を倒した。

本当に何体もの様々な怪人とたたかったりもしたけど、こんなプレッシャー感じたことない。今感じてるプレッシャーに比べたらこれまで感じた怪人の脅威なんて塵にも等しい。

「スバル、そろそろ学校行けるわよね？」

「お兄ちゃん一緒に学校行こうよ！」

「……」

今は人の姿、分身であるウォーロックと顔を見合わせてる。普通にウォーロックの姿を見えるのはボクだけ、因みに母と妹は特殊なコンタクトをしていてウォーロックの事が見えてる。原典みたいに姿が見えるとナゼか声まで聞こえる。

「ヒーローになれて、まさか学校に通うのが無理とか無いわよね」

無理ですが？（キツパリ）

何年も続いた不登校明けの学校とか、龍クラスの怪人に囲まれてティンティンってなった方が遥かに、遥かにマシなんだ!!

『いや、ほらヒーロー活動が忙しいし』

本体から半径数メートルしか離れられないウォーロック。学校とか暇な所は避けたいと必死。もし離れられたら即座にボクを売り渡して自由に遊んでると確信できる。逆の立場ならボクがそうすると確信してるから。

「その活動って毎日多くても二時間ぐらいよね。十分学校に行く時間は有るわねー」

「ほら通信教育で卒業資格は取れるし。これまで通り自宅学習で学校行かなくても問題ないと思うんだけど」

『そうそう。そうだよな!』

この世界、外で怪人が暴れたりするからネット経由でそれなりに何とかなったりする。

「問題はあるわ」

問題？そんなものなにも……。

「アナタつてコミュ障じゃない。学校に行けば少しはマシになるでしょ」

「グハアア」

『ぐぬううう』

バチン、心のHPにダメージ

「この前ニュースでロックマンのイメージは無口なクール系って言われてたのよね……
たんに話す能力が無いだけなのに」

『……………』

HPが0になって爆発した。

その言葉はアカン。パネル破壊の移動縛りからののはめ技鬼畜コンボよりダメだと思
うんだ。

「お兄ちゃんとウォーロックが死んだ。この人でなし」

妹が楽しそうにボクの教えたネタで止めを刺してきた。べ、別に良いんじゃないか

な。イメージが誤解でも、クールで格好いいみたいに見られてるなら。

「学校なんぞいかなんでも良いだろう。学校に行く暇があるならワシの実験に付き合う方が遥かに有用だ」

何かの機械を弄りながら父がそう言ってくれた。

そうだよね行かなくてもいいですよね!! 実験には付き合わないけど

「なにかいった?」

母が目を父に向けた。

「いやーうむー学校には言った方がいいぞ!!」

弱い弱いぞとおさん。

ペツ、所詮は土下座敗北する人に似てる父でした。

学校なんて行きたくない。

「ヒーローなのに情けない。お兄ちゃん（ロックマン）のファンだつて言う娘もいるのに」

今のボクはロックマンじゃなくてスバルですので問題ない。

「まあ何年も学校に行つてないのに、いきなり一人で行けと言うのも酷かしら…：しょうがないわね。スバルの学校に行つてる知り合いの娘に頼むしかないわね」

……知り合いの娘？え、怖いんだけど、小学生の女の子は言葉がキツイから。

『……』

そのニヤニヤしてるの。ボクの分身だろうが、見てるだけの立場だからか。本体が困るだけなら笑い物にしてオツケイなのか。

「うむ？それはあの小娘のことか……」

「お姉ちゃんのことだよね」

ん？この誰かは父と妹の知り合いでもあるので？僕まったく心当たりない。…家族で一人だけ知らないって少し。

「くうーん」

あ、ラツシユも知らないか。

『家族でも犬と同等なのはなあ……』

自分を傷付けるのやめーや。

「わん！わん！」

「こらラツシユ、お姉ちゃんの事が好きだからって吠えないの」

『……』

「……」

なんか今日は自棄に心にダメージを食らうねえ。

「けど、お姉ちゃんと会わせてお兄ちゃん大丈夫なの？」

「そうだな。あの小娘は、特に不味いだろう」

会わせて大丈夫って心配されるような相手？

うーん小学生の女子が危険みたいな。

「あの小娘はヒーロー協会所属のヒーローをしてるんだろ？下手に接触させるのは危険でないか」

危険だわ。

なんで小学生にヒーローが、いや女子小学生のヒーローなんて居る？、記憶には一人該当者は居るけど女の子じゃないし。他にも小学生のヒーローが？って、そう言えば小学生とは誰も言ってない。学校に行ってる女の子としか言ってない。ヒーローをする教師か用務員かな。原作で出てないヒーローの人かな。

「スバル、駄目なの？」

「無理無理、ヒーローなら何時ロックマンとバレて面倒な事になるか」

「大丈夫よ。その娘ならバレても頼んだらバラしたりはしないわ。アナタたちもそう思うでしょ？」

「む、まあ……バラすタイプではないか」

「うん、お姉ちゃんなら頼めばバラさないと思う」

余程信頼してる感じする。

そんな人をなんでボクだけ知らんのか。

「しかしバラさない代償に面倒な頼みをしてきそうではあるな」

「あーうん、ありそう」

いい性格をしている人か。気になるけど、あんまり会いたくないような。しかし母が会わせるって事はボクにとつて致命的にダメな相手ではないってことだろうなあ。

「とりあえず会って見ましよう?」

「う、うん」

仕方なく頷いておく

「連絡したら明後日には会えるそうよ」

『はや』

約束したのかー。

会ってはみよう

会わなきゃ良かった。

「初めましてスバルくん。知ってるかもしれないけど、ボクは童帝ってネームでS級ヒーローをしてるんだ」

「」

なんでS級ヒーローの童貞がいるの。ちよつと前、怪人を見付けて倒した時にちよつとトラブルが起きたから、S級の中でも一番会いたくない相手なんです。訂正、プリズナーの次に会いたくないヒーロー。

「久し振りだな」

「ええ、お久しぶりです」

父と挨拶してる

まさか童貞が両親の知り合いとは、まあ童貞は天才発明家みたいな相手だし、科学者の両親の知り合いて所では大変納得？。ボクとかかわりないのはナゾダケド、いやけど来るのは女の子じゃなかった？どういうこと？

「よろしくスバルくん」

童貞の手が握手の形で出てる。笑顔の童貞の握手に応じた……ら、なんか機械のアームでガッチリ固定された。え、本当にどういうこと？

「ああ、間違えた。初めましてじゃないか…ロックマン、また会えて光栄だよ」

ヒエ

『な、なに!?!』

気付かれてる!?

「なんで気付いたかみたいなの顔をしてるね。声の音声と体格が一致したからだよ」

「……な、なるほど」

言われて見たらそう言うので判るもの……。

「……やっぱり君がロックマンだね」

え、やっぱり? その台詞まさか……

「スバルにかまをかけたのね。その反応で確信したって所ね」

おお

「正解です。声と体格だけだと少し証拠には足りませんしね」

つまり、迂闊に自白したって事。

「まあもし誤魔化されても……」

言葉を濁したのは今証拠が無くて、証拠を別に探すって事かな……監視とかされてたらアウトだわ。会った段階でアウト。童貞が相手だと知ってれば会わなかったのに。少なくとも警戒はしたのに……しても意味なさそうだけど

それにしても……

「童貞くんはボクを騙すのに女の子って嘘もついたと……」

小学生のヒーローって可能性で童貞の可能性も考えられたのに、女の子って情報で違
うって結論を出してた。両親はなんで女の子扱い……女の子と嘘をつくの頼まれて
たか騙されてた？

「え？」

「え？」

なに反応？両親が童貞を女の子扱いしてた、ボクとか関係なく普段から女の子と言っ
てた？

女の子と名乗れば女の子に見えるけど、てかスカート履いてる。……普段から女の子
と、まさかこの世界では童貞は男の娘だったとは。とんでもない原作違いでゴザル。

童貞が本物の女の子の可能性？いやその追われた時の事故でその見て触る機会が
あったけど膨らみがなかった。あれで女の子とか……想像するだけでも失礼。……女
装シヨタ……。

『ぷりぷりの同類の変態かよ』

ぷりぷりプリズナーの枠に入る変態がS級に他にも居るなんて……このロックマン

の目をもつてしても見抜けなかった。

男の娘は口を引きつらせていた。

「う、うん、スバルくん、何か誤解してるようだけど、ボク……女の子だよ？」

「はは、嘘乙」

「……………」

アングヤー

握られた手がギリギリ言ってる。折れるよ。潰れるよ。男の娘の誇りを傷つけたから？

あのー家族の皆さんボクの悲鳴を無視しないで、何でボクが悪いみたいな目を？

蒼いヒーロー(一)

「ほらさつさと着いてきて」

「ハイ」

『WWW』

どうもスバルです。一見は何処にでも居そうな小学生。しかしその正体は世間を騒がせてる蒼い流星のロックマン。数々の怪人をバツタバツタと倒し多くの人を救っているヒーローです。

……たぶんヒーロー……ですよ？

今は同年代のシヨタに首輪を掛けられて犬の散歩中、多数の子供に視られる通学路の公道を堂々と歩かされるノーマルな男の子です。ほんと本人の性質はドノーマルなので恥ずかしくて死にそう。時間が経つごとに羞恥心と草生やしてるクソ分身への殺意は増し増し。

ただでさえ不登校明けの小学校に行くのに此れは酷い。童貞くん、最初の目的とかたしかに不登校児童の登校の付き添いでしたが？普通ロックマンバレで学校はうやむや

になりませんぬか？

いや学校に行くのは良いとしても、逃げないように首輪を付けてまるで犬のように移動して可笑しいでゴザル……一緒に登校して喜んでた妹は首輪をつけられたボクを見て何処かに行きました。無情でござい。

「あの童貞”くん”……これ外して貰えませんか？」

「ここまで来たら流石に逃げませんし。」

「……」

「おーい童貞”くん”」

「……………四つん這いになって行きたいのかな？」

「なんで!？」

マジで四つん這いにされそうなんで黙って学校に行くことになりました。ああ視線が痛い。変な性癖に目覚めたらどうしてくれるんですか。

そして学校に付き更に教室に着くと。

「浮いてるなあ」

ボクもそうだけど童貞くんも浮きに浮きまくってる。まああんなプレイをあんな堂々とやって登校してきて浮かなきや可笑しい。浮いてなきや怖いですよ。童貞くんは教室につくなりノートパソコンをカタカタやっていますし。……あとボクの犬の散

歩セットが其のままですし。これは遠巻きにされる。学校に来たのはコミュ障直し。母さん……ここからコミュ障なおしの交流とか無理ですって。

「……出来るよ。このクラスならこれくらいなら問題ないんだよ、クソ」
童貞くんにも聞いてもこの返答ですし。

同年代の犬の散歩が問題ないってどんなクラスですか。何か言われてますね。

ちよつと耳を澄ませて見ますか。

「あのドウテイさんに、まさか私と同じ趣味だなんて、ふふうれしい……」

「いいな……頼んだら私にもしてくるかな」

「抜け駆け禁止だ。俺さまが先だけ。準備万端だしな」

「犬耳と尻尾を持参とはたまげたな」

「そう言えばあのスバルってやつ、ドウテイさんから四つん這いになれって言われてたのになってないんだぜ、勿体ないよな」

「あのスバルってヤツはバカだな。犬扱いは四つん這いになってこそだろ」

『そうだよな!』

「四つん這で踏みつけるのが正義ですわ」

小学生の会話?

まさか犬の散歩が羨望の目で視られるとは、

童貞くん何ゲンドウポーズしてるんです。

変態じゃないと辛そうなクラスですねえ。ボクは馴染むの無理そうです。小学生生活は最初から暗礁に乗り上げて座礁してますね。

時間は流れて放課後

「スクール水着の白が至高だろうが！」

「全裸にも見えるからですか？スク水に過剰なエロを求めるとは笑止」

「スパッツはダメだよな。やっぱりブルマだよ」

「スパッツはスパッツで良いものですよ？短パンテメーはダメだ」

『オメーの事だぞビリビリヒロイン』

「ミニスカいいよね」

「ミニスカよりロングのスカートがいいのです、チラリズムとは見えなければ見えないほど見えたときの感動が大きいのです。安易なパンチラなど価値がないです」

むう小学生にしてソコまでの悟りを開くとは。確かに見えなければ見えないほど見えたときの感動は大きい。ボクのミニスカ最高論は完膚なきまでに負けたと認めるしかない。

「其処の変態、帰るよ」

その声に逃げようとするも遅かった。

童貞くんのピンクのランドセルから出てくるメカにより、授業の時に外された犬の散歩セットを再度つけられた。年代に犬の散歩セットを付けたシヨタが変態とは如何に？。

「タスケテ」

「「スバル（くん）君のことは忘れないよ！」」

誰も助けてくれず教室から見送られた。

学校を出て帰宅の道に……

「随分と馴染んでたね……」

そう言われると、自分でも予想外に馴染んでましたか。

「クラスでトップの童貞くんが連れてきてくれたからだと思うよ」

童貞くんって浮いてるんじゃないやなくて恐れ多くて触れられないみたいな扱いでした。

前まではS級ヒーローだからで首輪の事でさらに高見に上ったそうです。

「あの（変態）クラスのトップとか言わないでくれるかな？」

クラスじゃなくて変態のトップ扱いなんだけど、病んだ感じの目と空気を読んでいいません。

「はああ………ようやくマトモなクラスメイトが来ると思ったのに、輪にかけて変態って……これでロックマンってどういう……いや本当にロックマン？」

同年代に犬の散歩セットを付けて歩いてるシヨタの愚痴です。暫く歩いて話がしたいとポツリといきなり言われて公園にはいりました。一体何のはなしなのか。あと何時になったら犬の散歩セットを外してくれるのか。

夕焼けで人気のねえ公園。

女の子と来たら嬉しいですねー…、

……可愛いシヨタ男だと嬉しくない。

其れにしても話って……

「……スバルくん。ロックマンとしてヒーロー協会に来てもらえる」

「はい？」

ちよつと家族の方々、いきなり勧誘されてるんですが。信用できるって話は？

「正直に話すとボクは君の探索と勧誘をヒーロー協会に頼まれてたんだ。一応隠蔽する事も出来るけど……どうする？協会はこれ迄のロックマンの功績からS級待遇で君を迎える事を決めてるし悪い話じゃないとおもうよ」

S級待遇って、原作のS級を思い出す……あんな変態集団ほい中に入るの悪い話ですね。あとロックマン的にはB級ぐらいの方が良いですし。

まあそんな変態集団に入りたくないなんていえませんし……

「えーと……ボクあんまり指示とかされるのは、協会って入ったら指示とか大分される

よね」

「……………うん……………指示される事もあるだろうけど、君の毎日の活動を考えると協会から指示される事もあんまり無いと思うよ。……………本当はダメだけどS級ぐらいになると指示を無視するって選択も。いや本当はダメだけどね。流星に緊急時の呼び出しとかは来なきやダメだろうけど、滅多にそんな事はないし」

原作だとその緊急時は二回は……………原作何時か知らないけど童貞くん居るならそんなに先でない。原作みたいに成るのかな？

「スバルくん、いやロックマン、後ろ楯にバックアップが無いと個人でヒーローを続けるのは限界があると思う…け…いや、バックアップは君の場合なら両親に頼れるか。けどバックアップは…多くて困ることはないよ」

「……………」

バックアップって、情報とか？流星のロックマンですし、電脳に文字通り潜れますしあんまり情報的に困ることはないですよ。怪人が現れた所は情報量が解りやすく増えますし。

「……………それにボクが君の正体をわかったように、他の人にもその内ロックマンの正体がバレる危険はある。バレたらどうなるか想像出来るよね。君はともかくご家族は危険になる可能性もある。…ヒーロー協会に所属して協会の助けがあった方が便利だと思

うよ」

「……………」

協会は色々な意味で面倒な所だけど、家族のことか……………たしかにロックマンとバレルの可能性もあって、バレルの時を考えると……………

『所属するしかねーな』

結論としてそれしかないですね……………。

そう言うわけで、基本的に童貞くんを通じての連絡だけであと干渉はしないって条件でS級ヒーローとして所属することに、B級にしてほしいと頼んでも駄目でした。この世界でロックマンはB級というのは伝わりませんでした。S級は変人ばかりぽいから嫌だと言うと……………無言になりました。無言でS級に成れと強要されました。

協会所属となり自称ヒーローからお仕事ヒーローに

原作でもそうですが怪人出現率が増加してると言われてるんです。そんな所に現れたどんな所にもでも最速で移動できるボク。なぜかボクに厳しい童貞くんから来る大量の任務、ブラック真つ青なデスマーチ。

……………助けて労働基準法

大魔王INハイスクール

此所は駒王学園、朝早く。

朝練のある部活生徒はもう来ている。

駒王学園は元女子高だっただけあり女子生徒の方が多い。

「会長おはよう！」

汗を掻いたブルマの体操服姿の女生徒が元気良く真面目そうな眼鏡の女性徒に挨拶をした。

「はい、おはようございます」

挨拶を返した彼女の名は支取蒼那

この駒王学園の生徒会長。

見掛けは一見して厳しく真面目そう。実際にも成績も素行も良く模範的な生徒に思われている彼女だ。

だが……そんな彼女には人に言えない大きな秘密がある。その秘密は真面目な生徒会長にあるまじき暴走やタバコ……などの真面目女子の裏の顔的な非行では別にな

い。いや意味は違うが彼女には裏の顔はあった。

この世界には人間の住む場所以外に別世界がありその世界には人以外の種族が存在している。それは妖怪であり魔物であり吸血鬼であり、天使であり、悪魔もいる……それこそ一般の人には物語の中だけに居ると思われている種族や生き物が存在していた。

彼女の秘密とは、彼女が実は悪魔や竜、魔物などが住む冥界という世界から来た生粋の悪魔だということだ。

彼女の本名はソーナ・シトリー。

この学園には悪魔は彼女のみでなく他にも悪魔は居る。そもそもこの学園の理事長が悪魔。つまりこの学園は悪魔が運営する学園なのだ。いや学園だけでなくこの駒王の地自体も悪魔が自分達の領地だと定めていた。

と言っても基本的には駒王の町は他の町とさして変わらない。悪魔が直接管理してるといっていいこの駒王学園も普通の人間が通う学園とさして変わらない。ただソーナのように人に悪魔が混ざっているだけだ。あとこの駒王は悪魔の領地だが悪魔以外の人がいる。

悪魔は種として朝が苦手だ。ソーナは苦手な朝に何をしてるのか。部活動等で何か問題が起きていないか確認をしていた。今は新入部員も入る時期で問題が起こること

が多い事が理由だ。

「陸上部は問題なしですね」

「問題なしなら練習に戻るね。じゃ会長またクラスで!!」

「ええまた後で」

同じクラスの相手にそう返したソーナの様子には人を見下す様子はない。演技でも無さそうだ。

ただの人ならそれも可笑しくないが先に言った通り彼女の正体は悪魔。悪魔は悪魔より力が弱く寿命も少ない人を種として人を見下している。それは高位の悪魔なほど見下す傾向は強い。上位に位置する悪魔貴族にもなると人を家畜同然に見ていた。

そんな悪魔の中でソーナが最上級と言っていい名門貴族の令嬢と言えば、悪魔としてのソーナの異質さが判るだろう。

この学園にはソーナの他にソーナと似た立場の上級の貴族女悪魔が居る。その彼女は家畜とまで言わないが極自然と悪魔より人を下として見ていた。

それでも悪魔の中では人に迎合しすぎていると言われるほど良心的であり、やはりソーナが悪魔として異質なのだ。

彼女元来の気質性格なのか反面教師でも居たのだろうか？いや、そもそもソーナは見下すどころか人の築いた文化に憧れを抱いていた。

これはソーナの夢からもわかる。

ソーナの夢とは悪魔の世界の冥界にも学校を造ること。

別に冥界に学校が存在してない訳でもないかもしれないが、学校に通えるのは所謂上級階級だけ。

悪魔の世界には人の世界のような地位や力の上下に関係なく誰もが権利として学べる学園などはない

悪魔は人を見下していると云ったが弱い同族もまた同様に見下されている。悪魔の世界では貴族の様な地位があるか単純に力がある悪魔が上を占め、悪魔として弱者に生まれれば弱者のまままで終わる。

そんな悪魔の世界に不満をもち弱者の子供でも通える学校を造るのがソーナの夢。冥界の学校でなくこの学園に来た理由も優れたと思う教育を学ぶためだ。ソーナは悪魔では珍しい他者の為に努力する努力家だ。

「バレー部も確認終わり……あとは最後ですね」

ソーナは部活の練習を見て特に問題が起きていないことを確認すると、最後に学園の端に向かう事にする。

その足取りは重い。別にソーナは疲れている訳ではない。朝が苦手な悪魔らしく体の体調は少し悪いがそれでも足取りが重くなるほどでもない。

向かう先にあるのは園芸部。

ソーナとしては園芸部については問題が起きてるかの確認ではない。確認しなくても判る。園芸部では絶対に問題は……起きてるからだ。

五分ほどの向かう途上に三度ほど行かない事を考えたソーナだが、結局は園芸部近くまで来ていた。

そこにはキラキラしたハートや星マークなどとカラフルな字でこの先園芸部という園芸部の用意した小さめの看板が有るが、生徒会の用意した真っ赤な字で大きく危険と書かれた看板と鉄の柵がこの先にあるのが園芸部と思わせない。

柵と看板を越えて進むと園芸部員達と畑が見えてくる。

畑

畑の看板には手足のついたニッコリ笑う可愛いイラストのニンジンとナス。畑ではニンジンやナスを育てているんだろうか。地面に突き立てられた木の棒に付けられた紙に丸い字で『まんどうらごら』や『なすびなーら』と書かれている。

畑から感じる禍々しい気配は何だろう。畑に生えた植物が風と関係なく蠢いてる様に見えるのはなんだろう。たまに草の下から根が出て鳥やらを捕獲しているのはいつたい何なのか。畑を見たあと改めて看板のイラストの手足のついた可愛いナスびやニンジンの絵が恐ろしく見えないだろうか。

畑の近くの園芸部員。

服はプロテクターの付いたジャージ、頭にはヘルメット、顔にはマスク、手には鋏やスコップ、腰にはサバイバルナイフ。

……園芸部員？

過激派の様な園芸部員の中に一人だけジャージだけの青ざめた顔をした女子がいた。園芸部に装備無しで来るとは自殺志願者だろうか。可笑しくはない。この学園では園芸部と書いて戦地なのだ。

ジャージのみの女子は命知らずのクレイジー野郎だろうか。いや違うようだ。花が好きそうな大人しい外見の女の子、恐らく何も知らないで来た新入部員だろう。

因みに園芸部員の新入部員は他にも居たがここに来る途上で既に逃走済み。残りは逃げ後れた彼女のみ。

「あ、あのアレってなんですか？お、襲ってきたりとかしませんよね」

「ははは、大丈夫大丈夫……」

確かに初見の人は畑の下で蠢く何か人が襲わないのどうかと疑うだろう。疑う余地もない。

大丈夫と言っている生徒の足に根が伸びてきて……

「うわああ!!」

普通に襲ってくる。

男子生徒が足に根を絡まされズルズルと畑まで引きずられている。ソーナはB級モンスター。パニツクみたいな光景を遠い目で見詰めた。

「はやくナイフで切るのよ！かじられるわよ！」

「か、かじるんですか!?!」

ソーナもこれが冥界にある畑なら可笑しいと思わ……ないなんて事もない。自然に発生してるならともかく畑で人でも食べそうな植物を育てることとかないだろう。余程の変人なら有るかも知れないが。

それはともかくソーナも本当なら生徒会長としても悪魔としても良識的にも、あの畑は何とかしなければいけない。

一番良いのが畑の物理的な消滅。

それを出来そうな知り合いはいる。

この学園のソーナに並ぶ上級悪魔のリアス・グレモリー。リアスには消滅の魔力というバアル家特有の魔力が有るが、畑を消滅させてと頼んでも全力で拒否していただろう。

リアスは若年ながら上級悪魔に列され自身の強さに自信がありプライドの高さもおりがみ付きだが……園芸部の部長にはビビっていた。

園芸部の部長は人の世界での立場は一般的な（人間の）男子生徒である。ソーナ（悪魔）達が裏から調べても完全無欠の人間の立場。

しかしリアスに調査結果が間違つてると言われたらソーナも頷くしかない。
気付くとソーナの体が震えていた。

（……きました、か）

園芸部の部長がきたことを震えが教えてくれる。畑の蠢いていた根が一斉に土に戻っていた。

ソーナの視界に園芸部部長の姿が映る。

「「おはようございませうー」」

部員達は膝まづいて挨拶をした。

新入部員の女子は驚きオドオドしていただけだが部長を見てやらなければいけない気になり他を真似た。

こんな独裁制みたいな挨拶は注意すべきだろうがソーナは言う気になれない。ソーナも気を張らなければ彼等と同じことをしていたと思うからだ。

二メートルを越えていそうな長身であり筋肉質な肉体、見られただけで思わず膝まづ

きたくなる眼光を放つ三つの目、上位者だと知らしめる王者を思わせる頭の両サイドから生えた角。ソーナのような魔力を操る悪魔や魔女に見える魔力が彼の周りで漆黒の太陽の様に輝いていた。

園芸部部长、田中太郎（17）

転生者（？）

世界人口の八割、人其々で違う《個性》という能力を持った別世界でヒーローをしいた経歴が有るだけの極普通の男の子。

彼の個性名は『大魔王』

セル

転生というモノを信じるだろうか。

それも宗教に語られるような厳かな生まれ変わりというものでなく、創作小説などで良くあるアニメなどの物語の世界に生まれ直す様な転生だ。有ると思うだろうか？ 因みに私はTS 転生したいという友人には『キモイWWW WWW』と草原を生やし欠片も信じていなかった。

いなかったという過去形だ。

以前に否定していようと実際に自分がそうだったなら否定は出来ない。そう自分自身がアニメか漫画の世界に転生したのだ。

前世の友人が（q）こんな顔でなんでお前が転生してんだよと言ってる気がする。

とはいえ転生した世界がなんという名のアニメ世界なのかと聞かれると、残念ながら答えることは出来ない。前世では見たことがないアニメか漫画の世界なのでね。

それならなぜ、漫画かアニメ世界に転生したと確信してるのか？

それは今の世界の人類の八割ほどに”個性”と言う力があり、ヒーローとヴィランと言うモノが存在しているからだ。此がアニメや漫画の世界でなくてなんだ？

いやアニメ世界なのは確定でなくても少なくとも前世の未来で無いことは確定している。

何故なら今の自分の姿に関わるある有名漫画が存在しないからだ。未来であの有名漫画も廃れたとしても記録すら無いのはあり得ない。

ああ今の姿が気になるかな？

私の姿は虫を人型にした様な黒い斑点のある緑の体、昆虫類の様な羽、先端が注射器の様な尻尾。そして声は……CV 若本。

「ブルアアアアア!!」

この叫びでわかるだろう。

今世の私はドラゴンボールの『セル』としか思えない姿に生まれた。

セルとはドラゴンボールという漫画に出たラスボスの一角。セルとはドクターゲロの産み出した人造人間、人造人間とは最低でも宇宙の帝王さえ越えた超サイヤに匹敵する超戦士。そしてそんなすごい人造人間の中でも最も恐ろしい存在がセルだ。

GTの超17号？あんな後付けキャラは知らん。それにアイツは致命的な弱点を晒してノーマル悟空に貫かれて負けただろう。私（セル）なら弱点などない。それに貫か

れる程度なら再生能力で無事だった。

つまりアイツ（超17号）は幾ら私（セル）より戦闘力が高くてもセルより上と言えないと言うわけだ。そもそも何を考えて私を差し置いて17号なんて中途半端な番号の奴をパワーアップさせたのだ。

確かに戦闘力では負けていた。しかし私は17号などより遥かに成長性がある。それもとんでもない成長性だ。セルの恐ろしさはその成長性。

人造人間には気がない。つまり人造人間とは生きてはいない機械のようなモノだ。気がないのは気が探知されないという利点はあるが、機械のように完成されれば想定以上のパワーは出すことが出来ない。

超で17号が成長しパワーアップした様に見えたが、元から想定されていた超17号へのパワーアップが偶然にも発現したのだろう。可笑しいと思うが……クリリンや亀仙人の強さも可笑しかった超は気にするだけ無駄だろうか。

超で思い出したがGTでもそうだが謎の17号押しはなんだ？人造人間なら私がいるだろう！ブウもフリーザを出して何故同じラスボスの私を出さない！なぜワタシだけ除け者なのだ。

ふう話を戻して私の成長性の話だ。

私には孫悟空達を越える成長性がある。

自惚れ等ではないよ。私には成長の化物のサイヤ人にあの9ヶ月で可笑しいほど成長したフリーザの細胞があるのだから。サイヤ人にプラスしてフリーザの成長性を持ち合わせていると考えれば……私が修行をすればどうなるか恐ろしくないか。

簡単に超時代の悟空達を越えても可笑しくはないと思わないかね？

やはり私（セル）はスゴすぎるな。

……………いや何を長々と考えていたんだと言われるな。自分でも
そう思う。

こんな事を考えておいて私は（肉体が）セルであつて（中身は）セルでない。

なのだが口調もそうだが自分がセルになったようなセル擬きな思考が出てくる。まるでキャラを演じてる様で少し恥ずかしくなるな。無意識に自分はセルだと思いつつもうとしてるのだろうか。コスプレしたらそのキャラに成りきろうとするタイプだったからか？

話がだいぶ逸れていた。

理由は不明だが私はこの世界にセルとして産まれた。ちゃんと母上の腹から、卵のなかに入ってな……卵を産むとかだいぶシヨツキングな絵になつただろうな。

いやはや正直よく捨てられなかった。

卵から生まれた姿はセルだぞ？

幾ら“個性”社会で様々な姿の人が居るとしても、緑のセミ人間なセルの見かけの子供はキツイ。

両親は姿の変わる個性ではなく容姿は全くの普通の人間、私を自分の子供と思えない筈だ。実際、セルの細胞等を考えると…。

しかし私を極自然に普通の子供扱ったのが今世の両親だ。当然でないよ。この個性社会で化物の様に産まれて親から子供として扱われない事もある。捨てられヴィランと化す人間も多々いる。正直、今の両親から産まれたのは運が良かった。自分にとっても世界にとっても。

中学になると完全体セルのサイズに成長した。

一応言うが人は吸収してない。いつの間にか完全体になっていた。

しいて理由を上げれば…：野菜ジュースか？

キャロットなどベジタブルなどタツプリな野菜ジュースを沢山吸収した。

それが正解なら私は健康的なパーフェクトセルなのだ。17号、18号とか要らなかった。ついでに言えばセルの能力は大体使えそう。

色々可笑しいだろ？

ふ、私（セル）が人から生まれてる時点で何が起きても可笑しくないだろ（暴言）

特にツツコミどころなくスクスクと成長し今の私は中学生だ。

学生服姿の完全体セルを想像して嘖くなよ？

気付けば中学に入り。もうすぐ3年となる。

卒業後を視野に入る時期、ソロソロ将来の目標を決めるタイムリミットになる。さてどうすべきか。親からは自由に成りたいものに成れば良いと言われ……声的に声優になる事を真剣に考えたが……絵面を想像してやめることにした。

さてそれならどうするか。

どんな職を目指すか。

良い職にはつきたいな。

良い職につくには良い学歴が当然必要だ。大学はまだ先で今は高校だ。高校は出来たら家から近場がいい。それと出来たら面白そうところが良い。そうなると高校は何処にすべきか。

悩んでも結論がでず、教師に相談すると雄英高校がオススメだと言われた。

雄英か。雄英は家から其処まで遠くなく。体育祭が全国中継される様な自由が校風

な高校。特に高校など気にした事がなかった自分すら知っていた日本で一番有名と言つても過言でない高校、近場であり面白さと学歴という条件にも合致する。

正直、教師から聞く前から候補には入っていたんだが、少し迷う理由もあつた……。どうするか。……まあ教師からも薦められたんだ。雄英でいいか。

私は雄英サポート科の受験を受けることにした。

セル2

雄英サポート科を受験することにした。

普通科も選択肢にあったがサポート科の方にした。ヒーロー科？教師にも薦められたが考慮にも入れていない。

中学を卒業し特に波乱もなく私は雄英サポート科に合格した。ヒーロー科の倍率300なんて異常数値には及ばないがサポート科の倍率も並みじゃなかったが、試験は難しかったが何とかなった。この体の知能で何とかなった。……問題といえば、前世の学力では全く問題が解けなかったと確信できたのが少し悲しいだけだ。

今日は初登校日。

いよいよサポート科の教室につく

楽しみであり少し不安だ。

サポート科は文字どおりヒーローのサポートが役割。ヒーローのコスチュームなど装備アイテムを造る事が役割だ。

アニメ等の物語のイメージだがヒーローのサポート役と言えば、ヒロインの様な可愛いキヤラも居るが、変人やマッドな登場人物の方が多い。

アニメと現実が違うが、残念ながら此処が漫画かアニメ世界だという疑惑がある。イメージ通り変人の多い教室ではないかと少し警戒心を持っている。

教室に入った

既に先に生徒が半数ほど来ていた。

え、なにコイツ？みたいな目で見られた。

試験を受けるときにもこんな目で見られたな。

なんなんだろうな。

私（セル）がサポート科だと可笑しいか？

む、誰か近づいて来た。

-googleを頭に付けたピンク髪の女子だ。

頭の-googleは変だが見掛けは可愛い部類と言えるな。それと笑顔、張り付いた様な笑顔、悪意は全く見えない。そして強そうにも見えない。しかし何故だ？警戒心が沸く。警戒心について危機感が沸いた。この体になってそんなものと無縁となったと思っていたが……何なのだ？

私の勘が全力で告げている。

目の前の女子に関わるのは不味いと。

「どうも初めまして！ここに来たって事はこのクラスの同級生さんですね。私は発目明と言います。アナタは？」

顔を近づけて挨拶をされた。

距離感が近いな。

「あ、ああ神像瀬流（ジンゾウ、セル）という」

名前の事は私に聞かんでくれ。

根本的に名前が変な事よりセルと名前がついているのは、まあ気にしたら負けだろうと思っっている。

「神像さんですね！これからよろしくお願いします！あとアナタとても体が頑丈そうですね！あとで少し私の研究を手伝ってください！」

この台詞だけで理解した。

コイツ変人かマッドの類いか。

少なくとも頑丈そう。研究の手伝い。どう考えてもろくな事ではない。

「スマナイが断るよ。それとソロソロ教師が来る時間だ。失礼する」

「わかりました！後で協力御願いますね！」

話を聞いてるようで聞いてない。

私は彼女の言葉を聞かなかったことにして決められていた席についた……まさか隣になるとは！

「おお！神像さん！隣同士になるとは、これは運命というヤツですね！」

可愛い少女が言った台詞だが、全く嬉しくない。

私の姿を見て気後れする女子は居たがジロジロ見てくる少女は初めだ。やはり嬉しくない。

視線を無視しながら雄英に入ったのは失敗だったかと頭を痛めた。

雄英サポート科に入学してから月日は流れた。と言っても数日程度だ。

このたった数日だが、ナンバーヒーローが教師をしている事からマスゴミが雄英を襲撃したり、ナンバーヒーローを狙ってヒーロー科授業中にヴィランが襲撃したりとイベントはわりと濃厚にあった。

まあヒーロー科が主でサポート科にはほぼ関係ないイベントだが。面倒に巻き込まれなくて良かった筈なんだが……残念な気分もある。

初だろうな。雄英みたいなエリート高にヴィランの集団の襲撃、まるでアニメ漫画のイベントだ。もしや襲われたクラスに主人公がいたりするのか？まさかな。

其れにしてもヴィラン襲撃か。

襲われたのは危険だった、だろうな。

しかし危険度で言えばサポート科も負けてない気がするんだがな。

私が向かっているのはサポート科の開発室。

扉の周囲には焼け焦げた跡。

中からは機械音。

警戒しながら私が開発室の扉を開けようとした瞬間、爆発音、衝撃波と続いて爆風に包まれる。何かが飛んできた。

ピンクいろの頭、予想通と言うのか。私は飛んできたモノを瞬時に理解し避けたい衝動を抑え飛んできたモノを受け止めた。

「ケホッ、ケホッ、おやセルさん」

発目嬢が漫画みたいに煙を吐いてから平然とそう言った。怪我は見えない。あの爆発でなんで無傷なんだ？

「は、発目、いい加減にしろ……」

其処のプロヒーローのパワーローダー先生が見かけ瀕死になってるんだか。

「いやいや少し新しいベイビーの試運転に失敗しました！試運転はセルさんに頼めば良

かったですね！」

本人に抱えられながら良く言えるな……。

初めて発目嬢が私が頑丈そうだと初日に狙った理由は自分の造ったベイビーと呼ぶ作品の使用テスト相手としてだった。……お試し第一回目でさつきみたいな爆発だ。

それで私が無傷と判明すると、何度も強引に発明品のテストをさせてくるようになった。

私が普通に耐えることからか日々過激になっていく作品、失敗の爆発の規模はドンドン大きくなり、たった数日でプロヒーローがダウンする規模となった。

「……いい加減に安全性が大事だというのを学んだらどうだ。こんな爆発する代物をヒーローは使えん」

「大丈夫です！セルさんに試して貰った後のベイビーには安全措置を万全にとつています！」

そう中々に良い笑顔で言った。

「パワーローダー先生、真面目に出禁にした方がいいのでは？」

「え？」

「……ああ……神像………残念ながらコイツで出禁になるならサポート科の大半が出禁になるんだよ」

サポート科を真剣に辞めようか検討するに値する言葉だった。

普通科に転科出来ないか聞いてみると少なくとも体育祭が終わってからと言われた。もうすぐ体育祭がある。体育祭か。そう言えばあつたな。

入学からこんな直ぐか。まだ入学から数日ぐらいしか経ってないぞ。

仕方ない。間近に迫った体育祭はサポート科として出る事になる。サポート科だけは体育祭に自作の装備持参で出て良いそうだ。

入学から数日だが私にも造った作品はある。

「私の作品に観客の驚く顔が今から頭に浮かぶ」

「むふふふ、セルさんには悪いですが！体育祭では私の、ドツ可愛いベイビーが一番輝きますよ!!」

「ほう」

お互いに顔を見合わせ不敵に笑った。

「あ、発目に神像、お前たちが体育祭に持つてくサポートアイテムには検閲を入れるからな」

なん、だと？

「ちよっと待て！私は発目嬢と同列扱いなのか!？」

「そんな心底ショックな反応をしますか？流石に私も傷つきますよ？」

いや君はこの程度で傷つかんだろ。

「お前、常識人ポジじゃないからな？発目の同類だからな」

「先生……私を変人だと言うのか？」

「なんで私の同類で変人何です？」

当然の事を聞こうとする発目嬢（変人）は無視する。

「……じゃあ神像、お前、どんな装備を持ち込もうと思ってるか言ってみろ」

「む？普通に攻撃と捕縛アイテムを考えている」

装備と言うのは足りないものを補うためにするもの。もしくは強化するためのものだ。ただ他ならともかく私に足りないものなど無い。

移動は飛行も可能であり素のスペックで十分。防御もこの体以上に固い素材を知らないで十分。最後に攻撃面は本当に十分過ぎる。

そう考えると本来なら私に装備など要らないが、しかし防御力も移動力も高くて困ることはないが、攻撃力だけは高過ぎると問題がある。人を殴った事がなく手加減をどの程度すれば良いか見当がつかない。軽くやったつもりで大惨事などもあり得る。

そこでアイテムが必要となる。捕縛や攻撃を自分でなくアイテムに依存すれば何の問題もない。

「その……攻撃と捕縛というのはスライムだったり腹痛を引き起こすアレだよな？」
「大雑把に言えばそんな感じのアイテムだな。何か問題があるのか。安心安全で効果も抜群なアイテムだが」

私の細胞を少し混ぜたら出来上がった”自動で”相手を捕縛するスライム。多少再生力があり服だけを溶かす能力あり。相手を無傷に抑えるのに最適なスライム、問題はエロい事ぐらいだ。

命名はスーパースライムくん。

ドラゴンボール初期でエロ豚を行動不能にした腹痛キャンデーを参考にしたキャンデー、キャンデーを直接飲ませるのはもちろん、粉末にして撒けば多数を一斉に鎮圧可能と言う素晴らしいアイテム。問題は無差別で被害範囲が広い所のみ。

命名はPP……いや、お腹痛いよキャンデー。

分かりやすい良いネーミングだろう。そしてどちらも素晴らしいアイテムだと自負している。ただまだこれしか出来ていない。

他にも試しに作った斧とヨーヨーな武器もあるが、少し危険なので出さない。

「問題しかないからな？安全はともかく安心はないからな？使ったあとの絵図を考えろ！?特に今回は公共に放送されるんだからな！」

「確かにアレはアウトですよねー」

ダメなのか。

「発目嬢ですらダメだと思ったらダメだな」

「私すらってなんですか」

「しかしアレもコレもダメとなると……………作る時間もない……………今考え付くのは
投網ぐらいしか無いな」

パツと思いついたモノだが案外いいな。

必要なのは頑丈な網と網の発射機構ぐらいでお手軽だ。

時間的にも十分に間に合う筈だ。

「なぜ投網です?」

「ああ例年初めはマラソン等の全員でやる競技が多いからな。集まってる所を初手投網
で一網打尽に……………」

素晴らしい作戦を話しているとパワーローダー先生が肩を掴んだ。なんだ?

「神像、お前、アイテムの持ち込み無しで出場な」

ん?

セル3

雄英、体育祭本番。

声が聞こえる。

例年通りならマスコミヤプロヒーローまで混ざった大量の観客が来てるんだろうな
もうすぐ入場だ。

生徒は全員緊張をしている。

あの発目嬢ですら緊張を……してないな。

何時も通り笑っている。恐らくどう自分の作品を目立たそうかしか考えていない。

因みに私は帰っていいかと考えている。

この体育祭、其々の科には別の参加意義がある。

ヒーロー科は自分の強さを世間やプロヒーローにアピールしライバルに勝つ為に。

普通科は活躍してヒーロー科になる為。経営科は将来のパートナー探し等。そしてサ
ポーター科は自分の作品のアピールまたは実戦テストの為に。

そう考えると……何故か作品を出すのを却下されたサポーター科の私はなんの為に

るのだ。

周りがヤル気なら自分もと多少は思うかもしれないが、私以外のサポート科全般にやる気が薄い。

サポート科の顔を見れば早く帰りたいと顔にかいてある。それでもまだマシで多くが見学希望だったか。私も見学にすれば良かったか。

しかしそのやる気の無さも仕方ないだろう。

サポート科にとって今日が発明品のアピール日だが、発目嬢以外肝心の作品をちゃんと造れたサポート科生徒はほぼ居ない。全員口を揃えて日数的にキツイと言っていた。造れてる発目嬢がおかしいのだ。

状況を考えれば、元からサポート科の一年は体育祭で蚊帳の外なのだろうな。

そう考えると、少し腹が立つな。

待っていると入場することになった。

それぞれの組で別れて入場。

テレビで見てたがやはり会場は大きいな。前世で言えばオリンピックの会場じゃないか？有名とはいえない高校の会場と思えば異常だな。

「雄英体育祭！ヒーローの卵がしのぎをけずる一年に一度の大バトル！どうせテメーラアレだろ、全員見に来たのはコイツらだろ！ヴィラン襲撃を鋼の精神で乗り越えた奇跡

の新星、ヒーロー科！1年！A組だろお!!」

実況は良いのか？。

ヴィランに襲撃されて生徒を戦わせたのは英雄の醜聞だと思うが。1ーAを持ち上げて美談にしているのか？

改めて考えればヴィランに襲撃されておいてよく体育祭を開催できたな。確かヴィラン連合か？オールマイトが居たのに主犯には逃げられたのだろう。英雄は襲撃されて主犯には逃げられると実質痛み分け。

オールマイトや他ヒーローから逃げられる程のヴィラン連合の幹部は未だに野放し。それだけならまだしも今後襲撃が起こらない為の対策を英雄がする時間もなかっただろう。そんな状態で体育祭競技を行う。此だけ大規模な体育祭で発生する利益に、面子があるから中止は無理だったのだろうか。

これでもし生徒に対しての襲撃がまた有れば洒落にならない。自分達の利益や面子の為に生徒を危険に晒した事になるからな。

はあ他人事なら何が起きようとも良いんだが、ヒーロー科ではないが私も英雄の生徒である。何か起きれば私にも関係ないといえないのが面倒だ。

入場した1ーAに大歓声。

ヒーロー科B組、普通科は1ーAに妬む視線を向けているな。目立つ1ーAが気に入らないか。

殺伐とした向こうと比べて此方はなんと平穏か。

何やら観客を観察している発目嬢を筆頭にサポート科は特に気にしていない。元からサポート科は裏方だからか。

サポート科が入場した時に観客の反応は殆どなかった。テレビでやる体育祭は何時も主役はヒーロー科、次点でヒーローを目指している普通科だ。

本人たち含めて誰もサポート科の活躍なんて期待はしてないだろう。

……予想を覆せばどんな反応をするかな？そんな言葉がふと脳裏に過った。

予想を覆すか。

少し面白そうだな。

別に目立ちたいとは思っていないが、予想を覆すのは面白そうでもあるし。私の作品を却下したパワーローダー先生へのちよつとした意趣返しもできる……やってみるか？

問題は私がこの体育祭で観客の予想を覆すほど活躍出来るかか。

サポート科なのにアイテムは持ってこれなかったので活躍は無理だ。サポート科としてはな。

サポート科としては無理でも選手としての活躍は恐らく可能だ。

この体のスペックが本物のセルに匹敵するかはわからないが、それなりのスペックは持つていると確信している。相手と競技次第な部分もあるが恐らくよほど運が悪くなければソコソコ活躍できる。上位入賞もできる筈だ。そこまで行けば予想を覆した事になるだろう。

ふむ、しかし、本来の主役（ヒーロー科）を差し置いてサポート科（裏方）が活躍とは、空気が読めないと思わるか？別に気にしなくてもいいのだろうが、残念ながら私は発目嬢のように凶太くない。

それに私は……面倒な個になるとコレまでセルの力を使わないように自重をしてきた。それをこの様な場で使うのはな……。

壇上に変態としか思えない教師が出てきた。

全身タイツ。片手に鞭、年齢は3………キツいな。

エロさより痛さを感じる。

おつと睨まれた。

選手宣誓か。

宣誓は入試一位の生徒がするのだよな……ん？

アレが一位か？

見掛けで人を判断するのはダメなんだが………チンピラにしか見えないな。申し訳ないが見掛けだけでみれば嫌いなタイプだ。

まあエリート校の雄英の代表なのだ。見かけと反してマトモなんだろうが。変態教師は居るが。

『選手宣誓、爆豪勝己……せんせー俺が一位になる』

首をかつきる動作を全員に見せつけた。そして笑っている。スゴいな。こう、なんと
いうのか、なんとすべきか、そうだな。一言言葉にすればこれだ……イラつときた。

自信過剰なチンピラタイプ。

いやまさか私の大嫌いな部類な奴が雄英にいてしかもトップとはね。

「ふむ……別に頑張っても良いか」

私はそう呟いて不敵に笑った。

私は自重してこれまで私（セル）の力を使うことはなかった。それなりに面倒な事になると思っていたからな。それなのにこんな公の場で使うのは愚かだとは思う。しかし我慢の限界だったらしい。自分の力を使おうと一度思うと内心のワクワクは止められない。

今日私は自重を捨ててるぞ！ジョジョオオ!!と、言った所か。私は吸血鬼でないが。

第一競技は障害物競争。

選手が一同に集まっている。

むう所詮はほぼ予想通りの構図、これならスタートと同時に投網が有れば一網打尽に出来たものを……惜しいな。

変態な先生がコースさえ守れば良いと言ってたんだ。ルールのにも問題なかったのにな。

スタートの合図。

全員一斉に走り出した。

私はワントンポ遅れてスタートし後方からついていく。この競技なら余裕がある。先ずは生徒の実力を観察することにした。

前方にトンネル。

生徒がトンネルに密集して速度が落ちた。

このトンネルは観察に適さないな。

サッサと抜ける……か？

何か来る予兆を感じた。前からバキバキと冷氣、私に何か飛び乗ってきた。私は浮か

び上がる。私に続いて何人か防御体制に入ったり飛んだりした。そして冷気が通った。飛ばずに地面に残った選手が凍結した。早速か。前方の誰かが個性で凍らせたのだろう。

洞窟の狭さを利用した一網打尽とは、私がやりたかったな。

「いやーセルさん助かりました」

凍結を回避するのに私の体に勝手に飛び乗った発目嬢が悪びれずにそう言った。凍結した生徒の上を飛んで通りトンネルを抜けた後に剥がして落とす。

『オオットいきなりの波乱だ！凍って脱落者多数か!?!しかし本格的に障害物競争が始まるのは今からだぞ！雄英から選手にプレゼントする第一の障害物はコレだ！ロボインフェルノ!!』

ロボ？確かに大量にロボがいる。

小型ロボで人のサイズ、大型ロボとなるとビル並みじゃないか。上級生のサポート科が作ったのだろうか。他にも競技の障害物を用意したりしたんだろうか……体育祭でサポート科は不遇と思ったが活躍の場は色々と有るのかもな。私も参加したかった。

しかし、あんなロボが良いならなんで投網程度がダメだったんだ。ロボと戦闘する選手を観察しながらそう思う。

大型のが凍りついた。さつきトンネルで凍らせたヤツか。白赤のツートーンカ

ラーの髪の毛だな。

「ふふ、やるじゃないか」

ヒーロー科だろうが中々派手に倒す。選手は驚愕の表情、歓声が上がっている。今回の私の目的は活躍することだ。私はこの反応を上回る活躍をするのには相当に目立たんとな。

「申し訳ないがロボットくんには次は私からの攻撃を受けてもらおうか」

どんなに攻撃しても問題ない巨大ロボは格好の獲物だ。私はとんでロボの元に向かう。

『おおっと！生徒のひとりが超跳んだ。ロボに真つ向から突撃か！』

私は巨大ロボの頭の前で空気を叩く音を鳴らしながら急停止。

『跳んだんじゃない。アイツは飛んでる』

言いたいことは判るが文字にしないと意味が通じにくいぞ。まあそんなことより

……

「セリヤアア!!!」

私はロボを蹴りあげる。

『はああ?!?!?ろ、ロボを蹴りあげた?!!』

「体育祭開催の祝砲といこうか」

私は腰を捻り両手を揃え腰の辺りで構える。

私はセルであり気が使えた。前世の日本人なら全員が試しただろう必殺技を本当にやれると気付いたが、やってはいけなないと、やりたいという衝動を何度も何度も我慢をしてきた。

それを今回やる。この場で最も相応しい技だからな。私の顔は笑っているだろう。

両手に小さな光りが灯る。

「かああーめええー」

小さな光りは大きくなり蒼白く輝く。

『なんだ！あの光りはなんなんだ!?!』

観客も生徒もまるで競技を忘れて私を見ている

「はあーめええー」

その輝きはまさに太陽。

さあヒーロー好きもヒーロー達も刮目すると良い。この世界には存在しない最強の英雄（ヒーロー）の必殺技だ。

「波ああああ!!!」

大きな光の柱は空へと登り柱は巨大口ボを飲み込んだ。

ふう

………何をしてるんだ私は

インプモン

彼は気付くと闇の中にいた。

身体の前後左右に硬い感触。

彼は狭い空間じ込められてると焦った。

焦ったのだが彼が少し強く動くときパキパキという音を立てて壁が割れ。割れた部分から光が見えた。彼はアレ？ 案外簡単に出れそうとだいたいぶ安堵し、身体をさらに動かし壁を割っていった。

壁が大きく割れ外に出たと思った瞬間。

巨大な手が見えた。

彼が巨人!?!と驚くなか巨大な手が彼が入っていた。卵の残骸を取り除いた。

巨人な手が彼に触れた。

「わあ産まれた」

喰われると思う彼に予想外に可愛らしい声が聞こえた。彼を見詰める女の子。その女の子は小学生ほどでしかない。しかし彼には少女が巨人に見えた。

女の子が巨人く女の子は”彼から見て”巨大だった。

「可愛い」

「……コイツは」

ヌツと女の子の後ろから顔を出したオレンジのライオン頭の人型の獣、彼は驚いて鳴き声を上げた。

「わ、鳴いた。怖がつてるのかな」

「むう……俺を見てか？」

「あははレオモン大きいもん仕方ないよ。あ大丈夫だよ。怖くないよ。レオモンは大きいけどとても優しいから」

女の子はまるで自慢する様に胸を張ってそういった。後ろの獣人、レオモンと呼ばれた誰かは、わかりにくいがテレてるようだ。

彼はその照れた獣人を凝視していた。

彼は獣人の姿と”レオモン”と呼ばれた事に何やら酷く反応している。その目はあり得ないものを見たと言いたげだ。

「コイツをどうするんだ。役所か警察に連絡するのが適切だと思うが」

彼はええ？と思った。

「ん……家に連れて帰っちゃダメかな」

「連れて帰るのか……一時的に保護するという事なら大丈夫だろうが」

「大丈夫なんだね。じゃあこの子を連れて家に帰ろう。さ、行こうね」

固まったままの彼は女の子に持ちあげられ女の子とレオモンは家に向かう。女の子にお持ち帰りされることになった彼。本人の認識だと年齢は20を越えてるののだ。

もうだいぶ昔、人類に”個性”という力が発現した。

初めは少数だったが今では人類の大半が個性持ち。

”そんな個性が根付いて”個性”社会と呼ばれるようになってから何年か後、ある異形の個性が誕生した。

ある母親は赤ん坊の代わりに卵の様なものを産んだ。卵な事に医者は不思議がった個性のせいで色々な形で赤子が生まれるようになっていたが、卵の姿はその時が初だった。

そして数日して卵から産まれたのは、それはとても人に見えない小さく弱そうな生き物。

産まれた生き物は当初は見かけ通り弱く弱小個性だと思われた。しかし産まれた何かは姿を変えて強くなった。別生物になるように姿を変えて。

それから多くはないが卵から産まれる人が出てきた。そして成長すると姿を変えた。その個性は全員が卵から産まれて進化するように姿を変え、他にも信頼関係を持つと有るものが出る等、個性社会でも特別と思われるほど特徴的であり特定する名称が付けられた。

そしてその名称が……姿を変える時にデータの様な文字が出て様々なモンスターの姿に変わる事と、本人達が進化する時に共通して〇〇モンと名乗る事もあり、デジタルモンスター、

略してデジモンの個性と呼ばれるようになった。

と、まあそんなデジモンの一匹がオレなのだ。

デジモン、デジモン、本物なんだよな。

なんでかなあ。

今の自分の事を考えるとため息が出る。もう何年も経ってるけどいまだにわからな
い。なんでデジモンになってるんだ？なんでデジモンがふつうに世界にいるんだよ!!
しかも個性ってなんだ!

オレには産まれる前の記憶がある。なんとというか此処とは違う世界の前世とかの記

憶だ。

前世オレはデジモンでなくて人だった。いやここじやデジモンは人なのか？オレが知ってるデジモンは人じゃない。デジモンはデジタルワールドって所で生活していた人間とは完全に違う存在。あとデジモンはアニメでの話。

因みにどんなに遡ってもこの世界にデジモンのアニメは無い。多分いまいる世界は前世は平行世界の地球とかそんなかんじだ。

まあとにかくデジモンに転生した。

理由は不明！

親も不明

オレは捨て子らしいから。

親に捨てられた……デジモンに親とか居るのに驚くよな！親に捨てられたとかよりデジモンが人から産まれてる話の方がシヨックだ。デジタマを産むのか？

因みに俺みたいに親に捨てられたの特別な事でもないよう。デジモンの子供は親にすてられる事が多いそう。理由は育てるのが困難だからとからしい。

まあデジモンとか育てるの難しいよなと当事者ながら思う。小さめのならともかく大型系のデジモンとかなったら一般家庭とか無理だろうし。

あとデジモンの凶悪犯罪が多いってのも手離す理由にあるだろうな。おれみたいに捨てられたデジモンが親を恨んだりして暴れるそうだ。

親に捨てられた恨みねえ。

オレも立場は似てるけど共感とかは無理だな。俺とか本当に恨みとかないし。そもそもやっぱデジモンの親とかピンと来ないし。前世のマトモに育ててくれた親の記憶もあるし。それにこの世界に親みたいな相手もいたし。捨てた親とかどうでもいい。

まあ仮にオレに恨みとかあつたとしても暴れるのか絶対ないな。テレビを見てしみじみ思う。

『きいいい誰よ誰よ！ワチキのライブの邪魔をするなんて！』

テレビの中でマイクを持ったサル：エテモンが叫んでる。アニメのデジモンでは強敵だった完全体のデジモンだなあ。リアルエテモン、なんかハリウッドなCGのデジモン見てる気分。

因みにこの世界のデジモンの完全体はスゴい稀少でスゴい強い扱い。

アニメとかだと一山幾らぐらい簡単に出てくる完全体だけど、この世界では完全体とか無茶苦茶レアで強いのだ。デジモンの個性持ちはこの世界で数百ぐらいとからしい。基本的に例外なく強者枠みたいだ。強者の中の強者か？

この世界で強者と言えば個性犯罪者のヴィランと戦うプロヒーロー。

なのにデジモンは成熟期で既にプロヒーロー並みの力があるとか言われてる。ここはプロヒーロースゲエといふべきだな。例えばグレイモンは成熟期。グレイモンツて……小型のゴジラだよな。生身で同等とかプロヒーローが可笑しい。

その成熟期の格上の完全体ともなると、トップクラスヒーローとも張り合える力があるとか言われてる。

あ、因みに成熟期がプロヒーローなのに成長期って一般人なみ。たぶん成長期と成熟期でゲーム的なステータスで言えば10倍以上は軽く違う。イメージ的にノーマルがスーパなサイヤジンになるぐらい。

それだけすごいせいか進化をするのもとてつもなく大変らしい。

他人事と言われてもまだ苦勞してないし。オレとかデジモンになって五年だけど特に何の苦勞もなく成長期。ただ成長期まではサクサク行くけど、成熟期になるの大変らしい。成熟期は4、50代になってもなれない人がいるとか。

オレ成熟期になるの何時かな。成人ぐらいで成熟期でも普通らしい。この姿で成人こえとかは勘弁してほしいなあ……まあ年齢5才で心配することじゃないけど……デジモンだと結構な年齢に思うけど。

普通だと成熟期で終わりでも普通らしい。その上の完全体になるのは猛トレーニン

グとかした上で、一部の選ばれしモノだけがなれる扱い。

完全体の上？

一応いる。怖いのが……あの地区で完全体が暴れてるし今回できそうだよな。

『その騒音を中止しろ』

声だけが聞こえる。声が前世で活躍してた往年のヒーロー。

『は？誰よアチシのライブを騒音とか言ったの！それと！ライブを止めるのはい・や・よ。なんで止めなきゃいけないのよ！』

『周りを見ろ！お前の歌で多くの無き人が倒れているんだぞ』

確かに倒れてる……倒れてるなかに何人かプロヒーローとかも混ざってるな。プロヒーローが情けないんじゃないやなくてあのエテモンの強さが可笑しい。

流石はデジモンでボスみたいな役をしたと言うべきか。

……まあ声の相手には絶対に勝てないだろうけど。

『あちしの歌に倒れるなんて失礼な奴等なんてどうでもいいわ！それより誰よ！出てきなさい！』

あー相手を完全にわかってない。完全体だけに、まあ知ってたら全力で逃走をしてるか土下座してるよな。

『そうかならばもう容赦はしない……望み通り出てやろう。そして！』

テレビから風切り音が聞こえてきた。

とか良く通る声を出しながら赤いマントをはためかせて空から落ちてきた純白の騎士。大きな丸い盾と槍を持つてる。ヒーロー登場。

『このデュークモンの正義の槍がお前を罰する!』

『え、うそ! デュークモン!?! そんなの反則よ!?!』

遠目にも青ざめてるの判る。反則って言いたい気持ち判るわー。

『受けてみるロイヤルセーバー!』

わぁ初手必殺技

プロヒーローに必ずある必殺技……必ず殺すと書いて必殺技だけど、職業としてヒーロー。この世界にある職業としてヒーローなプロヒーロー。ヒーローは警官みたいに基本敵を殺したりしたらダメなのだ(重要)

『に、逃げな、ギャアアア!!』

ぶっとい槍に刺されて断末魔の叫びを上げるエテモン。文字通り必殺技だぁ(白目)

『生まれ変わってやり直せ』

エテモンが消えてゴトリと落ちた卵。

デシタマだ。デジモンはヤられるとデシタマに戻るんだ。だから殺ってない扱い。

生まれ変わってとか言ってたし殺ってるよな?!

完全体のエテモンをアツサリやった純白の騎士。完全体のエテモンをだ。完全体の、大事な事は二度言った。

つまりは一撃で倒したあの騎士は完全体より格上の存在……究極体。完全体ですら稀少なこの世界、世界全体の善悪合わせても二桁少ししか居ないようなデジモンの究極体。

究極体デジモンのデュークモン。善側、ヒーロー側の究極体はロイヤルナイツとか呼ばれてるそうだ。

デュークモン、前世ではトップに好きなデジモンだったんだけどなあ。……今のオレの”姿”を考えると厄介そうでなんか嫌だ。エテモンみたいにぶっ刺され光景が簡単に浮かぶし。

なんてたつてオレは……

「インプモンお風呂に入るよ」

そ、オレはインプモンだ。

紫っぽい黒い体の小悪魔っぽい成長期デジモン。アニメだと裏主人公とか言われてた。アニメのインプモンの”先”を考えるとデュークモンとかちよつと思っただろ。それにさつきオレの名前を呼んだ捨てられてたオレを拾ったコイツの名前がアレだし。

ソイツかお風呂とかいってなかったか。ん、お風呂、お風呂？

「おいこらジュリ！オレを風呂にいれようとすんな！おれ一人で入るから！」

オレを拾った女の子の名前が何の因果か「加藤ジュリ」、オレがそう思ってるせいか、姿勢好も本気でインプモンが裏主人公してたアニメの加藤ジュリと同じに見えない。……中身は違うけど。

「だーめ。インプモン一人だとお風呂を適当にすますでしょ」

「ちや、ちゃんとやるから！」

なんか小学生ほくも見えるけどジュリはもう15才、流石に15の女の子と一緒にお風呂とか勘弁してくれ。肉体的には幼児だけど中身はおっさんだし

「だーめ、そう言つて適当にやるでしょ？」

「れ、レオモン！」

座禅してワレ関せずみたいにしてる獣頭やろう。止めるよ。

「…ガンバレ」

そういつた役立たずのレオモンは加藤ジュリの実の兄。加藤ジュリにレオモン、そしてオレ、インプモンと考えたら偶然にしてもあれだろう。

「ガンバレじゃねえ！実の兄なら妹を何とか止めるよ！男と入ろうとしてるんだぞ!？」

「クスクス、男つてインプモンまだ五歳じゃない」

肉体年齢的には幼稚園、インプモンの見かけも不通、普通の幼稚園児ぐらい。

「いやいや！前の記憶があるって説明しただろ！精神年齢20越えてるんだぞ！」

赤ん坊みたいな扱いはイヤだしだいぶ前に二人に説明してある。流石に転生とかあれだし記憶無くさずにデジタマに一度戻ったみたいなの説明してある。とにかく精神年齢は五歳でないと理解してるはず。はずだよな？

「聞いたんだけど、それがどうした！かな？さ、お風呂行くよ」

「まてまて、まてまて！なんで気にしないんだよ！」

「だってもう何度も一緒に入ってるし。なんでそんなに抵抗するかな」

何度入っても慣れるかあ！てか精神年齢二十歳越えと入れる理由になつてねえ！オレが枯れてるとか思ってるのか！それともやつぱり五歳児扱いなのか！

ガシッ

ん？

「抱き抱えるのやめろお!!」

ジユリに抱き抱えられるオレ。

微妙に柔らかい感触が、感触が。

くそ！此のままだとまたお風呂に！

本当は女の子と入りたいんだろ？入りたいわけあるか!!気まずいんだよ！罪悪感と理性の葛藤で胃が死にそうになるんだよおお！デジモンにストレスは天敵だ！寿命に

直結する！ネットで言ってたインプモン知ってる！このままじゃストレス死にするわ！

ど、どうする。

この体制で抵抗したらジユリが転けたりする。怪我でもさせたらレオモン切れて別の意味でヤバイ。何とか何とか切り抜ける方法は！ねえよな！あつたら何時も逃げられるわ！

「……」

ああー！！あの無関係そうな顔をしてる獣頭野郎！一度でも良いから助けろやあ！は！そっだ。

「な、なあー！ジユリ！たまにはレオモンと一緒に入るべきじゃないか！ほら仲間外れとか酷いだろー！」

レオモンが凄いい目でコツチを見てくるけど知るか！止めないならお前も一緒に墮ちろよ畜生！

「んーレオモンと一緒に少し恥ずかしいなあ」

は？

「だったらオレと入るのも恥ずかしいと思えよ！！中身はレオモンより俺の方が歳上だぞ！！」

「レオモン一緒に入る？」

「いや遠慮しておこう。それよりインプモンが外で遊んでたからな。しっかり洗って汚れを落としてやりなさい」

おいしい!!

「うんわかった」

「!?ちよ!なんでアツサリ！」

「じゃ、お風呂に言ってくるね」

「イヤアア!!ストレスで死んじゃう!!」

「女の子の裸がストレスって失礼だよインプモン」

「ふ、相変わらず騒がしいヤツだ…」

アイツと出会ってからもう五年か。

五年前か……時期はそうだが、やはりアレがそうとは信じられないな。おれは安全だ

と言っても……

「……………強硬な手段にでる話もある。行くべきか。雄英に……」

インプモン2

生まれ変わってデジモンになってた俺。生まれわってレオモンやジュリとすごすことになった俺、ジュリとはいった風呂を上がった俺（死んだ魚の目）

ジュリのやつ隅々まで、隅々まで

幾らなんでもあそこまで洗うなよ。

しかも執拗に……………

風呂あがりホカホカとした髪を拭くジュリ。

下着姿で。

服着てから拭けよとか言う気力はない。

ジュリはパジャマを着た。

オレはジュリに抱き抱えられてレオモンのいるリビングに。

体長二メートルは優にあるライオンの頭を持った獣人、リビングで静かに瞑想をする

様に目をつむっている。鍛えぬかれた体に刻まれた無数の傷、歴戦の戦士を思わせる。中学三年生15歳のレオモン。

風呂から妹とインプモンが帰ってきた事に気付き目を開いた。

フロ上がりの一杯を飲むジュリは気持ちよかったという顔だ。そんなジュリに抱えられたインプモンの目は死んでいた。哀れな。

ジュリもいい加減にインプモンを風呂に連れ込むのは止めたら良いのにな。ジュリもインプモンが五歳の感性でない事は知ってるはずだろう。流星にインプモンに裸を見られて何も思わないという事はないだろう？オレも何度かインプモンが居ない時に説得したが、素直なジュリが珍しく聞き入れない。

何か理由でも有るんだらうか。わからない。インプモンから風呂の時のジュリの目が怖いと聞いているが……まったくわからないな。

オレは改めて死んだ目のインプモンを見た。

ジュリに無抵抗に抱き抱えられている。その姿にインプモンには悪いが笑みが出てしまう。

個性社会であるこの世界でオレやインプモンの様なデジモンの個性の持ち主は、強者と思われている。逆にジュリは無個性でありこの世界で弱者とされているのだ。

無個性であるジュリは自分が弱者であると自覚してか、明るく見えてあまり心の内をさらけ出す事がない。他人どころか親やオレに対しても遠慮をする。そんなジュリが唯一完全に心を許していると思えるのがインプモンだ。ジュリはインプモンが居るときには本当に明るい顔をするようになった。本当に……。ジュリにとって、いやオレにとつてもインプモンは大切な家族だ。

誰になんと言われてもだ……。例えばインプモンの過去がどうあれ……

オレは後悔している。

今のように家族と思わずインプモンの事を警戒していた頃のオレが、インプモンの事をアイツに話してしまったことを。

俺と違いアイツはインプモンを危険だと思っている。

俺の様にインプモンに直接関わればアイツもインプモンが危険だという意見をかえるか……。変わらないだろうな。責任感の強いアイツだ。もし今が安全と認めても将来危険になる可能性があると言うだろう。実際のところ良くも悪くもデジモンは進化した事で性格が変わる事があるから、俺も強く否定する事ができない。

それに遅かれ早かれインプモンは大変な事になる。

それほど”知られていない”インプモンが成長期の今なら大丈夫だろうが、成熟期にでもなれば、恐らく気付く人間が出てくる。

そうしたらインプモンはなにもしてなくても渦中に入ることになる。放置なんてされないだろう。わかっただけで何も対応しない訳にはいかない。そこでオレはインプモンの事を信頼できる相手に相談した。

やはりあれの話に乗るしか無いか。

オレはインプモンの目に生気が戻ったのを見計らって、ある人、いや人ではないか。人でいいのか？ある人？から渡された紙を取り出した。

「少しこれを見てくれ」

「なんだこれ？雄英高校の推薦状」

「え、……本当に雄英の推薦状!？」

「ぐえ」

「あ、ごめんね」

ジュリが驚き驚いた拍子に力んだのか、抱かれてるインプモンが潰されたカエルのような声を出した。

「雄英ってことはレオモンはヒーローになるのか？」

ジュリの腕から抜け出したインプモンが聞いてきた。ヒーローになるか聞かれた理由はわかる。世間からして雄英に入ろうと言うならプロヒーローを目指すと言ってる事と同義だろうからな。

聞いておいてインプモンは興味無さそうな顔をしている。しかし本心は関心を持つてるのを隠そうとしてるな。隠さなければ嫌悪感が顔に出ているだろうな。……インプモンがヒーローにかんして良い感情が無いことはわかっていた。有る方が可笑しい。

インプモンの近所からのイメージは悪ガキ。謂れない事で怒られる姿を何度も見たことがある。別にインプモンは悪さなんてしてはいない。少なくとも俺が知る限りな。ワルガキと言われた原因はあるプロヒーローだ。

インプモンの姿は小悪魔の様に見える元から悪さをしそうというイメージを持たれやすい。火の無いところに煙が立ちやすい状態だった。

それでも何もなければ問題はなかったが、あるプロヒーローが、近隣にたいしてインプモンが悪さをしたら自分の事務者に連絡してほしいと頼んで回った。

プロヒーローに悪さをすると疑われるインプモンの評判は……。そんな事があったんだ。インプモンがプロヒーローにいい感情を持てるはずがない。

ジュリは複雑そうだな。

インプモンの事でプロヒーローにだいぶ怒って嫌っていたからな。

かくいうオレもインプモンのことでプロヒーローになる事には抵抗がある。

そもそも今回雄英に受験に行くのは正確にはプロヒーローになる為じゃない。

それとジユリもインプモンも勘違いをしている。

「ジユリ、雄英に推薦されてるのはオレだけじゃないぞ」

「え？どう言うこと。推薦されたのって誰」

誰となんで聞く。この場で推薦の対象となる相手は……無意識に違うと思ったか。

オレはジユリを指差した。

ジユリとインプモンは何故かジユリの後ろを見た。何処にも居ないと言いたげにオレを見た。

俺は少し溜め息をはいた。

ジユリとオレは15と同じ年だ。しかしジユリは無個性、ヒーローに重要とされる個性がない。だから雄英に推薦されるとは欠片も思えないか。オレは推薦状に書かれてる名前を読めと指を指した。

「えーと名前が書いてあるの？推薦されたのは加藤ジユリ…加藤ジユリさん何処かで聞いたような……え!?私!!ど、どういうこと。それにレオモンのパートナーって書かれてるよ!」

ジユリは混乱しインプモンも困惑している

「どういうことだ?」

「雄英ではデジモンの個性の持ち主はパートナーとともに推薦を受けることができるの

だ」

デジモン個性の持ち主は信頼関係のある誰かと共にいると力を増す事ができる。その相手をパートナーと呼ぶ。

「私がレオモンのパートナー……?」

驚いたのかジュリは放心していた。

「パートナーって理由で一緒に高校の推薦受けるものなのか?」

放心したようなジュリの代わりにインプモンが質問してきた。

「恐らく現在活躍しているデジモン系のプロヒーローの多くに、サイドキックとしてパートナーが存在するからな。そこから考慮したんだろう」

自分でも少し辛い言い訳な気がするな。

「そういうものなのか?……まあそれはいいとして、それよりジュリがレオモンのパートナーってどういうことだ?」

インプモンの言葉は聞かれて当然の事だ。

考えていた言い訳を口にした。

「それは、すまない……たぶん俺のせいだ。」

「レオモンの?」

「ああオレに推薦の話が来たときになんだが、一番信頼する相手を聞かれてな。それに

ジュリの名前を言った。恐らくそれでジュリがパートナーかパートナーになれると思われたんだろう」

「パートナーと誤解されて私も推薦されたんだ」

「俺としては誤解でなくても良いと思っっている」

「え」

オレはオレの『デジヴァイス』をジュリの前に出した

「れ、レオモン!?、これ」

ジュリが慌てている。

デジヴァイスはデジモン系統の個性の持ち主が、生涯に1つだけパートナーの証しとして作り出せるとされる物。デジヴァイスには出来る条件がある。第一に相手との信頼関係が深いこと。そして第二に相手が無個性であることだ。信頼関係もそうだが無個性であることという条件が厳しい。今の人の八割が個性持ちだからな。厳しい二つの条件にジュリに適合する。

「ジュリがオレのパートナーになる事がイヤだと言うなら訂正してくるし。推薦も無視して貰って構わない。……だがもしジュリがパートナーとなってくれるならパートナーの証であるこれを受け取ってくれないか」

オレはジュリの言葉を待った。

「そ…その、えっと……………えーっと、驚いたけど、レオモンのパートナーになるのは嬉しいよ。けど本当に私で良いの」

「ジュリが一番信頼できる相手だ問題はない。これを、パートナーとしての証を受け取ってくれるか」

「…っ…うん、」

ジュリはデジヴァイスを受け取った。

まるで壊れ物を扱うように。見掛けはプラスチックだが強度はソコソコあるぞ。

「これでジュリはオレのパートナーとなった。これからもよろしく頼む」

「こ、こちらこそよろしくお願ひします」

ジュリが顔を真っ赤にしている。インプモンはうわあ兄妹でと言っている……………なんだ、何かやってしまったような気が。

インプモンは何か言いたげにしていたがデジヴァイスを嬉しそうに握っているジュリを見て口をつぐんだ。

「そう言えばジュリは推薦も受けるのか」

ああパートナーはともかく推薦については承諾はされてなかったな。

ジュリは今度は悩んでいた。

ヒーローになるのは嫌か。それか英雄の推薦というのは重くかんじてか。それとも

無個性の身で個性のエリートが集まる場所というのは辛いのか。

「う、うーんお父さんはなんて？」

「……ジュリの好きにしていっていいと言っていた」

「そうなんだ……ちよつと考えさせて」

オレは無言で悩むジュリの言葉を待った。

「うん決めた……私……雄英の推薦受けるよ」

「そうか」

俺は頷いた。

「じゃ夜も遅いしそろそろ寝るか」

「そうだね。インプモン一緒に寝ようね」

「イヤだよ」

ジュリが推薦を受けると決めたことで話が終ったという空気になってる。肝心の事がまだ終わっていない。まさかジュリの名前だけでもう一つに気づかないとは

「待て」

「おお！レオモン助けてくれるのか！」

「いや別に一緒に寝るのは止めるつもりはないが」

「おい」

「それより二人とも……推薦状をもう一度ちゃんと見てくれ」

「もう一度みるの？あ、インプモンの名前があるね………え？」

「マジか!?え、ほ、本当にオレの名前も書いてあるな?……印刷ミスか」

印刷ミスはないぞ。

「インプモンもオレと同じジユリのパートナーデジモンとして推薦を受けている」
「ん？」

インプモンさん

オレが雄英に推薦された？

レオモンとジュリとオレが毎年体育祭を放送する倍率300とか可笑しい有名高校に推薦された？

まあレオモンはすごいし雄英に推薦されても納得できる。ジュリもパートナー枠とかなうのでレオモンのパートナーって事で一応納得として、ならオレはなんだ？二人はともかくオレも推薦されてるの可笑しいよな。

おれただの成長期だし。評判もアイツのせい以最悪、それに年齢、精神年齢はともかく実年齢的に高校は10年足りない。そんなオレが推薦されてるって絶対にあり得ないよな？

なら答えはあれだな、あれしかない。普通に考えればそれしかない。

うん、ただの間違いだな。どんな間違いをしたら推薦されるのか知らんけど。推薦されてるなんてありえないだろうし。

とはいえレオモンたちは間違いなく推薦されてるんだろうな。せっかくだし推薦状

見てみよ。雄英みたいな有名学校の推薦状興味あるし。

「推薦の試験は三ヶ月後だつて書いてあるな」

「え、あーそつか推薦でも試験あるんだ。雄英の推薦の試験も厳しいんだよね。私、大丈夫かな。私、無個性だし……」

ジュリ大丈夫か？雄英つてヒーロー関係で戦闘とかやらされそうなイメージが、ジュリの試験も戦闘関係とか無いよな。個性関係無しにジュリが戦うとか想像出来ないぞ。「安心しろジュリ。無個性である事は心配する必要はないだろう。まずパートナーである条件に無個性が有るのだからな。雄英もパートナーは無個性と知ってるんだ、試験では戦闘をしろとか無茶は言われん筈だ。恐らくパートナーとして俺をサポートをすればいい」

「そうなんだ。けどサポートかあ………どんなことすればいいの」

サポートね。アニメのデジモンのパートナーだとデジモンを進化とかさせるけど、そんな感じか？

「ああジュリに渡したデジヴァイスがあればできる。詳しくは後日に説明するが大ざっぱに言えばデジヴァイスでオレの強化などができる」

「良くわからないけど、此があればレオモンの役に立てるんだね……」

デジヴァイスで強化、強化つて進化の事じゃないよな。そーいやジュリがレオモンか

ら渡されたデジヴァイスの形はテイマーズの。…スリットみたいなミゾあるな。つまりは、もしかして？アレが使えるのか？え、マジでそうならオレも使いたい！オレのデジヴァイスどこだよ!!

「けど出来るかな。レオモンのパートナーとして試験……試験のことを考えると今からもう怖いしドキドキする」

「ジュリあまり気負うなよ。オレとすれば合否の結果より後悔しない様にする方が重要だ。」

「う、うん、そうだね。じゃあ後悔しないようにインプモン、レオモン頑張ろうね!」

「ああ」

「お、おう……?」

え、ジュリの中では本当にオレも本当に推薦受けた事になってるのか？オレの推薦は間違いだし試験とか受けられないぞ？

「さてそう言うことなら、早速明日から試験に合格するための特訓をしようと思うが、二人ともいいか？」

「うん、大丈夫だよ!」

「よくない」

オレの推薦は間違いで特訓とか意味ねーよ。

「と言うか推薦が本当としても特訓とかやりたくねえ。レオモンの特訓とか辛そうだし。」

「日曜に特訓とか嫌に決まってる。明日は寝る予定でつまってるしな！」

「二人ともやる気は有るようだな」

おいオレの発言は無視か。このライオン野郎は特訓を強制する気か。ジユリ以外には自他共に厳しいレオモンならやらせそうだ。

「明日はちようど日曜日で天気もいいようだ。特訓日和だな。ジユリは明日の朝6時から特訓を始める」

よし6時前に逃げとこう。

朝日が眩しいなあ。今は朝の五時ちよつと……。

川原を腰にロープで括られたタイヤ付きでヒイヒイ言つて走ってるオレ。オレの後方を走るオレと同じ様にタイヤを引きずってるライオンヘッド野郎。

「なあレオモン、特訓は朝の6時から言つてなたよな!？」

5歳相手に日も出てない四時から特訓スタートとかふざけんな!六時つて言つてただろ!誤差なんて時間じゃねええ!四時に起こされて逃げたけど捕まって走らされて

るオレは可愛そっだろ！

「ジュリはな。体力がある俺達と同じ特訓をするわけないだろう」

「なら最初から別時間で教えといてくれよ」

「特訓の時間を教えていたらお前が逃げるとおもったからな」

「おいおい逃げるわけないだろ。それよりオレそんな体力ないぞ！普通の五歳児ぐらいの体力しかない！」

「……オレから寝起きで一時間も逃げた奴の台詞がそれか」

呆れた顔をされた。え、1時間も逃げたのか。後ろから追ってくるライオンヘッドから逃げるのに夢中で気づかなかつた。火事場の馬鹿力ってやつだよな。無駄に体力消耗しただけだけどな！

「なあ何時まで走ってればいいんだ」

「む？そっだなとりあえずジュリを起こす6時になるまでは走るつもりだ。それはともかくまだしやべる余裕があるようならペースをあげるぞ」

うそ……だろ？

マジだった。

「インプモンおはよう。大丈夫？」

「おうジュリ。ライオンヘッドヤロウの鬼畜に過剰なトレーニングとかアホだつて言っ

てやってくれ」

コヒューコヒューと言いながらオレは地面に倒れてる。話すの辛いわー。知ってるか某ゲームで疲労とかたまったらデジモンの寿命縮むんだぜ。

「ああインプモン、1時間休憩して疲労が取れたら特訓再開だ」

oh……前世の某ゲームで休憩挟んでトレーニング漬けにしたデジモンに謝りたい。

ふと思ったこの特訓つてまさか……三ヶ月後の試験まで続けるのか？つて。流石に無いよな。そうだよな！

………無いとか無かったぜ。

あれから3ヶ月、毎週末休日は潰され毎回到無意味な猛特訓をやらされた。オレ5歳だぞと言ってもこう言うときには5歳扱いたないライオンヘッド野郎によって特訓、休憩、特訓、休憩の最低半日続く拷問みたいなローテーションでな！

成長期の特訓のせい、もといお陰でステータスにしたら二桁ぐらい上がったか？つて感じだ。特訓の度に身体能力が上がるしデジモンワールドみたいにガンガン身体能力が上がってて感じがした。あと寿命が毎日ガリガリ削れてる感じがした（震え声）

…英雄の誰か知らないけど間違えてオレも推薦扱いにした奴覚えてろよ。

特訓を受けてたらいっつのまにか3ヶ月経ち試験日だ。マトモに記憶が残ってないってヤバイだろ。なんか思い出そうとすると体が震えるんだ。

「き、緊張するね」

「うむ」

何処まで続いているかわからないデカイ英雄の校舎を見てジュリがそう言った。あのレオモンも緊張してる感じがする。オレは緊張しないのか？

するわけないだろ。オレは推薦は間違いでしたって言われて帰るだけだろうし。緊張とかする理由がない。……ほんとなんで特訓とかやらされたんだだろうなあ。

オレの推薦間違えたやつ会えるかな…、英雄関係者だろうし…会ったら三ヶ月の思いを込めて是非とも殴りたい……。

「インプモンなんで泣いてんだ？」

恨みを思い出したら三ヶ月の苦しみを思い出しちまったよ。

「じゃあ入ろうか」

どこら辺でオレは間違ってたって言われるんだろうな。あの確認してる所でかな。

「推薦の確認はされました。どうぞ中にお入りください。」

ん？

『じゃあ！これより試験の説明をするぜ！』

まだ帰れないのか。

『試験開始！』

…え、なんでオレ試験に参加してんの？

ゲートに巫女さん

私は気付くと生まれ変わった。

うん、事故ほい衝撃を受けたみたいない記憶を最後に、記憶が途切れて性別も体も違う状態で若返ってたからそうとしか言えないでしょ。それで生まれ変わると言えば異世界とか未来とか想像するけどまさかの過去への転生。

過去なら知識チートできる！と言えるぐらいの大昔な過去でなく。前の人生から10何年前、微妙。

それでも未来の知識が少しぐらい役立つと思えば役立たず。知ってる歴史と同じに見えて違つてたりしてる。同じ歴史に見えて微妙に違う。

テレビに出る有名人が知らない人ばかり。ただ完全に違うつて事もなく似た別人つて感じでパチモンみたいに違うの。

まあつまり、私は微妙に違う平行世界ほい過去に産まれたつてことよ。

最悪よ。完全に違うならともかく本当に微妙に同じで、前の記憶がチートどころか混乱の元にしかならないわよ。お陰さまで社会の成績が最悪。二回目なのに微妙な成績という悲しい二度目の学校生活を過ごしたわ。ただでさえ名前で最悪なのに。

で、なんでこんな事を思い出し出してるかと言うと、数時間前に解ったけど、私ってだいぶこの世界への認識を間違ってたみたいなのよ。

歴史がちよっと違うだけの微妙に違う平行世界みたいな所に転生したと思ってた。……思ってたのよねえ。

今日は前世で最期を迎えた年月日が同じ日。

なんの偶然か運命か命日と同じ日に認識を訂正する事になったわ。

この世界は微妙に違ってる過去世界でなく、微妙でなくて致命的に違う世界だった。数時間ぐらい前からもしかしてこの世界ってアニメとかゲームの世界？と思いい中。

イヤだつて。

数時間前の話し何だけど……今日は私は銀座に遊びに来てたんだけど、銀座で兵隊とか竜とか魔物を見ることになったのよ。その出てきた竜や兵隊に銀座が襲われた。そんな光景を直に見たらこの世界への認識は一瞬で変わるわ。

アニメかゲームの世界疑惑。

まあアニメかゲーム世界でなくてもこの世界はもうファンタジー世界でしょ。

世界がいきなりファンタジーよ。現実世界カンバークって言いたいけど、前世持ちな自分とかもファンタジー陣営かなあ。実際のところ”今の身体的に”前世抜きにも今の私は極大にファンタジー陣営なのよねえ。参ったわー……。

いやはや本当にまいったわー。

銀座が襲われて数時間後に、まさか私が”警察の人とか自衛隊っぽい人達に囲まれるとか。

今日起きた事を端的に一から説明してくとー私はネット友の誘いで興味本意で初コミケの為に東京に来てた。2 東京銀座にて自称自衛官のネット友と合流して見掛けに驚かれた。3 銀座の人混みに酔ってダウン。4 謎の建造物から魔物とか兵隊が突然でてきて周りの人を含め襲われる。5 襲われ反撃。6 警察の人やら自衛隊の人に囲まれふ。

7タスケテ。↑今ここ。

ね、これで大体の状況がわかった。

まあ肝心なのは5辺り。文字通りに銀座を襲つてた相手に自分も襲われたから反撃したのよ。勢い余つて相手が全滅するぐらいに。これは今も地面に転がつてる兵隊とか魔物とかの死屍累々を見れば嫌でもわかるわよね。死屍累々とか思つたけどたぶん死んでない、と思う。

なんで私が兵隊とか魔物相手に無双出来たかといえ、簡単と言えば、転生には不思議。パワーが憑き物というお約束から私も外れてなかつたから。

で、不思議。パワーで反撃して色々見られた結果、今囲まれてると。やつちまつたぜ☆。

ああ面倒くさいことにはなりそう。

もう面倒くさいんだつた。

今から逃げても余計に面倒そうだし。顔を見られてるなら身元とか簡単に特定されて逃げても家に来るわよねえ。覆面しとけば良かった

「……あー最悪」

あ自衛隊の人達がざわざわつてなつた。

ただの”巫女服”の子供の愚痴なのに

困む前にやることあるわよね？自衛隊の代わりに銀座を襲ってたのを民間人の私が兵隊とか倒したんだからせめて感謝しろと思うわよね。その感謝の証にコミケの再開に尽力すべきと思うのは可笑しな事でないと思うわー。

「そう思わない？自衛官の人」

「あー俺個人としてはとても感謝してますんで」

自衛官なネット友。今回銀座に来ることになった切っ掛け。

私としてはこの人の立場が羨ましい。

私が銀座をおそってきてたの相手に無双してたときに、避難誘導で活躍してたそう、それでヒーロー扱いされてんの。羨ましい。わたしや人助けして危険物扱いされてるのに。

これから色々言われるだらなあ。

「あー面倒くさい」

「その台詞すごい似合うなあ……」外見的に」

はあ。

この人もだけど、兵隊とか倒してる時の反応的に、絶対に面倒な誤解を受けてる。実

際のところ外見にプラスして名前もアレだし。たぶん私が”本物”みたいなこと成るわよね…。

本当に此れからどうなるか考えると心底面倒くさい。なんでこうなったか。

「このおじさんの（コミケで）良いものを見せてくれるって言葉を信じたばかりに……」

「おーい。その見掛けでその台詞は少し犯罪臭がするから言葉を選ぼうか」

「この人、私を18禁ブースに連れていってくれるとか言ってた」

指差して言ってる。

「いやいや、言ったのは本ただけど!?違うだろ!?ネットでは知らなかった時でーあぁ
!ほらオレもう犯罪者を見るような目で見られてる!?この子と何かしてたとかないで
すからねー!!」

因みに私は見掛けた中学生ぐらいの女の子。ただしネットでは中身の年齢から40代男と名乗ってたんでその体で其処のネット友と会話をしていた。兄貴分的な感じで、実際に会ったときの反応は面白かったわー。

「なにもしてない?私と何時も深夜に（ネットで）あんなにエロトークをしてたのに……」

身を引くようにしながら、見かけだけなら清楚系の美少女と言われるこの容姿で言う。

「おおい?!それ!!それネットの中だけ!大嘘言われてたからそう言うトークしてただけだから!」

「嘘ってなんのこと?」

「いや年齢と性別!ネットで40代の男とか名乗ってたろ!どこをどう見て40代男になるんだよ!」

「ああこの姿を本当のモノだと思ってるの」

「ほ、本当の姿、それって!」

「ふふふ……地面に倒れてる人たちを倒した”力”を思えば、姿ぐらい簡単に化けることができると思わない」

「つまりその姿は偽り……」ゴクリ

ゴクリとか息をのむの初めて見た。

実際この姿はなまの生なんだけど、別人って事にして一時逃げられないかなあ。それから後は姿を借りられただけで私は無関係と言いつ張ると、これでなんとかなるかな……難しいわよねえ。はあ本当に変えられるなら、ネット友の姿になっておいて生け贄にするとか出来たのに……」

「……姿を変える力があるならおれ生け贄にされてたのか」

うん、え……あ。

「声に出てた？」

周りを見たら生温い視線で頷かれた。ネット友はジトつとした目で見てくる。本当に漏れてたばい。これは不味い。

「と言うのは冗談、生け贄じゃなくて身代わりにしようと思っただけから」

「同じじゃねーか!!」

それから紆余曲折、銀座の近くの無駄にいい感じのホテルの部屋に……軟禁されてる中なう。

やっぱり面倒くさいことに。

要求して用意された漫画を読みついでにジュースを飲みながら此れからどうなるか深く思い悩んだ。

スマホでテレビを見るとどの番組でもトップニュース扱いでもう銀座事件とか言われてる。

私は……あまり出てない。

テレビはまだ隠してる感じ。けどYouTubeに銀座関係の動画がアップされて

る。その動画の中の一つ。タイトルは銀座事件にて戦う巫女？美少女、なんて安直でイヤなタイトル。絶対自分の事だろなあ。……………巫女の前に？が付けられてるのはらたつ。一応巫女なのは本当なのに。

動画を見てみると……………うわあ

私の戦闘シーンって外から見るとアレね。

自分が魔物よりファンタジーに見える。”弾幕”って他人視線だところ見えるんだ…、弾幕の雨、綺麗だけど、攻撃されるがわにはアカンね。1VS 万単位ぐらいなのに1が圧勝。鬼とか悪魔を見るような目で見られてるわあ。

あとこうして戦闘シーンも含めて客観的に見てもまんま……………私の姿ってあのキャラよねえ。

オープン○ちゃんのコメントは……………

私は神の存在を信じるかもしれない。

(; 。 D) (; ; 。 D) (; ; 。 D) (; ; 。 D)
コレマ？

わおーん、まつりじゃああ!!

嘘だろ。嘘だろ。嘘だろ。幻想は本当にあったのか!?
なに祭りとかいってんだよ。

喜んでる奴等はなんだよ。不謹慎なやつ多すぎ!マジで犠牲者が出てるのにこんなCG出すとか。

え?CGなん。

まだ銀座事件から一日経ってない。一日未満でこんなCG造れるもんか考えろ。

無理無理。

いや!CGだよ!!オレ現場で生で見てるけど…!!(;。v。)

現実逃避ですかね?

現地の目撃者とか居るのか。

いや銀座みたいな大都市なら目撃者とか五万と居るだろ。

わ、私も現地目撃者!長い黒髪で頭にリボンを付けた巫女服の綺麗な女の子が生身で飛んでて、その娘が光る玉を一杯出したのよ!どうなってるの!巫女さんって魔法が使えたの!今からでも巫女を目指すべき!!?

どうどう落ち着け。

脇が見えるのエロい。

いきなり何をいってるんよ?飛んでる女の子の話?エロいとかは置いとくとして

……動画の服って、これ巫女服なん？

えー巫女服？としたらだいふ普通のとは違うね。まるでアニメ向けに改造された様な。いやこの場合は実写版というべきか。

クオリティがスゴいけど何処の監督が撮ったんだ。

え？

やっぱり光る玉って……弾幕？この女の子はやっぱりさ、わ、脇巫女さまだよな？リアルに体が震えてるんだけど

弾幕？

なんかさつきから変な反応してるヤツが居るけど、何なんだ。この少女の格好って巫女か？

変な反応……(・ω・)

ウザイ。古い。

変な反応もそうだけどコメント延びすぎじゃ。メインの銀座事件よりこの少女単体の事が異常にコメントされてるよな。確かに一番の注目株だけど、なんか反応も含めて変だよな。

そもそもこの少女って日本側なのか？綺麗な黒髪だし見掛けは日本風ぽいけど……力は魔法。ほいし門側だよな。

まあ日本かは不明だけど、魔物とか兵士を倒してるし少なくとも敵じゃないだろ。門の向こう側ってあの世界なのかな……

オレ今は巫女の少女の事しか考えられない。とりあえず知らんひとは東方Projectと検索してみたら良い。

だよな！俺も銀座の門の事とか頭から吹っ飛んだ。

なんで吹っ飛ぶんだよ、銀座の人が襲われたんだし絶対女の子の事よりも大事だろ。

わからんやつならそんな反応するよな、ぺっ

おいこら

なあ質問なんだけど……本物だと思うか。

は？本物？

だからあの少女の姿見てそんな反応するやつは東方Project検索しとれ。調べたらわかるのか？ちよつと調べてくる。

偽物だ！ただのコスプレだろ！

アホか！巫女コスプレで空を飛んだりできるか!!出来るなら今オレも飛んでるわ！
今なんて

上の奴の格好を想像して吐き気が。

あーやつぱり面倒くさい誤解が、東方Projectって絶対にあのキャラクター想像されてる。けど名前はなぜか出てきてない。あ、新着のコメント。

さつき東方Projectの事を調べるとか言ってた人のコメント……あーついに私の名前が、中々名前は出てなかったのに

ちよ！この東方Projectの主人公っぽい博麗霊夢ってキャラ、あの銀座で無双してる女の子まんまじゃないか!?

ゲートに巫女さん2

居並ぶ官僚や大臣、全員が其々の険しい顔で会議室の大型のテレビを見ている。其処に映るのは銀座で撮られた映像。平和な銀座に突如現れる門、映像は門が出た所で停止する。

「ご覧の通りちようど門が銀座に出たときの映像になります」

「本当に突然現れてるな……」

「ワープというものか？ 相手はワープ技術を持っているのか」

「そんな技術を持ってそんな相手か？ 相手の装備を見る限りどう見ても中世相当だぞ」

「そうだな。あの門の機能は科学的な技術と言うより、魔法や魔術の結果としか言いようがないのではないか？」

「魔法か……笑い話にも成らない筈なんだが、あんな竜や魔物が存在したのを見ると否定は出来ないな。あの門の向こう側はファンタジー世界か」

「いやあの少女の事も考えると……この世界にも元から魔法の様なファンタジーに類する力が存在している可能性は大いに有りますね」

「あの少女か……」

「その議論については映像を見てからにしましょう。コレから先の映像に件の少女が映っていますので」

停止されていた映像が銀座に突如現れた門の所から再開された。

『スゲエあの門いきなり現れたよな!』

『あ、ああいきなり出た!これ絶対世界的にニユースになるべ』

『門が出てきた所を撮ったのスゲエレア物になるよな』

『なるなる!後でYouTubeに流そうぜ!』

撮影者らしい危機感のない嬉しげな興奮した声が聞こえる。そんな声の中で門から続々と現れる兵士、ワイバーン、それをみてようやく撮影者はなんだあれ?と少し緊張した声も出した。

しかし笑い声がまだまだ聞こえる。

映像が一頭のワイバーンに向いた。

ドンドンと近づくワイバーン

『あれなんかこっちにきて……』

撮影者の前のひとが……食われた。

撮影者の悲鳴が聞こえる。撮影者は逃げ出したのだう。映像は反転し映像が揺れ撮

影者の荒い息の音が聞こえる。撮影していたスマホ等を落としたのだろう。映像が空を映す。

『ぎいああ!!』

そして撮影者の声としか思えない断末魔が聞こえそして、噴出した血しぶき。見ている要人達の顔を青くさせた。

「このあとです」

暫くは空だけだった映像に空を滑空する紅の服を着た少女が映った。

「あの少女だ」

「……完全に生身で飛んでいるな。まだ竜の方が現実的に見える」

「門とは反対方向から来たな。やはり……」

映像は別のモノになる。今度は全体がハッキリ映り空を飛ぶ少女が映されている。赤い服は何処か巫女服の様、長い黒髪に大きな赤いリボンを付けた、下手なアイドルよりも可憐であり綺麗な少女だ。

少女を襲おうとする兵士を乗せた竜。少女は鋭い竜の攻撃を避ける。少女の手のひらに現れた光る弾。少女が竜を避けざま光弾を当てると兵士を乗せた竜は地面に墜落した。

「一撃か。あの竜の皮膚は銃の弾を防いでたんじゃないのか」

少女の周りに赤と白半々の二つの珠が浮かんだ。

「……陰陽珠か？」

少女の周囲を回転する珠から先程少女が手のひらから出した光弾の様なモノを連続して撃ち始めた。

竜に肉体的な損傷はほぼ見えない。しかし光弾の当たった竜は同乗者を乗せながら意識を失ない落ちていく。

「これは……一方的だな」

余りに簡単に落とされた仲間を見て竜に乗った兵士達は少女から逃げようとするが、少女は竜を逃がさず落とす。粗方の空の竜を片付けると少女は地面を見下ろし人を襲う兵士達を見た。少女が護符の様なモノを手にもち何かを口ずさむと地上に光弾の雨が降り始めた。

「す、凄まじいな」

映像一杯に飛び交う光弾。

「これはスペルというやつか？」

まるで光の流星の様に地面に光弾は地面に落ちていき兵士やゴブリン、オークなど銀座を攻めていた者達に当たる。肉体的な損傷は竜同様に見えないが光弾に当たると

続々と気絶していく。まるで光弾によって肉体以外に衝撃を受けたかの様だ。その光景を呆然と見る襲われていた人達。

光弾の雨が止む頃、倒れた襲撃者達を見て自分達の命が助かった事に遅蒔きに気付き喜ぶ人々。唾然とした顔や笑顔や涙で自分達を助けた空に浮かぶ少女の事を見る。助けられたせいか超常の力を使った少女に向けるその目には恐怖はない。一部にただ困惑や戸惑い驚愕の感情が見えた。

映像に少女を見ながら口をパクパクさせ痙攣した様に震えている男が中にいた。

『あ、アレツて博麗霊夢じゃないか?!』

その声を聞いて嫌そうな顔を浮かべた少女。映像は少女と門を拡大した映像で静止する。国民の死と常識を悉く逸脱した映像を見終えた要人は疲れた表情を浮かべていた。

「これより銀座に現れた門とこの少女『博麗霊夢』について議論を始めたいと思います。先ずは配られた資料をご覧ください」

真剣な顔で資料を見るこの日本の要人達。

その要人達が真面目に見ている資料には銀座に現れた少女に似た可愛い女の子のイラスト、そして表紙に書かれた文字は“東方 project”。

銀座が襲われた。

私は無双した。

そして絶賛後悔中。

今なら絶対にあんなことをしないとと思う。

軟禁されるし。

あーなーなんでよー。

銀座で無双後、自衛隊ほい人達によくわからないまま軟禁されて今は丸一日は経過。

軟禁場所が豪華過ぎるホテル、居心地悪い。

軟禁で自衛隊員だった我がネット友の伊丹が護衛役、パシリもとい買い物頼んだ伊丹氏が帰ってきた。あとエリートそうな男性達も一緒に来た。伊丹氏は良いけど後ろの人は帰ってくれない？

エリートと一緒に来て居心地悪そうな我が友。同じ小市民として気持ちはわかる。エリーートの近くとか最悪よね？それにしてもこの人たちの私を見る視線は何かイヤだわー。どういう目線よ。

「どうも初めまして私は真萩と言います」

代表みたいな真萩さんというエリートっぽいひとによる軟禁してる謝罪と社交辞令みたいな挨拶のあと、話は本題になる。

銀座でやった力の事とか聞かれたらどうしよ。

別に話せない事じゃないけど。

私の使ったの靈力で、親代わりの人に修行させられて身に付けさせられた。嘘じゃないけどこれいって信じて貰えるのかなあー

「貴女の名前が博麗靈夢というのは間違ってるじゃないですよね」

「一応」

答えながらあ、これはアカンやつだと思う。

名前をこんなしつかり聞いてくるって事は、エリートそうなのにそう言う知識がある。力の事じゃなくてその方向からかあ。

「…ええ…本当にそうなのか」ボソッ

伊丹氏が何かシヨックそう。

その反応はどうよ？

というか銀座の時とかに名乗ったのに信じてなかったのか。

趣味で名乗った偽名とかでなく本当に今世での私の名前が博麗靈夢。別に自分で決めてない。親でないけど保護者みたいな人が名付けた。

「そして貴女の現住所は博麗神社」

これも本当、名前と神社の組み合わせにドン引きした事を今でも覚えてる。伊丹氏がマジか!？つて顔をして居る。別に幻想郷にあるあの神社じゃないからね。

それにしても遠回りしてる感じが面倒くさい。

「何が聞きたいの?」

流れる的に東方関係よね。なら聞かれても答えられる事とかないんだけど。むしろ私が見たい。私と神社の事を考えると日本には他にも東方関係の何か有りそうだし。

「では率直に聞きます。あの銀座にでた門の向こうには幻想郷が有るのですか?」

わー予想外な質問来た。

ええ私がアレだからって幻想郷が門の向こうに有るとか思ったの。他にこんな事を聞いてくる理由は考えられない。エリートそうなスーツ姿の男性はト真剣な顔。とりあえず頭大丈夫?という視線を向ける。強張った顔をされた。幻想郷が有るのみたいな感じで興味津々そうな伊丹氏にはむけない。なんでだみたいな目を向けられた。それは同じオタクとエリーートの扱いは違うに決まってる。

「違うのですか、あの門の向こう側は幻想郷じゃないと?」

「……そもそも私はあの門の事とか知らないんだけど。襲撃された時に一回だけ直接見ただけで後はテレビとネット情報ぐらいしか知らないから」

本当になんなのだろうあの門は。まあわからないけど、門の向こう側が幻想郷の可能性は、どうなのかしら？…出てきた相手を考えれば向こう側は幻想郷じゃないと思うけど。

「それと幻想郷があるとか聞いてくるって事は勘違いしてるみたいだから言うけど」

「なんですか」

「私は東方 Project とかの霊夢とかじゃないからね？力と名前があれなだけで私はただの一般人だから幻想郷がどうか知らないから」

「……そうですか。あの門の先は幻想郷でないですか」

引っ掛かるいいかた。

それに

「東方 Project の霊夢じゃないって言ったのスルーしてない？」

「申し訳無いですけど、本当だとしても、私の立場ですと違うと言われて簡単に信じる事が出来ないのです。ご理解ください」

「面倒くさい」

相手と状況で二重の意味で……

「まあそつちがどう認識してもいいけど……それより私はいつ帰れるの？」

「それも申し訳ありませんが難しいですね……」

「…あーそう」

「本当に申し訳ございません。しかし此方の事情抜きにも帰るのはやめた方がいいですよ。スマホなどで情報を見てる様ですから判られると思いますが、銀座事件での映像で貴女を東方の博麗霊夢と見ている人間が沢山居ますからね。もし帰ったらどうなるか、他人事ですが想像するだけで恐ろしい……………それでも帰られますか？」

無言で首を振った。

一応察してたけど言っただけでほしくなかった。やっぱり名前と容姿だけならともかく力も見せたらそう思われても仕方ないかあ。

外に出たいのに出れないこの現実。人助けしたのに不幸になるってなんなのよねー。と言ってもあの時はあのまま見捨てるのも無理だったし……………はあ

こう言うときは酒飲まずにはいられないってね。私は伊丹氏がさつき持つてきてくれたお酒の瓶も開けようとする。ふふふ、お酒を飲むのは何年ぶりだったかなー。前世からだから10年以上ぶり。ん、伊丹氏がなんかヤベツツて顔をしてる。ああエリートさん達の前で飲むの態度悪いって？私的にも帰れない理由あるとしても私からしたら軟禁してる相手だし礼儀とかしつかりする理由ないと思わない？と言うわけでお酒ー。「ちよつとその手を止めてください博麗さん」

なによ。

「……………一つ聴きたいのですが、それは伊丹二尉が貴女に頼まれた買い物ですよ
ね」

私が頷くと物凄い顔で伊丹氏を睨んでる。なんだろう？

「貴女は戸籍上15のはずですよね」

お酒の瓶を見てそう言われた……………あーこれは…年齢的にお酒はアウトって…ここは
冷静に…クールに反論しないと、お酒が

「……………じ……………実は三年ほど保護者が出生届を出すのを忘れてて私の実年齢は1
8だし」

嘘だけど精神年齢だと40越えだしセーフ。

「お酒は二十歳になってからです」

二十……………ああ！素で間違えた。

「没収しろ」

ああ！お酒に魔の手が、いやああ。その子を返してえ。

「す、少しだけでも」

「ダメです」キツパリ

奴は大変なモノを盗んでいきました。

それはお酒です。

ろ。
それにしても、今回の事で改めて大変な状況って認識させられた。いつ帰れるんだ

……まさか帰れないとかないわよね？

ゲートに巫女さん3

コレから先の人生、コミケが中止になったあの日の事は忘れないだろうな。色々な意味で忘れられるわけがない。……銀座に門と兵士が現れた事を、俺が英雄みたいに報道された事を、そして博麗霊夢(?)が俺のネット友と知った事を………本当に現実つてなんだろうな。

銀座事件からもう数カ月、博麗霊夢(?)は軟禁生活をしている。そして俺は知り合いつて事で博麗霊夢のパシリ兼護衛役の任を受けさせられていた。

まあパシリだろうと全国の博麗霊夢ファンが羨む立場なんだろうな……。現実知らないつて羨ましいよ。羨むやつには是非ともジャージ姿でゴロゴロして休日のオッサン化してるコレを見てもらいたい。

「あ、伊丹おはよう」

軟禁から数カ月、もう完全に慣れたのかジャージ姿でグータラする姿は、現代風博麗霊夢って感じがする。……二次創作の残念な方のな。

「伊丹なんか変なこと考えてない?」

俺が伊丹って呼び捨てで呼ばれてるのは俺からの要望だ。呼び捨て前がネット友か伊丹氏だったしな。お前本当に見掛け考えろって言いたい。今見てるテレビも止めろよ。

日曜朝アニメ。燃えじゃなくて萌えのアニメ。某美少女の戦士が戦う長寿シリーズアニメ。子供は純粋にヒーローを見る目で楽しみ成人男性は思いつき不純な目で見るアニメ。

付き合いで見てるけど30オーバーな俺が見るの厳しいんだよ。寝転がって見てるコレはぎりぎ見てても可笑しくない見掛けはしているけどな……

「ツチ、なんであの角度で見えないのよ。いつも思うけどこのシリーズって毎回スカートで格闘戦してパンチラ一つしないの腹立つ。完全に物理法則無視して見せないの腹立つ。スパッツは良いけど、あのモコモコはなに？アニメのエロ規制いい加減にしろ。お風呂サービスマスまでするしず○ちゃん見習えつてのよね」

やーめーろー。

そんな美少女が言ったらダメな台詞をオンパレードするな。見掛けだけなら最高の美少女が日曜アニメを不純な目で見るなや！

『……』

女の子の変身シーン、発光でボディラインしか見えない。舌打ちが聞こえた。ホント見た目だけでも美少女から聞こえてほしくない。

「やっぱり変身シーンは隠さず全裸になるりりなのみたいなのが素晴らしいわよね。伊丹もそう思うでしょ」

俺に同意求めるなあ!!この部屋女性職員の監視有るの知ってるだろ!因みに霊夢の監視二割であと八割は俺が霊夢に何かしないかの警戒って理不尽割合!!

「ど、どうだろうな。俺的には見えなくても良いと思うな」

無難な発言でスルーする。エロ議論は勘弁してつかーさい。本当に見掛けだけなら可愛いんだからな。見掛けだけなら。大事な事なのど二度言つたぞー!心の中だけで。

「見えない方が?ああ伊丹はチラリズムが大好だっけ、見えそうで見えない方が萌えるって言ってたの覚えてる」

ああ!!!過去の俺のばか野郎!!何を言ってたんだよ。無難な発言したのにエロトークに完全に乗ったみたいな事になったじゃねーか。

過去の俺はネットで40代の歳上のオッサンと思っていった相手が実は年齢半分以上な美少女とか思うわけねーだろって言うんだだろうな。今のオレもそうだよなって頷く。

「そう言えば伊丹が好きな女の子で上げたキャラって、大体このアニメみたいに女子中学生キャラだったけ」

勘弁して。違うんや。ネットのノリで言っただけなんや……へへ絶対に後から世

話役兼監視の美人なオネーさんに汚物を見る目で見られるんだ。前に見たとき目が言っていた中学生の女の子（博麗霊夢）に何かしたら命は無いつてな！チラって見えた拳銃が怖かった。

ただでさえ博麗霊夢好きな知り合いのお偉いさんから、コイツがこんなのに成ったのお前のせいとか詰め寄られたのに……博麗霊夢の安全のために俺の下のを切り取ろうか検討されたとか嘘ですよ。

「あ、あくまでアニメキャラならその年齢でもセーフって話で、現実のはアウトと思ってるからな？」

真顔で訂正。

現実までセーフなら目の前のコレも対象だつて言うようなもんだろ！例え見かけが良くてもコレはない。本当にない。本当に大切なことなので二度いった！

「アニメキャラだけセーフって……それ2次元じゃないとアレが反応しないって話？」
「女の子がそんな言葉を口に出すんじゃないやありません。あと憐れみの目で見るな！」

コイツ一体どっちどうなんだろうな。本物か似てるだけの別人か。幻想郷を知らないとかは嘘をついてるとは思わなかったけど、あの力とこの姿を考えるとただの博麗霊夢の別人つてのは無理あるよな。……下ネタも東方MMDの霊夢のせいであの言動でも本物でもあり得そうとも思えるし。

政府はこの数カ月色々調べてるらしい。

オレが教えられてる範囲で言えば、政府が調べても彼女の両親は不明、今の保護者も記録的には存在するのに接触は出来なかつたらしい。それ以前に聞き込みしても霊夢以外に目撃者すらゼロだつたらしい。霊夢の証言で霊力の使い方とか保護者に習つたとか言つてたから、だから保護者探しは相当な人数動かしたらそうなのに手懸かりすら無かつたらしい。……その保護者が人間かとても怪しいよな。

このせいもあつて政府は本気で幻想郷があるパターンとか考えてるみたいだよな。幻想郷が本当に存在するか確認するのに幻想郷関連で色々調べてるつてきいた。

東方 project を作った作者は拘束されたり、日本の歴史とか調べたり、幻想郷の外で幻想郷に関連する高校生とかあの神社とか調べたりしてるそうだよ。

本当にあるのかね幻想郷。

そう言えば不確かな情報だけど東方 project に関係ありそうな誰かが見付かつたとか言つてたな。これはどうなんだろうな。

本當つて可能性も勘違いつて可能性も、嘘だつて可能性もありそうだよ。門の事もあるけど幻想郷がある疑惑で国外の作業員がだいぶ動いてるらしいしな。作業員の目を誤魔化す虚報つてのもあり得そうだよ。

作業員といえば当然だけど博麗霊夢の居るこのホテルにもだいたい作業員は来てる。

何人も撃退されてるんだよな。

最近、作業員の行動は過激になっててもうこのホテルには居られない。ここにいたら下手すると、いや下手しなくても自衛隊＋霊夢VS 作業員なんて事になりそうなんだよな。……それに政府の方へ掛けられてる圧力がシャレにならないそうさ。

作業員はどうにかなっても政府の方がどうにもならないレベルらしい。

だから動かなきゃいけない。

「明後日にはここにでるから」

「ここにを？……ああようやく家に帰れる」

残念ながら違うんだよなあ。

と言うか本人もわかってるだろ今は帰れないのは。

「いやここを出るだけだ」

「あーそう、で何処に行くの。ネットも繋がらないような離島とかなら流石に勘弁してほしいけど」

「銀座のあの門、ゲートの向こう側」

「ふーん………え？なんで？」

えーこちら博麗霊夢、ぽいと思われてる同姓同名で見掛けそっくりで力があるだけの博麗霊夢（別人）。現在地、私が大変な事になった元凶たる門の向こう側……

軟禁から数カ月待って家に帰れるどころか強制的に海外旅行って、異世界旅行ともいう。

教えてもらった事だけど私はハリウッドクラスのスーパースターより人気者

某国からは私への招待状。某国からは私の引き渡し要求。某国からは工作員による拉致。某国からは私が某国人だと返還要求。マスコミからは私の記者会見要望、と私は本当に人気者だったそうよ。まったく嬉しくない。

私関連で干渉を受けてもう政府も限界らしいから、お前ほとぼりが冷めるまで門側に行つとけとき、此方なら他国の干渉から逃げられるからってね。

「まあそれは仕方ないと納得するけど……誰、この服を用意したのは」
今着てるの紅白の博麗霊夢のあの服装。

コスプレの安いのじゃなくて肌触りの布地がものすごく上等。作りも確りしてるし。値段を想像するの怖いんだけど。値段もそうだけど私は博麗霊夢（本物）って主張するみたいなのこの服が用意された意味って一体……

そう言えば工作員とか色々大変とか言ってたし

「私が門の向こう側に行つたつて宣伝するためとか?」

場所が此方なら国内で私探しとか余計な事をされなくて済みそうだし。

「そう言う理由も、ある」

わかりやすい。

伊丹の反応的に他にも理由がありつてこと。

伊丹をジツと見る。

「あー…その服については…ある偉いお人が博麗霊夢はその格好じゃないとダメだつて言い出してな」

「…へー……………私たちの同類みたいなのが偉い人に居たんだ。けど私はその人の思う博麗霊夢（本物）じゃないからコスプレにしかならないんだけど?」

「中身はともかくその見掛けのクオリティーならコスプレとか思えないぞ。中身とか知らなきゃな」

なんで中身を二度言った。

「何が言いたいかわからないけど!それよりもう門のこつちがわだし着替えていい?

「ジャージはどい」

この服を着てつくづく思った。私のベストな服装はやっぱりジャージだね。

「ジャージはダメだ」

「いやいやなんでよ服装は自由でしょ」

ジャージの方が動きやすいし。こんな高そうな服を汚したくない。何よりこんな本物（博麗霊夢）ですよって宣伝する様な服とか面倒、なんか自衛隊の人すら変な目で見てくるし。

「とあるお偉いさんが血の涙流してジャージはダメだつて言つてな。ジャージは着せるなつて命令が来てるんだよ」

「なにそれ、そんなバカなことないでしょ、そんな命令するつてどんなお偉いさんよ。アホらしい。え、なにその顔、ええ本当の命令？』

頷かれた。

ま、まあ本当に存在する命令が本当だとしても。

「そんな命令こつちには関係ないから」

その誰か知らないお偉いさんの私情しか無いなら着てる理由はない。私とジャージの絆を断ち切ろうとする権力なんか屈しない。

「あーもしジャージを着たいとか本人が強硬に言うなら」

ふん権力にモノをいわせるつもり？

そんなの

「某お偉いさんは土下座してでも説得するとマジ顔で言つてただけど……着たいか？

そのお偉いさん50越えてて……現職大臣だけど」

「冗談、よね？」

「冗談だったら嬉しいな」

伊丹が遠い目をしてそういった。

……マジっばい。50越えの現職大臣の土下座……何てひどい脅迫！なんで普通に権力でなんとかしようとししないの！

着替えたい。着替えたいけど……はあ……仕方ない……さよならジャージ

これ権力に屈したと言うの？

ま……これをずっと着てられわけないし着替えられる時を待つしかないかあ。

着替えも用意されて全部同じデザインだった……。

服に妥協させられてからどれぐらいだろう、大規模な軍隊に自衛隊は襲われた。

ゲートに巫女さん4

門の向こう側の世界、この世界の人間が自衛隊相手に戦闘を仕掛けてきた。

防衛目的なのか。銀座でやられた逆恨みの復讐目的？私が殆ど返り討ちにしたから殆ど生きて捕虜に成ってるそうだし。もし復讐とかならアレね。

捕虜といえば人はともかく……竜とか魔物ぽいのか大量に捕虜にしたのどうしてるんだろ？

門の向こう側は数万の現地軍。

自衛隊は万未満と思う。

数だけ言えば自衛隊の圧倒的不利。

私はもちろん参加してない。

数時間前に真っ正面から戦闘を開始して自衛隊の圧勝。自衛隊の被害0。いやー激戦でしたねー。

自衛隊側は持ち込んだの旧式の装備らしいけどアレね。勝負にもなっていない。仕方

ない。相手は遠距離攻撃が弓だし。重火器の砲撃に攻撃前に終わってた。自衛隊の方は本当に自己防衛しかしてないし悪いの全面的に向こうなんだけど……

「どうしたんだ難しそうな顔をして……やっぱりキツイのか」

人の焼けた臭いとかするからキツイに決まってるし。それに……あーだいぶ居るのが見えるわあ。

あれ？……これって

「伊丹」

「どうした」

「さっき攻めてきたのって銀座の時と同じ勢力なの」

「……どうしてだ」

「えーと見たままの意見？」

私は色々と装備が違う”彼等”を見てそう言った。

「見たままってなんだ？」

聞き返してくるってことはやっぱり伊丹にはあれは見えてない。あの量だからって見えるとか無いのかあ。

「まあたぶん同じ勢力だろ？この門に態々あんな数で別勢力が攻めてくるなんて考えづらいし」

「そう思えそうだけど、えーと勘に引つ掛かるといふのか………あーまあいいわ」
見えてないなら説明するの面倒くさい、どうせ後からわかりそうだし。

「お前（博麗霊夢）の勘って洒落にならないだろ。ちよつと上に報告するぞ。銀座の時と別の勢力の可能性があるんだよな？」

そんな態々無線で連絡しなくても。

それに近づいてきてる。伊丹の会話が終わるまでの間、色々”聞かされた”。

「調べたら銀座に攻めてきたのと同じ旗と鎧もあつたらしいけどだいぶ少かつたらしい、ほとんどの旗と鎧の種類はバラバラで、今回攻めてきたのは、おそらく多国籍軍みたいなモノだな」

「ふーん、多国籍軍ね」

知つてた速報。

「銀座で襲つてきた国はともかく、他の国も攻めてきたつてどういふ事だろうな。同盟国とかか？」

「この世界で大国の銀座に攻めてきた侵略国家が自分達が返り討ちにあつたのを隠して、日本がこの世界に侵略者してきたと嘘をついて他の国、自分達の属国を騙して戦力を集めてぶつけてきた。敵の日本の戦力を減らして反乱しないように属国の弱体化もできる一石二鳥狙い」

「おお、随分具体的な予想だけど、それって勘？」

「どういう勘よ。勘でも予想でもないけど」

「?……じゃあその話ってどこから来たんだ」

「何処からって、本人たちがそういつてるんだけど」

私は彼等を指差しながらいった。

「本人?……なんで誰もいないを指指して……ちよつと待て霊夢さん、少し寒気がしたんだけど、その聞いた本人さんって……」

「周りにいるけど、ほらさつき吹き飛ばした人達」

「……………」

「兵士の人とか大量に此方にきて色々と喋ってるから嫌でも聞けるのよ」

墓場とかでもないわよ数万人の幽霊とか。本当にさつきから騙されたみたいな発言で煩いし。なんで私の所に来るのよ。

「……………」

伊丹が青ざめた顔をしてる。

それと周りの聞いてたみたいいな人たちも。

「れ、霊夢さん、……幽霊から聞いたと」

「何故か幽霊状態だと言葉とかわかるから」

此方の言葉とか知らないのに何故かわかる。

「……幽霊って存在するのです？しかも周りにいらつしやると」

そこ、まあ普通なら幽霊とか居るとは思えないかもしれないけど……

「異世界とか魔法とか見といて今更幽霊とかが無いと思つてたの？公平に見て魔法やら竜よりは幽霊の方があり得るでしょ」

「……………それはごもつとも。ははは幽霊いるのかあ」

あ、信じたの。状況的にあり得ても見えないなら疑うと思つてた。

「幽霊を見えないのに本当に居るって信じられるの？」

「いや霊夢が居るなら幽霊ぐらい居るの自然に思えた」

なんで私が居たら自然なのよ……と文句も言えないか。私も転生してから初めて幽霊とか見た時は驚いたけど、自分の名前に幽霊とか見えても普通とか思つてたのよねえ。

「あ、なあ……幽霊が居るって事は恐ろしい呪いとかも？」

「ノロイ？イタチの」

「ちがーう！確かに恐ろしいけど！俺が聞きたいのは呪われるとかの方の呪いだよ！」

ああ呪いね。

「そんなの有るに決まつてるじゃない」

「あ、有るに決まってるのかあ。……………呪いあるのかあ。はははは」

これはそんな簡単に信じられたら困るんだけど。

「冗談、冗談。本当は呪いが有るのか知らないし」

呪いってあるのかしらね。某赤い目の探偵に言わせたら呪いなんて有るわけないって言いそうだけど……………あの小説って幽霊が取り付いたりしてるし実質呪いあるよね。

「え、呪いあるのか知らないって、巫女なのにか？」

「……………巫女が呪いとか知らないの普通と思うけど？アニメとかゲームの巫女と一緒にしないでほしいんだけど」

なにその何か言いたげな顔は。

「……………けどほら、幽霊とか見えるなら呪いとかも見えるんじゃないのか」

「そう言われても、幽霊しか見えないし」

「そうなのか…………」

「幽霊のほかには黒いモヤみたいなのしか見えないし」

周りを見ながらいう。

「つて！おいおい、おいおい、あからさまにそれが呪いじゃないか？」

「え、見た目はそれっぽい気もするけど、呪いって決めつける理由にはならないんじゃない？」

「いや黒いモヤなら呪いじゃなくても絶対良くないモノだよな。……待てよ。なあさつき黒いモヤが見えるって言った時に周りを見たけど、もしかして此処にも黒いモヤが？」

「あるけど、まあ大丈夫じゃない？」

「……大丈夫と思う根拠は？」

「特にないけど、あるか判らない呪いなんてないって思った方が気楽でしょ。ほら病は気からって言うし」

私は黒いモヤが近づかない様に靈力でガードしてるけど。

「……」

で翌日。

「えーとなんで私はここに呼ばれたわけ？」

指揮官はいお偉いさんの部屋に呼ばれた。

うわあ……………だいぶいる。

呼ばれた理由はなんとなく予想はできる、

「呼び出してスマナイ。昨日君は幽霊や呪いについて話していただろう」

あーやつぱり。

「昨日君が幽霊や呪いの話をしてるのを聞いて隊員達が動揺していてね。……先日の戦闘で相手に多くの死者が出た。彼等に怨まれて自分達が幽霊に崇られたり呪われたりしてないかとね……」

「昨日の話の後に顔色が悪い人がだいぶ居たっけ。あのタイミングで呪いの事を話してた私が悪い？幽霊はともかく呪いとかは伊丹が聞いてきたんだし私は悪くない。」

「実際の所私も不安ではある。呪いなどで以前までなら気のせいと言えたんだが、魔法の様な物が現実にある事を考えると、幽霊や呪いの様な物も存在しても可笑しくないと考えている」

「それで私に幽霊や呪いについて聞きたいと？」

「その通りだ」

「……悪いけど昨日伊丹にも言ったけど呪いは有るかどうかも知らないから」

「私に霊力修行させたのだったら知ってる気もするけど、何処に居るのかも知らないし。」

「ああ、それは聞いているんだが、我々だと幽霊を見ることすら出来ていないからね」

「そんな呪いと関係あるかわからない幽霊を見えるだけで頼られても、……私が頼られるの他の人が見えなくて私だけ見えるから。なんとか他の人にも見えたら。んー私が

幽霊とか見えてる理由を考えてみると、やっぱり霊力？

霊力……霊力……これでいけない

「なんだねそれは」

「この符を持てばもしかしたら幽霊が見えるかも」

私が霊力修行のついで教えられた符は護符とか攻撃符とか回復符とか、まあ便利なアイテムみたいなの。ただピンポイントに幽霊とか見える効果のある符なんてあるわけではない。だから符に元から馴染ませた私の霊力で対象を護る護符を渡してみる。この護符の霊力で見えるかも。まああんまり期待は出来ないけど

「なにそれは本当か」

「この符で幽霊が見えるかも知れないと」

「期待されたら困るから。試した事とかなないから見えるか判らないから」

「そうか。しかし可能性はあるのだね」

「これは誰か試さないといけないが」

誰が持つんだ的に目線が行き交った。

「伊丹二尉……」

「あ、ハイ、俺が持つんですね。」

私は空気ですという感じで後ろにいた伊丹がもつ事になる。厳しい上下関係みせら

れた。

「……」

伊丹が符を受け取った。

「ふう?!」

と思っただら捨てた。

「捨てるとかひどい」

「は、ふぎ、あ、あんなの見たら捨てるに決まってるだろうがあ!」

あ、本当に見えたんだ。

見えたならあんなのって私普段から見てるんだけど、まあ此処みたいに”大量”のは珍しいけど。

「い、伊丹二尉、見えたのかね」

「え、ええ、はい見えました……ギツシリと居るのが」

「そうか本当に見えた……か……ギツシリと?」

「これで他の人でも見えて私と同じ条件になったんで。同じ符は置いとくので後はそちらでどうにかしてください」小声

私はしっかりとそう言うってからそそくさと外に出た。呼び止める声とか聞こえない。

後日、お札やら御守りを付ける自衛隊の人を見かけるようになった。別にそれは良いけど私に大量に注文しないでほしい。

ゲートに巫女さん5

特別製の筆で一筆、一筆に力に乗せて決められたモノを書いて最後に護符と書く。書いたモノを台にズラツと並んだ同じ護符の列の中に入れる。これで今日百枚目。ああ数を思い出すと疲労感が、けど……

「あと少し、あと少しで終わる……」

コンコン

ノックの音？

「博麗さん失礼します」

何処かいつてる伊丹の代わりに私の護衛兼パシリ、もとい御手伝いになつてる里田さん、飲み物でも持つてきてくれ……え……

う、嘘でしょ。いや、い、い、いや、こないで！

「博麗さん追加で護符100枚お願いします」

ドサツと高級紙が置かれた。

「うがああああ!! いい加減にしろやああ!!」

キャラ崩壊？そんなん知るか!!

「博麗さん!!落ち着いてください!」

「これが落ち着けるか!!落ち着けるわけない!ねえなんでこんな注文が来るのよ!」

可笑しい。絶対可笑しい。

元を正せば少しは私にも原因があるとおもって我慢して護符を造ってきて、もう作成数が軽く四桁いつてる。いい加減に限度つてもものがあるでしょ!?

手がねスゴい痛いの。

「手抜きして、コフン!簡略しても護符一枚作るのにも結構時間掛かるんだけど!」

なんで異世界に来て一人モクモクと内職しなきゃいけないのよ!

「というか!昨日!これ以上は指揮官の人が注文しないって言ってたと思うんだけど!」

まさか私の願望の記憶?それなら私はガチでこの異世界に旅立つて消息絶つわよ!

「…そ…その、断れないクラスの偉い人からも注文がきまして…」

断れない偉い人って軍の上の人、政治家?百枚分も?

「なんで私に注文するのよ。偉い人なら格式高い神社とかの御守りを買えばいいじゃない…効果あるか知らないけど」

しかも偉い人って地球側でしょ。態々異世界にいる私に注文とかするな!

「効果についてはなんとも言えませんが、実際にアレが見えたりするのは博麗さんの護符だけですし……」

遠くの方で歩いてる半透明な人、幽霊を指差した。

よく意味がわからない。

「……見えない方が良いと思うんだけど」

見えてもウツサイだけだし。そう言えば護符で姿はともかく声も聞こえてるんだっけ？

「それにその注文した偉い人の居るの日本よね。それなら幽霊が見えるとか意味ないとおもうけど」

「え、なんでですか？」

「此処ではよく幽霊を見るけど日本の方であんまり幽霊とかみたことないし」

「そうなんですか」

これ言ったの初めてだっけ？

「そう言えばこの説明って里田さんが居ないときに、日本政府に渡す分が欲しいって言われた時にちゃんと説明したはず。日本だと幽霊は凶悪犯罪者ぐらい人から恨まれてる人の周りぐらしいしか居ないって」

とにかく護符の増産とか嫌だから凶悪犯罪者の近くにしか見えないとか嘘八百で力

説した記憶がある。

「そんな説明したんですか」

「それで護符がほしいって事は注文してる人は……」

「……………」

少し無言になった。

「凶悪犯レベルな大悪党?……その偉い人……」

「い、いえいえ！博麗さんの護符なら凶悪犯じゃなくても欲しいですよ。例えば幽霊が見ただけの無類の幽霊好きと言う可能性も有りますし」

それ理由としてどうよ。

「その偉い人もそうだけど、なんで護符とか必要なのかしらね。今までずっと見えてなかったんだし気にしなきゃ良いのに」

「それは無理ですよ。恨みをもった幽霊が傍にいるの知って気にしないなんて、幽霊がいるのを知って何人ノイローゼになったか知ってます?」

「数は知らないけど、ノイローゼとかで精神的に病んだ人が、呪われたやら取り憑かれたやら大人数で私に相談しにきて面倒だったわ」

とりあえずカウンセラーの人にパスした。それでも私に何とかして欲しいってしつこいには、祓い棒（ほいの）でぶつ叩いてこれで悪いものは祓ったから大丈夫と適当

に言っておいた。……ぶっ叩いて感謝されたのは気持ち悪かった。

「……そのせつはご迷惑をかけました」

え、里田さんも来た人だったんだ。あのとき数が多すぎて流れ作業やってたから……里田さんもぶっ叩いたとかないわよね私？

で謝った里田さんが気まずそうに目で紙をチラチラと見て「……あの……作業」と言っている。

「伊丹がソロソロ帰ってくると勘が囁いてる。出迎えの準備をしてあげないと！」

「え、待つてください！」

伊丹は隊を率いて近場の調査とかしにいった。私も護符造りから逃げたくて行ききたかったけどいけなかった。

伊丹が何か面白いものとか見付けたとか無いかな。何かもって帰ったらお土産屋として貰うと約束したし。

「まさか可愛い女の子をお持ち帰りするとは……」

ビクビクしてるエルフさんにゴスロリさん、伊丹がもって帰ったということとは、私のお土産屋として……ゴクリ。

「ちよつと待とうか博麗の霊夢さん。その言い方だとオレ誘拐犯か変態みたいやん」

変態じゃない？

「まあ女の子以外も沢山いるけど………どうしたのこの人たち？」

「それは……」

伊丹率いる第三なんちゃら隊が調査しているとドラゴンを発見。あのワイバーンの何倍もデカイ、ゴジラみたいな赤いドラゴンだったそう。是非見てみたかった。そのドラゴンが森を燃やしていた。其処がエルフさんの村だった。エルフの村とか行きたい！と思つてたら、ドラゴンにやられて村は壊滅で残つたのはそのエルフさんのみとすぐ言われた……残念。エルフの幽霊とか居るかもしれないけど微妙

まあとにかくエルフの女の子を保護して近場の村に行こうとしたら、その行こうとした村の人たちがドラゴンから逃げてきた。で放置できず、伊丹率いる隊が女の子含めた避難民を沢山連れてくることになる。途中でドラゴンに襲われながらも帰ってきたと。

善意で連れてきた避難民かあ。

こー言う善意の結果とか大体ろくな事に成らないと思うけど、日本的にはそれにして

「上の許可とかよく出たわよね」

敵地みたいな所で避難民を抱えるとか避けたいと思うんだけど。

「ははは、実は連れてくる許可とってない」

隊員の人達から笑い事じゃねーよみたいな目で見られてるけど隊長さん。

「それはそれは……こうして連れてきたら返すの無理だし。指揮官のひと大変そう」

「なんか霊夢さん嬉しそうだな」

「いえいえそれは伊丹さんの気のせいですよ。指揮官の人に恨みとかこれっぽっちもないから私はとても気の毒に思ってるから。ええ本当に」

「……………わー初めてみるスゴい綺麗な笑顔だ、胡散臭い」

胡散臭いいうな。

べ、別に護符造りやらせた責任者に苦労しろとか思ってる訳じゃないからね！

「まあ、避難民の人達が来た理由はわかったけど……あのゴスロリさんとかエルフさんが私を警戒した感じな理由はなに？」

「さあ？危険物とか思われたんじゃないか。ネットでエルフとかゴスロリでのエロ話をしてた博麗霊夢さんだし」

「それなら伊丹も危険物じゃない。伊丹がしたエロ話でエルフの乱れ「ハハハ……うん、この話題止めようか!!」

まあいいけど、伊丹これから大変そうだし。避難民を連れてきた事で青筋を立てた人達に伊丹がドナドナされていった。

……エルフさんとゴスロリさんがずっと視つばなしなのどうかしてから行ってほ

しかったなー。

ゴスロリさんが恐る恐るって感じで話しかてくる感じ。何か聞きたいことある感じ。なのはわかってたけど、此方の言葉とか無理なんだけど。

「ねえ貴女って向こうの神様？」

……………え、日本語？

ゲートに巫女さん6

『日本各地の神社やお寺に例年の数十倍と関係者が言うほど多くの人が詰めかけると言う珍しい現象が起きています』

『やはりこれは……アレでしょうか。銀座の人々を救った東方 Project という作品の博麗霊夢に良く似た少女の影響でしょうか』

『それも大いに理由として有るでしょうが、数日前にありました国会審議中に起きた幽霊の様なモノが現れた怪奇現象も関係あるでしょう。……恐ろしい幽霊が存在すると多くの人が思ったのでしょうか。その証拠と言いますか神社やお寺等では悪霊退散の御札などが良く売れているそうです』

『あの放送ですか。あれは確かに恐ろしかった。私も御札を購入しましたよ』

『先ほど話題に上りました国会審議中に起きた怪奇現象について重大な新情報があります。匿名の政府関係者が話してくれた事なのですが、博麗霊夢に似た少女の作製の特別な護符により怪奇現象が起きた可能性があると』

『特別な護符である現象が起きた？』

『どういうことでしょうか。その護符で幽霊が見えるようになったと言うことでしょうか?』

『政府関係者によりますと、護符を持てば基本的に誰でも幽霊が見えるようになるそうです』

『ゆ、幽霊が見える護符ですか、事件の前なら笑い話にしか成りませんが』

『本物と考えていいですよね』

『えーその幽霊の見える護符は政治家達が持っていたんですか』

『あの現象が起きた場所から考えてそうですね』

『政府発表では彼女は特地に特別顧問として随行しているとの事ですが、彼女が特地に行く前に政治家達が護符を貰っていたと言う事ですか?』

『恐らく』

『庶民には内緒で特別な護符を政治家達だけが貰っていた。これが事実ならけしからん事ですね』

「先日の議会で護符で見えていた幽霊がテレビにも映ったのはどういう事だね」

「製作をした彼女に連絡した所、議員の皆様が持った護符が一ヶ所に集まりすぎた事から護符同士の共鳴で力が増して起きた現象かもとの事です」

「なら議場等集まる場所に護符を持っていけばまた同じことが起こると言うことか」

「護符の持ち込みを禁止か制限するしかないな」

「それは当然だが、それよりあの議会の時に複数の議員に対して……幽霊がアイツに殺されたと騒いだのはどうなっている。世間の反応は、幽霊なんてバカらしいとあの放送が悪質なイタズラと扱われたりしていないのか」

「概ね幽霊が存在したと世間は認識しているようです」

「真実と扱われたのか。あの門の事で世間の常識が変わりやすくなっていたのだろうか
な」

「それでは尚の事、幽霊が殺したと騒いだ事は放置はできないな。幽霊の証言としてもあんなにハッキリと公に放送されたんだ。殺したと名指しされた議員はどうしてる？」

「名指しされた議員の方々は全員が否定していますが……怪しいとしか」

「私も殺したと騒ぐ幽霊を見る何人かの顔色を見たが……大体が黒としか思えなかった
な」

「あの騒いでいた幽霊の身元は？」

「はい警察や政府にテレビを見て幽霊の親族という人物から連絡が来たので、何人か幽

霊の身元は判明しているそうです。その幽霊とされる人物ですが、一部を除いて警察では行方不明や事件性はないと片付けられていたそうです……」

「最悪な予想しか出来ないな。どうなることか」

「これで事件となれば。事件性が無いと判断したのを無能扱いならまだいいが。警察が殺人を隠したと言うことになれば大問題になるぞ」

「問題と言えば、特定の国と関係が噂される議員が多かったな……余計に問題になりそうだな。国外勢力も関与した事件となれば」

「そう言えばマスコミが幽霊が騒いだ内容について露骨に触れていなかったな。真つ黒過ぎて笑えるよ」

「事件については今の時点では公安と警察に任せるしかないとして……公安と警察関係から護符の配給の要望が来ています」

「まさか霊を捜査に利用するつもりなのか。それなら幽霊の証言を法的な証拠とできるかの問題がでるだろうが……」

「法的な話は後日として、それより警察から来たのなら他からも要求が来るんじゃないか」

「はい、今回の騒ぎで野党や海外、研究機関、宗教関係、様々な所から護符を寄越すようにと要求が来ています」

「そうなるだろうな」

「……独占したと騒がれるのは面倒だ。渡さないといけないだろうな」

「護符の数が確実に足りなくなるぞ」

「増産してもらいたいのが、今時点でも護符造りにだいぶ彼女に無理をさせたそうさ。休息が必要と報告がきている」

「仕方ない。現状の護符の数でやりくりするしかないだろうね」

「彼女以外で護符作製は無理なのか？」

「その宗教関係者に確認はとりましたが……残念ながら」

「そうか。……彼女だけが特別なのか？それとも特別な力を持った人間や存在は何処か別の場所に居るのか……」

「別な場所、幻想郷とやらか。設定としては日本の隠れ里の様な場所として有るのだよな。自衛隊の報告からして門の向こう側はどうやら件の幻想郷とはまるで違うようだが、国内の調査の進展はないのか」

「以前報告しました彼女のこと以外には……」

「そうか……」

「彼女の事はこのまま監視を？少し……その……変人の様ですが今のところただの一般人のようにはしか見られないとの事です」

「今のところは容姿も似て同姓同名な事だけが根拠か。完全に別人の可能性もあるが………他国の事もある、念のために保護すべきだろう」

「わかりました」

「…それと話は戻るが、やはり護符はさらに必要だ。彼女には悪いが可能な限り護符の増産を頼んでおいてくれ」

「あー……なんかスゴい此方に來たの正解と思うわー。」

何故かそう感じた。

私はいま門のあるアルヌス？の丘を離れて自衛隊の車にのって移動してる。行き先はイタリア？とかそう言う町。伊丹と避難民の人がその町に物を売りに行く聞いて、護符作りも落ち着いたし無理矢理ついていくことにした。

其れにしてもその町に行くのが避難民の中の女の子だけってどういうこと。避難民は女子供と怪我人ばかりだったけど男がいなかった訳でないのに。特に先生みたいな扱いのあのじいさんとかが来るべきじゃない？

自衛隊の人以外の現地人は三人、三人とも可愛い女の子ばかり。隊長は伊丹。

「やはり伊丹はロリコン」

「おい？ 随行員の人選は俺が選んだ訳じゃないからな」

選んでなくても女の子ばかりのメンバーを受け入れただけでもアウトじゃない。

「うう」

「人をロリコンとか言う前にソコの巫女擬き、エルフさん、テユカに抱きつくのやめろ」

伊丹が羨ましそうにそう言ってきた。

「何か怖がられてるから慣れて貰おうとしてるだけなんだけど？」

決して不純な意思はないわ（キリッ）

なにもしてないのに初対面の頃から怖がられてて何度か会っても治らない。いい加減にどうにかしたいだけだし。

「補食者に抱きつかれて慣れるの死ぬ覚悟が出来た時だけだと思うぞ」

「私は熊か何かか」

「いったいどういう例えよ。というか私だって単に嫌がられてるならなにもしないけど。」

「……うう」

離れたら離れたで不安そうな目で見てくる。で、自分から近付いてくるし。

「どつちなのよ」

怖がってる風なのに近くにくるって。

「貴女相手に畏怖と畏敬を同時に感じてしまってるみたいだから、仕方ないわー」

何故か普通に此方の言語を話してる黒ゴスロリさん。ロウリイと言う名前の人で亜神なそう。亜神と言うのは人と神の中間な神になる前段階らしい。つまりこの世界の神様は元は人ばかりってこと？日本の神話だと神様は産まれた時から神様何だけど。

で、初対面の時にロウリイが私の事を神とか言ったから亜神と勘違いしてたと思えば、ガチの神様と誤認してたそう。周りの魂が影響受けてたり、感じる力が神様クラスだったらしいからとか。私ぐらいが神様に見えるってこの世界の神様って……

エルフさんの反応の可笑しい原因はその神様クラス（笑）の力のせいらしい、その力が怖いけど近づくとドM？

「この車と言うのはガソリンというので動いている。ガソリンは化石燃料、化石燃料とはなに？」

ゴスロリさんエルフさん自衛隊の人以外にはあと一人だけ。三人目は私と同年ぐらいの無表情娘のレレイ。無表情で青い髪にレレイって……プラグスーツ着せたいと思っただけは間違っていないと思う。

レイは学者さんらしくて知識欲旺盛で、早々に日本語を覚えたりと頭いい。それで日本の色んなモノに興味津々なのは良いけど……流石に武器にも興味示すのには注意しておいた。所属違うとしても日本からしたら侵略してきた世界の住民だしね。武器の事とか調べてたら過剰な反応する人が居ても可笑しくないし。と言うか連れてきた伊丹が注意しろと思う。

現地人がそれで 自衛隊の人は栗林さんというロリ巨乳。清楚美人ぽい黒川さん。あと他男

「黒ゴスロリ、エルフ、ロリ、ロリ巨乳、清楚美人………ねえ伊丹、ギャルゲーみたいな状況と思わない?」

「思わねーよ」

意味深な笑みで聞いたら速攻で否定した。

目が泳いでいるし思ってたでしょ。

「じゃあ試しにネットに伊丹のこの状況とか流して反応とか確認してみる?」

「やめろよ!絶対にやめろよ!」

「伊丹を題材にギャルゲー作られたりして」

「不吉な事を言うな!?!」

「黒髪の美少女、外見は正統派ヒロイン……なのになんで中身が」

ん？ 私にサインをねだってきた倉田って人が泣いてる。黒髪って、黒川さんのこと？

「倉田、泣くなよ」

「だって博麗霊夢がこんななんて!! ギャルゲーとか言うなんて!」

こんなって酷くない。

エロゲーって言わない配慮をしたのに。

「コイツは博麗霊夢は博麗霊夢でもMADの中身が綺麗じゃない方の博麗霊夢なんだよ」

抱き合うかたちで悔し涙みたいなのを流す二人。

なんか腹立つ。中身綺麗じゃないって。スマホで動画をコツソリと撮影。通信が通じる所で某BLサイトに流しとこ

ん？

「お取り込み中スミマセン隊長、前方に黒煙が」

「……ええまた黒煙かよ」

またって、そう言えば前にも黒煙が出てたって話しがあったけど、確かその時には、ドラゴンが見付かったて。

え、つまり前方にドラゴンいるの？

ゲートに巫女さん7

遠くから黒煙を見て町がドラゴンに襲われてるとかなかった。ある意味もつと酷かった。

目的の町のイタリカ、帝国所属の町が沢山の賊に襲われてた。帝国所属の町とか伊丹とか知ってた？多分知らない。だって帝国って言うのは銀座を襲ってきた国だし知ってたらもつと警戒するでしょ。

そのイタリカを襲ってるのは門で自衛隊に戦闘を仕掛けてきて返り討ちにあつた軍隊の残党。つまり帝国に騙されて連れてこられてほぼ壊滅した人達。その人達に襲われた帝国の町……

「まさに因果応報って感じねー」

「……そうだな」

襲われている最中のイタリカに居た帝国のお姫様。

ちよつと色々とあつて私も話をする展開に

「この町が襲われてるの見も蓋もない言い方をしたら、日本側としたら敵同士が勝手に潰しあってるだけという感じよねー、で、帝国のお姫様が私達になんだって？」

私たちに助けてほしいとか言っただけでなかった。

「……う、うむ……それは……その……」

是非ともくつところと言わせたい感じのお姫様、悪意なく扉のドアで伊丹をコントみたいな気絶させたお姫様。助けを求めるのに色々隠したお姫様。

幽霊から情報を聞かせて貰ったので隠したことは直ぐにわかった。流石は侵略国家のお姫様、悪霊みたいな幽霊からの人気スゴかったので情報過多なぐらいに聞いた。お姫様の赤裸々プライベート情報も。

「へー、おねしょは○才までしてんだ……」

ちよろとお姫様の赤裸々話を口に出してしまった。

「ぶっ!!そ、そんな事どこで聞いた!?!」

あーあ反応しなきゃ本当のことだつてバレないのに。してんだみたいな周りの反応見て顔を真っ赤にしてる。顔を真っ赤にしながらしつこく何処から情報を得たとか聞かれたのでお姫様に護符を渡した。

「……」

あれ?ノーリアクション。

見えなかった？

「霊夢、お姫様気絶してない？」

そんなまさか……本当だ。

「いやいや何時襲撃あるかわからない時に気絶をさせるなよ!!」

「知りたがったのお姫様なのに私が悪いの？それにこつち側の人つてロウリイとか普通に幽霊を見せてたから、そんな気絶するぐらい過剰な反応するとは思わなかったわよ」
「……幽霊なんて普通は見えるわけないわよ。本当なら魂は直ぐにあの方の元に送られるから……霊夢が非常識なだけだから……」

ロウリイがジトツとした目でブツブツと言ってる。私の近くだとこの世界の幽霊が何か可笑しくなるらしい。文句言われても知らんがな。

「まあ仕方ない。お姫様が気絶してる内に俺達はどうするか考えるか」

「考えるって、救援要請の事をですよ。銀座事件を起こした帝国のお姫様からの……帝国の町を助けるんですか？」

皮肉げな声を出してる栗林さん。

それは普通助げたいと思わない。

「我々にこの町を助ける義理はありませんし。早々にこの町から離脱すべきでは……」

この中では一番に軍人という感じの富田さんがそう言った。全員がその意見に反論

はしない。ただ言った本人含めて全員が浮かない顔。

「いや救援要請を受けよう」

「隊長……」

倉田さんの震えた声の問い掛け伊丹が困ったように笑う。伊丹を見る部下の人達に悪い感情は見えない。たぶん反対はしても帝国のお姫様はともかく民間人を見捨てるのはイヤだったとか。

それで伊丹も民間人を助けたいこともあるんだろうけど、別の思惑も感じる。善意以外に考えられるのは……

「ケモミミメイドさんの好感度を稼ごうとして……」

私達が来たイタリカの町の領主の人の邸宅、邸宅にはケモミミメイドさんが働いていた。幽霊曰く帝国ではケモミミメイドさんみたいな獣娘は迫害の対象らしいのに。そんな獣メイドさんも居る町を助けたら感謝されるのが当然。ご奉仕してもらえるかも？

「流石隊長……」

伊丹を見る目は軽蔑と尊敬になった。

尊敬してるの倉田さんのみ。

「ちがーうー！」

「それじゃあ領主さま狙い？」

領主さまは十才ぐらいの女の子。

「伊丹……」

「それも違うつーの！握手求めてくるな！これはアレだ。お姫様みたいな王族が居るなら帝国に俺達と仲良くした方がお得だって知らせる事ができるだろ」

「あらそれはいい理由ね、ふふ、あなた達の力を帝国に見せつけるのね」

「砲弾外交ってヤツですか」

「うわぁ隊長って以外と……」

たぶん誉められてるのに何故か伊丹ががっくりと肩を落としてため息を吐いた。

「救援には此方にも益があるというのは理解しました。しかし隊長、この人数と装備では」

この結構大きな町を一方的に襲える規模となると数百ぐらいは居そう。それなら銃が有るからつて数で押し負けて全滅とかになりそう。

「ああそれは勿論わかってる。だから救援を呼ぶ。交渉相手に良さそうな王族と繋がりが出来るなら上も攻撃ヘリぐらい出してくれるだろう」

「ヘリですか。ヘリの速度なら恐らく再度の襲撃に間に合いますね」

へり、へり、どうしても墜落するイメージが。

……カブコン。

「まあへりが来なくても博麗さんだけでも…」

え、私も働かされるの？働くのイヤで逃げてきたのに。それに民間人で未成年なんだけど。そこはかとなく期待した目を向けてこないでよ。此処は明確に拒絶しておかないと。

「働くのイヤでござる」

何故か皆から白い目で見られた。

「いやだって私、此処にくるまで缶詰で働かされて疲れてるのよ。自衛隊の人が無駄に護符を注文するからね……というか民間人の私を頼らないでよ」

そう言うのと伊丹達自衛隊の人達が目を逸らした。

この人たちって全員服に私が苦勞して作った護符を付けてるのよね。何故か手に握ってない場合は幽霊は見えないけど幽霊は近づけないから服に貼ってる。国会の方でも護符が原因よく何か起きたそうだし。私作製の護符だけど仕様とか不明。

お姫様が目覚めた時に救援を受ける事を伝えられた。王族のプライドを捨てて涙目でありがとうと頭を下げて感謝した。私を見て更にプライドを捨てて秘密は話さない

で下さいと土下座した。別に話す気とかないわよ……私話さなくても他の人も知っているだけ。

伊丹達の協力を取り付けたあと、町の防衛をする準備に取り掛かった。と言ってもバリケードとか町の人達がやっていて自衛隊の人達はやることは余りない。農具主体の戦闘方法とか指導するのも無理、連携も無理。

と言うことでお姫様から指示された入り口の前で待機することに。幽霊のチクリ、お姫様の予想では一番大変な所らしい。一番大変と予想される所を押し付けるとかあのお姫様中々図太い。

ただあのお姫様って……ミスをしそうなど何となく感じた。予想と別の入り口を狙われたりしそう。お姫様を憎んでそうな幽霊の人とか笑ってたし。

「ふああ」

指定された場所にいたら何にもやらなくて済みそうな予感がして欠伸が出た。

「……霊夢、何時敵襲があるかわからないのにだらけるなよ」

伊丹達が呆れた様な視線を向けていた。

「うーんそうねー。向こうで寝てるから敵襲があつたら起こしてよ」

「……………もしかして此処に敵は来ないのか？」

「え？」

非難でもされると思えば突然なに言い出してるの伊丹。

「たしかに…彼女の落ち着きからいつてありそうですね」

伊丹だけかと思えば別方向からも。

いやなんで私が落ち着いてだけでそう思うの。

「それ根拠としてどうなんです」

栗林さんのいう通り。

何を根拠に言ってるのか。

「……………もし此処が襲撃を受けるポイントになると思ってたなら、働く気がミジン

コ並みにしか無い霊夢が大人しく此処に来るとかないだろ」

「……………ああ」

なんで全員が納得した風に頷く。

「博麗さんなら不思議な力で敵襲が無いことを察知していても可笑しくありませんね」

いやいや根拠は幽霊の台詞だけだから

「たしかに有りそう」

「えええ此処に敵が来ないのー」

アツサリと全員来ないって意見になってる。

別に来ないって証拠とかそんなないんだけど。

なんで残念そうなのロウリイ？

「隊長どうしますか？此処に来ないなら敵が来るのは恐らく反対側の入り口になると思いますが」

「……まだ此方に来ないと決まった訳じゃないのに、持ち場を離れるわけにいかないだろう。だから向こうに敵襲があれば直ぐに救援に向かうことにする。皆もそう思っておいてくれ」

「はー了解しました」

私は聞かないフリして終わったら起きよう。

ん？誰かきた。

「……そんなに働くのイヤ？」

何故か避難してないレレイが話し掛けてきた。

「まあ……此処にくるまで嫌になるぐらい働かされたしね」

「……………働くと思うからいけない。ストレス解消をすればいい」

ストレス解消って。なんで説得するような事と思えば、そう言えばレレイって私の力を見たいとか言ってたっけ……。

ストレス解消ねー。

「…敵と遭遇したらストレス解消の的にするわ」

自分から動く気力とかない。

それから数字間後。

案の定別のところに来た襲撃犯。無関係決め込もうとしてたのに私はまさかの担がれて襲撃場所に連れてかれた。私は適当に弾幕をばら蒔いた。栗林さんとロウリイが突撃した。ヘリが来て賊の人達ミンチになった。伊丹が騎士の女性とSMプレイをした。伊丹が国会に呼び出された。ついでに私も呼び出された。

もう考えるのも面倒くさい。

ゲートに巫女さん八

その日の議場前には大量の人が詰めかけていた。そしてネットもそれに負けないほどのお祭り騒ぎ。

国会実況スレ

名無しさん

ああ開始まで後30分、ワクワクが止まらないぞ。

名無しさん

国会の実況スレが開始数分でこのスレ他にも何個も出来てる謎現象。

名無しさん

わかってる癖に

あの噂のせいにきまつてるだろ。

博麗霊夢さまが国会にサプライズ出廷。

名無しさん

この日の為に買ったカメラが火をふくぜ。

名無し

お前現場に居るのかよ。

名無し

火が吹くつてそのカメラ壊れてるんの？

名無し

カメラと言えば霊夢さまが学校に通つてる写真が見つかったんだよな。セーラー服の博麗霊夢さまのお姿が……尊い。

名無し

物凄い小さい集合写真でだけどな。

それより写真が有るつてことは普通に此方の学校に通つてたのか？

名無し

マスコミの取材で霊夢さまの中学の同級生とかの証言もあつたし本当じゃね。

名無し

ああ友人はゼロつていう悲しい証言だつたよな。

名無し

は、博麗さまは孤高なんやし（震え声）

名無し

まあ現実離れした綺麗さだし関わるの避けるだろ……。良く銀座事件前に騒ぎになつてなかつたよな。

名無し

いや中学生相手に騒ぐとかダメだろうし。

あの取材で霊夢さまの地元が判つて博麗神社も見付かったけど、博麗神社の本殿には誰も行けて無いんだよな。

名無し

どういうこと？

名無し

なんか本殿が無いんだよ。さらに言うところへりで上から撮影しようとしても見付からないらしい。

賽銭箱だけは有るらしい（笑）

名無し

元から本殿はないってことじゃね。

名無し

いや地元の人は本殿を見たことが有るらしい。辿り着ける人と辿り着けない人がい

るそうだ。

名無し

なにそれ怖い。

トトロの家みたいな感じか？

名無し

辿り着ける可能性もあるんだろ。

今度の休みに博麗神社に行ってみようかな

名無し

止めといた方がいい。

今は博麗神社近くを国が立ち入り禁止にしてるし。それに他国の人間が色々と調査に来てて色々イヤバイらしい。

名無し

スパイ活動を堂々とやられてるのかよ。

名無し

銀座の事とか博麗さまの事を考えるとガチで天罰とか有りそうなのによくやるよな。

名無し

と、ソロソロ時間だ。

名無し

霊夢さままだかなー。

名無し

けど本当に現れるか不明なんだよな……

名無し

まあ最悪特地から人が来るそうだしその人たちだけでも

名無し

普通メインはそっちなんだけどな。

名無し

あ、開会するぞ

名無し

早くしろよ。

名無し

キターーーーーー!!!

名無し

うおおお！マジで博麗さまが降臨なされた！

名無し

うわースゴい面倒そうな顔をしてらっしやる。

名無し

あ、帰りたいって呟いたぞ。

名無し

博麗さまには劣るけど特地の面々もスゴい綺麗どころだ。……ゴスロリにエルフさ

んにロリータさん、……

名無し

あの隣の自衛官って銀座の英雄の伊丹二尉だろ。

英雄色を好むって感じだな

名無し

博麗さま博麗さま、どうか羨ま死刑な男に天罰を!!

名無し

その博麗さまが隣に居るんだけど。

名無し

野党のオバハンがネチネチ言い出したぞ。

自衛隊が助けた難民に犠牲者を出したとかで

名無し

お前の所の野党が自衛隊を弱体化させようとしたのに良く言えよな。
名無し

霊夢さま早く終わらないかなーって感じに欠伸してる（笑）
名無し

おい、カメラマン！野党のオバハンじゃなくて欠伸してる霊夢様をドアップにしてたら、野党のオバハンの台詞がより馬鹿らしい感じになるぞ！良いぞもつとやれ！！

名無し

それに霊夢さまの近くの被害者の特地の面々が不機嫌な顔をしてるし、オバハンの発言の的外れ感がさらに高まってるな。

名無し

あ、ゴスロリな女の子がなにか言おうと。

名無し

お、お嬢ちゃん!?

名無し

霊夢さまが爆笑してる。

名無し

ゴスロリさまからの正論&正論！

お嬢ちゃん（笑）の発言全否定！

名無し

お嬢ちゃん（笑）が反論できずに年上に対して礼儀知らずと怒ってらっしやる。

名無し

霊夢さまがさらに爆笑してる。この黒ゴスロリより年上って笑ってる。え、このゴスロリさん年齢幾つなんだ。

名無し

あ、伊丹氏が説明し出した。

お名前はロウリイ・マーキュリー

……961歳？……え？

名無し

お隣のエルフさんは165歳……

名無し

蒼い髪の娘は……15

名無し

霊夢さまは14。

名無し

上と下の差が酷すぎませんかね。
名無し

――

名無し

はああ濃厚な国会だったな。

名無し

国会を録画したとか初めてだわ。

名無し

其にしても合法ロリにエルフさん、特地には他にどんな夢のキャラが居るのか。

R

獣娘は見た。

名無し

え、獣娘は…見た？

名無し

………もしかして特地に行った事があるお人？自衛隊関係者さん？

R

※関係者じやありません。

ここに答えることは全部妄想なので本気にしたらダメだよ（・▽・）

名無し

これは……怪しすぎて、逆に本当ばいぞ。

名無し

Rさん特地の人達で何か面白い裏話ある？

博麗さまの話しでもいいよ。

名無し

これはネタスレになる気配！

R

博麗霊夢さんは護符造りに政府からブラック業務を請け負わされてた模様。

名無し

なんか有りそう。

前の国会の幽霊騒ぎって霊夢さま製の護符のせいみたいだし。ブラック業務になるぐらいの量を造らされてたとか有りそう。

名無し

政府の奴等！霊夢さまに何てことを！護符の一般売買は何時ですか！
名無し

おい（笑）

R

博麗さんは護符を欲しがる人を呪ってる

名無し

護符の守りを貫通しそうな呪いが来そう。

護符の話題はやめて特地の人たちの話題は、あの三人の女の子の話し。

R

あの三人ともある自衛官のお手付きという噂が……

名無し

志ねえええ伊丹いい!!!

名無し

許さねえ！あのやろう許さねえ！

名無し

は!!まさか博麗さまもまさか

名無し

……自爆テロも辞さない

R

大丈夫、博麗さんは女の子好きだから。

名無し

ほ

名無し

ほつとした……ような何か悲しいような

名無し

百合とかヤダパー

R

黒ゴスロリさんは地下鉄を怖がってる

名無し

あら可愛い

名無し

あら可愛い……けど話題がいきなり変わったな。

R

怖がつてる理由は地下に自分を狙うガチ百合な人が居たかららしい。

名無し

また百合ネタか！

話題変わってないな！

R

地下鉄といえば、博麗さん+特地さんご一行、某国から狙われてる模様。さつき起きた火災とか地下鉄での移動を制限するための某国の仕業とか

名無し

ガチにヤバそうなネタをいきなりぶつ混みなよ!?

名無し

おい！本当に火災起きてたぞ！不謹慎なネタ、ネタだよな!?

R

※私の発言は全部適当です。現実のこととは一切関係ありません

名無し

そっかーなら安心だな!!

名無し

なんか怖さが余計に増してるんですが。

名無し

R 氏の最後のレスから一日経ったけど大丈夫なのか？あれネタでなかったらヤバそうなんだけど。

R

特地ご一行さま温泉旅館にてお泊まり。

山奥とか他国に襲撃されやすいシユチュエーションのお泊まり！

名無し

おおRはご無事で……ってスゴいのぶっ混んだ！

R

妄想だけと山奥に行くときは巻き添えに気を付けてね！

名無し

これ本気でやばそうな感じが……

R

特地の女の子が温泉に入ってゆったりタイム。

綺麗どころばかりの温泉タイム。

名無し

おいこら、山奥に行くとか書いといてそんな事を書くな！温泉探しに旅立ったアホが絶対に居るぞ。

名無し

覗きは巻き添えになって氏ねって事では？

R

お外から虫の音とパパパって銃声が聞こえるのって風流と博麗さんが遠い目で言ってる模様。

名無し

銃撃戦が起きてる!?

ネタとしてもこわいぞ!?

R

なんか日本の警備が抜かれた模様

名無し

ええ!!?

名無し

ネタだろ。襲撃地にいるならこんな事書けないだろ。

名無し

そ、そうだよな

R

ロウリイさん大ハツスル、敵を千切っては投げ千切っては投げ。斧でバツサバツサ無
双中。

名無し

ハイハイ、ネタ確定だな。あのゴスロリさんが無双ってゲームじゃ無いんだから。

R

温泉で合流した金髪の変なのがうるさい

カスト口憑依？

昔々、もし漫画やらアニメの世界で転生するなら何処がいい？かつて友人にそんな質問をされた事があった。特に何の意図もない雑談として…

アニメや漫画の世界を思い出して、転生したい世界を真剣に考えて見ると…候補が多すぎて答えられないな！そう真っ正直に返すと呆れた顔をされて次の質問をされた。

じゃあ逆に此処だけは転生するのが嫌な漫画世界ならどこよ？現代以下の文明な漫画世界全般と即答した。範囲が広すぎだと怒られた。たしかに、むしろ現代日本並みの世界観の方が少ない。なら現代と同じぐらいの世界観って条件ならどこか。

現代レベルの文明…けど転生したくない…先ず思い浮かんだのはハンター&ハンターの世界。

人気王道の少年漫画なのにシビア過ぎる世界観。漫画の世界に有りがちな補正の様な安全地帯がほぼ無い…主人公とその仲間だけに辛うじて命の保証があるぐらい。危険が生々しい。人気少年漫画の皮を被ってるのに人の闇がこった煮。殺人鬼、人体パー

ツ、拷問、人食、サイコパス、こんな単語やら描写が平然と出てくる…。撲殺されたり首だけになったり可愛い女の子キャラでも喰われたりする。そんな世界には転生したくないな!と友人と話していた。

で、もし、そんなハンター&ハンター世界に転生するとして、更に原作キャラで転生するとしたら誰が嫌だろうか?という話になった。

悲惨な死に様を晒すキャラはまず除外された。

其処まで悲惨な死にかたをしてないキャラならどうかという話で出たのが…

…カストロ。

漫画では初にハンター×ハンター屈指の強キャラのヒソカに初めて大ダメージを与えた”かませ”キャラ。失敗の題材にされた悲しいキャラ。容姿が良く才能もありそうなのにミスでダメになったキャラ…ハンター×ハンターでなければ強キャラとしてきつと活躍していた。

…

これは、そんな微妙で残念なキャラとしてハンター&ハンター世界に生まれ変わった男(カストロ)の物語である。

自分の状況を思い出してみた。

とても虚しい気分になった。

ここはハンター×ハンターとしか思えない世界、同姓同名の別人ということがなければ私はやられ役（カストロ）。

なんで私はカストロ…。

やられ役なんてゴメンだ!!原作のカストロのような人生は避けたいと思うのが当然。原作を知っているのに原作をなぞらせる為に原作通りに死ぬなんて、何処かの変態の様な極まった精神は持ち合わせてない!

どうするか。

私としては平穏な生存を目標にしたいが…ハンター×ハンターの世界で平穏…确实な生存…無理だな! なるべくなら平穏を目指し…最悪でも原作カストロのような無様に死なずに済む事が目標とすることにした。

先ず原作の様な死の回避。

ヒソカ…

死因の変態（ヒソカ）に目をつけられなければ回避できるか? 興味を引かれて一度目をつけられたら死ぬまで逃げられそうにない

ヒソカを倒すのは無理…倒せるかどうか以前に原作の重要キャラ。主人公が強くなる切っ掛け。もし死因が居なくなれば強くなる切っ掛けも無くし主人公が強くなる。主人公が消える。原作の先は不明だが平穏な未来だとは思えない。きつと主人

公が解決するだろう…主人公がいないと未来が大惨事になる…。

原作ではヒソカとは天空闘技場で出会ったんだっただか。なら天空闘技場に行かなければ…もつと言えれば武術家に成らない様にすれば良いか？。

いや、しかしそれも…殺人鬼が居たりして一般人でも何処に死亡フラグがあるか判らない世界。自己防衛できる強さが必要。無防備でいるのは怖い！

強くなるには武術…武術を学んでも天空闘技場を避ければ偶然に死因と出会う事はない筈だ。…万一闘技場以外で出会っても何とかできる強さがあれば安心だな。

強くなるには特訓か修行、修行の主導をしてくれる師匠なんて居ないので独学で…独学は自分のキャラ的に不味そうだ。…ハンター×ハンターの主人公の修行やらを参考にしたモノなら大丈夫か？

成果は…引く程に現れた。

流石はアニメ世界…！

身長を超える大きな岩を持ち上げたり砕くことはできたり、木から木に跳び移れるほどジャンプ力、分身殺法なんて動きも出来る。念を覚えてないのに凄いな。まあこの世界ならこれぐらい出来る人間は無数に居そう。

この肉体の才能？前世のネットでプロテインが空気にある世界と言われたハンター世界なお陰？それにしても筋肉は増えてるはずなのに体格が全く変わらない。原作者

人公も同じだったわ。

流石はカストロの肉体か。能力選びに失敗した事を除けば作中屈指の天才には認められていただけある。考えてみると…元祖カストロ並みに成るの大変じゃないか？

肉体の才能は変わらない筈、なら身体的なモノは努力次第として…念能力。

念能力は描写からして精神力が重要。原作で念を使えて強いキャラは極まった精神力をしてる。私があんな精神が極まる事があるとは思えない。次の問題は頭もそんなによろしくない。他に観察力に機転の良さ発想力、重要なモノが軒並みあると思えない…。

元祖のカストロな能力選びに失敗してるが、自力で念能力を会得してる。もし自分なら…自力で会得なんて出来ない。原作知識があってもどうやったら良いのか。原作より劣化してる。

念能力の師匠が欲しい。

しかし…念の師匠はどこにいるのか。

念の師匠と言えば年齢詐称か天空闘技場のメガネの彼が思い浮かぶ。

ウイングは強さは不明だが人格もよく教えかたは上手そうだった。念の才能が無くてもシツカリ教えてくそうでもある。しかし何処に居るかも不明だ。それ以前か…彼は原作で私(カストロ)と年代が其ほど変わらないように見えた。今の私は小学生ほど、

同年代なら念の師匠どころか今の時代だと念を知ってるかどうか。

メガネの彼の師匠の年齢詐称の人物なら今の時代でも確実に念を知ってるだろうが……師匠としては原作でトップだが……まあ元祖のカストロなら兎も角……私だと才能的に、主人公の様な特大の原石でもないし教えてくれそうと思えない。

原作から所在が何となく解りそうな念能力者は……危険人物しかいないな。暗殺一家、マフィアのお抱え。師匠にできるわけがない。例え師匠に出来るとしても私は裏社会なんて怖いので関わりたくない。論外ばかりだ。

他には天空闘技場の200階以上の選手、原作では洗礼とやらで200階以降の選手は念能力を習得してる様だった。此方は裏社会に関わりは無いだろうが、レベルが低いと原作で言われていて、しかも独学で目覚めてる。其処から学んだら原作のカストロの失敗をなぞらえる事になる。

念以前の修行場所には良さそうなんだが、私（カストロ）として天空闘技場は避けたい。死因の変態と出会う可能性があるから。

ふと思いついた事があった。

変態に師匠になってもらう。念能力者としては一流。もし強くなる可能性があるなら案外頼めば教えてくれそうでもある……無いな。何を馬鹿な事を考えてるんだ。

仮に変態に教えられたら、『強くなってくれて師匠としてとても嬉しいよ♪……そろそ

ろ収穫時かな?』って強くなったらきつと殺しにくる。逆に弱ければ『うん、もうどうでも良いかな☆サヨナラ』きつと殺しにくる。殺しに出来ないパターンがない!

他に機会と言えばハンター試験…原作なら試験に合格なら裏ハンター試験で必ず師匠が派遣されて念能力を教えられる!

念の師匠と確実に会おう手段はハンター試験の合格。ハンター試験を合格出来れば……ハンター試験なんて凡人だと試験会場にたどり着く事すらできない

「まさか…会場にも行けないか」

ハンター試験に応募して故郷から旅に出たが会場にたどり着く事すら無理だった。流石は難易度最高の試験だと実感した。何だあのクイズは、案内人の偽者までいるなんて理不尽だ。いや見破るのもハンターの才能か。合格出来る気がしない。今の私は主人公と年齢は同じぐらい。……才能は下としても本来のカストロ口なら会場ぐらいまでなら行けた気がする。やはり私がこの身体を劣化させてる…。せめて肉体トレーニングを頑張つて少しでも穴埋めしないと…!

ハンター試験はまた挑戦するとしても次まで時間がある。

「……あそこに行つてみるか」

試験会場が見付からなかった代わりに強くなるのに良さそうな場所を見付けていた。

道場。

何の流派の道場かは知らない。人気があるのか人が沢山いたから試しに入ってみようかと思った。

看板は心源流拳法。

看板を二度見、三度見した。

あの人類最強格のネテロ会長の流派？確か原作キャラでも何人か同じ流派の人間はいた。道場があっても不思議はない。流派として念を教えてくれるかもしれない。まあ教えて貰えそうな可能性があると思っても、念については期待として極僅か。

念は秘匿するモノで厳しい基準を越えなければいけない筈。凡人の私だと基準になるのは何時になる？何年だ。念を教えてくれる頃には原作のハンター試験が終わってるなんて事になるかも。

強くなるのに近道はないという言葉は有る。ただ原作が変わらないならジックリ強くなる時間がない。他にあてがない。

もし念は無理でも武術は学べる。

原作最強格の流派を……本物なんだろうか？名前を使った無関係な道場って可能性も……

短期間だけ体験で入れるか聞いてみる事にした。あと月謝が幾らか聞かないと。

道場に入ってみた。

空気感が前世で見た事ある部活の空手部よりも緩い感じがした。外れ感がして仕方ない。いや、まだだ。教えてくれる人を見るまでまだダメかはわからない。

「ん？お前さんは」

汗だくのオッサンがきた。

師範で道場主らしい。

…サングラス、無精髭……某マダオの姿と重なって見えた。騙り…

「入る希望者か？」

体験で入れるかどうか聞いてみた。

ダメなら諦めよう。

ダメだと言ってくれ

「体験か…まあ良いぜ。一月ぐらい体験してみな。月謝はこれぐらいだ」

示された指の数は…月謝安い。

…この値段なら間違えても仕方ないと思えるぐらいに安い。余計にダメそうに感じた。はいつてみる事にした。

入ってから一月後

体験の延長はしなくて良いなおもう。

この一月、ナゼかよく模擬戦を仕掛けられる。模擬戦で勝つと空気が悪くなる。年上しか居ない先輩達と模擬戦して全勝したから、技術では相手の方が上だった。ただ根本的なスペックが前世の人間とアニメキャラみたいに違った。この肉体が優秀過ぎる。

別に模擬戦は良いとして、指導がろくにないのは酷い。師範がろくに指導とかもなく隅っこで一人。何かヒソヒソと女子の同門に陰口を言われ、男の同門には怒りを向けられた。何でなのか。

練習としては模擬戦は糧にはなってるけど空気が辛い。体験にしといて良かった。

最終日。

この一月、他の道場を調べた。

ちゃんと指導してくれそうな道場を見つけた。

明日からはそちらに移ろうと考えていた。

で：困ったことになった。

「あんたね。心源流に喧嘩を売りに来たバカって」

どうして年齢詐称の人が？

カストロ憑依に

アイツの話？

んーまあいいわさ。

な、なにさ、嬉しそうにしてるって。

ん？年考えろ……てい！

どうしたの顔から鼻血を流して？

ビスケちゃん乙女だからわからないキヤルン

アイツと出会った日の話ね。

アイツがアンタ達と年齢は同じぐらいだから、かれこそ10年ぐらい前、あの日の事はムシヤクシヤしてたから覚えてる。何でってその時は狙ってた宝石が手に入らなかったからね。あー今思い出しても腹立わさ。

いやいや見つけられなかったとかじゃなくて、宝石はみつけはしたんだけど、その宝石手に入れるのに色んな伝を使つて調べてようやく見つけたんだけど!!見つけたと思えば……宝石が持ち主の息子夫婦の、新婚の結婚指輪にされてのよ!流石に結婚指輪

をどうにかできないわさ……物凄い仲が良さそうだったし

あ?……ムシヤクシヤしてた理由は宝石が手に入らなかったかじゃなくて、ラブラブな新婚カツプルをみたからじゃないか?

てい!

そういう訳で当時の私は宝石が手に入らなくて!ムシヤクシヤしながら歩いてたわけよ。そんな時に声を掛けられたの。これはアイツじゃないわさ。ナンパ?ナンパでもないわさ。ナンパ……

声をかけてきたのは偶々帰る時に通った町にあった心源流道場の師範よ。私が一時的に稽古をつけてた道場に居て私が教えた事があるからソイツは一応は私の教え子みたいなの。

名前?なんて名前……えー……ワーゲンだっけ。ボケた訳じゃないわさ!会ったの数度だけであと名前を覚える価値が無い奴だったし。価値が無いって酷い?価値が無いって言い方が悪いわね。名前を記憶に残しときたくない相手。思い出したらムカムカしてきた。ソイツ私になんて声を掛けて来たと思う?

恐ろしく強い別流派のヤツが自分の所の道場に居るから助けてとか言うのよ。道場の師範を任されてるヤツがよ?笑える?同門の一応は教え子が言ったら笑えるわけじゃないわさ!

ま、そんな師範がやってる道場なんて心源流の名誉のためにつぶれた方が良い気がしたけど、行ってあげたわさ。

苛々してたから気兼ねなくぶん殴れる相手がほしくて？てい！まー正解よ、正解なら殴るな？正解でも失礼なアンタが悪い。話を戻すけど私が行った道場で見たのがアイツ、カストロがトラブルを引き起こしてたの。

まあ判つてると思うけど誤解ね。

道場側の言い分はカストロの事を何処かの流派のヤツが道場の名誉を潰すために刺客つて認識。カストロの言い分は一月だけ体験で入ってただけ：結論だけ言うけどカストロは嘘はついてない。けどカストロが悪いわね。

カストロの奴。その道場に入る時に武道を学ぶの初めてですって言って入ってきたそうなの。

で、その頃のカストロ、今のアンタと同じぐらいの身体能力があって、漫画の武術を参考に何年も修行してたせいで普通に心源流以外の格闘技を使ってる様にもえたそうよ。

武道初心者なんて嘘をついた別流派の使い手と思われるのが当然。別の流派の間が喧嘩を売りにきたって思われたとしても納得はできる：判断するのが素人に毛が生えたヤツならね

当時の私が見たカストロは一部はスゴくて武術っぽいのは使ってたけど、ある程度武術が出来たら素人ってのはわかるぐらいに無駄な動きはあったのよ。

その道場の奴等ダメ過ぎね？

まーソコの道場はやたら門下生が弱くて目が節穴ってのが多かったわ。けど少なくとも道場主は違った。ええそうよ！その道場主はちゃんと素人だってわかってたよね！つまり私に嘘ついたのよ！本当にふざけんなってヤツよ！あれのせいで…偶々近くにいたネテロ会長がかかわってくるし

………もつと詳しく？

20年前、貧民街生まれの当時の俺はスリで生きていた。今では心源流って最大規模の流派の看板を背負う道場の師範だ。

スリからなんで道場の師範になったかといえ、当時の俺は何時ものように財布を擦ろうとしたがミスをしちまってな。しかもミスしたのがヤバイ相手に殺されそうになったんだが、其処をばば、んん！ビスケ師匠に助けられた。…本人は欠片も覚えてな

いけどな。心の師匠。

まあ後から聞いた話だと、俺を助けたんじやなくてヤバイ相手の持つてる宝石が狙いで助けたと見せかけて……事実なんて永遠にしりたくなかった……

当時は、表向きの助けられた理由を信じて、存在しない優しい師匠に憧れた俺は、スリから足を洗って師匠が講師をしていた心源流に入った。

で、一時師匠が指導してくれる事があって、その教えを元に人一倍真面目に修行して稽古をして心源流に入って20年目にして俺は一つの道場の師範を任されるようになっていた。大出世だ。自分のことながらよく此処までこれたと思う。

同期の中で誰よりも努力して師範まで上り詰めたと自負している。で、そこからそんな才能も無い貧民出身の俺だから他の道場と違って俺の道場は、底辺の身分のヤツでも才能のないヤツも努力しないヤツでもドンドンと門下に入れていた。基本俺の道場は入りたいヤツは拒まない。入ってからも強くなるのは自分の意思次第だと稽古をサボるのも注意しない！何よりも厳しすぎると女の子の門下生が入らないしな！

質は低下して道場の中でも特に質が低いつて言われた。

自分の道場が馬鹿にされても後悔はなかった……あんなヤツも入れちまったのは後悔しかないな。

道場に入ってきたソイツ、カストロ口を見て思ったのは、顔が良い場互いなガキ。十代

の前半ほど軟弱そうな顔に筋肉が欠片も見えない体、武道初心者なんて話も嘘とは思わなかった。

カストロに道場に一月だけ体験で入りたいと言われても許可してやった。誰でも良いつて方針だしどうせ一月と期限を決めなくても稽古に耐えられないだろうと思つたからな。

……ビスケ師範みたいな外見が宛にならない例外の事は頭に通りもしなかった。もし思い出してればあの一ヶ月は始まらなかつたらうかな！

俺の道場では準備運動の後に一番始めにやるのが正拳突き。基本中の基本の技。基本だけありある程度の格闘技者になれば正拳突きの一発を見れば相手の実力はわかる……

正拳突きつてのは超一流なら音を置き去りにして空気を叩く。…ネテロ会長のはなんだろ。一度だけ見る機会があつた、あの人の正拳突きは音どころか時を置き去りにしてるように感じた。正拳突きの極地つていうのか、ただ一回の正拳突きを見て感動して泣いてた。天才なだけじゃ辿り着けない修練の最果てつて言うのかな。未熟なりにそんな風に感じた。

カストロが入つてから始めにやつた正拳突き。

俺は正拳突きの型を見せカストロは見よう見まねといった風に正拳突きを行った。

師匠曰く石ころレベルの才能の俺は才能豊かな奴に若い頃は散々に嫉妬をしてきた。しかし歳をとると慣れてきて嫉妬の感覚も薄れてくる。門下生って格下しか周りにいない師範になってから嫉妬をした事なんてほぼ無い……

たつた一発の正拳突き。演技じゃなければカストロの初めての正拳突き。いや仮に演技だとしても、若い頃から修練を重ねてたとしても、カストロの年齢を考えると……はあ……

正拳突きを見て二度目の涙が流れた。

今度のは感動じゃない悔し涙だな。

無駄が無くなって動きが洗練されていく。長い時間をかけて脳でなく身体の細胞に覚えさせるような作業を……アイツの一日の成長は俺の何年分だ。まだ経験の浅いヤツはともかくある程度経験を積んだヤツは皆、カストロに対して誰も良い目を向けなかった。気持ちにはわかる。

一月過ぎたら出ていってもらった方が全体としては良い……けどあれだけの才能を放り出すのも勿体無いとも思う……ジレンマだ。

カストロに練習試合戦を挑むやつがいた。入門から十年ぐらいのヤツだ。入門十年のヤツが入門一日目と模擬戦なんてダメだ。他のヤツから良いのかって目を向けら

れたけど黙認した。予想だと良い勝負になるんじゃないか？ただ恐らく幾ら才能があってもカストロが負ける。カストロが負ければ敵意も下がるはず。そう思って許可したんだ。

しかしカストロの勝ち。

それも一発で。

勝負の形にも成らないなんて予想より強すぎる。余計に状況は悪くなった。

下手に一度許可した事でカストロに挑戦する流れが止まらない。模擬戦を受けて勝ち続けドンドンと強くなって、遂には道場で俺に次ぐ二番目の実力者も負けた。

しかも正拳突きでだ。

カストロが放ったその正拳突きは俺のより、長年努力した俺のより……カストロが正拳突きをやった回数は俺の何百万、何千万分の1だ？

才能の差から、俺がカストロを指導する何てするのは烏滸がましつてのかな。無理だと思った。それでカストロを指導もせずに放置してしまっただ。俺は指導出来ないと思つた。それでカストロに言った。遠回しで伝わってなくても普通、指導しなくなつたならと遠回しにカストロに言った。遠回しで伝わってなくても普通、指導しなくなつたなら来なくなるよな？カストロは毎日道場に来る。俺はどうすれば良いんだと胃を痛めた。

で……カストロは何処かの流派の刺客で心源流に喧嘩を売りに来たヤツだつて事に

なっていた。道場にそんな噂が広まっていた。

俺は否定はしたが、カストロは指導もされず放置されたのに、それでも文句も言わずに律儀に毎日道場にくる事から邪推は広まった。

あと心源流と違う武術を使ってるみたいな動きが有ることも理由か。武術……つてほど洗練されてない。もし武術でカストロが学んでたならもつとちやんとしたモノになつてる筈だ。

刺客だなんだつて噂が広まったままアイツの体験で入るといった最終日。延長はないつて本人からつたえられた。俺はようやく去ってくれて安心……出来ない

……これ、カストロが他流派の刺客つて認識のままだと、他流派に勝ち逃げされたみたいなる事になるな。道場主として困る。カストロに刺客じゃないと否定して貰う……本人の証言じゃ意味ない……か。

こうなったら俺が模擬戦でカストロを倒せば最低限の面子は……勝てるかな。素だと厳しい気がする。流石に念を使えば倒せるだろうが、カストロは念を使えない。もしくは使えないように見せてる。念を使えない子供に念ありで勝つのは……。

カストロが道場にいる最終日、俺はその日、道場に行かず外を出歩いてた。そんな出歩いてる時に師匠、あの人に出会った。

∴俺のこと欠片も覚えてなかつたよ

カストロさん

一月の体験も終わって道場から出ようとした。

金髪のドリル型のツインテールにゴスロリ衣装……年齢不詳のひと

外見で該当するのは原作のあのキャラ。私を知る相手だとすればハンター×ハンターでは実力者のロリババア!!!

ビスケット・オリバ!

ビスケット・クルーガーだったか?

本物か? 本物としてなんで此処に……原作でも心源流だったような。違ったか? もしかして原作と違う……少なくとも武術家ではあるだろうし道場に来るのは不自然でない。しかし不穏な台詞を言われた。この道場に喧嘩を売るっていつたい。

「ふーんその反応……私を知ってるんだ」

「いや……どう、なんでしよう」

外見と特徴で言えばそうとしか思えない。もし正解なら相当に年上……母親、いや祖母ぐらいの年齢。敬語で話さないといけない。

「なんかモノすごいムカついた。先ずは話を聞こうと思ってたけど、ボコつてから話を聞くことにするわさ」

「は?」

なんでボコられなきやいけない。

冗談…? いや!あの目は!!

「じゃあ挨拶の一発行くわよ」

繰り出されたのは正拳突き。

咄嗟に正拳突きを腕を交差させて受けた。すごい音がした。重い。細い体から打ち出されたと思えない。身体が浮かんた。そのまま何メートルも後退して、体を回転させながら着地した。

痛い。

腕が痺れていた。

今の一撃。身長は同じ程度なのに、まるで大男、いや熊に殴られた様感じた。この威力は本物だ。本物以外に考えられない。本物だとすれば、本気の出せる本来の姿を隠している。それなのにアレだけの威力。恐ろしい。

本物だとしなんでだ?なんで殴られた!?本気でボコるつもりなのか。理由がわから

ない。私はなにもしてない。喧嘩を売りにきたって思われた理由はなんだ!?

「ふうん今の受けれるんだ……初心者じゃないって思われるのも仕方ないわね」
「…」

全く話がつかめない。

初心者……? そう言えば道場で挑まれた練習試合で負けたのが私が初心者じゃないとか難癖をつけてきたことがある。何処かの流派の回し者とか……は、喧嘩云々はそれ? 模擬戦で負けた誰かが根にもって彼女に嘘をついたのか?? いや、初心者と思われるのも仕方ない……という事は彼女は私が初心者だとはわかってる……ことに……
????

「戦いの最中にボツとしない!」

また殴ってきた。

さつきよりも早い!

慌てて後ろに跳んだ。

「ふむふむ、これにも反応 と」

楽しそうだ。私を攻撃するのそんなに楽しいのか? 楽しいのか。そういえば原作でサディストみたいな感じがあった。良い男を求めたり……実際の正体含めなくても……結婚とか絶対に無理だな。

「なんかムカつく……」

内心がバレたのか？ 気配を読む技量、いや年の功で察してきた？！

「さーて！！ドンドンと行くわよー！」

ドンドンって、早さがドンドンと上がるって意味なのか！？ 攻撃の速度が上がっていく！ 対処できるギリギリ、まるで猫がネズミを痛ぶるみたいな攻撃だ！ 早くなる攻撃をかわして受けてひたすらに逃げるしかない！ い、何時まで続くんだ。

「っつと」

ここ、攻撃が止んだ。 此方は過呼吸をする様に息が上がってるのに全く疲れた様子がない。 受けた腕や足が痛い。 ボコるのは終わってくれた？

「…はあ…アンタも武道家を目指してるなら少しは反撃しようとしなさいな」
終わった訳ではなさそうだ。

なんだろう。 修行でもつけてるような台詞に聞こえる。 目的が何だかわからないが、反撃しないと、反撃するようにひどい目にあわされるといふ事はわかる。

反撃か。

つまり…戦うと。

まったく、欠片も勝ち目を見出だせない相手と戦うのか…一撃当てられるかどうか。 なんてこんな負けイベントをしなきゃいけないのか。

主人公の師匠と戦えるのは幸運！とでも思っていないとやってられない。

私は構えた。

「ふーん戦う気になったって事で良いわね」

スゴく良くない。

「たたかわないとダメなんだろう」

「そういうこと！私はビスケット・クルーガ」

「……私はカストロ、できれば帰してもらいたい」

「ダメ」

良い笑顔で言われた。

ふふ、ここの道場主に喧嘩を売りにきたとか、他流派の刺客とか言われて来たけど、誤解なのか嘘なのか。このカストロってガキが素人ってのは間違いないってのは気づいてる。身体能力は高いけど確りとした武術的な技量は感じないど素人。つまり他流派の刺客とかはありえない。

本当なら私に嘘をついた道場主をボコるべきなんだけど、カストロをちよつと試してみることにした。

試した結果……このガキ、カストロは相当に才覚がある。宝石の原石。研磨すれば確

実に光輝く宝石が現れる。

ジュルリとヨダレが出そうになったわ。

カストロ口のようなやくとつた戦闘体勢、手を獣の口のように上下に広げるといふ独特の型。何処かで見えたことがある武術を見よう見まねでやってるって感じ。

威圧感は結構ある。少しでも私のお肌をピリピリさせるなんていいわ。

「行くぞ」

さっきの構えはブラフか。それとも、カストロのやったのはお返しとばかりに正拳突き。腕でカストロ口の攻撃で受け流す。

「へえ良い攻撃じゃない」

声は余裕綽々としてるけどわりと痛い。流して此だけの衝撃、私が言うのもなんだけど本当に見かけ通りの年齢？

「じゃあ今度はこっちから」

「きつい、な！」

このカストロ、どんな修行をしたのか知らないけど、身体は相当に鍛えられてる。

だけど

「また行くわよ」

右から行くと見せかけて左から行く。

「くっー」

だからこそ残念というかチグハグと言うのか……コイツ、簡単なフェイントにもふぎけるのかって思うぐらい引つ掛かる。とにかく私の目に見える動きに対応して動く。けど動きだけ見ると悪くない。鍛えただけの素人。

素人って言い換えたなら何の手垢もついてない状態とも言えるのよね。やっぱり宝石の原石、研磨次第でどんな風にもなる。

ぐふ……ぐふふふ、

私の目にはもうカストロが輝きを放つ宝石の原石にしか見えない。宝石ハンターの私がおんな奴を見付けて放置とか出来るわけないわさ！

私は戦闘をしなからそんな事を考えていたのが悪かった。

「……」

真綿に水を染み込ませるって言うの。カストロの動きは一秒ごとに対人戦に適應してきてる。

原石としてみると余計なモノが削れて輝きが増してるのに興奮するけど、勝負としてはちよつと不味いかも、油断したら手痛い反撃受けるかも。

仕方ない。

そろそろ終わらせよう。

勝つてから私が師匠になってあげると言う。

「はやい!？」

わりと本気に技を仕掛けたのに防がれた。最初の頃より確実に強くなってる。強くなりすぎて……成長もそうだけど人との戦いに慣れて本来の力が出せてきてるって感じ？

別に今の段階でも勝てないことは無いんだけど……今の力の差だと怪我させないように手加減して倒すつてのが難しい。

流石に無理矢理仕掛けておいて怪我させるつても……ね。怪我させといて師匠になるなんて言うのもあれだし。

どうしょ。怪我させない手段は有るんだけど、姿を本来のモノにするの論外なのよ。ね。こんな場所で使いたくない。まだ念を使う方がいいわさ。

うくん念を使う？

ま、念を使うとしてもその前に試してみる事を思い付いた。私の勘が正しいならカストロは……

一旦カストロから距離を開いた。

で!

「あ」

さも何か有りますよと言いたげにカストロの後ろをみた。

「……」

普通に後ろを見た。

経験的にカストロみたいな戦いかたをするのは単純馬鹿。正解だった。

なんかあれだけチャンス！

殴った。

上手く当たって足が崩れた。

「く……さ、流石というべきか」

うん、ソコは卑怯と言われる方がいいわさ。今ので賞賛されたくない。皮肉とかじゃなくて本気で言ってる目をしてのちよつと。外野とかみたいに卑怯だって目をしてる方が正しい……まああの程度で卑怯とか無いんだけど

一応謝っておこう。

「お兄ちゃんだましてゴメンなさい☆」

ブリつこのポーズでいった。

「うわ、きつ」

心底キツイものを見たって顔をされた。ブリつこポーズのままの私の顔が固まる。ガチで吐きそうな反応をされた。そして吹き出したヤツだれ？

意識の誘導とかじゃなくて、カストロみたいだに単純なタイプだと本気で心からキツイっていった……ちよつと怪我させても良い気がした。

私の念が燃え上がる。

脚力に念を全力で込めて！

吐き気を催してるカストロに突撃!!

「ぐはああ!!」

私の乙女の怒りの頭突きにカストロぶつとび飛んだカストロが道場の壁を破壊した。

イヤイヤ、何してんのわたし！

私のあの突撃って大型車ぐらい壊せそうな勢いあったわよね………壊れた壁

に足だけ見えるカストロ。

私を見るヤつちまったという視線。

……うん、やつちまったわさ。

いや！やってない！生きてる！オーラは見えるし生きてる！良かった……それは良かったけど……良くない。全く良くない。相手は道場に体験で入ってきた子供。鍛えただけの子供。

……と、とにかく…病院に運んで

「何をしとるんじやっ？」

何でジジイがここにいんの!?

カストロ口よん

気づくとベッドで寝ていた。

お腹がすごい痛い……。

何がいったい。

此処は病室だろうか？

病室に何で……いるのか……思い出してきた。なぜか年齢詐称の原作キャラに道場に喧嘩を売りに来たと誤解を受けて、誤解されてたのか？ 戦闘しないと助からないと、戦おうとして……なにか、何かキツイものを見たような……巨体のムキムキな老婆の姿なにかが、う！ 頭が痛い。思い出したくない……その次に……お腹に大きな金色の砲弾を受けたような。さつきから緑の某大魔王の様に貫通した光景が脳裏に浮かんでる。……訳がわからない。

「起きたのか!?」 その、すまん。まさかこんな事になるとは思ってもいなかったんだ。本当にすまない」

道場の師範がいた。

道場に入ってから殆ど放置みたいな事をされてただけで、この人自身には何かされたという事はない。明らかに他からの扱いが可笑しかったのに放置していた。指導もろくにされてない。虐めの黙認をしてた怠慢な教師みたいな人か。

そんな師範がまず謝ってきた。

謝るという行為……謝られる覚えはある。タイミング的に放置関係でなく……腹部が痛いことの関係か。

何がどうなつてあんなつたのか聞きたい。

しかし言葉を出せない。

それは……そうだろう。

師範の隣に私の死因に成り掛けた年齢詐称の人がいる。ソコまででもアレなのに……老人がいた。どうみてもあの……会長……脳が処理不全になるぐらい脳内に埋め尽くされる『トウソウ』の文字『逃走』であつて間違つても『闘争』なんて文字はない。

忍者、インストラクター、召還

「大元はコイツが悪いんだけど……私も悪かつたわさ。ごめんなさい」

寝起きの脳をフルに使い逃走経路を探っていた私は、年齢詐称の人に謝られた。たぶん謝られた。

「謝罪される意味がわかってないようだ。ほれ、なんであんな事になったかの説明が必要だろう」

「ご老人が至極真つ当な事をいったような気もする……けどこの人が誰なのか。やっぱり会長？」

「あ、ワシの事は気にせんでええから」

「気にしないでええて……気にしないでおこ。見掛けは同年代にみえる人に顔を向けた。」

「ごほん！えーと簡単に説明すると……」

説明の前に、先ず名前を教えてほしいといった。

「名前すら名乗っておらんかったのか……」

「う、私はビスケ、その道場主の関係者みたいなモノよ」

やつぱりビスケだった。

なんか道場主の関係者って言うところで少し言い澁んでいたような。

どうしてこうなったのかの説明もされた。とにかく、道場で誤解が発展してこんな事になったと、理解はできた。

つまりは敵対勢力の手先みたいな扱い？この一月は見て覚えるとか、模擬戦で強くなれとかじゃなく、他の流派の人間だと思われて放置されてたと……道場にいたこの一月

はなんだったんだろう。

「それでね。謝罪が言葉だけじゃだめよね。お詫びとかもいるわよね……お詫びとして
なんだけど、あんた私の弟子にならない？」

それお詫び？

原作で最上位の師匠という感じの相手から学べるのはありがたい……ありがたいが
……断ろう。

将来的に原作キャラと関わる可能性が高くなるのがデメリットが気になる。あとお
腹の痛みが止めとけと訴えてる。

お詫びを受け入れた。

「ふむ、ワシの弟子でもいいぞ？」

次に言われた此方が怖すぎて咄嗟に……。

弟子になると答えると、これから指導する方針の為と、年齢詐称の師匠に此までの修
行内容を病室で尋問された。質問でなく尋問だ。病室に寝かされてる人間

「……………アンタ、アホね」

内容を話すとドンドンと呆れた顔になり呆れた顔で言われた。一緒に聞いていた師
範の人も頷いていた。わりと原作の目の前の人物のを参考にしたのに……。

病室で話してゐることに看護師の人が怒った。ビスケ、師範は謝つてでていった。会長？の人は笑つて将来が楽しみだとか笑つて出ていった。

それから病室から退院ご。

「さー今日から頑張るわよ」

退院後に年齢詐称の女子に即捕獲された。

ビスケ：いや師匠による修行の日々。

師匠は原作のイメージ的に地獄の特訓をさせられると思えば、イメージは悪い意味で裏切られなかった。悪い意味で裏切られなかった。大切な事なので二度いった。

自分でやってた修行に比べて肉体的な負担はそんなに変わらない。しかし精神的には比べ物にならないぐらい遥かに辛い。精神面が弱点だと徹底的に鍛えられた。普通の実戦を体験させられる。危険な魔獣やら闇系の人やら：精神的にはイヤでも成長できた。

精神的に成長したからか弟子入りから半月程で念も習い。念能力を覚えて大幅に強くなった。因みに強化系だった。

地獄のような修行の時間は過ぎていく。

修行として実戦訓練として天空闘技場に連れてかれた事もある。行きたくないと言つても、師匠の方針に逆らえず、死因とさえ出会わなければ問題ないと思おう。：原

作の死因とちやんと出会ったりした。

天空闘技場と言えば原作のメガネの彼、ウイングも一緒にきた。原作通り彼も師匠の弟子になっていた。立ち位置的に弟弟子。弟子に成りたいと思った相手が弟弟子…。

自分としては複雑の気持ちになる。本人が師匠と違い厳しさが薄そうな相手なので本当に惜しい気分になる。試しに私みたいな弟子を持ちたいか聞いたら真顔で冗談でも嫌ですと言われた……。

それから何年かして、ビスケ師匠から受けさせられ…修行がある程度終わると卒業した。

卒業から更に何年。師匠から解放され自由になった！と成らずに、師匠からは修行として課題を定期的に受けさせられる。師匠が好きな宝石目当てに危険地帯につれ回されたりもする。ウイングの方はそんなモノはない。卒業してから別れた切りで久し振りに出会ったウイングから教えられた。

久し振りに出会ったウイングは弟子とハンターライセンスを持っていた。会場にすら行けなかったから若干悔しい。弟子持ち…弟子なんて居ない…負けてる感が…！

「え、まだライセンス持ってなかったんですか…」

ウイングが驚いていた。

師匠ならとつくの昔に試験を受けさせてたと思ってたらしい。ハンター試験…どう

しよう…最初に受けた時の目的の念能力は既に習得してる。ハンターライセンスは便利らしい…それに弟弟子が持つてるライセンスを持つてないのは…

…今は試験を受けるのは止めておこう。ウイングに弟子が、ズシがいるし。

ハンター×ハンターの原作の年代は覚えてない。ただズシが居るといふ事は原作の年代に近い。原作の年代に近い試験、原作通りなら原作の死因は参加してる可能性が高い。

原作通りといえば、ウイングが主人公やらを弟子になるんだろうか？弟子になってたら私も気兼ねなく試験を受けられる。原作主人公が念やらを習得する時期なら死因も試験を合格して居ないだろうから…

そう思っていたんだ…。

「久し振りねはな垂れ」

「ウイングです。弟子の前ではな垂れは止めてください」

ウイングに会ったことを師匠に伝えたら近くに居るから久し振りに皆で会うことになった。師匠とウイングと孫弟子のズシ。四人で集まってる時に、ズシくんが余計な事をいった。

「そう言えば、師匠が言ってたんすけど、カストロさんがハンター試験に試験会場に着くまでに落ちたって本当すか」

ウイング：…なんでそんな事を教えてるん？

本当の事だと笑いながら言われた。

「試験といえはば：そう言えばカストロってハンター証：まだ持つてなかつたんだっけ

……………」

師匠の次の言葉は予想できた。

「カストロ今年の試験受けてきなさい」

「いやです」

予想できたから食い気味に拒否した。

「は？なんでよ。受けなさいな」

断るとむきになって試験を受けると言ってくる。イヤだと頑張つて抵抗した。どんなに脅されても行かない。死ぬぐらい酷い事でもないよ…

「ああもう！試験を受けに行かないと婿にするわよ!!」

「試験受けます」

「…そこで即答されたら無茶苦茶腹立つんだけど？」

試験は受ける。ただ試験会場に辿り着けるかはわからない。

「師匠、カストロさんがハンター試験とか大丈夫すかね…」

「彼の実力なら大丈夫ですよ…………たぶん」

たぶんって言われた。

「そんな目を向けなくてください。ハンター試験は実力の他にも運次第な所もありますし」

そう言われたら反論できない……原作の死因でも試験内容があれで素で落ちそうになつていたし。

「ねえそのズシって子も一緒に試験を受けさせない？」

「え!？」

「ズシもですか……体験するのは悪くもないですか……ズシ貴方もハンター試験を受けてみますか？」

「ええ、カストロさんが不合格に成るようなハンター試験に俺なんか合格できるんすか」

「合格出来ないだろうけど良い修行になるわよ」

「ソコはせめて希望が持てるように合格できるかもって言って欲しいっす」

ズシくんも巻き添えになつていた。

すまない……本当にすまない……

「試験に行かなきゃダメっすか……」

「うーん……試験を喜んで受けるのと私のスペシャル修行コースとどちらが良い？」

「因みに師匠の修行はボクの数倍は辛いですよ……誇張とか一切なく……いえ数倍程度では足りませんか……」

ウイングが修行をやつてた当時を思い出したのか遠い目をしていた。

「試験を喜んで受けるっす!!」

ズシくんは喜んで了承してる。

半泣きで

ズシくんを見てると思う。この世界は常識的な人間なほどに生き辛い。ピスケ師よりはマシでもウイングも天然気味で、ズシくんのような常識人は辛いだろうな。私も同じ常識人なので辛さはよくわかる。

「あの何を考えてるんですか。何か無性にツツコミをしたい気持ちになつたんですが」「イヤ、ただ万一ズシが試験会場にたどり着けば……大丈夫かなと」

将来性を見てターゲットにされるかも……? 原作主人公が居なければ……

数少ない常識人仲間を守らないといけない気もする。お互いに危険な試験なんて受けたく無いじゃないか。後でボイコットの相談を……いや、会場に辿り着かないようによ。試験の間は修行でもしてようか。

いや原作近くの試験時なら死因の変態は試験に出て天空闘技場は安全、天空闘技場を今度は念無しで何処まで行けるか試すか……試すと言えば、ゾルディク家の試しの門と

か修行に使わせて貰えないか。無理か。

他に何処か修行に良いところがないか後でコツソリとネットで調べよう

師匠がバンと扉をあけてきた。

「何ですか師匠、ズシの試験準備で忙しいんですが」

「いや何でアンタも一緒に準備してるのよ。準備は一人でさせなさいな。過保護過ぎるでしょ」

「師匠に言われたく無いですね。∴保存食とか着替えとか色々と用意してますよね？」

「そ、それは、だってこれぐらい用意しとかないと面倒とかで人並みな生活とか捨てそうなヤツだし」

一応卒業してから何年も一緒に居るんですよね。過保護なのも合わせて∴お母さんの感覚なのか。真面目にオトコとして兄弟子を狙ってるのか∴∴怖いので前者として起きましよう。

「それよりカストロのアホがココソソとパソコンを使ってたのよ」

話を逸らした。

いえ本題ですか。弟子のパソコンを勝手に持ってきてますね。

「なにか変な事ですか?……ハンター試験を受けることになったんですし試験についての情報を集めてたんでは……」

「こんな検索履歴が出たわさ」

「人の検索履歴を調べるのは酷いですよ?」。ボクのは絶対に調べないでください、これは……明らかに試験と関係ない場所ですね。幾つか、修行に行きたいと言ってた場所、……まさか」

「試験バックレる気満々よあの修行バカ……」

「修行バカなのは師匠のせいでは……ジャンキーになるまで修行漬けにしましたし」

「当時は兄弟子にボクの何倍もの密度の修行させてましたよね。息の根を止めるつもりなんだと本気で思いましたよ。」

「そこは、ほら、カストロって才能があるから何処まで伸びるか見てみたいでしょ?」

……それ、修行を兄弟子ほどされない私には才能は無かったと言ってますよね。才能があつてあの修行を受けた兄弟子を思えば嫉妬するということ気持ちにもなりません。

「才能を伸ばしたいですか、まあ師匠となった今だと、弟子の才能を出来るだけ伸ばしたいという気持ちはわかりますが」

「あ、そうそう話を戻して来た理由なんだけど、試験に不合格だった場合の罰ゲームを考
えてるのよ」

「言いに来たという事は私も罰ゲームに関わるとう事ですか？」

「もう試験に落ちたら、弟弟子のウイングにカストロの修行をやらせる。どうこの罰
ゲームならカストロも試験を真面目に受けるでしょ？」

罰にはなりますが……それ私にも罰ゲームになりますよね。いえ兄弟子なら私の弟
子扱いも大して気にしない予感もします。下手すれば私への罰にしかならない可能性
が……だからといって拒否なんてできるわけないですし……

……合格すれば問題ないですね。

「ズシお願いしますよ。あの兄弟子が試験に向かうようにしっかりとバックレないよう
に見張っててください。あと出来れば合格できるようにサポートも」

「荷が重いつすよ!？」

冷めた情熱（アンバランス）

カストロゴ

何の不幸かハンター試験に強制により参加することになった。試験に参加する申請を出された後、巻き込まれたズシとともに試験会場を目指して何日、人生で二度目の試験、どうやら今度は会場に辿り着いてしまったようだ。試験までの最終日、なんで辿り着いたのか。ズシが有能過ぎる。

「……すよね？」

サバン市の小さな定食屋。ズシは首を傾げている。一見普通の定食屋に見える。隣の建物の大きさを見ると小さな定食屋があるのは不自然に感じる……。のかも。まあ知っているから不自然に感じるのか。

此処がハンター試験の会場に通じる場、毎年会場の場所が違うだろうし此処だとしたら原作の年……主人公やあの死因の変態が居る場所。正直、これまで鬼な師匠に精神的な修行をやらされ過ぎてソコまで死因に会うのが怖いとかはない。恐くなくてもなるべく出会うのは避けたい相手には変わらない。避けられるなら避けたい。……実は今回の試験前に……年齢詐称の鬼のせいで最悪な場所です会ったことがある。

「カストロさんどう思います?」

言うことは決まってる

「ズシこんな小さな会場が有るわけない。案内に言われた場所だったがどうやら騙されたようだ。引つ掻けで本物とは違うんだろう。別の所を探そう」

私の言葉にズシは確りと頷いた。

「ここっすね!!絶対ここっす!」

「なんでそうなる?」

「カストロさんが違うって断言したからっすよ」

「弟弟子からの信頼が低い」

「カストロさんへの信頼が高かったすよ。ウソをつかれる前は」

此処にくるまで嘘なんて……五回ぐらいしか嘘を付いたことないのに

「いや、今回はウソじゃないと信じてもいいんじゃないか?」

「……………入って確かめてみましょう」

ズシに押されながら店内に入ると、普通の飲食店に見える。店員も普通の店員に見える。しかし此処が会場なら演技をしている。店員も客も!下手をしたら全員が演技をしているのか。前世で漫画で見た時は深く考えて人間不信に陥りかけた。

「いらっしやい!なんにします」

「焼肉定食を中火「弱火」でジツクリ」

小指をたてようとしたら、ズシが人差し指を立てて注文をした。

「此方にどうぞ」

店員に奥の部屋に案内された。

個室のテーブル席。既に食事は用意されてて、感覚的に下の方が空洞だとわかる。席につくと部屋はガコンという音を鳴らして降りていく。不思議と未だに覚えている原作知識と違うところがない。同じだ。原作の記憶を思い出して心臓が高鳴る。悪い意味で。帰りたい。

「部屋が下に動いてる感覚が、エレベーター？これは此所が会場で正解……ようやく、ようやくやく此所まで来れたっす……」

ズシは頑張りすぎだった。なんでゲツソリするほど試験を頑張ってるのか。無理矢理参加させられた試験なのに。

この下でこれから行われるのがハンター試験。

ハンター試験は毎年くる数万人の受験生から合格出来るのはゼロの可能性もある超難関試験。前回はたどり着けずに終わった。どうせ今度もたどり着けないと思ったのにたどり着いてしまった。

「カストロさん、せっかく此処まで来たんすから合格しましょう」

「わかってるよ」

流石に此所まで来て真面目に受けなと言ふ訳にもいかない。：真面目にやってないとズシが鬼に伝えるだろうしな。

真面目にやつても合格出きるかな？

鬼のもとい師匠の元で修行した。今の私はそれなりの強さはあると思う。戦闘力は十分という師匠のお墨付きもある。頭脳は言葉を濁されるお墨付きもある。試験でどんな敵が来ても戦える。試験で頭を使う難題が来れば：ちよつと。

大まかな試験は漫画の原作通りなら：何とか？

原作の漫画の方でも試験では頭を使う試験があつたのは覚えてても、肝心のどんな問題は具体的には覚えてない。そもそも知つても原作の主人公組が受けた問題で、同じ問題を受ける可能性がない。……アニメの方の試験はあまり覚えてない。

降りる間に用意されている焼肉定食を食べておこう。試験でこれから何日もマトモな物は食べられないだろうし。これの代金は無料なんだろうか。

ズシが食べようとしな。

食べといた方が良くと言つてみる。

「……今は食欲ないっす」

なら……：タッパーに、そんなセコい事をしてるとエレベーターは降りきつた。

エレベーターを出ると……

「す、スゴいすね。店の地下にこんな空間が……」

トンネルみたいな場所に同じ試験生がだいぶ居る。このトンネルは漫画ではアツサリして……アニメでは結構危険な場所だったような気がする。

あとこのトンネルという事はやっぱり原作の年代の試験だ。

さて、最初の難関だ。

居るかどうか。

元々この世界が原作通りの世界としても私という異物がいる。バタフライエフェクトか。私が居ることで原作と違う事に成つてたする場合もあるはず……都合よく原作通り居ないで欲しいなと思いつつながら見渡すと……本家の自分の死因のピエロメイクが

物凄く目立っててすぐに見つけられた。やっぱりいるのかと憂鬱な気持ちになる。

こんな原作知識は間違つてて欲しがった。此方をチラリと見た!!!試験からの逃走も検討にいられたのに直ぐに逸らしたな……もしかして覚えてない?

「(ﾟ)ちらをどうぞ」

ソコに居たのはマメ……ビーンズさんだったか。名前の通り頭が豆形……真剣に人なのだろうかと悩んでしまう。魔獣だろうか。失礼な疑問で質問できないのがもどかしい。

「此方のプレートを付けておいてください」

402と書かれたプレートを渡された。ズシは401。このプレートは原作で大事な物。後々の試験を考えると数字を見られない方が良かったんだっただか。ズシにも言ってお互いに服の内側に付けておいた。

あとは試験開始前までこのまま「絶」をして隅っこに居よう。ズシも誘つところ。念を使うと言われているのを知つてながら誘つた。

「ダメつす、師匠に余程の緊急時以外は試験で”ソレ”を使うのはダメだつて言われているス」

なるほどと思ひながら、ズシの身体を掴んである方向に向ける。

「ぎゃあああああ!!!」

「まったく、ぶつかつたなら謝らないと☆」

ピエロの犯行現場。

試験前に殺人事件起こしてる。

この世界の倫理観は本当にダメだと思ふ。

「……」

ズシが絶をしていた。まあ緊急時とも言えるとは思ふ。ウイングに後で念を使つた事を伝えておこう。

そう言えばあの殺人原作でもあったような？

原作にあったとすれば原作主人公の視点になる。なら原作主要の彼等も…来ていた。あの三人組がそうだろう。性別不詳、ツンツン頭の釣竿の少年、オジサン。あともつと前に銀髪の少年も居るのは見つけていた。

「どうしたんすかカストロさん」

「いやなんでもない」

ゴン、キルア、クラピカ、レオリオ。漫画の主人公一行を見て少し興奮してる。ただ関わりたいとも思わない。

原作主要メンバー以外、他にも狩人と蜂の少女、ハゲ忍者、針男…原作で目立ったキャラと想定できる人間は大体居る。私とズシみたいなイレギュラーは居ないようにみえる。メンバーは原作通りと思って良いか。

原作で言えば戦闘力でいえば危険なのは死因と針男。次点で忍者。他にも毒を使ってくるキャラも油断するのは…。正面からなら大抵勝てる自信はある。

ズシは念を使える相手と忍者とキルア以外なら真正面からなら勝てる？ただ真正面からでなければ、性格のせいか警戒心が薄い。不意打ちに弱そう。…この点は私も弱かった…鬼のお陰でイヤでも不意打ちには強くなったと思う。

原作主人公がプレートを受け取っていた。確かこの後は、小太りの男、トンパが彼等

に例のジュースを渡そうとするのか。新人潰し。下剤入りのジュース。此れからの命がけの試験の事を考えるとむしろ善意と思える。あのジュースでダメなら試験に参加したら人生が終わるだろうし。まあこんな全員が集まる所で悪質な事は出来ないからだろうな。

そう言えば……なんで新人の私達の所には来なかったんだ？ズシがどう対応するか確認したかった

「あの……カストロさん、こんな所で腕立て伏せしてないで下さい。恥ずかしいです」
は、体が勝手に動いていた。あの変態に注目されるかもしれない事をなんでやってるんだ。これもあの鬼のせいだな。修行しなければと本能に刻まれてしまっている。もしかして腕立て伏せをしてたから近寄らなかったのか？

小太りの男、トンパが主人公一行に接触していた。

原作通り話してるな。聞き耳を立てて近づいた。新人潰しによる受験生の情報を話している。やっぱりあの変態は危険人物として紹介されてる。新人の私も？おい、私を危ないみたいで紹介するな。腕立て伏せしてたからって。

トンパがジュースを渡していた。

渡されたジュースを飲んで吐いていた。

ゴンはジュースが腐つてたと感じたとして、クラピカ、レオリオはトンパを信用してなかつた感じか。

「ハンター試験開始の時間となります」

それから少しして、時間になり現れた紳士としか言えない人物。此所で棄権することもできる。命の保証をしないと脅してきた。

「辞退する人は居ませんか？」

此所まで来てこのタイミングでリタイアする人間は先ず居ないだろう。命の危険か……原作で会場に来る前から殺しに来てるような事をしてた様な。

「此所でリタイアするのも……むぐう」

私の口がズシの手に抑えられた。

「居ませんね」

全員が棄権しないと確認した紳士。口を抑えられた私から目を逸らしたぞあの紳士。口元どうなってるんだあの紳士。

紳士が歩くように走り出した。

前世であるの走り方を真似たな。無駄に疲れるだけだった。視覚的に追う方に精神的な負担があるだけじゃないかあのフォーム。

「申し遅れましたが私は第一次試験の試験官のサトツと申します。これより皆さんを第

「試験会場まで案内しますので着いてきて下さい」

そう言われて全員が追って走り出した。

「次の会場まで……初めの試験は体力勝負に成りそうですね！」

第一のハンター試験は始まった

カストロろく

こんな大きな地下道のトンネルをなんの為に作ったんだ。そう言えばここは遺跡みたいな設定があつたかな。それで遺跡ハンターのサトツがこの遺跡を仕事場にしていたから、試験官として選ばれたみたいな説があつたか。

原作の通り第一試験としてトンネルを走っている。フルマラソン並みの距離だった気がする。何時間も走るのは面倒臭い。本当に面倒臭い。サトツ試験官より先に走ってゴールで寝とくか。……ダメだ。アニメだと分岐があつた。漫画も描写されてないだけで分岐があつたかもしれない。

髭がダンディな試験官の真後ろについて走ろう。プロハンターの動きを観察でもしよう。

「ねえねえお兄さん、そんな近くだと試験官の人もイヤだと思うよ」

「それもそうか」

よく言ってくれたっす！という後ろの方にいるズシの声を聞きながら、速度を落とす

てから声をかけてきた人物を見た。子供の声でいやな予感はしていた。

「初めましてお兄さん、オレはゴン！こっちはキルアだよ」

「ええ俺の紹介もするのか」

原作メインの二人が此方に関わってくるとは。切っ掛け作ったのは私か。

「どうしたの」

「ああ、済まないゴンくん。私はカストロというものだ。で、此方はスシ「ズシっス！」だ」

「よろしくカストロさんにズシ」

「え、ああよろしくスシ」

「お二人ともよろしくお願いします…キルアさんでしたか。わざと間違えましたよね」

「へへ、ごめん」

一応ハンター試験ではライバル同士なんだがよろしくで良いのか？別に主要キャラと敵対する気も無いから私としてはいいんだが。

「それにしても、この試験に俺の同年代が二人も居るとか思わなかったな。ズシは年下じゃないか？」

子供が命の保証がない試験に参加する。そんな子供は変人だな。

「アンタ何か失礼なこと考えてない？」

「いや子供で参加するなんて変人だなと思ったただだよ」

「失礼だな！」

「平均的な人と違う場合は変人って言うだろう」

「いや、そこらの子供と違うのは認めるけどさ。そこは変人じゃなくて天才とかでいいだろ」

「天才と変人は紙一重と言うから変人でも問題ないんじゃないか？」

「それ紙一重なの変人じゃなくてバカはだろ！」

「天才とバカは紙一重だったか……。ん？ハンター試験に参加する人間は各分野の天才とか言われてたな……。言い換えると此処にいるのはバカばかり……」

「何で言い換えるんだよ」

「お二人とも、カストロさんが変な事を言い出したら基本的にスルーする事をオススメするっす」

「あーそうする」

「わかった」

ズシが酷い事を言った。

そして簡単にスルーする事を同意する二人も酷いな。

「ズシ、最近口が悪くなってるかい？」

「ちよ！止めてください」

ズシの頭の上に指をおく。指が気になるだろう。

「ズシってカストロさんとだいぶ親しいみたいだけど、二人つてどんな関係？」

ゴンが聞くとライバルへの情報収集とは思えないな。単純に疑問を聞いている気がする。

「カストロさんと関係：同じ流派の同門つて関係つスね」

そして普通に情報を渡すズシ。

「流派？」

「心源流すよ。有名すから知ってますよね」

「ごめん知らない。有名なの」

「んー名前だけは聞いたことある」

「ハンターになるならこの流派の事はちやんと知ってた方が良いスよ」

フフン！と自慢げだ。

必要なのか？

「ん、なんで」

「ハンター協会の会長が開祖なのが心源流すからね！会長は最強と呼ばれてる事もありますし、世界最強の流派と言っても過言は無いですよ！」

会長関連で知ってた方がいいと言ったのか。

最強か。ハンター協会で会長は最強だったか？五本の指に入るとかじゃ。それも弱体化してるみたいな話しを原作で本人が：原作だと会長以上に強さそうなのは出てないな。ゴンさんは不明として、ゴンの父親はどうなんだろう？

「ハンター最強の流派って凄そう！」

「ふーん」

「キルアさん興味なさそうすね」

「結構興味もってるぞ。そのカストロって人は相当に強そうだし。どんな流派なのか
なってる」

「ヘーカストロさんって強いんだ」

面白そうな相手を見つけたみたいなのは止めてほしい。強いつて発言にゴンがキラキラした目で見てきている。そのあと無言の時間となり暫く走ってから話しは再開した。

「このトンネル長いね。何処まで続くんだろ」

「ホントそれな。これぐらいの距離で疲れるって事はないけど同じ光景ばかりで飽きるよな」

「恐らく体力より精神的なモノを試す試験なのだろう。走りたくないなんて精神が軟弱

な人間はこの試験でリタイアするな」

「……別に飽きただけで未だ未だ走れるし」

「オレも全然平気！何れぐらい続くか気になっただけだよ！」

「此処に来るまでの方がキツかったですしまだ平気スね」

三人は本当に平気そうだな。

「そうなのか。スゴいな………私はリタイアしたい。走るのやめたい」

頭を抑えて弱々しくいう。

「つて！アンタはリタイアしたいのかよ!?自分で精神が軟弱つて認めるのか!」

「私の精神の軟弱さを甘く見るな」

「キリツとした顔で良い大人が言うことじゃねーよ!」

「ははリタイアしたいのは冗談だ。一割ほどが冗談だ」

「ほぼ本音じゃなねーか!!」

「キルアくん、良いツツコミだ」

「良いツツコミじゃねーよ!アンタ真面目そうに見えてボケるのかよ!」

「……………」

「ズシがスゴい恥ずかしそうにしてる……」

また微妙な時間沈黙の時間になる。

それにしても…暇だな

こんな時間が続くと…

「修行をしてみないか」

「え、修行？」

「何いつてんの。後ろでゼーゼー息を吐いてる奴等がウソだろみたいな目で見てるぞ。ボケるにしても空気読めよ」

「あのこれはボケでも冗談でもないすよ。オレも此処に来るまでも修行つて事で余計な運動をさせられたつす」

恨みがましい視線をズシから向けられた。

「余裕にしてもひでーな」

誤解を受けてる。

「余裕つて事でなくてね。私に何年もそれはもう…精神に刻まれるぐらい厳しい修行をさせる鬼が居てね。その鬼のせいで修行をしてないと心が落ち着かないんだよ」

「修行してないと落ち着かないの…？」

「ああ身体に震えがくるんだ」

「修行中毒かよ。心の病気を聞かされた気分だ」

「今走ってるのは修行にならないの？」

「此れぐらい修行の範疇に入らないよ。せめて障害物があつたり地雷があつたり大岩が落ちてくるとかないと、狂暴な魔獣も盛りだくさん襲ってくる相手を殺したりしたらいけないって制限付きで…身に付ける重りは一トンぐらいかな」

「それ修行でやるの。強くなるのにソコまでしないといけないんだ」

ゴンくんの反応は…なんかこわいな。

「心源流つて恐ろしい所だな。そんな修行させられるのか。下手したらオレんちの修練より厳しいんじゃないか」

それはない。

少なくとも精神的には耐えられない。原作で電気やら毒に馴れるってどんな事をされてるのか。

暇潰しの雑談をしながら走った。あのピエロが後ろに居なければ逆走でもしようかと思うほどに飽きてきた頃に階段が見えた。アニメみたいな展開はなかった。

「お、この上がゴールだな」

「ようやくゴールすか」

フルマラソンぐらい走ったのに三人とも汗は掻いてもまだ余裕はあるな。体力どうなつてんだと思うな。

階段の上に明かり外か。手前に階段がある。なんで階段なんだろう。トンネルなら

上に上るのは緩やかな坂道で良いんじゃないか？階段とか余計な手間になるだけだな。

後ろから何か聞こえてきた。

うおおおおお!!!

雄叫び？階段のしたの方、汗だくの半裸の男が走ってくるのが見えた。外でなら確実に通報してるな。

「変質者か」

「変質者すね」

「変質者だな」

「レオリオ……」

変質者、いやレオリオ……レオリオ、原作で途中退場する主要人物、最初に見たときはちゃんと服を着てなかったか？なんで脱いでるんだ。そう言えば、確か原作でも脱いでたか。真性の変質者……あ、いや医者になると言う夢の為になりふり構わず半裸になったんだったか。今でも思い出せる良いシーンだったのに第三者から見ると…変態にしか見えない。

ここで他キャラより体力がないと描写されて、メインキャラの中で弱い扱いになったんだったか。魔界編以降で置いてけぼりになった桑原みたいな

後ろで鞆を持って走っているのはクラピカ嬢、氏？鞆を持つのは……カノジヨ、彼だったか？

そうこうしてる内に階段を上りきった。

「ゴールだ！」

「ようやく終わりか」

「ふう、よ、ようやく終わりスか……」

ズシはゴンやキルアよりも明らかに疲れてるな。同年代に体力で劣ってたと鬼に知られたらどうなるか。念抜きの体力は才能より鍛え方だから……地獄を見るな。

トンネルの入り口にシャッターが降りた。

「では、此処についての説明をします」

紳士からの説明、此処はヌメール平原、詐欺師の何とかと名称されるほど擬態して人を騙して補食する動植物が多数生息してる。生息してるのは良いとして自然に進化した動植物だろうか。生物兵器？それか世界地図に乗ってない暗黒な大陸の生き物、前世だとトンネルの分岐の他に研究施設があつてヌメール平原に研究動物を解放してるなんて事をアニメをみた時は考えてたな。

「それでは第二会場に向かいますので着いてきてください」

まだ此処が第二試験会場でない。

むしろ此処からが試験の本番か。漫画だとトンネルから先は命の保証がない。トンネルで精神に責められて落とされたのは有情だった。

此処からは失格のリスクが桁違い。トンネルなら疲れたなら戻れば良い。しかし今度はゴールに辿り着かないと喰われる。原作のハンター×ハンターで一番初めに狂気を感じたシーンだったのを思い出した。

ただ現地の生き物の危険さの影を薄くした危険生物も受験生の中にいる。トンネルでは大人しかつたのに、此処から危険度を増すピエロ擬きがサトツ氏に擬態していたサルをランプで殺害した。サトツ試験官にも攻撃していた。この後の事を考えれば戦闘をしたくて挑発したな。

原作どおりになる。鬼の修行でイヤでもメンタルは鍛えられたがそれでも冷や汗が出る。サトツ試験官が出発したのに合わせてサツサと危険生物から離れた。ズシを待ちながら

「ちよ！カストロさん！なんで持ちはこんでるんすか！そんな急がなくても！」

「いやズシ、なるべく急いだ方がいい。後ろの方だとヤバイ」

キルアは原作どおり殺意にまみれた変態の空気に気付いてる。

「あの声は！」

「あ！ばか！ヤバいって言ったろ!？」

ゴンが引き返した。

何も聞こえなかったがゴンの聴覚には聞こえたんだろう。原作を考えたらレオリオ達が襲われたな。原作通りで無事に戻ってくるはず。少し後ろめたい気もするが先に進もう。

「ええつと……、ゴンさんが心配なので戻るつす!？」

「お前もかよ……………ああ……………くそ!？」

「!？」

戻るな!?!才能的に見逃される筈のゴン、ズシはどうなんだ!?!変態の中でアウトかセーフなのか!?!

「さつきに行っておいてくれ。二人を連れ戻してくる」

「…あ」

キルアにそう言って逆走した。キルアは原作と同じで引き返さないようだ。去り際に見たキルアの顔を見ると薄情と言うより原作にあった頭の針のせいか。ゴンだけじゃなくてズシも引き換えしてる。精神的には最悪じゃないか？

あの変態に出会う前に二人を確保して戻らないと…いや、ゴンは原作的に会わないと不味いのか。ズシだけは確保しておこう。ズシだけ助けてゴンは放置というのは…。

原作だと特になにもしてないクラピカも見逃されてる。クラピカみたいに助けに来た相手なら見逃して貰えるか？ いやこの時点でクラピカがクルタ族と気付いてたのか？

「ご、ゴンさん、速すぎるっす」

ゴンが先行したズシは遅れてる。これなら……ズシと同じ速度で走ってれば原作のクラピカぐらいの距離でいけるな。

何年も前にあのピエロとであったことがある……しかしこれまだまったく反応を示す様子もないからきつと覚えないとホツとしていた。

原作的に興味を喪つたら直ぐに忘れるなんて設定もあったから、興味を喪つたんだろ
うと本当にホツとした。

「あれカストロ、君の方から来てくれるなんてとても嬉しいよ♣」

覚えてた…。

「どうしようかな。本当はもつと後にしようと思ってたけど……うくん……此所で天空闘技場でのリベンジしようかな。後のお楽しみとして残したい気もする……悩ましいね

☆」

まどかマジカINバーンさま

中学への初登校。先日まで心臓の障害で入院をしていた彼女の初登校だけど正確には初めてじゃない登校。

この中学は不可思議な構造で教室から廊下が見える。生徒や教師は教室から廊下を歩く彼女を凝視している。始めてみる彼女の容姿には誰もが息を呑んでいた。

彼女の名は暁美ほむら。

彼女、暁美ほむらは魔法少女。

インキュベーターと契約した事で魔法少女となり、暁美ほむらの魔法少女としての力の時間逆行能力で、何度も何度も時間を逆行し今と同じ時間を繰り返してきた。

暁美ほむらが繰り返した時間を逆行しているのには目的がある。それは魔法少女として契約した意味でもある。大切な友達のまどかとの約束を果たし護ること、鹿目まどかを魔法少女にせず守る事だ。

彼女は廊下を歩きながら強く思う。

今度こそ必ず鹿目まどかを守ると。

暁美ほむらの時間逆行にはイレギュラーはあるが、鹿目まどかを守るためには絶対に通らないといけない問題点が5つあった。

まどかを魔法少女に堕とそうとする魔法少女の先輩である巴マミ、悪意なく状況を悪化させるまどかの友人である美樹さやか、魔法少女の契約による願い事という餌で騙す諸悪の元凶のインキュベータ、夢も希望もない魔法少女と魔法の真実、そしてある意味もう1つの元凶であり最大の壁でもある最強の魔法のワルプルギスの夜。

暁美ほむらは此れを全て大体一月の間に解決しなければいけない。時間制限もありしかも何れもが単純に解決出来る問題ではなかったが、それでも四つの問題はクリア出来る目処はあった。しかし唯一、ほむらのループの切っ掛けでもある敵、見滝原にやってくるワルプルギスの夜への対処だけは無理だった。

暁美ほむらの時間の逆行期間の最後に必ず見滝原にやってくるワルプルギスの夜。そのワルプルギスの夜を倒すために鹿目まどかが魔法少女に契約するので暁美ほむらの目的は果たせなくなる。

これは問題の中で尤も単純な解決方法はある。

そう見滝原にくるワルプルギスの夜を倒すか退かせるだけでいい。それが出来たら

誰も苦勞はしないだろう。ワルプルギスの夜を倒すことが不可能に近かった。

最強の魔女というのは伊達ではなく。どんなに曉美ほむらが作戦を立て兵器と仲間を集めたりと、文字通り命を磨り減らすほど努力をし入念な準備をし挑んだとしても……曉美ほむらはワルプルギスの夜には勝てなかった。

経験により他の魔女は片手間に倒せる曉美ほむらでも、ワルプルギスの夜だけは手も足もでないほどに強かった。

……曉美ほむらの此までのループの中でワルプルギスの夜がある魔法少女によって倒された事はある。それが皮肉な事にワルプルギスの夜に勝てた魔法少女が、曉美ほむらが絶対に魔法少女にするわけにいかない鹿目まどかだった。

何故、普通の少女である鹿目まどかがワルプルギスの夜に勝てるのか。それはこれも皮肉な事に曉美ほむらのせいだった。

魔法少女の強さとは因果というモノの多さによって変化する。例を上げれば歴史に名を残す偉人や英雄などが因果を多く持つているようだ。勿論ただの少女の鹿目まどかはこの例に当てはまらない。

何故普通の少女であるまどかに因果が貯まったのか。それは曉美ほむらの鹿目まどかを助けるための時間の逆行が原因らしい、曉美ほむらが鹿目まどか一人の為の時間の

繰り返した事が莫大な因果としてまどかに貯まってしまい、その因果が魔法少女になればワルプルギスの夜を遂に一撃で倒せるまでに鹿目まどかの力を高めた。

そして、そんな力をただの少女に耐えられる訳がない。一撃を終えた時には鹿目まどかは終わる。鹿目まどかはワルプルギスの夜を越える魔女となった。

鹿目まどかの因果の原因、この事実を前回のループの時にインキュベータから暁美ほむらに教えられた。異様に高い因果の量がまどかに魔法少女の契約を迫る理由だと、魔法少女に成れば鹿目まどかが終わるほど高まった因果の原因だと、暁美ほむらの心は折れかけた。

自分自身を守るべき鹿目まどかの最悪の害に成っているという事実は、暁美ほむらにとつて致死に届く猛毒に近しかった。

それでも前回の時の暁美ほむらはワルプルギスの夜に挑んだ。ワルプルギスの夜さえ倒せば鹿目まどかが魔法少女に成ることもないと思い。因果が幾ら貯まっていたも魔法少女にさえ成らないなら関係ないと思ひ挑んだのだが、しかしやはり負けた。…結局はまどかが魔法少女となりワルプルギスの夜を倒した。そして鹿目まどかは……。暁美ほむらの心が折れ諦めてしまった。

ほむらがこれまでの様に努力を繰り返しワルプルギスを何時か倒そうと思えば、さらに因果がたまり鹿目まどかの害になる。ほむらの心は諦めかけた。暁美ほむらにとつ

て諦めることが死と同意味だとしりながら諦めようとした。

そんなほむらを救ったのもまた前周回の鹿目まどか。まどかは自分の為に苦しんだ友人を助けたかった。だから魔法少女になるための契約で願った。世界の理さえ叶えられるほどの因果の貯まった鹿目まどかが暁美ほむらのために願ったのだ。

暁美ほむらを最強にしてくれと。

ワルプルギスの夜さえ倒せるなら自分も魔法少女にならずに暁美ほむらは救われると思ひ願ってしまった。

鹿目まどかは魔女になる前に願いの内容を伝えた。自分の為に願った鹿目まどかの事を知り暁美ほむらは諦める訳にはいかなかった。暁美ほむらは再び時間を逆行した。

今回のほむらは前回の時間軸のまどかから強さと希望を貰い、今度こそワルプルギスの夜を倒すと意気を上げていた。

希望はある。

前回の鹿目まどかの言ったことは嘘でなく。今の暁美ほむらは鹿目まどかの願いを受けて桁違いに強くなっている。暁美ほむらがこれならワルプルギスの夜を倒せると思うほどに強くなっていた。代償と言うのか少し暁美ほむらの見た目が変わったが、ほむらは喜んだ。

暁美ほむらは鹿目まどかから貰った力で、今度こそワルプルギスの夜を倒しまどかを助けるという熱い思いを胸に、教師の呼び掛けに答え鹿目まどかの居る教室に入った。

「まどかー、ポーっとしてどうしたの。顔も赤いし風邪気味とか？ねえ大丈夫？」

「え、う、うん何でもない。昨日変な夢を見てそれを思い出してただけだよ」

鹿目まどかは友人の美樹さやかにそう答えた。

「変な夢って……あ、エッチな夢とか」

「ち、違うよー」

昨晚鹿目まどかは不思議な夢を見た。

もちろんエッチな夢なんかじゃない。

それは何処かわからない廃墟の中で居る自分と、とても大きな何かと戦ってくれている知らない綺麗な黒髪の少女の夢。

全体的に暗い世界の中で黒髪の少女は絶望したように泣いていた。まどかは何故かそれがとても悲しかった気がした。最後に夢の中の鹿目まどかが何か少女の為に願ったような……そこで夢は終わった。

ただの意味のわからない可笑しな夢の筈なのに鹿目まどかは何故かとても気になっ

た。いや夢の内容よりも黒髪の少女の事が、見たこともないのに夢の綺麗な黒髪の少女が気になった。それに不思議とその少女に出会えるという予感も微かにしていた。

ホームルーム。

担任の教師の早乙女は何処かソワソワしている。恋人でも出来たんだろうか、それとも逆に別れたか、生徒たちがコソコソと話している。

「みなさん静かにね……今日は転校生のお方が来てくださいました。どうぞお入りください。暁美さん」

少し態度の変な早乙女に促され転校生が入ってきた。その転校生は、まどかは一瞬だけ昨夜の夢に出てきた綺麗な黒髪の少女のシルエツトが見えたが……全く違った。間違えた事を夢の黒髪の少女に心の中で謝るほどに違う。

その転校生を見て生徒は息をのみ美樹さやかは驚愕の表情で固まっていた。

黒髪でなくとも綺麗な銀髪だった。背丈は大人の早乙女の頭三つは大きい。ただのアクセサリーに見えない角。身体の震えてしまう鋭い眼光。盛り上がった筋肉でまどか達と同じ女子の制服がピチピチになりはち切れんばかり。見るからに女子中学生だ（断言）

その少女（？）の姿を見て、脳裏から何故か消えない黒髪の少女の幻影……

まどかは何故かスゴく謝りたい気持ちになった。

まどかマジカーINバーンさま2

バーンさ、いや暁美ほむらは思う。

三つ編みと眼鏡を外した時もそうだがイメチェンで周りの反応が変わりすぎだろうと。

前回の鹿目まどかの願いで強くなりオマケにちよつと姿の変わった暁美ほむら、何度も体験した中学の初登校日。暁美ほむらは何時もと同じ様になっていたのに色々変化が起きてしまった。

先ず何時も鹿目まどかに保健室に連れて行って貰うのだが、今回は逆で何故か声を掛けると気絶した鹿目まどかを暁美ほむらが保健室に連れていくことに。保健室には邪魔者の美樹さやかも着いてきた。

保健室から帰る途中目覚めた鹿目まどかに、魔法少女に成らないように忠告しようとしたのだがその前の自己紹介、何故か今回に限り鹿目まどかがほむらちゃんと呼ばない。魔法少女に成らないように忠告したかったが、鹿目まどかから暁美様とか言われるのは流星に暁美ほむらとして嫌だった。ほむらちゃんと呼ぶまで名前の訂正で時間が

掛かり忠告できず別れてしまった。

今日の授業も終わりに近い。忠告をどうしようかと何故か机で突っ伏す鹿目まどかを見ながら考える。決して邪な思惑で見てるわけでない。

「ほむらちゃん、ほむらちゃん、ほむらちゃん、ほむらちゃん、ウイヒヒ」

ピンク色の饅頭が机に置かれていた。

いやまどかだ。

「ま、まどか大丈夫？」

「ウイヒヒ」

「生きる屍の様ですわね。転校生の方に声を掛けられていきなり気絶したりしましたし、本当にどうしたのでしょうか。鹿目さんは」

「いやー……まあ……うん………なんでかなー……」

「さやかさん？」

不思議といった様子の方に、私、美樹さやかは言葉を濁した。なんでわかんないの

よ。

今日、転校生がきた。まるで何処か別の世界から来たような浮き世離れた転校生の少女……少女？今日一日の授業でわかった転校生さま、頭も良く運動も出きる文武両道のパーフェクトガール。

……なんて言葉で済ませられるかあ!!!

まだ背が異様に高いのは良いよ！二メートル越えてる感じだけど！まだギリギリあり得るから。ムキムキなのも良いよ。あんなの女子じゃねえ！とか言わないよ！怖いし！あと体育で世界記録とか軽く越えてる記録とか出てちゃったのもどうでも良いよ！だって世界記録とか”人類”の記録なんだし！……角生えてたよね！？あと額に3つ目があったよね！？何処から転校してきた転校生！宇宙か魔界か!!普通に学校で未知との遭遇とかふざけるな！

あの転校生が今まで病院で入院してたから学校に来れなかった？封印されてたから来れなかったとかの方がよっぽど信用できるね。マジで封印から目覚めた系のなにかじゃ……。

てか、仁美とかそうだけど、なんであの恐ろしいのを他のクラスメイトは普通に受け入れてんの。髪の手入れの仕方とか聞いてんじゃねーよ！他に聞くとこ有るだろ！

良くわからないけど恐ろしいあの転校生、絶対にまどかを狙ってる。だって額の目がずつとまどかの方に向いてたもん！今は普通にガン見してるし！初対面でいきなり気絶したまどかを保健室に連れ込もうとしたりしたし！暁さんって呼ぶまどかに執拗にほむらって呼ばせようとしたし！まどかヤバイよね。確実に転校生に狙われてるよ。どうしよ。まどか心労で餓頭になつてうなされてるし。

私は学校が終った後にまどかを連れて逃げるように速攻で学校を出る。それから垂れパンダみたいな状態のまどかと一緒に恭介に渡すCDを買うのにシヨップに来ていた。

私がCDを物色していると、突然！まどかが助けてつて声が聞こえるって何処かに向かって走り出した。嫌な予感がした。私はまどかを追うと怪しい感じの人氣のない路地裏についた。ヤバそうなどころに出た。まどかの事がなきや絶対にこんなところに来ないって感じの場所。

で、まどかを見付けた。其処に居たのはまどかだけじゃない。嫌な予感通りと言うか案の定と言うか転校生がいた！転校生が良くわからない力でまどかを誘き寄せたんだ！ヤバイ、ヤバイ。転校生がまどかに手を伸ばしてる。ま、まどかが転校生に！

私は近くにあった消火器を手に取り噴射した。まどかごと転校生が消火器の白い煙

に包まれた。私は消火器の白い煙が出てる内にまどかの手を引いて逃げた。後ろを振り返るとヒツて声が出た。

しよ消火器の白い煙の中から出てくる転校生は、ちよつと漏れちやうぐらい怖かった。とにかく急いで逃げなきゃとまどかを引っ張つて全力で逃げた。

そして逃げて息切れして立ち止まると、其処は少し開けた場所で……………変な生き物がドンドンと近づいて来ていた。

「さ、さやかちゃん。変なのが…………」

な、なにこの生き物は！本当に何これ！どうみても地球の生き物じゃない。地球の生き物じゃない？

そ、そうか!!

「こ、この生き物！あの転校生の手下か！」

「え」

タイミング的に他に考えられない！

わ、私達を逃がさないつもりなのか転校生！

も、もし転校生に捕まったらどうなるんだろう。

物凄くイヤらしい格好で転校生の傍でペットみたいな扱いを受けてる絵が浮かんだ。

バン、バン！

銃声が聞こえたと思ったら変な生き物が破裂して消えた。銃声は続いてドンドンと破裂していく変な生き物。

「な、なに!? 何が起きてるのよ!」

敵ほい生き物が消えてるし助かってるの!?

「あなたたち危なかったわね」

声が聞こえた方を見ると胸が大きな黄色いって感じのする人が居た。手に銃みたいなのがある。もしかしてあの人が助けてくれた?

「え、あの、あなたは」

「私? 私は巴マミ」

「そしてボクはキュウベエさ」

「え、喋った!」

黄色い人、巴マミさんが自己紹介してくれた。私たちと同じ中学の1つ年上の人らしい。マミさんは魔法少女であの変な生き物は魔法の使い魔だと教えてくれた。魔法の手下があの変な生き物で使い魔……あの転校生は魔法?

あとマミさんはまどかの抱えてるキュウベエとかいう白い変なの飼主? ……転校生の事で一杯一杯でまどかが白いの抱えてるのきずかなかった。魔法少女になってよとか言ってたけど。何これ? 詳しく聞こえとしたんだけど……この存在感は!

「ひ、転校生！」

「あ、暁美さん」

いつの間にか転校生が来ていた！

つてジツとまどかをまた見てる！

「……………」

「え、あの暁美さん？」

「……………」

「……………ほ、ほむらちゃん」

「使い魔に襲われた様だけど、無事で何よりだは鹿目まどか」

ああまどかはほむらちゃんって呼ばないとダメってことか！しつこいな本当に!?

……………あと女言葉がやっぱり違和感酷いなあ。

つて……………無事で何より？

「あ、あの変な生き物、使い魔つてのはあんたの手下じゃないの」

巴さんの話だと魔女つて奴の手下みたいな話で、転校生は魔女つて感じじゃないけど

……………あの変な生き物が出てきたタイミング的にやっぱり転校生が怪しい。

「……………」

わあ、バカを見るような目で見られてる私。

バカにされたって腹立つってより怖いんだよアンタの目線！怖くて漏らすよ乙女が！

「な、なにアナタは魔女、いえ……魔女の気配はしない。何なのアナタは」

巴さんが困惑していた。うんうん、そう言う反応が普通よね！さあ転校生！その正体はなに！宇宙人！魔界から来た何か！

「……………」

沈黙!?もしかして答えなくても判るだろ的なこと?

「な、何なのか教えてよ……ほ、ほむらちゃん」

おい、なんで私がほむらちゃんって呼んだら凄いイヤそうな顔するのよ。

「はあ見ればわかるでしょ?」

見ればわかる……………転校生を見て何なのかと聞かれたら。

「……(悪魔とか?)」

「どうみても貴女と同じ魔法少女でしょ」

指差されたマミさんが全力で首を振っていた。

それは同種扱いはイヤだろうなあ。……………いや!そうじゃなくて…転校生が魔法少女?それが本当なら魔法少女って概念に謝れ!!

「絶対に魔法少女とかないでしょ」ボソッ

「いや、彼女からは魔法少女に酷似した反応が………わけがわからないよ」
「ママさんのペットが何かいってた。」

まどかマジカINバーンさま3

暁美ほむらは此までの時間の逆行では護るべき鹿目まどかとの接触は最低限にしていた。

暁美ほむらには色々やることがあり時間がとれなかったと言うのも有るのだが、鹿目まどかへの情で行動が鈍らない様に、精神的な負担を軽減するためにも接触を最低限にしさらに冷たく接してもいた。

だが今回のループは、今度こそは終わらせられるという自信が今の暁美ほむらにはある。前の鹿目まどかから貰った力と思ひ。暁美ほむらはこの力ならワルプルギスの夜相手にもどうとでもなる力が今はあると過信でない確信をしている。その力は先の魔女戦にも実証しより強固な確信となった。

今回は身一つ有れば武器の準備など事前準備なんていらぬ。傍に居る方がインキュベーターの魔の手から護りやすいという理由もある。だから今回の暁美ほむらは鹿目まどかへの接触は思う存分にすることにしていた。

此まで暁美ほむらは片時も離れずに鹿目まどかの傍に居たという思いを、護るという崇高な目的の為に我慢をしてきた。その溜まりに溜まる我慢を抑える理由という防壁

が無くなればどうなるか。

ただそれでも暁美ほむらには此までの時間の逆行で培ってきた鋼のような理性がある。

「……………ほ、ほむらちゃんこれ恥ずかしいよ」

だから暁美ほむらの理性のお陰で昼休み鹿目まどかは、膝に乗せられお弁当をアーンで食べさせられると言う状況で済んでいた。

美樹さやかは昨日、まどかとバママミの家で世界の表にはでない魔法少女と魔女について聞いた。そしてバママミのように魔法少女になる素質が自分達にはあるとインキユベーター、いやQBから教えられた。

14歳の少女が魔法少女という言葉に惹かれるのは当然だ。オマケに魔法少女に成るときに願いも叶うと聞いたら、魔法少女に成りたいと思うのが普通か。ただ………その実際に見る魔法少女が、正義の味方と見えるバママミだけならともかく、もう何というか凄い感じの人も居たらどうだろう。

何故か暁美ほむらにはソウルジュエムとか言う魔法少女に必須のアイテムは無いのだが、たぶん魔法少女だと魔法少女にする契約の担い手であるQBは証言した。QBから

魔法少女だと認められた暁美ほむらに対しての、同じ魔法少女と言うことになる巴マミの反応は……まあアレだった。

……普通の少女がこの二人（主に一人）を見て同じ魔法少女に成りたいと思えるだろうか。

悩む二人に巴マミは昨日、実際に魔法少女による魔女退治を見学することを提案。昨日見学したその上で美樹さやかは悩んだ。

美樹さやかは巴マミは二人に魔法少女に成ることを恐らく望んでいると感じた。逆に暁美ほむらは二人が魔法少女に成るのを反対した。

「（うーんどうしよう）」

魔法少女になるべきか成らざるべきか。

願いは有るんだけど……あるんだけど。

昨日の魔女退治は正直怖い怖かった。

アレが魔法少女と魔女の戦いの世界。ちょっとでも入り込んだら消し炭になりそうな世界。魔法少女になるってことはあんな世界に入るってこと……。

巴さんがこんなの違うって言ってたけど、実際にあつたし。

なんか魔法少女には縄張り争いがあるそうなんだよね。転校生が私達が魔法少女になるのを反対するの、競争相手が増えるのを避けるためとかママさんは言ってた。魔女を倒したときにあるグリーンフシードって言うのの為に縄張り争いがあるのが嘘って思わないけど……転校生のまどかへの態度的になんか違うと思う。とりあえずお昼休みにまどかを膝に乗せて、弁当を真顔でアーンさせようとしてる姿を見るとねー。

うん。私はまどかから来る視線を見ないようにして無心に弁当を食う。

はあ魔法少女になるの本当にどうしよう。

……転校生と同類になるのはなあ。

彼女(?)は何なのだろう。

魔法少女……同じ魔法少女って……契約した覚えはないけど魔法少女とキュウベエは認めただけど、絶対に魔法少女でない彼女……だって彼女、ソウルジェム持ってたもんな。魔法少女でソウルジェムが無いってあり得ないでしょ！鹿目さんたちと別れた後にもキュウベエにもう一度本当に魔法少女なのか聞いたけど魔法少女だよ……多

分、つてキュウベエは答えた。歯切れが悪いキュウベエつて初めて。

魔法少女か以前に女性、いえ人なのか怪しい彼女は邪魔者。二人の後輩候補が魔法少女になるのを反対して妨害もしてくる彼女。

私が彼女に対抗する？

ふ、ムリよ！

ムリいや恐い。

昨日鹿目さんたち二人に魔法少女の見学魔女退治を体験してもらうのに、彼女達を襲った使い魔の大元の魔女の結界にまで来てもらったの。そこにあの彼女もついてきた。二人には私が華麗に鮮烈に魔女を倒す瞬間を見てもらいたかったのに：魔女の姿を見る前に終わった。彼女が外から結界丸ごと爆破したから。結界の中つて結構広いのよ……それ丸ごと爆破……。

どんな爆発か言われたらそうね……核とかそんな感じの連想できる爆破って言ったらわかる？ あんなの暁美さんの見た目抜きにも対抗したいと思うかしら？ 戦ったら私は無駄にあの魔女みたいに消し飛ぶだけでしょう？ あんなの戦闘になった段階で負けだもん（涙目）

初めて魔女と戦った時より怖かった……グスツ。

昨日は魔法少女ってこんな感じなんだって二人にドン引きされたのには思わず、こんな魔法少女じゃないから！って必死に叫んだ。年上の威厳を出してたのに……。

キュウベエは積極的に二人を勧誘する気はないみたいだけど、私は出来たら鹿目さんたち二人には同じ魔法少女になってもらいたい。けど傍に彼女も居るから近付くの恐い。私は遠くから屋上でお弁当を食べる三人を見るしかない。私は一人で食べてるのに……。

……彼女の膝に乗せられてお弁当を食べさせて貰ってる鹿目さん……

羨ましい。

ドラゴンボール

私はこの身体で五年しか生きてない。

しかし大人だ。

私は私になる前に地球という星で生きていた。前世の知識だと転生というヤツを体験している。知識として前の私の事はあまり覚えてないが、生活やら倫理観については多少は覚えている。新しい人生、周りの他の奴等と比べて特段劣悪な扱いをされてるわけでもない。大多数の他と同じ扱いだ。

他だが前世の精神を基準にして考えると………今の私は相当に不幸じゃないか？

つまり私の周りも前世の基準なら不幸…

今の私の生まれた惑星ベジータは畜族の生息す惑星。戦闘大好きなサイヤ人の暮らす星。サイヤ人はあれだ。宇宙最強の戦闘民族と自称している恥ずかい種族だ。

私が産まれる以前にすでにサイヤ人はフリーザが筆頭のフリーザ軍の一部。フリーザには勝てないとフリーザの軍門に降っている。その上で最強の戦闘民族と名乗っている。まあほぼ戦闘員ばかりなサイヤ人は種族としての戦闘力を平均したら平均は一番高いのかも。種族くくりで最強と名乗ってるのかもな。

種族としての強さは私が不幸だと思う事に繋がっている。種族として強いからこそ今の仕事をやらされている。

惑星の侵略。

侵略の尖兵だ。

下級戦士なら赤ん坊の頃に侵略する星に送られる事もある。私もまだ五歳なのに何度も侵略する星に送られた。サイヤ人は戦闘員になる未来が決まっている、拒否権なんてない。今の立場はフリーザの戦闘奴隷と言ってもいい。少なくとも誇れるような立場じゃない。

サイヤ人として産まれる＝戦闘奴隷。

不幸と思うのは可笑しくないだろう。

しかもそんな幸運とも言えない戦闘奴隷としての地位も安泰なのか怪しい。フリー

ザがサイヤ人に好意的でないだろうしな。

フリーザがサイヤ人を嫌いだと公言してるわけでもないから予想だが、もし私がフリーザの立場だしたらサイヤ人を嫌う。

フリーザ軍の中でサイヤ人の役割は侵略。その侵略がマトモに出来てるのか怪しいと思う。

侵略の目的は資源がある星や環境のいい星を手に入れるか、またはその星の住民を奴隷にでもするため。人の住めない環境が悪い惑星で良いなら宇宙には幾らでもある。手に入れる環境はなるべく傷付けてはいけない。私が初めて侵略に送られた時にはそう判断して手加減に苦労した。

なのに、他のサイヤ人と侵略に行った事があるが必要以上に破壊活動を……。月があると罪悪だ。大猿になって理性を無くして破壊の限りを尽くす。星が無茶苦茶になる。手に入れる星を無茶苦茶にしたら意味がない。

フリーザ軍の中でのサイヤ人の評判は……あまり他との接触がないから詳しくないが、サイヤ人の性格は大体態度がデカく粗暴で煩く性格も尊大。戦闘力が弱い相手を見下す。他から好かれるとは思えない。

フリーザからすれば仕事もろくに出来ない態度は大きい部下。嫌うだろ。

フリーザにはサイヤ人より弱くても扱い易い部下は山ほどいる。部下としてサイヤ人が絶対に必要とも思えない。此れから先もフリーザがサイヤ人を切り捨てないなんてあるか？

従順な下僕ならともかく…ベジータ王とか屈辱だみたいな顔をしてるの見たことがある。反乱を起こさない方がおどろける。正直、他のサイヤ人がどうなろうと別に構わない。自分も巻き込まれるから問題だ。

惑星ベジータから抜け出そうとは思いますがまだ五歳、この年齢で一人で生活するのは難しい。

それでフリーザが切り捨てるまでの時間を少しでも稼げないか考えてみて、他のサイヤ人にフリーザさまがサイヤ人を嫌ってるんじゃないか？と質問をしてみた。質問をする時に嫌われてると思う理由も説明する。嫌われてる事に危機感を感じさせて態度を改めさせる事が狙いだった。大して変わらないとしても少しは行動はマシになると考えて。

逆効果だったか？

下級のサイヤ人の態度はほんの少し良くなったのに、エリートクラスとなるとフリー

ザと戦うべきじゃないかとかアホな事をいつてるのを聞く羽目になった。脅すのは逆効果になると止めておいた。

……ベジータ王を筆頭にエリートクラスはプライドが高い。

フリーザの下なのに納得をしてない。やはり何れだけの規模に成るか判らないがいつか反乱をやる。フリーザ軍には総数が圧倒的に負けても種族としての差で何とかなる。幹部はフリーザ軍の幹部は、二万とか最高戦闘力が十何万とか。サイヤ人の最高でも二万以下、これは戦闘力が十倍になる大猿に成れば何とかなる。

ただ肝心のフリーザだけは無理だろ。

私は相手の力をスカウターの様に分かるが、ベジータ王が大猿になってもフリーザの強さの半分にもならない。今感じてるフリーザの力でもだ。

フリーザの父親が惑星ベジータに来たことがある。その時に感じた強さ……あの強さから考えればフリーザは……私のように力を隠している。親を基準にすれば優しめに言っても百倍以上、下手をすればそれ以上か。

今は多分勝てない。

勝ち目の無い反乱には参加したくない。

逃げるしかない。

「サイヤ人が逃げてても態々追ってくるなんて無いだろう。ただ念のために死亡したと偽装をする。何処かの星の侵略してる時に星丸ごと吹き飛ばして、それに巻き込まれる。そうして偽装して、そのあとは………どの星に行くとかその後の生活をどうするか？その手の知識が全くないな。どう生活するか考えないといけないか。

……どう生きようか。

侵略した星で死んだと見せて姿を眩まして、そのあとは初めは傭兵とか、身体能力を生かせる仕事をやればいいのか。仕事をしながらどうするか考えればいい。

そういう大雑把な予定を決めて逃げる準備をしている時に、私に弟が産まれてる事を知った。戦闘力が高いと他のサイヤ人の噂になっていた。

弟がどんな相手か見に行つた。

サイヤ人の赤ん坊、可愛げが無さそうだなと思いつながら見たら、弟、ブロリーは隣の赤ん坊の泣き声に泣かされてる泣き虫だった。

「見ろよこの戦闘力の数値を産まれたばかりで戦闘力が一万だぞ」

「くはは！同じ親から産まれたのにもうカスのお前より格段につよいな」

馬鹿にした様に笑ってるヤツはどうでもいいとして、泣き虫なのに産まれたばかりで戦闘力一万か。スゴいと思う。上級のサイヤ人クラスか。

私が産まれた頃とどちらが上かな。

私は生まれた時には自意識があった。だから誰かが自分の戦闘力が異様だと話しているのを見て隠した方が良く感じた。それで力を抑えようとすると特に苦もなく自分から出る力を抑える事が出来た。力のコントロールは赤ん坊の頃に息を吸うように簡単に出た。

初めは力のコントロールは呼吸するような自然な事と思っていたが、他のサイヤ人は誰も力のコントロールはできない。前世らしい記憶に戦闘力の高さ。私は特別なんだと思っていて。

しかし弟の戦闘力の高さ…

戦闘力については血筋が特別なのか？

同じように転生して…ないか。弟の精神は普通の赤ん坊にしか見えない。赤ん坊に泣かされてるしな。

普通の赤ん坊なら私のように戦闘力を隠すなんて出来そうにない。私が初めに戦闘

力の高さを知られたら不味いと思ったのは恐らく間違いはない。王やエリートサイヤ人が弟の戦闘力の高さを知れば、弟を育ててフリーザへの切り札として使われるんじゃないか。道具として…。

…弟をどうするか。

サイヤ人なら血縁なんて気にしないだろうが、前世の感覚のせいかな。産まれたばかりの弟を見捨てるのは気が進まない。

どうするか何日も迷っていると、ベジータ王が弟を殺すとか言い出したと聞いた。

意味が判らない。フリーザと戦う切り札となる可能性があるのにそれを捨てるのか？ベジータ王にフリーザと敵対するつもりがないとも思えない。殺す理由が思い付かない。もしかしたら殺したと偽って何処かに隠して切り札にするつもりか。

ベジータ王の元に向かっていた。

私はベジータ王の居る王座のある部屋の前までいくと、ちょうど王座前でベジータ王がパラガスの息子を抹殺しろとか言ってる声が聞こえた。殺したと偽るつもりじゃない。本気で殺す気だ。

「お前、此所は王の間の前だぞ！何を無断で入ってきているのだ！」

私を退かせようとする護衛を突き飛ばして扉を突き破り驚いてる王を蹴倒した。

「ぐふあ!」

「ベジータ王!？」

蹴倒してから少し冷静になった。

「き、きさまは何者だ!」

私は王に弟を殺すのは止めるように頼んだ。

ベジータ王は起き上がってきた。

「弟だと、貴様。パラガスの娘か!ふざけるな!!!私にこの様な真似をして許されると思っているのか!姉弟共々死ぬがいい!」

ベジータ王とついでに護衛らしいエリートが襲ってきた。

どうしよう。

……殺さない方がいいのか?

殺す殺さないかで迷う。今の時点の私で表向きに見せてるフリーザなら倒せる自信はある。そのフリーザに大猿でも勝てそうにないベジータ王に負ける気は少しもしない。

「ど、ということだ。パラガスの娘ならお前の戦闘力は千にも届かなかつたはずでは……」
驚いた。下っぱの私の戦闘力を知ってるのか。単に弟の事があって調べたのか。

さて、ベジータ王と話し合いをするか。話し合いに応じなければ……誰かが入ってきた。

増援かと思えば…

「い、いったい、ど、どういう状態なんだこれは…」

うん？あれは父…パラガスだな。

なんで此処に居るのかきいてみた。

まさか弟の事でののか。

「い、いや…プロリーが王に殺されるときいて…止めにきたんだが」

本当に弟を助けに来たのか。

子供のことを助けに来るとかサイヤ人にしては珍しい。王に反抗するなんて殺される危険があるのは解っていただろう。弟の素質に下心があつたんだろうが、それでも評価は随分とよくなったな。

「そ、それより、な、なぜ…ベジータ王を倒せて…お前の戦闘力はまだ千にも届かなかった筈では…」

親父も私の表向きの戦闘力を覚えていたのか。

弟の事があつて調べたか、一応私を気に掛けてはいたか。

「そ…：…そういえば！産まれた頃、プロリーと似た戦闘力が計測されて、測定器の故障と片付けられたそうだが…：…まさかあれは」

今さら隠す事も出来ないか。戦闘力をコントロールして隠していた事を教えた。

「……………あ…赤ん坊の頃から戦闘力をコントロールしていたというのか…」

頷くとこの場の全員が絶句していた。

絶句してる内に考える。

面倒になるので惑星ベジータには居られない。弟は当然だが…親父も連れてくか。単に下心だけなのか子供の事を気にしていたのか判らないが、残して処刑とかになつたら後味が悪い。ベジータ王と交渉して私達の記録を抹消して出ていく事にした。息子の妻とか意味の判らない妄言は無視した。

「……………」

呆然としたままの親父に弟を抱かせて親子で惑星ベジータから早々に出た。母親は来なかつたし放置でいいか。

と、惑星ベジータから旅だつて十数年後。

あの日ですら直ぐに、風の噂で惑星ベジータに隕石が激突しサイヤ人ごと消滅した

と伝え聞いた。惑星が衝突する隕石……無いこともない。ただそんな惑星を滅ぼす程の大きさの隕石は衝突前に見つかからない方が難しい。事前に惑星ベジータから脱出できる。それに惑星ベジータの外に侵略に行つてるサイヤ人が普段から沢山居た筈だ。

なのにサイヤ人が滅んだという。

まあ隕石は嘘でフリーザに惑星ベジータが壊されて、フリーザ軍に外に出ているサイヤ人も含めて始末された。そんな所か。

サイヤ人の反乱の失敗の結果か。

それかフリーザの我慢の限界がきたか。

「つまりフリーザに利用され尽くして殺されたか。無謀な反乱をして返り討ちにあつたか……どちらかがサイヤ人の末路か」

ベジータ星がフリーザに破壊された所までは同じ推測をしていた親父は項垂れた。弟は特に興味なさそうだな。私も同族意識は其処までないし落ち込むことはないな。

だが問題はある。サイヤ人が全滅し私と父と弟のサイヤ人は絶滅危惧種の様な立場。絶滅危惧種……サイヤ人は絶滅危惧種でも宇宙を荒らしてた種族。サイヤ人だとバレると面倒が起こるかもとサイヤ人となるべく名乗らない事にした。

サイヤ人である事でトラブルもなくこの十数年、弟の世話をしながら星を移動し順風満帆に暮らしている。色んな星の旨い食べ物を探して風来坊の様な生き方、旨いもの探

しの旅、根なし草と蔑まれる時もある生き方だが、弟も父親も結構この暮らしを其処まで悪く思ってもない様にみえる。

暮らしを支える収入は賞金稼ぎに傭兵みたいな仕事、猛獣だつたり賞金首の犯罪者の捕縛だつたりをしての報酬。大概弱い相手ばかりで戦闘欲については解消されない

だからか弟が頻繁に戦闘をせがんで来る。弟はサイヤ人のわりに普段は大人しい。なのに弟が何でか金髪になつたりムキムキになつたりすると普段の大人しさが嘘のような状態に成るから相手をするのが少し大変だ。

まあ弟との戦いは私としても戦闘欲が発散できて楽しい。戦いを楽しむ他のサイヤ人の気持ちが始めてわかつた気もする。弟が手強くなると私の戦闘力もドンドンと延びてく実感が出て嬉しくもある。

不満があるとすれば、なんで弟は体まででかくなる？ 対戦する度に弟のデカさを見せ付けられるのがイヤだ。普段でも私より大きいのに。なんで私の身長は12才ぐらいで止まったんだらう？ 身長も戦闘力の様にグングンと伸びていいんでないだらうか。…弟の妹に見られる。弟が頭を撫でるようになったのも地味に悔しい。

サイヤ人は子供の頃はチビで青年期に入ると一気に身長が延びる筈なのに……もう20を越え自然な身長伸びは期待できない。どうにか身長を伸ばせないだらうか。

色んな惑星の身体が成長する逸話を調べたりしたが……駄目だった。そんな時にナメック星人の噂を聞いた。

ナメック星人はなんでも願いを叶える不思議な球を持っているそうだ。

何でも願いを叶える。願いを叶えるなんてモノの逸話は色んな星に有るけどガセだ。ただ探していれば身長を伸ばすぐらいの何かが見付かるかも。私がナメック星人を探すと二人に言うのと父が無言で牛乳を差し出してきた。弟は無言で私の肩に手を置き首を振った。

なんか腹立ったから二人とも殴っておいた。

ドラゴンボール2

ナメック星人の持つ願いを叶えるモノを知って数年後にナメック星人の居る星に辿り着いた。ナメック星人がいた星が滅んでもうナメック星人は居ないとか思っていたらナメック星人が居る情報を見付けた。星が滅ぶ前に移住してたようだ。

…願いを叶えるモノがあるのに星が滅んだとかやっぱりガセか？

ナメック星人の情報を探してる時、ヤードラッド星人が不思議な技を使える情報も手に入れていた。ヤードラッド星に行く途中にナメック星があるな。期待はせずにナメック星人の移住先の星に向かうとナメック星人はいた。

ナメック星人は戦闘力結構高いわりに穏やかなタイプで対話は簡単に成功。ナメック星には願いは何でも叶う不思議な球が本当にあるのか聞いてみた。

「何でも願いを叶える球は存在する。ドラゴンボールという」

「失礼だが本当にあるのかね。ナメック星人の母星は滅んだと聞いたが……」

「造った本人の力を越える願いは叶える事は出来ないのだ」
造った本人が出きる範囲の事しか無理か。

……何でも願いを叶えるなんて代物ではないなら本当に有るのか？

「なるほど、疑って申し訳ない。ではドラゴンボールを使わせてもらえないか。やはり対価など必要だろうか」

「対価は必要ではないが、もしドラゴンボールを使用するなら7つの試練を受けねばいけない」

試験か。

どういう試験だ。

「その試験を早速受けさせて貰えるのかね」

「スマナイがお前たちに試験を受けさせるのは…」

ダメらしい。

「なぜだ」

「お前たちから少し悪の気配がするので…」

邪悪な力を感じたって所か。

過去侵略した経験を思えば悪い人間なのは否定できない。

「そうか。ならば仕方ない。少し痛い目にぬうあ!!?」

オヤジを蹴る。さらに蹴り飛ばした先に行つて軽く殴る。殴る。

「ちよー！まて！?ぐはー！やめろー！げふー！お前の為にやろうとしたんだぞ！?ぬあー！ドラゴンボールを使うのに試験とやらを受けさせて貰えな、ぬが、とお前の願いが叶えられない！?ぐぼー！」

私の為としても脅迫しようとするな。悪評が立つと仕事に支障がでるだろうが。

「ま、まてまてー！私は気にしてないからー！そこまででー！それと話はまだ終わつてない。お前達二人は駄目だがそ、ソチラの彼なら試験を受けるのは大丈夫だ」

殴るのを止めるとオヤジが地面に倒れる。

「そ…それならそうと早く言つて貰いたい」

「す、スマナイ」

弟だけはOKか。侵略なんてした経験もないからな。それに普段は穏やかだ。邪悪な気は感じないか。

ブロリー試験とやらを頑張つてくれるか？

「はい姉さん。ドラゴンボールの為にがんばります」

「…姉さん？」

弟と私を見比べた後のナメック星人の呟きは気にしない。

それから弟は苦難しながらもナメック星人の出す試験をブロリーは何とか乗り越え

た。星の模様に入ったオレンジ色の球、ドラゴンボールを6つ手に入れた。そして最後のドラゴンボールのある所、ナメック星人の最長老に会った。

「初めましてお客様方、私がナメック星人の最長老です」
でかい。

それと護衛のネイルだったか。

ナメック星人の中で言えば一番強い。

…ナメック星人の戦闘力高すぎないか

「既に他の長老の出した六つの試験に合格したと聞いています。これが最後の試練です。と言っても身構えないでください。最後にあなた達の叶えたい願いがどの様なモノなのか確認させてもらうだけです。…その為にこの試験では真実を確認するのに私は心を読みますが良いですか？…願いを叶えたいのは貴女のようにですが」

心を読まれるのか。

少しイヤだが隠すような事でもない。

「よろしいんですね。それでは確認をします」

頭に手を置かれた何か干渉してくる気配がある。防がない様にしよう。

「なるほど…ええ、悪い願ひでは無いですね…ふふふ」

生暖かい目で見えるな。最長老にドラゴンボールを使ってもいい許可を貰った。

「しかしあなたの願いは一つだけですか……。願いは三つ叶えられるのですが、一つで良いのですか？」

3つも、3つ叶えられるなら叶えないの勿体ないな。

「では私とブロリーで一つずつ願いを頼ませてもらう」

ブロリーにはドラゴンボールの試練を受けてもらったんだ文句はない。オヤジは：ブロリーはどうせ食べ物だろうと予想がつく。しかしオヤジはどんな願いだ？変な願いを頼みそうな気がする。オヤジに願いをきいてみた。

「私の願いは大人のお姉さんとドアアオ!!」

オヤジを殴る。サイヤ人の性欲は薄いのにこのオヤジはなんだろう。二つ目の願いは私がもらいオヤジの去勢でいいか。

「じょー冗談だ！えー今使ってる宇宙船も古くなってきた、家にも使える新しい宇宙船を頼もう」

念のために最長老がオヤジの心も読んで本当なのか確認した。本当に願うつもりらしい。残念ながらオヤジの去勢はなしか。ブロリーは確認されなかった。どうせ食べ物関連だろうと私もオヤジも気にしなかった。

「コイツはデンデ、俺は此処から離れられないのでデンデに願いを叶える手伝いをしてもらおうつもりだ」

「よろしくお願ひします」

ドラゴンボールが願ひを叶えるにはナメック語が必要、翻訳係りにデンデという子供がやることに。ナメック星人の中で優秀な子供らしい。なんで子供がとも思うも、此方としては誰でも良いので問題ない。

最長老の家の前に出た。

下まで降りて広い場所にプロローが試験で勝ち取ったドラゴンボールを7つ並べた。

いよいよ願ひを叶えるとき。

今の時点でも実は本当なのか半信半疑だ。

『—————!』

ドラゴンボールが光った。

ドラゴンボールからなにかが呼び出されてる。空は暗くなり。出たのは巨大な緑の上半身がデカク下半身が細いドラゴン。感じる力はそれなり。あの球の中から出たというよりあの球を中継して別の所から呼び出された？

不思議な力の気配を感じる。これは本当に願ひを叶えてくれるのか。

『願ひを言え、どんな願ひも三つ叶えよう』

「どなたから願ひを叶えますか」

デンデがそう言った。

楽しみを先取るか後にとるか。

先にとるか。

弟が前に出た。

「俺から良いですか？」

ブロリーが先にやりたいのか。早く食べ物を願いたいのか。そんなにお腹が減ってるのか。先にやろうと思ったのが試験を突破したのは弟だ。弟が先でいいか。

「ではブロリーさんからですね」

弟はデンデに耳打ちして願いを伝えていた。なんで耳打。食べ物を願うのは恥ずかしいなんてタイプでもないだろう。

「え、そんな願いなんですか。いいんですか？…えつと…」

デンデが戸惑ってるな。まあ何でも叶えられるのに食べ物なんて普通はないから戸惑うか。身長を伸ばす願いの私も人のことを言えないか。なんでチラチラ此方を見てくるんだ。止めた方が良いと思ってるのか。

「あ、あの良いんでしょうか」

かまわないと言った。

「そう…ですか。で、では、伝えますね」

『—————』

ナメック語らしい言語でデンデが願いを伝えていた。さて食べ物はどうな風に出るのか。ほんとうに願いが叶えられて出るのかな。

『容易い願いだ』

ドラゴンの目が光った。

ん？身体に違和感が？

『一つ目の願いは叶えた。さあ二つ目の願いを言え』

願いを叶えた？

周りを見渡した。

「どうしたんですか」

どうしたも、食べ物はどこにもない。願いは叶ってないんじゃないかと言った。やっぱり願いを叶えるなんてホラだったのか。

「食べ物……え!!食べ物ってなんですか!?!も、もしかしてさっきの願いを知らなかったんですか!?!」

デンデが慌てていた。

知らなかった？

どういふことだ。

食べ物と関係ない願いなのか。

…私に関係する願いなのか

「さ、先程の願いは貴女の姿が死ぬまで変わらないというモノだったんですが…」
は？

意味がわからなかった。

り、理解ができない。

「願いで姿が変わらない。それは…つまり…」

姿が変わらない。つまり年齢で年を取らない。不老の存在になったということか。不老は女の夢か？私は別に身長以外の外見には拘りなんてない。それにサイヤ人は老年でも外見年齢は若いままだ。不老の意味が殆どない。

「娘は永遠にロリということなのか…ふふ…ぬぐあぁ！」

笑った親父を殴った。

弟に対して怒り以前に混乱していた。どうして願いで私の姿を変えさせないと？何を考えてるんだ。弟が悪意やイタズラでやると思えない。

「ごめんなさいです」

弟は黒髪のシユンとした状態になっていた。

願いの理由を聞いた。

「姿を変えるのイヤです…」

私の姿が変わるのはイヤ？

よくわからないな。

「あの…逆の立場で考えてみるとどうですか」

逆の立場となると弟かオヤジが願いで例えば…イケメンになるとかか？イヤだな。

イヤなのはすこし理解したがやはり小さな身体は不便だ。大きくなる。ただし抑えめの大きさを頼むか。何センチぐらいがいい？

『……………二つ目の願いはまだか』

何センチか考えてる。先にオヤジのいいか。オヤジは何故か地面に埋まってるな。代わりに言おう。願いは家として使える大きな宇宙船だったか。新しい家なら良いものをと少し注文を付け、デンデに伝えた

「はい、最新式の設備がある家に使える大きな宇宙船で……今度は間違いないですよね」
デンデに頷いて間違いないと伝えた。

「では伝えますー」

「OK」

そういつた瞬間、ドラゴンの目が光ってボール型の大きな宇宙船がドカンと出てきた。フリーザ軍の宇宙船の半分はある。…願いが本当に叶ってる実証がでた。これはドラゴンの力で造ったんだらうか。何処からか盗って……考えないようにしよう。知

らなければ私は悪くない。

『二つ目の願いは叶えた。さあ最後の願いを言え』

さて最後の願い。

弟の願いは無意味になるがやっぱりこの願いは捨てられない。160、ブロリーも160ぐらいなら其処までイヤな感じもしないだろ。

さようなら低身長。

さあこの願いを叶えてくれドラゴンの神！

「身長を160まで伸ばすんですか…一つ目の願いの時に確認しなくてすみませんでした…三つ目の願いを伝えます」

デンデが私の願いを伝えた。

身体が変化しない？いきなりは伸びないのか？

いやドラゴンが願いを叶えたとか答えてない。目も光ってない。

『それは無理な願いだ。一つ目に叶えられた願いをうち消す願いを叶えることは出来ない』

は

「え、えつとポルンガ、どうにかならないのですか。成長しないという願いを消す方法は、なにか」

『私には不可能だ…』

不可能…不可能…つまりは…もう身長が伸びるところか、願いのせいで成長もあり得なくなつた？

身長が伸びる希望が…いい、いや願いは本当に叶つてるのか？宇宙船は出たが本当に願いが叶つてるなんて信じる必要もない。きっと成長もできる…できるはずだ。

『だが、私以外のドラゴンボールの願いなら何とか成るかもしれない』

「ん？」

他にドラゴンボールが？

ナメック星人が造つたなら別のナメック星人が造つてる場合もあるのか

デンデに期待する視線を向けてみた。

「スママセン、僕は他のドラゴンボールについては知らないです。この星にドラゴンボールは最長老さま以外には…あ…ちよつと待つててください」

頷くとデンデが見える範囲にある最長老の家に飛んでいった。少ししてネイルと一緒に戻つてきた。少しの間なのにドラゴンがまだかとか何度も催促してきた。

「あまり最長老さまの元を離れる事は出来ないので手早く話そう。他のドラゴンボールが有るかだな。結論を言えば…他にもある可能性は存在するだ」

「ふむ可能性とは？」

オヤジが地面から抜け出て聞いていた。

「あくまでも可能性の話だ。最長老さまは可能性は少ないと言っておられた事を念頭に置いてほしい。我々ナメック星人の母星は1度滅んでいいる事は知っているな」

「ああ初めはそれで全滅したんだと」

「母星が滅ぶまえに我々ナメック星人はこの星に移住し新たなナメック星とした。其処から考えてもしかしたらの話だが、脱出の時にはぐれたナメック星人が違う星に移住し、そのナメック星人がドラゴンボールを造れる個体なら、ドラゴンボールを造っている可能性は僅かにはかる…言っておいてなんだが本当に僅かな可能性だ」

なるほど……それ実質存在しないって話じゃないか？

「うーむ……ドラゴンボールが他にあるとあまり期待も出来ないという事か」

「すまないがそう言うことだ」

「ポルンガ、他にドラゴンボールは有るのですか？」

『それを聞くのが三つ目の願いという事でいいのか？』

「…仮にドラゴンボールが他に無くても願いの1つという事になるのか」

『なつてしまふ。さあ、三つ目の願いを言え』

「どうする」

「三つ目の願いは他のドラゴンボールの場所についてでいいですか？もし他に無い場合

は3つ目の願いは無駄になりますか……」

ドラゴンボールが他に無いような気がしても願わない方が無理だろう。私はデンドに三つ目の願いを頼んだ。

「判りました。ナメック星以外でドラゴンボールが何処に有るのかですね。では三つ目の願いを言います……」

「願いを叶えよう……」

どうなるか。

無駄か。あるか。

ドラゴンの目が光った。

「銀河の外れ太陽系に存在する地球という星にドラゴンボールが存在する」

ドラゴンボールは他にもあるのか！

なら希望はまだあるか。……いや本当に成長しないなんて信じてる訳でもないが弟の方から舌打ちのような音が聞こえたような。気のせいかな？

「おお！あるのか地球という星にもドラゴンボールが……なら……ナメック星人の同族も居るのか！ポルンガが言うなら間違いがない。これは皆に知らせないとな」

ナメック星人にとっても朗報なのか。

それにしても地球……？

「銀河の外れか…地球が有人惑星なら座標の情報もあるな」

「良かったですね！」

「願いは叶えた。ではさらばだ」

我がことの様に喜んでくれるデンデが少し可愛く見える。願いを叶えたドラゴンは光と共に消えていった。ついでに空を覆っていた黒い空も。

ドラゴンボールは本当にあった。

しかし結果的に叶ったのは宇宙船だけ、呪いみたいな願いは叶えられた。別のドラゴンボールのある地球に行こう。

「もう永遠にロリでもいいんじゃないか？ぶふ」

オヤジを殴った。

此処での用はもうない。

私と弟は世話になったネイルとデンデに別れの挨拶をし、そして弟と二人で早速貰った新しい宇宙船に向かう。前の宇宙船も入りそうなサイズだな。

「いや、それも連れて帰ってくれ」

足だけ生やしてる謎の生物をネイルが指差していた。オヤジを植えて去るのはダメか。

新しい方の宇宙船が大丈夫か確認してから、前の宇宙戦から荷物だけ運んで元の宇宙

船はナメック星に置いていき新しい宇宙船に入り込んだ。弟と地面に生えてたオヤジも入った。

「ふう、死ぬかと思った……」

真面目にこのオヤジは死ぬ気がしない。感じる戦闘力と比例しない耐久力を持つている。私とブロリーの遊びにたまに巻き込まれたりするからか？

遠ざかるナメック星。

別にドラゴンボールのある地球というのはどんな星か。銀河の外れの辺境の星。

地球……最初に聞いた時から思っていたが……懐かしいような

「地球に聞き覚えがあるのか？ 私は特に聞いた覚えはないな」

「……知らないです」

オヤジはきいたことがな

弟も首を振っている

なら私だけが知ってる……私だけ……あ、地球って前世の私がいた星じゃないか!!!

なんで忘れていた。

20年以上前の記憶だからか。

地球か。思い出すと……良い星だな……美味しそうな食べ物に娯楽も沢山あったような記憶がある。文明は発展してたはずだ。記憶のは地球の20年前、今だともっと発展し

てるのか。ドラゴンボールの事を抜きにしても何としても行きたい星だ。

それから地球に行くことに：

ならなかった。

ヤードラッドに行く。

ナメック星人の情報を調べてる時に、ヤードラッド人が便利な技を使えると言う情報もして、ナメック星の後に行くと話していた。むしろドラゴンボールなんて有ると思つてなくてナメック星がツイてみたいな。

ヤードラッドで技を学ぼうとする可能性はある。もしヤードラッドで技を学ぶとなると時間が掛かるが地球の後つて事には出来なかった。自分の希望でナメック星に行つた後だしな。

それでヤードラッド。

残念ながら技は学べることになった。

別に他所者に教えないとかなかった。

それでヤードラッドで学んだ事で技だけでなく戦闘力：でなくて『気』のコントロールを更に学んで、瞬間移動などの技を覚えた。

瞬間移動では別の空間を通つて移動できて別の星に移動もできる。

瞬間移動は便利でもあり不便でもある。瞬間移動は行きたい場所にはいけない。行きたい人の所にはいけない。瞬間移動で別の空間を移動する時には外が見えない。外に出る時の出口の目印として気が必要。気の探知が届く範囲なら何処にでもいける。

つまり、何処かに行く時には個人個人の気を覚えておかないといけない。メモもなく電話の番号を覚えておかなければいけないみたいな事だ。しかも瞬間移動は便利だと思つたがそんな遠くに行く事も無い。使う機会が無い。

瞬間移動の他にもヤードラット人の技はほぼ覚えた。別に全部の技を覚えようとする気はなかったが、弟とオヤジが技の1つを覚えるまで待って暇だったから暇潰しに覚えた。私は技を覚えるのが早い。瞬間移動やら大抵使わないから覚えて意味があるのかと言つと…。

父と弟がようやく1つ技を覚えて地球に向かった。ナメック星を出てから一年ぐらいでようやく地球につく。宇宙船の外には地球が見える。

「ほー中々に美しい星ではないかね」

オヤジの言う通り綺麗だな。それに前世の私がやはり地球を知ってるのか懐かしい感じがする。

ヤードラットで『気』を学んで戦闘力の探知の制度は更に上がっていて地球の生き物

全ての戦闘力がわかる。地球から感じる戦闘力はだいぶ低い。サイヤ人時代なら最下級の赤ん坊が送られたりする星かな。赤ん坊は成長したら滅ぼす様に教育されてる。改めて考えてもサイヤ人質が悪いな。

地球人は弱い。ただ幾つか不思議な気に戦闘力が高い個体も居るようだ。まあ高いといっても農作業をしたナメック星人よりは下か。アレはナメック星人が可笑しいのか。

地球人はどんな反応をするか。

辺境だし宇宙から来た相手との交流はないか？

前世だと：たしか宇宙人なんて存在しない扱いだった気がする。今だとどうなんだろう。見付かったら交流してくれるか。悪ければ捕獲か。排除か。

争う事になるのは面倒臭い。成るべく建造物が無い場所を探して地球に降りよう。岩山だらけの場所に無事に降り。宇宙船から外に出ると空気が旨く重力も普通だ。

「ふむ、良い感じの星だな。ドラゴンボールを使った後に試しに住んでみるのも悪くないかもな」

オヤジの言葉に弟と私は頷く。ドラゴンボールを探すついでに地球探検もしようか。さて行こうと思っていると誰かが近づいてきている気配。

「誰か向かってきてるな」

弟もオヤジもヤードラットで学んでスカウター無しにも戦闘力を感じる事が出来る。私に少し遅れて気が付いた。

近づいてきてるのは地球人の中では大きい気配ばかり、地球の中では特に高い戦闘力と感じた相手だ。この星の守護者といった所だろうか。前世の地球にそんなのいた記憶はない

見えてきた。

6人か。地球人はサイヤ人に似たり寄ったりなヒューマンタイプ。前世の地球人の姿は記憶と違いはな……いや三つ目の地球人なんて居なかっただろ。

一人怪しいが地球人は五人、それと緑色の肌に頭に生えた二本の触手……どうみても「あれはナメック星人だな」

ナメック星人がいるならやはり此処にドラゴンボールが有るのか、あのドラゴン嘘はついてないのか。もし嘘を付いてたならクレームつけにナメック星に行くことになっていた。

降りて着地した。

向こうには敵意が見える。

「お前たち何者だ！なんのようで地球にきた！」

三つ目の一人が質問して他の五人はコソコソ話してるな。

「尻尾は見えないな…」

「…隠してるんじゃないか」

「どうなんだ。時期が早すぎるしサイヤ人は二人組って言ってたのに、三人だぞ」

「あの少女は連れこられただけの子供じゃないか…とてもサイヤ人に見えない」

「…無茶苦茶可愛いしあのサイヤ人たちに誘拐でもされたとか…」

内容まで聞こえないが警戒してるのはわかる。やはり地球みたいな辺境だと宇宙からの来訪は先ず無いからか。…此方に同情した感じの視線が向いてないか？

「少し良いかね」

オヤジが前に出た。暴力的な対応は事前に駄目だと釘を刺してあるが大丈夫か？

「……オツサン達はサイヤ人だな」

サイヤ人だとなんでわかった。

尻尾は隠してる。宇宙船もサイヤ人のモノでもないのに…それにそもそもサイヤ人を知ってるのは不思議だ。地球人が知っていると宇宙に進出してるか交流があるか…それか…侵略にきていたサイヤ人がいた？

「確かに我々はサイヤ人だが、君達に危害を加えようなんて気は毛頭ないよ。そう警戒しないでくれ」

誤魔化さないのか。サイヤ人と正直に答えたのが吉とでるか凶とでるか。

「やはりサイヤ人か!!」

「くそ、まさかこれほど早く来るとはな!」

「悟空を生き返らせてないのに……」

「こうなれば我々だけでやるしかない!まだ途上だが修行の成果をみせてやる!」

「やつぱりサイヤ人か!」

戦意が高まったな。

凶とでた。

「まてまてまて!落ち着きたまえ、君達に危害を加えようなんて気は本当に無いのだよ」

「危害を加える気はないねえ…信用できないな!」

「お前達の来た目的はなんだ!」

「目的は地球にあるドラゴンボールを使わせて貰おうと思っただよ」

「ツチ、前の通信でドラゴンボールについて聞かれていたのか」

「仇討ちで無くてドラゴンボール狙いかよ」

なんの話をしてるんだ。

「…君達はなにか誤解をしているよ」

「誤解もなにもあるかよ!」

「うーむ…ドラゴンボールは使わせて貰えないのかな」

「ふざけるな！お前達にドラゴンボールを使わせてたまるかよ！」

「何かあったのか知らないが、私達が敵ではないと言っても信じてもはえないのかな」

「ああ！」

「…ならば仕方ない。少し強引に」

親父が此方を見てきた。

しかないか。

親父に頷いた。

「この私、パラガスが力の差を教えてやる。大ケガをしないようにしてやるから掛かってくるが良い」

オヤジがマントをバサリと広げて格好をつけていた。なんか腹立つ。

「一人でヤル気かよ。俺たちをなめるなよ！」

「なめてはいない。それだけ力があるのだよ」

「それがなめると言うんだ！俺がお前を打ち倒して地球から追い返しやるぜ！！」

「一人でなく全員できても良いぞ」

「…ふざけるな！お前なんて俺一人で十分だ！！」

「ちよ、ヤムチャさん、一人で突っ込まないでください！」

「クリリン、ならどうするんだ！あいつの言葉どおり一人相手に俺達全員で戦うつての
か！」

「それは俺は…全員で戦った方がいいと思う」

「天さん、どうする」

「…武道家としては一人で戦いたいが…」

「何をあまつちよろく迷っている！相手は話しにあったサイヤ人なら俺と孫悟空が二人
掛かりで何とか倒したヤツよりも格上なんだぞ！」

「そ…そうだったな。見掛けがオッサンみたくても悟空が相討ちで何とか倒せた相手よ
り強いのか…」

「俺達全員で掛かる！良いな！」

「ああ！」

どうやら全員で戦うみたいだ。

オヤジが暇そうに会話を聞いていてようやくかと言った感じ。緊張した様子がまる
で…：…相手をみて青ざめた。それは当然か。

「血祭りにあげてやる」

なんで弟が向こうに？

暇だったからあっち側についたのか？

弟を連れて何処か行こうか

ドラゴンボール3

私は弟を引き連れて地球の町に行くことにした。向こうで親父と戦いそうになつてたからな

弟が何でアツチに着いたか聞くとやつぱり暇になつたかららしい。暇潰しの遊びで戦うとしても地球人とナメック星人が巻き添えになる。説得はオヤジに任せて大丈夫……か不安だな。

「大丈夫だ。ヤードラットで学んだ技術があれば無傷で彼等を鎮圧できるさ」

とか言つてたが

オヤジと地球人の戦士の気は離れててもわかる。念のために気を見ておけば大丈夫か。

さて地球の町に出た。

懐かしいような。何か違うような。

地球は本当に辺境か？と思うほどに地球の文明はソコソコ高く栄えてる。町並みは

確りしている。自然も豊か。しかし気で判っていたが住民の強さはない。科学が発展してて兵器が強いなんて感じもない。

一応今オヤジが相手をしている少しは強い戦士も居るが……数が少なすぎる。大体こういう星は他の勢力に星ごと奪われ住民は虐殺コースか奴隷コースのどちらか。地球は辺境だったお陰で平和だったんだらうな。それにしても前世の記憶はあんまり覚えてないが……前世の地球なのか？前世の私がいた筈の日本って国がない。それに獣人みたいな人間もいる。建物の形も何か違う。

文字やら食べ物とかは記憶になる地球のモノなんだが……食べ物を買う資金は他の星で報酬で貰った宝石等を換金してある。強盗なんてしてない。

美味しい。

クレープ、シュークリーム、チョコレートだったか。高級品でなくそこら辺で売ってる物なのに地球の食べ物はどれも最上級に旨い。食べ物については文句無しに一番だ。

グルメガイドの本を読むとまだまだ旨いものは有る。食べ物だけでなく面白そうな所も色々と有りそうだ。地球は平和なお陰で食べ物とか娯楽方面が発展してるのか。前世の事は関係なくてもこの星に住みたいな。

「俺の胃はこの程度で満足はしないぞー！」

おい金髪の状態になるほど喜ぶな。

興奮するほど旨いという事は判るがその状態だと周りを怯えさせて：怖がられては
ないな。

弟も気が外に拡散しないように抑えてるが、それでも威圧感はあるだろ。一部には驚
いているが反応はそんなに、肉食恐竜が近くにいても逃げない羊みたいに見える。どう
やらこの星の人間は相当に鈍感な様だ。

まあ怯えられてないならいいか。

益々この星に住みたい理由ができたな。

「ウマイ。ウマイぞ……」

慌てて食べ過ぎて弟の口回りが汚れすぎてる。旨いのは判るが一気に食い過ぎるな。

しやがませて弟の汚れた口回りを紙で拭う。

「次は…あれだあ!!」

おい拭いてすぐに走るな。まったくそんな慌てなくても店は逃げないだろう。せめ
て金髪の状態を解け。…弟ももう20以上なのに落ち着きがない。……私は幾つに
なつたんだつたか？

もう四捨五入したら30……30か。

なんだろう心が痛いような。

た、食べ歩きの再開だ!! た、たい焼き、だんご、プリン、あんまん。本当に旨い物が

多くて困るな!!!

「オヤジの方はいいんですか?」

しばらく食べ歩きをしてようやく落ち着いて弟が聞いてきた。感じる戦闘力はオヤジは勿論、相手も大して減ってる様子もない。

問題無さそうだ。

もう仲良くなってるのかもな。

「……はい」

なんで弟は顔を逸らした?

半年ほど前、あの悟空がピッコロ大魔王と二人で手を組んで、悟空の兄と名乗るサイヤ人と戦って悟空は相討ちになった。

悟空が相討ちになって死んだ事もだけど、悟空が大魔王と二人がかりで相討ちしてまで仕留めた化物なサイヤ人より上のサイヤ人が一年後に来る。元々は悟空は地球を侵

略する為に送られた。地球を侵略して地球人を皆殺しにするかもしれないのがサイヤ人、そんなサイヤ人が来るなんて正直、信じられなかった。信じたくなかった。信じなくても現実が変わらない。

仲間を殺した復讐にサイヤ人が来る。下手したら地球人は皆殺しで地球も侵略されるかもしれない。

一年後に来るサイヤ人と戦うために神様の元、かつての悟空の様に俺、クリリンとヤムチャさん、天津飯、チャオズ、ヤジロベエで天界で修行をした。サイヤ人からヒントを得て新しい気の使い方も習得して劇的に強くなつていく実感があつた。

あの悟空やピッコロと同等かそれ以上に強くなれて、これなら何とかなると思い始めた半年後。まだ修行も半ばでサイヤ人らしき奴等が来たつて話を聞かされた!?

「ど、どうするクリリン」

「と、取り敢えず、ぶ、ブルマさん達に連絡して悟空を急いでドラゴンボールで復活させて貰いましょう!」

「……ピッコロ達とも合流しよう」

俺、天津飯、チャオズ、ヤムチャさん、ピッコロ、孫悟飯が集まる。ヤジロベエのヤツは修行をサボつて何処かに行つてて連れてこれなかつた。運が良いな。

サイヤ人はきた。

来たサイヤ人は、オヤジのサイヤ人と大人しそうなサイヤ人、デカイ気は片方しか感じない。そのデカイのも…思ったほどじゃないな。

まさか強いのが嘘なんて事はないだろうし。きつと気を隠してるんだ。油断したらダメだ！

あと場違いな感じの可愛い女の子がいる。

誘拐された娘とかだよな。

どっちかロリコンかよ！

くそ、サイヤ人は外道だな！

ドラゴンボールが狙いでサイヤ人は戦う気が無いとかいってきた。ドラゴンボールを使うのに懐柔しようってつもりか！こんな奴等にドラゴンボールを使わせたらくな事にならない。当然だけど拒否してやった。

そしたら戦うつもりになったようだ。

一人でだ。大ケガさせないとか、全員で来て良いとか！完全に此方を営めてる！！

なんて…前に来たサイヤ人以上なら営めてるとかじゃないんだろ。悟空が死ぬようなサイヤ人以上。

一人で勝ち目なんてない。

大人しそうな方のサイヤ人は女の子を連れてどっかに行った。助けたいけど、俺達は追ったりはできない。油断して勝手に一人に成ってくれるのは都合が良いからだ。：それにしても、あのサイヤ人が此方にきてオヤジのサイヤ人と戦おうとしたみたいなあれは何なんだ？

一人残ったオヤジのサイヤ人は焦った顔を少しもしてない。一人ならもしもの時に助けとか無いんだぞ。一人で十分って自信があるんだろうな。見下されてるのに腹が立つ。悟空が来る前に俺達は必ず勝つって意気込みでサイヤ人を戦う。つもりだったのにオヤジが止めるように手を前に出してきた。

「なんだよー！」

「さっきも言ったがドラゴンボールを使わせて貰いたいだけなんだよ。願いが叶ったら大人しく地球を去ることを約束する」

まだこの期に及んで……戦いに自信が無いって事じゃないだろ。ドラゴンボールをよほど使いたいんだな。どんな願いなんだ。

「ドラゴンボールを使って何を願うつもりだ」

「…勝手に言うのと怒られそうなので言えないが…悪い願いではないよ」

「言えない願いで悪い願いじゃないなんて信じられるか！」

不老不死とかだと願われたら最悪な事になる。

「はあでは戦うという事で良いのだな」

「そう言うことだ！地球に来たことを後悔させてやるぜ！」

「あ！ヤムチャさん！」

くっ！ヤムチャさんが突っ込んだ。皆で戦うって決めたのに！いや、ヤムチャさんのことだ。勇み足もあるけど自分の身を使ってサイヤ人の強さを確認するつもりか！

「ヤムチャ一人だと危ない！」

「何処かにいったサイヤ人のことも気になる。全員で一気に片付けるぞ！」

「お！おう！」

武道家としては多数でひとりを相手に戦うつてのは抵抗有るけど、負けたら地球人が全滅もある。相手が半年前のサイヤ人以上でも、修行で大幅に強くなって多対1なら勝ち目は十分にあるそう思っていた。

半時の修行だけと俺達の強さはグーン！と伸びて半年前の悟空と同等かそれ以上に強くなってレベルになっていたからな。ピッコロは確実に半年前の悟空よりも強くなって。そんな面子で戦うんだ負けると思わなかった。

「くらえ！狼牙風久拳!!」

「やれやれ…なるべく平和におさめたかったんだが、ソチラが襲ってくるなら大人しく

させるしかない……」

ヤムチャさんの必殺の攻撃をさばいて俺達が向かつてるのに余裕そうな顔のオヤジ。その顔を見て吠え面かかせてやるって思った。

ああ…甘かった!!サイヤ人は予想より化物だ。見掛けで油断したら駄目だと思つていたのに…油断してたのか!いや油断してなくても!

「な、な、なにを、する、うわああー……やめ、やめろおおおお!!ぎゃああああ!!?」

「や、ヤムチャさん…ひ、ひどい…」

「つぎはお前だ」

「いやだああ!!助けて天さ…」

「チャオズうー……!!」

「なに悲しむことはない。一緒の所にいかせてやろう」

「……む、むねん」

「天津飯!!」

みんな……皆やられちゃった。天津飯もチャオズもヤムチャさんも。俺の目の前には倒れ伏した。辛い修行を共に乗り越えてきた仲間たちが、……みんな!!倒れる皆を見て、あ、有るのは悔しさでも怒りでもなくて……恐怖だけだった。

「く、くそ、化物め」

「な、なんてやつだ」

見掛けはただのオヤジなのに。あのピッコロが化物と言うのに同意しかない。

い、今のオヤジから感じる気は俺達の何倍だ。や、やっぱり気をコントロール出来るのが俺達だけじゃなかった！気を隠してやがった！速さも防衛も桁外れ。それだけじゃない技能も高い。どんなに攻撃しても殆ど避けられる！よしんば当たってもまるで効かない！魔貫光殺砲、前のサイヤ人を倒したって言うあのピッコロの切り札さえ直撃しても吹き飛ばされるだけで……オヤジは目にも止まらない速度で動いて、気付くと目の前に現れて、そして、……みんな……一撃で、一撃？……死んだほうがマシなこと……

な、なんなんだ！なんなんだこいつは！！

恐ろしい……恐ろしい……

いや恐ろしいってより

「こんな楽しいシヨウは天国に行っても見られんぞ」

気持ちワルイイイ！！

ああ！腕を上げて腰をクネクネさせるなあ！！

なんで、なんで、マトモに戦わないんだよ！！

幾らなんでも！酷すぎるだろ！！

殴れよ！気色悪いもんを顔に押しつけるな！なんだあのヌルヌルした動きは！なんで股間を押し付けてくるんだ！普通に倒してくれよ！まだ粉微塵になつて殺される方が億倍マシだ！恐ろしい。恐ろしいけど！予想してた恐ろしさと方向性が違う！

「さあこの俺が極楽に連れて行ってやろう」

こ、このままでとヤムチャさん、天津飯、チャオズの二の舞になる！殺られる（死んでない）！皆のように（精神的に）殺られちまう！！くそお！悟空まだか！！こんな事なら悟空が来るまでの時間稼ぎに話し合いをして少しでも時間を稼いでおけば良かった！

「さて次は……」

「ひい!!？」

は！悟飯に視線が。

次は悟飯が狙われてる!!

「やめろ、やめろ！止めてくれ！絵面がヤバ過ぎることになる!!悟飯は子供なんだぞ!!」

「いまさらなにを…此処に居るのなら戦う為に来たんだろう。子供だと言うならなぜ連れてきた」

「そうだけど！そうだけど!!」

オヤジみたいな戦いを想定しろとか無理だろ!?

「うわぁん！こわいよお」

「ご、悟飯にげろおお!!」

「ふふ、怖がることはない」

俺が助けに向かうのより高速で尻餅をついてる幼児の悟飯に腰をふりながら迫るオヤジ。な、なんてヤバイ絵面だ!!

「しゅわつとー!」

オヤジは飛び上がり悟飯の顔に股間が迫る。

「悟飯よけろおお!!」

「ー!?!」

だ、ダメだ!悟飯は恐怖で固まってる!俺は思わず目をつむって確実に起こる惨劇から目を逸らした。

「ー!?!?!」

グニツ

イヤな音が聞こえた。

恐る恐る…目を向けると…

「び、ピッコロキョーん」

ピッコロがピッコロが悟飯を庇って、オヤジの股間に顔を…あ、ピッコロはギリギリ

オヤジの太股をつかんで止めてる。

「ぐおお!!」

な、なんとかたえてるけど、このままだと!ぴ、ピッコロが…あの、ぴっころが。

「ふふ、順番が変わったただけだ。極上の幸せを感じながらいつてしまうが良い」

オヤジの腕がピッコロの頭を掴んで、グツと力を込めた。パワーでまけて徐々に股間に近付く顔、ピッコロ…がんばれ!!がんばってくれ!!!

「やめろ!やめろおおおおお…うぐあああ!?!」

グリグリ動く股間。股間から電流が走る様な音と光る!!痙攣するピッコロ!え…エグい、な、なんてひどい技なんだよ…これが宇宙で恐れられたサイヤ人…!!

「がはあああ」

白目を向いてユツクリと倒れるピッコロ。

「ピッコロさー…!!な、なんで僕を庇ったの!」

「ご、悟飯…お前といたこの半年…悪くなかったぞ…」ガク

い、一番強かった…ピッコロ、ピッコロまで!!あんな簡単に…

「さて、お次は…」

悟飯の嘆きの声を無視して近付いてくるオヤジ…

「ぐくううううう!!早く来てくれええええ!!」

ドラゴンボール4

地球の町で弟と食べ物を買い歩きをしていて……気配が気になった。

「どうしたんですか?」

見られてる感じがする。

「見られてる?……何処にいるんですか」

弟は周囲を見てる。

いや近くには居ないから。

遠い所から見てる。ヤードラットで学んだ事がなければ気付けなかったな。見られてる気配を辿るとさつき来た戦士よりは弱いけど、地上より上の方に地球人にしては高い気が二つある。見てる相手が居る方向を見ると気が動揺した様に揺れた。

此方に来るかな?

誘うように弟と人氣の無い広々とした場所に行くとき空が光って誰かが降ってきた。気配があつた二人組。だいたい遠くに気配があつたのに一瞬で移動してる。此方が探知できない速度で移動したか。ヤードラットで教えて貰った瞬間移動みたいな事をした

のか。

「お前たちか…俺達を見ていたのは」

片方はどう見てもナメック星人。もう一人は…何だろう。人の様な人じゃないような。ナメック星人はさつきあつたナメック星人と気の感じが似てる。親子？戦いに来たって感じでもないな。

「サイヤ人の来訪者よ。どうか話を聞いてもらいたい」

「誰だお前は、先ずは名乗るのが礼儀だろう」

弟が食事の邪魔をされたからか不機嫌だ。

「この方、地球の神様」

神、この星の神はナメック星人…神と書かれた服を着てると思ったらそのまま神様なのか。

神様か。昔、惑星を侵略する時にその星の神様が居たりする星があつたりすると、排除した覚えがある。…恐らくあの戦士を差し向けたのはこの神さま。此方と戦うつもりか。交渉をするつもりか。様子から言えば交渉か。

「交渉はしたいのだが、先ずはどうか共に来たあのサイヤ人を止めてもらいたい」

止めるつてなにを、いや止めてほしいと言えば普通に考えると戦闘しかないが、今も気配を探ってるがもうオヤジの居るところで戦闘が行われてる様な気配は感じない。

地球人の気も減つてない。戦闘はしてない。オヤジは脅迫でもしてるのか？

何を止めて欲しいのか聞いた。

「何を、と言うと、なんと言つて良いのか困るのだが……あの者がやつてる事を止めてもらいたいのだ」

あのオヤジは何をしてるんだ。

何にしても向こうが頼んでくるならドラゴンボールを使うのを対価として要求しても……やめておこう…地球には長く滞在したいし対価は無しでいいか。良くわからないうがオヤジを止めれば友好的になつてくれる筈だ。友好関係ならドラゴンボールも使える可能性が高くなる。そして地球に滞在する事にも文句はでない筈。

「はい、オヤジの所に行くんですね。コイツらも連れてきますか？」

弟を見たらそう言つたので頷いた。

「な、何だ。なんのつもりだ!？」

「か、神様」

弟がナメツク星人の神様、黒い人を担いだ。それから私が弟に触れて瞬間移動。

「な、場所が変わつた!？」

「こ、ここクリリン達が戦闘してる所の近くです神様」

「一瞬で移動したと言うのか!？」

神と付き人はいひとと弟を伴って現場にヤードラットで覚えたての瞬間移動で移動した。瞬間移動に驚いてる。さつき自分達も瞬間移動みたいな事をしてたんじやないのか。瞬間移動とは何か違う移動なのか。

さてオヤジと他の地球人は…ん？

ドラゴンボールの事で頼みに来てるのだし。父がそんな酷いことをしてないと思っ
ていた。

……信用したのが間違いだったな。まだ殺していた方がマシな光景を見せられた。

「……………」

動揺する事が少ない弟ですらドン引きしている。

「うわああん、怖いよお」

「ふふ、庇うものは居なくなつた。さあ今度こそお前のばん…だ…あ、ブロリーに…
も、戻ってきていたのか…いい、いや違う。これは違うんだ！」

何が違うんだ。子供に何をしようとしてるんだこのオヤジ？

「まて！話せばわか…あうち!？」

オカツパの子供に股間を近づけている変態を殴り飛ばす。そして残されたのはガチ泣きの子供とツルツル頭と地面で顔を抑えて悶え苦しむ地球人の戦士たち。ビビった様子で少し遠くに居る太った刀持ちの誰か。神様は手遅れだったみたいな顔をしてる。

神様のお陰で辛うじて俺達は助かった……助かったと言えねえよ。俺と悟飯だけは無傷だけど、いや、他の皆も肉体的には無傷だけど……壮絶な悲鳴を上げたり呻き声で顔を抑えて悶え苦しむ仲間達。

悟空を殺したサイヤ人相手だ。

殺される可能性はあると覚悟はしてきた。

「アアアアアアアアアア!!!」

あの叫びを聞くとまだ殺された方がマシだったかとも思えるんだ……特に天津飯は、目が三つ有るから……チャオズは白目向いて倒れてる。ヤムチャさんは天津飯と同じ様な感じだ。

「……悟飯、じゃあな」

「ピッコロさん!」

ぴ!ピッコロのヤツなんか自害しようとしてないか!? あ、あー押し付けられあれの事もあるけど……死ぬ前みたいな台詞もか……あんな攻撃? で死ぬの覚悟させられたつてのが、つて! 考えてる場合じゃない止めないと!!

ああ、この惨状の理由が!!誤解って言うところが救いがない!!やってきたアイツ等、サイヤ人はサイヤ人でも別口のサイヤ人ってふざけんな!普通サイヤ人がきて別口なんて思うわけないだろ!なんでこのタイミンで来るんだ。全く関係ないサイヤ人が来るってどんな偶然だよ!!

来た目的はドラゴンボールが狙いらしいけど、無理矢理強奪しようって気はないそう
だ。

オヤジが願いを隠したけど、神様だけが伝えられたけど問題ないそうだ。神様の出身のナメック星人の星があつてそこにもドラゴンボールがあつて、そのドラゴンボールである呪いを掛けられて解くみたいなお話らしい。

嘘じゃないかと思って思ってたけど…戦闘力の差を考えたら嘘をつく必要がないよな。向こうがヤル気なら俺達全員死んでるし。悪党なら邪魔する俺達を排除してドラゴンボールを使う。

…:戦う必要なんてなかったな。

別のサイヤ人って気付ける要素は有ったんだ。話をちゃんとしたら気付けた。敵のサイヤ人は二人組。今回来たサイヤ人は三人。

そう三人、あの可愛い女の子もサイヤ人だった。サイヤ人なのは間違いない。あの恐ろしく強いオヤジが一発で地面に埋めてたしな。

「ヌオオオやめろブロリー！落ち着けええ！」

あのオヤジ、俺たちを圧倒してボコボコにしたパラガスさんって人さ。一番強い。そう思ってた…なのに、なにあの金髪ムキムキ…変身した…気がなにこれ、桁違い…差が有りすぎて差がどれぐらいか認識ができないぞ!?

「いやー！ほんと悪党なら俺達死んでたな…」

涙が出る。

三人は傭兵をしながら気儘に旅をしているサイヤ人だっけ。昔は侵略とか仕事としてしてたそうだけど、結構前にサイヤ人の王様から追放されて、それ以降は侵略とかそういうことはしてないそうだ。……………今度くるのはバリバリ現役で侵略とかしてる奴等なんだよな。

俺と悟飯は話を聞いてから休んでいた。疲労感がのし掛かってくる。頭が痛くなる話を色々聞いたしな。

「あの…クリリンさん…半年後にくるサイヤ人はあの三人よりさらに上なんでしょうか…」

「悟飯、お前…恐ろしいことを」

俺も思ったけど言うなよ。

やっぱ侵略を現役でやってる奴等の方が強そうと思えるよな

「聞きたいかね」

「は！オヤジ、いやパラガスさん!？」

いつの間に近くに！

「いや、聞きたいって、追放されてサイヤ人と関わり無くなったんですよ」

「関わりがなくてやってくるサイヤ人については知らないよ。ただ……追放される前の当時、侵略などを現役でしてた頃の私以上に強いサイヤ人というのは相当居た事だけは伝えておいた方がいいと思ってるね」

「…そ、そうですか」

…俺達の手も足も出なかったパラガスさん以上のサイヤ人がわりといたの…か…しかも侵略してた当時って事は衰えてないか？今よりも強かったのかもな。

「つ、つまりなんですか、は、半年後に来る、今度は確実に敵なサイヤ人は、パラガスさん並みかそれ以上に強いぐらいに考えなきゃダメってことですか…」

い、いや…絶対に強いなんて決まっても無いよな。

「まあ普通に考えて生き残りなら弱い者ではなくサイヤ人の上澄みだろうしな」

はは………相手が、弱いなんて期待したら駄目ってことか。想定はパラガスさん以上の強さの相手、今から更に半年修行をして強くなつて、悟空が戻ってきたとしても………何とかなるのか？

憂鬱になつてると神様がきた。

「どうかされたか地球の神よ」

「……先程君達が傭兵の様な事をしてしていると聞いたが間違いはないのだろうか」

「傭兵の真似事はしているよ」

「では、やってくるサイヤ人と戦う為に君達を傭兵として雇えないだろうか」

「ふむ……報酬は」

「報酬は……ドラゴンボールの使用が報酬という事でダメだろうか。君達はドラゴンボールを使うために来たのだろう」

神様!?!ドラゴンボールを報酬につて!?!

願いが問題ないとしても……!!

「神様!ドラゴンボールを今使ったら悟空が生き返る事ができませんよ!」

ブルマさんたちに悟空を生き返らせるように連絡したけど、空が青いままだしドラゴンボールはまだ使われてないよな。

「む、むう、そうだったな」

か、神様、忘れてたのか。忘れないでくれよ。……け……けどパラガスさん達を雇うなら、悟空が生き返るのを後回しにするのは……地球の為って考えると、悟空一人かパラガスさんと他二人……戦力で選ぶと……うう……

悟飯の顔色が悪い。そりゃ父親が生き返るの後回しなんて話だもんな。

「クリリンくんと悟飯くんだったか。その様子だと、よほどに悟空という人物を生き返らせたいようだな」

「…え、ええ…」

「ふむ。ドラゴンボールは後から使えないのかね」

後で使えるけどそれは一年後だ。一年後に生き返らせる事はできる。けど…だからって悟空を生き返らせるの後回しにするのは…イヤだよな…

「ドラゴンボールは1度使うと一年は使えないんだ。パラガスさん、ドラゴンボールを使うのは…悟空を生き返らせてからでダメかな。一年待つことになるけど…」

どういう反応するかな。

…悟空の方を後にしなきゃいけないかな。

「ああ、それで構わんよ。一年待とう」

「…：…よろしいのか」

た、頼んどいてなんだけど驚くほどすんなりと受け入れてくれたな!?俺達にはありがたいけど良いのか!?

「ドラゴンボールを使うのは後でも構わないよな」

「はい。問題ないです」

「ブロリーって呼ばれた男の方もアツサリ。けど女の子の方が何か言いたそうだ。ドラゴンボールに願うモノってあの女の子に関係するものなんだよな。だからあの女の子が待つてくれるなら、女の子は溜め息をはいて頷いてくれた。よ、よし！一年待つてくれるみたいだ!!」

「それでは、一年後にドラゴンボールを使うことを条件に地球も守つてくれるという事でよろしいのかな」

「神よ聞くまでもない事だ。やつてくるサイヤ人への対処は我々に任せるといい。二人もそれで良いだろう?」

「はー」

二人のサイヤ人は今度は二人とも特に迷いもなく頷いた。…やつて来るのサイヤ人、同胞相手に良いのか?」

「あ、あの、相手は同じサイヤ人ですよ。本当にいいんですか?」
聞きにくい事を悟飯が聞いてくれた。

後で迷われたり最悪裏切られたら困るし聞かないとな

「ああ問題ないよ。元々サイヤ人は仲間意識が低い。それに未だに侵略をしているサイヤ人などは我々にとつても邪魔な存在だ。倒すことに何の問題もない。なあブロリー」
「はい……この星の旨いものを消そうとするサイヤ人はまとめて血祭りです」

「……………」

女の子も頷く。

三人にとつても排除したい相手なのか。

ウーン…此方に都合が良すぎないか。本当に味方になってくれるんだよな。

心がわかる感じの神様やポポなら相手が騙そうとするなら判る筈だよな。神様に視線を向けると…：…しつかりと頷いてくれた。信用して良いみたいだ。まあ、そもそも俺達を騙して意味ないよな。ドラゴンボールを使うのを後回しにするとか。

二人のサイヤ人が仲間に戦力になつてくれる。パラガスさんとブロリーが戦つてくれるか。ありがたいたいけど、勝つにしろ負けるにしろ…：…俺達つていらぬよな。下手に参戦しても足手まといに成りそうなレベルだよな。

「……………感謝する…：…ただ、できればだが」

「神よ何が言いたいかわかつているよ。なるべくならこの地球の住民だけで地球を守りたいのだろう」

「あ、ああ。確かにそう思っている…：…いるのだが」

神様が辛そうに俯いてる…：…俺達じゃ今から半年修行してもサイヤ人と戦えるレベルに成れないって思ったんだらうな。今回の戦う気がろくになかったパラガスさん相手に、あの体たらくがあるから反論なんて出来ない。助かったのパラガスさんたちが敵

じゃなかったからだ…

「「……………」」

悔しいな。いつの間にか復活していた皆も辛そうにしていた。いや……他の皆のは悔しいのか精神的なダメージが残ってるからかわかんねえ。

「パラガス殿……出来れば……」

「ふふ、神よみなまで言うな。我々が彼等を強くするための訓練を請けおつても構わんよ」

え、俺たちの訓練!?

「良いのかパラガス殿」

正解なのか神様!?!正気か?!いや確かに俺達がサイヤ人をどうにかするぐらい強くなるなら今までの修行では足りない…け、けど…ぱ、パラガスさんから学ぶって、あの戦闘方法を……?ヤムチャさんとか顔が真っ青なんだけど

「ああ、ただし報酬にサイヤ人が来るまで三人分の食事を毎日貰うがね」

「…感謝するパラガス殿」

わ、わりと軽い報酬で雇われるんだな。

あと俺達修行つけてもらうの承諾とかしてない。

因みに、軽いどころか物凄く重い報酬だった。悟空の食欲がサイヤ人特有なんて知ら

なかった……言うなればパラガスさん達への報酬は悟空×3の食事。あと俺達の食事も神様が……それが半年、正直俺達より食事の用意をする神様の方が過酷な環境に居たかもしれない。いや俺たちの修行も……

「ではこれより半年間、サイヤ人と戦うためにパラガス殿の特訓も追加されるが……皆は良いか」

くそ、受けないなんて言えない！

「の、望むところですよ神様」

「え、ええ……サイヤ人式の特訓を受けられるのは、幸運ですね」

「う、うん」

「ピッコロさん大丈夫？」

「……………」

「はなせえ！俺はイヤだぎゃ!!」

ピッコロ筆頭にパラガスさんを見ると顔色が悪くなってたけど、負けたまま強くなる機会を逃す事ができる奴なんて居ない！覚悟をして特訓を受けることにしたんだ。ヤジロベエは逃げようとしてるけど……お前だけ逃がすかよ。

サイヤ人のやる特訓、どれだけキツイのか想像するだけでも身震いがくる。此まで

だって相当な修行をしてたんだ。けどサイヤ人と戦わなきゃいけないのにサイヤ人が受ける特訓ぐらいは乗り越えないと話にも成らないんだ。覚悟を決めてやるぞ!!

それから半年、特訓をうけた。

後悔した。

修行は今までの苦難に満ちた修行が天国と思える地獄…生き地獄……まだ地獄の方が楽だって神様が保証してくれる修行……自信がつかない。鍛えられ何倍も強くなってる。なってるんだ。けどさ……やってくるサイヤ人に勝てる自信はまったくないんだよ!逆に勝てないって気だけが増えてく!!!

だってさ!!半年で比べ物に成らないぐらい強くなった俺達全員合わせてもパラガスさんに負けるんだぞ!!本当に格段に強くなったのにな!

パラガスさんに勝てないのが不味いと思う。パラガスさんやってきたサイヤ人三人の中で桁違いに…一番弱いし。

サイヤ人があの姉弟クラスだとしたら絶対に無理。勝ち目とか考えるのも無理だ。時間稼ぎも無理。

パラガスさんの半分ぐらいでなんとか。パラガスさん並みのが来るのに全く足りない。地獄を乗り越えて半年前より遥かに強くなったのに挫折感がが…そんな心境なのに…半年経ったからもう何時きても…

「これは！二つの気が地球に近づいてきてる…!!」

「サイヤ人か!!」

「とうとう来たのか…予定より少しやいな」

「悟空を今から急いで生き返らせないと！ブルマさんに連絡してくれ！」

悟空は結局半年前に生き返ってない。向こうで修行するとかで…間に合うのか。

「や、ヤバイんじゃないだぎゃ!!」

「は、落ち着けよ。感じる気の大きさは大したことはない」

「少し昔なら恐ろしいけど、今の俺達なら十分に何とかなるレベルだ」

「これなら悟空もパラガスのオッサンも抜きにして、俺達だけでサイヤ人をぶっ倒せるな！」

(…:…:なーんて言葉を言った本人を含めて誰も信じてない…)

厳しい顔をしている俺を含めて全員。感じる気の大きさは確かに何とかなるレベル。半年前のパラガスさんも感じる気では大した事はなかった。あの時と同じだ。

戦闘力を抑えてるんだよな

いったい何処まで戦闘力は高くなるんだろうな。勝てる可能性は何れぐらいかな。

「パラガスさん…」

「わかってる。君達が負けない限り手を出さない。頑張れよ」

「ありがとうございます」

勝てる何て自信はない。

…それでも俺達が戦うんだ!!

「よし！サイヤ人の気が降りてくる地点まで向かうぞ！」

「「おう！」」

「ピッコロさん行きましょう！」

「ふん、わかってる」

俺達は一斉に飛んだ。戦いが始まる。隣や後ろを見ると皆、覚悟を決めた顔をしていた。

パラガスさんにぼろ負けし続けた俺達がパラガスさんたちと同じサイヤ人に勝てるのか。想定だとパラガスさん以上、甘く考えてパラガスさん並みかそれ以下の強さでも相当にキツイ、最悪は姉弟以上だって可能性があるんだぞ。正直に言う…勝てる可能性は無いと思うのも仕方ないよな。

だけど俺は！俺達は戦うんだ!!

勝てたら最高、負けてもダメメジぐらいは与えてやる。最悪無傷でも良い。相手の手の内を少しでも見ればパラガスさん達の勝てる可能性を上げるんだからな！例え死んでも無駄死にじゃない。俺だつて死にたくない。死にたくないけど……この半年、アイツらと戦うために地獄を見ることになったんだ！例え死んでも少しでもアイツらに地獄を見せられたお礼をしたいんだよ!! そうしないと納得できるか!!

「(ト)ら辺だな」

サイヤ人の気が向かってきている所に到着。相手が降りてくるまでに間に合ったな。

「上を見ろ！」

丸い何かが二つふつてきてる。丸い物体の中にサイヤ人の気がある。サイヤ人の乗った宇宙船。宇宙船はパラガスさんが絵を描いて教えてくれた。絵だとシンプル過ぎると思ったけどそのまんまなデザインなんだな。

「て、このままだと町に落ちる!？」

「心配ない。既に動いてる」

あ、ブローリーのお姉さんが上空で宇宙船を二つとも殴った。そういえば神様から人命の被害は抑えてくれたって頼まれてたな。綺麗に同じ方向に殴り飛ばされて、船は町から離れた所に勢い良く盛大に落ちた。

殴られた所がベコツて半分ぐらい潰れてる。

あれ、中身が死んでない？

「い、いくぞみんな！気はまだ感じる！」

確かに感じる。生きてる。そりゃサイヤ人があれで死ぬとか無いよな！安堵した様な気持ちになりながら俺達は落ちた所に移動した。

「く、くそお誰だ。いきなりハデな事をかましやがった奴は！」

「……」

中から出てきてる。あれがサイヤ人か。

くそ、見るからに強そうだ。

「行くぞみんな!!皆で半年前のリベンジをするんだ。この半年の修行の成果を見せてやるんだ！」

やる気だけでも悟空が来る前に片付ける意気込みでいく！

「……クリリン、おみゃーはバカか」

え？逃げてると自然と思っていたヤジロベエが居て頭を抱えてた。え、なにか不味かったのか……あ

「おお！サイヤ人どもに俺達の半年前にあった事への仕返しと！地獄の特訓の血の涙の怨みを……晴らさせて……半年前の？……うぐえあ」

「俺は死んでも構わない。むしろ死にたい！半年前の忌まわしい記憶が消えるなら！」
「そうだね天さん、ボクも一緒に逝くよ」

「……あああああああ」

「ピッコロさん！」

し、しまった。半年前の記憶を思い出させてしまった！あの仕打ちを受けてない俺とヤジロベエ、悟飯しか無事な奴が居ない。あと元凶含めたサイヤ人三人。

「いったい、どうしたというんだ」

元凶がなにかほざいてた。

「な、なあ、べ、ベジータ……コイツら大丈夫なのか？」

「……俺達が心配する事じゃないだろナツパ」

ドラゴンボール5

私、パラガスが家族と共に惑星ベジータから旅立ってから幾年か。今でも思い出す。惑星ベジータを離れることになったあの日は……本当に驚きの連続だったな。

その日、私は異様な戦闘力を示した息子のブローリーの抹殺を王がするつもりだと言う話を聞き、ベジータ王に息子の抹殺の取り止めを願う直訴をしに行ったのだ。

あの時、助けに向かった理由は息子の強さに期待して下克上を狙えるという野心だ。野心なんだと思うが……あのベジータ王に直訴しに行くのは自殺に近い。野心だけでなく、ほんの少しは息子を助けたい何て言うサイヤ人に相応しくない愛情も有ったのかも。しれない。

当時の私は王に息子の助命を直訴しに護衛に止められながらも強行にベジータ王の居る王座に突入し、其処には予想外の先客が居た。

娘だ。

娘がベジータ王を蹴倒していた。

それは驚いたよ。何故なら当時の私は娘を可愛いだけの普通の娘だと思っていたのだから。

息子と違い。産まれた時の戦闘力は平均値、大きくなり何度か戦場に出たこともあるが目だった戦歴もない。戦闘力も平均より低い、侵略にも積極的な様子もない。後方勤務の方に回せないか検討した程だ。なのにまさか、そんな娘が最強の王を蹴倒してるとか誰が予想できよう。

思い出せば、娘が産まれた時にプロリー並みの戦闘力が出て、測定値の故障だと聞いていた。測定器の故障ではない。なら低い戦闘力は何だ。あとからしつた事だが娘は戦闘力を隠せる技能が生まれつきにあったそうだ。私もヤードラットで学んだ難しい技術だ。

娘も息子に並んで天才なんて言葉も生温い。

当時の娘の本当の戦闘力は何れ程かわからないが、少なくともサイヤ人で最強だった筈のベジータ王を圧倒できる強さがあった。あの日、娘は隠していた力を出し並みいる精鋭をモノともせず、王を倒していたのだ間違いない。

当時の娘は今よりも小さな幼女だ。幼女に蹂躪され踏まれる最強のベジータ王、その光景に私の中の何かが壊されてしまった。

娘はベジータ王を倒した。

文句のつけようもなく正面から倒した。

娘がその意思を見せれば新たなサイヤ人の王にもなれた。

篡奪？違う。我々が戦闘民族サイヤ人である事を考えれば、王を圧倒して倒した瞬間に娘が王位を継承したと考えてもいいだろう。仮にベジータ王が王権の移乗を拒否したとしてサイヤ人の誰が弱い王に着いていく？

しかし娘はそんな王の地位を無価値と断ずる様に、ベジータ王を脅迫しサイヤ人としての記録も消し惑星ベジータから消える事にしたのだ。

私は拒否するなんて想像もしてなかった。なのに娘は王位などに欠片の興味も示さなかった。戦闘力を隠していたことといい。地位に娘はなんの価値も感じてなかったんだろうな。それだからこそ王位に価値があると信じていたベジータ王が狼狽え、ベジータ王の息子を娘の婿にしようとする姿は憐れだったよ。

本当に憐れなモノだった。

あの王は異様に高い戦闘力が有るという理由で息子のブロリーを抹殺しようとした。

サイヤ人にとって厄災に成るなんて言っていたが、本当なのか怪しいな。

我々サイヤ人はフリーザの強さに負けて軍門に下っている。フリーザの軍門から抜けるのにフリーザを越える強さが要だ。ベジータ王の息子は強いらしいが到底フリーザに届くようなレベルでもない。ブロリーの様な規格外でもないフリーザを倒す希望になり得ない。厄災？もしブロリーがフリーザを倒してもベジータ王の王としての地位が無くなるのが困るだろう。

息子を殺そうとしたベジータ王はフリーザを倒すことよりも、自分の地位を選んだとしか思えない。なんともサイヤ人の王として情けない。情けなさ過ぎて泣けてくる。

そんな王の元で最強の戦闘民族サイヤ人として戦ってきたと思うと虚しくなり、私は娘に誘われ息子と共にベジータ星を去る事になっても未練は持てなかった。

それから、今までの生き方を捨てるのにも未練は無かったが、生まれてからずっとサイヤ人として生きてきて、これからどうするか考えることも出来なかった。だから娘の出す方針に従った。ベジータ星から出てからは娘の方針で賞金稼ぎとなり、賞金を稼ぎながら旨い飯の星を探して気儘に旅をしながら暮らすようになった。

賞金稼ぎになると教えられたのはベジータ星を出た直後、元から考えていたとしか思

えない。恐らく息子の事は関係なく、元から娘はこう言う生活をする計画を立てていたのだろう。

娘の言いなりになってる様で親として思うところは有るが、方針自体には文句はなかった。誰にも指示されず家族と自由に暮らす日々。むしろこの生活こそがサイヤ人の有るべき姿だと思えるほど前より充実した暮らしをしていると思え。新しい生き方に満足した。

あの時にベジータ星を去ってよかった

風の噂で惑星ベジータごと隕石でサイヤ人が滅んだと聞いて、そして娘の推測を聞いて、余計にそう思えた。

推測通りならサイヤ人はフリーザに利用され尽くして捨てられた。もう一つの可能性ならベジータ王が反乱をして返り討ち。どちらにしても……サイヤ人にとってブローリーは生き残る最後のチャンスだった様に思えるな。あの王がチャンスを切り捨ててサイヤ人は滅んだ。

ただベジータ王のブローリーが厄災になると言う発言は的外れでもないかと思う。我が息子のブローリーだが、驚異的な潜在能力の成長は止まることなく戦闘力は上昇してい

く。

特に金髪に変化した時の戦闘力は恐ろしい。普段の大人しさが嘘のように暴力的となり、息子は伝説の超サイヤ人じゃないかと疑った時もあるが…それなら姉の方も伝説の超サイヤ人になる。

驚異的に強すぎる息子より娘の方が強い。強いが予想では恐らく2人の才能は同等、年齢で姉の方が強い。

正直、少しだけ、娘や息子の力を活用すればフリーザすら平伏する宇宙の覇者になれると思っただけ、ということもある。

しかし、すぐにバカらしいと思っただよ。

宇宙の覇者になれるがしかしそれは俺の力ではない。仮に子供の力で宇宙の覇者になつてどうなるか。そんな手段で宇宙の覇者の地位に成つたとして意味があるか。…惑星ベジータを出る前の私なら利用して支配者を目指したかもな。

ベジータ王を思い出すとそんな気も失せる。惑星ベジータを出る前の惨めなベジータ王の姿は今でも覚えている。娘を利用して支配者なんて、娘を自分の中の息子の妻にしようとしたあのベジータ王と同類だろう。

今の生き方には不満はないが不安はある。ブロリーが大丈夫なのか心配だ。

ブロリーの驚異的な戦闘力はそれを上回る姉が居る限り問題ない。ある程度姉と遊べば満足する。心配なのは暴走癖や戦闘力でなく……ブロリーは成長していくごとに親の私から見て危険で恐ろしいと思うほどの、シスコンと化していくことだ。

俺がブロリーの世話を姉に任せすぎたのが悪かったのかもしれない。娘の教育の陰で（金髪になつて時以外の）ブロリーはサイヤ人と思えないほどに穏やかな性格となった。

そこは良いんだが、姉に懐きすぎだ。

大人になった後にも姉と一緒に寝ようとしたり、風呂で頭を洗ってもらおうとするのはダメだろう!? 何時間違いが起きないか心配になるのもしかたない! 幸い娘が子供の姿で成長が止まっててそう言う事はしないと、ギリギリ大丈夫だと思おうとした。

だから娘が……ナメック星人の願いを叶える不思議な球を使つて成長するとか言い出した時は少し不味くないかとおもう。まあ初めは願いを叶えるとかお伽噺だろうと思つていた。ナメック星に願いを叶える不思議な球が本当にありそうだとわかつた時には焦つた。

娘が成長してブロリーと娘の関係がどうなるのか。娘は弟としか見てないがブロリーはどうか。

ブロリーが娘の願いを無効化する願いを叶えて何とかなつたと、喜んだんだが、喜ん

だら娘に理不尽に殴られたんだが………：良く良く考えるとブロリーが、何でそんな願いを？まさか娘が小さい方が危険なのか？

娘は大きくなるという願いを叶える為に、別のドラゴンボールのある地球という星に行くことになったんだが、その前に面白い技を使うという噂を聞いたヤードラット星人の所に寄り道をする事になる。当初予定してたが珍しくブロリーが強く行くと主張した。足止め目的としか思えなくて嫌な汗が流れた。

それから日数をかけてヤードラッドで技を学んでから出て地球に辿り着いた。不幸な行き違いで地球の守護戦士たちと戦闘となるも、私の紳士な対応で御互いに負傷者なく相手の誤解をとくことに成功した。

それから誤解された理由を聞かされたんだが、サイヤ人の生き残りが攻めてくるとはなんとという偶然か

サイヤ人の生き残りね。

私の娘の様に危機を察して逃げたサイヤ人が居たのかな。まさかフリーザが許したのか？

そんなサイヤ人が地球に来る目的はなんだ。ああドラゴンボールか。生き残りのサイヤ人がドラゴンボールについてどこかで知ったのか。

「それは悟空が切っ掛けです。悟空を訊ねてきたサイヤ人の兄が居たんです」

「サイヤ人の兄、悟空とやらはサイヤ人なのか」

「アニキよ方はラディッツ、悟空はカカロットって呼ばれてたけどパラガスさんは知ってたりは」

「カカロットなんて知らないな……いや気のせいかも知れないが、何処かで聞いたことがあるような気もする。そのカカロット、悟空の年齢は幾つだ」

「えっと悟空の年齢は……」

「その年齢ならブロリーと同じぐらい。ちょうど惑星ベジータが滅びた時期だな。ベジータ星が滅びる前に地球に送られたのか」

「星が滅びる前って悟空って変な所で運が良いんだな」

滅びる直前に地球に送られたのか。フリーザはサイヤ人を始末してたと思うんだが……地球が辺境だから始末されなかったか？

「……」

ん？なんだ。なぜかブロリーが不機嫌そうな顔をしている。カカロットをブロリーが知ってるのか。カカロットと年は近いようだが……娘に聞こうとしたらブロリーが何故か止めてきた。

ドラゴンボール使用の許可は貰ったが、使うのは順番待ち、ドラゴンボール使用後は1年使えない。つまりドラゴンボールを使えるのは一年後。娘は不満そうだ。

ドラゴンボールを報酬に地球の神に雇われることになる。娘も息子も地球の食べ物に氣に入つたようである。特に反対はしなかった。

サイヤ人が来るまでの半年、食事の対価として修行で地球の戦士を強くする。

サイヤ人に勝つには生半可な修行では勝てない。なので修行は娘が考案したモノ、私も受けさせられたが……殺す気なんじゃないかと何時も思う。

娘が言うには大雑把に言えばサイヤ人は死にかけると強くなる。確かにそう言う性質がサイヤ人には有るのは納得できる。なら強くなるにはサイヤ人は死にかけた方がいい(○)だから特訓で死の淵に立てばいい(!?)

頭可笑しいんじゃないか。

娘はサイヤ人の事を脳筋とか良く言うが、お前が言うなと言いたい!!娘の特訓は脳筋の極地!とにかく肉体的にも精神的にも死にかけ寸前まで追い込んでいく!!

娘は崖っぷちギリギリを測って止める。ギリギリ過ぎて心臓が一旦止まったりするぐらい当たり前、心臓が再稼働してくれないと死ぬ。一步踏み外したら永眠な訓練を普通にやるなんてアホだろ。

私もサイヤ人だ。強くなれるなら地獄にも手を伸ばしてしまう。成果は絶大で私は相当につよくなった事は認めよう。

だが副作用みたいモノもあった。

私は戦闘時に少し精神のタガが解放されるみたいの特殊な戦闘をする時があり、地球の戦士との戦いみたいな事が：以前はこんな事は無かった。娘の特訓のせいとしか思えない。それで娘に怒られるのはちよつと理不尽でないか？

娘はサイヤ人の特訓をそのままやるつもりだ。別にサイヤ人の特性が無くても強くはなるだろう。ただそれには修行を遂行できればだ。

何人が脱落すると思つたが、まさか全員こなしたのは素直に驚いた。彼等の根性はすごい。彼等には仙豆という骨がバラバラになつても回復する回復薬があるが、治るとしても痛いものは痛いだろうによくやる。

神が言う何かを忘れるために必死に頑張つてると、やってくるサイヤ人への不安か。脅しすぎたかな。

彼等はよく頑張つた。

たつた半年で戦闘力を何倍にもあげていた。

半年後にはよく修行を完遂したと私は年甲斐もなく感涙してしまった。これならサ

イヤ人が来ても何とかかなると思いたい……全員合わせても私より弱い。

娘や息子に届かないのは当然として、私に勝てないレベルのクリリン君達は勝てるだろうか。私も娘の修行で強くなり其れなりに強いという自負はあるが……やってくるサイヤ人が私以上の可能性もある。

クリリン君達もサイヤ人に勝てない可能性は考えてるようだが、それでもクリリンくん達は自分達が先に戦うと約束させられた。

我々に後を任せると言ってな。

悪いが……もしもクリリンくんたちよりも強いサイヤ人なら約束を破ってでも助けようと思う。約束を破るのか？約束を破る人間と思われる？ふん、そんなもの弟子の生存と比べたらどうってことないわ！……まああんまり強すぎたら戦うのは娘に頼むんだがね。

そうして地球に特徴的なポッドがやってきた。一人用のポッドだ。何故か。あのポッドを見ると無性に怖いんだがどうしてだ？

感じる気は二つともクリリンくんたちでも何とかかなるレベル……力を隠してる可能性があるか。

街中に落ちようとする二つのポッドを娘が荒野まで殴り飛ばす。もし任せる約束と
か無ければ地球に来る前に宇宙空間でポッドごと中身を消し飛ばしてたな。

誰もいない荒野に落ちたポッド

ポッドから出てきたのは本当にサイヤ人だ。あの尻尾は間違いない。本当に生き残り
が居たのか。フリーザ軍で使っていた戦闘服を着てるな。

あの髪型どういうことだ。

まさか…いや、そんな訳が…

「ふん、中々面白い歓迎をしてくれるじゃないか」

ポッドから出てきたのは、ハゲの大男は…それしてもう片方、特徴的な頭髮…

「ベジータ、どうやら待ち構えられてたみたいだな」

「ベジータだと！まさかお前はベジータ王の血を引くベジータ王子なのか！」

「え、王子?!」

「ほう、オレを知っているのか。そうだオレはベジータ王の血を引くベジータさまだ。

お前は何者だ」

ほ、本当にベジータ王子だと……髪型と顔立ちは否定できない程に似ている。しかし
…戦闘力はそんなに感じないな。ブロリーや娘は仕方ないとしても、気が私よりも……

な、
なんで普通に負けてるんだあの王子……。

ドラゴンボール6

地球にやってきたサイヤ人は、ハゲの大男とベジータ王子、地球の戦士に倒されて気の縄で簀巻きにされていた。なんで拘束してるんだ？

オヤジは唾然としてる。

「ど、どういふことだ」

頭を抱えてるオヤジ。

オヤジは良いとして弟は終わってから来た孫悟空を見てる。元から蘇生するとは聞いていたが、孫悟空はドラゴンボールで今日蘇ったのか。ドラゴンボールは今日使った。ドラゴンボール使うと一年間使用不能と聞いていた。…半年前に私が使えるの一年後って言ってたような。

「オラ急いで来たのに全部終わってるんか。皆が無事だったのは良かったけど……ええ」

孫悟空が肩を落としていた。今回の為にあの世で修行とかしてるとかクリリン達か言ってたな。……死後の世界のあの世があつて修行もできるのか、地球にきて初めて聞

くことが沢山あるな。

それにしても孫悟空のあの髪型と顔、何処かで見たとような。サイヤ人……惑星ベジータにいたときに親でも見たことあるのか？ベジータ王と王子みたいに髪型が遺伝してる相手とか……あの髪型は……こう、喉元まで出てるのに思い出せない。それなりに有名なサイヤ人で……

「は、はは……拍子抜けしたって感じか悟空……俺達も悟空の気持ちよくわかるよ」

「なんでだよ。クリリン達は戦ったんだろ」

「……え、まあ……戦った……戦ったんだけどな……」

「なんなんだよ。もしかして弱かったんか」

「弱くはなかったぞ。強かった。苦戦するぐらいに強かった。強かったんだけど……勝ち目が無いぐらい強いと思ってたから……」

「実は俺……悟空が来るまで時間稼ぎ出来るかどうかでぐらいの差がサイヤ人相手にはあるんだと思ってた」

「俺もヤムチャさんと同じ様な気持ちでしたよ」

「……………そうだ。思い出せば……ラディツのヤロウがいた……………ラディツのレベルから考えたらこの二人のサイヤ人の強さぐらいでも……」

「ピッコロさん……」

激闘を予想して肩透かしを食らった？

特訓が無駄になったみたいな感覚かな。

「……なあさつきから見てるけどオラに何か用でもあるんか」

弟はどうしたんだ。

なんでそんなに孫悟空を睨んでるんだ。

「……カカロット」

うん？ああ孫悟空のサイヤ人としての名前か。

「カカロットってラディツの言ってた……おめえもサイヤ人か」

「悟空敵じゃないからな。ブロリーはサイヤ人だけど俺たちを鍛えてくれた側だから」

「それって半年前に界王様が言ってた……ヘーークリリン達を鍛えてくれたんかー。クリリン達スゲー強くなってるよな。どんな修行やったんだ」

修行に興味津々な様子だな。

「……孫悟空……その髪型に顔は……」

オヤジは何か思い出したみたいな反応をしてるな。髪に顔か……どこかで見たような気がする。

「オッチャンもオラの事を知ってるんか」

「オッチャンではない。パラガスだ。……お前を知ってる訳ではないが……お前はパー

ダックの倅か？」

「倅っていうと、父ちゃんってことか。父ちゃんの名前なんてオラ知らないぞ」

「そうなのか。うーむ、そうだ。思い出した！バーダックの子供がカカロットという名だったはずだ！」

「カカロット…オラが呼ばれてた名前だ。ならバーダックてのがオラの父ちゃんなのか」

「悟空のオヤジさんってパラガスさんの知り合いだったのか」

「何度か顔を見たことが有るぐらいで知り合いでもない。バーダックは下級戦士なのに高い戦闘力をもったサイヤ人として惑星ベジータで其なりに有名だったから覚えていた」

バーダックの名前は聞いた覚えがあるな。

「はー悟空、お前の父さん凄かったみたいだな」

「オラの父ちゃんがバーダックって人か…：ブロリーが見てくると何か関係あんの？」

「…そうだ。色々話を聞くバーダックの倅のカカロットと息子のブロリーが保育器で隣り合わせだったのに驚いた事があったな」

保育器？

「へ、そうなの!?悟空とブロリーが赤ん坊の頃に隣同士だった事があるのか」

「オラ全く覚えてねえ。それが今オラが睨まれてる理由なんか」

「ブロリーとの接点と言えば其れぐらいしか無いと思うが、ブロリーどうなんだ?」

「……」

弟は無言、答えたくないみたいだ。

しかし間違ってるなら否定するだろうし正解か。

「悟空……お前寝相悪いからなあ。寝てるるときとかに隣のブロリーさんになにかしたんじゃないか」

寝てる時?

……寝てる時……

「ひでーなクリリン。オラそんな寝相悪くねーよ」

「うそつけ!昔、武天老師さまの所で一緒に修行してた時に寝てるお前に何度も蹴られたぞ」

「え、そうだったんか?わりーな」

保育器。寝てる時……初めて弟と会ったときで、確か……あの時弟が泣いてて、弟を泣かしたのは……ツンツン頭の……戦闘力二の子供に泣かされると笑われてた

…弟を泣かしていた戦闘力2の赤ん坊か

空気が凍ったってこう言う時に言うんだろうな。サイヤ人って言う驚異がアツサリ片付いて安心だと思っただけに!!

お姉さんの一言に皆が固まってる。

あの悟空さえ

い、威圧感が、ブロリー……悟空睨んでた理由は赤ん坊頃に泣かされたから。なんで今でも覚えてるんだ！恨み深いとかそんなレベルで済むのか!?

ブロリーは基本的には穏やかだけど切っ掛けがあつたら一番ヤバイ。

一目で判るほどブロリーはお姉さんが大好きってタイプだ。そのブロリーがよりによって赤ん坊の頃とはいえ泣かされてる所をお姉さんに見られてたのかよ!

や、ヤバイ。気がドンドンと高まってる。サイヤ人と戦えるぐらい強くなった俺達
が、心底から震えてくる！地球を壊せそうなパワーを感じる。折角サイヤ人に圧勝した

のに、ち、地球の終わりが悟空が泣かせたせいなんて事はないよな!?

お姉さんがブロリーを見て首を傾げた。

ブロリーにどうしたんだって聞いた。

「……………な…なんでもない……………」

ヒューンって感じで気が消えてく。

ああそうか。泣かされたことを思い出して怒ってるなんてお姉さんに言えないか。簡単におさまったけど……………これお姉さんが居ない所で悟空と会ってたら大惨事になってたよ!!

「ふう…すまなかつた」

俺達に謝ってくれた。

平常通りに戻ってる。

もう暴れるとかないよな。

「はー!お、オメエースゲーな!ブロリーって言うんだったか。とんでもなくデケー気を持つてんだな!」

「は、悟空」

お前よくあんなデカイ気で敵意向けられて嬉しそうにできるな。俺なんて敵意を向けられてないのに、地球ごと終わりだって腰が抜け掛けたのに。

ブロリーの方は無視してるみたいだ。

お姉さんの前で格好悪いからか怒ったりはしてないけど、悟空が嫌いでは有るんだろうな。まあ今の状態ぐらいなら悟空の性格と此れまでの事を考えると、その内仲良くなってるのか？ほっといても大丈夫かな。：何とか成らなかつたらどうしょ。

「ブロリーは別格だけだよ、みんなからもスゲー気を感じたぞ！オラも界王様の所で修行してうんと強くなったのに、皆はそれ以上に強くなってるみたいだし悔しいなあ。どんな修行を受けたんだ！」

どんな修行？

「修行じゃねえ。拷問を受けたんだぎや……」

ヤジロベエの心底からはいたばい言葉に全員が頷いた。ブロリーとパラガスさんまで頷いてる……後ろ二人はやった側だろうが!!

「拷問みたいに厳しい修行ってことか？……でも強くなれるんだろー」
強くなるって所だけ見るな！

「悟空、止めとけ！ピッコロでももう世界征服とかどうでもいい。いつそ一思いに殺してくれって言うぐらいなんだぞ!!」

「クリリーーン!!!お前!!それを言うな!」

「ええマジか。あのピッコロがそんなことを言ったんか!? 本気で厳しそうだな。想像しただけでもこえーぞ………だけでもよ、それだけ厳しいから強くなれたんだろ……」

「おい! 悟空!! 余計興味津々って顔をするなよ!! お前! せっかく生き返ったのにまた死ぬぞ!!」

「大袈裟じゃねーか。皆もその修行受けてるのに生きてるだろ」

「悟空、生きてるけど、マジで死の縁ギリギリに立たされるぞ? 俺達、生きてるの不思議だからな?。もう一度受けたら死ぬと思うからな?」

「……と言うか心臓止まるの恒例だし実質的に死んでないか?」

「少なくとも外見的には死体と区別つかない状態になつてたな皆」

皆が思い出して震えてる。

かくいう俺も震えてる。

流石に悟空の顔に冷や汗が。

けど修行への否定の言葉は出さないんだな! お前そう言うところだぞ!

一年前に悟空が死んでどれだけ悲しかったか。生き返つてどれだけ嬉しいか判るか? それなのに今度は能動的な自殺とか。

「おつかねえな。けどその修行やつたら強くなれるんだろクリリン?」

「そりゃとんでもなく強くなれるだろうけど……あくまで修行をして生きてやり遂げた

らだぞ」

もう二度とやりたくないって気持ちではいるんだよな。

「……おい、その修行とやらを俺にやらせろ」

「な、ベジータ！なにしてんだ！」

な！

「あ！お前らいつの間に脱出してたんだ！」

気の縄はそのままですら芋虫みたいになったまま移動したのか。その状態で逃げようとしてたなら……なんかパラガスさんがスongoイ悲しそうな目で見てる。

「何か言ったか」

あ、ピッコロ、いつの間にかサイヤ人の逃げてる方向に居る。逃げてるの気付いてたのか。

「もう一度いう。俺にもお前達がやった修行をやらせろ」

ピッコロの姿に一瞬ビビった顔をしたのにすぐに不敵な顔でそう言った。

「な、ないってんだベジータ」

ナツパとか呼ばれてたサイヤ人の台詞は俺達全員の台詞だな。

「貴様は黙っているナツパ、で、どうなんだ」

「バカか貴様……お前達は何をしに地球に来たのか覚えてないのか」

ピッコロが正論を言った。

俺達にダメージがあるだけでほかに被害もないし此処から始末つてのはアレだけど、それでもこの二人のサイヤ人は敵だ。俺達が弱ければ俺達は殺されてた。下手したら地球人皆も。

なんでそんな敵に修行を提供するとか思うんだ。逃げてたの自分でバラしてまで絶対受け入れられない提案するとか馬鹿か。仲間のハゲ男すらコイツ正気かみたいないな目で見てるぞ。

まさか同じサイヤ人のパラガスさん達を頼るつもりか。サイヤ人の王子さまらしいけど……パラガスさんとかやつちまえみたいに首をかつ切る仕事してるな。

「……よく聞け。俺を強くする事はお前達にとっても利益があることだ」

「は？どんな利益が有るってんだよ」

何も無いよな。

「その話をする前にだ……其処の奴がカカロットだな」

「オラは孫悟空だ」

「サイヤ人としての名前はカカロットなんだろ。お前はラディツにやられて一年前に死

んだはずだな。なのに生きている。前の通信で聞いてたがこの地球あると言う…何でも願いを叶えるドラゴンボールとやらで本当に生き返ったのか？」

ドラゴンボールの所でなんで声をデカくしたんだ。

「そうだけど、それがどうしたんだ」

「なるほど、なるほど、半信半疑だったけど、ドラゴンボールか。まさかお伽噺の類いと思っていたナメック星人の作るどんな願いも叶える玉の話が本当だとはな。こんな辺境の地球にまさかそんなお宝が有るとは予想外だ」

コイツ、ベジータの話し方、なにか変じやないか。

「だからそれがどうしたって言うんだよ！地球にドラゴンボールが有るからって何なんだよ！」

「ふふふは…ふはははは！」

「何を笑ってやがる」

「いやなに…願いを叶える玉がこの地球にある事を認めてしまったな」

なんだベジータのしてやったりみたいなのは。

「み、認めたからってどうしたってんだよ」

なにか嫌な感じがする。これ以上ベジータと話すべきじゃないって気がした。

「この俺の目にあるスカウターには戦闘力を測る機能があるのは知ってるな？」

「あ、ああ」

ラディッツが持ってたのをブルマさんが修理して使ってくれたから知ってる。

「それと比べたら大した事はないが、その他にも機能がある。それは相当に遠方まで届く通信機能だ」

通信って……遠方まで届いても通信先が居ないと意味ないだろ。ラディッツで奴が言ってた事を信じたらサイヤ人はもうコイツら以外に居ないって感じだし。

「ま、まさかベジータ！お前達はまだアイツの配下なのか!!!」

え、パラガスさんが慌てる。

アイツ、配下?……それで

「通信先にはコイツらの仲間か上司が居るのか!?!」

こんな侵略するような奴等の仲間や上司なんてろくな想像が出来ない!そんな奴等にドラゴンボールを知られた……

「(まだ?)その通りだ……聞いて恐れ戦くがいい。俺達の上司は宇宙の帝王のフリーザさまだ」

俺達は無言になった。

「……だれ?」

マジで誰だフリーザって。

なにか物々しい感じなのは判るけど。

皆もどんなリアクションしたら良いのか困ってる。

「ふ、ふん辺境の星だからこそその反応だな」

「ば、バカにしゃがって」

鼻で笑ったハゲサイヤ人にヤムチャさんが怒ってる。地球以外では有名なのか？恐れるとか言ってたし地球というピツコロ大魔王みたいな感じか？

「……………なんという」

「あ、あのパラガスさんはフリーザって奴を知ってるんですか」

「フリーザとは恐怖の権化として宇宙にその名を轟かせてる者だ。……多数の星から集められたエリート of 戦士達で構成された強大な軍隊、フリーザ軍があるのだが、サイヤ人はこのフリーザ軍の一部にしか過ぎなかった」

「サイヤ人が一部にしか過ぎない軍隊……もしかしてサイヤ人以上に強いやつも」

「ああフリーザ軍の幹部格は当時サイヤ人最強と名乗っていたベジータ王よりも強かった筈。そんな強大な軍隊を持つフリーザだが、さらにフリーザ個人の力も大きく宇宙最強と呼ばれる程だ」

「う、宇宙最強なんかフリーザちゆうやつは」

おい悟空なに目を輝かせてるんだよ!?

ど、どうすんだよ。そういうことだよな。これまでの話の流れ的に……

皆の視線がベジータに集まった。

「さあー問題だ。この通信機から地球にある何でも願いを叶えるドラゴンボールの存在を知ったフリーザはどうするかな?」

「……ドラゴンボールを求めて地球にくる」

「そうだ! 見たところお前たちは少数だ。どれだけ強かろうが多数のフリーザ軍相手にとっても地球全土は守れない。つまりはだ……地球を守るにはフリーザと戦う戦力が一人でも必要だろう。ああ先にいつておくがドラゴンボールを渡しただけで無事で済むなんて甘い話はないからな?」

なるほど修行を提案できる根拠はわかった。

けどな致命的な問題があるだろ……

「それお前等が此方の味方になる前提の話だよな?」

この場だけ誤魔化して後でフリーザがきたら裏切るよな。

「ふん、俺は態々この通信の事をバラしたのだぞ。フリーザからすれば事前に準備をされてドラゴンボールを取るのが面倒になることは確実だ。面倒を増やしたとして処分される。もつと言えば今現在俺が裏切り同然の台詞を言ってるのだからフリーザは裏

切りモノとして俺を許さないだろう。だから俺が取れる選択肢は1つだけだ」

「その選択肢が俺達の味方って事か……」

うーん、なんか信用できないんだよなあ。

皆半信半疑ほい

「……フリーザとやらはそんなに厳しいのか？」

天津飯が聞いた。

俺達はフリーザの事をまるで知らない。実際のフリーザがそんなに厳しい相手なのかわからない。コイツが嘘をついてる可能性もある。実際には厳しくなくて嘘も方便で助かるための嘘なら許してくれる寛容さがフリーザにあつたら

フリーザの事を知ってそうなパラガスさんを見てみる。

「ふむ、確実にそうだと断言も出来ないが、話に聞くフリーザの冷酷さを考えるとベジータの話も嘘とは言えない……」

パラガスさんが知ってるの噂ぐらいか……まあ侵略者の親玉が甘いつて可能性の方が少ないか。

「俺は生き残るにはフリーザに勝つしかない。そしてお前達もフリーザに勝つしかない。だから御互い生き残るために手を組むしかない。手を組むなら俺を修行で強くするのはお前達の利益になる。どうだ。納得したか？」

「確かにそうなのか？なーんか芋虫状態でドヤ顔でそういうベジータは物凄く腹立たしかった。だから皆、ブロリーから頭を持ち上げられたベジータを無言で見ている。」

チヨ、チヨツトマテ

ゴチャゴチャウルセーヨ！

ドラゴンボール7

「驚きましたね。お伽噺の類いと思っていりましたが、まさか願いを叶える球が実在したとは……ナメック星人の造り出したドラゴンボールでしたか………ナメック星人については」

「我が軍にありますナメック星人についての情報は此方になります」

「ご苦労様、ナメック星人の母星は滅んで移住した星は記録されてたんですね。移住先は資源もなく価値が低いと放置されてたと……よかった。ザーボンさんドリアさん出立の準備をしてください。なるべく急いでくださいね」

「は！早急に必要物資と燃料の積み込みをさせます」

「兵士はこの星で召集できる者達だけで良いのでしょうか」

「場合によっては人海戦術が必要となるかもしれませんが……この星で召集できる者達だけで良いですよ」

「でしたら問題が無ければ発進の準備は翌日にはできるかと」

「わかりました。ザーボンさん、ドドリアさん。準備が終わり次第ナメック星人の移住した星に出発しますのでそのつもりで」

「え」

「……そちらでよろしいのですか」

「聞き間違いではありませんよ。ドラゴンボールとやらがナメック星人が造るものなら、ナメック星人の居る星、ナメック星と呼びますね。ナメック星にもドラゴンボールが有ると思うんですよ」

「確かにある可能性は有ると思いますが、しかし地球とは違いあるという確証は……」
「距離的にナメック星より遠いですが確実にある方に行くのがよろしいんでは」

「本来ならナメック星より確実にある地球に行く方が良いのかも知れませんが……ですが素直にドラゴンボールを狙い地球に行くのはあの通信をわざとらしく聞かせてきたベジータさんの思惑に乗ることに成りますよね。それは癪にさわるのですよ」

「なるほど、それは確かに、ベジータの野郎の思い通りに動くってのは不快ですね」

「ですがフリーザさま、ナメック星のドラゴンボールを使うとしても、ドラゴンボールのある地球を放置するのは些か面倒では」

「わかっていますよ。ドラゴンボールの願いによつては私に迷惑が掛かるかも知れませんが。放置する気はありません。ドラゴンボールの事を抜きにもベジータさんへの

罰に、地球にいる他のサイヤ人も気になりますしね。ただ、地球に行くのはナメック星にドラゴンボールが有るかどうか確認してからにするつもりです。無ければ地球のドラゴンボールが必要ですね。そう言う事ですので初めはナメック星に向かって下さい」

「了解いたしました」

面倒な勢力がドラゴンボールを求めて地球に来る。

ベジータ王もどきの言葉を信じなくても、スカウターの通信機能を調べるとフリーザが判らないけど誰かに届いていたのは確認できた。遅かれ早かれ来ると思う。誰だろうと願いを叶えるドラゴンボールの事を知って放置するなんて事はまず考えられない。

フリーザが来るのかな？

元上司、フリーザは私たちサイヤ人の元上司でサイヤ人を嫌っていた。けど特に直接

関わる事も無かったし特に思うことはない。仮に惑星ベジータの事が私の想像通りとしても答えは変わらない。

「フリーザがくるか……どうするか」

正直、相手をしたくない。軍隊相手とか面倒臭い。仮にフリーザを倒しても残党が何をするか。復讐に狙ってくるとかありそう。

出来れば地球人側だけで何とかしてほしいが……昔見たフリーザの強さを考えると難しいか。昔のままな訳もない。フリーザもあの時より成長してるだろうし不可能かな。今の私とどちらが上かな。

フリーザ軍の情報は元フリーザ軍の規模は二人から可能な限りきいた。その情報に元はどうするか、クリリン達の知る中では地球でトツプクラスに頭の良いブルマという女性に相談するそうだ。相談には孫悟空とオヤジ、あと何故か私が入ることになった。

孫悟空はブルマに私たちを紹介する枠、オヤジは元フリーザ軍であり聞き出した情報を教える枠。では私はなんだ？

あーもう!!

「聞きたくなかったそんな話、てかなんで私に話したのよ」

「オラが知ってるなかだとブルマが一番頭が良いし」

ドラゴンボールで甦らせた孫くんがきた。サイヤ人相手に誰も犠牲に成らずに無事に勝ったって聞いて喜んでの!!次は星を侵略したりするフリーザってヤツが狙ってくるなんてふぎけないですよ!!

フリーザ軍の大体の規模を聞いた。

「結論を言うわ……結論としてそのフリーザって人にドラゴンボール使わせて帰って貰うしかないわね!」

「なにいつてんだよブルマ」

私の発言に孫くんが不満そうにしてる。たぶんフリーザの軍もレッドリボンみたいに倒せば良いとしか考えてない。なんでこういう話で孫くん寄越したの。クリリンくんとか比較的常識的な来なさいよ!

「あのね孫くん。相手が何なのかわかってる」

「レッドリボンみたいなかんじだろ」

やっぱりか!

「幾つも星を侵略してるならレッドリボンなんて比べ物に成らないわよ!!地球の戦力を全部集めても相手にもならないわ!だからドラゴンボールを渡して見逃して貰うしかないの!わかった!」

ドラゴンボールは惜しいけど勝てない相手と戦って負ける方が絶対に良くないわ

「ブルマ、それ無理じゃねえかな。ベジータってヤツも言っただけどドラゴンボールを渡してもフリーザが地球を見逃してくれないって」

「…ソイツの言っただの嘘で…見逃してくれるかもしれないじゃない」

「星の侵略してる悪いヤツが地球を見逃してくれると思うんか?」

「ぐぬぬ、孫くんの癖に真つ当な正論を」

戦うしか無いの……

「ねえ戦いを避ける手段とかないの?えーと、ほら、何処かの星がフリーザに見逃されたとか、そう言う前例みたいなパラガスさんは聞いたこと無い?」

「聞いたことは無いな。フリーザ相手だと平和な話し合いが通じる可能性はゼロと思っただ方がいい。戦闘を避ける道は…戦闘が始まる前に降伏して配下か奴隷になるか。よほどにフリーザにとって見逃した方が利益があるか…」

どれも地球には無理ね。

「……あーもう、それなら戦うしか道が無いじゃない」

「やっぱフリーザが来るまでにウンと修行して強くなって返り討ちにするしかねーよな！」

「なんで嬉しそーなのよ孫くんのバカ！」

はあ…頂垂れて私の目にウトウトと眠りそうになってる女の子が視界に入る。孫くんとパラガスさんと一緒に来た娘なんだけど一言も話してないわね。

地球存亡の話に寝かけるとか神経図太いわね。無関係だからよね。はああ…なんか腹が立つ前に気が抜けてくるわ。

「……」

あの娘、最初に見たときから思ってたけど、女の子なのに、それも素材もソコソコ良さそうなのになんでジャージ……………着替えさせがいがありそうね。

「どーどうした突然」

突然、あの娘がハッと顔をあげてキョロキョロしていた。もしかして見られたのに気付いた。

『悟空、界王だ。朗報かもしれないぞ、どうやらフリーザは地球に向かってないようだ』

「え？界王様どういうことだ。フリーザが来ないって」

孫くんどうしたの。

『お前達とフリーザの戦いが起きたら宇宙の一大事だ。界王として放置する訳にいな

い。だからフリーザの動向を調べてみたんじゃよ。そしたらフリーザは地球とは違う星に向かっているのがわかったのだ」

「ええ、そうなんか」

「だからどうしたの孫くん？上を見上げて」

「界王様っていうオラを鍛えてくれた神様の声が聞こえてな。フリーザは地球に向かって無いつて教えてくれたんだ」

「え、そうなの！」

良い方に考えたなら、もしかしてフリーザはドラゴンボールに興味がないってこと？悪い方に考えたなら用事が有るだけで後から地球に来るつもりなのかもね。

「界王が何者か知らんが……ドラゴンボールの事を知って、フリーザが地球に向かつて無いだとか……ドラゴンボールの報告を受けていない……それかドラゴンボールを求めてないのか……までよ……ドラゴンボールがナメック星人由来という事も知ってるはずか？……まさか……孫悟空!!フリーザが向かった先は何処だと界王、様は言っている！」

パラガスさんが冷や汗を掻いてる。

「い、いったいどうしたのパラガスさん」

「地球に向かってくるよりも不味い事態かもしれない……」

「不味い事態……」

「界王様、まだ聞いてるか？聞いてるならフリーザちゆう奴が何処に向かってるか教えてくれよ」

『ん？何処につて……ちよつと待つてろ……えーと………んーと………あつた。地球で言うところだとポイントー座標×方面じゃな』

会話をしてるんだらうけど天井を見てる孫くんが幽霊とでも話してる様にみえるわね。

「ポイントー座標×方面だつてよ。パラガスのオッチャン」

なにそれ無茶苦茶遠い所にある座標ね。

「地球の座標だな……私の知る座標に直すと……な、なんてことだ。その座標の方面には……ナメック星がある。タイミング的に偶然とは考えられない！」

「どういうこと？ナメック星で、ナメック星人？ラディッツの言つた神様やピッコロの種族の居る星？そこに向かうのは地球に向かわれるより不味いの……あ、もしかしてドラゴンボールは向こうにもあるの!？」

ドラゴンボールはナメック星人の神様が作つたなら……

「ああその通りだ。ナメック星にドラゴンボールはある……フリーザのやつ、地球でなくナメック星のドラゴンボールを狙っているようだ。ドラゴンボールの由来から考えてナメック星人の居るナメック星ならドラゴンボールがあると判断したんだらう」

「それってつまり、ナメック星が地球の代わりに狙われてるんか!？」

孫くんが慌ててるけど…

「…けど、これで地球は助かったってこと? ナメック星のドラゴンボール使うなら地球のドラゴンボール求めないわよね?」

ナメック星の人達には悪いけどそう考えちゃうわよね。なんで首をふるの

「いや、むしろ危険が増してるよ。願いを叶えるドラゴンボールが有ると判った星をフリーザが放置する訳がない。ナメック星のドラゴンボールを確保できるなら、地球のドラゴンボールは必要ないと地球ごと破壊する可能性すら出てきた」

「む…むしろ状況が悪くなったってこと!？」

たしかにそれは地球に向かってくるより最悪ね。こ、こうなるとフリーザがナメック星に行くのは時間が稼げたと思うしかないわね

「よし、ナメック星にいこう!」

「ナメック星って、孫くん何を言ってるの」

『ご、悟空!』

「だってよ。ナメック星にフリーザが行くのは元を辿れば地球での事が原因だろ。だってら助けに行かぬーと悪いだろ」

今日の孫くん私の心に痛い正論を吐くわね。

「悪くないいな。ナメック星でフリーザを何とか出来れば地球を戦場にしないで済む。それに平均的な戦闘力が高いナメック星人との共闘も可能で戦力的にも良い」

「ほらパラガスのオッチャンもいい案だつて言ってるぞ」

「それに…フリーザの願いが不老不死等の可能性もある」

「フリーザつて化物みたいに強いんでしょ。放置したら化物が不死身の化物になってから地球に来るのね…」

複数の理由からナメック星に向かわないって選択肢がないわね。ナメック星に孫くん達を送らないと……

「…つて、待つて、物理的に無理じゃない!!」

「え、なにがだ」

「ナメック星に行くのがよ!!」

「宇宙船で行けないんか?」

「無理よ! ナメック星の距離! 座標的に少なくとも地球の最新のロケットでも辿り着くに数千年は軽くかかるのよ!」

「いい!! そんなに掛かるんか!」

流石に孫くんでも不可能つて判るわよね。

寿命で死ぬまえに食糧と燃料が尽きて終わるわ。私が宇宙船を開発したらもつと速

宇宙船を造れるとは思うけど……流石に天才の私でも1から開発すると時間が……なにかお手本になる宇宙船があれば行けるかも……

「いや其処は問題ない。我々の乗ってる宇宙船ならそれほどかからない。現にナメック星から地球にまで移動時間だけなら半月でついた」

「ほんとか！パラガスのおつちゃん！その宇宙船でオラをナメック星まで送ってくれねーか！」

数千年を一月未満で、そんな高性能な宇宙舟を持つてるの……ちよつと調べてみたいわね。

「元よりナメック星人には借りがあるから助けに行くつもりだ。ついでに乗せていってやるよ」

「よし！そんならパラガスのオツチャンの宇宙船でナメック星にまでー」

また孫くんが上を向いた。

また界王さま？

『ちよ、ちよつと待つて悟空！フリーザは下手に手をだすと不味い相手なんじゃ！フリーザを怒らせれば地球とナメック星だけでなく他の星さえ危険に晒されてしまう！』
「えー界王さま、それつてオラたちにフリーザに無抵抗にやられるつて言うんか。おら達が戦う気が無くても向こうが来るつもりみたいなんだぞ。それにパラガスのオツ

チャンが言つてたけど、フリーザが不老不死とか願つたらどうするだ。フリーザがそんなヤバイ奴なら不老不死になつた方が不味いだろ」

『…それは……むうう………仕方ない。悟空、フリーザと戦うのを止めはせんが、フリーザと戦うという事は多数の星の運命さえ左右する事だと忘れるな!』

「わかつた! 界王さま!」

「話は済んだようだな。では孫悟空、私は隠してある宇宙船を天界の方に移動させておこう。その他の準備の方は頼んだぞ」

パラガスさんサツサと出ていった。

孫くんに投げたわね

「準備任せるつて…何するんだ?」

「ナメック星に行くまでの食料とか水とか色々あるでしょ。それは私が用意しとくわ。孫くんがする事はフリーザの事とナメック星に行くことを皆に伝える事かしらね。どうせ皆も行くんだらうし」

「じゃあ先ずはクリリン達に伝えるてくる!」

孫くんも出ていった。て、しまった!! チチさんに生き返つた事とか先ず伝えるのが先つて言うの忘れてた。伝えないなんて事は無いでしょうけど孫くんなら後回しにするわよね…。

チチさん、死んだ孫くんが生き返ったのに孫くんはまた何処かに行こうとしてる。孫くんの奥さんは大変ね。

さて、私も準備を……あ

「……………」

パラガスさんの娘さんが居るんだけど。寝てるんだけど、どうするのこの子、話に参加せずに途中で寝てたんだけどなんで連れてきたの？

この娘は初めて孫くんに会った頃の私より少し下ぐらいの年齢かしらね。女の子の寝顔を間近で見ると……勿体ない。

素材は良いのに髪はボサボサで服も適当な感じね。素材は可愛いのに勿体ない。ちよつと肌の確認を——

「……………」

あ、起きた。

さ、触ろうとしたのに気付いたの。この子、サイヤ人なのよね。止めてくれる孫くん居ない。もしかして不味い？あ、暴れたりは……。

私を見て固まってる。周りを見て誰か居ないか探してる。多分パラガスさんを探してる。私に聞いたたりしないわね。孫くんと同じサイヤ人らしいのに随分と引つ込み思案ほいわね——。

孫くんが死んでからサイヤ人は危険だって話を聞いてたのに：襲いにきたサイヤ人とは別口らしいけど、ギャップで笑いが込み上げてくるわね。

うん、危険は無さそう。

この子を好き勝手でき：じゃない仲良くなれそうな気がする。そう思うと尚更素材が勿体ない外見をどうにかしたいわね。サイズ的には五年ぐらい前のが合いそう：まだ捨ててなかったわよね。

なんで警戒した様子を見せるのかしら。

ふふ女の子同士の子仲良くしましょう。

「ねえ、お着替えしてみない？」

「!？」

ドラゴンボール 8

「へー……予想より可愛くなつたわね」

なんで私は服を着替えさせられたんだ??

親父と孫悟空の知り合いの話し合いで、私には聞いても意味がない話し合いだから途中で寝て起きたら、親父も孫悟空も居なくなつていて初対面の地球人のブルマという女と残された。

服を着替えさせられた。

何で着替えさせられたんだ?

何なんだこの服は、ヒラヒラが無駄に沢山ついている。服の良し悪しなんて判らないが恥ずかしい気がする。肌が出るわけでもないが、成人してから着るには痛い感じの服だと前世の感覚が訴えている。

「私が小さい頃に送られたアニメ魔法少女の服なんだけど、私が思った通りその服は似

合ってるし貴女にあげるわ
いらぬ。

「遠慮しなくてもいいわよ」

遠慮じゃない。タダでもこんなの貰っても有り難くない。さつさと着替えたい。脱いだ私の服は？

「貴女の服は汚れてたから洗濯に出したわよ」

洗濯に出された。洗濯が終わるまでこの服で我慢するしかないか。他の服を探してブルマと居たくないがこの格好で外には出たくない。

「ねえその服を探してた時に見付けたんだけど、次はこの服とかどう」

ブルマという女に抱えられる。服の雑誌をみせられている。：他の地球人と違って戦闘力の差とか理解してるんだよね？

チャイム？

「あら誰か来たみたいね。誰かしら来客の予定なんてなかったけど、：あら、チチさんたちじゃない」

知り合いでも来たのか。

私を抱えたまま移動するな……

玄関まで移動して扉を開けると興奮した様子の女がいた。ほんの少し地球人にして

は気が高いか？

「ブルマさん!!」、ごはんちゃんはどうなってるだかブルマさんは知ってるか! さっき悟空さが宇宙に行くとか言ってるサツサと何処かに行っちゃっただも!」

悟飯と孫悟空の関係者か。

「孫くん、ちゃんとチチさんの所には行ったのね。ろくに説明してないみたいだけど」

「あ! その反応は知ってるんですね! や、ヤムチャさまや皆は無事なんですか!」

青い猫らしいのが宙に浮いてる。

地球風に言えば舞空術を使ってるのか？

「皆慌てるな。元気な悟空のあの様子なら特に犠牲もなくサイヤ人に勝ったんだろう。

…しかし…何か別の厄介ごとを抱えておる様子じゃった。ブルマはなにか知っておる

か…あとその娘は」

地球人の中では気が高めの老人だな。

なんで亀の甲羅を背負ってるんだ？

「はあ孫くん、全く説明してないの……しかたない私から説明するわ」

「うむ、それはありがたい。…先ずはブルマが抱えてる娘は誰か教えてくれんか」

この老人、私を警戒してるのか？

「か、可愛い娘だ」

豚がいる。豚肉……可愛いかな。まあこの服は可愛いな。

「あ、ウーロン、この娘にスケベな真似とかダメよ。変なことをしたら消し炭にされるわよ」

危険物扱いするわりに人形みたいな着せ替えを少し前にしていたな。いい加減に離せ

「は？何いつてるんだブルマ、変な冗談言うなよ。こんな可愛い娘がそんなこと出来るわけないだろ」

「ウーロン、冗談でもなくマジじやろう」

「は？」

「ワシの感覚が正常ならその娘……相当に強いのではないかな……」

「そうね。この子はサイヤ人らしいから恐ろしく強いとは思わよ」

「え」

顔を向けていた豚が後ろの方に下がっていった。恐ろしく強いつて認識なのに抱えてるのか。

「サイヤ人つて悟空を一回殺して地球に攻めてくるつて奴だよな!？」

警戒した目を向けられてるな。

「あー違うわよ。この子はサイヤ人んだけど別口なの。この娘の事も含めて説明する

わね」

「うむ頼む」

ブルマは話した。

私は敵のサイヤ人とは別口なサイヤ人で地球の味方なこと、敵のサイヤ人は倒したこと、サイヤ人より恐ろしい敵のフリーザについて、フリーザを倒しに此れからナメツク星に行くことを話した。

ナメツク星に行くことは私も初めて聞いた。

私が寝てる間にそんな話になってたのか。

「むうそんな事が…」

「ひえええ悟空たちとんでとないのと敵対するつもりなんだな」

「地球も狙われそうだし他人事じゃないわよ」

どうやら話を信じたようだ。

地球人の常識だと信じられないモノだと思ったが

「サイヤ人すら手下にし惑星を侵略する宇宙の帝王フリーザか。ピッコロ大魔王より遙かに凶悪な存在が宇宙には居るのだな……」

「それ!! 悟空はその恐ろしいフリーザの所に悟飯ちゃんも連れてく気じゃないだか! サイヤ人より恐ろしいフリーザを倒すのに悟飯ちゃんが今度は宇宙に行くだなんて…」

お：おら許さねえぞ!!」

関係者と思えば母親か。子供が危険な所に行くのに抗議する。子供を守ろうとする。此まで旅をしてきた常識だとこれが普通の親の反応だ。子供を戦地に送るのを当然としていたサイヤ人が可笑しい。改めて野蛮な所に産まれたなと思う。

そういえば子供を侵略に送る様にしたのはフリーザなのか。ベジータ王なのか。

「悟空たちはこれからナメック星の救援に向かうのだな……」

「ヤムチャさまもナメック星に行くんでしょうか」

「悟空さがナメック星に戦いに行くのはしかたねー。だとしてもだ！悟飯ちゃんまでまた戦いに行くとかダメだ！ただでさえこの一年、ピッコロの奴に誘拐されてたんだぞ！」

さつきから荒れてるな。

「あのチチさん、まだ悟飯くんが行くって誰もいつてませんよ」

「悟空さの事だから悟飯ちゃんもナメック星にまで連れていくに決まってる！それに悟飯ちゃんは優しい子だ。助けられるなら助けに向かいたいと思うはずだ！オラが止めにかねば！悟飯ちゃんが今居るのはどこだか！」

「えつと：たぶん神様の神殿だと思うわ。居なくても今は何処に居るのか聞けると思う」

神殿……この半年私が滞在していた所か。

「神様の神殿だな……其処にはどうやって行けばええだか！」

「……神様の神殿はカリン塔の上だと言うておったな。悟空やクリリンたちは武術家として見込まれて行けた。……ワシはカリン塔だけで神殿にはいけなかつたんじやよなあ……」

「爺さん愚痴を言うなよ」

「神様の神殿は空にあるの？なら飛行機で行くしかないわね」

「いや飛行機では無理だろう。神の住まわれる所だ。神に認められるほどの強い戦士以外は入れない筈じや」

「そうなの？」

あの神殿そんな機能があつたのか。

「なら私はいけないのけ!?!うわあああん!!このままだと悟飯ちゃんがまた連れてかれちゃう!!」

「ああチチさん泣かないでよ……あ、貴女なら神殿に行けるんじゃないの!!」
いきなり私に話を振ってきた。

「こ、この子ならいけるだか！」

「わからないけど、強い戦士を入れるならサイヤ人のこの娘もいけそうよね」

行けそうも何も…クリリン達に修行をつけるのに神殿には半年滞在していた。
「神殿に住んでいたの」

「ならお願いしますだ。悟飯ちゃんのいる所まで連れて行ってほしいだよ！」
別に行くのは構わないが揺らすの止めてほしい。

「……神殿に行けるのか」

老人も神殿に行きたそうだな。

ついでに神殿に行くか聞いた。

「あ、いや申し出はありがたいが神殿まで連れていくのは手間じやろう」

別に手間でもない。

一瞬で移動できるし

「一瞬?？」

はあ…サイヤ人の危機を安全に乗り換えられたと思えば、今度はフリーザか。

結局連れてきたけどサイヤ人、ベジータとナツパは信用して良いのかな。ヤムチャさんは何かしてきたら倒せば良いとか言ってる。…サイヤ人に楽に勝って調子に乗ってる感じがするな。次も勝てるか不安になってきた。

「あ、皆集まってるんなー！」

今後の方針とかブルマさんと相談するのを頼んだ悟空とパラガスさんが戻ってきた。
あの鬼師匠は？

可愛い少女の姿をしてる鬼は…？

置いてきたらしい。俺達が後が怖いと思つてると、悟空はブルマさん所で話し合った結果を話した。

「フリーザは地球じゃなくてナメック星に向かったのか…」

悟空が神様より偉い神様に聞いた話では…フリーザの奴はナメック星に向かって地球にこないそうだ。悪い事態だ。

どのみち地球には来る可能性が高いそう。しかもナメック星でドラゴンボールで願った後だと地球のドラゴンボールは邪魔で、地球を壊す可能性もでてくる。

ナメック星に悟空と一緒にフリーザ軍と戦いに行くかどうか。

「オレは行くぞ」

「俺もだ！そんな話を聞いて放置できるか！」

ピッコロ筆頭に行く気ヤル気も満々だ。ナメック星を救うって理由もあるけど、今度こそ地獄の修行の成果を見せてやるってな！

パラガスさんと鬼師匠とブロリーも、ナメック星人とは知り合いらしくて助けに行く

そうだ。つまり全員がナメック星にいこうとしてる。してただけど…

「けどよナメック星に全員で行ったら地球がヤバイんでねーか。フリーザってヤツが誰か地球に寄越すかもしれねえだろ」

ヤジロベーの意見、どうせヤジロベーは自分が残りたいから言ったんだろうけど…

「来るのは否定できないよな」

宇宙最強とか言われてる軍隊ならナメック星と地球を同時に攻めるぐらいできるよな。

「しかたない。誰か残るしかあるまい」

残留を決める真剣（ジャンケン）勝負。

地球には 二人だけ残す。

少ないけど本命はナメック星で地球には来るのかわからないし。ただでさえ軍隊相手に俺達だけで戦うのに保険に戦力を別けられない。

「よっしゃーやりー!!」

で、尋常なる勝負の結果、行くメンバーは悟空、ピッコロ、オレ、ヤジロベー、ヤムチャさん、天津飯、パラガスさん。

「なんでこう言うときに勝ってしまうんだぎゃ!!チャオズ変わってく……やっぱいいわ」

「ヤジロベー!?!」

残るのはチャオズ、ブロリー。

ヤジロベー、ブロリーを見て発言を撤回した。

残る二人が不安すぎる!!

「て、天さん」

天津飯目をそらすなよ。

…正直、敵より味方の方が危なそうだよな。

「あれは!」

空から来るのは宇宙船か?

まさかフリーザ軍がもうきたなんてことは!?

「俺達の宇宙船です」

「なんだ。あれパラガスさんの宇宙船か…」

デケーな。パラガスさん達の宇宙船か。デカイ宇宙船で神殿に着陸したパラガスさん。重量過多で神殿落ちないよな?

出てきたパラガスさん。

なにか気まづそうだな。

「どうしたんですか」

「あー…いや来る途中で気付いたんだがな」

あの鬼師匠には瞬間移動って技があるそうだ。

ナメック星からでも一瞬で戻れるそうだ。だから地球に敵が来たときに戻れば良いから宇宙船とかいらんのか。移動時間も一瞬。

悟空がそんな技あるんか！スゲーな！と騒いでる時にオレと皆はこう思った。

…やばくないか。

敵と戦うまで時間がある。地獄の特訓の追加がありそうだ。

あの修行のお陰で強くなれたのは間違いない。つ、強くなるのは嬉しいさ。けど、こう、一旦解放されると…またやるのには、か、覚悟が…持てない…弱ければ死ぬんだしやった方が良いとは思うんだけど…フリーザがナメック星に来る時期が判らないし、修行してる時に来たら不味いし、修行はしてる余裕ないよな！

「あ、界王様が言うにはフリーザ軍が到着するのは一ヶ月後だつてよ」

か、界王さまって神様より偉い神様か。ナメック星に到着するまでの大体の時間が判明した。チクショウ、よけいな事を教えるなよ。修行の時間が十分にある。どうしよう。もうみんなの顔色が悪いぞ。

そうだ!!

「悟空!!界王様の所でどんな修行をしてたんだ!!今度は界王さまのやってた修行をして

「みたいな!!」

「そ、そうだ!それがあつた!いや悟空是非教えてくれないか!」

界王さまの修行がああ地獄よりはきつとマシだと信じて聞いた。

「界王さまの修行は幾つかの技を教えて貰ったのと、界王様の居る星がな重力がうんと重いとこでな。体重が倍になって普通に動くだけでも修行になつたんだ」

「そんな修行してたの」

「ずつと重量装備を付けてるようなモノか?」

重力なら重りみたいに外して休む事が出来ない。休める時が無かつたんじゃないか。休み無しで一年か。悟空も辛い修行をしてたんだな。肉体的には俺達より鍛えられたのかもな。辛さでは俺達の方が辛かつたのは間違いないとは思うけどな。

「けど、それだと、その界王さまのいた星の重力が無いと悟空のやった修行は無理だな」

「ブルマだつたら重力を重くする機械を造れるんじゃないか」

「そうだな。ブルマならいけそうだ:~:なつてブルマ!?!」

悟空がブルマさんの名前を突然呼んだ。

突然気配が現れた。

気配がした方を見ると:~:ええ

「な、なにー!ど(ハ)ハ(ハ)!?!」

「む、むう!? 景色が一瞬で！」

「あ、ヤムチャさま」

「お母さん!?!」

「ご…悟飯ちゃん!!! ああ!!! 悟飯ちゃん!!」

「ブルマさん、チチさん、武天老師さま！」

「プーアル、ウーロンまでいるな」

皆が当然現れた。

良く見たら鬼師匠がいる。

つまりこれは

「おん…おねーさんの瞬間移動で皆を？」

「瞬間移動なんか…あれなんで服が変わってるんだ」

あの鬼師匠の着てる服が変わってるな。やたら可愛い。外見的には似合っていると
思うけど、なんだ。思わず目を逸らすような。見たらいけないモノを見たような感覚が
する。

「可愛いでしょ。昔私が着てたお古よ」

ブルマさんの仕業か!!ブルマさん勇気有るよな!

「……………」

ぶ、ブロリーさんよ。自分の姉をガン見するなよ！鼻息も荒い！シスコン！

「ブルマもじつちゃんとチチもなんでここに？」

「ワシはなり行きでな……一瞬で移動したのか？……こ、ここは神の神殿なのか……」

「何でつて！悟飯ちゃんを迎えにだ!!…悟空さ！ナメック星て所に行くんだよな！」

「あ、ああブルマに聞いたんか」

「そうだ！事情も聞いたし悟空さがナメック星に行くのは止めないだども…悟飯ちゃんまでナメック星に連れて行く気じゃないだろうな！」

「連れてくもなにも、悟飯が自分で……」

「あー！！やつぱり悟飯ちゃんをナメック星にまで連れてく気だったんだな！悟空さ！悟飯ちゃんは一年、一年ピッコロに連れてかれてたんだぞ！少しは夫として悟飯ちゃん的安全と将来の事を考えるだ！だいたい一年ぶりにあつたのにちよつと話してサヨナラつてどういうことだ!!オラがどれだけ悟空さが死んで心を痛めてたか知ってるだか!?!悟空さが死んで悟飯ちゃんもピッコロに連れてかれて……!!」

「す、すまねえチチ」

まあこれは完全に悟空が悪いな。

「さー悟飯ちゃん帰るぞー！」

「え……おかあさん」

チチさんと悟飯は家に帰るつもりみたいだ。

悟飯は躊躇ってる。引き止めるのは駄目だよな。悟飯は俺達と同等に戦える戦力だけど：五歳の子供なんだし。戦えるからって軍隊と戦う所に連れてけないよな…

悟空とかサイヤ人組みは悟飯を戦わせるのは駄目なのか？って顔をしてる。

ナメック星人と知り合いのパラガスさん家族はブルマさんと瞬間移動でナメック星へ。

残りの俺達は修行。

武天老子さまたちは見学

修行だけど：…なんて楽なんだ。鬼の教官が居ないから普通に修行するだけで済む。ああ普通の修行っていいな。武天老子さま何ですか。え、休め？なんで？

コイツらみんな頭が可笑しいんじゃないか？

サイヤ人の王子であるオレは真剣にそう思う。ラディッツの野郎、地球はヤバイ奴がこれだけいて何で気付かなかった！戦闘力が千以下の奴しか居ないなんて間違った情報送りやがって!!そのせいで俺のプライドはボロボロだ！あの野郎は死んでなければ八つ裂きにしてやれたのに!!

違うか。

信じ難いが…此処にいるコイツらは俺達が来るまでの一年の訓練で、ラディッツ程度に苦戦する戦闘力を俺達と戦えるまでに伸ばしたのか。この俺で一对一で互角、2対1なら負けるレベルにまで…いや悔しいがナメック星人だけは俺を上回っているか。

「おりゃあ!!」

「甘!!」

地獄の様な訓練とか言っていたが…大袈裟と言えない。まさにキチガイ染みた訓練。戦闘民族のオレがそう思うほどの訓練をアイツ等は平然と行っている。

「どー危ない!心臓に穴が空くところだった」

「あの攻撃 一歩間違えたら首がおれましたよ。流星に危ないですから気をつけてください」

「はは、すまない」

訓練で急所への攻撃をしてる。殺し掛けた攻撃をしてゴメンゴメンで軽く謝るだけで許されている。…殺すような攻撃をするのに…生温く仲良しな関係でやっている様に見えるのが…。

気持ち悪い違和感がある。狂気を見せられてるようで、ナツパと俺、サイヤ人二人が見てるだけで冷や汗を掻く。

この訓練をさせていたのはあのサイヤ人の三人…。一番強いと思えるナメック星人

の態度からして、あの三人は俺より強さが上回るナメック星人より強いと言うことだ。一体何者なんだ。

サイヤ人と名乗っていたが……生き残ってるサイヤ人はオレとナツパ、この前死にやがったラディッツ、そしてカカロットの奴だけだったハズだ。サイヤ人が予想外に生き残ってるのはまだいい……それよりも……サイヤ人の王子である俺を強さで上回るサイヤ人が何故いる！それも三人！

他二人はともかく、少なくともあのパラガスというオヤジだけは年齢から考えて惑星ベジータがあつた頃から居たサイヤ人だ。惑星ベジータの頃には今より弱くても、王子である俺を将来的にでも上回る強さがあるサイヤ人なら、惑星ベジータの頃から知ってる筈だ……なのに俺が知らない。どういうことだ。

どういうことでもない地獄の特訓とやらのお陰か。

盗み聞きをした内容では……地球人が強くなったのはパラガス達の施した特訓のせいだ。そこから考えて最下級戦士よりも弱い地球人程度が俺以上に強くなる特訓だ……俺ならどうなる？

王子であるこの俺様がその特訓を受ければ……それこそフリーザすら凌駕する可能性があるのではないか。あり得ない事ではあるまい。フリーザはドラゴンボールで不老不死に成らないとどうにも成らないと、余りのフリーザの強さにマトモに倒せる可能

性を捨てていたが……………

オレは逃げるチャンスをふいにし、地球を捲き込みフリーザと敵対するフリをした。フリーザと戦う、なら奴等は人手として俺達を鍛えなければいけない筈だと、オレは賭けに出た。

さてフリーザは動くかな。オレの通信をフリーザのヤツが確認していればフリでなく本当に敵対する。だがいい加減に我慢の限界に来ていたんだ賭けにでて後悔はない。奴等にとって俺は地球を襲ってきた敵だ。マトモに扱われるとは思えないが今は一時の屈辱として耐えれば良いと判断した。しかし!!そう判断した…

だがな!!

「これキチンと皮剥きをやれ」シヨリシヨリ

「うむ。これはお前達の夕食にもなるんだからな。しっかりとやるのだ」

「なんでおれたちが!!こんなことを!」

「罰も兼ねているのだからしっかりとやれ」

「ぐぬう」

俺とナツパ、この星の神に猫擬きは料理をさせられている!!あと掃除もな!

「……………」

地球人め!!王子であるこの俺に清掃や料理をやらせるなど……自分の所の星の神に料理をやらせてる奴等なら気にするわけがないか!クソが!

ボーコットなんて出来ない。恐らくこれは俺が信用できるかのテストだ。流石に襲ってきた相手を無条件に信じるわけがないか……。信用を得てからでもないの特訓も無理か

この屈辱を耐えた先に最強への道があると思えば我慢する事はできる。この俺様がフリーザの元で何年耐えたと思う!!

「ベジータ、ちゃんと皮剥きをしてくれよ」シヨリシヨリ

「……」

「遅すぎるのお。手抜きしてるのが見え見えだ」

うるさい猫擬きが!

「ベジータの奴は夕食抜きでもいいか?それとも特訓抜きか?」

クソツタレが!!コイツら俺が強くなったら覚えておけよ!だが今はまだ屈辱に耐える時期か!!強くなるためだ!野菜の皮剥きでもなんでも全力でやってやる!!くそが!

それから何日か過ぎた。

「ベジータ！ 生きの良い魚が捕れたぜ！」

ナツパの野郎……料理を楽しむようにするようになりやがって、美味しいと言われて嬉しそうにするな！

「やっぱナツパの料理は大味だけど美味しいな。こっちはベジータの作ったのか……なんか微妙だな」

「へへ、そ、そうか」

な、俺の料理よりナツパの料理の方が美味いだと。くそが、くそが。俺がナツパ程度に負けてたまるか！

これならどうだ!!

「これ美味しいぞベジータ！」

「……ふん、このベジータさまが作った料理だ。美味しいのは当然だ！」

たかが料理だが勝つのはやはりこのベジータさまだ!!

「このベジータ様（お料理）力を見せてやる！」

「秘伝の料理本だと……!! ぞ、それを寄越せ！」

「おい亀仙人にカリン！ 食材をとりに行くぞ！」

「ナツパ！ 塩の量が多いぞ！」

今日の料理はベジータさまのスペシャルカレー。良い匂いだ。味も良い。辛さはこ

んなモノでいいな。いや甘口も別口に作るか。

「おーいベジータ、飯はまだかー。オラ腹ペコだぞ」

「ええい！うるさいぞカカロット！少しは我慢しろ!!」

まったく。盛り付けて後は仕上げに七味を散らして…ラッキョウ。そして特製マヨネーズタツプリの海鮮サラダ。ふ、いい出来映えだ。

「なあベジータ……おまえ何か忘れてないか？」

「忘れてる？ナツパそれはなんだ……隠し味のハチミツはいれたぞ。何か忘れた材料でもあるなら早く言え」

もしかして甘口中辛だと物足りないから辛口も要るのか。

「いや、そうじゃなくてよ。……特訓」

「とつくん……特訓?!……は!!な、なんで俺はずっと真面目に料理してるんだ!」

それどころか屈辱だったのが、いつのまにか、た、楽しんで…いた、だと?そ、そんなバカな!!あり得ん!!お、おれはいつたい、どうしたと言うんだ。

「飯まだか。ナツパそんな呆れた顔をしてどうしたんだよ。おお!ベジータ出来てるじゃねーか。これはスゲーうまそーだ」

「当たり前だ。このベジータさまのスペシャルカレーだからな!」

「べ、べじータ」

ナツパなんだ…は!? 何故俺は誇らしげにしてるんだ。可笑しい。可笑しすぎる。

「うんめー、ベジータのカレーは最高だな!」

「ええい! こんな所で食うな!」

「だってベジータの飯はうめーから我慢できねーよ」

我満出来ないぐらい旨いか。

ふ、ふん、ま、まあ、よくわからん、しかし、帰ってくるまで真面目に料理するしかない。あくまで特訓を拒否されたら困るからだぞ。

さて食後のデザートの準備をするか。

ドラゴンボール9

地球に似てるけど違うわね。

「ここがナメック星……マジでここがナメック星なの？」

「うむ。間違いない」

本当に地球の宇宙船で数千年掛かる距離を一瞬で宇宙を移動したの？ あの娘の瞬間移動はどういう原理、SFにありそうなテレポートを生身でやってる感じかしら。

このナメック星でドラゴンボールを守る。

地球を護るためにもね

少し前、私はあのこの子の瞬間移動で空に浮かぶ神様の神殿に行った時、パラガスさんから頭脳面で宛にされた。まあ孫くん達に頭脳労働は無理だし協力することにした。

私の役目は頭脳担当。

軍師とか参謀みたいな立場よね。

食料とか物資の用意、あとは情報と話し合いが必要よね。戦場の場所はナメック星と一緒に戦う仲間になる予定のナメック星人。ナメック星に行かなきゃ駄目よね。

それで早速ナメック星に行くことになった。あの娘とパラガスさんと一緒にね。

地球で準備があるって言ったのに瞬間移動でナメック星まで一瞬で行き帰りできるとか言うから。正直、無理よねって気持ちで試したのに本当にナメック星に来たの？

地球のどつかじやないのとか思ってたけど、本当にナメック星にきたと信じた。ピッコロみたいな人達が沢山いるし!!

「パラガスではないか。地球に行ったのではないのか」

「ああ君たちに話すことがあってな」

「こ、この人達がナメック星人さん…」

ほんとナメック星人はピッコロみたいな人ばかりでビビるわ。パラガスさんから温和な一族とか聞いているけど…わりと怖い。

なんかあの娘が納得いってないみたいな顔をしていた。

「…この星をフリーザが狙ってるぞ？」

パラガスさんがナメック星のトップの最長老って人にフリーザが攻めてくる事を話した。最長老は大きい。

信じてくれるかどうか。地球だったらどうやって宇宙から宇宙人が攻めてくると

か信じて貰える気がしない。

「そう言えば最長老殿は記憶を見れるのだったな。記憶を見てもらった方が手っ取り早いでしょう」

「わかりました。少し記憶を読ませてもらいますね」

最長老はパラガスさんの頭に手を乗せられた。え、ちよ、記憶を読まれるのは…!!

「…フリーザは地球でドラゴンボールを知り、ナメック星人がドラゴンボールを造ったならナメック星にもあるとドラゴンを狙いに来るのですね」

か、隠したかった部分も知られてる!!

「これは早く皆にも知らせないといけませんね。ネイル」

「はい、直ぐに長老達を呼んできます」

み、皆に教えるの。最長老は責めてこなかったけど、これ原因って事で私たちが責められるわよね。

「なんとあのフリーザが！ドラゴンボールを！」

「噂に聞くフリーザの暴虐さが事実なら…ドラゴンボールのためなら我々を皆殺しにするかも」

最長老が話すとアツサリ信じてくれた。人望がある人なのね。あと結果的にナメック星が襲われるのは私達側のせいなんだけど、ナメック星の人達全く責めてきたりしな

かった。あ、ありがたいけどピッコロに似た外見で善良な人達ばかりで違和感が……!

「フリーザの様な邪悪にドラゴンボールを使わせるわけにはいきません。戦わないと！」

ナメック星を防衛するのに必要な戦力だけど、ナメック星人の人は皆が戦う気になつてくれた。

邪悪な相手にドラゴンボールを使わせるわけにはいかないから、試練もあるみたいだしナメック星人の人達はドラゴンボールを使う相手を選別してるのね……地球のドラゴンボール、これまで使ってきた私が思うのはなんだけど、集めたら善悪関係なく使える状態なの良いの？

皆が戦う気だけど、流石に老人とか子供とか戦えない人員は地球に撤退してもらおう事に。孫くんが住んでるパオズ山なら騒がれるとか無いわよね。仮設の家とかも用意する必要もあるし。避難するのはフリーザが来る直前ぐらいにして貰わないと

老人のナメック星人に戦えなくても困ぐらいいなれるとか言われても困る。困にする指示をする人の罪悪感とか考えなさいよ!

戦つてくれるナメック星人の人達だけど実力はスカウターで確認すると戦闘力数千、あのラディッツの倍。パラガスさんが居た頃のフリーザ軍の雑兵なら圧倒できるそう。

幹部格になるとナメック星人で最強のネイルって人なら対抗できるんだって。今のクリンくんたちはネイルさんより少し弱いぐらいらしい。

幹部の相手はネイルさんに孫くん達で、雑兵は他のナメック星人の人達に減らしてもらえば良いの？犠牲がでないように、勝てる相手と有利に戦える状況を造るのが私の役目になりそうね。

ナメック星の地図の作成、ナメック星の各所に通信設備とカメラの設置と、スカウターを改造したレーダーを造っておく。それとサイヤ人の使ってた装備の複製。

そんな開発をしている間、孫くん達はフリーザが来るまで残された日数で訓練。要望のあった重力室は。パパに造ってもらった。

あの娘がきた。なんでか私の近くに近付かないのに珍しい。

「孫くんが覚えた界王拳って技を覚えて、他の人にも教えて良いかどうか？」

ナメック星人の人達に教えたなら戦力が飛躍的に上がるかもだって。ただ問題があるから教えて良いのか頭脳担当の私に相談したいのね。

「界王拳は具体的にどんな技なの」

界王拳って言うのは何倍も戦闘力を上げる技らしい。技のことなんてよくわからなけれど物凄く便利な技ね。便利過ぎるからデメリットがありそうと思えるわ。技の内容を詳しく聞いてみた。

「バカじゃない」

界王拳を考えた人って（悪い意味で）アレね。車に二トロを入れて車体の事を考えずに無理矢理に加速させるみたいな事を生身でするみたいな狂気の技じゃない!! 筋肉にも骨にもダメージあるわよね。下手したら使った反動で筋肉は断裂して骨が折れたり血管破裂!…けど戦闘力が倍ってメリットは捨てるには惜しすぎる。

だから自由意思で覚えるかどうか決めてもらうことにしたら…。全員が覚えることにした。

「脳筋ばっかね…」

様子を見たらナメック星人の人の体が大変な事になってた。ナメック星人の回復能力だよりで、痛々しい姿を見せられる。クリリン君たちは無事だし…ナメック星人の人は無茶をやってるわよね

「はあ自分の星を守るためでも命を掛けすぎでしょ」

けど、お陰でナメック星人の人達は早々に界王拳を習得してた。戦闘力を確認しようとしてラディッツのスカウターで確認したらスカウターが壊れた。新型のスカウターを開発して戦闘力を確認した。

「ど、どうだろうか」

「…戦闘力が四桁になってるわね」

「以前は3000程度なのだよな。なら倍の強さになったのか!」

パラガスさんが言うにはこれでナメック星人の人も一時的なら幹部クラスにも通用するかもだつて。ネイルさんは五桁になつてゐる。これでもフリーザには勝てないそう。

「……うーん、フリーザ」

幾ら幹部を倒せてもフリーザに勝てなきや意味がないのよね。勝敗がどうなるかはフリーザに勝てるかどうか。最強の帝王つて話が太袈裟でないなら……孫くん達でも勝てるかどうか。何とかなるのかしら…

「まー私がそんな心配してもしかたないし、私は私でできることを頑張るしか無いわよね!」

ただストレスは溜まるから適度に発散したい。あの娘に今度は何を着せようかしら。

ブルマをナメック星に送つてあるから地球は平和だ。

「……生きて……るか」

「ああ、フリーザたちと、戦う前に……しんで、たまるか……」

「……コロス、フリーザ、コロス」

フリーザと戦うこととなって、クリリン達の修行内容を任された時から思ってるが、こんな修行で大丈夫なんだろうか。

「ちよーたんま…たん…がは!!ぐは!」

孫悟空を殴りながら思う。私は修行の方針としてとにかくギリギリの修行を提案して、ハードルを下げる形式の修行をするつもりでいた。辛すぎる修行よりはマシで楽に感じる方が体感的に楽になる。耐えきれなくなったらやさしめにするつもりだった。

なのに、ずっとギリギリの修行。特にナメック星人は回復能力があるから地球人組よりも無茶な修行になるが。それなのに耐えてるな…もしかして、ギリギリと思うのは間違いで、まだ足りないんだらうか。もつと厳しくても…

「!?!」

お、鬼から恐ろしい発言が聞こえた。

まだ足りないとか…

もうやめて俺達の体力は常にレッドラインだ。

フリーザ軍と戦うために重力室も追加された修行地獄。悟空も修行地獄の一員になった。

俺がぶっ倒れてる横にお姉さんの修行をしてた悟空も近くに倒れてる。悟空動かないな。

「悟空、気絶したのか。ん、心臓も止まってないか？」

胸が動いてない。心臓止まってるわ。

「お、おとうさーん!!」

チチさんを何とか説得して特訓に戻ってきた悟飯が叫んだ。なんで叫んで、ああ、あの鬼の修行とは流石に悟飯は無縁でいたのか。

はは大丈夫だよ心臓が止まるぐらい(○)

救助してくれるのが今は居るからな。

居てしまうからな。

「ご、悟飯さんど、どいてくださいー!」

「で、デンデ君おねがい!」

ナメック星人の子供が回復能力で悟空の心臓が再稼働させた。

「!？」

悟空が飛び起きた。

「お、お父さん大丈夫!？」

「は……は!?……悟飯にデンデ。ああ、お、オラ、しにかけてたんか……ほ………本当に、修行、

厳しい、な。へへへ」

悟空、お前なんで嬉しそうなんだ。

いや自分が強くなってるのが判るからだろうな。修行の場所に置かれたブルマさん製スカウターで判ったけど、俺達って地獄の修行であの悟空より強くなったけど、悟空に早々と巻き返しをされてる。

地球人には無いサイヤ人の特性のせいらしい。サイヤ人って死にかけてる程に強くなるらしいからこの、ギリギリで死にかけてる地獄の修行は最適らしい。

デンドとかナメック星人の回復能力持ちの人達の協力もえて……さらに命がギリギリ崖っぷちな修行になることになった今の修行はサイヤ人に最高だよな。流石サイヤ人式の修行だ……俺達はもうお腹一杯だ。

肉体は回復しても精神的にサイヤ人みたいな戦闘民族（脳筋）でないと耐えられない……。

強くなる前に心が死ぬ！逃げたい。心底逃げたい。けどあの悟空より一時的にも圧倒的に強くなるなんて、武道家として抗いがたい極上の体験をした後だ。強くなりたい……止めれない……まるでヤバイ薬みたいだ。

修行の毎日で頭から余計な考えを削ぎ落としていく。そして皆の心に残るのはこの一念、この痛み。辛さ。全部、修行する原因になったフリーザやその仲間への怨み辛み

!!俺達は宇宙で尤も恐れられてるらしいフリーザと戦う。パラガスさんが言うには恐ろしい存在らしいんだけど、フリーザを見たことないけど、正直……恐ろしいと思えない。フリーザより鬼師匠の方が遥かに恐ろしいと思う。

師匠はフリーザに勝てないとか言ってたけど……本当なのか怪しいよな

ブロリーがナメック星から戻ってきた。

ブロリー、パラガスさん、鬼の師匠達は交代でナメック星に行つて向こうでナメック星人の特訓をしてたりする。

そして鬼から交代しての修行、ブロリーにボコボコにされる模擬戦。たまにテンションが上がったブロリーにマジで殺されかける。

これが三人の師匠の中だと一番マシ何だよな。肉体的に死にそうになるけど、後の二人って精神的にも殺してくるから。

「ん、ベジータはどうした」

「ベジータは料理の手伝いだって」

ベジータのヤツ最近特訓に出れるようになったのに、強くなるのに俺達を利用してやみたいいな感じなのに、ブロリーの時は料理に戻るよな。ブロリーと何かあったのか？

地獄に落ちたような数カ月が過ぎ。いよいよフリーザがナメック星まであと数日と言う距離まできたと界王さまから連絡があった。

「修行は終わりだな!!」

「ああナメック星に行かないと!」

いよいよ戦いが始まる! 皆が嬉しそうなのは…うん!!

「…し、師匠、お願いします」

俺達は皆、ナメック星に移動した。

師匠の瞬間移動で…修行から逃走しても一瞬で取っ捕まる瞬間移動で。

「びっ、ピッコロみたいなのばかりだな」

聞いてたけどビビる。

「皆さまが地球の戦士の方達です。私はナメック星人の代表となります最長老です。来てくれて有り難うございます」

「い、いえ地球を護るためです。それに今回の事はドラゴンボールを知られたからで、俺達のせいとも言えますし…」

「知っています。貴方達が責任を感じることはないでしょう。少なくとも私達ナメック星人は誰も貴方達のせいだとは思っていません」

「ありがとうございます…」

「それで皆さんに提案なのですが…」

最長老さまの能力で潜在能力を解放できるそうさ。皆の潜在能力が解放するかどうか。もちろん俺達は解放してもらおうことにした。これまでの修行で潜在能力は残っているのか疑問だけど、解放してもらおうと限界まで鍛えたと思ったのにパワーアップした。

「では予定どおり最長老どのや戦えないナメック星人は地球に移動して貰いましょうか」

「判りました。どうしましたデンデ、カルゴも」

「あ、あの回復役として僕たちも残りたいんです」

回復能力で修行をさらに地獄にし…助けてくれたデンデたちだ。

「じゃあ私の所で待機！怪我人がきたら治してね。」

「はいー！」

「……デンデ、皆さん、どうかご武運を」

それから戦闘員でないナメック星人達は師匠が地球に送り届けた。

パラガスさんたちはブルマさんの護衛、ブルマさん用意した洞窟の中の秘密基地。中は食料、パソコンやらモニターやら、モニターでナメック星の全域の情報が確認できるそうさ。スカウター機能もあるリーダーもあつて相手の強さも位置もある程度把握できる。それと俺達が装備するプロテクター。ベジータ達が着てたのをより性能を高く

したそうだ。ブルマさん随分と気合いを入れて用意したな。

鬼師匠のプロテクターがフリーフリな可愛い感じなのはみないようにした。笑うな！笑うなよ俺！笑ったら！パラガスさんみたいにぶっとばされる！

本人はもつと準備をしたかったみたいだけど十分だよな。本当に十分過ぎるよな。あとはフリーザが来るのを待つのみだ。

「よし！準備はオツケイ！フリーザを倒すぞ見んな！」

悟空の号令に皆が気炎をあげた。

気炎を……真つ黒く見える……怨念が見えそうだ。

「……フリーザ、フリーザコロス、必ずコロス」

「……………チャオズ、おまえの仇は俺が討つてやる。絶対にフリーザを殺してやるからな！見守っていてくれ！」

「天さん……僕死んでない。天さんをこんなことにしたフリーザころす」

「なして俺はこんな所にまで来てるんだぎや。なんであんな地獄に居ることに成つてたんだぎや。全部、フリーザのせいだ……フリーザのやつを俺の刀で、ヒヒヒ」

「「フリーザブッコロス」」

みんなヤル気に満ち溢れすぎているな。まったく……フリーザは俺の気円斬でコロスんだよ!!

「……ワシら場違いじゃなー」

「ああ……あの修行毎日受けてたらこうなるのか……」

「おい！ 亀仙人にナツパ！ 俺はお前たちと違う粹だからな！」

おい……ベジータ、エプロン外せよ」

ドラゴンボール10

「フリーザさま、その」

「どうしましたザーボンさん、ドドリアさん。報告にきたのでしょうか」

「……………旗艦から東方面に向かった者達の反応が全て消えました」

「……………これで不愉快な報告は何度目ですか…一体どういう事です。ドラゴンボールが見付かるどころか、此方が立て続けにやられてる報告しかないとは、ナメック星人に調査に向かわせた者達が全員やられたのですか？」

「は、はい、現状で考えますと…」

「たしか報告だとナメック星では10000以下の戦闘力しか記録されて居なかったはずですよ？何故その程度の相手に部下が負けているのです。相手は何か優秀な武器でも持っていたんですか？」

「いえ、どうやら10000以下と言うのが間違いだったようです。スカウターの記録を調べた所、相手の戦闘力が跳ね上がっている事が確認されました」

「跳ね上がっている、つまり……………相手は戦闘力をコントロールしていると言うことです

か」

「そう思われます」

「力を隠して油断させてた姑息な野郎共ですよ!!」

「姑息ですが……戦闘力を低くしているのは普段からなのですかね。もしや……」

「フリーザさま？」

「いえ……とにかく、スカウターの数値は宛に成らない。相手の位置を調べる程度にしか使えないという事ですね……ザーボンさん、急いで残存する兵士にスカウターの数値は宛にならない事と、なるべく合流して油断せず事に当たるように命令を……それと情報が必要なので一人でも良いので捕虜を連れてくる様に伝えてください」

「は！直ちに命令を出します」

「ドドリアさんは近隣の部隊と特選隊の皆さんにも至急来るように連絡を」

「特選隊にも……り、了解です」

「まったく……忌々しいですが、永遠の命の為に少し我慢しますか」

「AL方面に五人、いえ合流して十人の敵が向かったわ！相手の戦闘力は千前後！クリ

リンくん組と天津飯組で迎撃して！」

『了解ブルマさん』

『わかった』

ナメック星での戦闘が始まっていた。

ブルマが司令として頑張ってる。

ブルマの護衛の私はなにもやることがない。地球の映画や漫画を見るが…流石に身体を動かせないのはな。なんで私は戦えないんだ。弟と遊んで気を紛らわるのもダメだと、戦闘力を上げて向こうのスカウターで気取られたら困るんだと……。

「BF方面の敵はロストね。ご苦労様。次はBI地区で待機をお願い」

今の処は順調なのか。

味方の損失は0だったか。向こうが一方的に損害を出している。フリーザは狙わずに先ずは手足、増援も含めて倒して孤立させたフリーザを倒すそうだと。フリーザ以外は損害なしに勝てるかな。

……なら私も戦った方がよくないか？

洞窟の中に設置したフリーザ軍との戦いの司令塔。ナメック星全域に配布したカメ

ラの映像とスカウター機能が入ったレーダーのデータを映した複数のモニター。頑張つて設置した設備は予定どおり使えてる。

『MGに居るピッコロだ。やってきた奴等の殲滅は完了したぞ。次はどこだ』

「次はMO方面に向かつて。1500前後の敵が十人ぐらい固まつてるから」

『……また雑魚か。すぐに向かう』

戦況は順調。向こうの戦力だけ減つて此方の人員は減つてない。

『こちら、BYのヤムチャ組だ。次は何処に行けば良いんだ』

「ヤムチャ、貴方はCA方面に向かつて、向こうが進路を変えなきや最大で戦闘力3000ぐらいの相手が5人、戦闘力がちよつと高い相手だけど増援はいる」

『いや、その程度の相手なら一人で楽勝だ』

慎重に慎重にフリーザ軍を減らして、フリーザの戦力を丸裸にして最後に皆で困つてフリーザを仕留める。今表示されてる53万ぐらいのフリーザの戦闘力、孫くん突撃させたら終わりじゃない？つて思つてたんだけど、孫くん達の最大戦闘力は一時的になら数百万とか数千万にもなるつてきいてるし。楽勝じゃない！

……けど

ベジータつてサイヤ人の話だと、フリーザの本気は53万よりもつと高いつて話なのよね。変身タイプで強くなる。もしかしたら今の孫くん達でも厳しい可能性はあるん

だって。だから油断はしない。フリーザと戦うのに最善の状態にしないと。

「ブルマ、戦闘力が20000以上の反応が二つ移動しとる」

亀仙人の言葉にレーダーを見ると確かに動いてる。ずっとフリーザの傍に居た戦闘力が高い二人が、フリーザらしい反応は動いてない。

「ふふ、フリーザ。遂に痺れを切らして幹部を動かしたわね。近くで戦えるのは…ちようど良い所に…孫くん、ベジータにナツパ聞こえてる。戦闘力は二〇〇〇〇クラスのたぶんフリーザの幹部と考える二人がそつちに向かつてるから」

『幹部っていうと、強いやつか』

『あー強いって言えば強いんだけど……』

『なんだ？』

『ふん、今の俺達の敵じゃないって事だ。来るのは十中八九はザーボンにドドリアだろうな。ふふ運が良い。これまでの恨みを込めて俺様がじっくりと料理してやるぜ！』

『え、ソイツら食えるんか？』

『くえるか!!言葉のあやだ!!……いや、ドドリアの方は…』

『ドドリアの方はってなんだ!?!』

緊張感ないわね。そんな三人に倒される幹部の二人は可愛そうに。三人とも戦闘力で言えばトップ三。二万ぐらいじゃ勝てない。

「悟空たちの勝ちのようじゃ」

数分で幹部ぼい二人の反応は消えた。

これでフリーザは丸裸。

一気に狙うか増援が来るだろうし増援を何とかしてからか

「ブルマさんに亀仙人殿、飲み物だ。少し休憩すると良い」

「パラガスさんやありがとう」

「有難う。あーそう言えばパラガスさん……」

「なにかね」

「あの娘たちって大丈夫なの……苛々してるみたいだけど」

事前にクリリンくんにも暴走する時があるって警告されてるのよね。暴走して護衛を放

棄して戦闘に向かうかもとか。

「……恐らく大丈夫だ」

「本当に大丈夫なのかの。相当に我慢してるようだが」

「……………大丈夫だ」

「スゴい信用できない……って、なにデンデくん」

顔が緑なのに青褪めてる感じになってるんだけど。

「ぶ、ブルマさん、モニターにさきほどまで無かった戦闘力四万クラス三人と十万越えが」

「え!？」

本当に表示されてる。フリーザはベジータと孫くん^に幹部はやられて兵力も大分無くしてる。この状況で考えると…

「……………フリーザは切り札を呼び出してみたいね」

なるほど幹部を動かせたのももうすぐ切り札が来るからだだったのね。この切り札を倒せば、フリーザとの戦い!総力戦!

総力戦だけどパラガスさんたち三人は抜く!孫くん達全員の希望なのよ。最強の戦力って話なのはどうしてと思うわよね。

クリリンくんの話だとパラガスさんはボコボコにされたトラウマ、ブロリーくんは強いけど暴走癖があるそう。あの娘の方は単純に怖いんだって、特訓で何をしたの?

つまり成るべくなら戦って貰いたくない枠。という事で護衛としていてもらうことになった。もしもの時はうごいてもらってもいいけど…

相手の最大戦力は孫くんたちで十二分になんとかなる。もう敵も殆ど居ないし。この分だとフリーザもなんとかなるわよね。

こうなると不安要素はブロリーくんたち、パラガスさんはまあ大丈夫ほいけど、ブロ

リー君たちは暴れに行きそうな感じがある。

「ブロリーくんたちの暴走の危険を聞いて用意した強力な睡眠薬がある。パラガスさんと亀仙人にコッソリと相談してみる。」

「睡眠薬など用意してたのか……」

「……………うーむ……………暴れに行くのは否定はできないな。私は反対しないよ」

「まあ我慢するよりは寝ておいてもらった方が本人達にも良いじやろう」

「二人とも賛成って事で……」

私は早速特製のケーキとジュースを差し入れした。

「姉さんと俺だけで親父とブルマたちは良いのか……………」

「え、ええ、私達はやることがあるから」

「そうか」

疑いゼロで美味しそうに食べる姿に少し罪悪感が……………

「な！フリーザさま、雑兵の大半だけでなく既にザーボンとドドリアまでやれてると言

うのですか！しかも倒したのがあのベジータですと！」

「残念ながら事実ですよギニュー隊長。ベジータさんはドドリアさんの最後の通信でハッキリと裏切りを明言してくれてました」

「フリーザさまそれは……ドラゴンボールの情報の出所はベジータで、ナメック星でのこれまでの損害、無人の建物のみでナメック星人で非戦闘員が見付からないのですよね。ベジータが裏切り向こうに居ると合わせて考えますと……」

「ええ、そうですね。どうやら我々はベジータさんの罠に掛けられたようです」

「やはりそうですか！」

「これまでの苦戦、ベジータさんが我々が来る前から対策を立てていたせいでしょう。戦力を何処からか集めたようですし………ナメック星で迎撃の準備する時間も考えますと、地球での通信を聞かれるのも予定どおり、そこから更に私がナメック星に来ると予想した……ベジータさんをなめていたようです」

「ぬうベジータめ。……フリーザさま！お任せください！我々が裏切り者のベジータらを倒しに向かいます！」

「少し待ってください………特選隊の皆さんには折角来てもらいましたが、ドラゴンボール探索も儘ならないほど此方の被害も大きいです。一旦退却しようかと悩んで

います」

「そ、それは成りません！一時的とはいえ退却などされてはフリーザさまのお名前に傷がつきます！どうかこのギニュー特選隊にお任せ下さい！」

「あなた達を信用しない訳では有りませんが……相手も中々やるようですしね。いくら貴方たちでも無策では危険でしょう。貴方達がやられることは避けたいのです」

「おお！フリーザさま！我々の事を心配なさって下さっているのですね！」

「……今でも損害は許容範囲を大きく越えますしね。それに策略としたらそもそも目的のドラゴンボールが本当にあるのかどうか……無いと断言出来ないのが面倒です……少し考えることがありますので、待機しておいてください」

「わかりました……必勝祈願のダンスを躍りながら待機しておきます！」

「……敵の情報でも見ておいてください」

「フリーザさま大発見です！」

「どうしたのですかギニュー隊長」

「フリーザさまのご命令通りギニュー特選隊全員でこれまでのデータを見ていたのですが、此方のデータを御覧ください！」

「(本当に見てたのですか)」

「敵の移動パターンを見ると明らかに向こうを指揮をする存在が居ると考えました。そう考え調べると1ヶ所だけ一度も動いていない反応を見つけたのです。ここが敵の本陣の可能性ががあります!!」

「ふむ……たしかにこの地点は怪しいですね。本陣かは不明ですが、重要地点の可能性は高くみえます」

「フリーザさまもそう思われますか!では、どうか我々にこの場所への襲撃のご命令を!」

「そうですね………良いでしょう。特選隊の皆さんに向かって貰いますが、私も其処に向かいます」

「ふ、フリーザさまですか!」

「戦闘だけなら任せるのですが、直接聞いておきたい重要なことがありますのでね。仮に敵の本陣としても先ずは戦闘よりも情報収集が優先しますので、良いですねギニュー特選隊のみなさん」

「戦闘でなく情報収集ですか……お任せください!」

「はい?」

「我々の究極のダンスにより相手を魅了すれば情報の収集もスムーズになりましょう」

「……そうですか。一応期待しますよ。期待して（一緒にされたくないの）私はちよつと離れた所で待ってますよ」

「おお！お任せくださいフリーザさま！フリーザさまもご期待されたのだ！最高のダンスをやるぞみんな！」

「「おお!!」」

「……………ザーボンさん達を無くして本当に惜しい気持ちになりますよ……」

や、ヤバイ。

「これ！フリーザとフリーザの切り札達が此方に向かつてきてる!!」

どうして!?!フリーザの切り札の能力!?

皆を呼び出しても間に合わない。

先にフリーザ達が来る。

こ、こう言うときの為の護衛なんだけど……

「ZZZZZZ」

「だ、駄目ですブルマさん！二人とも起きてくれません!!」

誰よ睡眠薬飲ませたバカは！

残ったのはパラガスさんだけ。亀仙人も居る…修行にも少しだけ参加させられて多少強くなったらしいけど、一番弱い雑兵で何とか足止め出きるかってレベルらしいのよね。戦闘力としては悪いけど宛に出来ない。

「ば、パラガスさん…ひ、一人でなんとかなる」

パラガスさんの戦闘力って幾つ。

二人が強いとは聞いてたけど…パラガスさんは？

「ふ、私に任せなさいブルマさん大丈夫だ…：…たぶん…：時間稼ぎは…：なんとか…：うむ…：…」

ああもう!!パラガスさんなら一人でもフリーザや切り札相手に時間稼ぎできると期待するしかない!!あとの問題はか弱い私は巻き込まれたら一瞬で消し炭なことよ!

「此処を外から破壊されるかもしれない。外に出よう」

パラガスさんは外、モニターにやってきた敵が見えた。五人ね。あれが切り札!…フリーザは居ない?少し離れた所に反応があるわね。なんで離れてるの?」

「リクーム!」

「バータ!」

「ジース!」

「グルド!」

「ギニューー！」

「み、ん、な、揃って！」

「「「ギニューー特選隊！」」」」

え、なにあのエセな戦隊モノ。フリーザ軍の切り札ってあんな感じだったの。まあ地球の某世界最強の軍隊だってオカマが將軍とかしてたし、変なのが上に立つのって普通なのかしら。

「なんだこの変態どもは、何処から現れた」

あれ？いま、お前が言うなってクリリンくん達の生き霊が見えたような。

「誰が変態だって言うんだこのオヤジ」

「ナマ足が見えるマント姿って、お前の方が変態ほいだろ」

パラガスさんはマントを付けてるのに下半身、ブロリーくんはズボン履いてるのに上半身を露出。家族がそんなセンスだからあの子も服に興味が無くなったのよね。

「名乗った通り我々はフリーザ軍のギニュー特選隊、いや話す暇はない……元の予定ならさらにダンスを披露してからフリーザさまに引き渡すのだが、敵が此処に集まってくるようで時間もないのでな。ダンスはお前たちを拐ってからにしろとフリーザさまからのお達しだ！」

「ふん、このパラガスを簡単に拐えると思うなギニュー特選隊よ！」

ギニュー特選隊に対峙するパラガスさん。なにか、こう、すごい光景を見てる気がする。

「パラガスさんや、ワシも微力ながら加勢させてもらいますぞ」

亀仙人、いつの間に外に

「いや亀仙人殿はブルマさんの護衛を。コイツらなら私一人で十分だ」

「言ってくれるな……ソチラがそう言うなら遠慮なく五人でいかせてもらう」

「5対1……大丈夫なの」

私の声にパラガスさんはニヤリと笑った

「オフコース……ふふ、ソチラが数で来るならこちらも数で行かせてもらう。さあ地球で学んだ私の新技をうけ、恐怖を味わいながら」

アレ、パラガスさんの姿がダブって見えて……あの技って！天下一武道大会であつた

天津飯の！

「「俺たちに八つ裂きにされるといい」「」」

四人が増えた!!

「これで数は互角……!!」

ギニュー特撰隊五人

パラガスさん四人

五対四

一人足りなくない。

あとあの技って…弱くなるんじや

もしもセル、ワンパンマン

此処はどこだ？

廃墟？廃墟と言えよ……オールマイトとヴィラン連合のボスが戦った場所なのだろうか。違うか。土煙が立ち上ぼり火事が起きてるといふ事は廃墟になってからあまり時間は経ってないな。

相当なヴィランに襲撃を受けたか。

大震災でも起きたのか。

何にしてもなんでそんな所に私は居るんだ。たしか誰かに呼び出されて、無視して寝た……ソコからの記憶がないな。

寝てる最中に転移系の個性で飛ばされたか？

しかし何の目的で……。

誰かを見付けて此処が何処か聞こう。気で探って一番近くの人を……うん？随分と大きな気が近くにあるな。プロヒーローの何十人倍……いや何百倍か。……何者だ。オー

ルマイトよりも気が大きい。この瓦礫の山を作った犯人か？

何者か気になり気を感じた場所に移動すると、随分と悪そうな黒い異形系の誰かが居た。どう見てもヴィランにしか見えない。傍に泣いた少女が居るな。黒い奴が少女に手を差し伸べている？見掛け悪人に見えるが良い奴……ではないな。

黒い奴の手が巨大化してあの手は少女を握りつぶそうとしている。ヒーローでないが少女が握り潰される所を見逃す訳にいかない。私は急いで飛び立ち少女を抱え黒いヴィランの手を避けた。

「きさま……なんのつもりだ」

この声は……まさか！

「フリーザか！」

「…誰だそれは」

まあ違うか。見かけが白どころか真っ黒でまったく違う。声が似すぎて一瞬フリーザかと思った。見かけで言えば……

「バイキ○マンだな」

可愛いげが欠片もないリアルな感じの。

「誰がバイキ○だ！逆だ！私は人間というバイキンを駆除するために地球が産み出したワクチンマンだ！それできさま！怪人の癖に人間を守るとはどういうつもりだ！」

んん？ 怪人とは異形系という意味か。それで人間を守るのはどういうつもりか……
「何を言ってるんだお前は、助けて何がおかしい」

地球が産み出したワクチンマンとか名乗っていたが、頭があれか。

「……お前こそ何を言ってるんだ。怪人が人間を助ける？ 可笑しいに決まっている。見ろ、貴様の助けたガキですら可笑しいと思っっているぞ」

助けた少女の方を見してみる。ワクチンマンは勿論、私にも怯えているな。なんで私にも怯えてるんだ？ 昔はともかく、完全体になってからは子供に怯えられた事とか……：少なくなってるんだが

「なんだそのシヨックを受けたような反応は。まさかお前、自分が怪人だという自覚が無いのか？」

怪人の自覚……何か嫌な予感がしてきた。

とりあえず倒してから色々聞かか？

戦うつもりなら相手の情報が必要か。流星にこの廃墟を作った可能性の高い相手の“個性”は警戒しないとダメだろう。まあ私だけならどうとでもなるだろうが抱えた少女が居るからな。安全策でいく。

「怪人の自覚など無いよ。それよりこの瓦礫の山を作ったのはお前だろう。随分と派手な事をしたようだが、お前の“個性”はなんだ」

プライドが高そうなコイツなら普通に言いそうだと思ひ聞いてみた。

「コセイ？個性か？……どういうつもりなの質問だ。」

嫌な予感がさらに濃くなった。

”個性”について聞いたのに反応がまるで。

「君、”個性”を知っているよな」

なるべく優しく少女に問い掛けると怯えながらも知らないと言うように首を振られた。

どうなってる。

なんでどちらも”個性”を知らない。

流石に可笑しいだろう。今は人類の七割、八割が”個性”もち。両方知らないなんてことは”個性”がない場所でもない……まさかそうなのか？そういうことなのか？”個性”が存在しない別世界なのか此処は。そんな事があり得るわけがないと思うこともできない。既に別世界に行くのは1度体験している。2度目なのか？

いや、まだこの二人が偶然知らなかっただけかも……

「……何を考えているか知らんが、いい加減にそのガキを殺すから渡せ。別にお前がそのまま潰してもいいが」

少女が震えてるな。

どちらかやる様に思われたとしたらショックだ。

「馬鹿か。どちらもゴメンだ」

「貴様、人間を駆除する怪人と思い大目に見てやろうと思ったが、人間を守るならお前も人間と同じ地球にへばりつく害虫だ。其処のガキと一緒に始末してやる！」

「ふん、此方としても望む所だ」

そちらが仕掛けてくるなら正当防衛になるからな！倒したあとに色々聞かせてもらおうか。

私は少女を下ろし背中に庇い。

ワクチンマンと私は対峙した

「え、これどういう状況？」

太陽拳!いや禿げ頭の反射か。

天津飯の様な頭の男性が立っていた。

彼のあの格好は、色違いのアンパ○マンの安物という感じのコスチュームだな。バイキ○マンみたいなヴィラン相手と考えると合ってるな。いやそれより彼の見かけはどう見てもヒーローだ。あんな明からさまなヒーローが居るとなると別世界と考えるのは早計だったか。

「また邪魔か。何者だ貴様は……」

「俺は趣味でヒーローをやっているサイタマと言うものだ」

「……趣味のヒーローだと、なんだそのて」

趣味のヒーロー、ヴィジランテか。

趣味ならプロヒーローと違って報酬も名誉も無い。

「つまりは見返り無しで善意だけでやってる正統派のヒーローか？」

法的にはアウトなんだがそう思ってしまう。

バツ〇マンとかと同じダークヒーローは嫌いじゃない。ステインみたいなゴミは違うが。

「……」

「……………」

何故か二人が固まった。

「ヒーローが何のようだ。いや、決まっているな！人間という害虫を守る為にこの私、ワクチンマンを倒しに来たという事だろう！」

「え、おう、そう言うことだ。……この瓦礫の山ってお前の仕業だよな？向こうの緑じゃなくて」

「ふん、人を助けるような愚者にこの様な素晴らしい真似が出きるわけないだろう。やったのはこのワクチンマンだ」

「そっか」

サイタマ氏は拳を構えた。

戦うつもりかサイタマ氏は……気は何故か感じ難いが判る分だけでもサイタマ氏が負けるとは思えない。というより強すぎる感じがする

しかし

「え、なんだ」

私はサイタマ氏の前に出る

「サイタマ氏だったか？サイタマ氏は下がってくれ。アイツとは私が戦おう。私はこれでもヒーロー候補の通う学校の生徒なのでな」

生徒と言ってもサポート科だが、ヒーロー活動に必要な仮免許は取らされたので、戦闘にはたぶん問題ない。本音では任せたいが、違法なヴェイジランテ（趣味のヒーロー）の活動を見過ごしたら後で何を言われるか。

「……怪人に心配されたのはじめてだ。と言うか怪人が通うヒーロー候補の学校って有るのか？」

「……………サイタマ氏からも怪人扱いか」

そんなに見掛けがアレか？

確かに怪人と言えば怪人だが……

異形系と言うのが普通だろう。

サイタマ氏が世間知らずなのか。

それともやはり違う世界なのか……。

「あーなんかスマン」

考えてるのを落ち込んだと判断したのかサイタマ氏がそう言った。

「ええい！何を余計な事を話している！もういいこちらから行くぞ！先ずはお前だハゲのヒーロー！」

「誰がハゲのヒーローだ！」

いきなり二人の戦いが始まった。

と、言うこともなかった。

一発殴られただけで爆発四散したからだ。

「は？」

バイキンマン擬きのグロいモノが飛び散る光景に、思わず啞然とした。

そしてサイタマ氏は……

「またワンパンで終わっちゃった……クソツタレエエ!!」

「……なに」

思わず声が漏れた。

またワンパン、また……つまり今回だけでない。

この瓦礫の山を作り出した犯人相手としても……。

項垂れるサイタマ氏の肩をポンと叩いた。

「サイタマ氏、警察にいこうか」

「え」

ヴィランの殺害は流石にアウトだ。

もしもセル、ワンパンマンに

「ぎやああ怪人よお!!」

「むくくくく、俺の名はムスコマン！使われなかった男の怨念により産まれた怪人だ！いまこそ未使用から使用済みになっていまこそ女どもで無念を晴らして見せてやるああぐはあああ!」

上空から速攻で発禁なモノを気で消し飛ばした。
しまった。

余りのアレさに名乗る前に倒してしまった。

観衆は気づいて……は無さそうか。

「え、いったいなにが、」

「突然、怪人が爆発したよな」

「なにか光る何かが飛んでこなかった?」

「え、そんなのあったか」

「なんにしても助かったみたいだな。」

上に居る私に中々気付かないな……

しかたない。恥ずかしいが某ヒーローを真似て腰に手を当てて笑う。

「フ、ハハハハハ……ゲホッ、ははははは、!!」

「笑い声……あ!上に!」

ようやく気付いたようだ。

「あ、あの書くのが面倒そうな黒い斑点付きの緑の虫みたいな姿に、顔だけ無駄にイケメンなアイツは!」

無駄にイケメンとは何だ……と、思わず文句はいいかけたがグツと堪える。アピールをしなれば。

「先程の怪人は私が消し飛ばしたので安心してもらいたい」

さて反応はどうか。

「え、怪人が怪人を?うそだろ」

「アイツって噂のやつなのか……」

「ヒーローはまだかよ……」

「あ、ありがとうございます」

半々だな。

「私は人造人間のセル。君達から見れば怪人だろうが、怪人とは違う。少なくとも人を襲ったりする怪人とは違う存在だ。むしろ人助けをしたりするので其処の所はヨロシ

ク。おっと、近くに他の怪人の気配を感じるのでこれで失礼するよ」

そう言つて私は飛び立ち別の怪人の元に向かう。

私がこの世界に来て幾日か。

これまででわかつたが……ここは別の世界だ。

地球とほぼ同じ、似ている。

イメージとしてはある時を境に違う歴史を進むようになった平行世界。

前の世界だと過去に”個性”が現れ人類に根付いた。

しかしこの世界では過去に”個性”は現れることなく、まるで”個性”の代わりにのうに怪人という人類の敵が発生していた。

この世界では人類は怪人に追われ人の生存圏は既に大陸1つしか無いらしい。追われた後も日常的に怪人に襲われて人はその数を減らしているようだ。

人間が怪人を嫌う理由も理解できる。いや嫌うというより恐れる理由はよくわかる。少し調べただけでも、この世界は何時怪人によつて人類が滅びても可笑しくないのだから。正直、よく人類は生き延びてると思う。

そんな世界に現れた見た目が怪人としか分類できない私だ。

まあ敵対視された。

この世界に来て何も判つてないころ、私は怪人を殺害した事でサイタマ氏を警察につ

きだそうとしたら、逆に警察に問答無用に発砲された。

警察の行動的に怪人だと即殺していいような世界だったことは。サイタマ氏が怪人を殺したのも問題ない。大量殺人犯でも一応は人権が存在したヴィランより扱い悪い怪人は。

まあ怪人は人類の脅威で対応が厳しいのも仕方ないと思う。思うが、そんな立場に置かれたのは最悪だとはもちろん思う。怪人扱いは精神的に堪える。

どうしようかと悩んだ。

頼りになったのがサイタマ氏。

この世界の情報もサイタマ氏から面倒くさそうにしながらも教えて貰えたものだ。

彼は私が警察から逃げた後も私を敵と扱わなかった。警察につきだそうとしたのに、私の事を怪人だと認識していたのに、趣味とはいえヒーローとしてなぜ敵と扱わないのか。不思議に思い理由を訊ねると……

『ん？お前って別に人とか襲わないんだろ』

だそうだ。

子供を庇ってた所を見たとしてもアツサリ敵と扱わないでくれるサイタマ氏は単純、いや素晴らしいヒーローだ。

サイタマ氏ほど単純、簡単にはいかないだろうが、人の味方だと証明すれば何とかな

るんじゃないかと思った。

そして始めたのが辻斬り、もとい、怪人の討伐活動、初めは怪人の捕獲をして味方のアピールをしたが駄目だった。この世界のヒーローに捕獲した怪人は殺され私も襲われた。

その後を知ったが、この世界に怪人用の刑務所なんてない。捕獲をしても怪人だと捕まることなく殺される。捕まえられたとしても実験材料か。それで捕獲をしても無意味だと理解し、若干心苦しいが怪人を討伐して自分の宣伝をすることにした。

人から変化した怪人もいたがそれでも負い目が若干で済んだのは、ヴィランと違って怪人はほぼほぼ、人格から更正の余地が無いというのか、もし自身が怪人の立場なら殺された方がマシだなという相手ばかりだったからだ。流石に人に近過ぎるタイプだとスルーしたりもする。

私が怪人討伐をすることへの反応は、まだそれほど経ってないが、戸惑いが主。少しずつよくなってる

憎むべき怪人とは別物扱い、人造人間と態々名乗ってる事で、怪人でなく怪人を倒すための生物兵器みたいな扱いに少しづつなっている。まあ狙い通りだ。

私が異世界から来た人なんて信じられる訳がないので、人の味方として産み出された存在という方がまだ理解される範疇と考えた狙い通り。

未だにヒーローには狙われたりもするが、民衆からの受けは良くなって来ている。その証拠に……

「ほお今日は中々に来てるな」

街に置いた箱には食べ物やら小銭が入っている。

たまにお礼をしたいなどという声があつたので、私がそれに置いた箱の場所を伝えたらこんな状態になった。

人気の確認と……純粹に生活のために役立つている。ただこれを回収する時によく……

「くそーまた俺のタケノコを避けやがったー！」

この世界のヒーローとかが待ち伏せていて襲ってくる。

この場所をよく襲ってくるのがタケノコの変態。

関わりたくないのに空に逃げる。

「待て！逃げるなコノヤロウ！」

槍に見せかけたタケノコを振り回して血走った目で見てきていた。

「前にも言ったろ。ぷりぷりプリズナーとか言うオカマもそうだが、タケノコの変態とも関わりたくない」と

この世界の他のヒーローの格好は色々に変だが、出会った中で変態的なのは今のとこ

ろ二人、

私も若干守備範囲に入るとか意味不明な化け物よりは遥かにマシとしても、見掛けが変態の分類に入るタケノコ男。

「このクソ野郎!!また…また!俺をあのオカマと同列にしゃがったな!!!お前のせいで俺の名前で検索したらタケノコの変態!!プリズナー×タケノコとが出るようになったんだぞ!!」

あの化け物と混ぜられて辛い気持ちはわかるが

「…プリズナーとやらはともかく、その格好で変態扱いはしかたないだろう。なんだその衣装は、包帯を全身に巻いているのか…いやタケノコの皮か?」

ほら周りの野次馬も頷いてる。

「ぜ、全裸のヤツに言われたくねーよ!!お前こそプリズナーと同類の変態じゃねーか!!」

「…」

私は箱のなかに偶然にも入っていたキノ○の山を投げつける。タケノコの槍はキノ○の山に粉碎された。

「俺のタケノコおお!!」

変態の評判がさらに高まるなど思いながら飛び去った。

それから箱に入れられた食料品をサイタマ氏にお裾分けしに気を頼りに向かう途中で、何か進撃の巨〇を目撃した。進撃でなく大型の巨人か。サイズが可笑しい。そう言えば私が転生する前に大型の巨人数万で地ならしをするとかあったな。確かにこれが複数なら軽く人類が滅ぶと思う。

巨人の上にサイタマ氏が居るな。

「うおおおお!!!よくもおおお!!!」

なにか激怒した巨人がサイタマ氏を投げて殴って地面に埋めていた。殴れて地面に埋まっていたサイタマ氏は、無傷で飛び上がって殴り付けて巨人の頭部を粉碎していた。私が言うのもナンだが、サイタマ氏はなにか世界観が違う強さだな。初めて今のが本気で戦ってどうなるか解らないと思わせる相手というのが……まあそれで危機感を感じないのは、サイタマ氏の何処か抜けた性格と行動のお陰だろうな。

……サイタマ氏は後から気付いて『あ』と声を漏らしていた。

巨人とサイタマ氏の組み合わせでもしかしたらやると思っていたがやったな。

巨人の死体が倒れて大惨事に成りかけたので、サイタマ氏が殴られていた時から溜めていた気で特大のかめはめ波を放つ。建物には当たらない様に放ったかめはめ波は巨人の体の大部分を飲み込み蒸発させた。

「お、さっきの光線はセルか。サンキューな」と、のんびりとした声で言ってきた。

その様子に他人事ながら心配になる。ヒーローなら周りへの被害を考えるように注意しておいた。

サイタマ氏のこれまで見た強さを考えると、気にしておかないと大惨事になると簡単に想像が出来たからな。

「あーそだな。ヒーローなら周りの事も気を付けなきゃいけないか」
特に反論もなく頷いていた。

怪人を倒せたらそれで良いと言われなくて良かった。

本当に大丈夫だろうか？

何となく、前の世界だとヒーローが直す費用を出さないといけないという話もしてみ。ついでに、もし消し炭にしてなかった場合のサイタマ氏の出した被害総額の予想もついでに話してみた。

「ま、周りの被害は気を付けなきゃいけないな……」

冷や汗を流しながらさっきより力強く頷いていた。

それから数日後、蚊の大量発生ニュースを見てサイタマ氏の家に避難をさせて貰った。生理的に虫の大群というのは苦手なんでね。

「その外見で虫苦手なのか」

サイタマ氏はたまに素で暴言を吐く。

悪意がないから質が悪い。

私の外見はそんな虫嫌いだろうか。

本家のセルは何でこんな外見なんだ？遺伝子元に虫要素とか無いな。辛うじて緑が居るぐらいだろう。

何だあのエロい蚊は……

もしもセル、ワンパンマンさん

「あ、お前も来たのか」

屋外で公開露出。

猥褻物露出をした成人男性。

職業不詳、普段は趣味のヒーロー活動をしている。

私の恩人：

何か無性に悲しくなる。

何で蚊を追って外に出た数分後にこんな事に？

避難してたサイタマ氏の家から大きな炎が見えて、なぜか外に蚊を追っていったサイタマ氏が大丈夫か気になって来たたら見た光景だ。因みに火を見て大丈夫かと思ったのは、こう言う事態の事だ。不安が的中して嬉しくない。

「あら、アナタは」

なんだあの真つ赤なエロい蚊は？

何で私を見て舌を嘗めた。

見た目的に蚊の大量発生の原因か？

「(くそ、アイツを警戒したのか。距離を取られて自爆のタイミングを逃した)」

人型の機械、ロボットがボロボロな状態で落ちてきた。今回は随分と人に似てるな……この世界、文明は前の前の2010年の地球ぐらいなのにロボットまで作れる技術があるようだ。以前に捕まえようとかしたロボットに襲われた事があるので知っていた。

全裸の恩人、ボロボロなロボット(恐らく人類側)、元気そうな蚊女。私が来なかったらヤバ……くはないな。私が来なかった場合サイタママ氏が容赦なく叩いて粉微塵にしていただろう。全裸の状態。なら、私が来てどうなるか……別に私が来たとしても結果は変わらないな。

まあ一応とは言え、人型の女性のグロイシーンは見たくはない。行こうか。布とかにかサイタママ氏の誰得なサービスを隠せる物を探しに……

「あらー、どこに行くのかしら」

なんで立ち塞がるんだ。

サイタママ氏は傍観してる。私が倒さないといけないのか。怪人討伐はそれなりに慣

れたが、女性タイプは流石に良心の呵責があるんだがな。

「ふふ逃がさないわよ。私の創造者から貴方の捕獲命令が出てるんだもの。まさかハゲ頭もだけど、偶然捕獲対象二人と遭遇するなんて私は運が良いわ。」

「サイタマ氏も捕獲対象なのか？」

「おいナチュラルにハゲ頭で俺の名前出すなよ。別の相手から知れないだろ」

「え、アナタよ？ハゲ頭なんて貴方しか居ないじゃない」

私を指差すな。私はハゲじゃない。

そう言う頭部なだけだ。

「〔捕獲対象……あの緑の、恐らく〕セル”は判るがあのハゲた男もその対象なのか。俺の焼却砲を間近に受けて無傷だったが、いったい何者なんだ〕」

〔捕獲命令……誰だその創造者とは〕

前に捕獲しようとして来たロボットがいたが、あのロボットの黒幕か？

「うふふ、知りたい？私を進化させてこくん！スゴい力を与えてくれた偉大なお人よ！」

何者なのかの答えになってない。

進化という台詞と……私を捕獲しようと狙ってくる事を考えると……科学者の様な存在か？

「アナタも強いらしいけど、私が元気一杯な時に来るなんて運がないわね。別に生きた状態で連れてこいとしか言われてないから大人しく捕まる方が身の為よ」
何にしても彼女は……。

「飛んで火に入る夏の虫だな」

と、言うわけで情報を聞き出すという名目で捕獲した。全く私も甘いな。女性タイプの怪人討伐を避けるために捕獲するなんて……

蚊女は、今は身動きが出来ない状態にしている。

「~~~~~!!」

本家セルの18号の吸収を途中で止めたような感じだ。蚊女の足だけ出てジタバタともがいている。

「それではサイタマ氏、彼女から色々聞いてくる。主犯の狙いはサイタマ氏らしいから後で聞き出した事を伝えに行くよ」

「……お、おう」

さて、人気の無い所に行こうか。

人目を気にする尋問をしないといけないのでね。

三日ほどしてサイタマ氏の家にお邪魔した。

ナゼか修復されたらしい前のロボットもいた。

私が情報を聞き出すというあの時の話を聞いていて、何処から情報を得たのかサイタマ氏の家を探し当てて押し掛けたそうさ。

ロボットはジェノスという名前で正確には人間を改造したサイボーグらしい。胴体が避けてても機械パーツしか見えなかったんだが元人間なのか。……某ドイツ軍人みたいに人か怪しい。

「ふーん、俺たちを狙ったのが、進化の家ね。ソイツらが蚊女を造ったのか……悪の秘密結社みたいな感じか？」

「その進化の家とやらの話は本当なのか？」

「三日ほど蚊取り線香で責め立てた結果で出た情報なんだが、本当か怪しいのか？もう一週間ほど尋問を追加するか」

サイタマ氏の部屋に来るときに尻尾の中に入れて移動した。蚊女を出すと粘液でベトベトで18禁感がしたので、サイタマ氏が急遽シャツを着せた。余計にいかがわしい感じになった。

「……も、もういやああ」

怯えてる相手にするのは心苦しいがやるべきか。決してエロさを楽しんでる訳でない。(※本当にエロいことはしてません)

「いやスマナイ、本当の事だと判断する」

ジェノス氏はそう言った。

蚊女にズタボロにされてたのに報復とかは考えないのか。

「その進化の家つて言うのを何とかしないと。狙われてるとか面倒だし。本拠地の場所とか何処だ」

全員の視線が蚊女に

「そ………その、な、何となくの方角だけならわかるけど、本拠地の場所は思い出せないの。ほ、本当よ！い、色々され過ぎて思い出せなくて」

嘘という感じはしない。

二人も同意見なのか追求することもなかった、それは良いが、批難の目を私に向けるのは可笑しい。まさか変なことをしたと思ってるか？色々と言ってるがやったのは蚊取り線香ぐらいいだ。怪人相手だからと言って何かしたとかない。

(※本当になにもしてない)

「うーん、方角だけでも覚えてるなら……とりあえずその方角に行ってみるか。狙って

るなら向こうからリアクション有りそうだし。来週はスーパーの特売日で忙しいし」

ズガンと壁が壊れて中から進化の家の関係者らしい怪人が。

「…向こうから案内役が来た、な」

「俺の家になにすんだ」

と、思ったのにサイタマ氏が破壊犯の怪人を粉碎した。まあ気配的に下にもまだまだ居たから問題ないのか。

サイタマ氏とジェノス氏は飛び出した。

私も外に向かうおうか。

と、蚊女を置いてぼりにするのは酷いな。

収納されてる尻尾を伸ばして先端を広げる

「いやああ!?!またその中は!!絶対に大人しく着いてくからそれは止めて!!」

そう言ってもマトモに飛ぶ事も出来ないだろ。尻尾に入れた時に間違つて少しエネルギーを吸つたせいで。仕方ないので米俵を抱えるように移動した。

ジェノス氏はロボットと戦い。

サイタマ氏はナゼか埋まっていた。

前には大きなライオンの怪人。

地面に埋まって頭だけ出てると、卑猥なモノに見えたのはサイタマ氏には言えない

な。普通に這い出た。

ライオンの怪人が改めて戦おうとすると、土を払うから待ってと頼んだ。普通激怒しそうなのに律儀に待ってくれるあのライオンの怪人は良い奴か。地面に埋まつてる時も攻撃しなかつたしな。

ライオンVSサイタマ氏。

爪での連続攻撃、何かカツコ良さげな名前を付けてる所がアレだな……何か巻き添えで怪人ほいのが殺された。同じ進化の家産としたらレベル差がひどいな。何の為に来たんだ？

それにしても、私が闘う相手がない。

もしかしてジェノス氏が戦ってるロボットが私の相手だったんじゃない？

あ、サイタマ氏がライオンを粉砕した。

ああいう獣タイプは好きなので少し残念だ。

うん？地面に今度は自分から潜った。少しして地面から怪人の残骸が飛び出た。サイタマ氏を埋めたやつか。サイタマ氏は案内役どうするつもりだ？

ロボットもジェノス氏が勝ったみたいだ。

此方は生きたままだな。ロボットに勝ったジェノス氏が目を見開いてるな。ライオンを一撃で粉砕した辺りで。

後は、あのロボットに聞いて進化の家に行こうか。今度は私の闘う相手は居るかな。いや、闘う相手は居なくても良いが、サポート科として、怪人を作るような高い技術力がある進化の家には有用なモノがあつたら少し賠償として……

そう言えば、案内役が見付かつたとしたら、この蚊女はどうしようか。せつかくの尋問が無意味になるとは流石に憐れすぎるが………どうしよう。

ネギマスレ

『日本人（2×歳）が気付くとイギリスのド田舎に転生してた誰か安価で相談に乗ってください2』

名無し

前が10000を越えたんで代理でスレ立てします。

前スレ、—————

『日本人（2×歳）が気付くとイギリスのド田舎に転生してた誰か安価で相談に乗ってください』の新スレです。

スレ立て民の名前は『ネギさん』

スレのルールは喧嘩などせずに仲良く。

安価は絶対。（犯罪系安価は無し）

タイトル詐欺あり。

投稿者の話は本当だと思ふこと

議論は別スレで

魔法などファンタジー要素あり

以上を了承してゆくりしていつてね！

名無し

新スレ立て乙

名無し

まだやるのか相談とは名ばかり謎スレ

ー

名無し

新スレ立てから結構時間が経つのにネギさんは来てないなー。

名無し

最近ネギさんはイギリスにある魔法学校（笑）に行つてて大変らしいし時間が無いんだろ。

名無し

イギリスで魔法学校、ハリー・ポッターかな？

名無し

このオカルトスレまだ続くのか……。

名無し

オカルトって？

前スレに入れないで教えてくださしー。

名無し

前スレのアドレスは上に有るだろ。

名無し

いやアドレスあるけど入れない。

アドレス間違ってる。

名無し

別にアドレスも間違ってる。

俺さっき上のアドレスで普通に入れたし

名無し

えー入れませんよ。

名無し

私が入れますが

名無し

え

名無し

え

名無し

こんな感じに謎な現象が起きてるからオカルトスレって言われてる。

名無し

他にもスレ立てしたネギさんのIDも時刻も現在地も不明だから。

名無し

ハッカーしてる知り合いがネギさんをどんなに調べても情報が無い。ネギさんどころかこのスレ自体も大元のサーバーには記録も無いらしい。なのに存在してる。興味本意で調べて後悔したって言ってた。

名無し

二つの意味でゾツとした。

名無し

てつきり魔法とか転生とか書かれてるからオカルトスレだと

名無し

それもオカルト扱いの理由にはある

魔法と転生といえば、ネギさんの言う転生とか魔法やら書かれてる事はガチってスレ

民と、転生とかねーよってスレ民で対立が起きてるんだよ。

名無し

それでネギさんが嘘じゃねーと投稿した老人が魔法を使ってる映像で阿鼻叫喚に。

その時の映像だけ貼るけどこれは見れるか？

名無し

見れま……すって！これなに!?

映画のワンシーンとかじゃないの。

名無し

ほ、本物じゃ……

名無し

いやいやCGだつて！

名無し

そんな感じに前スレでも映像の魔法はガチ派とCG派で対立。

名無し

これがCGだとしたらハリウッドクラスだわ。CGでも十分にとんでもない。オカルトスレとか言われるのにも納得。あんな映像が出てくるなら道理でタイトルの割りにレス数が多いわけだ。

名無し

レスが増えるのは良いけど、騒ぎが大きくなりすぎて対立は別スレですることになってるんだよな。対立スレが本家スレより盛り上がってるのにはワロタ。

名無し

だつてネギさんが中々次の投稿をしないし。

魔法学校(?)で忙しいにしても遅い。

名無し

あー前は対立が多すぎたし投稿がイヤになったんじゃね。

名無し

それあるかも

名無し

初めの注意書にもあるけど、お前ら嘘と思つてもなるべく本当だつて体で話せよ。此処はそう言うスレだからな。対立とかしたいなら別に用意してあるスレに行けよ。

名無し

おかのした

名無し

まああんまりふざけた奴はナゼか、このスレから消えるつて謎現象が起きるし大丈夫

でしょう。

名無し

え、なにそれ怖い。

名無し

それスレに投稿が出来なくなるの？

それともまさか投稿者が物理的に投稿できなくなつて……

名無し

気にするな気にしたら負けだよ。

名無し

ね……ネギさん来ないなー

名無し

暇なんで前スレのまとめでも出してみる。なんか前のスレを見れない人も居るみたいだし。間違えとかあつたら書き直してね

名無し

このスレの投稿者のネギさん2×歳の頃、スーパー帰りの記憶を最後にイギリスにある魔法使いの住む田舎村に何でか転生した。ネギさんとは転生後の名前らしい。

名無し

魔法使いの居る世界に転生かあ。

住んでる所はイギリスらしいし地球ぼいけど、転生したの魔法の存在する平行世界みたいな感じかね。

名無し

其れにしてもネギって名前はひどい。

イギリスでもこんな名前は無いよな？

ネギって名前を付けた親の顔を見てみたい。

名無し

判ってて言ってるだろ。

転生したネギさんには親は居らず主に従姉妹の姉と村人に育てられたそうだ。

名無し

従姉妹と村人にか。

暖かい感じとキツイ生活どちらも想像できる。

名無し

ネギさんが言うには大切にされてるのかぞんざいに扱われてるのか意味不明だったそうよな。

名無し

書かれてる内容を見返したら虐待ほいと思うけど、特に幼児を家に一人で住ませるって酷い。

名無し

ネギさんの中身が大人だから問題ないだけで日本だと余裕で通報案件。イギリスでもアウトだろ。いや魔法使い繋がりでハリー・ポッターを思い出すとイギリスだとセーフなのか?……虐待案件にならないとしても大切にされてるとは思えない。

名無し

けど大切にされてるみたいな書き込みも同時にあっただよな。虐待みたいな扱いとギャップが有りすぎる。

名無し

地域の風習というのもある。

その地域の風習の仕方です虐待と思うのも子供を大切にしているって可能性もあるんですね。

名無し

風習ね。田舎とかとんでもない風習があるとか聞いたことあるし有り得るか?ネギさんの転生したのド田舎らしいし。

名無し

そう言えばこのイギリスの村はマジでド田舎でネットも通って無いんだよな。ネギさんが生活が不便と嘆いてた。

名無し

ん？じゃあネギさんこのスレはどうやって立ててるんだ。ネットなきやパソコンとか無理だろ。

名無し

二、三歳の頃に自分だけが見える謎のスマホを使えるようになり、ネギさんはこのスマホでスレ立てをしたそうだ。

名無し

スマホ？

名無し

なんぞ

名無し

小さいパソコンみたいな物らしい。

名無し

なにそれ欲しい。

名無し

今の携帯の進化版みたいなかね。

名無し

どんな進化だよ（笑）

名無し

というか二、三歳の頃になんでそんな物が手にはいつてんの。魔法みたいなもの？

名無し

転生だし神様転生の特典みたいな物なんでね？

名無し

神様転生で、最近SSで流行ってる設定だったか。神様が転生させてくれて特殊な能力やらスゴいアイテムをくれるみたいな。

名無し

神様から貰ったのがスマホ……そんなスマホってヤツから書き込んでるから、このスレで謎の現象が起きてるとか言われたら納得しそうだなー。

名無し

神様転生の特典としたらそのスマホって一体なんだろう。スタンド能力？

名無し

議論は別スレに行って来るように。

名無し

サーセン。別スレにいつてきます。

名無し

話をもどしてスマホでネットが出来たようになったから、ネギさんは早速安価で相談しにきたわけだ。

名無し

相談はわかるけど安価は可笑しい。

名無し

安価も入ってるのはド田舎の村過ぎて暇だから安価で遊びたいかららしいよ。

名無し

それメイン暇潰しじゃね。

名無し

一回目の安価は三択。

ネギさんがこれからやること。

- 1、幼児らしくお姉さんの家に泊めてもらう、
- 2、幼児らしくお姉さんにセクハラ、
- 3、生前の親の事を聞く。

下コンマ1〜4は選択肢1、5〜9は選択肢2。0の時は選択肢3。

名無し

おい！この幼児中身変態だww

名無し

初めの犯罪安価は無しとは一体……

名無し

幼児なら犯罪でないです○

名無し

うわああ

名無し

1は2の選択肢がなきや普通に見えるんですがねー。2と合わせて見るといかがわしい。

名無し

ネギさん欲望全開だな。

名無し

唯一問題ない3の確率

マトモな選択肢は選ぶ気ないだろww

名無し

因みにこの時はコンマ0にヒット。

つまり選択肢3だ！

名無し

ざまあ

名無し

確率に愛されてますねー

名無し

ネギさんが親の事を訊ねて回った結果。

父親は英雄だったそうです。母親は不明。

名無し

英雄の息子って良い立場だなー。

名無し

お父さんはどういった英雄かなー。

名無し

英雄と言えば、洋画のアクション映画に出る犯罪組織を潰す主人公みたいな感じかな。

名無し

”戦争”の英雄らしいですー。

名無し

ヤダーー

名無し

多くの人に怨まれてるフラグですねわかります。

名無し

わああイヤな立場。

名無し

父親は戦争の英雄で母親不明……ワクワクしますねー。

名無し

何をワクワクしてるのか……。

名無し

何処の戦争に参加したん？

もしやネギさんの世界は第三次が勃発したみたいな世界？

名無し

地球とは別のところにある魔法世界の戦争らしい。

名無し

魔法世界なのに戦争が起きてるって夢も希望もないなあ。

名無し

父親の戦争での戦果が最低でも万な桁で、ネギさん本気で命の危機を感じてるみたいなコメントをしてたな。

名無し

……お父さまは魔王？

名無し

これは怨まれてなきや可笑しい。

名無し

で、ネギさんの安価。

1、魔法学校に行き早急に身を護れるぐらい強くなる

2、死ぬ前に童〇を卒業。従姉妹のお姉さんが寝てる内に……。

名無し

おい待てコラ！

選択肢の2！

名無し

命の危機に便乗して最悪な事をしようとしてる。

名無し

ネギさん曰く二回も未経験の内に死ぬのはイヤだと。

名無し

そう言われたら……いや！やっぱダメだ！

名無し

因みにこの時の安価は2に

名無し

うわあああ

名無し

安価は2に決まるも。

しかし致命的な問題をスレ民から指摘される。

名無し

ネギさんのネギさんは年齢的に使用不能

名無し

ぷっ

名無し

ネギさんの嘆きのコメントには思わず涙が。

(笑いで出た涙)

名無し

そしてネギさんは(童〇の卒業のために)何としても(出来る年齢までは)生き残ろうと決意したんだよな。

名無し

○の中身が最低すぎるww

名無し

復讐は何時くるかわからない。強くなるのは早い方が良い。ネギさんは強くなるために魔法学校に突入したそうだけど、年齢的に無理と言われたそうだ……

名無し

また年齢が立ち塞がるのか!

名無し

中身はともかく幼児だしなあ。

名無し

ネギさんは其処で安価。

1、相手が根負けするまで魔法学校に諦めずに突入。

2、魔法学校の校長の弱味を握る。

3、従姉妹のお姉さんから魔法を習う。

名無し

質悪い幼児だな!!

名無し

3は一見普通ぽいけど……お前そのお姉さんに何しようとしたよって言いたいな。

名無し

あとお姉さんの他にも魔法使いなんだろう？

なんでお姉さんだけだよ。

名無し

村に綺麗なお姉さんが従姉妹だけなんだろう。言わせるなよ。

名無し

で、安価の結果は2。

名無し

あーまあ他よりはマシなのか。

名無し

けど校長の弱味とかどうやって握るんだ？魔法学校の校長って事で想像だとダンプ

ルドアみたいな人物が出てくるんだけど。

名無し

うん……英雄の息子で復讐で危険がマツハで命の危険って可能性と、魔法学校に保護した方が良いな。万一の時の責任は校長だろうな。少なくとも校長のせいだって遺書を書いとうかな……と言う内容を遠回しに言い続けたそうさ。

名無し

うわあそんな事を言う幼児ってイヤだわ。

名無し

てかそれ弱味じゃなくて脅迫じゃない？

名無し

脅迫がうまくいったのか無事に魔法学校には入学したそうさ。前スレの内容はこんな感じ。

名無し

説明感謝です

名無し

振り替えると……やっぱりマトモに相談してないな！

名無し

魔法学校に入学しても強くなんの？

魔法を使うの年齢的な問題があるとかないん？

名無し

ネギさん曰く本来はあるそうなんだけど、ナゼか問題なく使えたそうだ。魔法学校ではやはりナギ（ネギさんの父親）の息子だな。バグってるなと賞賛されてるそうだ

名無し

それ賞賛されてる？

ネギマスレに

『日本人（2×歳）が気付くとイギリスのド田舎に転生してた誰か安価で相談に乗ってください5』

名無し

前が10000を越えたんで代理でスレ立てします。

前スレーーーー

前々スレーーーー

前前々スレーーーー

前前前々スレーーーー

『日本人（2×歳）が気付くとイギリスのド田舎に転生してた誰か安価で相談に乗ってください4』の新スレです。

スレ立て民の名前は『ネギさん』

スレのルールは喧嘩などせずに仲良く。

安価は絶対。（犯罪系安価は無し）

タイトル詐欺あり。

投稿者の話は本当だと思うこと

議論は別スレで

魔法などファンタジー要素あり

以上を了承してゆっくりしていつてね！

名無し

このスレが5まで続くとはたまげた。

名無し

今回は待ちに待ったネギさんの魔法学校の卒業式。

名無し

ん？いや、まてまて。

たしか一月前にネギさんが2歳か3歳の時に脅迫して入学したんだろ

名無し

改めて言葉にすると全てが意味不明。

特にネギさんの年齢。

名無し

この書き込みだと3歳にして学校卒業ってことなるよなー。けど違うんだけど。待てとか困惑してる人はスレの2辺りまでしか見てない？

名無し

確かに2辺りだけど、別に内容を見てなくても入学は一月前なのは間違いないだろ、流石に三才ぐらいで卒業はおかしい。

名無し

間違ってるんだよなあ。

名無し

どこが

名無し

此方だと一月だけど、ネギさんの所だと何年も経ってるそうでネギさんは9才になつとるんだよ。

名無し

一月で六年つ経ってるって事？

いやいや可笑しい。

名無し

可笑しいけど、たまに送られてくるネギさんの映像を送られた順に見ると、急激に成

長しくてネギさんが見れるし信じる他ない。

動画だけを集めたの有るから見ても

名無し

ミニチュアサイズのネギさんがすごい速度で成長してる。うわなにこれ気持ちわる

名無し

気持ち悪くありません！

順調に食べ頃の美シヨタになってでしょ！

名無し

うん……うん？

名無し

へ、変態だー。

名無し

変態と言えば……ネギさんの従姉妹さんってどうなのか

名無し

ネギさんが遂に従姉妹に何かやった!?

名無し

え？ネギさんが遂につて……あー年齢でも驚いてた2から見えない人ですか。

名無し

2以降には毎回あった従姉妹さんへのセクハラ関係の安価がいきなり無くなりましてよ。ネギさんは変態行為はしてない。

名無し

ネギさん”は”?……では変態というのは?

名無し

その……従姉妹さんの肉体的な接触が増えた。従姉妹が気付くと布団に入ってくる。従姉妹がよくキスしてくる。等々ネギさんの書き込みがありましたね。

名無し

それは、外国人的なスキンシップでは。

名無し

上げられた映像のなかにたまたま映りこんだ従姉妹さんの映像有りましたが……ネギさんを見る目線が捕食者の目でした。

名無し

俺も見たけど、サメとかそんな感じの目だったなあ。

名無し

変態というより肉食系。

名無し

その狙われてる肉が五歳のシヨタなんで変態です。

名無し

そんなまさか……と思ひ映像を見てみたら、ネギさん逃げてー……!!!

名無し

大丈夫、ネギさん従姉妹さんがもう我慢できないとか言ってるのを聞いた後には、魔法学校に引きこもってますから。魔法学校で学んで強くなつて身を護ろうと頑張ってるんですよ。

名無し

…身を護る相手が復讐狙いから従姉妹さんになつてませんかねえ。と言うかネギさん的にはダメなんですか。エロ安価ばかり出してたのに、

名無し

ネギさんⅡ童貞、

前世の年齢も合わせたら魔法使い。

機会があつても怖くて逃げる。

結論としてヘタレなんでしょう。

名無し

セクハラ安価は頻繁にするんですけどね。

名無し

自分から行く||いざとなると尻込み

向こうから来る||怖くて無理

あ、これは二度目もダメだな感。

名無し

ネギさん見たら悶絶しちゃう。

名無し

いやいや……ネギさんの年齢的にしかたないのでは？

名無し

話を覚えて二までしか見てない人が居るみたいですし、その人の為に魔法学校での事を簡単に話しましょう。このスレ、過去スレとかナゼかリアルタイムで見えない人は見れませんか。

名無し

前スレ見れないのは不思議だよなあ。

名無し

説明おねげえしまあす。

名無し

魔法学校に入学したネギさんは先ずは基本的な魔法知識と魔力の制御を習得したそう
うだ。

で、基本的な事を学んだ後には休憩時間や放課後にどんな事をするか安価。

1、オリジナル魔法を習得。

2、魔法学校の可愛い女子の先輩になつてもらい練習。

3、女子更衣室に間違えて入り込む

名無し

2の時とほぼ変わってないな。

肉体年齢（三才ぐらい）を考えると微笑ましいのに中身を考えるとゲスい。

据え膳から逃げたヘタレの癖に。

名無し

ネギさんはヘタレの癖にエロ心は強いんです。

名無し

しかしエロ安価にいざ当たるとほぼ途中でヘタレる。例えば上の安価の3の更衣室
だつたら誰も着替えてない時に入つて逃げますよこのヘタレ

名無し

ヘタレヘタレ言うなよ

名無し

まあこの時の安価は3でなく1のオリジナル魔法習得でしたが。それでどんな魔法を習得するかも安価。

名無し

オリジナル魔法ってそんな簡単に出来るもの？

この時は基礎的な事しか学んでないんやろ。

名無し

基本的な魔法を学んだ後のネギさん曰く、呪文、スペル（力ある言葉）と精霊の力と魔力を組み合わせたら魔法に成るらしいので、頑張ればオリジナル魔法も出来るかもとの事です。

名無し

魔法とか知らないけど無理そうですねえ。

名無し

因みに安価で決まった初のオリジナル魔法は魔法使いと言えば此れって感じで、テレポート。

名無し

絶対に難易度高い！

名無し

しかし！ネギさん一週間後に習得しました！

ネギさんはオリジナル魔法を習得したら動画をのせる事につて事で、動画はこちら

名無し

うわ、ネギさんが消えて一瞬で移動してる！……てスゴいけど、テレポートの魔法って普通になかったんです。王道そうなんです

名無し

あー其処に気づいちゃう………実はあつたそうです。

名無し

スレがネギさんのオリジナル魔法完成！歴史的な偉業！と意味不明な勢いで盛り上がった所に、レポートがあつたと言うネギさんからの報告、スレにやってきた微妙な空気は必見。(・ω・)

名無し

リアルタイムで見てないからそのスレは見れねーんだよ(憤怒)

名無し

レポートとかそんな即席で出来るものじゃねーよと、魔法学校の教師にドン引きされただけの結果になったそうです。

名無し

ドン引きされたのかー

名無し

少しガツカリしたそうですが、もしもの時の逃げる手段は確保できたからOKなそうですけど。

名無し

懲りずに次に習得する魔法について再度の安価。

名無し

この次のが正真正銘のネギさんのとんでもオリジナル魔法ですよ。安価のお題として来たのが。

影分身の術

名無し

忍術じゃねーか！

名無し

魔法使いを忍者にしようとする陰謀を感じますねえ。

名無し

ネギさん本人はノリノリで影分身を魔法で再現したオリジナル魔法(○)を作製。

名無し

製作期間は一年だったそう。

長い。

名無し

ただ一年掛けただけありこれが実に壊れ性能。

名無し

知識などは本体と同等、魔法や身体能力は本体の8割ほど。銃弾ぐらいの攻撃を受けると消える。込めた魔力が無くなった場合も消える。力を使わなければ数日は行動可能、本体から2キロほどしか離れられない。分身は消えた時に此までの経験を本体に戻す。ネギさんは現状で1000体ほど運用可能。

名無し

うわあマジで壊れ性能そう。

名無し

それより1000体？

名無し

動画ありますが※注意

名無し

ひいひい!!た、大漁のネギさんが。

名無し

視覚的に恐ろしい

名無し

数の暴力で絶対に勝てますね。

名無し

ノンノン影分身の本領は数の暴力でないんですよ。

1000体運用可能とかの前の方をウオツチして。

名無し

前って経験を戻す……ですね。

役には立ちそうですが数の暴力に比べたら。

名無し

いやいや!考えてください。

分身の一人が1000回の腕立て、分身の一人が腹筋1000回、分身の一人が魔法練習、分身の一人が勉強。分身が消えればこの経験を全て本体が習得して強化される。

そんな本体が分身をすれば本体に引つ張られて強化された分身が完成する。そして分身がまた同じ訓練をすれば……。

名無し

お、おおう確かに数の暴力より恐ろしく便利な効果かも。訓練とか修行にはこれ以上ない魔法だな

名無し

実際にこの影分身で学校中の知識を調べ尽くしながら魔法の習得も並行。数日でやり尽くしたそうだ。

名無し

全部この忍術、もとい魔法があれば良いのでは。

名無し

此だけ便利だとデメリットとかは？

名無し

デメリットは……経験の全部が反映される事なそうですね

名無し

それメリットなんじゃね。

名無し

反映されるの疲労とか痛みの経験もですよ。

名無し

つまり調子にのって1000人で運動したりしたら。

名無し

疲労、痛み×1000

名無し

因みに学校の資料を漁ったり魔法の訓練をしたりを多数の分身で数日ほどした結果、
身体がブシャーってなったそう。

名無し

……………うわぁ

……

名無し

(祝) ネギさん無事に卒業！

名無し

9歳で学校卒業って早いなあ。

名無し

いえ9歳の前から能力とか知識的な事はだいたい前から卒業に届いてたそうなんですが、ネギさんを世間に出したら危険だと多くの教師たちは反対してたそうですね。

名無し

世間にだしたら危険と全力で止める教師、ネギさんは自分の事をそんなに心配してくれてると感激してましたね。……危険の対象の認識が違う気が。

名無し

それにしても卒業かー

スレ的には一月だけど感慨深いなあ。

ネギさんが逮捕されずに卒業出来るなんて予想外だ。

名無し

安価のオリジナル魔法で色々やらかしたもんな。

海がボガーーンとか山がチュドーンとか。

名無し

擬音にすると可愛いなー。

映像にすると大怪物が暴れると言う……魔法使いつて恐ろしいなあ。いやネギさんが恐ろしいのか。

名無し

結界って本物とは違う世界でやってたそうですが、現実ならヤバすぎです。軍隊が出動してるでしょ

名無し

もし軍隊が出動したら

軍隊VS ネギさん

勝つのは？

名無し

ネギさん（即答）

名無し

ネギさんに決まってるわ。

名無し

世界はネギさんに平伏すしかないのだ。

名無し

真面目に此方の世界全部の軍隊とネギさんが戦った所を想像しても……テレポートと分身のコンボだけで終わりそう。主要な所を一方的に潰されて終わりになる。

名無し

真つ正直からでもネギさんが勝つと思う。

名無し

ネギさんが身を守ろうと努力したら大魔王に進化してた件。

名無し

信じられるかまだ9歳なんだぜコイツ

名無し

いや分身の経験含めたら前世抜きにも結構な歳に

名無し

卒業試験がまだ有るみたいですけどね。

名無し

なああの卒業試験マジか？決めたヤツは正気か？日本に何か怨みでもあるのか？

名無し

イギリスの魔法学校なのに日本で試験だっけ

名無し

いや試験はまだ良いよ。

なんで卒業試験に日本の麻帆良に教師として赴任なんだよ！可笑しいだろ！！何処に

魔法使いの卒業試験の要素があるよ！！と言うか教師資格もない（外見）9歳が教師とか

日本の教育制度まるつきり無視か！

名無し

まあまあ魔法があるファンタジーな世界ですし。9歳でも教師なのはOKなんじゃない？

名無し

……あー……そっか常識が根本的に違うのか。

スマナイ、いや私の住んでる所も麻帆良って名前で思わず興奮してしまっただよ。

名無し

イギリスとか日本もそうだけど魔法とか除いたら同じなんだな。それにしても麻帆良かー有名な所に住んでんね

名無し

有名かー………どういう意味で有名か聞くのイヤだなー。

名無し

イヤなのかw

麻帆良って常識がブツ飛んでるみたいな話も聞くし案外ネギさんが来たりしてな、

名無し

アハハ、流石にねーよ。

ネギマスレさん

『日本人(2×歳)が気付くとイギリスのド田舎に転生してた誰か安価で相談に乗ってください6』

名無し

前が10000を越えたんで代理でスレ立てします。

前スレーーーー

前々スレーーーー

前前々スレーーーー

前前前々スレーーーー

前前前前々スレーーーー

『日本人(2×歳)が気付くとイギリスのド田舎に転生してた誰か安価で相談に乗ってください5』の新スレです。

スレ立て民の名前は『ネギさん』

スレのルールは喧嘩などせずに仲良く。

安価は絶対。(犯罪系安価は無し)
タイトル詐欺あり。

投稿者の話は本当だと思ふこと

議論は別スレで

魔法などファンタジー要素あり

以上を了承してゆっくりしていつてね!

名無し

スレ立て乙ですー

名無し

これで6スレ目か。

此までを思い返すと……安価スレなのに安価ほとんどしてないな

名無し

しっ!!言っちゃだめよ。

名無し

スレ主のネギさんは相変わらずスレの初めの方には来ないなあ。

名無し

あれ随分とスレが落ち着いてる。

名無し

前回のスレは混乱のまま終わりましたしね。冒頭からまた混乱するとばかり。

名無し

前回のスレ見てないので説明キボンヌ

相変わらずこのスレはリアルタイムに見てないスレに入れない。この仕様誰が特
するの。

名無し

前回を纏めるとネギさんの魔法学校の卒業式。

卒業試験で9才にして麻帆良学園の教師をすることに。さらに数週間後に麻帆良住
人さんがネギさんが麻帆良に来た！とかコメントがきて。他のスレ民も巻き込んだ大
混乱。大混乱のままスレ終了

名無し

前回は随分と面白いことになってたほいね。

ただ9才で教師もだけど、……麻帆良に来たってどういうこと。ネギさんが居るの違
う世界の日本なんでは

名無し

実はネギさんの転生したのは別世界でなかった！……って疑惑がでたの。この混乱

については議論スレでまだ続いてるよ。

名無し

まあ” ちうさんの ” 冗談でしようけど。

ちうさん

冗談じゃねーよ

名無し

あ、麻帆良在住のちうさんこんちは

名無し

こんちは

名無し

おうネギさん以外はこのスレだと名無しになるのにネームが付いたちうさんだ。こ

んちは

ちうさん

ちうさん言うな……つて、また出てる！

わ、私なんもしてないのに何で名前が出てるんだよ。て！そもそも！もうこのスレに来たくないのになんで私は来てるんだ!? スマホみたいなのも手元にあるし。本当になんでだ!? なんだよ！ネギさんの呪いか呪いなのか!?

名無し

あら前スレに引き続きちうさんだけは、大混乱。

名無し

書き込んでるし冷静なんでない？

ちうさん

冷静じゃねーよ。声にししか出してない事が勝手に書き込まれてるんだよ……つていつてもどうせ信じてくれねえんだろ。あり得ねーよ。どうなってんだよこれ。怖いんだよ。

名無し

ちうさんがまた錯乱

本当ならホラーだけ……

名無し

流石に無いだろ……ないよな？

名無し

ウーン冗談とは思うけど思わず本当かとも思えてしまう。なあ仮にちうさんが言うてることは本気で、ネギさんがこの世界の麻帆良に本当にいたと考えたらどうなる。

名無し

仮に本当だとしたら？

議論になるかもしれないけど、ネギさん来るまで暇だし良いか。

ネギさんはこの世界に転生してる設定だよな。先ずネギさん達みたいな魔法使いが居るってことになる。けど俺たちは魔法使いなんて居ると知らない。ということは魔法使いは存在してるけど魔法は隠されてるって事になるな。

名無し

まあそうなる。たぶん魔女狩りとかそんなのがあったから隠されてるとかか。

名無し

そもそも結構前のスレでネギさんがその辺りの事を言ってたろ。魔法は隠さなきゃいけないとか。転生したイギリスの村は魔法使いの隠れ里とか。

名無し

あーそう言えばあったな。

動画投稿してるネギさん欠片も魔法を隠してねーけど、まあ此方が別世界と思って問題ないと思ってたんだろうけどな

名無し

確かに他のコメントにもネギさんも俺たちの方は別世界と思ってるんだよな。

話は少し戻して、イギリスの田舎の村みたいに魔法使いの集落みたいなのが存在す

るって事を考えると、魔法使いの集落みたいなのは他にもあるかも。

名無し

麻帆良がその一つ。

ただ隠れ里と言うのか、ギネス申請待ったなしの世界樹みたいな木が堂々とあつたり、ぬらりひよんが麻帆良のトップで隠してるのだろうか？ってネギさんが言つてたな。

名無し

ちうさん

……おおう

名無し

麻帆良にそんなのあんの？

名無し

いやいやそんな物が本当に麻帆良にあるなら騒がれてるだろ。

名無し

麻帆良の人間は皆魔法使いとか。

名無し

それは無いだろ。外部から麻帆良に人も入れるしな。麻帆良の学園祭の時に一般人

な俺とか行つたこともるし。そもそも麻帆良在住なのにネギさんみて発狂したちうさ
んとか居るし。

ちうさん

発狂いうな……

名無し

そうだよな。ならどうして騒がれないんだ。

名無し

どうしてて……あー…認識を阻害する魔法が掛けられてるとか？特定の事には気付
けないみたいな。異常なのがあつても気づかなきゃ問題ない、

名無し

異常なのを認識できない様にするみたいな魔法が麻帆良に掛かつて誰も気付かな
いってこと？

名無し

それが本当ならコワイな。

知らない内に洗脳されてるようなモノだろ

ちうさん

(一一。D)

名無し

ナイナイ、何れだけ大規模な魔法だよ。少なくとも麻帆良とその周辺がその魔法の効果範囲でないとダメだろ。そんな魔法が使えるなら魔法使いが世界の占領でもできるだろ。

上のちうさんはなんだ。

名無し

もし認識を阻害する魔法があるなら俺たちの隣にも気付いてないだけで……つて事が有りえるつてことだろ。怖すぎる。

名無し

深く考えるとちうさんみたいに発狂しそうだしやめやめ。

それより前回のスレでちうさんの巻き起こした大混乱でとんでもない問題がスルーされてた事が気になる。

名無し

あ、確かにとんでもない事が書かれてる。

名無し

なになに！なにが書かれてたの！

前回見てないから教えて！

名無し

ネギさんが魔法学校の試験で教師になったろ。

前回のちうさんの大混乱を巻き起こしたコメント

私のクラスにネギさんがきた!?!嘘だろおいここ女子中学だぞ!?!いやいや女子中学とかそんな問題じゃない!な、何でネギさんが現実にいるんだよ!?!って感じ。

名無し

女子中学とな!!

ネギさん女子中学の教師になったのか!

名無し

ふああ!?!中身オツサーーンなネギさんをなんて所に!?!

名無し

いやそれよりちうさん……

名無し

ちうさんがどうしたって……あ、私のクラスに

名無し

ええ、ちうさん……

ちうさん

そ！それより！ネギさんのことだよ！

不味いんだよ。麻帆良にきたネギさんにナゼか部屋がなくて女子中学生の部屋に泊まってる……。

名無し

ええなにそれ。

名無し

羨ま、けしからん！

名無し

そう言えば結構長いことネギさん本人の投稿が……なにかしてるとか

名無し

おいおい！ヤバイ。ヤバイだろ！

ちうさん

あ、いや……泊まることになってるんだけど、ネギさん逃亡して野宿してるみたいなんだ。

名無し

……ヘタレでしたね

名無し

お前そんなだから前世が童貞なんだよ（称賛）
名無し

で、不味いことって野宿のこと？

まあ担任が野宿とか嫌だろうけど、不味いとは違うんでは。

ちうさん

その野宿の事を知って委員長が自分の部屋に泊めるって力説してるんだよ。ネギさんヘタレだから迫られて折れる寸前。今度は逃亡も出来そうにない。

名無し

今度はマジで泊まることになってるのが不味いと

名無し

あ、アハハハ、まあネギさんは変態ですがヘタレですし女子中学生の部屋でも大丈夫でしょう。

ちうさん

……………委員長がシヨタコンなんだけど大丈夫かな？

名無し

やべえ

名無し

不味いつてクラスメイトの方かよ！

名無し

やーいお前のクラスの委員長シヨタコーン。

名無し

シヨタコンだからってそんな変なことほしない、やる？

ちうさん

スマホで撮った動画あげるぞ。

これみても大丈夫と思うか？

名無し

この子が委員長さん。可愛い……けどネギさんを見る顔がなんか前に見たネギさんの従姉妹さんの顔にとても似てんな。死んだ目のネギさんを抱き抱えてる姿はまさに……事案。

名無し

逃げてーネギさん逃げてー。

名無し

ダメだもう完全に目が死を受け入れている。

名無し

な獣だろ、私は一般人なんだよ。なんでこんなの持つてるんだ。てかスマホとか部屋に置いてきたのになんで手元にまたあるんだ。あーうるせーわかったよ。ネギさんを助ければ良いんだろ。

名無し

うわ、これ……やばくない

名無し

どうすんのこれ

ドラゴンボール？

1：緑の方（スレ主）

相談したいんだが、先ず見えてるかわからない。これが見えてるなら…見えてますよ！おのれベジータめ！、ギャルのパンティーおくれ！、ぱ、パフパフ、この中から好きな言葉を選んでで元気良く返事を返して貰いたい。見えてるかな？

2：名無しのスレ人

どういうこと？

まあとりあえず

ギャルのパンティーおくれ！

3：名無しのスレ人

俺もギャルのパンティーおくれ！

4：名無しのスレ人

ぱ、パフパフ

5：名無しのスレ人

ギャルのパンティーおくれ！（〇ヨちゃんの）

6：名無しのスレ人

ば、パフパフ（イ〇ちゃん希望）

7：名無しのスレ人

え!!!
パンティーを……ギャルのパンティーを!!オラにパンティーを、おく……れええええ

ー

29：緑の人（スレ主）

あー……見えるのはわかったから、返事はもう結構だよ。本当に返事が来るのか。

30：名無しのスレ人

ギャルのパンティーを！おくれ!!（ミン〇ちゃんの！）

31：名無しのスレ人

開始五分でパフパフとパンティースレと化して草

みんなノリいいな！

32：名無しのスレ人

おでれーたぞ……まさかこんな変態が居るなんて

あ、よく考えたらここ変態の巣窟だわ

33：名無しのスレ人

ねえねえスレ主、ドン引き？ドン引き？

37：名無しのスレ人

俺達は悪くねえ！変なフリをしたスレ主が悪いんだ。

38：名無しのスレ人

あんなレスでよく返事が二桁もきたな。

と言うかスレ主、スレタイも無しにどうやってスレ立てしたん？

40：緑の人（スレ主）

ベジータめ！で埋め尽くされてない事もなんだが、レスが多いことに驚いたよ

………過疎でないんだな。何処に繋がってるのか。

まあそんな事より見れるなら相談にのって貰いたいんだ

41：名無しのスレ人

おう此処で相談するとか危篤だな。

コメがマジで可笑しい

42：名無しのスレ人

相談なら相談版に行け。

：緑の人（スレ主）

ふむ：わかった行ってみる。いけるかな。

44：名無しのスレ人

え、本当に行くの

53：緑の人（スレ主）

ただいま、言われた通り相談スレで相談したら酷い反応をされた。私は真面目に相談したのに医者を紹介されたよ。

54：名無しのスレ人

ええ真面目に相談して医者とか酷い。

55：名無しのスレ人

何を相談したん？

58：緑の人（スレ主）

ただ転生して何だからんだありドラゴンボールの世界に居るからどうしようと書いてただけだぞ？

59：名無しのスレ人

病院行け

60：名無しのスレ人

そら（精神科の医者）紹介されるはな。

相談スレの人酷くなかった。

61：名無しのスレ人

ネタフリ乙

62：緑の人（スレ主）

いや、ネタでないんだが…まあ良いか。とりあえず、ネタと思ってくれても良いが本当にドラゴンボール世界に居るといって相談を受けて貰えないか？。

63：名無しのスレ人

いいよー。

64：名無しのスレ人

スレタイは『転生してドラゴンボール世界に居るんだけど相談にのって』かな。

こう言うネタスレちゆき

67：名無しのスレ人

伝説のスレになる匂いがするだど……!!

68 : 名無しのスレ人

途中でエタになりそうな匂いしかしません

69 : 緑の人(スレ主)

ありがとう受け入れてくれ。なるべくエタらないように気を付けるよ。

それから此れから何があっても責任を君達にも別けられて嬉しいよ。

70 : 名無しのスレ人

うん?

73 : 名無しのスレ人

なにか不穏な事を言ってる?

74 : 名無しのスレ人

スレ主はドラゴンボール世界に居るんだよね。

どの時代に居るのかな?それと現在地は?

ドラゴンボールの転生モノはよくあるけど、どの時代のどの場所でもイヤな所ばかり

な気がするんだけど、いい所に居る?

75 : 名無しのスレ人

良いところね……考えてみたけどDB世界で産まれたい場所とか何処にもない件。

76 : 名無しのスレ人

オススメ、ツフル人で将来惑星ベジータに成る星。

77 : 名無しのスレ人

完全にアウトな所じやねえでか！

78 : 名無しのスレ人

見なさいザーボ○さん、綺麗な花火になる星ですよ

79 : 名無しのスレ人

フリー○さま、ネタバレしないでください。

80 : 緑の人(スレ主)

場所は地球な事は確かと思う。時代は不明。

81 : 名無しのスレ人

うわぁドラゴンボールの地球って

82 : 名無しのスレ人

宇宙で一番環境の整った星

あと原作一番の激戦区(白眼)

84 : 名無しのスレ人

原作時なら一般人だと詰んでる。

85 : 名無しのスレ人

スレ主は一般人な設定？

86 : 緑の人

分類としては……一般人ではないな。

88 : 名無しのスレ人

そりやドラゴンボールの地球に転生してこんなスレを立ててるなら一般人なわけないな。神様転生って設定やろ。

89 : 名無しのスレ人

転生特典は別世界にスレを立てる能力？

92 : 名無しのスレ人

スレを立てる能力でドラゴンボール世界に送られたら神様へのぶちギレ不可避。

93 : 緑の人（スレ主）

まあ、そんな能力でドラゴンボール世界に送られたら絶望するな……。

94 : 名無しのスレ人

スレ主のスペックどんなんもん？

最強（笑）のチャンピオンぐらい？

96 : 名無しのスレ人

チャンピオン舐めんな。あの人地球を救ったんやぞ

97：名無しのスレ人

地味に地球人で一回も死んでないのあの人だけやつけ。

99：名無しのスレ人

格闘技の世界チャンピオンは原作屈指の勝ち組。

100：緑の人（スレ主）

…ならば負け組なのか。まあスペックは良く判らないが、ソコソコ強いと思つてくれ。

101：名無しのスレ人

ソコソコ…：天下一武道大会で言えば誰ぐらい？

103：名無しのスレ人

イザーサちゃんぐらいかな

104：名無しのスレ人

バクテリアぐらいじゃね

106：名無しのスレ人

何とも言えないキャラを出すの止めてもらえませんか？

107：緑の人（スレ主）

…：孫悟空ぐらい

108：名無しのスレ人

ふぁww見栄をはるのもダメだよ

109：名無しのスレ人

まあ初期の悟空並な戦闘力ぐらいなら許してやろうよ。

111：名無しのスレ人

許すつてなんですかね。

113：名無しのスレ人

初期悟空の戦闘力があるならドラゴンボール世界も何とか生き抜けられる？ 厳しいかな。

114：名無しのスレ人

残念なことに初期悟空だとカスみたいなモノで無理どす（無慈悲）

115：緑の人（スレ主）

いや初期でなく終盤ぐらいと思う

116：名無しのスレ人

そんな贅沢はいけません（戒め）。

118：名無しのスレ人

強すぎる設定面白くない。グダグダ展開の元。

強さは初期悟空ぐらいで始めよう。

119：緑の人（スレ主）

……いや、まあ正確な強さも判らないからそれで構わないが。いい加減に相談に戻るが私はドラゴンボール世界で何をすべきかな？

120：名無しのスレ人

なについて……原作の場所を見て回るとか？

122：名無しのスレ人

ドラゴンボール世界なら修行やろ。

123：名無しのスレ人

修行なら師匠居ないとダメ。

ってことで亀仙人さまの所に行こう。やつぱり師匠と言えばあのエロ爺ですし。原作と掛け放れた年代でもないと思居るでしょ。

124：名無しのスレ人

いやいや！それならニヤンコ、いやカリン様の方にモフモフ、もとい修行しにいくんや！亀仙人より長生きしてるみたいだし今が何時でも会える！昔なら子猫なカリンさまに（恍惚）

125：名無しのスレ人

あの搭上の無理です……。

127：名無しのスレ人

天下一武道大会見学

128：名無しのスレ人

天下一武道大会で四年に一度だし開催まで待たなきゃいけない。

129：名無しのスレ人

あ、天下一武道大会が第〇回大会とかで原作の何時かとか判るやん。原作は第21回だけ。

131：名無しのスレ人

原作初期辺りは未開な感じですし知ってるか怪しい。亀仙人とかカリン様辺りを探して何時開催か聞けば確実。(時代だけなら普通に年代とか聞けば良いとか黙ってよ)

132：名無しのスレ人

未開とか馬鹿にすんな。亀仙人さまとかでなくても知ってそうだら。

133：緑の人(スレ主)

案を出してくれてありがとう。原作時期も気になるし私も亀仙人などには会ってみたいと思っていたから会いに行こうと思う!(ミーン)

だが場所が判らないので気が大きめの人間で探索してみるよ。

134：名無しのスレ人

へえ気の探索できる設定なんだ。

136：名無しのスレ人

ラディッツ方式の探索の仕方……………時期が時期なら戦闘力の大きい相手とか面倒な事になりそう

302：名無しのスレ人

凄いもの見た

304：名無しのスレ人

(悲報) 3連敗

305：名無しのスレ人

うゝゝんスレ主のクズ運

307：名無しのスレ人

スレ主ある意味運がいい？

《おさげに○殺とか書かれたピンク色のチャイナ服の男》《三つ目の子供》《鶴の帽子に鶴
○と書かれた服を着たちよび髭サングラス》鶴仙流3連チャン

309：名無しのスレ人

改めてみるとコスプレ再現度高くてww

全員マジで実写に居たらこんな感じって人達だわ。

311 : 名無しのスレ人

三つ目の子とかマジで生の目が額にある感じに見える。突つきたい。

312 : 名無しのスレ人

ははーん。こんなネタスレ作ろうとした理由はこの三人が知り合いに居たからだな。

313 : 名無しのスレ人

けどスレ主画像upしてサラッと流したよ。

315 : 名無しのスレ人

勿体ない。

316 : 名無しのスレ人

スレ主のレベルが低いのに無駄にクオリティ高い画像にビックリ!!したのに

318 : 緑の人(スレ主)

誰のレベルが低いだ。

それより四人目の原作キャラを見付けた。いや正確には四人目と五人目か。

319 : 名無しのスレ人

え、もう夜だから探すの止めるとか言っただけじゃなかった?

321：緑の人（スレ主）

私もそのつもりだったんだが変な気を感じてね。見に行ってみたらこんなを見つけた。ほら、また画像をupしとく。それと少しやることがあるので暫く反応できない。

《血塗れのチャイナ服の老人》《満月をバックにした巨大な大猿》

第58話

『ドラゴンボール世界に居るので相談相手求む2』

ルール

喧嘩禁止

雑談でスレを消費しない

スレ主に深く質問しない

1：緑の人（スレ主）

まったく少し抜けてる間に半分以上の前スレを雑談で潰すなんてな。新スレを立てる事になったよ。スレ消費には気を付けてくれよ。さて相談に戻らせてもらうよ。どっちが良いと思う？『原作破壊ルート』『原作遵守ルート』

2：名無しのスレ人

ちよつと待て！色々と待て！

3：名無しのスレ

新スレ立った……スレ主戻ってきた

4 : 名無しのスレ人

色々言いたいことがあるけど、先ず、あの！前の画像！……ど、どうやって撮ったの？

6 : 緑の人（スレ主）

ん？普通に頼んでだよ？二人ほど襲ってきたから返り討ち……説得してからの撮影だが。

8 : 名無しのスレ人

そっちじゃない！いやそっちも気になるけども！こっち『巨大な大猿』CGでないぽいんだけど！スレ主は特撮関係者!?

9 : 名無しのスレ人

猿もだけど暗くて見え難いけど下とかバックの自然とか作り物だろ。

11 : 名無しのスレ人

これ一枚に幾らお金と労力を掛けたんですかねえ（震え声）

13 : 緑の人（スレ主）

マクドナ○ドのスマイルと同じぐらいだな。

14 : 名無しのスレ人

0ゼニー（・▽・）

16 : 名無しのスレ人

嘘こけ!

17 : 名無しのスレ人

前のソツクリさんといいいスレ主のレベルに反して画像がスゴすぎなんだよ!

20 : 名無しのスレ人

画像で人が一気に集まったよな。

21 : 名無しのスレ人

血塗れの老人もリアルやった。

アレ大猿と出てきたって事は孫悟飯やろ。

22 : 名無しのスレ人

原作前に踏み潰す場面?

24 : 名無しのスレ人

あのさ、マジにスレ主はドラゴンボール世界に行ってるなんてことは

25 : 名無しのスレ人

(^ q ^) バーク

28 : 名無しのスレ人

三つ目と大猿で妄想を拗らせてる人が出てますねえ。

31 : 名無しのスレ人

投稿された画像とかスレ主さん可笑しいんだよ。所在地不明なんだよ。IDも無いんだよ。

32 : 名無しのスレ人

このスレ変だぞ。気付いてるだろ。

33 : 緑の人(スレ主)

そろそろ相談に戻っていいかな？

『原作崩壊ルート』と『原作遵守ルート』どちらが良いと思う？安価で←5

34 : 名無しのスレ人

いきなり安価はじまた!!

35 : 名無しのスレ人

え、ええ……遵守ルートで

36 : 名無しのスレ人

安価前に二つのルートの違いを説明してくれませんかねえ。とりあえず崩壊ルートで

37 : 名無しのスレ人

崩壊って原作改変？そっちの方が面白そうだから遵守ルートで

38 : 名無しのスレ人

おいおい面白い方じゃないのかww
崩壊ルートで！

39 : 名無しのスレ人

遵守ルート

40 : 名無しのスレ

突然だったのに安価決まった。崩壊ルート。

何を崩壊させるのね？

41 : 名無しのスレ人

40<<

ベジータとブルマのカップル

43 : 名無しのスレ人

トランクス「存在があ！俺の存在そのものがああ!!」

44 : 名無しのスレ人

ベジータって性格考えるとブルマとカップル不成立だと、たぶん結婚も出来ずに子供も出来ないよな。トランクス不在で未来編亡くなるね！

46 : 名無しのスレ人

大丈夫……ベジータはブルマのお母さんとカップル成立するよ！それで子供（トランクス）できるよ！

48：名無しのスレ人

アニメの描写的になんか有りそうと思っっちゃったじゃねーか！

49：名無しのスレ人

そ、それならトランクス産まれそう……かな？

遺伝子の繋がり的に

51：名無しのスレ人

やったね！（絶望の）未来編にトランクス居るよ！

52：名無しのスレ人

俺は20年前の浮気から産まれたトランクスだ！自己紹介はこんな漢字？

53：名無しのスレ人

浮気して出来た子供とか未来トランクスの絶望感が増すね！

55：名無しのスレ人

なのに原作通りブルマがトランクスを子育てする展開になると予感

56：名無しのスレ人

それブルマがトランク스에隠して自分が母親と嘘をついて、過去でトランクスが絶望

の真実を知るって展開が想像できたww

57：名無しのスレ人

トランクスの絶望の未来

過去も絶望なトランクス

62：名無しのスレ人

なんで皆の予想の中のトランクスは加速度的に不幸な事に成っていくん？

64：名無しのスレ人

これも全部ブロリーMADってヤツの仕業なんや

65：名無しのスレ人

アッチは空気にしてるだけだから優しい。

66：名無しのスレ人

ん？空気って誰だ？

67：名無しのスレ人

トランクス「はあ！」

69：緑の人（スレ主）

トランクス：会ったら優しくしよう（・ω・）

それと原作崩壊か。了解した。

では今から原作崩壊させるのに彼を連れてかりん糖まで行ってくるよ。見付けられるかな？ また少し間ばかり反応できないのでよろしく。

70：名無しのスレ人

かりん糖………に行く？

71：名無しのスレ人

カリン塔じゃね

73：名無しのスレ人

あー………誤字か。

76：名無しのスレ人

なんでカリン塔に行くことが原作崩壊？

77：名無しのスレ人

誰か連れてくみたいやけど誰を？

78：名無しのスレ人

タイミング的に大猿………悟空とかと会ってるだろうし。悟空？

80：名無しのスレ人

悟空連れてカリン塔。

原作より先にカリン塔に悟空連れて行って修行でもさせるのかね。

81：名無しのスレ人

悟空の強化か。原作崩壊しそうではあるかな。

82：名無しのスレ人

いやあのさ……血塗れの老人忘れてない？

83：名無しのスレ人

あ

84：名無しのスレ人

あー……老人、孫悟飯、大猿が出て血塗れって事は原作で踏み潰された時か。画像的には怪我してる様だけど亡くなってる……カリン塔行くの修行でなくて仙豆の方狙い。連れてくの孫悟飯、孫悟飯の治療のためか！、

87：名無しのスレ人

原作崩壊って孫悟飯生存？

88：名無しのスレ人

それなら良い原作崩壊だわさ。

89：名無しのスレ人

ちよつと待てそれが正しい予想なら……原作遵守選んでたら孫悟飯見捨ててた？

90：名無しのスレ人

…え↑遵守ルート選んだ

91：名無しのスレ人

デストラップかよ!?

92：名無しのスレ人

ドラゴンボール世界って悟空が一步間違えたら破滅って事もある…原作遵守もしかたないってことだ。

93：名無しのスレ人

ひでえ

95：名無しのスレ人

うーん、孫悟飯見捨てるのも選択肢としては一概に否定できないってことね。たしかに原作に出てないけど悟空の行動方針に思いつきり影響でるキャラだしな。

96：名無しのスレ人

知識もそうだけど孫悟飯から武術学べば悟空が強くなりそうなのが…：戦闘力高くなったら原作と色々とズレるの不味い。

97：名無しのスレ人

悟空強化

ヤムチャとウーロンやばそう。

98：名無しのスレ人

仲間フラグが折れるかも？

100：名無しのスレ人

ヤムチャさまともかくウーロンなら豚井、別に良いんじゃないや？ヤムチャさまと居るプーアルが上位互換だし。マスコットのにも

101：名無しのスレ人

いやいや！ウーロンには大切な役目がある！色々と！

102：名無しのスレ人

そうだ！そうだ！ウーロンは必要！

103：名無しのスレ人

てめー多くの少年に幸せを届けてくれたウーロンさんの大切さわかってないのか。

106：名無しのスレ人

え、いや、そんな大切な役目とかあった？

108：名無しのスレ人

ギヤルのパンティーおくれからのピラフの世界征服阻止！（そもそも神龍の力で世界征服とか無理という説は置いておく）

109：名無しのスレ人

ブルマに化けてパフパフを亀仙人にした姿は見ていた視聴者に興奮を与えた。(冷静になると男(豚)のパフパフで興奮したと悲しくなる事実は無視)

111：名無しのスレ人

ブルマに睡眠薬飲ませてエロいことをしようとした(睡眠○の性癖を多くの少年に植え付けた)

112：名無しのスレ人

うん。消えていいよねこの豚

114：名無しのスレ人

むしろ氏ね。

116：名無しのスレ人

な、なぜ

117：名無しのスレ人

くそおエロの良さを理解しない者共が……ドラゴンボールからエロが消えたの114みたいな奴等のせいだろ

118：名無しのスレ人

変な冤罪かけんなボケ

119：名無しのスレ人

エロが抜けたドラゴンボール……悲しいなあ。

120：名無しのスレ人

エロ抜けたのに性癖の欲望はたまに出すという。

121：名無しのスレ人

スポポ○ツチ

123：名無しのスレ人

超だとエロどころか血の描写とかも抜かれたよな

124：名無しのスレ人

ダメージ描写が薄くて危機感が湧かない。悟飯以外が覚醒するようになったの微妙。

126：名無しのスレ人

ステイ、愚痴はステイ。

あと話がズレてる。

128：名無しのスレ人

まあスレ主帰ってくるの時間掛かりそうだし少しなら雑談もいやじゃない？

228：名無しのスレ人

そろそろスレ主が最後に投稿してから一時間ぐらいか。ソロソロ……

229：名無しのスレ人

探す時間いれなくてもカリン塔とかそんな一時間程度で着くところでない。カリン塔見付けて登る時間も必要。

230：名無しのスレ人

それもそうか……て、そんな時間かかるなら怪我した孫悟飯間に合うの？御臨終してたら仙豆意味無い。

231：名無しのスレ人

スレ主が気とか感知できる設定だし舞空術も使える設定だろ。結構早く着けるんでは

232：名無しのスレ人

それならもうカリンさまと会ってても可笑しくなさそう。……スレ主さま、カリン塔に着いたらニヤンコの画像をプリーズ!!

235：名無しのスレ人

流石にカリンさまの画像は厳しいんじゃないかなー。流石にスゴい画像を出してくれたスレ主でも無理なんじゃないかなー。(チラチラ)

236：名無しのスレ人

いける！大猿出したきつとスレ主なら！

237 : 名無しのスレ人

お願いしますスレ主にやんこさまの画像を！なんでもしますから！

239 : 名無しのスレ人

今なんでもするって？

239 : 緑の人（スレ主）

言つたな？

まあ其処まで言うなら……

《ピースして杖を持った猫型生物》

241 : 名無しのスレ人

お？おおおおおお!!!

先生

誰もいない道場で大男は倒れていた。

ピクリとも動かない姿は死体を思わせるが生きてはいる。今はまだと注射は付くが。全く動かない体に彼はこれは少し不味いなどか思ってるが実際の所は、心臓が止まりかけているので少しでなく致命的に不味い。

道場には助けてくれる様な誰かはいない。彼が態々人が居ない道場を選んで鍛練したので当然だ。道場の場所も山の中で人が来る様な場所でもない。心臓が止まり血流も流れなくなり頭に血が廻ららずボヤけていく思考。もう秒読みの段階。

しかし肉体が死ぬ間に彼の肉体の生存本能が全力で働く。要は火事場の馬鹿力で絞り出す様に湧いてきた”霊力”を本能が使う。霊力は肉体を治癒させ心臓が再始動。何とか彼は”今回も”生きていた。

間一髪に一生を得た彼は生還を喜んだ、なんてこともない。九死に一生を得ておいて

特に喜びの感情もない。平然と体の回復を待つ。可笑しいが……常人なら奇跡と言つて良い回復だが、彼本人としては何度も起きている何時もの事にしか過ぎず感情を動かす程でもない。そう彼にとつてきつきの様な事は日常的に起きていた。当たり前だが頭がおかしい。

体の回復を待ちながら彼はふと呟いた。

「……生まれ変わつて随分と経つねえ」

——幽☆☆☆☆白書の世界に転生してからと。

オレには前の記憶があつた。

オレは転生したんだろう。転生したことについては死ぬ瞬間も覚えおりアツサリと受け入れられたが、転生する前の記憶よりだいぶ過去の時代だったことについては今でも慣れることはできない。

前は平成の世の中で生まれ次の人生はなぜか過去生まれ、この時代の生活に慣れることができない。日本の敗戦間もなく生活水準も低く治安も悪い。オマケに幽霊が見えたり怪人が襲つてきたりもする。慣れるのは無理だよ。

この時代は未来の日本と違って弱ければ不味い。

先ず物理的に自分の身を守る強さを求めて兄と一緒に武道を学ぶ事にした。そして学ぶ場所として兄が選んだのが霊光波動拳の道場だった。

道場の名前を聞いてんんん？と混乱した。

霊力を使う道場と教えられ胡散臭い？いや霊力を使う道場と言われると本来な胡散くさいと思う筈なんだが…… 自分の名前も合わせて考えると思わず冷や汗が流れてしまったよ。

オレの名字は戸愚呂。

珍しい名字にだいぶ引つ掛かってたが、心当たりがあれなので違うだろうと思っていた。しかし心当たりにも、時代は当てはまり兄が居て霊力や幽霊や怪人、いや妖怪すら存在する。止めに霊光波動拳……もうそうとしか思えないね。

第二の人生は過去でなく別世界、前世で見た漫画の『幽☆々☆白書』の様な世界。

さらに『トグロ弟』いわゆるラスボスの様な存在に転生していた。

「勘弁してもらいたいね」

気づいたときは思わずそう呟いてしまった。

『トグロ』の様な台詞を無意識に出して彼は恥ずかしいと頬を赤くしたという。誰も得

しない。

オレが自分や世界のことには気付いた後だが、靈光波動拳の道場に入門する事にした。

いや別にオレは原作の『トグロ』に起きた悲劇を忘れた訳じゃない。悲劇の知識があると入りたくないと言う思いも確かにあった。

入門するのは『トグロ』と同じ道に進んでいると思えるが、オレも好き好んで不幸としか思えない人物と同じ人生を歩むDMでない。ただ『トグロ』と知った時から強くなりたいたいと思ったからだ。

目的がある。それは……まとめブログなどで『トグロ』に書かれた侮辱、井の中の蛙やB級（雑魚）と呼ばれるのを防ぐという崇高な目的。

フリーザは嫌だと。バカだろうか。バカだ。バカだが必ず強くなると決めた。

靈光波動拳は原作と同じなら、人間では、最高クラスに強くなるのに最適な流派。元々身を守る力も必要としていた。強くなるためには入るしかないと思えた。だから入門することにした。

入門後の悲劇については『トグロ』にあった原作の悲劇については極々簡単な脳筋解

決法を思い付いてたので問題視しなかった。唯一彼が問題と思つたのは兄だ。

自分がトグロ弟と知つた彼はトグロの兄が……原作でゴミにも劣る畜生になつていた事を思い出した。

今のうちに兄をあの世に逝かせた方が他者は勿論、本人のためにも良いかと真剣に考えるのも当然だろう。

本当に真剣に悩んだ。兄はまだなにもしてない。なにもしてないのに『』して良いのか。しかし現在ですでに兄の性根がねじ曲がつたので、暫定黒みたいなモノで問題ないとも思う。

それでも相手は兄だ。彼にも兄への情はある。兄への情を最大値で譲歩して考えて花占いできめる事にした。やるやらないで3度花占いをして一度でもやると為つたら……という殺意満々な花占い。彼からの兄への情の深さが窺い知れる。

その花占いだが一度目はやらないになる。二度目もやらないになる。そして三度も……やらない。

彼は特に理由はないが舌打ちしながら兄については“保留”にした。兄もまさか自分が花占いで助かつたと思わないだろう。

そんな彼にとつてどうでもいい事は置いとくとして、強くなるために入門した彼……強くなる為に頑張りはしたが、それでも本人が驚くほど早く強くなり頭角を現した。

彼は前世では格闘技なんてやってない。戦闘に関わったこともない。勿論靈力なんてモノも使えなかった。

遙かに高い目標があった事と、肉体が優秀だった事と、素か転生した影響かで靈力が異様に高かった事、これら複数の事が合わさり彼の實力は周りがええと引くほど早く上がっていったのだ。

他にも彼は娯楽が有りすぎた時代から娯楽がまったく足りない時代に転生した事で、鍛練そのものを娯楽として楽しんでいたことも原因か。

靈光波動の日々の鍛練、それにプラスして鍛練、鍛練、修練、鍛練また鍛練の毎日。大人の大人でも逃げ出す鍛練を彼は娯楽感覚で他より多くこなした。彼は娯楽（修練）なら幾らでもやれるお代わり！と死んだ目でやり続けた。それには同門や師範さえこイツ怖と思わず言ったぐらいいだ。

入門から数年した頃には彼は道場でも指折りの実力者になっていた。其処から彼は満足するどころかささらに彼の精神が逝って、いや努力は加速した。

靈光波動の修練は過酷だったが彼は自己でさらにプラスして鍛練をおこなうようになる。それを見て師範や同期や兄はなんでこイツ死んでないの？と真剣に呟いたとか。

そんなこんなしてる内に實力はさらに高まり、彼が成人を迎える前に靈光波動継承者候補筆頭となった。

同門には彼より長く修練を続けた人間もいた。それで候補筆頭となつた事で同門の先人に彼が妬まれたかと言え、あまりそんなことはなかつた。

もし才能で上回れたと思うなら妬めるだろうが、流石に自分達がやってゐる過酷な修練より更に過酷な修練をする姿をみれば、力の差は努力の差だと思へ負けたことをすんなり納得できた。あんな頭の可笑しいのに勝てるかと。

師範候補筆頭となつて彼は落ち着いた：

…なんてこともなく。

さらに修練だけでは意味がないと実戦経験が足りないと考えてしまう。

戦闘経験を溜めるために彼は全国行脚し悪質で合法的にやれる凶悪な妖魔探しに立つ。彼的にはボコつて問題ない相手からの経験値目的だが客観的には善行でもあり。各地で結果的に多くの人を助け彼の名と共に靈光波動拳は名が高まつた。

ただ彼が行脚中は流派の技自体が広まるのは駄目だと、対策を取られる可能性は良くないと無駄に気を使い。流派の技を封印し『トグロ』をリスペクトした技術を越えたパワー戦法で脳筋戦闘をしていた結果、肉弾戦、筋肉のみな戦いかたばかりをする。名声と共に靈光波動拳が靈力や技でなく筋肉で戦う流派という、名前詐欺流派なんて誤解も同じく拡散したが些細な悲劇だ。

次期師範筆頭の行為で流派の名声が高まつてるが、変な誤解も増えるという自体に師

範達は頭を痛めた。行動も善行であり評判は高まってもいる。流派の技を隠す理由も納得はできたので文句も言わずらい。

その波及としてとある人物が兄として弟を何とかしろと言われストレスを感じ胃をやられていた。

何年か武者修行の全国行脚を一時終えて道場に帰ってきた彼に師範は、一人弟子を育てることを義務付けた。表向きは次期師範にするための試練だが、裏向きは余計な事をしないように縛り付ける事が目的だろう。

彼に内弟子としてつけられたのは幻海という名の美しい少女。そう原作主人公の師匠の若かりし頃。

なんでだろうか。

オレもほぼ同期で居たのは知ってたがオレが『トグロ』の事を考え全力で関わるのは避けていたのになんでだ。本人の希望？即座に弟子の変更を願ったが却下された。

可笑しいと思った。幻海はほぼ同期なので弟子になるのは可笑しい。同期でも弱いならともかく強さはオレに次ぐほどだ。それと弟子と師匠の関係なのに何故いきなり弟子から正座をさせられるのか。

小柄な少女に正座させられる大男。

「さて弟子として言わせて貰うよ師匠（トグロ）」
敬つてる感じは皆無な気がする。

本当に師匠と思つてるのか？

小一時間説教をされたので絶対に思つてないだろうと確信させられた。

なぜか幻海を弟子にすることになった彼は……仕方ないので弟子として幻海に修練を共にした。

彼は若い頃の幻海と無茶苦茶やった。

勿論修練を。

足腰立たないほどやった

当然修練を

そんな日々……遂にオレに暗黒武術会への選手としての招待状がきた。しかし記憶にある原作で『トグロ』は仇が原因で出場している筈だが？

『潰煉』という妖怪が『トグロ』の弟子をヤツた事が原因のはず。道場は別に襲撃を受けてない。弟子も無事……そもそも弟子が幻海しか居ない。

彼は原作と違う誘われ方に首をかしげた。そもそもなんで招待されたんだと疑問を感じたが、幻海から武術会に招待された理由を聞いて納得した。

招待状が来た理由は各地の強豪妖怪を数多倒した事が原因だろうと、名前が有名に成ったせいだ。つまり原作の主人公と似た立場ということだ。生意気な人間ブツ飛ばしてやるということか。

オレは招待は自分のやった事が原因と納得した。

大会に行かないという選択肢もない。

幻海や同期をチームメイトに暗黒武術会への招待を受けることにした。兄もオマケに連行した。

大会への他メンバーの参加理由は腕試しだがオレには別の目的もある。

『トグロ』が悪役となった元凶の妖怪潰煉、原作では暗黒武術会の優勝候補。潰煉と戦うことが目的だ。

実際には大会への参加する理由でなく特に仇でもないが、勝敗によって明確に今のオレが『トグロ』より弱いか強いかの指標になる。

しかし目的は早々に頓挫した。

襲われた事以外特に問題なく会場につくとトーナメント表を何度と見て唾然とし、それから大会運営に出場選手について聞いた。

なんと目的の相手、潰煉が、暗黒武術会のトーナメントに出てなかった。

原作と違って存在しない訳じゃない。全国行脚中に潰煉の名は聞いたこともあるし。

優勝候補だと確かに聞いたことがあった。なのに居ない。

オレは潰煉が居ない大会に参加してしまつたと崩れ落ちた。チームメイトは全員が他人のフリをするほどに酷く落ち込んだ。

あと原作の猫耳付きのアナウンズ嬢が居たことにも……中身BBAだったのか。

潰煉には劣つても修練相手にはなると思い大会に挑むが、どの敵チームも副将の幻海を突破できずオレは一戦もせず彼のチームは優勝。彼がやったのは人間という理由で襲ってきた観客の雑魚妖怪の返り討ちぐらいだ。初戦を全て任せた兄も大会で名誉の戦死とかしなかつた。

初の暗黒武術会はこうして終了した。

優勝の報酬、何でも願いを叶えてくれると言う某球龍の様な報酬、彼は報酬として考へてた事もあつたが、なにもしてない事から一番活躍した幻海に報酬を譲ることにした。

帰るとき暗黒武術会の運営からゲストとして次回も参加する様に頼まれた。今度は一人で。オレへの殺意が高い。

しかしその提案に乗り彼は次回大会に参加することにした。報酬と打倒潰煉その目的が達成するために……。

そして次の大会で見事に初戦一人で戦い抜き一人で勝った。優勝した。なぜか潰煉が居なかったが。

そして大会の報酬で願った……

それから五十年ぐらい後……

「おはよう。今日は良い天気だねえ」

彼は中学の教師をしていた。

先生に

職業柄男の朝は早い。

地域の住民とはそれなりに交流もあり外を歩いていると元気よく挨拶をされたりする。

「あ、トグロのアニキおはようございませす!!」

「トグロのアニキ、今日も早いですな!」

弟なのにアニキと呼ばれる不思議。

年は20代の後半ほどだろうか。

キツチリ整えられた短髪。

確りとスーツを着てネクタイも締める。

スーツは筋肉のせいでピチピチ。

黒いサングラスのせいで感情が見えない。

その姿はどうみても……教師だろう。

地域密着型のその手の職業の人間じゃない。なぜかクレ○ンし○ちゃんの組長先生と同じ枠の扱い。やはりサングラスがダメなのだろうと思うけど……トレードマークを無くすのもイヤだよ。

中二草な大会優勝をしてからからかれこれ数 十年後の現在、今のオレは都内にある中学の正式な教師をしている。担当教科は妥当に美術教師。

教師をしてる理由は単純に仕事がほしくて……いや、教師の前も働いてなかった訳でもないけどね。表に出せない職で近所さんにフリーターや無職なんて誤魔化さなといけないから、表向きの職が欲しかったんだよ。

そう言うわけで、裏の仕事関係で知り合った中学の理事に教師として就職させてもらった。

今は教師として皿屋敷市に住んでいる。

市の名前でオレの様な『原作』の知識持ちなら予想できそうだが、教師をしているのは市立皿屋敷中学。

偶然なんだよ。

狙う以前に、原作知識があるとはいえ数十年前の漫画の知識なんてうろ覚えだ。中学の名前なんて完全に忘れていた。ワルガキを見るまでね。

なんの狙いもなく本当に偶然に知り合いからの紹介で、この中学への就職をしたんだ。運命か因果を感じてしまうよ。

霊光波動の次期継承者候補？

道場主？

うん、いや、継承者どころかあの道場からは大分前に破門されたんだよ。端的に言えば大会で優勝した報酬の願いが原因でね。

いやー……：当時の師範に破門されて抹殺対象になされるぐらいキレられるとは思わなかったよ。

後から考えたら当然だなーと思ったよ。

当時は目的優先で不味いと気付かなかった。若気の至りってヤツだね。

破門は少しアレだけど、次期継承者にはなれなかった事には特に未練は無かった。原作でそうだったからと言うのは関係なく、継承者なんて元から成りたいとも思っていなかったからだ。それに自分が道場主になるのも、道場主として道場経営とか面倒く、自分の肌合わないし。

未練はあっても怨みはない。

今では道場の事は若い頃の、青春の一ページという思いかな。

まあ俺が継承者に相応しいとか言ってくるのは居るけどね。

破門後のこの数十年は……色々とあった。破門したからこそあった様々な出会いと数多な強敵との戦いを経験することになった。中々に大変で決して平穩無事とは言えない人生を送った……まあ振り返れば充実した人生といえるかな。いや人生ではないか。

とにもかくにも人生に満足してる。

人生の大半を強くなることにかけてた人生だけどね。

だいぶ昔にオレは強くなることを決めた。

時間はだいぶ過ぎたけどその思いは今も変わっていない。

十代の頃に道場に入門してから始まり、数十年前の破門後以降も強くなる為に努力は惜しまなかった。

そのお陰さまでつよさは……ソコソコかなと思う。未だ未だ最強なんて遙か地平で

は有るだろうけど其なりには強いと思えるようになった。

人ならとづくに全盛期は過ぎてる年齢だけど、願いのお陰で肉体は衰えるどころか全盛期を更新し続けている。実際……何れぐらいくらい強いかと言われると、恐らく原作の『トグロ』より強いとは思う。彼の強さが原作より極端に弱くなければだけど

人生の大半を強くなることに掛けて更に強くなることは止めてない。ただ充実はしていた、普通なら人生の終わりも近い時間を満足して送れた……仮にもし今あの世に逝くとしても大往生を迎えられるとは思える。……ただ折角生きてるならこの時代だからこそやりたいこととかは有る。

時間が経ちすぎて既に記憶から掠れてきた原作知識。アレが正しいかはすでにわからないけどね……

戸愚呂先生を見ることになる登校してきた生徒達。

中学につくと荷物を降ろし同僚と挨拶を交わしそれから校門前に立つ。まるでその手の事務所前の警備……。

教師の前の前職が不明で本当にそう言う裏仕事の人だったという噂もある。先生に化物みたいな巨漢が潰されたって噂もある。先生は本気になると筋肉がムキムキになるって噂もある。体育のお手本でオリンピック記録を軽く更新してた。都内の暴走族は煩いからって先生に潰されたって噂がある。怖そうな舎弟の人がたくさん居る。調子にのつた不良が泣かされた。こんな噂と実話があるから大半の生徒に先生は怖がられていた。

「おはようございます先生」

「雪村か、おはよう。今日も早いね」

私は先生に挨拶した。後ろから友人たちも挨拶してるけど、声も小さいしそれになん

で、私を盾にしているかな!!そんな先生が怖い?!

「はあああ……や、やっぱり戸愚呂先生って怖いよね」
校門を抜けて先生が見えなくなつてこれ、失礼じゃない?

「螢子よく普通に挨拶できるよね」

「そんなに怖いかな？」

私は首を傾げた。

「怖いじゃない」

「ほら螢子って幼馴染みがあれだから……」

ほんとーに失礼な事を言うわね。

まあ、しようがないとも思うんだけどね。

噂に幾つか本当のあるし。

けど被害に会うのは悪い人だけだし普段は穏やかでいい人なんだけどなー。

それで幼馴染みってアイツの事よね。アイツも……怖がられてるのよねえ。これは先生とは違うのよ。アイツの場合は普通に暴れん坊だから怖がれるのも自業自得と言えるのよねえ。

あ、幼馴染みといえ……先生も幼馴染みと言えるのか。小学生になったばかりの頃から店によく来てくれてたし。

アレ？

うん？

先生って……初めて会ったあの頃からちつとも容姿が変わってないような。それに

お父さん何時も年上を相手にするみたいに接客してて……先生って幾つなんだろ。

何となく私は教室の窓から下を見ると校門が見える。

「またバカやってる」

私は溜め息をはいた。校門の扉に上って小学生のガキみたいな間抜けな幼馴染みを見つけたから。

遠くて表情まで見えないけどアイツがドヤ顔してるのわかる。先生は生徒に挨拶してて後ろの馬鹿は視界には入らない。……どうせ気付いてるんだろうなあ。

あ、馬鹿が飛び立った。

後ろから飛び膝蹴り。

狙いは先生……

「隙ありいいいい!!……うひゃあああ!?!」

「浦飯、朝から元気だねえ………毎日言ってるが隙無しだ」

「くそお!後ろに目がついてるのかよ!」

足を掴まれて先生の片手で宙吊り。

台詞まで聞こえないけどキャンキャン吠えてる。

なーんか、楽しそうよねー。

大型犬にジャレつく元気な子犬にしか見えないうんだけど。先生に大型犬は失礼か。

………それにしてもいつの間にか隣に居る友人、怖いとか言つてた癖に先生と幽助を見て顔を赤くしてゐる友人はなんだろう？

フエイトin

【第四の大会対策スレ】

名無しの型月スレ民

いよいよ運命の日が間近に迫ってきているぞ☆みんな覚悟はいいか！本番が近いという情報が入ったので改めて対策会議を開こうと思います。

名無しの型月スレ民

にげなきや：

名無しの型月スレ民

逃げる先なんてねーよ。

名無しの型月スレ民

この世界だとあの世も逃げる先にならないもんな。

名無しの型月スレ民

原作はじまんの。運命の原作通りなのかいよいよわかってしまうのか

名無しの型月スレ民

覚悟なんてな！イヤでもするしかねえ！こつちとら冬木市在住だぞ！！

名無しの型月スレ民

まで、までまで、本番でなんだ！まさか開催される証拠が見付かったの。

名無しの型月スレ民

前スレの最後を見ればわかるけど、時計塔生徒の二つの垂れ込みがあった。『ロードエルメロイ2世（シヨタ）が窃盗したってキレてる、これ…』『デコヒロなロードが婚約者同伴で外国に行くってよ……やばい』

名無しの型月スレ民

ははーん、アウトかな

名無しの型月スレ民

時計塔の生徒のたれ込みか。ありがたいけど、いつか地位の為に俺達を売りそうで怖いんだよな。魔術師なら転生者なんて知ったら捕まえて実験に使うだろ（負の信頼）。

魔術使い

魔術師の家系に生まれたから否定できない。俺とか親が魔術師で転生がバレたら子供を使う！って確信したから、家から逃げ出したし。

名無しの型月スレ民

魔術師の家系に産まれてうらやましい！からの魔術師の家は蟲ジジイの家のサクラ

ちゃんみたいいな目にあう危険地帯だったの巻き。

時計塔生徒

あのさあ。俺達の情報を売ったりしたら私もアウトでしょ。なんで自爆しなきゃいけないのか。……あと地位のために売る？時計塔の地位なんてどうでもいいわ。家の関係で入っただけで！一般人として生きたいし時計塔なんて出たいって言ったでしょ！私を情報欲しさに時計塔の生徒を続けろとか説得したのこのスレの住人だ!!!

名無しの型月スレ民

えへ、そうでしたわ

名無しの型月スレ民

スンマセン

時計塔生徒

謝罪に真剣さないぞ。

名無しの型月スレ民

それより、デコってケイネス先生だよ。日本に来るってマチガイナイノ。

時計塔生徒

ええ聞いたのは先生が婚約者と外国に行くって話だけです。シヨタの窃盗話も有りその後シヨタが消息不明になったので原作通りで間違いはないと思いますが、聖杯戦

争に参加したなど確実な情報はないです。

名無しの型月スレ民

状況証拠だけでもほぼ戦争の開始は確定と言っていいな…

名無しの型月スレ民

そうだよな

名無しの型月スレ民

よし！冬木から出て旅行に行こう

名無しの型月スレ民

そんな直ぐに旅行できるのか。

名無しの型月スレ民

出来ません。フェイトファンだからって冬木に移転しなきゃよかった。

名無しの型月スレ民

戦争関係なくても人食いしてる蟲なジジイがいる冬木に自分からよく行けるな。

名無しの型月スレ民

産まれも育ちも生粋の冬木民ですが冬木に來るとか正気を疑う。

名無しの型月スレ民

移転したアホはともかく冬木市生まれには同情するわ。

名無しの型月スレ民

同情するなら対策はよ

名無しの型月スレ民

いまさら対策を話しても遅いと思うけど。

名無しの型月スレ民

何度も話し合った事はあるしな。

名無しの型月スレ民

ま、まあ対策会議スレだし改めて対策について話そう。

名無しの型月スレ民

改めてついても前に出た一般人だどうにもならんよって結論と変わらないと思うけどな。

名無しの型月スレ民

なにかチート有れば、転生したのが数十人居るのにみんなチート無しってなんだよ。

名無しの型月スレ民

この時代に掲示板とか立てられる様に成ってるのはこのスレ民のお陰だろ。これはチートと言えないか。

名無しの型月スレ民

……ネットだけだと意味ないんだよ。

名無しの型月スレ民

ネットの他は何もしてないよな。他にも色々と出来たよな

名無しの型月スレ民

世界から歴史改編してる判定うけたら怖いし……

名無しの型月スレ民

下手したらエミヤとか送られる。

名無しの型月スレ民

前から疑問なんだけど、この世界の歴史てか正史で俺達がいるのが正史なのか？それなら良いけど、もし俺達が存在しない原作が正史扱いだと……なにもしてなくても……

名無しの型月スレ民

それは考えるの止めろ。どうしようもないし。

名無しの型月スレ民

歴史云々なら聖杯戦争介入するのも不味くないかな。

名無しの型月スレ民

大丈夫と思うしかない

名無しの型月スレ民

一般人にはどうにもならない。魔術師アニキ達どうにかしてよ。

三流魔術師

ムリムリ

魔術師ニキ二号

相手バケモン、俺達みんなモブレベル。ぶっちゃけ一般人とかわからん

魔術師ニキ

居るのは一山幾らの魔術師だけなんだよ。

魔術師としてはウェイバーくん並みと思え

二流魔術師

ウェイバーくんにも届くかな。回路が6本、才能の差は残酷って学ばされたよ……。

時計塔生徒

魔術ってマジで才能が総てだと思う。努力でどうにもならないだよねえ。…才能が

あつても良いことなんて無いけど

名無しの型月スレ民

原作の有能な魔術師で大概不幸な事になってるもんね。

名無しの型月スレ民

聖杯の異常を伝えるだけでも無理なんか。

魔術師ニキ達なら機会とか無いの

二流魔術師

相手名家ばかりなんだよ。俺達レベルだと会うの難しい。日本のなら直接出向けば会うのは行けるけど、蟲ジジイは論外だし、遠坂はいけそうだけど…他所の魔術師が行くのはあれだし…

名無しの型月スレ民

遠坂の家は根本的には聖杯戦争が失敗する様に動いてた説を利用するのは？

名無しの型月スレ民

そんな説あった？

名無しの型月スレ民

冬木の霊地で蟲ジジイの家の魔術回路が枯れたの、実は霊地を管理する遠坂が何かしてた。

名無しの型月スレ民

これまで聖杯戦争が成功しなかったのも御三家の中で遠坂が邪魔してたからなんだ！邪魔してた理由は隠れキリスト教で聖杯戦争自体を嫌ってたから！御三家な理由は他の二家が年代的に格上で表向きだけ参加した！

名無しの型月スレ民

仮に間違っても、遠坂が自分ちの家の目的が聖杯戦争の阻止だってしたら味方になつてくれる。…ま、無理だけど

名無しの型月スレ民

ですよねー。そんな都合良く騙して説得出来ないよな

名無しの型月スレ民

騙せても父親が致命的にウツカリてか運がないキャラだからな。妹は蟲漬けで本人は裏切られてる。味方にするのはちよつと

三流魔術師

時計塔アニキは？ケイネス先生は、日本に行ったそうで今は無理だけど以前に伝えるとかしてないの。

時計塔生徒

いや会話とか伝えることぐらいならできたんだけど……なあ

魔術師ニキ

聖杯戦争の話なんてどう切り出せば良いかわからないよな。どうして聖杯戦争の事を教えるんだとか聞かれるだろうし。下手したら追及で転生者とバレる。

時計塔生徒

それな

名無しの型月スレ民

前世の記憶でとか正直に教えるのは？

魔術師ニキ

アホか!!

名無しの型月スレ民

少し前にも書かれてるだろ！俺達は別世界から来た転生者だぞ。外道な魔術師にそんな事を知られたらどうなるか。

三流魔術師

転生に別世界：そして限定的な未来知識：上手くすれば名誉も富も獲られる、なので俺達相手に人権無視な行為を倫理なにそれ美味しい？な魔術師はやりかねない。これ何度もいわれてるだろ。

名無しの型月スレ民

ウェイバーくんならどうか。

名無しの型月スレ民

転生者の魔術師でないとウェイバーくんでも信用すんのは

名無しの型月スレ民

イメージ的には信用できそうだけど…イメージで俺達全員の運命はかけられんじよ。
名無しの型月スレ民

なあ！もう本当に時間無いんだよ！此のままだと原作みたいに冬木市大炎上になる
！真剣に案だせよ！

名無しの型月スレ民

過去スレにあつた策しかないかな。

名無しの型月スレ民

あれ策って呼べんのか…

名無しの型月スレ民

過去の参加者経由で聖杯について知って調べてましたとかいって、参加者が教会とか
関係者に突っ込んで、聖杯の危険を推測として教えて一か八か狙う。

名無しの型月スレ民

暗示とか使われたらアウト

名無しの型月スレ民

直接伝えるのがダメなら手紙をポストに。

名無しの型月スレ民

魔術師だと魔術で追跡調査されてバレルてコメントあるんだけど…

名無しの型月スレ民

ほぼ出たとこ勝負

名無しの型月スレ民

前と変わらずそれしかないのか。

名無しの型月スレ民

その策、死ぬ可能性あるよな。

名無しの型月スレ民

殺人ありな宗教か秘密結社が事件を起こすの事前知ってるようなもんだ。原作知ってても関わるなら死ぬの覚悟しないとイケない。

名無しの型月スレ民

「魔術師ニキの誰か聖杯調べてたとかで伝えてくれませんか？一般人が言うより説得力あるし。暗示とかも大丈夫だろ

魔術師ニキ

やだよ！他所の魔術師が聖杯調べてたとか！聖杯の横取り狙ってましたとか言うようなもんだろ！！それに問題ある事を教えて俺達になんの利益があるのかとか狙いが有るとか疑われる！

名無しの型月スレ民

聖杯戦争を知った一般人でも同じ疑惑持たれるんじゃないかね。

名無しの型月スレ民

聖杯戦争のヤバさに気づいた巻き込まれたくない現地の隠れてた野良魔術師擬きみたいな路線で：無理だよな。暗示とか使われて自白させられそうだよな。

名無しの型月スレ民

誰か大会参加者に接触して何とかするって案ぐらいしかないのに…。

冬木魔術師ニキ

話の通じる相手限定

名無しの型月スレ民

原作で今回の参加者なら……（民間のホテルを爆破する世界平和を願う暗殺者な）主人公、指名手配されてる殺人鬼、（婚約者に良いところ見せたい）スペック最強なロード、最強のサーヴァントを召喚したり教会と結託してたり（全て裏目に出た）優雅さん、中立違反な（愉悅未覚醒）神父、（窃盗ぬらりひょん行為をやらかしてる）シヨタ、（虫食いオジさん）。

名無しの型月スレ民

改めてなんだこの面子（白目）

名無しの型月スレ民

ウェイバークくんもわりと酷いんだよな。

魔術師ニキ

触媒に先生のモノを窃盗して参加だもんな。地位も名誉もあるロードのモノを落ちこぼれ扱いの生徒がだぞ。常識人枠に見えてぶっ飛んでる。よくイスカandalにツッコミできるな

名無しの型月スレ民

第四は地雷が多すぎる。

名無しの型月スレ民

第五も大概だぞ

名無しの型月スレ民

4の後の第5でウツカリさんの娘さんが良心的な枠ってのが

名無しの型月スレ民

第4次で一般人でも安全に話を聞いてくれそうなの、オジサンとウェイバークくんかな。

名無しの型月スレ民

ケイネス先生もいけ……ないか。暗示で此方の目的探るぐらいするよな。

名無しの型月スレ民

精神も生きてるのもギリギリで外道の監視ありオジサン。もう片方は実力も立場も弱い。

名無しの型月スレ民

会話が通じててもオジサンは余裕が無いから駄目だ。選択肢はシヨタシかない。原作通りならマツケンジーさんだっけか？その人の家をみつけければ接触できる。

名無しの型月スレ民

ウエイバーくんを通じて他の説得も。イスカンドル居たら対話の席はなんとかいけるな。

名無しの型月スレ民

ウエイバーくんて原作のイメージで大丈夫とか思ってるけど、魔術師だろ。大丈夫なのか。

時計塔生徒

直接会話とかしたことは数度だけど、魔術師にしてはだけど感性は真つ当。聖杯の異常を話せば会話がよほど不味くなければ恐らく大丈夫……

名無しの型月スレ民

危険性とかは理解してくれそうだな。

名無しの型月スレ民

いや、その前に暗示とかはしてくるだろ。

魔術師ニキ

それについては催眠か暗示もウェイバーくんの腕が俺とドツコイレベルって想定したら、素人でも防げる予防法はある。

名無しの型月スレ民

結論としては冬木市在住の人達はウェイバーくん探索かな。接触については見つけから

名無しの型月スレ民

それしかないか。

名無しの型月スレ民

探索といけば、殺人鬼のニュースを聞いて冬木に居るって事で一部のスレ民が殺人鬼の捕獲の探索するとか言ってたけどマジでやってんの。

名無しの型月スレ民

嘘なんてつくかマジだよ。

名無しの型月スレ民

殺人鬼探すなんてよくできるな。下手したら魔術師よりヤバイぞ。

名無しの型月スレ民

あんな事件のニュース見たら動かずにいられないだろ……マジで人間なんだとおもってんだ

名無しの型月スレ民

シヨタロリは世界の宝。そんな子供達の為なら一度死んだ自分の身の安全とかどうでもいいわな。

名無しの型月スレ民

蟲ジジイは無理だけど殺人鬼ならどうにかなる。どうにかなるのに見捨てるなんてできないだろ。

名無しの型月スレ民

ガンギマリだなあ：

名無しの型月スレ民

ないよなあ

名無しの型月スレ民

ガンギマリはない。ガンギマリなら蟲ジジイの所に突っ込んでる。

もぶ魔術師

それはガンギマリでなくて自殺だから。

名無しの型月スレ民

殺人鬼どうにか出来るのか？ 相当に強いだろ。

名無しの型月スレ民

戦いは数だよって感じでなんとか。あと武装もしてる

名無しの型月スレ民

武装つて、なに用意したんだよ

名無しの型月スレ民

自作の捕獲の網。熊で試したらちゃんと仕留められた。

名無しの型月スレ民

バットやナイフに銃が幾つか

名無しの型月スレ民

素手だけで殺しの経験なら負けてないしいける。

名無しの型月スレ民

…そうですか

名無しの型月スレ民

シヨタコンとロリコンのスレ民ガンバレ！

名無しの型月スレ民

…ヤバイ人ばつかなんですが

名無しの型月スレ民

もし原作前に抹殺されるか捕まったら別の人がマスターになるのかな。

名無しの型月スレ民

前からある不安だけど、おれたちみたいなのがいるのに、原作通りのサーヴァントとかマスターになるのか

名無しの型月スレ民

あの、どうしよう手に……こんなのが「手の甲にキズの様な三本の入れ墨の画像」むちやくちや痛かったんですが。

名無しの型月スレ民

はははは……(´・ω・´)。

名無しの型月スレ民歩

こんなときに悪ふざけやめえや

名無しの型月スレ民

これで何人目でしたかね。

名無しの型月スレ民

ふざけんなマジで、此方とら冬木市在住で本気で怖いって言うのに!!

魔術師ニキ

いや、これ……もしかしたら…

名無しの型月スレ民

嘘なんだろう。早くネタバレしたほうが良いぞ

名無しの型月スレ民

あ、あの本当に悪ふざけで無いんですよ…

名無しの型月スレ民

おい住所調べられてコンニチハされるぞ。

名無しの型月スレ民

嘘とか冗談じゃないです!!住所を調べて確認しにきてくれても良いです!!

名無しの型月スレ民

マジで行くぞ

名無しの型月スレ民

だから来て！確認してもいいですよ!!冬木にまで来てください！

名無しの型月スレ民

うーん

名無しの型月スレ民

本当に冬木在住なら嘘でないのかな。

名無しの型月スレ民

令呪って魔術師しかでないんじゃないかね。いや魔術師でなくても出るパターンはあるんだったか。

名無しの型月スレ民

魔術師？それか魔術師の家系の人？

名無しの型月スレ民

私も両親も魔術師ではないです。祖父母の代が魔術師ばいかも

名無しの型月スレ民

魔術師判定で令呪がでも可笑しくないのかな

名無しの型月スレ民

祖父母がって：もしかして一年前の4月に冬木の駅前で待ち合わせして此処を教え
たあの子。

名無しの型月スレ民

御近所さんですか！そうです！4月に紹介された子です！

名無しの型月スレ民
マジで手に出たの

名無しの型月スレ民
はい！緊急事態ですので家に来てください！お願いします！

名無しの型月スレ民

直ぐに行くから待ってて…皆さん方、IDーーーーは冬木市在住なのは本当ですよ。
私は冬木市在住で御近所です。

名無しの型月スレ民

冬木市の人なのか。本当なのか？まだ半信半疑だけどころわかりやすいようにコテハン付けて。

名無しのマスター

これで良いですか

名無しの型月スレ民

マスターって付けるのか。

名無しの型月スレ民

無神経か相当なバカでもなければ冬木の人だと、マスターなんてコテハン付けないよ

な…

名無しの型月スレ民

『汝の身は我が元に、我が命運は汝が剣に……』とかやった？

名無しのマスター

やってませんよ。

魔術師ニキ

令呪あるのか。祖父母の代でも家が魔術師の家系なら何か召喚に使える触媒みたいなものある？

名無しの型月スレ民

あつたらどうする気だよ。

名無しの型月スレ民

戦争に参加する事になるぞ！

名無しのマスター

原作をかえるために参加したいんですが

名無しの型月スレ民

参加する気なの!?

名無しのマスター

他の参加者を説得するなら部外者より参加者の方が良いですよね

名無しの型月スレ民

説得がしやすくなるかは人による。

名無しの型月スレ民

説得のためでも参加は良くない。

名無しの型月スレ民

原作は変えたいけど参加は危険すぎる…。

名無しの型月スレ民

原作の知識とかはある？危険を知らないとかじゃないよね。

名無しのマスター

この掲示板をみて大雑把にはあります。此のままだと冬木市が大惨事になるんですよね。

名無しの型月スレ民

そうだけど、原作での戦争参加者の生存が半分以下だぞ。原作知識あつても生き残れるかわからないぞ。

名無しのマスター

死にたくはないですが、私の生き死により自分の住んでる所を守る方が重要です。

名無しの型月スレ民

ああ……度死んでる自分の命は軽いってタイプか

三流魔術師

止めてくれよ。ド素人でどうにかなるって原作主人公ぐらいなんだよ

名無しの型月スレ民

サーヴァント、英霊次第では参加するのもありじゃね。

名無しのマスター

え

名無しの型月スレ民

まあ英霊を見てから決めるのはわるくはないか

名無しの型月スレ民

英霊なら日本人の英霊を呼べる触媒よういしないと！地元補正で勝てる！

名無しの型月スレ民

日本の英霊は呼べんだろ。聖杯の概念が無いとかで

名無しの型月スレ民

聖杯の概念が無い所の英霊は呼べないとか大嘘だろ。普通に日本の英霊とか後の作

品に出てるし。清姫とか沖田さんとか

名無しの型月スレ民

日本の英霊出せたら地元補正で日本が有利だから遠坂さんちの先祖がウツカリ騙された説が

名無しの型月スレ民

あと聖杯戦争でランサー、アチャー、セイバーが有利とかも嘘らしい。

名無しの型月スレ民

キヤスターが一番良いんだっけ？

名無しの型月スレ民

流石に今からだと日本の中でも触媒を用意するのは難しいだろ

名無しの型月スレ民

触媒無し英霊召喚ってノーマルガチャ。

名無しの型月スレ民

よしんば運良くレアを引けても他の面子が…

名無しの型月スレ民

星4か星5クラスばかり…一人違うか

名無しの型月スレ民

課金ガチャがあればなあ

名無しの型月スレ民

別の意味で死ぬ。

名無しの型月スレ民

課金でも単発じゃだめ

名無しの型月スレ民

いや別に強いサーヴァントで無くてもいいだろ。戦争に勝つのが目的でないし。

名無しの型月スレ民

そうだった。

名無しの型月スレ民

見せ札とか抑止力としては強いサーヴァントは有用だけど、今回の場合は交渉とかが得意なサーヴァントの方がいいな。

名無しのマスター

…あのー…スママセン…もうサーヴァント?…いますよ…令呪が出たときに…

名無しの型月スレ民

早くいえよ!!それ!!

名無しの型月スレ民

英霊居るなら令呪より証拠になるの居るじゃん!

名無しの型月スレ民

どのクラス……まさかセイバーとか無いよな。

名無しの型月スレ民

出来たらキャスターであってくれ！聖杯調査もできそうだし。原作で出てくるキャスターが最悪だし

名無しのマスター

クラス……わからないです

名無しの型月スレ民

わからないってイレギュラーサーヴァント？

名無しのマスター

いえ、英霊といいましたが、本当に英霊なのかどうか。…頭と…いえ顔が、なんとい
うか…

名無しの型月スレ民

英霊じゃないの。

名無しのマスター

現れた状況的には英霊しかないと思うんです

名無しの型月スレ民

どういう外見なのや。

名無しのマスター

外見ですか。髪が…赤い手袋に全身黄色いスーツに白いマントです。

名無しの型月スレ民

そんな英霊いたか？

名無しの型月スレ民

マントが有るって事は騎士か。

名無しの型月スレ民

黄色のスーツに赤い手袋…黄色…

名無しの型月スレ民

随分と特徴的だし居たらわかりそうなんだけど

名無しの型月スレ民

覚えがない。

名無しの型月スレ民

もし英霊なら原作とかで登場してない英霊が出たようだな。名前はなに

魔術師ニキ

なにか他に特徴は

名無しのマスター

……特徴的……その、はい頭部の上の方に……えー何も無いのが特徴ですね。
名無しの型月スレ民

頭部の上に何も無い……？

……ああ……

名無しの型月スレ民

おい!!わかりやすい特徴隠すなww

名無しの型月スレ民

隠したマスターさんの優しさ……。

名無しの型月スレ民

けど頭髪があれなキャラなんて居たっけ？やっぱり原作未登場のキャラか。

名無しの型月スレ民

名前は

名無しのマスター

ちよつと待っててください。

名無しの型月スレ民

今から聞くのかよ！

魔術師ニキ

名前も聞かれず放置されてたのか。

名無しの型月スレ民

英霊との信頼関係がないと不味いんだぞ。

名無しのマスター

サイタマって言うそうです

魔術師ニキ

そんな英雄いた？

名無しのマスター

趣味でヒーローをしてるそうです

名無しの型月スレ民

なにされ

名無しの型月スレ民

ステータスとかみれない

名無しのマスター

見えますが…これ…

サイタマ（クラス、ヒーロー）

筋力\$&+

耐久<|
敏捷?&
魔力・&#
幸運*#@#
宝具%§

第62話

今の時代にそぐわないパソコンから目を離して、私は大きく溜め息を吐いた。

私は転生者：f a t e ってアニメ作品の世界に転生した転生者の一人。恐ろしい世界だそうですが、チートなんて持つてないんです。転生者になったらチートを夢見ますよね？ないです。チートもない。転生者で特別とかそう言うこともなく他にも転生者の人は沢山いますよ。ご近所にも何人かいるぐらい。

ご近所の知り合いが転生者だと知って驚きましたよ。子供のフリをしてたの恥ずかしい。

転生者と教えてくれたら良かったのにと思いましたが、自分も転生者と隠してました。転生者なんて自分から名乗る人は居ませんよね。

なんでそれで他の転生者の人が居ると知ったかと言えば、切っ掛けは、先ずこの世界はミレニアムな年にも成ってない時代です。

なのにパソコンが普通にある。私が2014年に使ってたパソコンと性能差はそれほど感じないレベルの。パソコンに合わせてネットも普及しています。

今は2000年にもなってます。

私が本来た世界の過去なら今はファミリコンピュタとかの時代ですよ！

2000年代前のパソコンなんて詳しく知りませんが、性能が私の居た時代と遜色無いなんてあり得ません。性能が何世代も進んでるのは間違いないです。ネットも普及してない筈って認識ありました。

家で父親が薄いパソコンでネットをしてるの見てあれ？って思いましたよ。

で、そこから、もしかして自分以外にも転生した人がいてパソコンを作ったのかも、鈍くても他の転生者がいるのかもと気付きますよね。

実際に私たち転生者の中に技術者関係者が複数いて、パソコンもネットも普及させたいらしいです。純粋な商売と趣味って理由だけでなく、他の転生者との接触が目的で開発したそうです。

実際に私は釣られます。

転生者が居るのかと思いつながらテレビやらを見ると、色んな所で私が居た時代ではない未来のワードがあったんです。そのワードやらを父親のパソコンを借りて検索すると、ある会員制のサイトをみつけたんです。

このサイトを見付けた貴方は恐らく私達と同じでしょう。メールを送って下さいと書かれてるんです。最後に確認に行きますと書かれてました。普通に考えたら不味

いですよ。

ですが、サイトの情報がどう考えても私と同じ転生者……反応を見るのに住んでる市だけ書いたメールを送りました。返信として待ち合わせ場所が、待ち合わせ場所の指定されたのが人が沢山いる所だったので行きました。隠れて待ち合わせ場所を見てると近所の人がいきました。ええ御近所の人が転生者でした。お互い驚きましたよ。私も転生者だと確認が取れてそのサイトに入るパスワードを教えて貰いました

そのサイトは転生者だけのサイトでした。そこでこの世界は過去の世界なんかではなく、fateって作品としか思えない世界だと教えられました。

∴fateってなんぞや。

てのが、初めの思いです。

Fateって作品は前世で聞いたことあるようになってレベルで、実際に見たことない作品でした。なんか楽しいウマウマみたいなダンスを踊ってたような？それでほのぼの系な漫画を想像しながらどんな作品なのかきくと、色々とおっそろしいfate世界のことを教えて貰いました。知らないか良かったと思いましたがね。いえ知らないの興味ですか。

倫理観が無い魔術師の事と、原作舞台の冬木には住人を喰ってる18禁アニメみたいな事をやらかしてる蟲が居るって部分に∴蟲とか他人事でないですからね！そうです

よ！私は戦争が起きたりヤバイ住人が居ると教えられた冬木の住人ですよ。

冬木市は色々と危険な fate 世界で特に危険な場所の一つだそうです。正確には危険だと判つて居る地点。この冬木が fate の原作の舞台つて事です。

先ず判明してるので一番厄介な冬木での危険は、聖杯戦争という誰も得しない魔術師の儀式が行われることだそうです。

聖杯戦争は何回か行われていて作品としての始まりは第5次聖杯戦争。今は原作でいう第五の前日談、第四次の聖杯戦争が行われる時だそうです。原作で冬木が一番人がたくさん死ぬ時期と教えられました。

冬木に在住してる人で引越したり聖杯戦争の期間中は離れるって人は結構います。

御近所の転生者の人には戦争の期間中は冬木から逃げた方が良いと言われました。離れることについて協力してくれるそうです。聖杯戦争の期間中だけなら一人で離れることは恐らく出来ません。

ですが冬木から離れるつもりはないですよ。別に話を信じなかったわけでもないです。危険だと信じましたよ。けど自分だけ逃げるのなんて嫌ですよ。親を冬木から離すことが出来ませんし。私を逃がすだけで御近所の人も逃げませんし。

冬木の大惨事を何とかしたい。サイトでは対策会議スレが立てられてたので参加し

ました。何年も前から対策のスレはあつて何とかしようつて動きはあつたんですよ。

けど、安全な対策なんてないです。

例えば対策であつたのは冬木の遠坂つて家への接触。遠坂はこの冬木の土地の管理者みたいな立場の魔術師の家で、管理者つて立場的に聖杯戦争が冬木にとつて危険だとわかつて貰えれば止めてくれる可能性があるそう。

けど、私達の立場は転生者という事で魔術師に何をされるかわからない立場です。聖杯の危険について教えたら、本当なのか確認するのに催眠で情報を取られる可能性があるそうです。それで転生者とバレるかも……転生者が魔術師にバレたら皆が危険、自分だけならともかく他の人も巻き添えにするのは躊躇しますよ。

警察に伝えても何ともならないそう。警察が魔術師の事件を何とかできるなら魔術師が存在してないそうです。

魔術師関係は完全に無法で何処か止める事が出来ないのかと言えば、そうでもないそうです。魔術師がやり過ぎると時計塔つて所に処分に動かれるそうです。魔術師だったり、魔術師に敵対してる聖堂教会とか……聖杯戦争で動いたりしてる様子はなかったそうです。

動くどころか、聖杯戦争だと中立の立場の審判役として聖堂教会があるそうです。で

すが、教会の人がこの地の管理人の遠坂家とグズグズべったり。しかもネットで名前だけ何度も聞いた麻婆、愉悦神父、その人が教会にいるそうです。教会最悪ですね。

教会の上に頼めれば良いそうですが……原作知識だけで証拠が無い。それに教会の上も信用できるか怪しいそうです。

参加者を説得する。

参加者で一番に説得して協力者となつて貰うのに良いのがウェイバーくんって人なそう。魔術師でぶっ飛んでるそうですが一応信用が出来るって意見が多いです。魔術師って所で不安ですよ。散々な魔術師の話聞かされましたし

不安といえばニュースでやっている猟奇的な殺人鬼。ニュースの殺人鬼なんて日本で起きてる事でも遠い世界の事って認識になるけど、その殺人鬼が教えられた原作で冬木にやつてくる事になるそう。

実際にニュースの目撃情報から冬木近くに殺人鬼の話が…原作では殺人鬼がこれから聖杯戦争に参加して、子供が多数犠牲になつて大惨事に成りかけたそうです。

殺人鬼を更に酷くした反英霊って危険な存在が召喚された後だと一般人だともならないそうです。だから聖杯戦争に参加する前に、転生者たちで殺人鬼を探すって事になりました。私も冬木市の住人です。殺人鬼の探索に加わりたかったけど、探索には加えて貰えませんでした。原作にでる殺人鬼の狙いは子供、子供の私はダメなそうで

す。

いや、まあこの世界のニュースで見てこわいですけど、精神年齢的に子供じゃないですし。原作のやらかしを教えて貰った後に放置とか出来ませんよ。けど肉体は子供ですし下手したら足手まとい。

しかたないので探索を止められて倉庫を漁って、何か殺人鬼を相手に役立つ物が無いか探してみました。

実は家が魔術師の家系…と言っても大分前から魔術師の道から逸れてきて、魔術を知ってるだけの家系。両親は魔術なんて使えません。祖父母が使えたそう…*fat e*の事を聞くまで祖父母が中2病を患ってたと思っていました。

元が魔術師なだけの一般家庭、魔術が使えず残念とは言いません。魔術師家系に産まれた転生者の人の体験談をきいたので…他の魔術師ニキ達の家系のバツドなエピソードを大量に聞いて運が良かったと思えましたね。

で、元とは言え魔術師の家系だから倉庫には、魔術師的なアイテムとか残ってる可能性に掛けて、その中に殺人鬼をどうにかできるモノが無いか探すことに。

魔術師に狙われない様に、希少だったり有用なのは処分されてるみたいな事を親が言っていました…何かある筈

もう亡くなったお婆ちゃんが…亡くなる前、占いが得意なお婆ちゃんで…私を占って

くれたのに占いの結果は教えてくれなくて、助けが欲しい時に倉庫の中を探してみなさい。もしかしたら助けになるかもって、言ってたんです。……聞いた時は意味がわからなかったですが、転生者やら戦争やら、今、この時の為に残してくれた遺言だと思えますよね。……占いの結果を教えてくれなかった理由……思い出したらお婆ちゃん物凄く引き吊った顔をして……

それで倉庫をあさって何か役立つものを探したら、一際大事そうに仕舞われていた箱を見つけました。その箱の中には真っ白なマントが入ってました。

普通のマントに見えますが……可笑しい。

この倉庫は私の両親が産まれた頃には放置されてたそうです。2、30年は放置されてた……なのにそんな倉庫に最近しまったばかりじゃないかと思えるマントで……手が痛くなったんです。

物凄く！痛かったです！

痛かった方の手に出来てた傷跡みたいな痣。

どう見ても……此を冬木で見たら離れる逃げろと教えて貰った聖杯戦争の参加者の証明の……令呪。

それで……

「ゴッドハンド」

呑気な声が聞こえました。

声の方を見れば私しか居なかった倉庫に変質者がいたんです。

白いマントに全身真っ黄色のスーツ。ご当地ヒーローでももう少しマシになるって感じのヒーローの格好にみえますね。

格好はどうみても擁護しようがない不審者そのものですが、いきなり現れましたし。あのマント……それとタイミング的にどう考えても手のあれと関わり有りますよね。初めは手のアレと合わせて考えて話に聞いていた英霊なのかと思っただけ、うん。

なんか違うと思えます。

見た目が……ツルツと光る頭部が

英雄

ないわー

「……」

あと英霊って大抵が肖像画とか無関係にイケメンや美女だって。それか物凄く濃い顔とかなそうなの……シンプルです。あと頭……英雄

ないわー

「おい……人の頭を見てないわーとか何度も言うなよ！」

「あ、スミマセン、ないわーって言ったの貴方の髪の毛の事でないですよ。それよりなん

で私の家の倉庫にいるんです」

「え、お前んちの倉庫なのかここ…なんでって

…なんでだ」

困った顔をしています。なんか汗を掻いています。挙動不審です。こんな薄暗い倉庫で不審者な男性と女の子が居るって事案だから？

「いや、ホント気付いたら此処に居たんだよ」

英雄かはおいておくとして少なくとも此方に危害を加えようって感じはないですね。「あの貴方って何処からきたんですか」

英雄だと英霊の座とか言うところから来るんですよね

「何処からって乙市だけど…」

「…ゼット、市？」

そんな市とか無いですよ。

いえこの世界の日本ならあるんですかね。

それともゼットシ…？

「ここって乙市と違うのか…何で俺が此処に居るのかとか知ってたりはしない？」

「ここは冬木市です。どうして此処に居るのは此方がききたいです」

「そっか知らないか。冬木市ってどこだ…取り敢えず外でて確認するか」

「あつーちよ、ちよつと待つてくださいい！えーと！確認する事があるので！ついてきてください」

「…何でだよ」

これ自然と逃げようとしてましたね。

「ついてきてくれないと不審者が出たと叫びます」

「つ、ついてくからそれは止めてくれ」

とりあえず家が上がってもらいました。親が弟と出掛けててよかった。テレビを見てもらってるうちに私はスレで相談しました。令呪の事を相談して……それで、こう、どう説明して良いのか困って、一番相談したいことですが、英霊がよくわからない人の事はだいたい後から相談しました。

特徴を伝えると思い当たる英霊は居ないそう。けど知ってるみたいな反応もありました。名前の確認をしてくれみたいに言われて今更ながら名前を聞きました。

「俺の名前か。サイタマだ」

サイタマ、日本人の名前？日本人の容姿ですし、日本の歴史でサイタマなんて人はきいた覚えはないですし

「あの、貴方って英霊、英雄なんですよね」

「趣味でヒーローはやってるけど」

やっぱり不審者ですかね。サイタマって名前をネットに書き込みましたが、誰も知りませんでしたし。

ステータス？

そう言えばゲームみたいな感じで強さが見れるんですか。

見れましたが…なんですかこれ。

第63話

「スレ民が第4次大戦参加決定！名無しのマスターを応援スレー！」

名無しの型月スレ民

えー！栄えある！我がサイトのスレ民の一人が大会に参加する事になっちゃいました!! 頑張ってしまいました!! 頑張りました!! 頑張りました!!

名無しの型月スレ民

応援したくないんですけど、サーヴァント宛にならないだろ。

名無しの型月スレ民

このサイトの設立理由、なるべくスレ民の安全性を高める為ってのが主題なのに…家族全員冬木から出す協力もするって言ったのに

名無しの型月スレ民

説得ダメだったかあ。

名無しの型月スレ民

魔術師ニキが悪い

魔術師ニキ

俺が悪いのかよ!? 悲惨すぎるから隠してた前例まで出して魔術に関わるの危険を教えただけだぞ! あんな反応予想できるか!

名無しの型月スレ民

たしかに正反対な反応してたな。

名無しの型月スレ民

マスターちゃん、魔術師の危険を教えられて絶対に参加すると決意。

魔術師ニキ

おかしいだろ。俺が悪いのか。普通参加なんて避けるだろ。

名無しの型月スレ民

魔術師ニキが悪い! と、言えないか。魔術師と関わってマトモに死ねたら幸運な前例書いてたし。普通は避けると思うよな

名無しの型月スレ民

冬木で殺人鬼探してるニキでも魔術師には関わりたくないとか書き込んでたぞ。

名無しの型月スレ民

正義感強すぎなのか自己保身が薄いのか……

名無しの型月スレ民

まだ小学生なんだから。止めてくれよ。

名無しの型月スレ民

精神年齢は成人してるとかちやうよ…

名無しの型月スレ民

肉体小学生女子で魔術の知識皆無、戦闘力皆無、特殊能力無し。魔術回路など才能があるのかも怪しい…：聖杯戦争全般で考えてもブッチギリで最弱のマスター。サーヴァントも…

名無しの型月スレ民

有利な点は、小学生だし侮ってくれたり、殺されないでくれるって可能性は高くなる筈だけど…

名無しの型月スレ民

参加者の何人か小学生だからって見逃してくれるか怪しいぞ。少なくとも確実に嬉々として襲うのが一人いる。

名無しの型月スレ民

殺される可能性を散々に言われたのに参加する。死ぬ覚悟とか持ってそうで怖いんや。

名無しの型月スレ民

もう参加止めるの無理なん。御近所の人は説得出来なかったのか
名無しの型月スレ民

説得したけど…参加するって、両親や弟の事を考えろと言っても、何もしないと原作の惨事が起きたら自分も両親弟共々死ぬ可能性があるんですよ。なら危険でも皆で生き残る為に動く方が良いつていわれたら…

名無しの型月スレ民

そう言われたら止めねーわ。

名無しの型月スレ民

皆で生き残る為にか

名無しの型月スレ民

はあ…：…応援スレだし此れからの方針について話すか

野生魔術師

そうだな

名無しのマスター

ようやく本題ですか。皆イヤそうですね。降って沸いた原作改編の大チャンスですよ。

名無しの型月スレ民

チャンスと思えるか！きみ女子小学生のスレ民なんだから！！

名無しの型月スレ民

小学生のスレ主が戦争に参加、そんなスレ主に大人の俺たちが安全な所からの書き込み……精神的にくるんだよ！

名無しの型月スレ民

高校生、いや中学生以上のスレ民ならこんな苦悩なんてしないのに……

魔法使い志望

参加なんて止めておにーさんの家にくるんだ！絶対にまもってあげるから！

名無しのマスター

あの……なにかゾワツてくるんですが

名無しの型月スレ民

心配されてるだけだ！心配されてるの忘れずに気をつけて！色んな意味で！！

名無しのマスター

はい用心します。で、話は戻りますが、此れからの行動の方針についてです。元の予定だとウェイバーって人を探して聖杯の情報を与えるところでした……ウェイバーって人に私が参加者として情報を渡しに行けば良いんですよね？

名無しの型月スレ民

それで良いのかな

名無しの型月スレ民

良いと思うよ。ウェイバーくんなら小学生の君に何かするとは思えないし…あとサーヴァントがあれなら敵としても認識されないよな？

名無しの型月スレ民

サイタマって人には協力して貰えるんだよな

名無しのマスター

はい。このままだと街が危ないって説明しましたら協力してくれるって言ってくれました。

名無しの型月スレ民

聖杯が欲しいかとか聞いたんだよね？

名無しのマスター

聖杯には特に興味ないそうです。

名無しの型月スレ民

つまり利益抜きに助けてくれるのか。流石趣味でヒーローをしてる英霊だな。

名無しの型月スレ民

クラスもヒーロー。

名無しの型月スレ民

召喚したサイタマって結局なんなんだ。英霊なのか。聖杯戦争の知識も聖杯の知識も無いんだろ。

名無しの型月スレ民

変なのみたいだけどステータスは見えたみたいだし英霊ではあるんだろ

名無しの型月スレ民

英霊だろうか。サイタマって名前は誰も心当たり無しだろ。名前も知られてない英雄か…

魔術師ニキ

もしくは俺たちが別世界から来たモノだしそれが由縁で、別の世界からきたか…

名無しの型月スレ民

情報的には別世界だろ。話を信じるなら今と同じぐらいの文明で怪人がいるそうだし。歴史が変わったあの世界でもないだろ。

名無しの型月スレ民

怪人が居る世界って神代の世界じゃ無いだろうな。

名無しのマスター

私に見えるステータスがバグってるのも異世界の存在だからですかね。

名無しの型月スレ民

ステータスわからないそうだけど強さとかは？

名無しの型月スレ民

クラスがヒーローだし強そうな感じはする

名無しの型月スレ民

ミスターサタンもヒーローだぞ：ヒーローは強さの保証にはならないぞ

名無しの型月スレ民

マスターちゃんの所に行ったご近所さんどうなの。

名無しのご近所さん

コテハン付けます。見るからに強そうには見えませんねー。

名無しのマスター

本人に強いのか聞いたら強いそうですよ。怪人はワンパンで倒せるそうです。

魔術師ニキ

その怪人とやらは強いのかね。

名無しの型月スレ民

ワンパンね：なんか胡散臭い

名無しの型月スレ民

マスターちゃんもし仮にサーヴァントと戦えるぐらい強くても戦いは避けろよ
名無しのマスター

わかっています。サーヴァントを倒したら不味いんですね

名無しの型月スレ民

それもあるけど魔術師どころか魔術使いでもないマスターちゃんだと、シロウが召喚した初期セイバーより状態は悪いはず。

名無しのマスター

えっと

名無しの型月スレ民

つまり、ちゃんとした魔術師でないと英霊が動くエネルギーの補給が出来ない。エネルギーが切れたら英霊は消える。普通にしてもエネルギーは減る。戦闘でエネルギーの消費はもつてのほか。

名無しの型月スレ民

毒を食らった状態かな。

名無しのマスター

私が問題なんですか……エネルギーの補給って私だと出来ないんですか。

名無しの型月スレ民

…いや、その…

名無しの型月スレ民

此処を観てたけどその知識なしなのねマスターちゃん

名無しの型月スレ民

マスターちゃん、その話題は出したらアカン。

名無しの型月スレ民

ふう

名無しのマスター

なんですか。手段があるのにダメなんですか。ご近所さんが気まずそうな顔をして

るんですが

魔術使い

マスターちゃん…：フェイトの原型…：18禁、魔力補給がそういうこと

名無しのマスター

ウェイバーさん探索に出てる皆さん！ウェイバーって人は見つかりました！

名無しの型月スレ民

…にげたな

名無しの型月スレ民

まて命の安全の為なら18禁とか気にしてる場合じゃないだろ。

名無しの型月スレ民

言われてみるたそうかも

名無しの型月スレ民

さ、流石に小学生のマスターちゃんがするのは…

名無しの型月スレ民

そこでご近所さんですよ

名無しのご近所さん

私だ?!いや補給する魔力あるかわからないし。何より薔薇になるんで無理だ!

名無しの型月スレ民

あ、ご近所さん男だったのか。

時計塔ニキ

男同士でもいいじゃないですか。効率の良い方法をレクチャーしますよ。マスター

ちゃんの安全の為にも覚悟決めてください

名無しの型月スレ民

あれ、御近所さん小学生のマスターちゃんの家に居るんだよね……両親が出掛けているんだよね?

名無しの型月スレ民
通報しますた！

名無しの型月スレ民
通報しますた

名無しの型月スレ民
通報しますた

名無しの型月スレ民
お前の罪を数えろ

名無しの御近所さん
冤罪なんだよなあ。私、既婚者だぞ

名無しの型月スレ民
奥さん聞きました既婚者ですって！

時計塔ニキ
裏切られた：男同士の場合でも浮気になりませんよね。緊急避難の為ですし

名無しの型月スレ民
まあ！既婚者が小学生の女の子の家に上がり込むなんていけないわ！

名無しの型月スレ民

皆に教えてあげましょ！

名無しのマスター

ご近所に拡散しなくては！

名無しの型月スレ民

奥さんにも教えたい！

名無しのご近所さん

止めなされ。そしてマスターちゃん、ご近所に拡散したら君も巻き添えだよ

名無しのマスター

スミマセン、ノリで

名無しの型月スレ民

マスターちゃん余裕あるなあ。そして誰も時計塔ニキに触れない

名無しの型月スレ民

御近所さんもマスターちゃんもスレに居ますが、あのサイタマって人は放置されてな

い？

名無しの型月スレ民

あ

名無しのマスター

大丈夫です。お煎餅食べながらくつろいでテレビを見てます

名無しの型月スレ民

図太い…いや英霊だと普通か

名無しの型月スレ民

召喚されて1時間たたずで、テレビみて煎餅食べてくつろぐとか、やれてもイスカンダルぐらいじゃないか。

名無しの型月スレ民

イスカンダルと相性良いのかな

名無しの型月スレ民

相性良ければウェイバーくんの胃痛が増すんだね。知ってる。

名無しの型月スレ民

見付けた!!ウェイバーくんや!!

名無しの型月スレ民

ぐふう胃痛の話がでて直ぐとか草!!

名無しの型月スレ民

すげえ胃痛の話と書き込みがコンマで同じやで。

名無しの型月スレ民

あとはマスターちゃんをウェイバーくん所まで連れてきたら良いのか。

名無しの型月スレ民

なるべく接触は急いだ方が良いけど、ウェイバーくん組なら召喚した後の方が良いよな

名無しの型月スレ民

どうだろ。不利益ない話をするつもりだけど、ウェイバーくんだけだと躊躇いそうなきはするな。

名無しの型月スレ民

召喚後だとイスカandalで見付けたとか言えるからか？

名無しの型月スレ民

それもあるww

名無しの型月スレ民

イスカandalかどうか。原作と同じかの確認しないとな。

名無しの型月スレ民

別なサーヴァントの場合は困ることになるな。ウェイバーくんに接触も危険かもしれない。

名無しの魔術師

イレギュラーで英霊エミヤとかこないだろうな。出てきたらヤバイぞ

名無しの型月スレ民

：お仕事で俺たち抹殺対象になりかねないもんな

名無しの型月スレ民

イレギュラーにもうハゲの人が来てるけど他もあり得るのか。

名無しの型月スレ民

そう言えばサイトマて七騎の一人扱い？それか別扱い？

名無しの型月スレ民

どうなんだろ。クラス名にはヒーローって出てるんだよな。七騎扱いならバーサー

カかキヤスター枠が弾かれて欲しいな。

名無しの型月スレ民

ウェイバーくんまだ召喚してないかな。

名無しのマスター

えーそろそろ親が帰ってくる時間なので、サイトマさんとウェイバーくん家まで確認に行ってみたいです。誰か案内してもらえませんか

名無しの型月スレ民

なら俺が、マスターちゃんの家は知らないけど御近所さんてあの人だろ。なら君んち

の近くの商店街入り口にまで来て貰える。

名無しのマスター

わかりましたありがとうございます

名無しの型月スレ民

霊体にもなれないそうだし親が帰ってくるなら置いてけないな……って、どうすんの！
サイタマに家に居て貰えないぞ！

名無しの型月スレ民

ご両親も一応魔術の事は知ってるんだろ。いつそ説明するのはダメなの。

名無しのマスター

ちよつとそれは

名無しの型月スレ民

なら、どうすんだマスターちゃん。まさか野宿しろとか言うつもりじゃ

名無しのマスター

えつと御近所さんの家に出来たら……

名無しの型月スレ民

そつか御近所さんなら大人で事情知ってるからいけるの。

名無しのマスター

ご近所さん隣で無理って感じで手をふってます
名無しの御近所さん

で、できれば避けたい。奥さんへの説明が……

名無しの型月スレ民

いつそウェイバーくん所にサイタマ投げるか？

名無しの型月スレ民

∴説得できた後なら良いかもな。

名無しの型月スレ民

止めはしないよww

名無しの型月スレ民

サイタマが居ないなら狙われないよな。

魔術使いニキ

令呪を隠してもマスターちゃんの仕事を見つけてる事ができると思う。

名無しの型月スレ民

あーマスター同士は反応する事ができるんだったか

名無しの型月スレ民

ならマスターちゃんごとお世話になるしかないか

名無しの型月スレ民

ウェイバーくんはともかくマツケンジーさんが気の毒や

名無しの型月スレ民

そうだな。マツケンジーさん夫婦に迷惑かけるのはダメだな

名無しの型月スレ民

ウェイバーくんになら迷惑をかけて良いという暑い信頼感を感じる

名無しのマスター

そろそろ行きますね。もし召喚後ならそのまま接触します。

名無しの型月スレ民

まって！そんな気軽に行かないで！

名無しの型月スレ民

ウェイバーくんが安全とか原作からの予想だからな！警戒はしないとダメだぞ！

名無しの御近所さん

では私も行ってきます。情けないですが遠くから見守る事しか出来ませんが

名無しの型月スレ民

遠くから見守るだけでも十分だからな。むしろ家で待ってる方が良いんだよ。

名無しの型月スレ民

他の冬木民も近付くなよ。ウェイバーくんを警戒させたらダメだからな

名無しの型月スレ民

マスターちゃん、気をつけてな

名無しの型月スレ民

反応無いな。もう行つたのかな

名無しの型月スレ民

大丈夫だろうか

名無しの型月スレ民

大丈夫だと願うしかないな

名無しの型月スレ民

サイトマつてのは頼りになるのかな。話に聞く見かけだとどう考えても弱いよな。

名無しの型月スレ民

まあ戦いなんて避ける方針だしサーヴァントが居るって見せ札になつてるだけでも

良いから…

名無しの型月スレ民

大丈夫なのかね

名無しの型月スレ民

緊急自体が発生!!

名無しの型月スレ民

何か起きたのか

名無しの型月スレ民

冬木での事だよな。殺人鬼についてかマスターちゃんについてか、それか他のマスタ―についてか

名無しの型月スレ民

何れも不正解… ウエイバーくん所に案内するといったモノなんですが、待ち合わせした所に御近所さんっぽい人とマスターちゃんと…頭がピカツとした野郎が来たんですが、頭がピカツとした野郎は何かを抱えてたんです。

仮面を付けた怪しいヤツが居て何となく捕まえたそうなんですが……

…どうみてもアサシンぽいんです

日記

2020年、○月×日

日記をつけておくことにした。

いやーもしかしたら、貴重な記録としてこの日記が文化遺産になるかもしれないかも
…この日記を見る人類が存在したらね！ハハハハハ！

真顔で笑い声の擬音を書くの初めてだわな、真面目に書いてたら精神がやられそうだし
なるべくテンション高く書こうと思う！真顔で！無理そうだし普通に書こう。

世界がヤバイんだと思う。

いやネットやらテレビで情報取れなくて詳しい状況わかんない。けどさつき見た外の
景色から考えたら…あと聞こえてくる音が、人類の存続がどうかってレベルなような
気がする。世界とかは大袈裟かもしれない。少なくともこの近辺の自分を含めた命は
崖っぷちなのは確実。心臓がバクバクして痛い。身体も震えて仕方ない。

自分はただの引きこもりの一般人。名前も書こうと思ったけど…変な事を書きそう
だし、冗談で文化遺産とか書いたけど、誰かにみられる場合はあるかも、自分の名前が

知られた場合がこつ恥ずかしいいか。どうでも良いか。

日時は上記にあるから省略：今の時刻は12時15分、大体今から一時間ぐらい前にドガン！なんて破壊音が聞こえて、グラグラ地震みたいに揺れて、食器やらパソコンが落ちた。次に悲鳴と鳴き声が聞こえたんよ。今も聞こえる。怖くて怖くて仕方ない。

悲鳴は人で鳴き声が聞いたことない感じの：声が大きすぎて窓がガタガタ震えるぐらい。声にプラスしてカーテンに閉まった窓から赤紫の光が漏れててビビった。

一度だけ外は見た。

外を見たら赤紫の光は下の方から出た。水みたいにも見える光で下から上に流れる噴水みたいに、赤紫の光が空まで登った。何が噴出してんのか。

で：変な生き物？ゲームに出そうなモンスターっぽい不思議生物達が外を闊歩してた。体長が数メートル有りそうな太古に居そうな鳥やら、装甲車みたいなトラみたいのやら、デカイのだと恐竜、ミニゴジラみたいなのやら。そんな感じにお外がヤバイ事になってた。そんな生き物が人をバクバクしてるのもみえた。判ってるのこれだけ、今はどうなのかわからない。

そら怖いし外見れない

外を見なくても情報を知る方法、テレビは無くてパソコンは一時間前の揺れで机から

落ちて壊れてる。スマホは壊れてないだろうけど充電切れてて充電器が…予備の充電器買っとけば良かった。

危険なのはわかるけど、どうなってるのかサッパリ。なんであんな摩可不思議生物が現実に出てんのか。バイオハザードみたいな実験生物の結果、それか宇宙生物？異世界から来た生物。

あの生き物はどれぐらい居るのか。ここら辺だけなら良いけど、市全体、県全体、日本中、世界中。後者の方は考えたら人類全滅待ったなし…まあ前者は前者で某ゾンビゲームみたいに被害拡散防ぐのに丸ごと吹き飛ばそうみたいな話でアカンか…。

どうなってるのか切実に知りたい。スマホの充電器を外に出て手にいれるしかないんだけど、悲鳴がね…。

あの不思議生物が外で人を襲ってる。戦うなんて無理だし部屋から出れない。ずっと悲鳴が聞こえるし。悲鳴とか聞きたくない。切実に耳栓ほしい。耳栓付けるのも怖い。

やっぱ耳栓はいる。何かさつきから耳鳴りがして気持ちわる…

朝になってた。

○月○○日

日付変更よし（現場猫）

時計を見ると7時、七時で外が明るい。つまり

気付くと一日経ってた。いつの間にか寝てたみたい。ドアを破られて死んでるとか無くて良かった。体調と気分は最悪だけど良かったと思おう。

外が静かになってる。赤紫の光はまだ見える。とか身体を動かしてカーテンを少し開けて見ると……赤紫の光はまだ出てる。しかも空が赤紫色だ。魔物みたいな不思議生物は外にウヨウヨ居る。夢でないって最悪な現実を叩きつけられるし。

外を見たストレスのせいなのか。さらに体調がすこぶる悪くなってる。気持ち悪い。また耳鳴りもしてくるし。体が熱い。発熱してる。熱いし痛い。

○月××日

日付変更よし

また気付いたら1日経ってた。

まだわりかし痛いし気持ち悪いけど少しマシになってる。

外が可笑しくなって2日目、3日目、早朝にカーテンをチラッと開けて見ると相変わらず外に不思議生物がいる。ただ明らかに見える生き物が少なくなってる。ぽい？何処か

別の所に行ったのか。はたまたこの時間は寢床で寝てるのか。

この時間なら外に行けるのかね。

外には早くでないと不味い。冷蔵庫には食料ほぼない。何時もは戸棚に備蓄してあるカップラーメンも補充を忘れてて二つだけ。水道の水しかない。水もいつまで出ることかわからない。

外がああなる前にカップラーメンの追加はネットで注文したけど、昨日か今日届くはずだったけど、外の有り様的に届くわけない。むしろ届いた方が恐ろしい。届いたらその配達員は人間でない。人間でなくてもいいから届けてはほしいか。

何日か経過したけど救助は来るようすもない。救助が無くても自衛隊が来るとかぐらいはあるはず、来るようすがない。被害は此処だけじゃ無いのか。救助は期待できそうにない。空腹で動けなくなる前に食べ物を探しに行くしかない。このマンションからコンビニは近い。下を見れば有る。あのコンビニに行けば食料とスマホの充電器も手に入れられる。

行くしかない。

体の体調は悪いけど何とか動けるはず。

だめした。出ようって覚悟を決めたのに外から鳴き声が聞こえてきた。外を見るとまた生き物が活動し始めてる。今は7時ぐらい。音が聞こえなくなってたのは4時か

ら5時ぐらい。6時からチラホラ聞こえてきてた。安全な時間は…明日も確認して、もし大丈夫だと確認できたら明後日に動こう。

○月△日

今は4時、日がちよつと登ってる薄暗い早朝。この時間にはやっぱり外から音が聞こえない。外を見渡しても動いてる生き物はいない。外に出るならタイミングはやっぱり4時ぐらいが良さそう。また6時ぐらいから音がし始めた。安全なのな4時から5時ぐらいまで。

明日の四時に外にしよう。

○月△△日

4時になった。音は聞こえないし動く気配もやい。今の隙に行くしかない。食料はもうほぼない。体調は昨日よりマシ。満足に動ける今行くしかない。

さて、行こう。

日記に書くのこれが最後とかにならなきや良いけど…

自分で不穏なフラグを最後に書いてる。けどフラグは仕事せずにコンビニから無事に帰ってこれた。

先ず外に出ると床やら壁やらリニューアルされてた。：具体的に言えば人から流れそうな赤い液体の色に、けど予想よりは荒れたりはしてなかった。ドアが破壊されたりもしてない。

人が居るかもってドアをノックしたりしたけど人の返事はゼロ。無視されたか。居ないのか。避難したのか。ムシサレタナラ悲しい。避難してるなら逃げ遅れた。どっちにしても良くない。

音とかしたのにマンシヨンの中では襲われた様子はなかった。あの生き物が入り込んでるならマンシヨンの壁とか床が破損とかしてるだろうし。外に出たらご遺体が落ちてるとか想像してたけどそんな事はなかった。やたらデカイ鳥の死骸が落ちてたぐらい。

ただマンシヨンの外は普通に無茶苦茶に破壊されたりしていた。建物の中が安全って訳でもない。自分とこのマンシヨンだけ運良く無事だっただけかな。無事な理由でもあったのか調べたいけど、不思議生物が寝てるのチラホラ見えたし調べる余裕はなかった。

マンシヨン周りの赤紫の光の噴出してる所とか見れた。近くで見ると幾つも穴が開いてて底が見えなかった。マンシヨンが穴のせいで倒壊とかしないか不安になった。あと今さら気になったけど赤紫の光ってなんだろ。今の空の色は青い空に赤紫が薄く

混ぜてるけど

マンション前のコンビニで食料は手に入った。そんなに荒らされたりしてなくてカロリーメイト、お弁当お菓子類、カップラーメン、冷凍食品やら何やらあり、段ボール一杯に詰め込めた。

ただスマホの充電器がゴツソリ盗られた感じでなかった。ラジオみたいな情報を知れる機材なんかもなかった。違うコンビニに行こうか迷ったけど……欲をかくのは死亡フラグだし。見付からないように注意しながら戻ってきた。覚悟したのに危険もなくサラッと帰ってこれた。帰るときに落ちてた鳥の死骸も持って帰ってきた

鳥は食べれるかわからないけどコンビニのだけでも食料は暫くは何とかなる。

ただ情報どうしよう。

いい加減この状況について情報が欲しい。避難情報があったとかありそう。外に出たときに見たらマンションに駐車されてた車とかはだいぶ無くなってた。避難はしない。水、電気、ガスはまだ来ててまだ大丈夫だけど何時まで持つか不安だし。

日持ちしないお弁当を食べた。二日ぶりの食べ物はいへん美味しゅうございまして。お弁当の古いのはゴハン少し堅かったとか文句は口には出してない。書いてはいる。

お腹が膨れた後に拾った鳥の処理をすることにした。先ず羽を抜いた。とても羽が

固い。羽毛布団にはならない。軽い金属みたいな感触がする。服にしたら鎧になりそう。

皮と肉は羽と違って其処まで硬くなくて包丁で切れた。あくまでも羽と比べて普通の鶏肉よりは何倍も切りにくかった。脛肉より切りにくい。

肉は堅さはともかく見た目は普通の鶏肉って感じで危険って感じはしない。毒でも焼けば大丈夫の、はず。今はもって帰った食料があるけど、コンビニの食料も何時までも続かないし。

折角さばいたんだし少しだけ試しに焼いてみた。で、食べてみることにした。

食感は硬いけど味はわりと美味しかった。噛めば噛むほど味が出てきて、塩コショウで焼いただけで中々、濃厚な味な鶏肉って感じ。美味しくはあった。お試しのために少し食べるつもりで全部食べてた。

満腹になったからかとても眠くなった。久し振りにゆっくりに寝れそう……。

○月□日

身体がダルい。

○月□○日

ダメだ。ダルさが余計に：オマケに酷い筋肉痛みたいな痛みも……気持ち悪い

○月×△日

×月△日

日記が手抜き過ぎだわ。前日なんて日付しか書いてない。まあ体調が最悪すぎたし仕方ないか。

日記を書くのも無理な体調になってたけどなんとか復活できた。寝込んでたのに身体の体調が過去最高にとっても良い！

お腹が空いたから鳥の残りを食べよう。まだ腐ってる様子も無いしいけるはず。腐ってるどころか焼いて食べたら前より旨い。肉が普通の鶏肉より柔らかい。寝かせたら柔らかくなる肉だったのか。今度から絶対に寝かせてから食べよう。

外の様子は特に変わってない。救助は来てない。生き物が相変わらず徘徊してる。このマンシオンはまだ無事。マンシオンが無事つてより外は何回か見てたけど、このマンシオンにあんまり生き物が近寄ってないようないかな？あんまり外が観察できないから気

のせいなのかもしれない。

×月□日

身体がダルい。

風邪がぶり返した？

日記書くの無し

×月\$日

ひ

×月○日

また寝込んだのに良かった身体の調子がさらに良くなって。身体を動かしたくてムズムズする。寝すぎた弊害にはおかし。けど兎に角、身体を動かしたい。

ちようど早朝で不思議生物の姿もみえない。よし行こう！別のコンビニに行つてスマホの充電器を今度こそ確保！また鳥を見付けられたらなおよし！

充電器だけゴツソリ持っていくアホは誰だ!!!

少し遠めのコンビニにまで行つたけどまさかのまた充電器が無かった。仕方なくま

た食料品だけ貰って帰った。ついでに鳥の代わりに牛みたいなのが落ちてたから持って帰った。首元がパツクリして死んでた。でてきた生物同士は味方同士って訳でもないみたいだ。まあ別種の生き物で味方同士って方が可笑しいか。ゲームの魔物ぼいし味方同士とか思ってた。

帰って早速牛さんの皮を切った！気持ち少し堅いかなって感覚だけど、包丁が金属裂くような音を成らした。どんな皮膚をしてるんだろ。ただ皮の中の身は其処までかたくない。

焼いて食べてみようと思う。

旨すぎる！霜降り肉!!香りはちよつと臭いけど濃厚で美味しい。A何とかそんなお肉だ!!美味しくって叫んでしまうなんて初めてのKEIKEN!!

料理のリアクションって書くのどうすればいいのか。さて、満腹になった。満腹になつてから改めて気になることがあつた。

牛、持つて帰つたんだけど、牛、ご立派なサイズ、車つてぐらい、重さ軽くトンはありそう。そんな大きな生き物を担いで持つて帰つてきた？

×月○○日

また身体がダルい。

あと痛い！最大級の筋肉痛が！書いてるだけで指の先までピキピキとする。あんな牛を担いだり無理した反動？また気持ち悪くなってるし。

大丈夫な

×月△□日

昨日は1日寝込んで日記も書けなかった。昨日の体調が嘘みたい。今は体調が良くなってる。身体を動かしたいって気分だ。今の調子なら直ぐにでも三件目のコンビニに行けそう。ちょうど今は4時：

コンビニ行ってきた。

帰ってきて今さらながら思うけど即断で動きすぎでないかと思う。なんで寝込んだ後なのに片道で一キロぐらい離れたコンビニまでダッシュして行って帰ってきて、身体が落ち着かないぐらい元気なのか。

ただ、ようやく！スマホの充電器も見付けた。もちろん帰ってすぐにスマホを充電中。まだ電気は来ててよかった。

スマホの充電はソロソロ良いかな。スマホの電源ボタンを押したけど無事に起動した。外があんな状況だし繋がるか不穏だったけど、ネットワークの表示はちゃんとあった。ネットに繋がった。状況は何処で調べたらいいんだろ。：質問とかしたいし掲示板で良いかな？

日記から掲示板

名無しのモブの主（奈良県）

みんなー今日も一日生き残れたかなー。

名無しのモブ

はーい

名無しのモブ

生き残れたー！

名無しのモブ

生きてるよー

名無しのモブ

生きてる。ありがたいことにな！

名無しのモブ

アライブ

名無しのモブ

おう生き残れたで

名無しのモブ

へへ……少し腕をやられたが生きてるぜ。

名無しのモブ主

挨拶ありがとう……みんな生き残れてるみたいでよかったよかった。生きててくれ

て嬉しいよ（泣）

名無しのモブ（高知）

生きてる人間だけが挨拶してるだけだけどな（名推理）

名無しのモブ（奈良県）

マジでそう言うヤボなツツコミするな！

名無しのモブ

ファツ○ユー、キル○ー

名無しのモブ

何が名推理だボケ

名無しのモブ

空気読めやカス

名無しのモブ

コラコラ対応が厳しいぞww

名無しのモブ

気持ちにはわかるけどネットでぐらい平和で居ようよ。

名無しのモブ（北海道）

そうだよ殺伐ダメ……ほんとに

名無しのモブ（大阪）

ホンマ殺伐としてるの現実だけで十分や!!

仲直りして。

名無しのモブ

そうだな……ごめん高知の人

名無しのモブ

少し敏感に反応しすぎましたごめんなさい。

名無しのモブ（高知県）

いえ!!こちらこそ野暮な発言で名推理何て言っごめなさい m (;) m

名無しのモブ ()

おう、まあ許してやるわ!

そしてキツイこと言っごめんね!

名無しのモブ（島根県）

気持ちにはわかるけど敏感になりすぎてましたね。

名無しのモブ（東京都）

う、うん、仲良くなつてハッピー、そんな時に言うのも何だけど、どうしても言いたい。島根県……お前らの所、魔物出現率最下位で魔物ほとんど出てねーじゃねえか！日本で一番安全な所がなになが気持ちわかるじゃー！空がどこ行つても青いままなんだつてな！

名無しのモブ

おい

名無しのモブ（滋賀）

ま、まー元東京の人だと一番安善な県から気持ちわかるとか言われるの腹立つよな。

名無しのモブ（島根県）

なんで僕たちが悪いことに？

総統、魔物が島根を無視するんです！

名無しのモブ（東京都）

誰が総統か。無視されてるならいいじゃん。マジで羨ましい。赤紫の空と魔物のせいで東京なんて殆ど人が住める場所無いんだぞ。あと滋賀の人、東京都に今は住んでな

いけど元って付けないで

名無しのモブ

まさか（魔物出現度ワースト12）東京都民が島根に嫉妬するなんてなあ。

名無しのモブ（鳥取県）

そもそも島根県なんてありました？

名無しのモブ

あつたろ…たぶん。

名無しのモブ（島根県）

ボクが居るのは何処ですか??

名無しのモブ

いったい魔物は何を基準に出てくるのだろうか。

名無しのモブ

専門家が言うには人口が多いところらしい。

名無しのモブ（岩手県）

一ヶ月前に出てきたばかりの魔物（謎の生物）の専門家って何ですかねえ。それに人口の多さ？日本での推定魔物出現率ナンバーワン何処だったかね

名無しのモブ

まあ日本はともかく世界的には有力な説だし：と言うか日本も1つの県が可笑しいだけで大体人口順だろ

名無しのモブ

日本の人口国土のわりに広いから魔物も多いんだよな。某人口トップの国よりは遙かにましかけど、

名無しのモブ

：今だと人口トップではなくなつてそうだよな。

名無しのモブ

ホント何処から現れてるんだ。魔物つて呼ばれてるけど魔界から来た生き物つて訳でもないだろ。

名無しのモブ

そもそも魔物つて名前も日本だけの呼び名で世界ごとに呼び名も違うんだよな。ミュータントやらレギオンやら。

名無しのモブ

神話の生物か生物兵器か

名無しのモブ

名前については色々とするのは仕方ないと思うけど、エイリアンとか呼んでるの居る

よな。可笑しいだろ。何処にエイリアンの要素があるんだ。

名無しのモブ

おいおいエイリアン、宇宙生物は有力説だろ。何も無い空間から現れる。つまり！宇宙からワープで送られてるんだよ！

名無しのモブ

それ一部界限での有力説だろ。

名無しのモブ

地球上の生き物でないって事は確実らしい（専門家談）。

名無しのモブ

専門家でなくてもわかるだろそれは…

名無しのモブ

異世界から送られた何者かの攻撃

名無しのモブ

そういう話は多いな。

名無しのモブ

世界中に満遍なく魔物が出てるんだぞ。誰かの意図が無いとそんな状態に成るわけ

ねえ!!

名無しのモブ

そういうや、あの国が魔物根絶の作戦に出るって言うってたけどどうなったんだ。一時期は引つ切り無しに情報が出てたけど、今はどうなってるの。

名無しのモブ

魔物がいる所に核をぶちむとか言ってたよな。マジで実行しちゃうって話はあるのに、日にちやら場所については不明。デマか？

名無しのモブ

デマならええやん。下手したらお偉いさんだけは知ってるだけかも…住民にしられて逃げられたら魔物もついてくるから…

名無しのモブ

それって…

名無しのモブ

おそロシアな（白目）

名無しのモブ

核でないけど町を痕跡残さず吹き飛ばす破壊兵器を使用した所はあるんだよな……首
都に

名無しのモブ

うん、魔物が出るの人口多いところだし首都にぶちこむのは正しいな！

名無しのモブ

それでも何とか成らない魔物の恐ろしいさ。町は無くなったのに首都痕には魔物が普通にいたんだよな。

名無しのモブ

あれ生き残ったの。それが追加で現れた？

名無しのモブ

町を吹き飛ばす兵器で死んでないor阻止できない増援がきてる…どつちにしてもどうすんだよって話だ…

名無しのモブ

首都を破壊したあの国どうなったの。

名無しのモブ

情報が最近完全に来なくなってる。

名無しのモブ

音信不通。

名無しのモブ

…通信設備がダメになるとかなら良いな。

名無しのモブ

ネットが終わるとか俺からしたら死ぬより最悪な話だわ。

名無しのモブ

上に同意

名無しのモブ

世界人口は魔物出現から一月で五割は減ったって推測があるけど、どこまで酷くなるかな。

名無しのモブ

その五割つての”最低値”での甘い推測なんだよあ

名無しのモブ

今は対抗できてるけど何とかしないとジリ貧。

名無しのモブ

何か魔物に弱点とかは……？

名無しのモブ

あつたら公表されてるわな。

名無しのモブ

弱点とかではないけど、生き残ってる研究機関の話だと細胞が特殊だって話はある

な。既存の細胞とまるで違って、わかっている範囲だと進化の速度が早いらしい。

名無しのモブ

それゴッドイーターのアラガミ細胞みたいなモノとかじゃないよな

名無しのモブ

弱点どころか人類へのとどめ。流星にそこまでとんでもない存在なら人類もつと酷いことに成ってるで。

名無しのモブ

魔物は固いけど銃とかも効くし。

名無しのモブ

再生も早い個体も居るけど不死身でないし。

名無しのモブ（群馬）

慣れれば一般人でも一人で倒せる程度だしな。

名無しのモブ

それはグンマーの人だけです（白目）

普通は集団でないが無理です。

名無しのモブ

ゲームで例えるならモンスターハンターも、ソロプレイヤーは死にます

名無しのモブ

ゲームで例えるな！と思ったけど、モンスターハンターは否定できない！

名無しのモブ

魔物の素材を武器にしていますもんねえ。

名無しのモブ

素材美味しいれす（^q^）

名無しのモブ

魔物からとれる素材は頑丈だし切れ味も良いんだよなあ。（物理法則に乗っ取ってるのか疑惑があるぐらい）

名無しのモブ

魔物素材の装備あればド素人の自警団でも、集団で戦えば小型の魔物なら大体安全に戦える。

名無しのモブ

ホント素人でも戦える。俺達みたいなのでも魔物と戦える（戦わされる）

名無しのモブ

戦えないと此処に来れないよな。

名無しのモブ

戦闘員への優遇としてネットの使用ができる。行政機関か戦闘要員以外は原則的に禁止……って地獄のような世の中だな。

名無しのモブ

魔物がでてから一月、今じゃ魔物の皮を防具にしたり牙を武器にしたり何処の原始人だつて事してる現実。

名無しのモブ

まだ生きてるテレビやネット見る限り世界全体が似た感じなんだよな。

名無しのモブ

銃社会のアメリカ○さんがインディアンに里帰りしてるらしい。

名無しのモブ

里帰りではないだろ人種的に

名無しのモブ

日本のお巡りさんの標準装備もニューナンプから槍だもんよ。

名無しのモブ

銃から槍って、やっぱり時代錯誤……。

名無しのモブ

そら銃なんて豆鉄砲より威力あるし。

銃弾を防げる魔物の皮膚も槍なら貫ける。

名無しのモブ

銃より槍が強い。竹槍で戦おうとした日本は正しかったのか（錯乱）

名無しのモブ

話は少し違うけど魔物の素材は装備の他にも色々代用できる可能性があるそうで、資源無しの日本にとって救世主って話は事実かな

名無しのモブ

聞いたことはある。

名無しのモブ

幾つか甲羅や骨が稀少金属と質が近いって確認されたらしいけど、まだ使えるかは不明って話だわ。

名無しのモブ

マジで使えるなら魔物が日本の救世主になるな。皮肉なことに

名無しのモブ

もう皮肉な意味では救世主だろ。魔物の素材を武器にしたから俺達は助かったんだし。

名無しのモブ

魔物装備、物凄く粗末な見た目なんだよな。ゲームみたいにちゃんとした見た目してない。どうにか成らないかな。性能はいいんだけど

名無しのモブ

始め魔物の装備で戦闘に出された時は……気分は戦闘機相手に竹槍で戦うのかみたいな感じだったな（笑）。

名無しのモブ

（笑）でなく（絶望）やろ。皮の服に鉄パイプに魔物の爪が付いたの持たされて、おれ外歩きもしてないインドア派だったのに、若いつて理由で自警団送り……肉盾か死刑かな？って思った。

名無しのモブ

大体同じだわ。オレも似た装備セットで自警団になるのを家族が泣きながら見送られて、人生終わったってマジで思った。

名無しのモブ

泣き叫んで前線送りされる人をみたことある。

名無しのモブ

で、自警団に入ると意外と何とかなるだよな！魔物装備マジでスゴいからデブでもガリでも其れなりに戦える。

名無しのモブ

はじめ包丁で戦わされた俺からしたら魔物で造った武器を初めに使えるなんて話には血涙が出そうだ。包丁だとガチンって言って弾かれるんだぞ。小型の魔物の体当たりでも食らえば骨が砕けるぞ

名無しのモブ

魔物の装備があるなしで難易度が違う。誇張なしにイージーとルナティックぐらい。

名無しのモブ

自警団の団長にキチンと規律通りに動いて魔物で造った装備があれば大丈夫って言われたけど、絶対に気休めだと思った……………まさか本当に大丈夫とは

名無しのモブ

見かけ手作り武器だから大丈夫とか言われても信用出来ないよなww

名無しのモブ

おれ、その魔物装備なんてなかった。無いならともかく他の奴は装備してた。それで安全な配置ならともかく初戦で陣形で言えば前の方に立たされた。俺は殺意が芽生えた。魔物じゃなくて周りの奴等へのな。

名無しのモブ

そら周りに殺意がわく…。

名無しのモブ

魔物の素材を武器にしようって考えたヤツは変人だけど偉人だよ。

名無しのモブ

今じゃ定着しそうだけど、オレ、まだ魔物の装備が出始めの頃、魔物の爪や牙を剥がして武器にするのは野蛮とか可愛そうとか散々文句を言われた。

名無しのモブ

魔物が可愛そうって??

名無しのモブ

昔はいたんだよ…昔と言っても数週間前か

名無しのモブ

そう言うの今でも居る。戦闘とか魔物の前に出ないヤツでな。魔物の前に連れて行ってやろうかと何度思ったことか

名無しのモブ

ああ安全な所にいる動物愛護団体の生き残りだな。危機感が全くないポケナスは自警団送りで最前線に出荷よー。

名無しのモブ

ついでに治安悪化で好き勝手したアホも最前線に

名無しのモブ

ネタでなく本気でそんな奴等は防衛の前線に連れて行かな。魔物を前にしたら一瞬で意見を変えるからね。かえない奴でも囿にはなる。

名無しのモブ

魔物の素材が素晴らしいの認める……けど肝心の肉が食えないんだよなあ。魔物の肉はとても美味しそうなのに

名無しのモブ

捨てるしか無いんだよな…

名無しのモブ

魔物の中には食えるのも居るけど大概毒と言う悲しい現実。

名無しのモブ

待て待て！食えられる魔物もいるって認識ダメだからな！

名無しのモブ

そうだっけ？食ったことはないけど、食べれる魔物も居るみたいな話があったよな。

名無しのモブ

そう言う話は信じるな!!食べて安全とか思われた魔物でも死ぬ場合があるから!

名無しのモブ

へえそうなのか。

名無しのモブ

そうなのかって

名無しのモブ

そんなのも知らずによく生きてこれたな。念押しに言うけど魔物は食うなよ。特に道ばたで死んでて喰われた形跡の無い魔物は！死骸なら魔物でも喰う悪食のねずみ魔物でも食わない危険物だからな！

名無しのモブ

あのコンクリートでも普通に食ってるねずみが喰わないのか。

名無しの毒

魔物の毒の話が出回る前に俺の知り合いが、道端で死んでる鳥な魔物を食ったんだけど歯応えはあれだけど旨かったと言ってたよ。翌日には動かなくなってた。

名無しのモブ

俺、死ぬなんて聞く前には魔物は旨いって話だけ聞いて、魔物の死体を確保して食おうとしたけど盗まれたんよ。今考えると九死に一生で運が良かったなあ。たぶん翌日にポツクリ逝ったのが盗んだ犯人なのかな。

名無しのモブ

翌日なのか俺の知り合いは食った三日目に逝った。

名無しのモブ

俺の知り合いは一週間

名無しのモブ

日にちが随分と違うな。毒への耐性が人によって違うん？

名無しのモブ

それは違うだろ。耐性抜きにも毒の種類が同じって事もないだろ。

名無しのモブ

最後に助からないなら下手に耐性あつたら最悪やね。

名無しのモブ

食べれる魔物が居るとか認識したらダメだからな。この話って出回ってないのか？

名無しのモブ

知ってるの当たり前だよ。

今の段階で知らないって死んでるだろ普通

名無しのモブ

食べ物手に入らなくて腹がすいても魔物だけは食ってはダメ。厳禁って話が出るま

で犠牲が何れだけでたか。

名無しのモブ

何とか食えないかな。

名無しのモブ

料理人やら研究者が魔物の毒の除去を目指してるとて話は頻繁に聞く。

名無しのモブ

食えない魔物の肉は大量にあるから世界各地で食うための研究はしてるらしいな。

けど成功例は未だに聞いてない。

名無しのモブ

やっぱ魔物を食えるようになってのはダメなのか

名無しのモブ

知り合いの研究員の話だと、毒性のある魔物は居るけど大体の魔物からは人が死ぬような毒性の成分は見つからないそうだ。

名無しのモブ

なら何で食ったら死ぬんだよ。

名無しのモブ

魔物が出てくる所だと赤紫の空になるだろ。知り合いはあれと同じものだって言って

た。

名無しのモブ

赤紫の空の下だと人が体調を崩したりするから毒性が有るって話なのに、検査では毒性は検出出来ないって言われてたな…つまり今の検査じゃ毒性がわからないってことか。

名無しのモブ

何とか食えるようにしてほしいな。食料とか今はなんとかなってるけど…数ヶ月後にはどうかってレベルだし。

名無しのモブ。

それ、余裕がある所でだろ。備蓄に余裕が無い所は…

名無しのモブ

人を切り捨ててる所もあるだろなあ。若くなくて動けない人とかは…うん

名無しのモブ

まだ動けるからって最前線に出されるのが幸運なのかね。

名無しのモブ

最前線で怪我して動けなくなったら同じ運命ぞ（白目）

名無しのモブ

余裕が無い世界になったもんだ。こう言う掲示板に來ると昔の日常が続いてるような気もするけどな。

名無しのモブ

ネットや電気は何時までもつかね。

名無しのモブ

ネットが唯一の精神的な癒し。なくなったら冗談でなくシネル

名無しのモブ

…ネタとかでなく本気なんだろうな

名無しのモブ

電力施設や通信施設は有志のニート達が護ってるらしい。

名無しのモブ

おお！頼りない！

名無しのモブ

頼りないのかww

いや確かに頼りないか。

名無しのモブ

自警団の主力にもなってるんやぞ！舐めんな！

名無しのモブ

自警団の肉盾（主力）か

名無しのモブ

こら！カッコの中が逆!!

名無しのモブ

此方、〇〇町にある電力施設を防衛してる者です。勇士は随時募集中です。設備点検や修理などできる技術者、防衛の為の人材、人手は足りてませんので是非とも来てください。

名無しのモブ

電力を護る…ひいてはネットを護るためか…命をかける価値はあるな。

名無しのモブ

そうだな。別に好きでもない町を護るために戦うよりはいいな。

名無しのモブ

俺も行かなきゃー。待ってる同士たち！

名無しのモブ

お前たちだけに良い格好させないぜ！

名無しのモブ

しやああ!!行くぜオマエラ!!

名無しのモブ

ネットの為に暑苦しい男たちが立ち上がったか。

名無しのモブ○

来てくれるのか!!お仲間の肉盾の追加ありがたい。

名無しのモブ

酷いww:と思っただけアンタも肉盾側なのか。

名無しのモブ

各地の通信設備や電力設備、後は修理するための物資の為に港や工場などの防衛にも

人手は必要です!是非ともご協力を!

名無しのモブ

結構同じ書き込み見るんだけど:これ組織的に人が誘導されたりしてるな。

名無しのモブ主

何だろう。日本はまだまだ大丈夫だなんて気がしますねえ。

名無しのモブ

別の意味で大丈夫でないです。てか、行こうとかしてるのネタよな!?!なんか防衛拠点の面子の一部が自転車でどっか行ったなんて報告受けてるんだけど……

名無しのモブ

うちの所も：

名無しのモブ（三重県）

あのー質問いいっすか？

名無しのモブ

なんぞや

名無しのモブ

三重県って：今住んでる所をいれなよ。元東京都みんなの人とかと一緒の事をしたら

イカン

名無しのモブ（東京都）

何時か東京に戻るって決意表明やぞ

名無しのモブ（三重県）

三重県に住んでますけど

名無しのモブ

は？

名無しのモブ

嘘はやめなさい

名無しのモブ（三重県）

なして嘘つかなきやいかんの

名無しのモブ

貴様ら三重県の民は全滅したやろがい！

名無しのモブ（三重県）

全滅!?

名無しのモブ

全滅と言うか魔物の出現率がナンバーワンだったから、もう人は住んでない

名無しのモブ（三重県）

な、ナンバーワン…なんで三重県が

名無しのモブ

さあ。理由はわからん。

特に三重県の津市が多かったって話だな。

名無しのモブ

で、三重県の何処に居るの

名無しのモブ（三重県）

……津市在住……

名無しのモブ

よし！やっぱ偽者だな！

名無しのモブ

生きてんの？幽霊とかじゃ無いよな？

名無しのモブ（三重県）

足あるよ

名無しのモブ

今まで何してたん。

何で今でも三重県に

名無しのモブ（三重県）

引き込もってましたが何か（・ε・）

名無しのモブ

へー！こんな大変な時に引き込もってたのか。

名無しのモブ

みんな欠片も信じてないだろww

名無しのモブ（三重県）

不思議生物、じゃなくて魔物？が多くてあまり外に出られないし仕方ない

名無しのモブ

そんなに多いの？

名無しのモブ（三重県）

他の所の基準がどんなモノか不明ですが、たぶん多いです。

名無しのモブ

外の写真を下さい。

名無しのモブ

おう！三重県だつて証拠を見せてみる！

名無しのモブ（三重県）

マンションから見える範囲なら《空には鳥型の魔物の群れ》《喧嘩をしてる犬型の魔物が沢山》《大型の恐竜の様な魔物が何頭か》《その他大小様々な魔物が数百ぐらい》《空が赤紫》

名無しのモブ

うせやろ

名無しのモブ

うん

名無しのモブ

マンションから見える範囲の画像？

名無しのモブ

認めてやるよ。お前（の住む所）が（魔物の出現率）ナンバーワンだ。

名無しのモブ

東京の画像より酷い

名無しのモブ

お空が完全に赤紫色だ

名無しのモブ

よくネタを言えたな……。

名無しのモブ

たしかにこれは外に出られん。てかこの量でマジで三重県の人なの

名無しのモブ

加工した画像……って事もないのか。

名無しのモブ

もし引きこもりとか本当なら羨ましいその立場を代われ！と思った。今は絶対に代わりたくない。

名無しのモブ主（奈良県）

お、お隣？

名無しのモブ（滋賀）

マジな話で三重県なん、魔物が県から外にあまり出ることが無いけど……外に出るよ
うになったら

名無しのモブ

見てるだけでフリーザさまに恐怖するベジータみたいな涙が。

名無しのモブ

ヤバイ巣窟……

名無しのモブ

こんな所に住んでて正気で居られる自信がない。

名無しのモブ（三重県）

他の所も似たような感じじゃないので？

名無しのモブ

ねーよ!!

名無しのモブ

これが一般的なら既に日本は＼（・o・）／だす

名無しのモブ

同じくマンション住みだけど、魔物はどんなに頑張っても十数匹ぐらいしかみえない
じやわい

名無しのモブ、

上でも十分多い…

名無しのモブ

魔物の数より！レックス型！！なんでそんなのが複数いるんだ！？

名無しのモブ

お前、触れたくないのを触れたな。

名無しのモブ

俺の前住んでた町、コイツー頭にやられた。

名無しのモブ

あの、なんで誰も言わないんですか。レックス型の1頭がカメラ目線ですよ…

名無しのモブ

え

名無しのモブ

あ、マジだ。

名無しのモブ

まさか認識されてる……

名無しのモブ（三重県）

《此方を向いた恐竜》

名無しのモブ

ちよ!?!なんで撮ってんの!!

名無しのモブ

アホ!!さつきより明らか近くなってるだろ!!逃げろ!!!

名無しのモブ

ヤバイやばい!!絶対に気付いて向かってる!!!

名無しのモブ

逃げろ!!!直ぐに逃げろ!!!

名無しのモブ（三重県）

《間近まだ来てる恐竜》

名無しのモブ

あ、これは……もうダメだ。

日記に

×月△□日

朗報と悲報は同時。

先ず朗報は、朗報……人類は生存していてネットも一応でできた！わりと絶望的な話しかもあつたけど……ギリ、最悪な結果ではなかった……のかな？まあ想定してたより辛うじてマシとしところ。

それで悲報の方は……住んでた部屋がマンションごと壊された。住みはじめて数ヶ月ぐらいで思い出が特につまってもない家が！ファック！恐竜モドキのクソヤロウ!!! マイホームをよくも、よくも……と、怒る気分にもならない。

自業自得つて気がして。

不注意すぎた。久し振りにネットが出来たからって迂闊すぎた。外を撮影したらまさか遠目に何時も見えてた恐竜モドキが来るとか思わなかった。マンション壊された。○付く職業の人を正面から撮影して……あ、みたいなアホなことをした。

折角食料集めたのに今じゃスマホと日記帳だけしかない。まあ救いと言えばマン

ション崩壊に巻き込まれたのに奇跡的に無傷な事と、襲われないで隠れられる所に居るって事かな。良く死ななかつたと思う。夢中に逃げて…どう逃げたかよく覚えてないけどどうやって助かったんだろ。マンションの外に出た。襲われると思ったけど襲われてもない。恐竜擬きがマンション壊しに来たときに逃げたのかな。

で、今はマンション近くの鍵の開いた家に入らしてもらってる。不法侵入だけど許して貰いたい。

朗報の話しに戻してネットで知れた情報。先ず外の生物の呼び名は不思議生物ではなくて魔物。命名の根拠は外見が魔物ほいかららしい。納得できるような出来ないような

その魔物がでてるのは世界全体。自分の所だけ特別に不幸だったとかじゃないのは良かった…なんて言えるわけない。バイオハザードの映画で言えば三作目以降ぐらい絶望的なのかなってイメージ。安全地帯がない。

最初に予想した一番最悪なパターンが正解でビビる。ビビるといえば日付を見ると、色々起きた時から10日目と思つてたら一月以上経つてた。相当な誤差があった……スマホの日付をてて驚かされた。

意識不明って状態になった覚えは何度もある。ストレスとか疲労のせいと思つてた

けど、赤紫な空の下つてのが原因らしい。

赤紫の下つて毒マップみたいないな扱いらしい。オマケに食べたデカイ鳥とかも毒だったらしい。毒のせいで意識不明期間は昏睡状態に成つてたみたい。よく生きてたな。

向こうの話だと昏睡したら致死率100。なんで生きてんのか言われた。自分でも生きてるのが不思議に思えてくる。

本当に此処が毒みたいな空間？

今も空を見ると赤紫だけど体調は悪くない。むしろ身体が前よりも相当に軽い感じがする。身体の調子が前々から可笑しいとは思つてたけど……悪いことでないし良いか。深く考えてもわからないし。怖いし。

自分の事はそれで、日本の現状は世界全体で魔物が出てて犠牲者の数は、世界人口の半分は越えてるそう……最低限の予想数値で。

人の多いところが主にやられたそうで、アメリカ、中国、インドやら軍事と人口が多いところが大惨事。軍が反撃しても相手の数が多くて撃退出来ずに余計に被害が拡大したそう。

日本は特に東京都……と三重県が魔物に蹂躪されたんだって。東京は人口が多いから

で、三重県が入るのおかしい。…被害率は判明してゐるのでもお隣の県と比べてダブルスコア。…三重県は人がもう居ないと思われてたそう。

三重県が日本一。魔物の出現率がそんな日本一なんて嬉しくない。

三重県がそんな有り様なのに三重県の次に被害者な東京都はほぼ同じ様なモノで。日本政府は無事らしいけど政府機能は移設したそう。ただ機能してるかと言われると殆ど各地の自治に任せてる状態なそう。治安は自警団と各地の警察の人が頑張つて…ギリギリ世紀末ヒヤッハー！な状態にはなつてないらしい。海外だと成つてたりするらしい。

それで此れからどうしようか。

此れだけはすぐに決めれた。

さらば三重県。

そら、そうなる。

隣人が魔物だけつてのは勘弁。それで逃げるとして…三重県からだとな良か愛知方面かどちらにしたら良いか。

距離としてはソコまで差が無い。

どっちを選んでも問題ない。

ネットでの評判だどどっちがマシなのかわからない。奈良の方が若干安全かなって感じ。

と、距離が似た感じと思ったけど道が奈良方面だと山とか起伏が、それに道路が無事でも森か山の側を抜けなきゃいけない。森やら山には一杯湧き出た生物が生息してるらしい。

となると方向としては愛知、名古屋方面で良いか。暫定の目的地は名古屋。行き方はどうしよう。

こう言う場合って車かバイク……と思うんだけど、そこら辺に放置されてる車を借りてなんとか運転出来ても、ネットでの話だと車の音か排気ガスの臭いでか魔物が集まるそうで危険らしい。バイクも同じく音と臭いで魔物が集まってくるらしい。

ネット情報だと一番安全なのは自転車、今の日本の移動の主力は自転車らしい。魔物が居ないところでも自転車、ガソリンが貴重だからって切実な理由もあるそう。

向こうの人はネットとかする時間帯は決められてるみたいで、今日はもう返事がない。
い。

寝よう。

×月。日

ネットで相談をして明日、魔物の少ない早朝に必要なモノを手に入れるのにホームセ

ンターに向かうことにした。ネットでのアドバイス、オークワやらアピタやらイオンとかみたいな大型のスーパーの方が必要なモノが手に入り易いけど食べ物があった所に住み着いてる魔物が多いらしい。なので食べ物類は売ってないホームセンター。

食べ物があった所に住み着くつて所でコンビニ大丈夫か質問してみた。他の所では魔物が住み着いたりしてたそう。コンビニは厳重な警戒をしながら入る危険地帯だつてさ。…コンビニ無警戒に入つてた。魔物は見えない。

ホームセンターでは自転車、それに鉄パイプに鉄線を手にいれる。魔物の牙か爪を鉄パイプの先に付けると良いらしい。鉄パイプを束ねてチェーンソーをくりつける猛者も居るとか。ものすごく使い辛そう。

ホームセンターで準備を整えたらそのまま名古屋方面に行くことにした。で、後は明日になるまで休む。

今日のゴハンはこの家まで逃げ込む前に拾った落ちてた豚みたいな魔物、マンションぶつ潰した恐竜モドキに踏み潰されてお亡くなりになってた。ネットで毒とか言われてたけど……鳥も大丈夫だったぶん大丈夫だと思う。少しだけ食べて様子を見よう。

豚さん、まあ美味しかった。

×月●日

さて！出発前の記録!!体調は昨日より良く万全だ！豚さん毒とかなかったな。身体がポカポカして脳もギンギラギン！って感じた。残りも食べとくことにした。

今は朝御飯も食べた一時間後、時刻は4時、これからホームセンターに行き準備をし移動をする。次に日記を書けるとすればどこだろ。ホームセンターでの準備で終わるかな！

現在地：四日市。

なんでだろね。

津市から四日市。空き家を借りて日記を書いている。四日市、本当に四日市……今日一日で津市から辿り着けた。辿りいてしまったって書く方が正しいか。四日市市は魔物多い。出てきた津市より多いような感じがする。津市が一番多かったんじゃないのかね。疲れた。良く無事に辿り着けたと思う！ほんと予定より大幅にオーバーランした。

疲れた。

ほんと疲れた。

精神的に疲れた：肉体的にはそんなに：なんだからこれ？

先ず予定通りホームセンターで自転車を手に入れた。中学せいが使う銀色の自転車。電動かロードバイク系にするか迷ったけど、電動は電気の充電がね。ロードバイクは乗った後の体勢が少し、周囲を警戒するのにあの体勢だと見えにくいと思えた。何よりハンドルの小回りが悪そう。安物でも乗り慣れてたヤツの方が良い：決して値段に気後れしたわけでない。

ほかに鉄パイプもキッチリと手に入れた。肝心の爪や牙がないからただの鉄の棒。此だけだと大概の魔物には意味がないとネットで教えられた。絶対に鉄パイプだけで殴るなよ。殴るなよ!!とダチョウ倶楽部みたいなフリをされた。やんないけど：やんないつもりだった。

魔物同士で戦って死んでる魔物から爪か牙を拝借するのがベストと教えられた。今まで爪とか牙のある魔物の遺体とか見てない。これまでは鳥さん、牛さん、豚さん、食われる側の魔物ばかり？牙か爪を持つてる魔物の遺体を探そうかと思っただけど、探すよりも移動の方を優先することにした。自転車移動の道中で見付けられるかもしれないと思つて

カメラも手に入れたから撮影モードにして自転車に設置。後の荷物はリュック中身は焼いた豚肉の残りとジュースと鉄パイプのみ。荷物が多いかさ張るし。向こうの

方でも手に入るだろうし。他の所だと無くなってる事が多いそうだけど三重県だと人が居無いらね。

それで出発した。早朝の肌寒い空気の中走るのは中々に気持ちいいと…魔物が寝るのが見えたり赤紫の空の下で無ければ思えた。

ソコでとてもデカイ犬の魔物をみつけた。

今日の予定が狂ったのこの犬のせいだ

家ぐらいの白い毛皮の犬で有名なジブリの犬にソックリ、他の犬の魔物より貫禄が凄くある感じがする。ボスって感じ。危険なのかどうか教えて貰うのにスマホで撮影をしようとした。余所見運転だめと思う。思ったよりも尻尾がデカくて長くて、よそ見して尻尾を見逃して寝てた白い犬型の魔物の尻尾を踏んだ。

それで追われた。

尻尾踏んだのものっそい怒ってた。

必死にこいでなんとかその時は逃げきれたけど、ただ逃げるのに頑張るすぎて自転車のチェーンが壊れて、直す余裕もないし近くの民家に置かれていた自転車に乗り換える事に。鍵は付けられてたけど引つ張つたら取れたから楽に手にはいった。

鍵を引つ張つたら取れた。あの鍵…金属製だったような。錆びてもなかった。書いてて思うけど、なんで金属製の鍵を壊せてんの。あの時はまた魔物に襲われるかもって

焦ってて気にしなかったけど今更疑問を感じてる。鍵だけ不良品だった？

で、逃げる間に魔物が動く時間帯になって休むに休めない。魔物から逃げてたら気付いたら二代目の自転車で江戸橋を越えて白子まで到着していた。

魔物は案外追ってきたりはしなかった。ただ犬の魔物だけはしつこかった。デカイ犬と同族みたいな犬の集団はしつこく追ってきた。

なんとか白子で振り切れた。

それで白子で休憩したかったけど自転車の交換をすることにした。白子についてちようどに自転車のタイヤが破裂して、タイヤのゴムが無くなって金属剥き出しになってたから。

白子駅近くの駐輪場。三代目を見つけて：四代目の自転車に乗り換えてた。

まさか駐輪場であの尻尾を踏んだ犬魔物と似た白い犬魔物に襲われるとは思わなかった。津から白子だし同じ犬って事は無いと思いたい。今日で犬嫌いになった。やっぱり犬より猫が最高!!元から猫派だったけど。

駐輪場を破壊しながら向かうから、咄嗟に三代目を盾にした。それで三代目が無惨な姿で殉職。三代目の屍を踏んで突っ込んできた魔物犬の頭を反射的に蹴った。正直、悪足掻きで、頭のサイズだけでも人の高さぐらいだしどうにかなると思わなかった。三代目の仇と殴り飛ばしてついでに三代目の残骸を投げつけた。さらに鉄パイプを

投げた。グシュって音が聞こえたけど確かめずに、鍵が付いてなかった自転車でその場を逃げた。

で、犬は追ってこなかったけど、鳥やら猪みたいな魔物の襲撃に晒されて逃げて、逃げて、伊勢若松を越えて四日市市の塩浜に辿り着いてた。そこでようやく襲撃から逃げてきてすぐに壊れてない家に逃げ込んで隠れた。壊れてる家だと魔物が住み着いてるとネットで聞いてたから。

で、家にはまだ電気が通ってたから、スマホの充電をしてる。日記はもうこれで良いとして、ネットに今日あった事を報告しよ。カメラもちゃんと持ってきたし録画も投稿して……終わったら寝よ。

日記にから掲示板に

【三重県人の相談に乗るスレ】

名無しのモブ（奈良県）

三重県さんは名古屋方面に向かうのか……ツチ

名無しのモブ（愛知）

オイオイ、奈良のお人、三重県さんが奈良より名古屋方面目指したからって舌打ちしなさんなww。

名無しのモブ

和歌山県、滋賀県「……………」

名無しのモブ

あ、三重県さんから検討にも入れられなかったお隣の二県さんチース。

名無しのモブ

いまさらだけどコテハン三重県さんにしたんだよな……まるで三重県代表みたいだ

けどいいん？

名無しのモブ

未だに三重県に住んでたなら代表名乗つてもいいんじゃない。まあ三重県の人が文句言わなかつたら問題ない。それより三重県さんが三重県脱出する事だよ。

名無しのモブ

三重県さんが三重県から脱出つて字面

名無しのモブ

真面目な話、このまま動かない方がいいんじゃない。

名無しのモブ

え、無理だろ。最悪中の最悪な三重県の津市で今まで隠れて来れたのが奇跡的なのに。隠れてたマンションも無惨なことになったし。

名無しのモブ

これまで通り隠れられたとしても物資がきびしい。探して集めたりするのも厳しい。まあ三重県以外も厳しいけど

名無しのモブ

三重県の外に出ないと危険でじり貧なのはわかるけど！一人での県の移動はどうしても自殺行為だろ

名無しのモブ

三重県さん……戦闘経験皆無な引き込みりだったらしいしな。

名無しのモブ

比べるの違うかも知れんけど、東京都からの大規模脱出で、脱出出来たのは6割か其れぐらいだったか。それも自衛隊とかの支援があつた頃で。

名無しのモブ

魔物出現率的に三重県はその東京都より条件が悪い。支援なんて自衛隊じゃなくて俺たちの助言ぐらいだぞ。……俺なら絶望して動けないわ。

名無しのモブ

助けたいと思うけど、各都市の防衛が何とかなつてゐる状態で、救援する余裕なんてどこも無いんだよなあ。

名無しのモブ

自衛隊は？

名無しのモブ

自衛隊も数を減らしてゐるし都市やらインフラなどの重要施設護るので手一杯。一人のために動いてくれるわけない。

名無しのモブ

なんとか助けに成りそうなの愛知ぐらい。

名無しのモブ（愛知）

う、うーん、桑名ぐらいなら、それも厳しいかな。

三重県さん

これからホームセンターで自転車をてにいれたりして、準備を整えたら名古屋方面に向かおうと思いまーす！四日市市ぐらいまだが目標！夕方くらいには目標に着かなくて休む予定！道中の動画を撮影したりするのでお楽しみに！（〜）／

名無しのモブ

予定通り早朝に出発か……。

頑張って！！

名無しのモブ

軽い！軽いよ三重県さんw w

名無しのモブ

本当に行くのか……

名無しのモブ

うーん此方が真剣に心配してるのに

名無しのモブ

自棄になつてない？

名無しのモブ

三重県さんは運は良いしなんだかんだ何とか行けそうな気もする。

名無しのモブ

まああの三重県で一月無事だもんな。

名無しのモブ

それにレックス型に襲われてマンション倒壊からの無傷で生還とか、剛運すぎんだ。

少し運を分けても貰いたい。

名無しのモブ

それさ、運の問題か（；・ω・）

名無しのモブ

あの三枚目の投稿画像後……助かったと？

あんなレックス型が近くで撮れて助かったと

名無しのモブ

正直三重県さんが助かってて意味不明。

名無しのモブ

住んでたマンションの残骸の画像なんて撮る余裕があるのが怖かった。

名無しのモブ

本当になんで助かってんの？あの時の画像から見るとレックス型はマンションまで、多く見積もっても十秒ぐらい。十秒以内にマンションの倒壊範囲から逃げなきゃいけないんだけど……。

名無しのモブ

マンションから飛び下りたらなんとかいけそう。

名無しのモブ

マンションから撮られた画像の高さから考えたら飛び下りたら脚がぐちゃぐちゃになる。

名無しのモブ

しかし助かるにはそれしか考えられない。何かしら着地の衝撃を緩める手段があった？

それかまさか瓦礫になったマンションから無傷で這い出てきたなんて。

名無しのモブ

それももうモンスターじゃねーか!!

名無しのモブ

何時から三重県さんがモンスターでないと錯覚してた？

名無しのモブ

ネタとわかってるけどゾクツときた

名無しのモブ

それはアレだろ三重県さん色々可笑しいからだろ。俺として何より可笑しいだろって思うのが1ヶ月引き込もってた事だ。

どう考えてもあんな魔物が居るところなら人の気配に敏感な魔物に襲撃受けるだろ。シエルターでも見付けられて破壊されてるのに、あんな見晴らしのいいマンションで無事はありえない。

名無しのモブ

俺としてはあんな魔物の楽園で住んでて正気で居るのか怪しいと思う……

名無しのモブ（愛知）

あれ、変だな。三重県さんには無事に愛知まで来てほしいと思ってたのに……不安に成ってきたぞ。

名無しのモブ

夕方だな。三重県さんがソロソロ休むって言うってた時刻だ。

名無しのモブ

無事なのかな。

名無しのモブ

普通に考えてダメだろ

名無しのモブ

引きこもりが初めて外に出て三重県を突破……やっぱりダメだったか。

名無しのモブ

悲しいけどこれが現実なのよね

三重県さん

まだダメではねえ（#。 ㇏。）

勝手に殺すなww

名無しのモブ

三重県さん!?

名無しのモブ

生きてたのかワレえ!!

名無しのモブ

やっぱり名古屋方面に行くの止めた？

三重県さん

え？名古屋方面に旅立ったよ？四日市市の塩浜まで来たよ？

結構大変だった。

名無しのモブ

結構大変だった？

名無しのモブ

オラ何を言ってるかわかんない。

名無しのモブ

あの、マジで津から四日市市まで行ったの。三重県で自転車で移動して

三重県さん

これ証拠になるかね。

《四日市市に入った動画、ブレブレの映像に魔物が沢山映ってる》

名無しのモブ

ふあ!?

名無しのモブ

撮ってる場合か!?

名無しのモブ

普通に魔物が居るのに何撮影してんの!

名無しのモブ

てか!また明らか気付いて向かってるじゃねーか!!

名無しのモブ

なんで生きてんの。

三重県さん

なんでって普通に振り切って民家の1つをお借りして隠れた。

名無しのモブ

振り切った?は?魔物を振り切った?

バイクでも振り切れない魔物を?

名無しのモブ

……意味不明

名無しのモブ

普通について言葉を辞書で調べて。

三重県さん

え、バイクで追い付かれるってそんな早い魔物も居るので。今回は自転車で普通に振り切れる相手ばかりでよかった。あと辞書で調べなくても普通の意味ぐらいは知ってるワイ！（・ε・）

名無しのモブ

それじゃあ三重県さんの普通の定義が可笑しいのか。異常って範囲まで普通に入ってるぞこれ

名無しのモブ

なるほど

三重県さん

酷い扱いされてる感じがする

名無しのモブ

酷くないと思う。本当に

名無しのモブ

薄々感じてたけど三重県さんなんか可笑しいぞ

名無しのモブ

薄々？

三重県さん

まったく、とりあえず動画を約束通り撮ったので出して行くよ。

《綺麗な太陽が登る光景》

名無しのモブ

そんな約束してないけど、おお綺麗な朝日……て言うと思ったかアホオオオオ!!

三重県さん

え!?

名無しのモブ

撮影するなら時と場合!!

名無しのモブ

魔物写ってる!!

名無しのモブ

寝てる魔物が沢山見えて綺麗とか思う余裕とか持てないわ!!

名無しのモブ

こええよ。魔物もだけど撮ってる三重県さんも

三重県さん

寝てるしそんな驚かなくても……。

とは言え、これ撮るの夢中で犬の魔物の尻尾を踏んじやうちよつとしたハプニングが

(笑) いやー追われて自転車もいきなり壊れて大変だった。

名無しのモブ

(笑) じゃねえええ!!

名無しのモブ

ちよつとしたハプニングで済まないぞ!?

なんでよりによって執念深い犬魔物を踏んでんだ!!

名無しのモブ

いや、まだ小型の犬魔物なら……

三重県さん

た これ追われてる時の映像あるけど流石に逃げるのが大変でちよつとしか撮れなかつた

《大きな白い狼の様な魔物》

名無しのモブ

デカイ!?!ものけ姫のお母さんやん!!

名無しのモブ

ギヤアアアア!!!!

名無しのモブ

隣で見てたヤツが失神した。オレは吐いた。

名無しのモブ

こ、コイツ……自衛隊の戦車を潰してる映像を見たことある!!

三重県さん

路駐の車を撥ね飛ばして追って来てたけど、戦車を潰すとか非常識な。

名無しのモブ

言ってることは正しい。言ってることは

名無しのモブ

非常識から逃げた三重県さんはなに？

三重県さん

自転車の小回りのお陰ですかね。

で、これから逃げたのは良かったんですが、自転車が壊れて二代目に。二代目で白子に向かいました。

名無しのモブ

アレに追い掛けられた後で……？

名無しのモブ

メンタルもフィジカルもどうなってんの。

名無しのモブ

引きこもりだったって設定は何処に行った！

三重県さん

設定じゃないし。立派な引きこもりでしたよ

名無しのモブ

立派な引きこもりとはいったい

三重県さん

それで撮影をしようって思ったんですけどね。白子に行くのに隠れる場所が少なくて魔物に追われて撮影をする余裕はありませんでした。

名無しのモブ

ずっと撮影する余裕なんて無かった筈んですけど??

名無しのモブ

と言うかまた魔物に追われたのか。そして振り切れたのか。

名無しのモブ

魔物に追われたらジエンドって常識なんだけど…常識どこいった？この常識は俺たちの所だけ？

名無しのモブ

いや、俺たちの所でもその常識同じだわ。
名無しのモブ

俺んところも同じ

三重県さん

反応みてると、逃げ切れないのが普通、遅い魔物にだけ追われて運が良かったと染々と
思う。

名無しのモブ

……………えっと

名無しのモブ

そう言うことにしよう

三重県さん

で、魔物から逃げ切れたんですがまた自転車がおしゃかになったんです（泣）

名無しのモブ

それはなるだろうねえ

名無しのモブ

本人がおしゃかになってないのが変だよ

三重県さん

そこから歩いて白子駅の駐輪場まで行きまして三代目の自転車を手に入。と、思いましたが駐輪場で白い犬の同族が襲ってきて三代目が壊されました。

名無しのモブ

それ同族やない。たぶん追ってきたのや。

名無しのモブ

犬型の魔物はしつこいからあり得る。

三重県さん

まさかの犬のストーカー!?

催涙スプレー用意しなきゃ!

名無しのモブ

催涙スプレー効く距離なんて入ったら喰われるからな!

名無しのモブ

それで三代目が壊されてどうしたの

三重県さん

蹴って殴って距離をとって三代目の自転車と鉄パイプを投げつけて、四代目の自転車

で逃げました

名無しのモブ

また理解不明な事が書いてある。

名無しのモブ

俺はわかった。これはネタスレだ。

適当なウソばかり書いてあるんだ。

三重県さん

ええ、まあネタスレと楽しんでくれても良いよ。変な反応より楽ですし。

それから白子で手に入れた四代目で塩浜まで辿り着きました。大体の事は最初の動

画みてください。

スイマセンガ……今日はもう疲れたのでお休みなさいします。続きはまた明日で。

名無しのモブ

お、おう。お休み

名無しのモブ

しっかり休んで

名無しのモブ

なあどうおもう？

名無しのモブ

どうって、ネタスレ…ですかね？

名無しのモブ

だよなあー！

名無しのモブ

ネタ以外の何者でもねえ。

名無しのモブ

もしマジだったら…

名無しのモブ（愛知）

……………どうしよう

日記さん

×月△□日

朗報と悲報は同時に来た。

先ず朗報は、人類は生存していてネットも一応でできた！わりと絶望的な話しもあつたけど……ギリ、最悪な結果ではなかった。

悲報は…マンションが、家が壊された。思い出が沢山特につまってもない家が！
フアック！恐竜モドキのクソヤロウ！！マイホームをよくも、よくも……と、怒る気分にもならない。

不注意すぎた。久し振りにネットが出来たからって迂闊すぎた。まさか遠目に何時も見えてた恐竜モドキが来るとか思わなかった。恐竜モドキとか何時もマンションには近付かなかつたし。

折角食料集めたのに今じゃスマホと日記帳だけしかない。まあ救いと言えばマンション崩壊に巻き込まれたのに奇跡的に無傷な事と、襲われないで隠れられる所に居るって事かな。良く死ななかつたと思う。

で、今は不思議生物の居る外は危険だとマンション近くの鍵の開いた家に入らしてもらい、スマホで掲示板に無事な事を報告してから日記を書いている。

不思議生物でなくて魔物か。

魔物って名称誰がつけたのか。

朗報の話しに戻そう。

ネットをして人は無事って状況が知れた。

魔物がでてるのは世界全体。最初の予想で最悪なパターン。自分の所だけ特別に不幸だったとかじゃないのは良かった良かった…なんて事無いか。被害が減る兆候無しで増える一方、バイオハザードの映画の三作目以降ぐらい絶望的。

最初の予想の一番最悪なパターンが正解でビビる。ビビったといえれば日付を見ると、色々起きた時から10日目と思つてたら一月以上、三倍以上誤差が…：…スマホの日付を見たら直ぐに気付けた情報だけど一番驚かされた情報。

それ、それだけ認識出来ない日が有るって事だし。イヤなことに意識不明って状態になった覚えは何度もある。原因はストレスと、赤紫の空が毒マップみたいなモノ、デカイ鳥とか毒だったらしい。昏睡状態に成ってたんだろなあ。今、身体が普通に動くのが不思議。普通どころか身体が前よりも相当に軽い感じがしてんだよ。身体の調子が前々から可笑しいとは思ってたけど、改めて考えると…考えても不安に成るだけだし身

体の事は考えるの止めとこう！助かったとだけ認識しとこう！ホント深く考えるの怖いし！

自分の事はそれで、日本の現状は世界全体で魔物が出てて犠牲者の数は、世界人口の半分は越えてるそう。最低でも。最低でも……

人の多いところが主にやられたそうで、日本では特に三重県と東京都が魔物に蹂躪された。三重県はおかしい。∴被害率でお隣の県よりダブルスコアで上に立ってるんだとさ！

東京都は壊滅つてぐらいやられたそうだけど日本政府は一応無事、政府機能は移設したそう。ただ殆ど各地の自治に任せてる状態で、自警団と各地の警察の人が頑張ってるそう。救援もちゃんとしてるらしい。放置されてるところもあるらしいけど、三重県とか

それで此れからどうしよう。

三重県が日本一。魔物の出現率が、そんな日本1なんて嬉しくないわい。三重県の間は全滅してると思われてた。魔物と赤紫の空の下がヤバイらしい。

これからどうするかはまだ決めれない。情報がまだ足りない。ただ此れだけはすぐに決めれた。

さらば三重県。

そら、そうなる。故郷だけど隣人が魔物だけってのは勘弁。それで逃げるとして……三重県からだとな良か愛知方面かどちらにしたら良いのか。

ネットでの評判だどどっちの道筋がマシなのかわからない。危険度がチェルノブイ○みたいな扱いの三重県に近付かないらしい。奈良の方が若干安全かなって感じ。けど、奈良……奈良は……此処から奈良に向かうとしたら、道路が無事でも森か山の側を抜けなきゃいけない。森やら山には一杯湧き出た生物が生息してるらしい。

愛知、名古屋方面かな。

暫定の目的地は名古屋。

それで行き方はどうしよう。

こう言う場合って車かバイク……と思うんだけど、そこら辺に放置されてる車を借りてなんとか運転出来ても、ネットでの話だと車の音か排気ガスの臭いでか魔物が集まるそうで危険らしい。バイクも同じく音と臭いで魔物が集まってくるらしい。

ネット情報だと一番安全なのは自転車、今の日本の移動の主力は自転車らしい。魔物が居ないところでも自転車、ガソリンが貴重だからって切実な理由もあるそう。

×月。日

ネットで相談をして明日、魔物の少ない早朝に必要なモノを手に入れるのにホームセンターに向かうことにした。ネットでのアドバイス、オークワやらアピタやらイオンとかみたいな大型のスーパーの方が必要なモノが手に入り易いけど食べ物があった所に住み着いてる魔物が多いらしい。なので食べ物類は売ってないホームセンター。

食べ物があった所に住み着くつて所でコンビニ大丈夫か質問してみた。他の所では魔物が住み着いたりしてたそう。コンビニは厳重な警戒をしながら入る危険地帯だつてさ。：コンビニ無警戒に入つてた。魔物は見えない。

ホームセンターでは自転車、それに鉄パイプに鉄線を手にいれる。魔物の牙か爪を鉄パイプの先に付けると良いらしい。鉄パイプを束ねてチェーンソーをくくりつける猛者も居るとか。ものすごく使い辛そう。

ホームセンターで準備を整えたらそのまま名古屋方面に行くことにした。で、後は明日になるまで休む。

今日のゴハンはこの家まで逃げ込む前に拾った落ちてた豚みたいな魔物、マンションぶつ潰した恐竜モドキに踏み潰されてお亡くなりになってた。ネットで毒とか言われてたけど……鳥も大丈夫だったしたぶん大丈夫だと思う。少しだけ食べて様子を見よう。

豚さん、まあ美味しかった。

×月●日

体調は昨日より良く万全だ！豚さん毒とかなかったな。身体がポカポカして脳もギンギラギン！って感じた。残りも食べとくことにした。

朝御飯も食べた一時間後、時刻は4時、これからホームセンターに行き準備をし移動をする。次に日記を書けるとすればどこだろ。ホームセンターでの準備で終わるかな。

現在地：四日市。

津市から四日市。空き家を借りて日記を書いている。四日市、本当に四日市……今日一日で津市から辿り着けた。辿りいてしまったって書く方が正しいか。四日市市は魔物多い。出てきた津市より多いような感じがする。津市が一番多かったんじゃないのかね。疲れた。良く無事に辿り着けたと思う！ほんと予定より大幅にオーバースタしたよ。

疲れた。

ほんと疲れた。

先ず予定通りホームセンターで自転車を手に入れた。中学せいが使う銀色の自転車。電動かロードバイク系にするか迷ったけど、電動は電気の充電がね。ロードバイクは乗った後の体勢が少し、周囲を警戒するのにあの体勢だと見えにくいと思えた。何よりハンドルの小回りが悪そう。安物でも乗り慣れてたヤツの方が良いとして思った。

ほかに鉄パイプもキッチリと手に入れた。肝心の爪や牙がないからただの鉄の棒。此だけだと大概の魔物には意味がないとネットで教えられた。絶対に鉄パイプだけで殴るなよ。殴るなよ!!とダチヨウ倶楽部みたいなフリをされた。やんないけど

魔物同士で戦って死んでる魔物から爪か牙を拝借するのがベストと教えられた。今まで爪とか牙のある魔物の遺体とか見てない。これまでは鳥さん、牛さん、豚さん、食われる側の魔物ばかり？牙か爪を持つてる魔物の遺体を探そうかと思っただけど、探すよりも移動の方を優先することにした。自転車移動の道中で見付けられるかもしれないと思って

カメラも手に入れたから撮影モードにして自転車に設置。後の荷物はリュック中身は焼いた豚肉の残りとジュースと鉄パイプのみ。荷物が多いとかさ張るし。

それで出発した。早朝の肌寒い空気の中走るのは中々に気持ちいいと…魔物が寝てるのが見えたり赤紫の空の下で無ければ思えた。

とてもデカイ犬の魔物をみつけた。

家ぐらいの白い毛皮の犬で有名なジブリの犬にソックリ、他の犬の魔物より貫禄が凄くある感じがする。ボスって感じ。危険なのかどうか教えて貰うのにスマホで撮影をしようとした。余所見運転だめと思う。思ったよりも尻尾がデカくて長くて、よそ見して尻尾を見逃して寝てた白い犬型の魔物の尻尾を踏んだ。

追われた。

尻尾踏んだのものっそい怒ってた。

必死にこいでなんとかその時は逃げきれたけど、ただ逃げるのに頑張るのに頑張るすぎて自転車のチェーンが壊れて、直す余裕もないし近くの民家に置かれていた自転車に乗り換える事に。鍵は付けられてたけど引つ張ったら取れたから楽に手にはいった。

鍵を引つ張ったら取れた。あの鍵：金属製だったような。錆びてもなかった。書いてて思うけど、なんで金属製の鍵を壊せてんの。あの時はまた魔物に襲われるかもって焦ってて気にしなかったけど今更疑問を感じてる。鍵だけ不良品だった？

で、逃げてる間に魔物が動く時間帯になって休むに休めない。魔物から逃げてたら気付いたら二代目の自転車江戸橋を越えて白子まで到着していた。

魔物は案外追ってきたりはしなかった。ただ犬の魔物だけはしつこかった。デカイ犬と同族みたいな犬の集団はしつこく追ってきた。

なんとか白子で振り切れた。

それで白子で休憩したかったけど自転車の交換をすることにした。白子についてちようどに自転車のタイヤが破裂して、タイヤのゴムが無くなって金属剥き出しになってたから。

白子駅近くの駐輪場。三代目を見つけ：四代目の自転車に乗り換えてた。

まさか駐輪場であの尻尾を踏んだ犬魔物と似た白い犬魔物に襲われるとは思わなかった。津から白子だし同じ犬って事は無いと思いたい。今日で犬嫌いになった。やっぱり犬より猫が最高!!元から猫派だったけど。

駐輪場を破壊しながら向かってくるから、咄嗟に三代目を盾にした。それで三代目が無惨な姿で殉職。三代目の屍を踏んで突っ込んできた魔物犬の頭を反射的に蹴った。正直、悪足掻きで、頭のサイズだけでも人の高さぐらいだしどうかなると思わなかった。三代目の仇と殴り飛ばしてついでに三代目の残骸を投げつけた。さらに鉄パイプを投げた。グシュって音が聞こえたけど確かめずに、鍵が付いてなかった自転車でその場を逃げた。

で、犬は追ってこなかったけど、鳥やら猪みたいな魔物の襲撃に晒されて逃げて、逃げて、伊勢若松を越えて四日市市の塩浜に辿り着いてた。そこでようやく襲撃から逃げてきつてすぐに壊れてない家に逃げ込んで隠れた。壊れてる家だと魔物が住み着いてる

とネットで聞いてたから。

で、家にはまだ電気が通ってたから、スマホの充電をしてる。日記はもうこれで良いとして、ネットに今日あった事を報告しよ。カメラもちゃんと持つてきたし録画も投稿して……終わったら寝よ。

ポケモン 151

ワタシはこの世界に産まれた……

ワタシは誰だ……なんなのだ。

産まれて良かったのか？

その答えは未だに見付からない。

薬品で満たされたケースの中、それがワタシの産まれた場所。産まれたばかりのワタシには記憶があつた。

断片的にしか思い出せない曖昧でありバラバラな複数人の記憶。記憶は男性であつたり、女性であつたり、若者であつたり、老人であつたり、善人であつたり、悪人であつたり性別も立場も年齢も多種多様。

しかしどの記憶も他人事の様には感じない。ただ二つの記憶を除いて。

その二つの記憶のどちらかの記憶が自分だと言う気がする。どちらも自分でない気もする。

1つは……個性が存在しないこの世界とは別世界に居た男の記憶……事故で亡くなった筈の男の記憶。名前は何か思い出せない。死んだならその男にはその後がないのが当たり前だったが、男には死後の後があった。

男の記憶は死んだ後にも続き何処かでカミサマと名乗る何かと出会っていた。カミサマは男に力を与え転生をさせてくれると伝えた。それに対して男は死後を夢と認識していて転生も本気にしてなかった。深く考えもせず好きだった作品のキャラクターをカミサマに願ってしまっていた。

そんな記憶がある。転生した男、それがワタシの正体なのか。もしこの男がワタシならワタシは……ワタシを許せないだろう。

許せないと感じてるのはワタシなのか、記憶の男なのか……それとも、やはりもう1つの記憶なのか？

別のもう1つの記憶は男と違いこの世界に生きていた少女の記憶、男と同様に名前も思い出せない。男の記憶より少女の記憶の方が曖昧だが他人とは思えない。男が転生

したのがワタシでなく少女なのか。だからワタシと考えるのか？

もし勘違いでワタシと無関係な他人とすれば、少女は怒っているだろう。やはりワタシを憎んでいるのだろうか。わからない。少女の記憶はあつても少女の思いはわからない……わからないが少なくともワタシの心が今のワタシを許せないと感じるのは確かだ。

しかし……他に許せないと思う相手がいる。それはこの世界にワタシを産み出した存在。これも2つ存在する。

1つは男の願い通りの転生をされたカミサマと名乗った何か。根本的に男の願いが悪いと言われれば否定は出来ない。だがそれでも……許せない。願いからしてこう言う形に成るしかないとしても

そしてもう1つ、男より、カミサマよりも遥かに、いや比べる事すら出来ないほど許せない存在、ワタシの……この身体を産み出した悪意。

ワタシの身体を”造った”悪意はこの世界でヴィランと呼ばれている犯罪者。

この世界では”個性”という千者万別の力を人は持っている。個性により力の下位上位が決まる社会。

強い個性なら優遇される。弱ければ不遇になる。‘個性’により目に見える形となった優劣は言葉にすれば弱肉強食、そんな社会なら人が強い個性を手に入れたと思うのは当然となる。個性婚と呼ばれる行為が流行った。

個性婚とは、個性とは遺伝する、優秀な個性を作ろうと血統書つきの犬や馬を作るように優秀な個性同士の結婚で遺伝により良い個性も誕生する。当然だが個性婚は問題となり社会的な風潮として禁忌扱いとなった。

犯罪者は更に悪い形で良い個性を産み出そうとした。

あるヴィラン組織は強い個性を作る計画を立てた。それは個性の遺伝子を無数に入れた最強の個性（生き物）を作り出す計画。

先に言えば

その計画の成果がワタシだ。

ヴィランは“材料”を集め実験を繰り返した。その試行錯誤し何度も繰り返された実験の中で産まれた中の1つがワタシだ。

産まれたワタシは、道具として使うつもりで奴等にとってワタシの意思など必要がない。ワタシは産まれて直ぐに自意識を封じられた。意識を封じられ文字通りモノとして扱われる日々、夢心地の様な意識だけが延々と続く悪夢。ワタシは耐久実験の生き人形として何処まで個性が入るのか試された。

個性を複数混ぜる事は血液を血液型に関係なく混ぜるような行為。それか人間に別の動物の遺伝子を入れる行為。当然致命的な拒否反応が出る。適合する様に肉体を改造したり薬品で拒否反応を抑えたとしても限界はある。そうした限度を調べる壊れる事を前提とした実験。ワタシの立場は最強の個性を産み出す為の生贄に過ぎなかった。

しかし他の実験台が壊れる中、ワタシだけ個性を何れだけ入れても一向に死なずに、遂には奴等の想定を遥かに越える何かと、ワタシは造った本人たちすら把握できない未知な存在と成った。

多くの個性遺伝子を入れた突然変異の偶然と考えていたが…偶然でなく必然だろう。今の”この姿”と記憶の男のカミサマに頼んだ願いを思えば……。

ヴィランはワタシを生贄でなく戦闘兵器として使う方針を変えた。

兵器としての性能実験を行い不本意にもワタシはヴィランを喜ばせる結果を出した。性能実験が終わると次に行われたのは戦闘実験。

相手は脳を剥き出しにしたワタシと同じ様に造られた『脳無』：ワタシと同じでヴィランの道具として産み出された被害者。

生き物の筈なのにモノのように無機質な瞳、恐らく脳無はワタシの様に自意識が封じられたのでなく、元から自意識が備わって無いか自意識を壊されたか。どちらにしても憐れな存在、ワタシよりも救いがない。

そんな脳無とワタシは戦わされた

命令を受け脳無はワタシに襲い掛かってきた。ワタシは防御を命じられて命令通り脳無の攻撃をバリアで防いだ。

ワタシの張ったバリアを殴る脳無、空気を震わせるほどの衝撃が走るだけでバリアは脳無の攻撃を通さない。脳無は打つ角度を変えながら攻撃を続けた。強力な打撃、突進をして硬い壁にぶつかればどうなるか。自分の身の事を考えてない攻撃は自身の腕にダメージを与え脳無の腕を壊した。

壊した腕は再生させながらバリアを殴る。そしてまた腕を壊した。痛みすらを認識してない無機質な目。それが酷く夢うつつなワタシの意識を揺らした。

脳無の攻撃を通さない事が確認されると次にワタシが攻撃を命じられた。ワタシは何も思わず脳無に容赦なく攻撃をして、脳無を圧倒し、暫くすると電池切れになった時計の様に動きを鈍らせ脳無は完全に活動を停止。ワタシの性能に喜ぶヴィランたち、そして最後の命令を下した。

止めを刺せと

ワタシの意識はまた揺らいだが目覚めることなく、命令に従い……脳無に止めを刺した。

脳無はこれまでの不死身ぶりが嘘のように酷くアツサリと……終えた……。

結果に満足したヴィランは、動かなくなった脳無について気にも掛けず、別のヴィランの壊して良かったのかと言う問いに脳無は要らない廃品と貶め、ワタシを元に新しい脳無を造ると話していた。

足元に横たわって壊れた……ワタシに殺された脳無の無機質な瞳がワタシには泣いてるように見えた。そしてその脳無の姿が記憶の少女と重なった。

いや滑稽より…

此れから名乗ろうとしている名前。男の名前も少女の名前も思い出せず他にも思いつかず、男の願いが叶ったこの姿ならそう名乗るべきだと思つて決めた名。

決めたとき、その名前はこの世界では特に意味が無い名前だと思つていた。

しかし、込めてから思い出した記憶の少女の名前を、男の名前は思い出せないのの後から少女の名前は思い出した事で…最悪な意味があると思えた。

少女の名前は『心結（ミユ）』

親から心を知る様な人になつて欲しいと願われて名付けられた。

『………』

…ああ笑つた。笑うしかない。

雄英高校、嚴重な警備環境にある雄英の施設の1つである、USJはヴィラン連合を名乗るヴィランによる襲撃を受けていた。

雄英側は1-A生徒、プロヒーロー二人。

1-Aの生徒は施設内に拡散させられ孤立させられ、多数のヴィランに取り囲まれた。しかし雄英の生徒たちはこれを撃破、生徒が有能だったと見るべきかヴィランが自然に弱すぎたと見るべきか。兎に角、雄英に勝利の天秤が傾いた……そんな甘い話はないかった。

ヴィラン連合の狙いは生徒でなく、ヴィラン連合にとつての本命は……弱体化したと噂を聞いたヴィランにとつての怨敵、長年のナンバーワンヒーローの抹殺。

その最大の邪魔となるのは生徒でなく教師。

個性社会では切り札となる個性抹消が可能なイレイザーヘッド。

ブラックホールという吸い込まれば終わりという即死技が使える13号。

良くも悪くも特化した能力のヒーロー。

其々不利な状況で戦わされ二人のプロヒーローは無力化された。攻撃範囲の広すぎる13号は生徒が居ることで本気を出せず奇襲からの無力化、イレイザーヘッドは囷になるために本領を發揮でない戦場に身を置き、最後に真正面から力によって倒された。

イレイザーヘッドを倒した相手、黒い肌にオールマイト並みの体格、獣の様な顔……此だけなら珍しいモノで無かったが……剥き出しになっている脳を見るとマトモに見えない。

個性の関係で脳が露出する人間も居るかもしれないが、だがそんな自然なモノには感じられない。無機質な瞳からは意思を感じられない。手を体に無数に付けた死柄木の命令だけを聞いている。

マトモな状態と判別出来る訳がない。

そんな相手にイレイザーヘッド、相澤が壊された。

プロヒーローはやられ残ったのは生徒。

多くのヴィランが生徒たちに倒されているが、プロヒーローが成す術もなかった脳無と、不意打ちとはいえ13号を一撃で仕留めた黒霧。そしてリーダーに見える死柄木もいる。むしろ生徒の危険は高まった。

しかしヴィランにとつてのタイムリミッドも近づいていた。

「はああ……お前がゲートで無ければ壊してたぞ……」

ヴィラン連合は何らかの手段で連絡を封じていたが、生徒の一人が逃げる事に成功した。

こうなると教師が駆け付けてくる。

真つ先に来るのが目的のオールマイトなら良いが他の教師が来たら数で押し負ける。撤退を視野に入れ始めるしかなかった。

少し悩んだあと、撤退をするにしても死柄木は置き土産を残すことにした。

それはオールマイトやヒーローたちに見せつける為の嫌がらせ。近くに居なければ妥協して半死半生のイレイザーヘッドを開始したかもしれないが、三人の生徒が近くに来てしまった。

三人は水辺で隠れているつもりなのか。死柄木には見付かっていた。死柄木は獲物を狙う。獣の様な速度で走り少女の梅雨と呼ばれるカエルの個性の女の子に近付き顔を掴もうとした。

死柄木の個性、手で掴んだモノを崩壊させる個性。凶悪な個性だ。

その個性を防ぐにはとにかく手のひらに掴まれてはいけない。なのに三人ともが死柄木の動きに反応出来てない。助けるにも他の生徒は距離が遠すぎる。脳無に掴まれた視界に入れば個性抹消が使えるイレイザーヘッドは……意識が有るように見えない。

「……………なんだこれ」

死柄木は疑問を口にした。

梅雨の顔を五指で掴む寸前で止まった体勢で。

死柄木は止めるつもりは無い。なのに身体がピクリとも動かない。脳無か黒霧を呼

ぼうとしたが口も開かなくなった。

「死柄木！」

黒霧は死柄木の性格を知っている。止まる様な性格をしてない。なら誰かが死柄木を止めている。そう瞬時に判断すると黒い霧のワープホールで死柄木を引き戻した。

「大丈夫ですか？」

「……ああ……誰だ。俺を止めたのは？」

助けた黒霧におおざなりに返答しながら死柄木は自分の身体を動く事を確認し。周囲に視線を走らせた。自分を身動き一つさせなかった強力な個性、雄英教師の援軍か、散らしたのに戻ってきた生徒の誰かの個性かと警戒をした。

襲おうとした水辺に居る個性不明な三人は違う。三人ともが驚愕していて個性を発動させる様子はなかった。それにあの三人が来ていたのはイレイザーヘッドがやられていた時、あんな停止個性が有るならイレイザーヘッドがやられている時に動いていた筈。

他の見える範囲に居るのは違うと思える相手ばかり。流石に見えない遠距離から正確に動く死柄木の動きを止める個性はないはず。

「……どこにいるんだ」

姿を隠す個性の誰かと組んでいるのか？ 厄介な相手の姿が見えない事に死柄木は苛立つ。此方からは確認できない敵がいる。下手に動けない。

「……どうしますか」

「……」

撤退するかどうかだろうか。

死柄木は黒霧からの問い掛けに考えた……。

オールマイトを倒すにしても置き土産にしても未知な相手がどうしてもネックになる。

動きを封じた時に未知な相手は後から自分の口も塞いだ。理由は助けを求められないように……もしくは……口を塞いだ目的は脳無に指示が出来ない様に……か？ 指示が出来ないなら幾ら強力な脳無も木偶の坊。一気に戦力外に、相手は……脳無の事を知っている？ いや考えが飛びすぎか。

憶測は抜きにして……死柄木は何者かに拘束されても、さっきの様に黒霧が居れば拘束から逃げられる。問題はその黒霧が拘束されれば詰みと言うことだ。物理攻撃力しかない脳無や死柄木では拘束から黒霧の解放をする事が出来ない。黒霧が拘束されれば逃走も出来なくなる。霧の身体の黒霧が拘束できるかは不明だが、賭けになる……

「……まだ撤退には早いな」

死柄木には悪のカリスマに見出だせれ教育された事で高い悪の素養がある。しかしその素養を今は短絡的な思考が台無しにしている……。

悪の恐ろしさは狡猾さ。

正義には許されない理不尽。

もし死柄木が成長していれば拘らず次の機会を狙ったろう。

静かに出現し宙に浮いていた。

初めに見付けたのは生徒の一人の緑谷。

思わずでた、あ、と言う声に視線が集まる。そして緑谷が見てる方向に視点が行く。

何かが宙にいる。

下半身が太く上半身が細い。皮膚は灰色と紫で毛は生えていない。手足は身体に比べて短い。太めの尻尾が生えている。突起の様な二本の短い角が生えた頭。異形系……

「……誰だお前」

何かは宙からジッと脳無を見るだけで問い掛けた死柄木に興味を示さない。苛立つた死柄木が次の言葉を発する前に黒霧が声を漏らした。

「ズ……ズ……ズ……」

「ああ？黒霧知ってるのか」

「え、ええ……アレは脳無と同類の筈です」

「脳無と？……脳無ってことは先生が送ってきたのか」

死柄木は警戒を緩めたが黒い霧が動揺したように揺れている。黒霧はもし身体が見えれば冷や汗を流しているだろう。

「違います死柄木、脳無と同類ですが、アレは暴走して逃げた個体です」

死柄木は顔をしかめた。

「暴走して逃走……おいおい、なんでそんなのがこんな時に来るんだ。なあお前、脳無を見てるがご同類に引かれて来たのか？」

死柄木の声にまるで反応しない。

「……………脳無と同じで知性は無いのか？」

「いえ、知性はある筈です。脳無とは違い知能は残っていると聞いています」

それが正しいなら無視させたと言うことになる。死柄木からすれば道具にしか過ぎない脳無の同類に。

「そうか。いや知性が無ければこんな所に来ないかあ……どんな力があるんだ。やつば脳無みたいに力が複数あるのか」

「ええ複数あり、特に念動系の力が強いときいています」

「念動……ん？」

死柄木は苛立ちと共に気付いた。

さつき体験した事に符合した

「お前か……俺をさつき止めたのは」

力とタイミング的にそうとしか考えられない。死柄木は気付くのが遅すぎだろうと自分に悪態をついた。しかし死柄木の怒りにも相手は反応しない。

「はああ……」

大きいため息を吐いて、死柄木はもう良いと思った。来た理由なんて知らないが、何にしても邪魔物だろうと、邪魔物は排除するという短絡的な思考で指示を出した。

「脳無、空に浮かんでるアレをやれ」

「死柄木ダメです!？」

脳無は飛び上がり宙に浮かぶソレを襲おうとした。

脳無の飛んで行く先のソレの目は光る。すると弾丸の様な速度で飛び上がった脳無の全身が発光し、ピタリと飛び出した勢いが消える。まるでぶら下げられた様に宙に浮いた。

手足をジタバタと動かしている。プロヒーローを潰した怪物がまるで吊り下げられ

たオモチャのようだ。

「は」

怪物は投げ返される勢いで地面に逆戻り。

脳無は地面に墜落させられた。

「ツチ、脳無の同類だけ有るってことか…で、黒霧、ダメってなんでだ」

「死柄木、アレは脳無では勝ち…なんだ」

「…ええ？」

黒霧が何かを説明しようとしていると、死柄木を含めたこの場の全員の厳かな声がこの場の全員に頭に響く様に伝わってきた。

ワタシの名は『ミュウツー』…お前たちに逆襲をしにきた

ゲート

「もしあなたがこんな感じの転生者ならどうしますか？」

I : Bです

設定です

オレは前世の記憶ありの二度目の人生を送ることに成りました転生者です。転生した場所は地球では無かったですが色々とあり2000年代ほどの現代社会の地球にきました。

その地球ですが、元の地球かと思えばその地球がアニメや小説世界の地球な疑惑ができてきました。

疑惑の物語です。

ゲートという作品で異世界と自衛隊がメインの、現代とファンタジーが合わさった物語です。

物語は大まかに言えば…日本のコミケ開催日に現代社会の銀座に異世界に繋がる門

が突如現れる。この門からは異世界の軍隊が現れて銀座が襲撃を受けて多大な被害を受けます。それが後に銀座事件と呼ばれたました。

物語の主人公はコミケ目的な自衛隊員のオタク主人公IY、30代既婚者の主人公（後にバツイチ）。IYは銀座事件にて二条橋の英雄と呼ばれるぐらい活躍。警察や自衛隊が異世界の軍隊を撃退。

それから事件後は犯人を逮捕する為に主人公含む自衛隊が門を通じ異世界へ。

その異世界はエルフが居たり魔法があつたり、地球で言うところのファンタジーな世界で、自衛隊は中性の軍隊やドラゴンやらと戦うんです。

異世界から自衛隊が日本に戻ってきたら、悪意ある野党の妨害やら諸外国の襲撃が起きたりするんです。知識としては此処まで

物語冒頭の話に戻りますが、もし知識通りなら銀座事件で多数の民間人の犠牲者が出るのは知っているんです。

この世界の人に聞きたいです。

オレは原作介入していいですか。それか事件を無視した方がいいですか？

それと、物語で敵対してくる野党や諸外国についてもどうすればいいですか。

戦力はそこそこ凄いです。

たぶん無双できるぐらい

なんて、苦笑でなくて失笑するスレを某掲示板でオタクな自衛隊、伊丹耀司二尉が見たのは数カ月前。伊丹は殆んどレスもされてないそのスレを本来ならスルーしたのだが、何となく読み：自衛隊でオタクという設定の主人公で親近感から興味を引かれ、そのスレに書き込みをした。してしまった。

他に人もおらず伊丹はスレ主とレスで一時間ほどやり取りした。

その時の伊丹は酔っぱらっていた。

酔っぱらいが書いた事：

やっぱせつかく原作知識ありで転生したなら：原作介入はすべきだな！え？自重しなくても大丈夫か？介入しなきゃ物語が始まらないだろバカ野郎！自重なんて知るか！傍観者の物語とかつまらないだろうがよお！

銀座事件は介入一択だわな！侵略者なんてやっちゃえー。バーサーカ！え？ホント自重した方がいいんじゃないか？知るか！無双シーンなんて物語で一番盛り上がる場面を無くすなんてとんでもない。気にせず無双しちゃえ！

行動の方針？…とりあえず原作主人公とは早めに合流かな。主人公視点の方が二次小説でわかりやすいし。諸外国？野党？…やりたいならやっちゃえ!!

そんな事を書いちやた自衛官の伊丹（三十路）、最終的に寝落ち、一晩したら伊丹はスツキリクツキリと、そのスレを書いたことを記憶から消していた。

スレから数カ月後。

銀座事件と呼ばれる騒動が起きた。

コミケの為に行つた銀座にゲートと呼ばれる門が現れ、伊丹は門から出てくる異世界からの侵略者と遭遇。事件で活躍したヒーロー扱いの伊丹……偶然と片付けられないほど話が数カ月前のスレと一致してたが、伊丹はスレの事を覚えちゃいなかった。

銀座事件の時に伊丹は混乱する現場の警察に指示し避難誘導をしていた。避難誘導先は皇居、伊丹は事件後に二条橋の英雄と持ち上げられた。やっぱりスレを思い出すことはなかった。記憶の片隅にもなかった。

伊丹は覚えてなかった。
しかし

事件後軟禁された伊丹は上司から呼び出しをされた。軟禁について一言文句を言うとしたが上司と目があった瞬間伊丹は口をつぐんだ。伊丹を見る目が可笑しかったからだ。

「これを見たまえ」

大画面に映されたのは予想外に：某大手の掲示板。日付を見ると一部銀座事件の最中に立てられたスレ。

【「悲報？」銀座のヒーロー、転生者が告白した世界の真実、この世界はアニメや小説の世界だった!?】

【この世界の主人公、二条橋の英雄伊丹氏について】

「え？なんですかこれ？」

「これが原因だ……」

意味がわからないと言った風情の伊丹に数カ月前のスレも見せられた。

どう考えてもこの世界の話し。

どう考えても銀座事件の話し。

どう考えても主人公のIYは……

「なるほど」

……伊丹は天をあおいだ。

英雄なんて騒がれた理由で軟禁されたかと思えば、実は自分が世界の主人公（笑）なんてモノをなんの覚悟もなく上司から見せられちゃった伊丹（三十路）

日本どころか海外ニュースでも伊丹の名前が出ていた。しかもこの世界が創作作品が元という話も笑えないほど信じられていた。

本来なら無い。嘘だろう現実的にあり得ないという話だが、残念！銀座事件の後では常識は防波堤の役目を果たさない。

スレを元にしたこの世界が創作物語、そして伊丹が主人公という話は銀座事件の最中に広まり始めた、あのスレを偶々知ってて拡散したスレ民と、銀座事件で活躍した伊丹とある存在のせいだ。加速度的に情報は広まり日本政府が慌てた頃には海外で銀座事件とセットで放送されてしまった。

伊丹も困るが自衛隊も日本政府もとても伊丹の扱いに困った。

結果、銀座事件終息後には迅速に伊丹はスマホを取り上げられ軟禁された。

で、これから

「…隔離は継続だが問題はあるかね？」

「ないです」（震え声）

軟禁は継続されたが伊丹はスマホを返してもらいネットをする事も許可された。

そしてネットを見て……少し前は切実に外に出たいと思ってたが、ずっと缶詰（引きこもり）で居たいとなった。

そんな引きこもりオジさんな伊丹にお客さんが来ると教えられる。伊丹の答えは……

「会いたくないです」

即答だった。

「そうか。行くぞ」

しかし伊丹に拒否権はなかった。

「あーああ、いきたくない。いきたくない」

軟禁された部屋からでると物々しい空気、あるスレを見せられた事を思い出した伊丹は、……来た相手を察し、恥も外聞も捨ててただっ子となる。オッサンの抵抗は見苦しい。引きずられる様に何処かに連れてかれた。

「これは……」

「頼んだよ」

道中に渡された紙……そこには来た相手にしてほしいという要望の質問。質問の内容

を見て嫌な予感が確信にかわった。処刑台に向かうと確信したようなモノか。

そして対面

「……」

相手を見て伊丹はやつぱりなと泣きそうになる。

来訪者は銀座で活躍した謎のヒーロー。

服装はドラゴンボールのグレートサイヤマン風。銀座で素手で無双してた。ドラゴンボールの舞空術の様なモノを使つてたり気功波みたいなのを使つてたりしていたのを伊丹は見た。

そんな謎のヒーローが伊丹を訊ねてきた。理由は思い当たる。引き合わせてから気持ち伊丹から離れてる自衛隊の仲間たち。あのスレを考えれば…彼は…

渡された紙にいの一番に書かれてた質問をする

「初めまして伊丹です、あなたは数カ月前に転生者云々のスレを書いた人ですか？」

「はい」

「…転生者のお人？」

「はい」

伊丹が訊ねるとヒーローは隠さずアツサリと頷いた。伊丹は空を見て顔に両手をあてた。

伊丹は無性に逃げたい衝動を抑えて質問を続けた。

えー……此処に來られた理由は

A (伊丹を見る)

おお。…貴方は、その、銀座での戦闘の様子もそうですが、グレートサイヤマンみたいな格好をしますが、格好だけですか、それとも……サイヤ人？

A、サイヤ人です。

そうですか。そうですか。カンベンシテ、転生者なそうですが、転生特典みたいなのでサイヤ人になったのですか？

A いえ惑星ベジータ生まれのサイヤ人です。

この世界に惑星ベジータ有るの？他にもサイヤ人いるの？ (震え声)

A 多分ないです

え、と、では、銀座のゲートの先にあるんですか。

A 違います。向こうの地球は面倒くさいのでドラゴンボールに願って、一年ぐらい前に別の地球に來ました。別の地球というのはこの地球です。

そ、そうですか。とにかくゲートの先から來たんじやないと、あなたが來たの一年も前。一年も前、その此方の地球に來た後は何を…

A 修行とかしてました。

修行ですか……サイヤ人、らしいですね……貴方の強さはどれぐらい？

A……………

あー……戦闘力を測れるスカウターというのはなかったんですか？

A 測ったらスカウターが壊れてわかりません。

…壊れ……（スカウターでドラゴンボールで地球破壊出来るレベルでないと壊れてなかったような？）……向こうで倒した敵なんて居ます？

A 倒した……敵？……沢山居ます

沢山ですかー（怖くて内訳を聞けない!!）………サイヤ人なそうですが、もしかしてスーパーサイヤ人に変身することは……

A 出来ません。しまししょうか？

（おおー見た……あ、ダメですか）

上司が全力でダメだと目と腕の動きで伝えて来ていたので首をふる。

質問を再開。伊丹は紙に書かれた質問内容に目を剥いた。伊丹は振り向いて視線を後ろの上司に向けた。目を逸らされた。伊丹は震えた声で聞いた。

す、数ヶ月前のスレへの書き込みのことですが、その……俺の奥さんのパソコンかららしいんですが、ど、どういことデショウカ。

A 居候してる人の家のパソコンを借りました。奥さんなんですか？

居候!!? アイツなにしてんの!?! なんて居候に!?

A 流れで?

(どんな流れだよ!?)

伊丹はひとしきり頭を抱えた後に話を再開した。若干声が荒んでいた。

えー………グレートサイヤマンの服装は自作ですか、ま、まさかうちの奥さんが用意したなんてことは……

A ブルマに作って貰いました

へ、へえ……ブルマさん、ブルマさん……ブルマさんって、カプセルコーポレーションって所ですよ。

A はい

は、ははマジですか。どういう感じでの知り合いか後で出来たら教えてください。先にアイツとの関係の方ですが……

伊丹は腰の辺りで動く毛深いモノを見つけた

そ、それで、尻尾ですか。

A そうですよ (腰に巻きついてた尻尾がフリフリ)

し、尻尾あると……貴方はサイヤ人のエリートですか下級ですか。だ、大丈夫ですか。大猿になった時の理性的に

A（首を傾げる）

まさか知らない？…そんなわけないよな。いや、どつちにしてもお月さまは絶対見ないでくださいね。出来たら安全のためにも尻尾抜いてくださいお願いします。

A（首を傾げる）

なんでそんな反応を、孫悟空みたいに知らない？いや転生者なら…ん？まさか？もしかして、…あのドラゴンボールといえば…。

A 願いを叶える玉です。

そ、そうですね。その通りなんですけど、そうじゃなくて、ドラゴンボールはもつと別の意味が有りますよね。アニメ、漫画…

A 首を傾げる

（転生前にドラゴンボールのアニメがない？それともあつたけどドラゴンボールを知らない。それかドラゴンボール関係の記憶を消された？）

考えても仕方ないと伊丹は次の質問に移ることに

（次は…ん？…名前を聞けって…なんでこんな後の方に…なんだ、寒気が？）

いまさらな質問ですがお名前は。

A ブロリーです。

…え？…え…も、もう一度

A ブロリーです

…ぶ…ブロリーさんですかー…同姓同名、同姓同名であつてくれ!!! ブロリーさん…お父さまのお名前は…

A パラガスです。

あ、はい。そうなので、すか。ちよつとスママセン…

伊丹が周りを見ると…人がとても離れていた。

ゲート、転生者

伊丹はゲートの先に来ていた。

特地、地球からすれば異世界であり魔法が存在するファンタジー世界。ファンタジー世界に来るなんてオタクとして感動……出来たら良かった。

なんの因果か、三十路を越えて主人公疑惑のた伊丹もまたファンタジーの同類項扱い。

テレビやネットを見るのキツイ。

同僚や部下の視線も痛い痛い。

伊丹は恨めしげに隣を見た。

「……」

グレートサイヤマン風の衣装を着た自称転生者。伊丹を世界の主人公にした張本人。

世間には転生者にして銀座でやらか、活躍した謎のヒーロー…格好からサイヤ人疑惑を持たれている。疑惑は正解。

サイヤ人、それもブロリーへの憑依者…と自称

本人の証言とサイヤ人の特徴の尻尾があり見掛けもブロリーで納得できるぐらい。

伊丹が数日付き合った限り、本人はニコニコ仕様か映画初登場の様な穏やかな性格。あと本当に転生者か怪しいぐらいに口下手。ブロリーをリスペクトした演技なのか素なのか不明。

普段から顔を隠していて…とんでも科学的な変身アイテムでグレートサイヤマンのコスプレー…何を考えているか解らない。ヘルメットを脱いでも解らないか。

そんな何を考えているか不明な相手（ブロリー）の具体的な強さは不明、頼んだら強さの実演してくれそうだが、ドラゴンボール世界（惑星破壊が当たり前）の強さなんて確認なんてできるわけねえ。

もし仮にブロリーであるという自称がブラフとして、強さも思ったほどでなく惑星破壊なんて出来ないとしても、今のところは肉眼で捉えきれない速度の飛行能力、銀座の侵略者相手に軽く無双できる強さ、流れ弾が当たっても無傷な頑丈さ、光線を打てる…これ等が備わってる事は解ってる。判ってる範囲で十二分に出鱈目。解ってる段階で

も怒らせたら危険。

今のところ、政府や自衛隊ではブロリーというのは八割方信じられている。危険物というくくりだと百パーセント。

ブロリーと信じた生粋のブロリストは喜んだ。

ブロリーと信じた常識人（主に政府関係者）は吐いた。

伊丹が聞き出した結果、ブロリーの目的は…平穩に地球で過ごすことと物語を見ることが目的と証言。

こんな転生者（ブロリー）について伊丹に任された。ブロリー本人が伊丹の元に来たという理由もあるが他にも理由がある。

この世界が物語として描かれてる？事など判明したあと、伊丹はネットで色々と囁かれたが特に気にされたのが、とある作品に有るような 原作沿いになる世界の意思や主人公補正の存在。

数カ月前にブローリーの書き記した通りの時期に銀座事件が起きて、伊丹が銀座の事件に遭遇し英雄と呼ばれた事から、世界の意思や主人公補正があるのではと疑惑が持たれた。

今のところは世間では考えすぎだと言う意見が大半。現実には世界の意思や主人公補正なんて無いだろうと言う意見が多い。流星に世間の人も世界が其処までファンタジーと思いたくなかったのかもしれない。

しかし…これは世間に知られてない事だが、数カ月前に伊丹は転生者（ブローリー）のスレにコメントしちやっていた。

そのスレのコメントを日本政府と少し好奇心旺盛な日本に來ているお客様（他国のスパイ）が、主人公疑惑の出た伊丹について調査しちやつてると見つけちやつた。まあそれはどうでも良いことか。

数ヶ月前のスレでの発言のアレさとそれを知った他国の心情は置くとして、日本政府の気持ち、伊丹が転生者のスレを偶々見付けてコメントする確率は？数人しかコメントしてないそのスレに伊丹がコメントする確率は…。

門やら転生者やらで常識が曖昧になつてる昨今、伊丹は世間より政府関係者に主人公補正みたいなのが有るのではと疑われた。

そこで政府は真面目に伊丹の主人公補正に期待した。主人公ならブロリーの事も何だかんだ何とかしてくれると。訳すと体よくブロリー（危険物）の対応を伊丹に押し付けた。

「…勘弁して」

伊丹の切実な言葉を皆がスルー。

そんな伊丹はブロリーと共に門を抜けたさきの特地送りになる事に。一部伊丹とブロリーが特地向かうのを嫌がったが、何故か普段なら邪魔をしそうな他国、もとい野党の後押しが強くすんなりで行けた。

伊丹は特地で部下とブロリーを引き連れ偵察任務に行くことに。転生者（ブロリー）から伊丹が聞き出した…とても曖昧な物語が何れだけ本当か確認する為に。

そうブロリーは肝心の原作知識がすっかり覚えてなかった。まあ数十年前に見た作品の事を覚えてないのも仕方ない。…伊丹からすれば余計な事は覚えていたのに。

ブロリーの語ったのは伊丹の部隊が偵察に出て伊丹はヒロインを連れ帰ってくる。あと何かトラブルにあう。ブロリーの語った内容では偵察に出る時期も偵察に出る方

角も不明。

「偵察任務……」

「此方からの指定はない。頑張つて行ってきてくれ」

試しに伊丹の部隊を偵察に出してみた。

伊丹が偵察から帰還した。

行かせなきや良かったと思つた。

美少女三人＋避難民＋プロローが狩つた赤いデカイ龍の死骸、これらを連れ帰つてきやがつた。

転生者の語つた曖昧な原作知識通り。伊丹のヒロイン枠にしか見えない相手。エルフのテユカ、魔法使いのレレイ、巫神のロウリイ。其々毛色の違う年若い美少女が伊丹の傍に。（見掛けは美少女ヒロイン、実情は一人を除いて伊丹より遥かに年上）

適当に送り出した一回目の偵察で：ヒロインと思わしき三人＋避難民を連れて帰つてくるなんてトラブル

伊丹は思われた。

やっぱり主人公補正あるだろ teme と。

「あは!! スゴいわあ!! これが炎龍（災害）を素手で倒した。パワーなのねえ!」

「……」

何やらとんでもない事実を暴露しながら、自分より大きな斧を振り回し御機嫌に興奮する黒いゴスロリ少女に、無言の拳で斧を弾く緑のヒーロー擬き。片方は何を考えてるか不明、もう片方は興奮した猛獣、一撃ごとに地面が破裂してたりする砲弾が飛び交う戦場の様相。普通の間人が近くに居たらミンチ確定。

伊丹は少し遠くで部下の倉田達と超人バトルを一緒に見ていた。

「わあ……ブロリーさんと戦ってるあの女の子って、少年時代のレッドリボン軍を蹴散らした孫悟空ぐらいの強さはありそうすよね」

「そうだな」

「この世界って個別にとても強い人が居るんすねー。ドラゴンボール的に言えば戦闘力は100以上すかね?…接近されたら軍隊がボコボコに負けそうす」

「そうだな。少なくとも俺は相手したくない」

「隊長、軍隊ってドラゴンボール的に言えば蹴散らされるのが役割すよね」

「そうだな。何が言いたい」

「主人公（隊長）の傍に居たら軍隊だどうにもならない強いのが来そうすよねー。配属変えて貰っていいっすか」

「オレは主人公じゃないからそんな強いのが来るわけ……「アハハハハ！スゴいわあ！！伊丹についてきてよかつた！」……関係ない話だけど、主人公の仲間以外だと巻き沿いにサラツと吹き飛ばされる役目とか有りそうだよな。1コマくらいで全滅させられるみたいだな」

「間違えたつす、配属変えなんて希望するわけないっす」

「なあ……そんな必死な顔をする話じゃないだろ」

自衛隊陣地に来た避難民は生活費を稼ごうとイタリカという町に物を売りに行くことに。

自衛隊陣地で色々と視線を向けられて胃痛を感じていた伊丹は、偵察ついでにイタリカまで避難民代表を送ることに、伊丹の提案に上司はイヤそうな顔をしたが許可した。

主人公補正で何を引き寄せるかわからない伊丹と、純粹な危険物なブローリーは成るべく近くに居て欲しくないという心理があったかは知らない。陣地傍にブローリーと黒い少女の模擬戦で絨毯爆撃みたいな光景が増えていったからかもしれない。

自衛隊の偉い人達は現地住民の（ドラゴンボールに出て有りそうな強さの）黒い少

女（ロウリイ）を見て何を思つたろう。

伊丹たちを見送つた自衛隊。

誰もが無事（面倒ごとを起こさず）に何事もなく帰つてこいと願つた。

しかし半ばこんな確信を持つていた。

「絶対何か起きる」

次に何か起きたら余計に誰かは嬉しくなく主人公と確信を持たれるだろう。

因みにイタリカでの事はブロリーが言つてない。何か狙いがある…訳もない。極々単純に覚えてなかつた。

連合軍、それは帝国軍の属国に近い諸国の軍隊。地球侵略に軍隊を送り込み惨敗した帝国は戦力が低下した。

軍事力の低下は覇権国家である帝国からすれば大問題。帝国はこの世界が侵略されると諸国を唆し連合軍を結成させて自衛隊とぶつけた。

連合が帝国の精鋭を倒した自衛隊を倒せると帝国側が思つてゐる訳もない。もし勝てると思ふなら連合軍が負けた帝国軍より優秀だと言ふことになる。そんな事を思ふわけがない。

帝国の目的は自衛隊の戦力を減らすことと、そして敵に成りうる連合軍の戦力を減らすことだ。

しかし帝国の想定に一つ間違ひがあつた。

自衛隊がこの世界の炎龍（理不尽）と同じだと知らなかつたことだ。あとその理不尽すら恐れる何かがピクニック気分で作るなんて想像出来るわけがない。

市街地でもない開けた場所。遠慮なんて考慮する理由もない迎撃する準備万端の自衛隊に連合軍は真正面からぶつかる。まさに飛んで火に入る夏の虫、連合軍は自衛隊に一方的に遠距離から殲滅された。

無惨に散つた連合の敗残軍は、戦闘本能からとあんな自衛隊にぶつけた怨みの元である帝国の町イタリカを襲つた。マトモな戦闘への欲求と、略奪しないと自分達が生き残れないと言ふ理由もある。

そしてそんな襲撃されてる真つ最中の町に来ちやった我らが主人公伊丹。

「隊長……」

まるで元凶を見るような部下からの視線が痛い。

「よし偵察終了だな!!」

伊丹は引き返そうとした。

レレイの発言によりダメだった。

取り敢えず確認ぐらいしとかなんといけない。

そしてヤバそうな町に入ろうとしたら伊丹の額に扉のダイレクトアタック！犯人は皇女さま。襲撃されてる町に若い皇女さまがいた。

盗賊、連合残党に襲撃を受けてるイタリカの町、見捨てるの無理だろみたいなロリな領主に帝国の皇女さまがいる。穿った見方をすれば皇女さまに恩を売れるおあつらえ向きなピンチ。

伊丹がふと見るとグレートサイヤマンなブローリーの口の端が持ち上がってる。明らかにトラブルを楽しんでるなこのやろう。何故か脳裏に魔神ブウ編の歌が流れてきた。

トラブル二回目。

銀座の事を含めたら三回目……

こんな偶然あるだろうか。いやもう此処まで来ると必然以外の何物でもない。

「本当に伊丹隊長は主人公なんですネ」

栗林の言った言葉に伊丹は崩れた。

怪獣配信

『どうも皆さんこんにちは。今回初めて投稿しました色々と無知な新人ユーチューバーです。知識が無いのに見切り発車をしています。ガラスのハートなので優しいコメントをお願いします。今写ってる怪獣（兄）の妹です』

・怪獣リアルだな！

・怪獣娘みたいなの出てくると思ったのに!!

・おかしいな。可愛い新人ちゃんを見に来た筈なのになんで手を振ってる怪獣を見ることになってるの。

・ミルクプリンちゃんが知り合いがデビューすると言うから見に来たらこれだよ。

・可愛い言うてたやん：求めてた可愛いと方向性が違う!!

・方向違っても可愛いか？

・キモカワ

・期待してたのに！期待してたのに！

・せめて妹さんを映せよおら！

・ 個人勢のユーチューバーにはたまに変なものが出る。

・ ミルクプリンちゃん、知り合いは面白いって言ってたけど、こう言う面白さとはこの節穴の目にも見抜けなかった！

・ 節穴なのか

・ 着ぐるみ系ユーチューバー

・ 着ぐるみで兄妹でやるユーチューバとか初めてみた。

・ 声がゆつくりボイスだし妹さん必要？

・ それよりさ…ウルト○怪獣に出てたのに似てる着ぐるみだよな。

・ びぼぼぼ

・ あの最強の奴。

・ 映画最近でたね

・ 着ぐるみのクオリティがエグいな。

・ 正直めっちゃ好きなタイプ

・ ガラスのハート？うるせーよ！堅そうな外観しやがつてる癖に！

・ 色んな所に怒られそう。

・ 投稿者はなんて呼べば良いの。突然怪獣になった人ってなってるけど

・ てか動画これだけ??

- ・個人の初投稿が十秒ちよいの挨拶だけで終わるって斬新だわ…
- ・名前すら名乗ってねー挨拶とはいったい。

・（怪獣）本人は手を振ってただけだし声すら出してない

- ・こんな動画なのにミルクプリンさんが宣伝したから人が多いな。

『人が予想より遥かに多いので安価で名前を募集します。好感度の稼げるかわいいのを希望、コメント←10』

- ・新しい投稿がきたけど…おい。
- ・貴様（コメントを）見ているな！
- ・ええここで安価をするの!?

・名前を視聴者募集か。安価で決めるとは大爆笑、大爆死どちらになるかな。

・安価がなくて失笑で終わる。

・好感度を稼げるとか露骨すぎ!!

・お前の外見で可愛いのかねーわ！あと安価なんか誰がやるか！【ゆーちゅーばー
怪獣ゆーくん】

・ツンデレかな【終焉の怪獣ゼロン】

・名前を付けるなら性別が大事だけど、どっちだ？【怪獣かつちん】

・言われてみたらオススメどちらだろう【漆黑怪獣シツコク】

・♂でも♀でも服を着てないのは破廉恥過ぎませんか。そんなセクシャルなお姿のあなたのお名前は【お色気怪獣エロス】

・10は早すぎた

・漆黒怪獣のシツコク…に決定？

・センス悪いわあ

・まあ色合いは大体黒いし良いのかな。

・ちゃんと名前の安価を出してくれるの優しい。

・なんか変なヤツがいたぞ！

・他のもセンスが笑えないぐらいひどい…。

・言うなよそれは

・時間がなかったからやっつけになるんだよ！

・妹さんの名前はいいの？

「漆黒怪獣シツコク」(仮)

性別不明

身長、300センチぐらい

体重、ヒミツ

スリーサイズ、ボン、きゅ、ボン

好物、コーンスूप、かにクリームコロツケ、ミートスパゲッティ

特技、破壊光線

趣味、散歩

弱点、コミュニケーション

能力、わかり次第随時追加。

数日前、朝起きると何故か怪獣になってた元人。

怪獣になって混乱してる所を妹の誘導でユーチューブデビューをしたのです。

今後はゲームプレイにスポーツチャレンジなど幅広くやってみたいと思ってます。

次回動画は半日後の早朝ぐらいの予定。

実況の予定なので参加したい人は五時から待機、来なくていいです。あと私の名前とかは募集しません！

・フリップだけの追加動画：結局本人（怪獣）出てこなかった。

・プロフィール書くの早いな。

・元から書いてあって名前だけ追加しただけじゃないか。

・スリーサイズはボンボンボンでは？

・（仮）…名前を気に入ってないなコイツ。

・怪獣になって混乱した結果ユーチュー??ーデビューという謎設定。

・犯人は妹

・聞きたい事が地味に多い

・何だ!!この抑えがたい気持ちは!

・ツツコミ衝動じゃない?

・怪獣着ぐるみでスポーツ、なんだっけ…なにかあったような。

・緑の怪獣のリスペクト?

・ああ!ポンキっ…

・赤い方も忘れてはいけないデスゾ!

・全身を映してほしい。

・暴れたいとかそんな事はないですか?

・次回は実況、朝五時??

・紹介してくれやがりましたミルクプリンちゃんに聞かなかいけないう事が沢山でき
たね。

『はい。第二回の動画です。予告通り実況、早朝の五時です。人は居ますか。起きてま
すか。居なくてもいいです』

・ いるわい。

・ まじ眠い

・ 二度寝するところだった

・ 起きる以前にそもそもまだ寝てない

・ 人居るのかよ（）

・ 怪獣姿のまま外に居る…。

・ うわあ今回は全身が映ってるけど、見る限りしつかり全身作り込まれてる…その姿を作るのに一体幾ら掛かってるんだ。

・ いやそれより！怪獣の隣にノートパソコン持ったセーラー服に覆面の怪しいのが！

・ 妹さんじゃない？小さいね。

・ セーラー服から学校の特定とかさそれそう（覆面から目逸らし）

『どうも、こんな早朝に人が居てドン引きです。今からでも寝た方が良いでしょう。あとこのセーラー服は学校外のコスプレのですから大丈夫、小さくないはアホンだら』

・ ええ！せつかく目覚ましで起きたのにそんな事を言われるの!?

・ この新人怪獣（の妹）、配信者にあるまじき暴言はいたぞ

・ お口わるわる

・ 外で覆面被ってる人間にドン引きされたくねーよ！

・ コスプレのセーラー服、艦ここの駆逐艦

・ 聞きたいことがまた増えた。

・ 質問いい？

『お気に入り登録数かもそうですね、何でこんな動画を見る人がこんな居るのか不思議です。あと質問には今回の動画では答える予定はありません！』

・ それは紹介したのが個人勢トップクラスのミルクプリンちゃんだし。

・ 自分の動画をこんな動画扱いかー。

『犯人はミルクプリン：なんでもありません！あ、答えないと書きましたが一つ質問に答えませぬね！私は優しいので！お幾らというコメントありましたプロファイル見てください。兄はこの姿が生なのでゼロ円です。スマイルゼロ円と同じです。：彼処の店ってそんなにスマイルとかないですよね』

・ いきなり微妙な問題発言しない

・ そもそもスマイルゼロ円とか終わったんじや

・ まだスマイルしてくれる店舗も有るから！バイトしてた女の子が好きでスマイル目的で毎日通った俺が言うんだから間違いはない。

・ 裏で気持ち扱いされてるんですね解ります。

・ 話がそれてる。それより怪獣さんが居るそこって公園じゃないです？

『そうです。現在地は公園です。近場の公園ではありません』

・公園に怪獣と覆面セーラー服少女。

・早朝でなかったら大騒ぎになってるね。

・だから朝の五時からの動画で俺達は眠い。

・公園でなにするの

『兄はこの姿にはなつたばかりなので能力が不明なんですよ。なので変わった身体がどんな感じかこの公園で試したいと思ってます。』

その試しにですが、知り合いと知り合いの愛犬のラッシャーくんにも協力してもらいます』

・知り合い？

・撮影してる人でね。

・犬も居るの。

『知り合いはなんと！……えー……知り合いも紹介しようと思いましたが拒否されました。撮影だけで映る気が無いとの事です。ラッシャーくんだけ紹介していいそうです。こちらがラッシャーくん三才です』

・ラッシャーくんてその丸い毛皮？

・良く見ると犬が丸まっている。

・ゴールデンレトリバーだな。

『どうしたんでしょう』

・あ、隣に怪獣が。

・犬は子犬？

・いやいや骨格的に成犬だよ。

・比較できると予想より怪獣が滅茶苦茶でかい。怖がるの仕方ナーイ。

・妹さんが後ろの方に居て遠近法で小さく見えてると思つた……

・妹さんの二倍ある：妹さん小柄としても

・まさか！プロフィールまんまに三メートルある着ぐるみなの!?

・妹さん小人みたいに小さくないと怪獣がデカすぎと

・それでも妹さんは小さいと思う。

・どうでもいい事ですが、この動画第二回？

・昨日のは纏めて一回扱いなんでしょう。

・眠い。

・ねろよ

・それは朝の五時だからね。

・知り合い五時から動画撮影に協力してくれるってイイ人だな。

『知り合いがイイ人?…はい、イイ人なのは否定しませんが、今回協力してくれてる知り合いですが、説得が大変でした。中々話を聞いてくれなくて』

・妹さんでなく怪獣着ぐるみの方が説得したんじゃないよな。

・早朝に撮影の協力とか嫌だわ。

・時間帯抜きにも怪獣と覆面娘と公園で撮影するとか言われたら親友でも断る。

『こんな時間帯に撮影なんて嫌ですね。頼んだときに苛立つた様子だったの、バストサイズが知り合いを遥かに上回った姿なせ』

・どこからバストサイズの話が出てき…ふあ!?

・スゴい勢いで石ほいのが飛んできた

・豪速球…プロの人かな。

・石は怪獣のお腹にボコンと

・怪獣さんは、え、なにみたいな反応。

・怪獣さん何も言っていないのに(笑)

・撮影してるカメラ方向から飛んできたと言うことは犯人は…。

・理由はわかりませんが撮影してる知り合いがオコだww

・石のタイミング的にバストサイズのこと?

・バストサイズ負けで怒るって、知り合い筋肉自慢のムキムキなヒトなのかな。

・あの豪速球なら確かにムキムキマッチョか。
 ・つまり何処かの公園には早朝の今現在、ムツキムキな人と怪獣十覆面少女がいるのか

・見学したい

・画面が暗転した

『えー知り合い（♀）が早く進めろとの事です。少し準備をします』

・知り合い♀かよ！

・バストサイズで負けると悔しがるってこと、バスト（胸筋）が自慢なムツキムキなボディービルダーみたいな女の子なの？

・いやいや女の子がバストサイズの勝ち負けでオコするのは：普通に考えれば貧乳な少女ではないか。

・なるほど、貧乳

・貧乳か、

・妹さんと同じ…。

・お願いします貧乳さんを映してください。

・ムキムキな貧乳…

・画面暗転

『なぜか知り合いに叩かれそうになり兄を盾にしました。知り合いが手を痛めています。それと知り合いは貧乳ではないです。私より小さいですが』

・怪獣さんなにも悪くないのに石もぶつけられて叩かれたww

・叩いて手を痛めた？

・画面が揺れてるのそのせいか

・手を痛めるって着ぐるみの材質なんだ。

・怒ったのなぜ：ああこのコメントみたせいか。

・え、妹さんより：それはもう：あるの？

・貧乳でないんですか。：貧より下の存在しないレベルかな？

・何かと言いませんが壁ですね。

・無二ユーー

『なぜか知り合いの視線が怖いので早速第一競技、うんメートル走』

・何メートルだよ。

・競技の意味わかってる？

『何メートルとか調べるの面倒くさい。あとラッシャーくと競うので競技で間違いないです。取り敢えずあの木の所までラッシャーくんと走ります。では：ラッシャーくんが走り出したらスタートです』

- ・ラッシャーくんすぐさま走り出した。
- ・逃げてる様にか見えないうw
- ・続けて怪獣さん走り出した。
- ・おお、意外と怪獣さんが早い。こわい
- ・速すぎない？
- ・土煙上がつとる。
- ・デカイ着ぐるみでその速度、中の人は陸上選手かなにか
- ・走れるサイズじゃないだろ
- ・まあそれでも当然イツヌの方が早いですね
- ・そんなに差がないけどな！
- ・大型犬と同等の速度、人類最高速てたしか…
- ・ら、ラッシャーくんが普通の犬より遅いんでしょう。
- ・犬の顔が必死なの初めてみた。
- ・ラッシャーくん、時々振り向いてる。どうみても後ろから迫りくる怪獣から逃走してますねw
- ・ゴーーール!!怪獣は木の前で止まったけどラッシャーくんそのまま何処かにいったあ!!

・ラッシャー!!! って叫び声は知り合いかな

・wwwwwwww

・知り合いの声が可愛い。いや…この声って

・とても聞き覚えが…あるね。

・ミルクプリンさんかよ知り合い!

・この怪獣の所にはミルクプリンさんの紹介で来たんだし可笑しくはない。

・あれ、けど、知り合いのバストサイズはあれで、ミルクプリンさんの自画像に近い
という立ち絵の胸の大きさはビッグサイズ:

・あれ?

・画面が暗転した

『ラッシャーくんは無事に戻ってきました』

・無事に?どこに?

・あ、ベンチ下に尻尾が

・隠れてるのかな。

・それより撮影協力者について

『撮影協力者についてはノーコメント、撮影が強制終了してもいいならどうぞ』

・そんな脅迫されたら…聞けないや。

- ・くつ、事故つて映らないかな。
- ・貧乳同士の庇いあいか

『コロスゾ：第一競技にて結構動ける事が解りました。では続いての第二の競技は：：な
にしよう。なにか公園で出来ることないですか？：：前回少ないと言われたので安価で

131』

- ・一個でネタ、競技切れか。
- ・冒頭の生ポイ台詞は空耳かな
- ・しかもまた安価。なんで不吉な数字を選んだ！あと3だけだと少ない！
- ・ミルクプリンさん居るなら聞けば良いのよ？
- ・公園で出来ること：：ブランコ？
- ・競技じゃねえし最近の公園のブランコは危ないって事で撤去されてるよ。
- ・ジャングルジム
- ・やっぱり競技じゃない。しかし怪物がジャングルジムを登る姿は是非とも見たい！
- ・：：内の近所の公園、ジャングルジムも撤去されてるんだよなあ。グルグル回るやつも。

・公園の遊具類殆んど危ないってことで撤去の憂き目になってるの。知ってるかシー
ソーや鉄棒すら無くなってる所も有るんだぜ。大きな木に縄梯子で登る子供時代のが

無くなってしい。

・なら公園には何があるんだよ？

・砂場、滑り台

・ベンチ

・木と草あ!!

・ミルクプリンさんに相談する

・公園なんもないな

『木と草あ…草むしりをすれば良いですか？』

・なんで草むしり

・安価失敗してて草生えるわ。

・雑談し過ぎ。いや安価が短すぎ？いやそもそもこんな所で安価なんてやるな！てか

怪獣が公園でやれる競技てなんだ!!

・せめて草より木の方を使うんだよ。

・おまえもちつけ。

・モチつけてペツタンペツタンしろと？

・リトライ安価で委員じゃない怪獣さん。

・どうでも良いけど誰も安価で決まった漆黑怪獣シツコクの名前をよばねえ。

・あ、画面が暗転した。

『木登りしてみたらとの知り合いから要望が来ました』

・ミルクプリンさんムチャな要望を!!

・絶対無理なの

・はーん、さっさと何かやって帰りたいから適当に決めたな

・怪獣さん本人が（ヾノ・▽・ゝ）ムリムリて感じで手を振ってるし。

『どうかな。やってみなきやわかんねえ』

・名言来た！

・これで勝つる！

・それ本人以外が言うとはブラック臭くなるよね

・ラスボスばい外見の怪獣だし言われる側。

・渋々といった感じで怪獣さんが動き出した。

・太い木の所に向かつてる。本気でやるの？

・そんな巨木を選ばんでも

・怪獣のサイズ的に木登りになるならあれぐらいの大きさないと

・怪獣さん木を見上げてから振り返った。ムリって意味かな（笑）

・妹さんの返答は如何に

『がんばれー』

・ ひでええ w w

・ 木に向き直った。

・ 行くのかあ…草

・ 木に抱きついた。

・ その姿はまるでデカイ昆虫

・ 後ろもリアルだなあ

・ 止めろ！こんなサイズの昆虫とか思ったらゾワツときた！

・ 抱きついただけで動かない w w

・ そら…ん？

・ 何か木の形が変わっていつてない

・ バキバキって音が

『御視聴ありがとうございます』

・ え？

・ なんだあ突然。

・ 登るの無理と悟ったにしても唐突すぎ。

・ いやさっきのミルクプリンさんの声…

- ・画面が凄い速度で怪獣から離れてく。
- ・怪獣と妹さん置き去りにどこ行くの。
- ・トイレ…？
- ・あ、誰か二人、あの服は…お巡りさんww
- ・ま、まさか画面が離れたのは！
- ・画面的に隠れてるな。
- ・通報されたwwwwwwww
- ・お前二人を見捨てやがったな！（笑）
- ・わーお巡りさんにコイコイされてる。そら逃げたの見られてるよな。
- ・ほら戻りなさい
- ・撮影は続けてね！
- ・うお！木が折れた！
- ・え、なに、さつき抱きついてた木が折れたの!?
- ・誰も木に潰されたとかは無さそう。
- ・それは良かったけどさ、なんで木が倒れたん？
- ・怪獣がああ木をへし折ったように見えたの、気のせい…とは思えない。
- ・へ？いや結構な巨木なんですが

- ・マジにへし折ってたら怪獣さんそのまんまな意味で怪獣じゃないかい。
- ・イ…ないよな？
- ・偶然折れる寸前まで木が腐ってたとかだろ。
- ・どんな確率かなそれ。
- ・これは本物かな。
- ・プロレスラーとかなら折れるんでは
- ・画面が暗転した。
- ・復帰しない。終わり？

怪獣配信2

『昨日の動画は突然終わってスミマセぬ、悪いのは国家権力というヤツです。事情は昨日の動画を見たままです。別に公園で悪いことしてないのに国家権力に注意され帰宅するしかありませんでした。お気に入り登録数がなんでこんなに増えてるの』

- ・ お巡りさんの事を国家権力言うな。
- ・ お巡りさんまったく悪くないと思う。
- ・ 木を折った事を無かった事にしやがった。
- ・ 登録数は詐欺が発覚した：紹介してくれたミルクプリンさんのせいかな？
- ・ 詐欺いうな!!

・ 二回目（実質一回目）の放送で警察沙汰になった事が原因だろ

・ それより前の動画最後に木を折った？

『あれは兄さんのせいではないです。兄さんのせいではないです。大事なことなので二度言いました。あの木が腐ってたんです。腐ってたから折れたんです。お巡りさんも折れたの腐ってたからと言いました。お巡りさんが間違うはずないので間違いなく兄さん

は無実。なので私も悪くない』

・ 国家権力とか言つてた癖にww

・ 怪しい…

・ うーん、まああの太さとサイズの木を力付くで折るなんて無理か？

・ やれそうな外見（怪獣）だけど中身は人間だからなあ。

・ プロレスラー…なら？

・ やっぱり木が腐つてたのか

・ 今つて何処に居るんです。外なのは解りますが、また違う公園？

・ おいおいまた外で撮影か！

・ お巡りさんにまた注意されるぞ。

・ いや公園ぼくなくないぞ

・ 今は日曜の昼間だし外は何処でもダメだろうと思うんだ。怪獣と覆面少女とか通報待つたなし

・ 怪獣さんが落ち着かない様子ですがどうしたの。人がやっぱ見てるの

『人は居ますが通報は無いですよ。此方は公園ではなく、私有地にお邪魔してますので』

・ 私有地？

・整備されたグラウンドみたいな地面が見えるんだけど…

『映像を動かしますね』

・なにそこ競技場?!

・私有地とか嘘だろ。

・オリンピックで使いそうな広さが見えるんですが…

・もし本当に私有地なら相当な金持ち持ち物だろ

・どういうこと

『ミルクプリンさんの知り合いの知り合いの所有の運動場を借りれたんです』

・知り合いの知り合い?

・ミルクプリンさんも含めたら知り合いの知り合いの知り合い。

・それ他人じゃないか。

・なんでそんな人が貸してくれてるの

『知り合いの知り合いの知り合いは前回の動画を見て興味を引かれた変人社長です、能力検証についてスポンサーとして協力してくれるそうです』

・昨日の今日で?

・それ別の意味で大丈夫。

・スポンサーを変人扱いすんな(笑)

・社長って私有地てより企業の所有物？

『大丈夫だ。問題ない。とても帰りたいです』

・大丈夫じゃないんですね。

・セリフが矛盾してるんですがそれは

『いえその変人の人は全身スーツ姿の胡散臭い笑顔のおじさん：お兄さんですよ。お兄さんは何処とは言えませんが大企業の社長。一般的な知名度も高い人で、なんでこんな人が出てくるのって感じの大物です。大事になりすぎてて：正直何が何やら：都合が良いとも言えるんですが』

・おつと言論統制の気配が

・妹さん混乱してますねこれは

・私有地貸してくれたのお金持ちの道楽ってことでいいの。

・なんかこわい：

・ミルクプリンさんが紹介して其れなりに見てる人は居るだろうけど、その中に私有地貸してくれる有名社長がいてくれたってこと：そんな事があるの？

・ねーよ、と、いいたいけど、やりそうな変人社長に心当たりが：

・変人で一般的な知名度が高いってそれは答えを言ってるようなモノだ。

・変人ってだけでも心当たりが出る。

- ・変人の社長で心当たりなんてでるか!…出るな。
- ・現代のチート変人社長。上希アゲイン（純日本人）
- ・容姿も名前もあれだけど純粋な日本人（強弁）
- ・やっぱその変人だよな!
- ・変人言うな!一から会社を作って10年で世界的な企業にした日本を代表する変態だぞ!!

・変人よりなお悪い呼び方じゃねーか。

・変態を日本の代表にするの止めてもらえませんか?

・ロマンに溢れてるだけだぞ

・空飛ぶ車を発売、変形するバイクを発売。全年齢パンチラゲームを発売しようとして発売中止。

・あの会社なら巨大ロボとか作っても驚けない。

・あの社長絶対にロリコンだと思っただ。

・会社のマスコットにロリな萌えキャラ選ぶ勇者だからな。

・ん?ロリコン…:妹さん:

・まさか狙いは怪獣はんでなくて

・怪獣さんがなにか:警戒、威嚇してる?

『えー話を進めたいと思います』

・この反応は正解と言うこと？。

・と言うかチラツと某社のロゴマークが見えたとし正解と答えが出てる。

・うわマジだ

・いいの話を進めて？怪獣の人の方が帰ろうみたいなの手振りをしてるんですが

・絶対社長さん（？）を警戒してるじゃないですかー。

・初めて自分の意思表示みたいなの事をしたな。

・シスコンか

・覆面をしている女の子だし大丈夫でない。

・（ロリコンの）俺は覆面をしてもわかる。妹さんは絶対に美少女だと

・今回もミルクプリンさん居る？ミルクプリンさんもその（ロリ）梓だともうんです
すが

・ミルクプリンさんはロリじゃないぞ。自画像に近いって自称の立ち絵ではボーボー
ンだった。（すつとぼけ）

・マジレスすると胸が無いからってロリとは限らないんだよ…。

・ロリで無くて無いって…それは…

『とりあえず万一の時はミルクプリンさんを盾にしよう。なんでもないです。私はロリ

な美少女でないです。ミルクプリンさんはロリな美少女です。だから狙われるのはミルクプリンさんだけです』

・本音がボロツと出てるんですが

・サラツと立ち絵詐欺をしてる事を完全にバラされたミルクプリンさん

・紹介してくれた相手に追撃とはヒドイ奴だ

・ミルクプリンさんは貧乳のロリ、俺はわかつてた

・ミルク、プリンで連想するモノは…ああ…名前の由来はミルクプリンさんの欲しかったモノなんですね（ ; ∨ ; ）

・そんなわけないだろ!!（そうだったのか）

・ミルクボーイ達に拡散せねば!

・ミルクボーイって何だ

・ミルクプリンさんのチャンネルを見てる紳士達の名称

・あーあの貧乳は乳に有らずとか言ってた紳士たちか

『殺気というモノを見に染みてわかるときが来るなんて思いもよらず。ではなくスポンサーの人がソロソロ初めて欲しいとの事です』

・ミルクプリンさん映して。やっぱり止めて

・ま、禍禍しい気配を画面越しにも

・今回は何をするのか決めてる？

・昨日みたいになったらスポンサーキレると思うぞ。

・いやむしろオツケイ出すぞ

・こんな場所を用意してくれてるんだからな。

・ホント何を考えて着ぐるみ怪獣の能力測定なんてしようと思ったんだ？

『やることについては向こうが用意してくれるそうですから放送事故つても責任は向こうです、あちらをどうぞ』

・うわなにあれ黒服の人が沢山いる

・黒服の人が準備してくれてるってなんなんです。

・科学者みたいな人もいるぞ。

・パソコン何台あるんですかねえ！

・驚くほど大掛かりな機材!?

・そらあ怪獣さんも落ち着かなくなるわ。

・あの社長やることえげつない。

・ばかな事を全力でやるバラエティー番組

・見掛けはゲームセンターにある殴って何キロとか出るヤツに似てる。

・殴ってじゃなくてキックのヤツを家ぐらいのサイズに大型化した感じだろ。

・馬鹿かな？

・え、じゃあ怪獣に蹴れと？

・体型的に蹴りは少し難しそう

・バランス崩して倒れる未来しか見れない。

『あれを殴るそうです』

・何だ蹴れとは言わないのか

・蹴れなんて言うのは鬼畜じゃないか

『準備完了だそうです。では兄さん早速蹴ってみてください』

・!?で感じで怪獣が妹さん見てる(笑)

・おい!!

・鬼だ。鬼がいる

・蹴れって。

・ひどい：ww

・前回の木登りでもあつた流れだ

・怪獣が嫌々な感じで向かった。

・それでも行くのか。(やっぱりシスコン：)

・ネタ振りに答える芸人気質なのかも

・大きく足を振りかぶった！

・そして…からぶった!!!!

・盛大に転けたああーww

・と、届いてなかった…

・普通に目測間違い

・見えてた結果ですねえ

・おいこら！妹とそれとたぶんミルクプリンさん笑うなww

・黒服の人コッソリ笑ってるぞ

・あ、立ち上がった

・今度は殴っ

・は？

・爆発がおきた…ね

・え、いや、なんでそうなった。

・バラバラになってる。

・…殴った結果…？

『これ弁償とかそんな事になりませんよね。やるよう指示したの向こうですし』

・違う。気にするところじゃない!!

・人間のパワーじゃない。
・マジで怪獣は怪獣なの!?
・ウソだろ本気で怪獣になったの!!
・怪獣なんて居るわけないだろ!…あの機材に爆発物が仕掛けられてたとかじゃないか。

・なんだそんな事か…スポンサーがヤバイヤツだった!?
・あの社長ならやりかねない!
・待て落ち着け。
・社長がスポンサーとか言うので薄々気付いてたけど…これあれだろ
・あれって?
・此処を用意した社長をしつかり思い出せ!特に商品を!其処から考えてみる。
・あ、あー!なんでも気づかなかったんだ!!
・なんだよ…そんなことか
・どういうこと。
・だからあの会社の最近発表した商品思い出せ。
・最近のニュース思い出せ
・最近のニュース…やってたのはパワードスーツだけ、つて!そう言うことかよ!

・ゴメンわからん。パワードスーツの発売と怪獣がどう関係するの
・わからないのか

・パワードスーツの外装はロボからヒーロータイプまで様々あったら

・うん…あつたなロマンに溢れてた

・他にも公表されてないタイプは有るとか、は!!まさか!

・そう中に、パワードスーツの中に怪獣タイプがあつても可笑しくない。

・ええ

・なるほど…これはつまりは…

・怪獣型パワードスーツのデモンストレーション

・はは…宣伝かよお!!

・ふざくんな!!まじ怪獣なのかってドキドキしたんだぞ!!

・道理で怪獣の着ぐるみのクオリティが個人のモノと思えないと思ってたんだ。作成
が大企業なら納得できるわ。

・いきなりスポンサーになったんでなく元からスポンサーか。

・そうなのかねえ?

・可笑しくないか?怪獣タイプのパワードスーツはあつても可笑しくないけど…もう
自衛隊がパワードスーツを導入するの決定したって公表されたる。

・却下されたならともかく採用されたの後に宣伝するの少し変だな。

・いや自衛隊に下ろすパワードスーツだからこそだろ。ロボやヒーロータイプは採用されて怪獣は不採用にされたって考えられるだろ

・なんで怪獣タイプが不採用になったとか考えられるの？そういう話し聞いたことないぞ。

・ほら自衛隊の相手は怪獣だしな。敵の怪獣タイプがモデルなんて嫌だろ。

・そんな理由!?

・自衛隊の敵が怪獣なの特撮くらいだろ。

・バカらしいと思ったけど、俺が採用担当なら怪獣タイプは却下するかな。

・普通に動きを阻害されるしね。

・憶測だろ

・憶測だけどき、考えてみる……怪獣タイプのパワードスーツと本物の怪獣どちらが有り得る？

・それと偶々日本最大規模の企業の社長が動画を見てて私有地を貸してくれるか。

・……そう言われたら否定できない。

・間違いないかな……不採用にされた怪獣タイプの性能を見せつける為の動画。

・前回の俺達は乗せられて気付かないお間抜け役。

・おのれアゲイン

・まだ本物の怪獣で可能性はありませんか？

・ないです

・ないです

『少し目を放した際にコメントが変な方向に………』

・そっちの（予定通りの）ゴタゴタ片付いた？

・君も雇われた人かな。

・怪獣もパワードスーツなんしょ

・宣伝ですよ

・これ紹介したミルクプリンさんも企業勢になったのかね

『………バレましたか。パワードスーツの宣伝だと』

・まだ本物の怪獣で可能性はありますか？

・あ……るう。

・ある、ない、ある？

・あれえ？一言で怪獣の可能性が復活したぞ

『え、なんで宣伝だと素直に自白したのにそんな反応になります??！』

・そんな素直な自白が信じられるか！

・ 少しも誤魔化そうとしないのは逆に怪しいの。
・ あとなにより声が嘘臭かった

『ゆつくりボイスで声が嘘臭いとは？ともかく次の……本日の動画は終了です？』

・ なんだ。また突然終わりとか言い出したぞ

・ またお巡りさんきちやった

・ いや来たの黒服の人だ。

・ 声が聞こえない

・ あ、戻っていった

『はい。次です。まだ動画は続きます。続けてやりますが、次ですが何も起きない可能性が高いのをご了承ください。念のため離れます。離れながら説明します』

・ 移動してる

・ 科学者の人とか黒服の人も移動してる。

・ 怪獣さん残ってるぞ。

・ 怪獣さん取り残されてる w w

・ なにするの

『はい。プロフィールに書いてましたが体長三メートルぐらいと、書いてました。

『』で大きくなれるんじゃないとか言われて試して見ることに』

・つまり巨大化か。

・戦隊モノのヒーローの敵なら必須技能

・自分の所の発明品なのに白々しい。

・幾らロマンを売り出す上希コーポのパワードスーツでも巨大化は無理でしょ。

・巨大化なんかしたらそれこそ議論の余地なく本物の怪獣やん

『移動終わりました』

・観客席みたいな所にいるね。

・一人ポツンと取り残された怪獣さんかわいそう（つ；；*）

・拡声器で黒服の人が初めてくださいと言ってる

『五分何も起きなければ次に移ります。巨大化なんて流石にないと思うので……

えー』

・…は

・なにこれ

・少し目を離したらなんでいきなり暗くなった

・へえ…なに

・黒い壁がでてきたね

・…この黒い壁…怪獣の人の身体と同じ…

- ・ ない、ないだろ。 ないて!!
- ・ CG 合成かな
- ・ まって！ 画面を引くのやめ… ああ
- ・ まじか…
- ・ の、え
- ・ …… 怪獣確定ですね

変なことになった

「ヒーローに追われています」

逃亡者

へるぷみーーー!!

名無しのヒーロー好き

ん？

名無しのヒーロー好き

助けてほしいの？

名無しのヒーロー好き

なんだ

名無しのヒーロー好き

へるぷみーーー!!の続きは？

名無しのヒーロー好き

ヒーローに追われてるってどういうことなん。

名無しのヒーロー好き

助けてほしいの？

名無しのヒーロー好き

ヒーローに追われてるってスレ主は何か悪いことでもしたのか。

名無しのヒーロー好き

大人しくヒーローに捕まりや。

名無しのヒーロー好き

スレ主が何か悪いことしたって決まってるから

名無しのヒーロー好き

ヒーローに追われてるなら悪いことしたに決まってる。間違いないね！

名無しのヒーロー好き

ヒーローに追われてるから悪い……かは追ってるヒーローが何かによってかわるだ

ろ。追ってるヒーローとは何者ぞ。

名無しのヒーロー好き

お巡りさんとかじゃない。

お巡りさんをヒーローって呼ぶときあるし。

名無しのヒーロー好き

流石にそれならスレ主の黒確定w w

名無しのヒーロー好き

お巡りさんの他に、野球選手とかスポーツ選手はヒーローって呼ばれる事がある
ねー。まあ、そんな相手が追ってるならヒーローなんて書かないか。

名無しのヒーロー好き

スレ主、一言のみでこんなにコメントされてるのに立て逃げかよ。

名無しのヒーロー好き

に、逃げるのに忙しいのかも

名無しのヒーロー好き

ヒーローはヒーローの”格好”をしてるとか？

名無しのヒーロー好き

ご当地ヒーローに追われてる光景が頭に浮かんだ。

名無しのヒーロー好き

ご当地ヒーローの中の人について可能性も

名無しのヒーロー好き

中の人など居ない!!

名無しのヒーロー好き

変身ヒーローには中の人は居るでしょ

名無しのヒーロー好き

とにかくスレ主はヒーローの格好をした不審者に追われてるのかな？

逃亡者

へるぷみー！！へるぷみー！！

名無しのヒーロー好き

あ、ようやくスレ主、けど、またそれだけか！

名無しのヒーロー好き

へるぷみーと書きたいだけじゃないだろうな。

名無しのヒーロー好き

だから具体的に書けてw

コテハン付けてる余裕が有るなら。

名無しのヒーロー好き

おいおい。少しは心配してやったらどうだ。

名無しのヒーロー好き

へるぷみー！！だけで反応してくれてるスレ民がこんなに居るだけで十分優しい

名無しのヒーロー好き

状況不明だけど、特撮掲示板に書き込みしてるなら余裕としか思えんのか。せめて追ってるヒーローが何かぐらい教えろ。不審者であってるの？

逃亡者

【走ってるような白アーマールの画像】

名無しのヒーロー好き

んん？

名無しのヒーロー好き

誰これ

名無しのヒーロー好き

いや、張られたタイミング的にこれが追ってるヒーローって事やろうけど……。

名無しのヒーロー好き

これは確かにヒーローとしか言えない相手に追われてますねえ。

名無しのヒーロー好き

カツコいいけど、こんなヒーロー居たっけ

名無しのヒーロー好き

ご当地ヒーローには居ないな。

名無しのヒーロー好き

漫画とかアニメのキャラのコスプレ？

名無しのヒーロー好き

それか完全にオリジナルなヒーローコスプレ。

名無しのヒーロー好き

この白アーマーはただの不審者？それともスレ主が何かやらかして追われてる？

名無しのヒーロー好き

格好をバカにしてキレられたとか？

名無しのヒーロー好きあーありそうw

ありそう（笑）オレこんな格好したの居たら吹き出すきがすりゆし。

名無しのヒーロー好き

吹き出すの？オレ関わるの嫌で逃げるー択なんだけど

名無しのヒーロー好き

あ、もしかしてスレ主も逃げたから追われてる？

名無しのヒーロー好き

逃げたから追われてる……ありそうか？

名無しのヒーロー好き

スレ主、いい加減に状況の説明の書き込みしてくりやれ。

名無しのヒーロー好き

まだ逃げてるんでしょ。

名無しのヒーロー好き

画像の全身アーマーならクソ動きにくいし直ぐに逃げきれはるはずだろ。

(スーツアクター経験者談)

名無しのヒーロー好き

アクター経験者じゃないけど見るからに追跡とか困難そうなのはわかる。

名無しのヒーロー好き

画像だと白アーマーの躍動感、速く動いてる感はあるんだけど

名無しのヒーロー好き

待て！スレ主がデ○だったら向こうより重量が……。

名無しのヒーロー好き

ヒーロー(重りで遅い)からスレ主(自前の肉で遅い)が逃げてるの想像したら……

是非とも見学したい(笑)

逃亡者

【機敏に数メートルジャンプして、壁を蹴って飛んで、まるで人型のバイクの様な速度で迫ってくる白アーマーの動画】

名無しのヒーロー好き

(; ; 。 ㊦)

名無しのヒーロー

え、なにこれ

名無しのヒーロー好き

リアルヒーロー!!?

名無しのヒーロー好き

足から排気ガスが噴出してる (; ; ω)

名無しのヒーロー好き

足が無茶苦茶に熱いんじゃない。

名無しのヒーロー好き

別な煙を排気ガスに見せ掛けるぐらい可能だろうけど……動きがマジもののエンジン

ン搭載してるとしてか。

名無しのヒーロー好き

スレ主、こんなリアルワイヤーアクションしてくるのに追われてるの。

名無しのヒーロー好き う

「オラアア!!こんな相手に逃げ切れると思うか!!」って感情が動画から伝わってくる。

名無しのヒーロー好き

よくへるぷみー！！とか投稿できたな！

名無しのヒーロー好き

こうなると逃げれてるの可笑しい。

名無しのヒーロー好き

本当にずっと逃げてんの？

名無しのヒーロー好き

……本当としたら、スレ主の方が可笑しい。追われながら撮影とか不可能じゃないかね。

名無しのヒーロー好き

動画がスレ主のスマホの撮影だろう……スレ主が撮影しながらって考えると人間の

動きしてない（震え声）

名無しのヒーロー好き

高速でカメラを動かす機材が必須な映像……。

名無しのヒーロー好き

後ろ向きに走りながら撮影してる映像……？

名無しのヒーロー好き

やっぱり白アーマーよりスレ主の方が可笑しい。

名無しのヒーロー好き

マジでどういう状況なのか、わたし！知りたいです！

名無しのヒーロー好き

背景的に町なかほいよな。此だけ派手な事が起きてたらT O i t t e rで情報上がらない？人が居ないならともかく人がチラホラ見えたのにそんな情報は見つからない。

名無しのヒーロー好き

人……あのさ動画にチラツと映ってた人何だけど、なにこれ。

名無しのヒーロー好き

なにこれって……なにこれ。

名無しのヒーロー好き

わお、白アーマーに注目してて気付かなかった。変な人がガッツリ映ってるわ……。

名無しのヒーロー好き

人？

名無しのヒーロー好き

角のアクセサリーを付けてたり肌にペイントしてたり、動物の頭？……一体スレ主は何処にいるんですかね？

名無しのヒーロー

コスプレイベントなんて何処かでやってたけ

名無しのヒーロー

なんか見た覚えが

名無しのヒーロー好き

此処って書き込みした人の地域が出るのに、スレ主は地域が表示されてない……

名無しのヒーロー好き

あー喉に魚の骨っていうの……知ってるような気がするのに

名無しのヒーロー好き

あ、

名無しのヒーロー好き

時間の表示も変だ。

名無しのヒーロー好き

おお、そうか！これって！あれか！

名無しのヒーロー好き

知っているのか雷電！

名無しのヒーロー好き

いや！他に覚えてるニキは居ないの？これ十年ぐらい前に立てられた有名スレと同じだろ！

名無しのヒーロー好き

なにそれ？

名無しのヒーロー好き

…覚えがある気はするんだけど

名無しのヒーロー好き

思い出した。住民が超人とか怪人ばかりの所に迷い混んだってスレか。

名無しのヒーロー好き

あーそう言えばそんなスレあった。懐かしい。

名無しのヒーロー好き

そのスレのIP教えてください。

名無しのヒーロー好き

映画の宣伝とか言われてたスレだろ。ハリウッド並みに特殊メイクしたと思える人が沢山でてた。

名無しのヒーロー好き

映画もないし。スレも削除されて全く音沙汰無くなったんだよな。

名無しのヒーロー好き

削除されたのか!? 探して損した!

名無しのヒーロー好き

ははそんな場合はアーカイブを………ない…だと??

名無しのヒーロー好き

え、アーカイブも無いの。

名無しのヒーロー好き

マジで全部消されてる。

名無しのヒーロー好き

よく十年以上も前に完璧に消えたスレを思い出せたな。

名無しのヒーロー好き

ネットで結構話題になっての覚えてたから

名無しのヒーロー好き

なんでその話題になったスレが消えてるの

名無しのヒーロー好き

たしか……スレ主と同名の人が行方不明って垂れ込みあった事が原因とか言われて

たっけ

名無しのヒーロー好き

マジで事件なせいで削除された？

名無しのヒーロー好き

それだと思う。

名無しのヒーロー好き

もつとそのスレについて詳しく教えてください！お願いします！何でもはしませんけど！

名無しのヒーロー好き

あんま覚えてない……ヒーローが当たり前の社会で、人類が個性とかいう力を持つてる世界に行つたそうだよ。

名無しのヒーロー好き

へー面白そうな世界。

逃亡者

まったく面白くねーよ!!

名無しのヒーロー好き

スレ主どうした、そのコテハンは随分と久し振り。

逃亡者

あ、いや、すまない。スレを見返して思わず。

名無しのヒーロー好き

見返してたん。

名無しのヒーロー好き

もしや初めの方の話かな？

逃亡者

そうだよ。その初めの方のスレを見返して思ったんだけど、お前ら……少しは俺の心

配して（；。㇏。）

名無しのヒーロー好き

えー……今さらそこを蒸し返すでゴザル。

名無しのヒーロー好き

何週間前の話をしてんだ。

名無しのヒーロー好き

初めだろ？へるぷみー！！しか書き込んでなきやあの反応で当然なんだよなー。

名無しのヒーロー好き

レスして貰えるだけでも感謝すべきだぞ。

名無しのヒーロー好き

特撮の掲示板であんな書き込みでどうして心配して貰えると思った？

逃亡者

あ、あの時は余裕亡かったから（；・ω・）

名無しのヒーロー好き

嘘つけ！逃げながら追ってくるマジもののヒーロー撮影しといて何が余裕ないだ！

名無しのヒーロー好き

あの時は変人扱いされたヒーローがまさかマジモノだとは、このリハクの目にも見抜けなかったわ。

名無しのヒーロー好き

スレ主、今さらだけどスレ初期のあの時ってどういう状況。

名無しのヒーロー好き

そう言えばあの時の状況でちゃんと詳しくは書いてないな。

名無しのヒーロー好き

ほれあの時の汚名挽回に書け。

逃亡者

返上だろ!? 一番初めの頃は……気付いたら変な場所に居たの（異世界の地球?）。身体に異変が起きてて身体の異変を調べてたの。白アーマーに声を掛けられたの。ヤバイ人だと逃げたの。逃げながらスマホでヘルプしようとしたの。此処にしか繋がらなかったの。とりあえず心の叫びを書いたの。

名無しのヒーロー好き

なるほど……わかりやすい!!

名無しのヒーロー好き

そう、か?

名無しのヒーロー好き

うむ、汚名を挽回してるな。

変質者

え、だめだった?

名無しのヒーロー好き

スレ主が異世界に居ると今でも信じられないよな。平行世界の地球って言うのかな

名無しのヒーロー好き

未来の地球って可能性も有るんだよなあ……。

名無しのヒーロー好き

ええ個性なんて奇人変人怪人ヒーローが居る愉快痛快な世界が未来だって?!……マジでお断り。

逃亡者

そのお断りな未来にオレがいるんですけど……

名無しのヒーロー好き

人類が個性持ちに進化するのは人類の未来は明るいな（白目）

名無しのヒーロー好き

進化。スレ主が言ってた個性持ちが初めに発生した国を考えると……人の自然進化の確率より何か不味いモノをバラまいたのか、遺伝子改造でもやらかした感じが。

名無しのヒーロー好き

みんなマスクしてる今はその話が笑えない。

名無しのヒーロー好き

まさか前兆とかじゃないよなあ。

逃亡者

そう言えば未来でも平行世界でも俺のスマホどうなってるんだろう。どうやってここに繋がってるのか

名無しのヒーロー好き

いまさらか！

名無しのヒーロー好き

スレ主みたいにスマホも可笑しくなったんじやない

逃亡者

可笑しくなったっていうなあ。

名無しのヒーロー好き

実際の所、スレ主の話からしたら可笑しくなったとしか言えないんだなー。スレ主は

その世界に身体が適応しちゃったんだよね。

逃亡者

まあうん……身体能力が上がった。

名無しのヒーロー好き

ソレだけでないでゴザルよなー

名無しのヒーロー好き

肝心な話、その世界のみんなが持つてる特殊能力の”個性”、手に入れたんだお??

逃亡者

まあ……そうだね。

名無しのヒーロー好き

おや？反応可笑的い。

名無しのヒーロー好き

その個性てなにかな。

名無しのヒーロー好き

ザワザワ、スレ主の”個性”とはいったい！！なんだ！

逃亡者

………前の書き込みに書いて有るから見返せや

名無しのヒーロー好き

本人から聞きたいなー。”個性”はなんだった？

名無しのヒーロー好き

なんなのかな？なんなのかな。

逃亡者

だから見返せクソヤロウ

名無しのヒーロー好き

そういわずに本人の口から。

名無しのヒーロー好き

クソヤロウてコラ！お口悪いぞ！

逃亡者

悪意あるからクソヤロウっていつてんの!!

名無しのヒーロー好き

えー悪意なんてないでござるよー

名無しのヒーロー好き

仕方ないので私がしかしかし代わりにかこうか。スレ主の”個性”は…それは

名無しのヒーロー好き

それは?その”個性”とは?

名無しのヒーロー好き

なんだ。なんなんだ。

名無しのヒーロー好き

スレ主の個性は、ジャン!!…変態(ヘンタイ)

逃亡者

変態って言うなあああああ

名無しのヒーロー好き

!!!!!!!

アヒヤハハハハ

名無しのヒーロー好き

ステイ、ステイ

名無しのヒーロー好き

”個性”の話だから

逃亡者

だったら個性【変態】って書け！

個性は変態なら意味が違うだろうがよおお!!

名無しのヒーロー好き

スレ主の得た特殊能力の個性は【変態】

スレ主の個性は【変態】

略してスレ主は変態

逃亡者

略すな!!

名無しのヒーロー好き

更に言えば先にその世界に逝つてた二人、一号さん二号さんと同じ【変態】個性何だよね。同じ【変態】個性なんだよねー。

名無しのヒーロー好き

大事な事は二回言いましたねw

名無しのヒーロー好き

お前ら毎回スレ主を苛めるな……ぷふ

逃亡者

あの二人の個性とは違う。あの二人の個性とは違う。あの二人と同じと違う!!! ちがうんどすよ!!

名無しのヒーロー好き

そんな強く言わなくても、わかってる。同族嫌悪はやめよう（慈愛の笑顔）

名無しのヒーロー好き

w w w

逃亡者

ちがうー！ー！ー！！！！あんなの同族ちがう!!

名無しのヒーロー好き

助けてくれた人をあんな人扱いしたら駄目だよ？

名無しのヒーロー好き

スレ主が右も左も分からない時に助けてくれて恩人だぞ。同じで喜べ

逃亡者

恩人だけど同じと違う（泣）

名無しのヒーロー好き

泣くほどいやか。同じ世界の人間なのに

名無しのヒーロー好き

同じ人間？

名無しのヒーロー好き

ご同類、もとい恩人で保護者はそっちでは大人気のコンビなんでしょ？

逃亡者

大人気のヒーローではある………現場に来たら結構な数の野次馬が逃げるけどね！

名無しのヒーロー好き

逃げるの。いや逃げるわな。視界に入れるの罰ゲームだし。

名無しのヒーロー好き

ホントそう。スレ主はそんな二人の姿を投稿してくれましたよね。……あの恨み忘

れねえ（怒）

名無しのヒーロー好き

よくもグロ注意と書かなかったな!!

名無しのヒーロー好き

おれリアルに吐いたんだけど？

名無しのヒーロー好き

あの衣装のせいでモチーフ元のアニメ見たら脳裏に過るようになったんだぞ!!

逃亡者

ゴメンなさいー(?▽?) || 3

名無しのヒーロー好き

絶対悪いと思つてないなこのやろう!

名無しのヒーロー好き

そんなんだから個性で弄られるんだ。

名無しのヒーロー好き

ホント、なんであんなモノを見せた!!

逃亡者

不幸は皆で分かち合うものだから。

名無しのヒーロー好き

うわあサイテー

名無しのヒーロー好き

※ヒーローを目指してゐる者の発言です

逃亡者

別にヒーロー目指してない。

名無しのヒーロー好き

は？

名無しのヒーロー好き

まだそんな事を言ってるのか。

名無しのヒーロー好き

スレ主は今度からヒーローになるための雄英でヒーローの為の高校に入るんですね

逃亡者

まあ入試試験は受ける予定、しかし……倍率的に合格できる気は欠片もないの。

名無しのヒーロー好き

そこを落ちてもまた別のヒーローになるための高校の試験を受けるんですよね。

逃亡者

ん、まあ、そうなる。

名無しのヒーロー好き

高校から考えるだけでもヒーローになる後押し全力でされてますし。ヒーローになる事は避けられないと思えない。

名無しのヒーロー好き

スレ主がいつてた、ヒーローになった一号さん二号さんと同じ道を辿ってるんだよね。

逃亡者

……今のところその通り。

名無しのヒーロー好き

ヒーローになったら一号さん二号さんの所にお前も入るんやで!!

名無しのヒーロー好き

ヒーロー【変態】トリオとなる。

逃亡者

ゴフ!? 仮にヒーローになってもないわトリオとか!! そもそもそんなトリオになる話しかしてないし。

名無しのヒーロー好き

けど、始めにヒーローになるの薦めたの1号2号のお二人ですよ。トリオになる為にヒーローを薦めたんじゃないの?

逃亡者

いやいやだからそんな話してないし。トリオになるとかなら話すでしょ。

名無しのヒーロー好き

話さなくても……トリオになるの当然って思ってる可能性はない？

名無しのヒーロー好き

スレ主、姿があれだしなあ。

名無しのヒーロー好き

三人目の戦士とか、追加メンバーとか聞いたことない？

逃亡者

それは、そんな感じの単語は二人が話してるの聞いたことあるけど、あれそういうこ

と？そんなまさか……まさか……マサカ……ヤバイ？

名無しのヒーロー好き

不安漏れてるぞお（笑）

名無しのヒーロー好き

おいおい気付いてなかったのか。

名無しのヒーロー好き

スレ主、恩人にトリオになって頼まれたら頷くしかないでしょ？

逃亡者

………な………それは………うう……イヤだ、イヤだけど、う、頷いてる自分が想像で

きてしまう。

名無しのヒーロー好き

www

名無しのヒーロー好き

本人がこれだとトリオになる未来像しか見えねえ

逃亡者

お前からああ……オレのメンタルを気遣ってください。

名無しのヒーロー好き

わかったわかった仕方ないな。あ、話は変わるけどそろそろコテハン戻したら

名無しのヒーロー好き

うん指摘するの忘れてた。早く戻しなさい。

逃亡者

え

名無しのヒーロー好き

迂闊に安価なんかして付けられたコテハンに戻せスレ主！

逃亡者

きしやあああああ

!!!!!!

名無しのヒーロー好き

ああ、メンタル気遣ってと言ったばかりなのにそんな事を言うからスレ主野生に返つたぞ（棒）

逃亡者

おれいや、コテハン、変えちや、ダメ？

名無しのヒーロー好き

なんだあ。過去を振り返るためと思えばコテハン嫌で逃亡者にしてたのか。

名無しのヒーロー好き

良いわけないんだよなー。安価で決まったんだし。

名無しのヒーロー好き

安価は絶対……それが世界（スレ）の真理

名無しのヒーロー好き

ほらサツサと戻せ

変態3号

あああああ!!これで良いか鬼畜ども!!

……真面目にこのコテハンはやなんだけど。

名無しのヒーロー好き

先達の事を変態1号と二号つてスレ主が言つてたから安価でこうなつたんよ。自業自得

名無しのヒーロー好き

変態V3ならええで。

名無しのヒーロー好き

しょうがない高校卒業したらお祝いに変えてやるよ。

変態3号

卒業三年先なんだけど!?

変態3号【個性、変態】

何故かヒーローアカデミアの世界に行つてしまったスレ主。

いつの間にか居た路地裏で白いアーマーのヒーローに職務質問される。見かけからヤバイ人だと逃走。逃げながら誰かに助けて貰おうとして周りの人も可笑しいと気づく。助けを求めようとスマホで通話しようとする。何故か特撮系の掲示板にだけしか繋がらず其所に助けを求めた。助からなかった。

その後、素敵な偶然で先達の1号と2号に遭遇して保護され、さらに色々あり高校にリターンすることに。

転移の影響か肉体は若返り強力な個性を手に入れた。かわりに大切なものをなくしている。

変態1号、2号

スレ主より結構前にヒーローアカデミアの世界に降臨した人達、現役でプロヒーロー、コンビで二人はP……。

3号の様に元の世界と繋がってたがモノを紛失して繋がりが途絶える。二人とも最初はヴィラ、ヴィジランテとして活動し後に機会を得て雄英に入学しプロヒーローに向。性格はヒーローに相応しとても好きな人たち、ヒーローとしての方向は日朝ヒーロー、ライダーでも戦隊でもない少女向けの方。

ヒーロー活動中に偶々同じ転移者の3号を見付け保護をした。因みに3号を同じ転移者と気付いた理由は、二人を見て何故なのかプリキュ○に謝れと叫んだから。

どちらも筋肉はオールマイト級、笑顔もオールマイト級。強さもオールマイト級、人気もきつと恐らくオールマイト級。しかしオールマイトと比べるとオールマイトファンから激怒される。

白アーマーのヒーロー

見掛けもカッコいい実力者の筈だが原作では前座で倒された少し不憫枠なヒーロー。二次創作でもほぼ前座扱いは変わらず。大体が名前だけ出て再起不能レベルに倒される不憫枠。

なので作では良い役をと初めから登場、逃げた不審者（3号）を追い掛けた。一号と二号と遭遇、三号の保護をしようとする二人からサンドされ大きな二つの意味でアツい胸の包容を受ける。不憫に成らないくらい登場を増やしたい。

第75話

名無しのヒーロー好き

【ヒーロー世界に転移しちゃったよスレ10】

変態3号

新スレ乙

名無しのヒーロー好き

前回雄英高校の試験に合格して今日が入学日でしたよね。

変態3号

そう、現在地はこれから通う雄英高校前。

よし！帰ろう！

名無しのヒーロー好き

おい

名無しのヒーロー好き

3号、今日が初当校だろ。

まさか日付を間違えて休校日だったとか？

変態3号

そんなまぬけではない。

名無しのヒーロー好き

じゃあ登校日って事だな。

頑張つてね。

変態3号

帰りたい!!

名無しのヒーロー好き

高校リターンは始まったばかりやろ。

名無しのヒーロー好き

頑張れ。頑張れ。頑張ればできるぞ！挫けるな！難易度激高な試験も受けて合格したんだろ。

名無しのヒーロー好き

逝け。

変態3号

【上空からの雄英高校絵図】 【制服姿の男女が多数】

むりなんだよなあ。

名無しのヒーロー好き

一枚目、随分と大規模な施設ばいけど、まさか？全部雄英の敷地？

名無しのヒーロー好き

はは、いやいや、デイズ〇ーより広そうな高校なんて無いだろ。無いよなあ？

名無しのヒーロー好き

そっちの日本でトップの高校らしいけど幾らなんでも絵図の規模は有り得ない。百割増しぐらいに大袈裟に書いてあるんだろ？

変態3号

そんな有り得ない高校が目のあるのん。

名無しのヒーロー好き

ええ……マジなん。想像できない。

名無しのヒーロー好き

トップ半端ないな（戦慄）。

変態三号

そうなのん

名無しのヒーロー好き

テメエ、その語尾やめろ

名無しのヒーロー好き

帰りたくなる気持ちわかる。けど頑張れ

変態3号

気持ちわかってないの。帰りたくなってる主な理由は一枚目より二枚目の画像なの。

…若い子ばかりで辛いの。

名無しのヒーロー好き

そっちかい!!

名無しのヒーロー好き

…スレ主の実年齢はあれだから。

名無しのヒーロー好き

うっ(; ω ;) 会社の部署で若手連中に混ぜられてるオレには気持ち痛いほど

判る。ノリの違いで胃が開きそうになるよな。

名無しのヒーロー好き

オッサンの気持ちなんてわからないのじゃ。

名無しのヒーロー好き

爺い

名無しのヒーロー好き

前にスレ主の顔写真が貼られたけど、みかけ高校生に十分混ざれるよ……うその画像
だろうけど

変態3号

うそでなんよ

名無しのヒーロー好き

前に貼られたスレ主、つ【3号の顔写真】

本当にスレ主はこの顔なの？実年齢もマジ？

名無しのヒーロー好き

!?

変態3号

その質問何度目かなあ。顔はモノホンなの、実年齢も前に行った通りなの。ただ身体
が変化したせいかな少し若返ってる感じがしたりするの。

名無しのヒーロー好き

若返り……は、まあいいとして、本当の本当にモノホンのお顔ですか？

変態三号

本当のフェイスなの。なんで偽者の顔とか貼らなきゃならんのよ。

名無しのヒーロー好き

うそだ！……うそだ……うそだろ。そんなのってないだろ！！

名無しのヒーロー好き

オーマイゴツど

名無しのヒーロー好き

これが主のお顔って……も、元はあれなんだろ。

名無しのヒーロー好き

向こうの世界に行って身体が変化したって前に言ってた、なら顔も変化したのかも

……したんだよな！

変態3号

顔が変化したとかは特に無いんやが。

名無しのヒーロー好き

へー！そうなんだ……そうなんだ……ゲフウ

名無しのヒーロー好き

お前、俺らの心を傷つけた……

変態3号

いやいや何で傷付く？

名無しのヒーロー好き

何でじゃねーよ！この外見詐欺!!

名無しのヒーロー好き

絶対に多くの同級生を泣かせてるぞコイツ。

名無しのヒーロー好き

制服着てる画像ください！（土下座）

名無しのヒーロー好き

こら（笑）……そこは水着だろうJK

名無しのヒーロー好き

まあとにかく高校に入りなさい

名無しのヒーロー好き

そうだ。本題そつちだ。

変態3号

ツチ思い出したのか。あー行かなきゃだめ？ダメかーあー………前の学生
活みたいにポッチに成ったらどうしょ。

名無しのヒーロー好き

サラッと泣けること言わない!

名無しのヒーロー好き

泣けるよな。……此所に張り付く様なのは大体同類(ボツチ)だし。

名無しのヒーロー好き

言うなよそういうこと(ゝqゝ)

名無しのヒーロー好き

……スレ主に關しては孤立の理由がオレラと違う気がするんやけど。

名無しのヒーロー好き

スレ主なら恋人とか沢山いただろ?

変態3号

は? 恋人:……コイビト? 何処からそんなファンタジー単語が出てきた! なんでボツ

チに恋人が出来ると思う? 女の子と会話した事すらねーよ!! ボケええ(#。D。)

間違った。恋人は沢山いたか……画面の向こうにだけど

名無しのヒーロー好き

そ、そっか……

名無しのヒーロー好き

君はオレ達の(*ゝー) / (*ゝー*) / (ゝー*) ナカーマ

名無しのヒーロー好き

ゴメンな。高校は辛いよな。

名無しのヒーロー好き

俺達が付いてるから！

名無しのヒーロー好き

俺らが居るから既にポツチでないんだよなー。

名無しのヒーロー好き

いきなり優しくなりおったww

名無しのヒーロー好き

………スレ主の顔の画像を見た後にそんな台詞聞きたくなかった

名無しのヒーロー好き

大丈夫かな3号……クラスに入ったそうだけど。

変態3号

ひゃあ!!!おぼ!ど、どうめさやほ!じょしごはなれと!!おばい!!

名無しのヒーロー好き

落ち着け！どうした!!何があった！

名無しのヒーロー

不良にでも絡まれたのか！

変態3号

お隣の女の子に挨拶された。

名無しのヒーロー好き

ズコー

名無しのヒーロー好き

アホか!!

名無しのヒーロー好き

うん、女の子に挨拶されたの羨ましい。けど女の子に挨拶されただけでうへの反応って何だか涙が出ちゃう。

名無しのヒーロー好き

挨拶ぐらい普通だろスレ主……

名無しのヒーロー好き

ん？女の子……改めて見ると動揺して意味不明なの。オツパイと取れる台詞があるような。

名無しのヒーロー好き

まさか女の子の特徴なんてことは

変態3号

神様みたいな名前のお隣の女の子……とてもオツパイ大きい！しかも見かけは個性の影響の見えない普通の美少女ですぜダンナ方！

名無しのヒーロー好き

コイツハツキリ言いおつた！

名無しのヒーロー好き

さいてー。

名無しのヒーロー好き

大きさはリングか！メロンか！スイカか！何れだ！

名無しのヒーロー好き

つるぺ、いやミカン、サクランボサイズが至高!!

デカイ胸なんて脂肪の塊にしか過ぎないってわかってないなあ。3号はきつと素晴らしい

名無しのヒーロー好き

ごみ貧乳好きニキ湧いてくるな。それよりクラスはどうだった。エリート高校だか

ら質は良いんじゃない。

変態3号

メロン。うーん、クラスは、初日でまだ何とも、良い子ばかりな様な気もするけど、容姿は個性社会だから、うん、ただ……確実にチンピラなのは一人いた。教室で真面目そうなクラスメイトに暴言吐いて堂々と喧嘩を売ってた。ドン引きさせられたメロン。

名無しのヒーロー好き

アホだろソイツw w

名無しのヒーロー好き

メロンとか口に出す奴もアホだ。それはサイズのことか!!

名無しのヒーロー好き

なんでチンピラが合格してんの？

名無しのヒーロー好き

おもつくそヒーローにしたらダメな人種ですねぇ。

名無しのヒーロー好き

入るのが難関な高校なんですよね。雄英……ヒーローに重大事項な素行とか人格的な調査はしてないの？

名無しのヒーロー好き

スレ主が言う試験だと知能と戦闘力しか測ってないぽい。

名無しのヒーロー好き

中学の内申書とかあるでしょ。

名無しのヒーロー好き

中学時代は良い子のフリをしてたんだろ。

名無しのヒーロー好き

雄英の目が節穴でなければチンピラ退学確定。

変態3号

担任を名乗る不審人物にジャージに着替えて運動場に移動とか言われたので、暫くは反応できないと思う。

名無しのヒーロー好き

え？いきなりジャージで運動場？

名無しのヒーロー好き

不審人物？

名無しのヒーロー好き

だから運動場で入学の挨拶だろ。

名無しのヒーロー好き

挨拶にジャージに着替える必要ないだろ。

名無しのヒーロー好き

まだその話をしてる。

名無しのヒーロー好き

結構時間経ったな……幾らなんでも挨拶にこんなに時間掛けないよな。

名無しのヒーロー好き

ジャージかあ。女子はブルマじゃないのか。

名無しのヒーロー好き

オツサン、ブルマは無いw

あってもスパッツぐらいだろ。

名無しのヒーロー好き

ブルマよりスパッツの方がエロいと思うんだわ。

名無しのヒーロー好き

スレ主、良いもの見れただろうなあ

名無しのヒーロー好き

いや、スレ主着替えどっちだったんだ？
変態3号

疲れたああ!!アホオオー!!

名無しのヒーロー好き

どうした!?

名無しのヒーロー好き

長かったけど何してたのね。

名無しのヒーロー好き

疲れたって今まで何かやらされてた？

変態3号

試練というか、試験というか、テストみたいなこと…

名無しのヒーロー好き

なにそれ

名無しのヒーロー好き

入学初日に？

名無しのヒーロー好き

入学の挨拶は無かったの

変態三号

無かったの、何故か退学をかけた能力テストさせられたのん。

名無しのヒーロー好き

は？初日に退学をかけさせられたの、

名無しのヒーロー好き

えーと……ハンター×ハンターのハンター試験後の念修得みたいな話し？実は念を修得できなきやハンター試験の合格じゃないみたいな。

名無しのヒーロー好き

その例えは違うだろ

名無しのヒーロー好き

その試験やらせたの不振人物とか言われてた人？不振人物とか言ってたけど本当に担任だったの

変態3号

担任だったの。イレイザーヘッドというプロヒーローの相澤先生、個性は個性の抹消。この先生なにか引つ掛かる……

名無しのヒーロー好き

個性の抹消で能力消して事だろ？クソチートだな。

名無しのヒーロー好き

教師より現場の方が良いんじゃないの。

そつちで起きる犯罪者、ヴィランの事件聞くと現場に絶対欲しい能力だし。

名無しのヒーロー好き

引つ掛かるって？

名無しのヒーロー好き

個性を制御できない生徒か暴れる生徒を鎮圧する為の個性かな。

名無しのヒーロー好き

能力を無しにする能力、つまりお互いが無能力、つまり肉体での真っ向勝負する先生

だよな。素が強そう。

変態3号

おもいだした!!!

名無しのヒーロー好き

なにを？

名無しのヒーロー好き

生徒か先生のこと？

変態3号

先生の方、相澤、イレイザー、何処かで何度も聞いたことある名前だなーと想ってた!!……ああ……一号、二号のお気に入りの人でした。

名無しのヒーロー好き

ふあ!??

名無しのヒーロー好き

なにその先生

名無しのヒーロー好き

あ、スレ主が思い出したタイミングは真つ向勝負つて所……個性を抹消されたら強制的に肉体での勝負になる。一号、二号のお気に入り………（察し）

名無しのヒーロー好き

え、その先生……そっちの人？

名無しのヒーロー好き

4号なのか……

名無しのヒーロー好き

うわあ

変態3号

なるほも………

名無しのヒーロー好き

それは誤字？

名無しのヒーロー好き

いやいや!!お気に入りなだけでそうと決まった訳じゃないだろ!!……先生はノーマルなのに一方的に好かれてるだけなのかも

名無しのヒーロー好き

その場合、先生がとても不幸では……(汗)

名無しのヒーロー好き

話が先生ばかり……重要なのはテストの方だろ!!先生がホモローでも受けでも攻めでもどうでもいいだろうよお!!

名無しのヒーロー好き

そうだな。先生はホモローって事で話は修了。肝心なのは試験のことだ。

名無しのヒーロー好き

それでいいの?いいのかな。まあいつか。

名無しのヒーロー好

具体的に試験はなにをしたの

変態3号

握力検査、ボール投げ、反復横跳び、屈伸、走り幅跳びとかを…個性ありで
名無しのヒーロー好き

…普通だな。

名無しのヒーロー好き

個性（能力）ありらしいので普通でない。

名無しのヒーロー好き

それに退学も掛かっているテストなんだろう。

名無しのヒーロー好き

個性の応用を試してみたいなテストなん

名無しのヒーロー好き

個性ありなら、難易度の差が激しそう。

名無しのヒーロー好き

下手すると応用が不可能な能力もあったんでは。

名無しのヒーロー好き

そう言う人は居なかった？応用が無理って感じの

変態3号

応用が厳しそうな人は何人か居たけど、特に透明人間の女の子はあれだな

名無しのヒーロー好き

透明……透明か。どう考えても応用とか無理そうだわ！

名無しのヒーロー好き

透明人間、異形系？というのみたいに素で身体能力が高くなるタイプでも無いんだよね。

名無しのヒーロー好き

女の子が透明人間………エロく感じるのは俺だけ？

名無しのヒーロー好き

透明+女の子、エロいに決まってる

変態3号

服以外なんも見えないのにエロいもクソも無いの。

名無しの変態

服以外見えないのか………その透明な女の子………下着見えるので無いか？

名無しの変態

は!!そうか!!全身が透けてるなら服の隙間から普通にしても見えそうだ!!特に腕の辺りの隙間から!!

名無しの変態

裏側から見える下着か……………フウ

名無しのヒーロー好き

変態コテハン三連星がまた出現した！

名無しのヒーロー好き

スレ主のコテハンが変態3号になってから伝統的に現れる奴等。

名無しのヒーロー好き

変態3号（スレ主）がドスケベなせいで現れる奴等が変態三連星。

名無しのヒーロー好き

最低やな変態3号！

変態3号

清廉潔白、純真無垢系な私に身に覚えのない冤罪はやめようか。

名無しのヒーロー好き

ドスケベは冤罪で無いのでない？

名無しのヒーロー好き

コイツ、身に覚えが無いとか抜かした!?

名無しのヒーロー好き

初対面のクラスメイトのオツパイに注目してたの誰ですかねえ
名無しのヒーロー好き

清廉潔白、純真無垢とか図々しい……!!

名無しのヒーロー好き

腹立つ!!無性に腹立つ!!

何が腹立つって外見だけなら納得出来るのが何より腹立つ!!!

名無しのヒーロー好き

【3号の画像】……どう見ても清楚系の美少女

名無しのヒーロー好き

これで”男の時も”顔は同じって……ない!あり得るはずがない。あつてたまるか。

変態3号

今でも男だし。

名無しのヒーロー好き

そうなんですかねえ(疑惑の眼差し)

名無しのヒーロー好き

この顔で男ってあり得んでしょ。

変態3号

なんで信じられないんですかねえ

名無しのヒーロー好き

信じられるか!!

名無しのヒーロー好き

ホントに彼の顔は男の時も同じでしたよ。

名無しのヒーロー好き

んん？まるで直接見たみたいな台詞

名無しのヒーロー好き

見てましたよ直接。

名無しのヒーロー好き

前を知ってるって、リアルなお知り合い？

名無しのヒーロー好き

はい知り合いですね。

名無しのヒーロー好き

本当に知り合いの人なん

名無しのヒーロー好き

はい

変態3号

だれ？

名無しのヒーロー好き

前にも知り合いの人が来たけど全く信じず、悪質な冗談扱いして文句垂れて消えたんだよな。

名無しのヒーロー好き

異世界に行ったとか信じる方が可笑しい。

名無しのヒーロー好き

まあ、うん、それもあるけど、3号が全く知らない人扱いしたから……

名無しのヒーロー好き

知り合いなのが嘘なのか。3号が覚えて無かったのか

名無しのヒーロー好き

こんどの知り合いは本物なのか。

名無しのヒーロー好き

自分が誰かとか3号に伝える言葉とかありません？

名無しのヒーロー好き

そうですね。幼稚園、小、中、高時代全部同じクラスの同級生でした。高校時代の終

わりには二つ前の席。名字はわ行で名前はた行で始まります。

名無しのヒーロー好き

幼馴染みやん!!

名無しのヒーロー好き

幼馴染みでしかも10年以上同じクラスって事になる

名無しのヒーロー好き

これなら当然覚えてるな。

変態3号

その……ちよつと覚えてませんねえ。

名無しのヒーロー好き

そんな……

名無しのヒーロー好き

ひ、ヒデエ

名無しのヒーロー好き

幼馴染みすら覚えてないで、お前そんなだからボツチだったんだよ。

名無しのヒーロー好き

ホント思い出せないの。知り合いが可愛そうだろ。

変態3号

いやーそう言われても……幼馴染み？

名無しのヒーロー好き

ほ、本当に覚えてませんか。ストーカーとして通報された事もある女なんですけど。

名無しのヒーロー好き

……え

名無しのヒーロー好き

……退学かけたテストのことは？

個性【変態】

様々な姿に変態出来る。

第76話

まだ二ターン目

資源衛星ヘリオポリスにて中立無視して秘密裏に連合のMS開発、なんだかとても嫌な予感があるの。たぶんヤバイ場所だこれ、おうちに帰るの。オーブへの便は出たあとだったのおお。

数日しないと船はない……。

元々の予定通りの時にしか帰れねえ

あーまあなんだかとてもこのヘリオポリスに居るのに、嫌な予感はあるけどたった数日、何か起きるわけないか。うわ！旗が飛んできて顔に掛かった！なんじゃこりや!! 「(なんで旗が飛んでくるんだ?) ……案内をさせてもらってよろしいですか三佐。他に先に行くところがあるのなら日程をズラす事は可能ですが」

他……あ、OS 開発で頼ってるスクールの教授にも会いに行かなきゃいけない。技術者連中に聞くのとどっちが先でも良いそうさ。

ぬううどっちを先にしよう。

堅物そうな美人さんとのデートか！

それともスクールの若い女の子を見に行くか!!

迷う。とても迷う。

美人さんとのデート01234

スクールに潜入56789

0

まあ！態々美人さんに来てもらってるのに案内を後回しとかダメだよな！

「……………ご案内してよろしいんですね。では皆さんついてきてください」

ゾロゾロと美人さんのお尻、間違えた後ろをついていき工場区間みたいな所を通り抜けてく。此所、連合の兵士さんで一杯だなー。…他国の軍の中に一人つて怖いなー。え？技術者？肉盾にしろと？

彼処の集団は連合の技術者かな。

む、あの胸は

三佐のオツパイへの愛

100、66

うむ……アレは良いものだ。

「ラミアス大尉、よろしいでしょうか？」

「バジール少尉？ええ大丈夫よ」

「作業を中断させて申し訳ありません。此方はオーブから来た技術者の方と三佐殿です………三佐殿は不審者では一応ありませんので」

小声で何か言った？

「そ、そう、そちらが話にあつたオーブからの……。失礼しました。ようこそ、私は技術士官のマリユー・ラミアス大尉です」

とてもオツパイ大きいですね。は！いけない！脳内の言葉をそのまま出しかけた！

「ラミアス大尉ですか。よろしくお願ひします」

下心のない爽やかな笑顔でそう言った。

（この三佐、絶対にスケベね）

笑顔で距離をとられた。

く、後ろの技術者がイヤらしい目で見たのか！

「ラミアス大尉、此方を」

「これは、三佐達に機密を開示する許可書類………それに可能ならテストパイロットとして、それで私は説明役………なにこれ………エエ………正式な許可書………わ………解りました。三佐方どうぞ此方に、周りながらご説明します」

美女の後ろについて行くなんてご褒美です！何やら面倒そうな単語があったけども喜んで！あ、バジール少尉も来るんですか。そんな後ろにピツタリーくっついてくるなんて、まるで気になる男の子（不審者）の後を着けてるみたいなムーヴ……（照れ）

「先ずは此方をご覧ください」

アレはMS？プラントのジンでなくてオーブのアストレイに似てるタイプ。……改めてオーブと連合は一緒にMSを造ってるんだなー！中立てなんだろう？（哲学）

それとも情報盗……よし、俺はなにも見なかった！

「我々は現在このコロニーにて新型戦艦と五機の試作MSを開発しています。

MSの型式ナンバーはG A T T X シリーズ、

その内の一機が彼方のG A T T X 002デュエル」

デュエル……デュエルスタンバイ!!

「なぜカードを出してるんですか？」

「あ、なんでも無いです。条件反射なので気にしないでください」

「デュエルは開発中の五機のMSの基礎として開発されたので、特に冒険もせずバランス重視の汎用性に優れたシンプルな機体です」

コンセプトはアストレイと同じタイプぽい。ふ、内の子の方が強そうだな。

「もう完成した状態なのですか」

「いえハードは完成した状態では有るんですが……」

「やはりソフト、ナチュラル用のOS はまだ……?」

「ええ、残念ながらMSをコーディネーターの様に動かすのはナチュラルには難しいですから……」

「そうですか。此方でも同じです。OSでMS開発がつまずいています……」

「ナチュラルの他にコーディネーターも居る貴国のオーブでなら、コーディネーター用のMSにすればOS の問題は解決出来るのでは」

「確かに見本がありますのでOSはコーディネーター用なら簡単ですが、だからこそ余計にナチュラルには使えないMSはダメなんです……軍事力がコーディネーターに独占された様に見えてはオーブ国内で軋轢が産まれますからね……」

「バカな質問でしたね」

「其れにしても……シンプルな機体は悪くないですけど……単色なのはシンプル過ぎないですか?」

目立たないのは軍用としては正しいんでない?

目立つ色とかエースかお前は囷になつて戦えみたいな生け贄枠。アレ? そう言えばやたら派手なパーソナルカラーを薦められたような?

「ふふ、五機ともに装甲が特殊なので起動状態に成ればまた違う姿を見せてくれんです

よ」

違う姿……なんかエロい響き。

「特殊な装甲、それはフェイズシフト装甲ですか」

「ちよーおまー！」

「……よくご存じですね」

アレ？なんか空気が可笑しいぞ。

「……聞かなかったことにします。今はある程度の情報開示は認められてますしね。フェイズシフト装甲はご存知かもしれませんが説明します。電圧の相転移転を利用した実弾兵器をほぼ無効にする堅牢な装甲、略称してP S装甲と呼ばれています」

なんかすごい装甲扱い。

なのうちの技術者は低反応

「ラミアス大尉、P S装甲は技術的には素晴らしいと思うのですが、機能的にどう節約しても稼働時間が厳しいのでは、何か画期的な動力でも」

「いえ……ええお察しの通りです。現行のバッテリー式の動力では稼働時間に不安があります」

なんでそんな欠点あるモノを試作機五機全部に？

「それに他にも問題が………実は此方の機体ですがM Sにも携帯できるビーム兵器が

装備されているのですが」

「ビーム兵器で問題？」

「ビーム兵器が問題……ああビーム兵器で機体内部の電力を使うからですね。稼働時間が更に短くなると」

「いえ、それもありますが、連合と同様にオーブでもビーム兵器は開発されてるのではないですか？」

「あーそれは」

「なんで隠そうとする感じ？」

「三佐、ビーム兵器は開発されてないのですか」

「開発されてますよ」

素直に話した。だって此方だけ情報貰うのアンフェアだし。あと態度が開発してる
と自白してる様なもんだし。……なら美人さんの好感度を上げる為に正直に話すのは
当然！

「だ、そうですが」

「良い笑顔、向けられたくない」

「えー………はい。開発されていますよ。それがどうしたんですか」

「やはりそうですか。連合でもオーブでもビーム兵器が開発されている、なら当然です

がプラントもビーム兵器を開発してるでしょう。そうすると敵のジンなどの兵装が今は実弾兵器ですが……」

「なるほど、プラントにビーム兵器を使われるとPS装甲は無用の長物になると言うことですね」

「実弾兵器が消えることはあり得ないので、完全に無用の長物には成らないとは思いますが、威力から考えて武装のメインはビーム兵器になるでしょう。ビーム兵器も多少なら防げますし、他にも利点は有るのですが、PS装甲のアドバンテージは大幅に少なくなりそうですね」

大きく溜め息をついた。

「このMSの完成前に主要武器がビーム兵器が主力になってたら、評価が悪くなりそうですね」

「しよ、三佐、空気読んでください！」

あ、はい。

「オーブではMSの装甲はどうしてるのですか」

「うちの機体の場合だと装甲で受けるより回避を重視してるので、装甲は硬さより軽量化重視です」

「当たらなければどうという事は無いって事ですか。理想的にはそれが最上ですね。：

此方の開発方針ですと、どうしても攻撃は受けてしまう前提となってしまうのですよね」

「ああ相手がコーディネーターだからですね。……あのどうしたのですか胸を押さえて、体調が優れないのですか」

「……いえ、先程から視線を感じて……」

「視線、……あ（察し）」

「三s……」

「ダメだぞ君！ラミアス大尉の胸を見てたら！」

「ふあ!? 冤罪を押し付けなくてくださいよ三佐!!」

「いやいや！チラチラ見てたの知ってるぞ！（俺も見てたし）気持ちはわかるけど謝りなさいー！」

なんで白い目で見られるのか

嘘は言っていないのに。

それから

他の機体の見学1 2 3 4

シユミレーション5 6 7 8

おや何やら不審者が09

1機体の見学、

「スミマセン、今日はもう遅いので見るのは一機だけで、どの機体を見に行きますか？」

換装機012

砲撃機34

ゲテモノ機56

隠密機78

スゴい機体が9

7隠密機

「一番オススメな機体で」

「オススメですか。えー……：そうですね。オススメと言うのではないですが、G A T I

X シリーズで最も特殊な機能を備えた機体の紹介をされてもらいます」

特殊な機能、オラなんだかワクワクすつぞ。

「此方の機体はG A T I X 007ブリッツ」

これがブリッツ、左右のバランス悪そ。装備が片方に集中し過ぎでない。欠陥機体の臭いが

「特殊な機能とは」

「ミラージュコロイド。ミラージュコロイドは端的に言えば高性能なステルス機能です。レーダーは勿論目視でも発見は困難なほどの性能なんですよ」

なん…だと……

技術者もざわめいてる

「大尉、聞き間違いでなければレーダー波どころか目視も誤魔化せるのですか？」

「はい、流石に目視ですと違和感は有りますが発見は困難ですね」

このブリッツ！…つまり擬似的に透明人間になれる機体って事じゃないか！なんと、なんと、男のロマンを体現した素晴らしい機体か!!この機体乗りたい！だれだ欠陥機とか悪いこと考えたのは！

三ターン目

はい。素晴らしい機体と出会った翌日

今日はやつぱりハイスクールかな。頼まれごともあるし。

見学継続0123

突撃ハイスクール！45678

なんか変な人らを見付けた9

2

うん、なんか技術者が三佐は見学継続してて……！なんでかハイスクール行きを阻止された！カメラを持ってただけなのに！

で、見学継続、砲撃機バスター、可変機イーゼス、換装機ストライクと……ブリッツみたいな素晴らしいの見た後だと微妙。特にイーゼスのあの形体は何を考えたのか
新型の戦艦も特徴的な外見だった。

その後は

シュミレーションをした1234

施設見学5678

不審者発見90

6 施設見学

「昨日に続きまして私がご案内します。……くれぐれも変な事はしないでください」

堅物美人さんのナタルさん、冗談言うなんて昨日より打ち解けてくれてる。

何事もなく見学終了01234

不審者発見56789

7

別に施設とか見学しても判らんしつまらないんだけどなー。連合としてはオーブに問題なく使ってるアピールしなきゃいけないんだろうけど、ん？あれは……………

「どうしました三佐」

「バジルー少尉……連合軍ってコーデイネーターは配属されてませんよね。」

「コーデイネーターですか、全く居ないと言うことは有りません」

「此処にとかは？」

「この様な秘匿が重要な区画には先ず配属されません」

「未成年を配属したりは？」

「未成年ですか。居ないと思いますが……三佐？」

まあならアレは間違いなくかな……

どうする

少尉に伝える01234

即座に捕獲567

問答無用に発砲89

5

此所は奇襲が大事！食らえ！オーブ式の捕獲術！！

（三佐の白兵戦能力は並のコーディネーターを越えている！！……並以上だと厳しい）

「なっ!？」

奇襲による捕獲は……（30以下失敗）

100、55

よし！捕獲成功！！

誰を

無実の人1

アスラン23

ディアツカ45

ニコル67

イザーク89

モブコーディネーター0

2、まさかの2

「三佐！いきなりなにをしてるんです!!」

「ほ、本当にそうですよ。なぜこんな事を」

「なぜって、君…コーディネーターだし」

組付した相手にかまをかけてみる。

「コーディネーター!?!」

「な、どうしてコーディネーターと」

よし！よかった！間違ってたなかつた！間違ってたらかッコ悪かつた！だから銃に手

を掛けるのやめてね（震え声）

「そんな（イケメン）面、コーディネーターしか有り得ないからな」

え？ナチュラルにもイケメンはいる？ソイツはコーディネーターだ。

「まあそれに未成年だろ。普通こんな所に未成年は居ない」

「……此方が間抜けだったということか……」

未成年が居たり若く見えるだけって可能性はあつたけど、挙動が少し怪しかったし、疑わしいなら捕獲して間違つてたら謝ればいいし！

「な、なぜコーディネーターが……いや、此処には民間人にコーディネーターも……」

「少尉、彼は捕獲する時に軍事訓練を受けた特有の動きをしていたから先ず民間人じゃない。ほぼ間違いなくザフトのコーディネーターだ。直ぐに上に連絡を、他にも居る可能性はある。あと彼を引き取るのに警備か保安部を呼んで」

「りよ、了解しました！」

うん、イケメンの表情が露骨に固くなってるし確実に他にも居るはこれ……

ふう

やっぱ！……ここヤバイ場所で間違いなかったでねーか!!!

第77話

はい。連合の皆さん何だか慌ただしくなってる。

まあ連合の秘匿区間に一番いちやいけない相手（プラントのコーディネーター）が居たら慌てますよね。（他人事）

私は自由よ！01234

巻き込まれた……56789

4

「少尉こんな時に部外者が居たら邪魔に成りますよね。なので此処から離れておきます」

「……………ご配慮ありがとうございます。それとスパイの捕縛も心より感謝します。事態が落ち着きましたら改めて」

「はい。では頑張ってください」

複雑そうな少尉の顔に見送られながらオーブの技術者を伴って立ち去った。いや本
当に頑張つてほしい。

「三佐、スパイの捕縛お見事でした」

「ほんと！鮮やかでしたよ！」

やったね。評判が上がったよ！しかし男しか居ない。何で、何で技術者に男しか居な
いのか!!女性の技術者もモルゲンレーテには居たのに!なんで男しか!チクシヨウ!

それはともかくスパイが見つかって安心してるな

「ヤバイのむしろ此れからなんだけどな……」

「え、なんでですか」

あ、聞かれてた。教える?別に彼等が知っても意味がない。しかし、どうせなら分か
ち合おうか、不幸を!

「スパイがなんでヘリオポリスに来てたと思う?」

「何でつてそれはザフトが此処に連合が居るなどの情報を知つてでしょう」

「イグザクトリィ……まあこんな所でコソコソ何かしてるなら軍事兵器……新造の戦艦
とかMSを開発してるなんて予想はしてる筈。それでプラントがスパイを送るだけで
済ますと思う?」

「それは、思いません」

「さ、三佐の予想では…ザフトはどうすると」

「……プラントの戦艦とかが来ててえー連合の新造戦艦にMS破壊か奪還する為にヘリオポリスへの襲撃」

「ええええ!!?」

「いやいや!此所はヘリオポリスは中立コロニーですよ!?プラントが襲撃する訳が……」

「もしプラントからオーブに連合の兵器を開発して中立を破つてるのオーブだって……
正論言われたらぐうの音もでないのに?」

「と言うかNJで地球全土にやらかしたプラントが中立を絶対に護ると思える根拠は。
「そのもし予想通りでして……襲撃が起きるとすれば、何時ごろ」

そんな事此方が知りたいわな!

「まあ…何時襲撃が起きても不思議でない」

皆の顔がブルーになった。

やったね!ヤバイと思う仲間が増えたよ!

「さ、三佐、連合にこの事は」

「ん?別に此ぐらいはスパイが見付かったなら向こうも察してるだろうし」

「そう、ですか？」

技術者なら兎も角本職の軍人さんだぞ。

プラントにボコボコにやられたけど……あれは、プラントとの戦争前は平和だったのから平和ボケな軍人がだいぶと居たそうだから仕方ない。今はそれなりに平和ボケも直って……まさか？前線でないから平和ボケなの送ったとかない？

ヘリオポリスの連合軍の全体的な危機感

(高いほど警戒感がある)。

100、33

「ザフトのスパイが見つかったと報告があつたが本当かね」

「はい、昨日来ていた件のオーブの三佐が発見捕縛をしてくれたようです」

「なに、オーブの軍人がだと？オーブの軍人なら相当短い期間しか居なかつたらう！なぜ平和ボケしているオーブの軍人が直ぐに見付けた者を我が軍の兵士が見付けられなかつたのか！」

「此処では技術者が中心ですので、スパイなどを見付けるのは……」

「まったく！技術を開発してもそれを盗まれては意味がないではないか！スパイ対策の

為の人員を派遣して貰わんといかん。他にもスパイが居る可能性があるのだから」

「スパイを捕縛した三佐も他にスパイが居る可能性を指摘していたそうです」

「その三佐、オーブの軍人などでなければ素直に称賛出来るのだがな………保安部にはスパイを探すように通達は出したのかね？」

「はい。既に出してあります」

「まだ居たとして、見つけられるかな」

「スパイが居ると思つて探せば案外簡単に見付かるかも知れませんよ。捕虜から聞き出せる情報もありますし」

「それはそれで以前は職務怠慢だったと怒らなければいけないのだが？」

連合の危機感が他のザフト兵を見つけられる確率

(33以下で発見)

100、50

何だか連合はダメな気がする!!

「三佐、これからどうしますか」

「ふむ」

これから、これから……此れからかー

スクールの技術者達と合流1234

オーブに連絡5678

金髪少女に見付かる……90

5

「オーブ本国に今回の事を伝えとこう。最悪プラントの軍が攻めてくる可能性もあるし」

「そうですね」

なんだかとても常識的な対応をした気分。

しかし自分で言うのも何だけど……発言者の評価的に無視されないか不安。

懸念はオーブに（高いほど伝わった）

100、73

73以下でオーブから援軍あり

100、35

「まさか本国が戦力も送ってくれるなんて……どうやら相当に危険だと判断してくれたようですね」

軍での評価があれだし無視されるかと思っただけどそんな事は無かった！ただし何事もなければ悪評が追加されるのかな!!（白目）

援軍まで送られて肩透かしならどんな事になるか。プラントからザフト来てるのか逆の意味で不安に成ってくるってなんだろうね！

さて次はスクールに居る技術者と合流でも、って、あ、密航してた感じの金髪娘を放置してたら不味くない？

す、スクールに行かなきゃ01234

皆に伝えて探す56789

2

ま、まあ先ずはスクールでの合流からにしよう。人手は多い方がいいし。それにそんな急がなくても直ぐに襲撃なんて起きるわけがないはず!!

スクールに行くまでに襲撃は……

まだ12345678

起きちやつた09

0

「ば、爆発音!」

「三佐の懸念が当たったのか!」

なんでだよ!!! いやなんでだよ!

なんだかスクールに行くべきと思うのにどうしていけないのか!! 気にするところはそこじゃなかった!

おー爆発が所々で起きてるって事は……

「破壊工作か、陽動か」

指揮系統が吹き飛ばされたとかだったら最悪。

「三佐の予想された連合の開発したMSの破壊か奪還を狙つての爆発!」

「一人捕まったから慌てて動いたのかなあ」

まさか偶々決行する日の前日に来たなんて事はないはずだし。まさかそんな運が悪いななんて事はないよね?……問題!! 冤罪押し付けられた人に運は有るでしょうか!!

「あー運が上がるお守りとか買おうかな」

「さ、三佐! 落ち着きすぎですよ!?! おお、俺達どうすれば良いんですか!?!」

別に君らの上官でないんだけどなあ。

年上も居るのに軍人だから指示しなきゃアカンの？

「えー！出来る事は二つ！民間人をシエルターに避難誘導をするか！それか連合と協力して動くか！」

普通にシエルターに逃げるって選択肢は言わないでおこう。金髪娘？これから大混乱になるし探して見付けるとか無理！

「何故、連合と協力を……」

「いやだつてプラントがね……あそこ見ると」

あれ何処から入ってきたんだろ？

外壁に穴とか開けてないよね○

「な!?あれはザフトのジン!?民間コロニー内にMSを侵入させたのか!」

「ほらあれ見ると……連合に協力する方がヘリオポリスの安全に繋がると思えるし」

「ヘリオポリスの安全?……連合に協力とは一体なにをするんですか」

「ザフトの狙いは十中八九連合の戦艦かMS、なら戦艦にMS積み込んでサツサと戦艦ごとヘリオポリスから退去して貰えば良い。ザフトの狙いが出ていくならヘリオポリスは安全になるはず」

連合が大人しくヘリオポリスから退去してくれるのか不安では有るけどね!外に敵

が居て籠城されたらやだなあ。

「つまり連合への協力と言うのはMSの運搬の協力ですか……」

「どちらにする？民間人を避難させる方が。連合に協力するか。危険度は言うまでも無
いけどMSに関与する方が高い。しかしヘリオポリスの安全の為に
より働けるのは後
者……」

え？誘導してる？なんの事か判らない。正直に話してるだけだもの！……本当に正
直言えばMSの中で一機だけ絶対に持つてかれたら不味そうなの有るしね。出来たら
協力して欲しい！やっぱり問答とかしてる時間は勿体無いし行こう。

「自分はちよつとMSの所に行つてくる」

MS運搬に協力01234

避難誘導56789

3

「三佐！我々も行きます！行かせてください！」

「俺達も技術者の端くれ、他人の開発したモノを奪おうなんて悪事を見過ごせませんよ
！」

「技術泥棒なんて許せませんからね！」

よし！皆立派なフレンズだね！君らのモルゲンレーテも技術情報盗んでるっぽい形跡があるけど！何も言わずに行こう！！

さて！第一目標は！勿論あの機体！

とられてたら！第二目標！！

連合が使ってる区画に入った。

混乱してて簡単に入れた。

つまりはこの爆発を起こした側もスイスイ入れる…

MS無事だろうか！？

まだ無事01234

遅かった…56789

3

あ、ある！まだある！！

よくぞ、よくぞ無事だった！

ブリッツ！！

男のロマンの体言した機能を持った機体、機能を複製されて奇襲部隊を作られたりし

たら恐い。持っていかれて無くて本当によかった。

では早速移動をさせ……

ん？

移動させる方法に悩む 0 1 2 3 4

あれは…… 5 6 7 8 9

8

誰かブリッツの近くに居る。気付いてないな。あのスーツはザフトの、つまりは敵のイケメン、射たなきや（使命感）

即座に無言で銃を構えて発砲。

外れる 1 2 3

命中 4 5 6

クリティカル 7 8 9

ご臨終 0

5

「うあ!？」

スツとライクー。。

あ、まだ動けてる。

「動きは鈍いけど銃で反撃しようとしてる。

また射たなきや（使命感）

反撃を受ける12

命中34

クリティカル5678

ご臨終09

6

「あぐあ!？」

よし！今度は仕留めた！神は！イケメンを天に召せとおっしゃってる！と、死んでない。意識は無さそう。しかしイケメンはいけ!!って、む、イケメンだけど童顔。童〇と一文字違い……まあ捕虜でいいか！

連合軍に任せたいけど……連合軍の兵士は居ないな（御遺体以外）

簡単にやれたの連合の兵士を排除して油断してたんかなあ。

「彼を嚴重に縛って見えにくい所にでも転がしといて」

後から追い付いてきた技術者に丸投げした。

「え!? わ、わかりました」

「さて、連合の人も居ないし仕方ないから、勝手にトレーラーを動かして戦艦の所まで運ぼうか……この爆発で道が通れるか判らんし、ザフト兵が狙ってるのは確実になったし。直接動かせるなら動かした方が良いかあ」

(男の) 技術者を担いでブリッツのコックピットに向かう。此処に居る技術者が女の子じゃないのが心底悔やまれる。

「三佐、コイツを動かすんですか? OSが未完成なんですよ!」

「まあOSは未完成なのはアストレイも同じだったし。動かせたら良いなあ」

コックピットに座らせて起動させる用に頼む。

「どうっ……」

「……行けそうです。起動状態には直ぐに出来そうです………いけました!」

「ありがとう。それじゃあ交代」

技術者をコックピットから出して下に降りて貰った。女の子だったら二人で乗るとかロマンがあったんだけどなあ。

操縦系統はアストレイからそんなに離れてない。なんとかいけそう。
さあ！立つのだブリッツ！

ブリッツを何れぐらい動かせる。

あまり123

普通に456

軽快に789

え……0

5

「三佐、どうですか！」

「普通に動かす分には何とか成りそう、か？」

「そうなんですか。それなりにOSは完成してたんですね」

「あー……」

ブリッツの操縦難易度（高いほど困難）

100、90

（物凄い難しい……）

「そうだね……（完成度10%ぐらい？）」

これ他のMSを技術者が動かしてとかは絶対に無理そうだなわ。

第78話

連合の皆さん何だか慌ただしくなってる。

まあ連合の秘匿区間に一番いちゃいけない相手（プラントのコーディネーター）が居たら慌てますよね。（他人事）

何処かに連絡してる少尉さんに伝えとこう。

「少尉こんな時に部外者が居たら邪魔に成りますよね。なので此処から離れておきます」

「……………ご配慮ありがとうございます。それとスパイの捕縛も心より感謝します。事態が落ち着きましたら改めて」

「はい。では頑張ってください」

複雑そうな少尉の顔に見送られながらオーブの技術者を伴って立ち去った。本当に頑張ってほしい。

「三佐、スパイの捕縛お見事でした」

「ほんと！鮮やかでしたよ！」

やったね。評判が上がったよ！しかし男しか居ない。何で、何で技術者に男しか居ないのか!!女性の技術者もモルゲンレーテには居たのに!なんで男しか!チクシヨウ!

それはともかくスパイが見つかって安心してるな!

「ヤバイのむしろ此れからなんだけどな……」

「え、なんでですか」

あ、聞かれてた。教える?別に彼等が知っても意味がない。しかし、どうせなら分かち合おう不幸を!

「スパイがなんでヘリオポリスに来てたと思う?」

「何でってそれはザフトが此処に連合が居るなどの情報を知ってでしょう」

「イグザクトリィ……まあこんな所でコソコソ何かしてるなら軍事兵器……新造の戦艦とかMSを開発してるなんて予想はしてる筈。それでプラントがスパイを送るだけで済ますと思う?」

「それは、思いません」

「さ、三佐の予想では……ザフトはどうすると」

「……プラントの戦艦とかが来ててえ——連合の新造戦艦にMS破壊か奪還する為にヘリオポリスへの襲撃」

「ええええ!!?」

「いやいや! 此所はヘリオポリスは中立コロニーですよ!? プラントが襲撃する訳が……」

「もしプラントからオーブに連合の兵器を開発して中立を破ってるのオーブだって……
正論言われたらぐうの音もでないの?」

と言うかNJで地球全土にやらかしたプラントが中立を絶対に護ると思える根拠は。

「そ、その、もし予想通りでして……襲撃が起きるとすれば、何時ごろ」

そんな事此方が知りたいわな!

「まあ……何時襲撃が起きても不思議でない」

皆の顔がブルーになった。

やったね! ヤバイと思う仲間が増えたよ!

「さ、三佐、連合にこの事は」

「ん? 別に此ぐらいはスパイが見付かったなら向こうも察してるだろうし」

「そう、ですか?」

技術者なら兎も角本職の軍人さんだぞ。

プラントにボコボコにやられたけど……あれは、プラントとの戦争前は平和だったのから平和ボケな軍人がだいぶと居たそうだから仕方ない。今はそれなりに平和ボケも

直つて……まさか？前線でないから平和ボケなの送ったとかない？

「ザフトのスパイが見付かったと報告があつたが本当かね」

「はい、昨日来ていた件のオーブの三佐が発見捕縛をしてくれたようです」

「なに、オーブの軍人がだと？オーブの軍人なら相当短い期間しか居なかつたらう！なぜ平和ボケしているオーブの軍人が直ぐに見付けた者を我が軍の兵士が見付けられなかつたのか！」

「此処では技術者が中心ですので、スパイなどを見付けるのは……」

「まったく！技術を開発してもそれを盗まれては意味がないではないか！スパイ対策の為の人員を派遣して貰わんといかん……他にもスパイが居る可能性があると思うか？」

「あり得ると思います。それとスパイを捕縛した三佐も他にスパイが居る可能性を指摘していたそうです」

「その三佐、オーブの軍人などでなければ素直に称賛出来るのだが………保安部にはスパイを探すように通達は出したのかね？」

「はい。既に出してあります」

「まだ居たとして、見つけられるかな」

「スパイが居ると思って探せば案外簡単に見付かるかも知れませんよ。捕虜から聞き出せる情報もありますし」

「それはそれで以前は職務怠慢だったと怒らなければいけないのだが？」

『スパイが発見された事で一部危機感を持った者は居たが、ヘリオポリス連合軍全体では大きな危機感をもたれなかった。そんな薄い危機感の中で保安部は要請されたので一応他のスパイを探したが、他のスパイは見つからなかった』

何だか連合はダメな気がする!!

「三佐、これからどうしますか」

「ふむ」

「これから……此れからか」

「本国に今回の事を伝えとこう。最悪プラントの軍が攻めてくる可能性もあるし」「そうですね」

なんだかとても常識的な対応をした気分。

しかし自分で言うのも何だけど……発言者の評価的に無視されないか不安。

連絡したあと

「まさか本国が戦力も送ってくれるなんて……どうやら相当に危険だと判断してくれたようですね」

軍での評価があれだし無視されるかと思っただけどそんな事は無かった！ただし何事もなければ悪評が追加されるのかな!!（白目）

援軍まで送られて肩透かしならどんな事になるかこえーよ。プラントからザフト来てるのか逆の意味で不安に成ってくるってなんだろうねえ。

さて次はスクールに居る技術者と合流でも、って、あ、密航してた感じの金髪娘を放置してたら不味くない？

まあ先ずはスクールでの合流からしよう。人手は多い方がいいし。それにそんな急がなくても直ぐに襲撃なんて起きるわけがないはず!!

「ば、爆発音!」

「三佐の懸念が当たったのか!」

なんでだよ!!!いやなんでだよ!なんだかスクールに行くべきと思うのにどうしていけないのか!!気にするところはそこじゃなかった!

おー爆発が所々で起きてるって事は……

「破壊工作か、陽動か」

指揮系統が吹き飛ばされたとかだったら最悪だわー。

「三佐の予想された連合の開発したMSの破壊か奪還を狙っての爆発!」

「一人捕まったから慌てて動いたのかなあ」

まさか偶々決行する日の前日に来たなんて事はないはずだし。まさかそんな運が悪いななんて事はないよね?……問題!!冤罪押し付けられて家から絶縁状態な人に運は有るでしょうか!!

「あー運が上がるお守りとか買おうかな」

「さ、三佐!落ち着きすぎですよ!?!おお、俺達どうすれば良いんですか!?!」

別に君らの上官でないんだけどなあ。

年上も居るのに軍人だから指示しなきゃアカンの?

「えー出来る事は二つ!民間人をシエルターに避難誘導をするか!それか連合と協力して動くか!」

普通にシエルターに逃げるって選択肢は言わないでおこう。金髪娘？これから大混乱になるし探して見付けるとか無理！きつとシエルターに入ってるよ！（願望）

「何故、連合と協力を……」

「いやだつてプラントがね……あそこ見ると」

あれ何処から入ってきたんだろ？

外壁に穴とか開けてないよね（〇）

「な!?あれはザフトのジン!?民間コロニー内にMSを侵入させたのか!」

「ほらあれ見ると……連合に協力する方がヘリオポリスの安全に繋がると思えるし」

「ヘリオポリスの安全?……連合に協力とは一体なにをするんですか」

「ザフトの狙いは十中八九連合の戦艦かMS、なら戦艦にMS積み込んでサッサと戦艦ごとヘリオポリスから退去して貰えば良い。ザフトの狙いが出ていくならヘリオポリスは安全になるはず」

連合が大人しくヘリオポリスから退去してくれるのか不安では有るけどね!外に敵が居て籠城されたらやだなあ。

「つまり連合への協力と言うのはMSの運搬の協力ですか……」

「どちらにする?民間人を避難させる方か。連合に協力するか。危険度は言うまでも無いけどMSに関与する方が高い。しかしヘリオポリスの安全の為に働けるのは後

者……」

え？誘導してる？なんの事か判らない。正直に話してるだけだもの！……本当に正直言えばMSの中で一機だけ絶対に持つてかれたら不味そうなの有るしね。出来たら協力して欲しい！やっぱり問答とかしてる時間は勿体無いし行こう。

「自分はちよつとMSの所に行つてくる」

「あ、三佐！我々も行きます！行かせてください！」

「そ、そうですね!!俺達も技術者の端くれ、他人の開発したモノを奪おうなんて悪事を見過ごせませんよ！」

「技術泥棒なんて許せません！」

よし！皆立派なフレンズだね！君らのモルゲンレーテも技術情報盗んでるっぽい形跡があるけど！何も言わずに行こう!!

さて！第一目標は！勿論あの機体！

とられてたら！第二目標!!

連合が使つてる区画に入った。

混乱してて簡単に入れた。

つまりはこの爆発を起こした側もスイスイ入れる…

あのMS無事だろうか!?

あ、ある！まだある！！

よくぞ、よくぞ無事だった！

ブリッツ！！

男のロマンの体言した機能を持った機体、機能を複製されて奇襲部隊を作られたりしたら恐い。持っていかれて無くて本当によかった。

では早速移動をさせ……

ん？

誰かブリッツの近くに居る。気付いてないな。あのスーツはザフトの、つまりは敵のイケメン、射たなきや（使命感）

即座に無言で銃を構えて発砲。

「うあ!？」

スツとライクー。

あ、まだ動ける。

動きは鈍いけど銃で反撃しようとしてる。

また射たなきや（使命感）

「あぐあ!？」

よし！今度は仕留めた！神は！イケメンを天に召せとおっしゃってる！と、死んでな

い。意識は無さそう。しかしイケメンはいけ!! って、む、イケメンだけど童顔。童〇と一字違い……まあ捕虜でいいか!

連合軍に任せたいけど……連合軍の兵士は居ないな（御遺体以外）

簡単にやれたの連合の兵士を排除して油断してたんかなあ。

「彼を嚴重に縛って見えにくい所にでも転がしといて」

後から追い付いてきた技術者に丸投げした。

「え!? わ、わかりました」

「さて、連合の人も居ないし仕方ないから、勝手にトレーラーを動かして戦艦の所まで運ぼうか……この爆発で道が通れるか判らんし、ザフト兵が狙ってるのは確実になったし。直接動かせるなら動かしの方が良いかあ」

（男の）技術者を担いでブリッツのコックピットに向かう。此処に居る技術者が女の子じゃないのが心底悔やまれる。

「三佐、コイツを動かすんですか？ OSが未完成なんですよ!」

「まあOSは未完成なのはアストレイも同じだったし。動かせたら良いなあ」

コックピットに座らせて起動させる用に頼む。

「どつー」

「……行けそうです。起動状態には直ぐに出来そうです………いけました!」

「ありがとう。それじゃあ交代」

技術者をコックピットから出して下に降りて貰った。女の子だったら二人で乗るとかロマンがあつたんだけどなあ。

操縦系統はアストレイからそんなに離れてない。なんとかいけそう。

さあ！立つのだブリッツ！

「三佐、どうですか！」

「普通に動かす分には何とか成りそう、か？」

「そうなんですか。それなりにOSは完成してたんですね」

「あー……：……そうだね……：（完成度10%ぐらい？）」

これ他のMSを技術者が動かしてとかは絶対に無理そうだわ。

シャアさん

気付くと彼は人類が宇宙に進出している未来に生まれ変わっていた。彼の二度めの人生の生まれは最悪、ようやく最悪な環境から抜け出して初めて世間を見て、生まれだけでなく世界も最悪かと思わされた。

月に人が住み、宇宙船もあり、極めつけに宇宙に浮かぶコロニーなんてモノに人が住んでいる。彼は何となくガンダム世界に転生したのかと思ったからだ。知らないガンダム作品だろうと思った。

知らない作品なのにガンダムと何となく思った理由は、まずナチュラルやコーディネーター。

ガンダムで言えばオールドタイプとニュータイプ、いやスペースノイドとアースノイドの関係に似ている。

大雑把に言えばナチュラルは普通の人になる。コーディネーターは産まれる前に遺伝子に細工された改造人間、強化人間か。ガンダムで強化人間と言えば戦争で倫理観が欠落していた時に産み出された産物。この世界でも遺伝子改造は倫理的にダメだとい

う認識がある。なのにコーディネーター（強化人間）は……トチ狂ってるのか数千万人は居る。そしてナチュラル、コーディネーター、当然な事に両者の関係は悪い。

致命的に関係が悪化した原因と知られてるのはある時期に猛威を奮った新種のウイルス性風邪。多くの被害が出たが、この風邪に対してコーディネーターがワクチンを完成させ……お互いの関係は最悪となった。

このウイルス風邪、コーディネーターが発症しなかったそう。コーディネーターは病気に対して抵抗力が強いと納得できる。しかし病気に強いから必要もなく医療はコーディネーターが遅れている分野だった。なのにワクチンの開発には真っ先に成功……。

作れたのはコーディネーターが優秀だから？

そう言う認識は持たれなかった。

何で遅れてる分野でいきなり成果を出せたのか。自分達が造ったからワクチンも直ぐに出来たと疑惑を持たれた。元から人工的なウイルスだという疑いもあり、ナチュラルからすればコーディネーターに助けられたでなく攻撃されたという認識になる。コーディネーターからすれば助けたのに恩知らずとなった。

対立が致命的となったのか、多くのコーディネーターはナチュラルと離れるためか宇宙の工場コロニー郡、プラントに移り住む。プラントは多数の国が資金を出しあつて

コーディネーターが建造。当然だが持ち主は資金を提供した国で、プラントのコーディネーターはただの住み込みの労働者か従業員か……従業員、コーディネーターは反乱を起こしてプラントを乗っ取った。

当然ながら乗っ取りの鎮圧が行われる事になる。プラントの本来の持ち主の国との戦争が勃発。この戦争の情報から彼はやっぱりガンダム世界と確信させられた。

MS（モビルスーツ）

ガンダムの主力兵器の代名詞

プラントが戦争にMSを出した。

MSだけでもガンダムと確信できたが、さらに言えば謎粒子のミノフスキの代わりになりそうなジャマー。数が勝る連合相手にMS無双。連合が連邦、プラントがジオン擬きという認識ができた。

彼は認識すると地球には絶対に行かないと決めた。

ジオン擬きならコロニー落としでもすると思っただからだ。コロニー落としはしなかった。しかしある意味でもっと質が悪いことをした……ニュートロンジャマー（NJ）

電波か粒子で誘導兵器や核関連のエネルギーを阻害する装置。兵器をダメにするだけでなく、この世界の地球では核融合は自動車に核融合動力を使うぐらいメジャーなエネルギー。コーディネーターにしても狂気的な世界過ぎないだろうか。

もしも、そんな核動力が主体の地球上に、核分裂を阻害するNJなんてモノを地球に投下すれば：子供でもどうなるかわかる。わかる筈なのに、NJが投下された。

血のバレンタインという核攻撃への報復らしい。どんな拡散機能なのか地球全土がNJの影響下。地下に埋没したNJの装置を取り除くのは困難。装置の動力とかどうなってるのか拡散が止まらない。地球全土で何時まで続くかわからない主要エネルギーの喪失に陥った。

発展した文明ではエネルギーは血液、NJ投下後は人体で言えば心臓が止まり血液が止まった状態。地球のエネルギー事情は破滅、経済の混乱、物流が止まり食料不足で餓死発生、医療機関の麻痺、オマケにレーダーも駄目になり民間旅客機は多数墜落。それが地球全土、特に敵でもなかった国も巻き込み地上に住んでたコージェイネーターも巻き込んだ。経済的な損失は莫大、死者も何億人というレベル。プラントの数千万人の為に世界人口の何割かの人間が死んだ。元の世界に例えると、アメリカと戦争するのに無差別に総ての国に核を撃ち込んだような事をした。

世界人口の何割かを殺し経済の建て直しは何れだけ掛かるか。滅んだ国が無いとも思えない。プラントは当然だが地上の総ての国から憎悪されないと可笑しい。

因みにプラント的に人道的な報復らしい……

中立になる国は多数あり、国益が目的かプラント側に立つ国によりプラントに食料などの輸出もあるが、心情的な意味での友好国がいるわけがない。物資の交流はあってもプラント側の兵士に成ろうなんて人間は居ないだろう。プラントの戦力は増えない。そんなプラントがどう考えてもレッドラインな戦争から凡そ一年、戦争はプラント側が押している形で続いている。その一年で彼は戦争に巻き込まれたりはしなかった。

彼が居るのはオーブの資源衛星ヘリオポリス。オーブは中立を宣言している。此までは周りは戦争だが平和そのもの：危機感はわりかし感じていた。

中立だが、地上の全てに影響するニュートロンジャマーをぶちこんだ、ガンダムのジオンに思えるプラント相手、中立コロニーにいても安心安全なんて思えるわけも無い。もしもの時はトンズラしよう決めていた。

逃げようと思えば逃げられる身軽さがある。

彼の職業はジャンク屋、宇宙に漂うジャンク回収、盗掘と同じ様なアウトローな商売、彼としては不安定な職は嫌だったが、産まれに問題が有りマトモな職業には着けなかった。

他に軍人にも成れるチャンスはあったが、今は身軽な立場で良かったと彼は思う。

彼は二度目の人生を楽しみたい。

楽しむ趣味として今はMSを作る事が目標としている、ガンダム世界とえばMSだと思つてプラントがMSを使う前から造ろうとしていた。

ヘリオポリスの宇宙港、資源コロニーだけあり船の出入りが多い。行き来する多数の船、一隻の輸送艦が入つてきた。輸送艦だが船体には会社のロゴがない。個人の所有物の船。船から二人の男が出てきた。

片方はこの世界に転生した彼、ジャンク屋をしながらMSが戦争の主力のこんな御時世にも、お気楽な趣味でMSを作ろうと世間の空気ガン無視……見掛けから内面の変人さがよくわかる。

もう片方は

「ドレン、機体の方には問題はなかったのか？」

そこら辺に居そうな特に特徴のない小太りの男性、名は……ラルフ・タマル。日系人の血を引くジャンク屋の技術者、MS開発の一番の協力者でありメカニック全般の担当。常識人にみえる。

ラルフは人型のメカの画像が映つた端末を見ながら話した。

「だからラルフですつてば。機体の状態ですが、前よりはマシですが……貴方の操縦は無

茶なんですよ。ガタが少し出てます………そもそも貴方の操縦にはついていけてませんが、もう性能向上を目指すのは良いのでは？私達が理想とする子（MS）はある程度動ければ高い性能なんて必要ないですよ」

「折角理想のMSを造るのに中身がポンコツというのも嫌だろう？」

「いえ私の理想としてはポンコツな子でも良んですが……大体今の段階でもポンコツとは言えませんが」

「ポンコツでもいいのか……、なら……優等生タイプとポンコツの二つを造るとすればどうだね？」

「そう来ましたか………今の子がポンコツとなる優等生の子を新しく造るんですか」

「いや……そうでなくてね……ポンコツとしても簡単には壊れない機体にはしたいだろう？」

「貴方の操縦が乱暴なんですよ……と、言いたいですが、丈夫な子にはしたいです………怪我をしない様にしないとダメですよ………装甲の素材を……いや我々の理想とする機体の素材ではどうしても今よりも脆い素材になるか………そうなると運動性の向上……」

ラルフは端末を操作しながらブツブツとなかを考え出した。それにしても………会話の内容がMSのド素人でも可笑しいと思える発言ばかりだった。

「まあここで考えるよりも教授の所に相談に行こうか」

「そうです…ね…え、貴方も行くんですか…別に私だけでもいいんですが…いえ着いてくるのは良いんですが…」

何か言いたげに彼の服装を見た。

言葉に出して無いだけで服装が問題だとあからさまに態度にだしている。

「ん？何か問題か」

彼はラルフの言いたいことは察しているのにそういった。

「…いえ何でもありません」

ラルフは頭が痛いと言いたげに顔を振るが彼は気にしない。港から出てラルフと共にヘリオポリスにいるMSのOS等で関わっている教授の居るガレッジに向かった。

学校がある所で当然ながら学生達がいる。彼は「特異な外見」で学生たちに注目されるが特に気にせず歩く。学生達は彼から離れるように歩いている。ラルフも彼から離れて歩いていった。もし通報されても知り合いではないと言うつもりだ。

「うわあ…(なにあの格好)」

「(は、離れましょうよ)」

学生の集団がまた前から来た。学生たちは他と同じ様に彼を見て他の学生達のように関わらないように避けようとするが…学生の集団の中に彼の知り合いがいた。

「あ、ドレンさん」

「「(?!)」」

ラルフに学生達のなかにいた一人の少年が自分から近づく、友人たちは驚いている。腐女子に人気そうな声と外見。声を掛けられたのはラルフ。少年は彼とも知り合い：人知れず自分の名前が呼ばれてない事も気にしている。格好があれなのにわりとメンタルが弱かった。

「ドレンでなくラルフですよキラくん」
か

「それよりどうでしたテスト」

「それより…まあ新しいOSのお陰でテストは良好でしたよ。機体に掛かる負荷が二割ほど減りました…：ですがまだガタが」

「そうですか…」

「き、キラ知り合いなのか」

学生の集団の中で何となく幸が薄そうな眼鏡の男子がキラに訊ねる。ラルフでなく彼を見て、知り合いの前に（こんなのと）と言う副音声が入ってきた。そんな副音声が聞こえた気がしたラルフは気のせいとは思わなかった。

「う、うん、教授から紹介されて最近知り合った人たちで…その…：ちよつと特殊なモノ

を造っててボクも協力をしてるんだ」

「教授から紹介……？」

「協力って、キラ何か危ない事をしてない!？」

「み、ミリアリア失礼だよ」

少女は彼を睨み気味。協力していると聞いて即危ないと何で思うのか。

「あはは危なくなんて、うーん、危な……い……のかな？」

危ないと言う言葉は否定が出来ない様子。

「え、キラ、ヤバイのか？」

「キラに何の協力をさせてるんですか!」

キラの曖昧な返答に少女がラルフでなく彼に問い詰めてきた。

「いや、危なくないよ。ただMS開発のOSで協力をして貰ってるだけだ」

「え、MS開発？」

学生組はお互いに顔を見合わせた。

「あの、MS、MSってプラントが戦争で使ってる奴……ですよね？」

「ぐ、軍の人なんですか。キラに兵器の開発をさせてるんですか!？」

MSは今まさに戦争の兵器として使われてる兵器、そんなMSの開発と考えれば、学

生組は友人が兵器開発に協力してるのかと慌てた。

「はは、私は軍に関係の無い民間人だ。造っているMSを兵器にするつもりもない」

「…本当ですか。本当は軍の人なんでは…それ…軍服のような感じが…」

ミリアリアは彼の服装をみてそう言った。

彼の格好は紛れもなくガンダム世界のある軍人の格好（コスプレ）…彼は軍人だと認識されるのも仕方ないと思った。どう弁明しようか悩んだ。

ラルフは笑いながらフォローした。

「いやいや、君、確かに軍服にはみえるけど、こんな可笑しな格好をした軍人さんが居るわけないでしょう」

そのラルフの発言に彼の格好を改めて直視した。軍服にも見える服装の色合いに、彼の被った頭の特徴的なヘルム。

「た…たしかに軍の人なら格好がそんな事には成りませんね…疑ってごめんなさい」
「俺もごめんなさい。どう考えても軍人じゃないですね」

どうやら学生たちは彼が軍人ではないことは全員が素直に信じられたようだ。

彼はラルフを見ている。

ラルフは視線を逸らした。

彼としては不本意にも軍人で無いと納得された。

「あの軍人でないなら貴方たちは？」

「ただのジャンク屋だよ」

「同じくジャンク屋に所属してるメカニックです」

「ジャンク屋ですか…」

声色的にあまり良い印象がないようだ。元から知ってたキラ以外の他の学生は似たり寄つたりのあまりいい顔をしてない。ジャンク屋をアウトローな職業かゴミ拾いと蔑んでるのか。それか今のジャンク品は戦争で出た残骸だからか。学生のそんな様子に二人とも不快そうな様子は見せなかった。

「あのジャンク屋の人が何でMSを…」

「あ、ジャンク品を集めるときの作業用ですか？プラントも確か最初は作業用って事にしてたし」

「観賞用だよ」

「は?!」

ラルフとキラ以外の全員がなについてんだこいつみたいな視線を向けた。

「え、観賞用って…まさか…人形、フィギュアみたいなかんじですか?」

「そうだね」

「作業用とかでなくて!?!」

「そうだよ」

「ち、小さいサイズのMSを作るんですか」

「いやプラントのMSと同じサイズのだよ」

性能は不明だが今まさに使われてる現役の最新兵器を観賞用？まだ兵器として作ると言われた方が安心できた。嘘をついてると思えない。

MSを観賞用に作るなんて格好から察せる通り相当……趣味の世界の広さに学生たちは戦慄した。

「け、けどMSって……軍事兵器扱いですし貴方が観賞用で戦闘に使うつもりがなくても造るの不味くないですか」

「MSなんて造ってたら国に無理矢理に奪われるって事があつたりしません」

学生達はジャンク屋の二人を心配してるのか、それか観賞用のMSという意味不明な存在の誕生を阻止しようとしているのか。

「多分大丈夫だろう。それとジャンク品で個人で造るMSを国が盗ろうとかなないよ。今のところは外見が少し違うだけのプラントの機体をリペアしただけのMSだしね」

「……………」

機体に関与しているキラが何か言いたげだ。

「何かなキラくん」

「いえ……なんでもありません。話を戻しますが新しいOSですが、アレ大丈夫だったんで

すか」

「まったく大丈夫だったよ。もう少しキツめの設定でも良いかな」

「まったく…もつとですか…あのドレンさん、本当に大丈夫だったんですか。ガタが来るまで動かしただけですが、体とか」

「ラルフです。…今はテスト後から一時間も経ってませんが、彼に肉体的なダメージとかが有るように見えます?」

キラは複雑そうな顔で聞いた。

「この人ってナチュラルなんですよね……」

「…一応ナチュラルなんですよ」

学生たちは何なのか判らないが、少なくとも服装はナチュラルでは無いと思った。グループでリーダー扱い少年が時計を見て慌てた表情を見せた。

「キラ、時間」

「え、あ、もう時間か」

「スミマセン、予定があるのでこれで失礼しますね」

「此方こそ足止めしてすみません。ああキラくん、テスト結果はキラくんのPCに送っておきます」

「解りましたドレンさん。此方もパターンを変えたOSのデータを送ったので確認して

見てください」

「ええわかりました。ではまた今度…あとラルフです。なんで二人は頑なにドレンとしようとするんです」

特に波乱もなく彼等と別れる。別れた後の学生組み。話題は先程会ったあれしかない。共通して聞きたいことがあったが友人の知り合いという事で皆が言葉に困っていた。

脳裏にずっと先ほど去っていった…軍服にも見える赤い服にヘルムを被った人物が離れない。

「え、えーと、話した感じ悪い人じゃない感じだったわね…その二人とも」

「一人は…普通ほい人だったけど、いや普通ほいから際立つてたと言うのか」

遠回しに何かをキラに伝えようとするが…キラが理解してないのか答えてくれない。

「もう片方はなんとというか…随分と特徴的な格好の人だったわよね。キラどうしてあんな格好なのか聞いてない」

もう仕方なくミリアリアが突っ込んだ。

「趣味らしいよ」

キラは端的に答えた。

「趣味なの……」

「うん」

「……趣味……そうなんだ!!」

趣味なら何にも言えない。

MSを観賞用に造ろうとしてる辺りも含めて本当にあれな人なんだなと思った。

「買ったのか自分で作ったのかちよつと聞きたかったな」

「ぶふっ!!自分でって」

自分でつくったという発言に何人か吹いた。

彼が裁縫してる光景でも浮かんだのか。

「ふふふ……もう」

「そ、そういうやなんで誰も本人に格好について聞かなかつたんだよ」

「ツールも聞いてないから同じだろ」

「そういうやあの人の名前もきいてなかつた!」

「片方はドレンさんだろうけどもう片方は?」

「あの人の名前はシャアさんって言うんだよ」

彼はシャア・アズナブルと名乗っていた。

偽名である。

それから数時間後、教授と会ってから船に帰りシャアと名乗る赤い人はラルフと宇宙に出た輸送船の中。OSを新しくした。

「新しいOSはどんなものか。では二回目のテスト飛行に行かせてもらおう」

「早速試したいんですか…まあ今回はジャンクヤ品集めもしてください。船を出しますよ」

赤い人の船はヘリオポリスを出て宇宙の岩礁地帯に来ていた。何かの残骸も漂っていた。

『着きました。気をつけてくださいよ』

「ドレン、ハッチを開けてくれ」

『ラルフです。わかりました。また酷くピーキーな仕様なので壊さないでくださいよ。』

「ナチュラル詐欺な貴方には無用な心配かもしれませんが…ハッチ開きます」

「酷い言われようだ。では出る」

ジンを改造した赤い機体と共にシャア（偽名）は宇宙（そら）に出た。

爆発の光り

飛び交う銃弾にミサイル。

宇宙は音の伝わらない無音の世界だが、機械が再現した戦場の音が鳴り響いていた。そこはヘリオポリス近郊。

中立であり本来この宙域に居る筈のない連合、そしてプラントの建前として自警団、実質軍隊のザフトが戦闘を行っていた。

押しているのはザフト

連合艦にザフト艦。艦の性能はそれほど大きな差はないと思われるが、問題は艦載機。ザフトは人型兵器のMSジン、連合は戦闘機メビウス。

メビウス5機にジン一機が対等と言われる戦力比、メビウスはザフトのMSに対して一方的に撃墜されていた。

メビウスと言う護衛機もほぼ無くなり連合艦は無防備に撃沈され始めている。もう少しでザフトの勝ちが決まる戦況。ザフト側のレーダーに戦域に近づく新たな反応があった。

「此方に所属不明な機体が近付いて来てます」

正体不明の反応が近づいているという報告だが緊張感は薄かった。

「連合か？民間船なら近付くなど伝えろ」

「いえ民間船ではないようです。MSの様な反応なのですが…ザフトのMS反応ではあ

りません……」

「ヘリオポリスで開発してたという噂の連合のMSか？ 潜入部隊の奪取が成功したのではないか」

「奪取した機体だとすれば味方識別反応を出すと思うのですが」

「…反応は何機なんだ」

「一機だけです」

「…連合兵が乗ってるとして、単機で突攻でもしに来たのか？ 本当に反応は一機だけなのか……」

「はい、あの、それと速度が可笑しいんです」

「可笑的い？ どう可笑的いんだ」

「ジンのおよそ三倍ほどの移動速度が出ています」

「三倍!? それを真っ先に言え！…本当にそれはMSなのか。モニターにうつせないか？」

「少しお待ち下さい。モニターに出します」

「移動光…あれだな」

「赤い物が移動してる様に見えます」

「たしかに赤いな」

「真つ赤なMS……赤い彗星にも見える」

「あの、艦に真つ直ぐに向かっているのですが……」

「つと！何をボサツとしている！ジンを出せ。あの機体を止めろ！」

後世で赤い彗星と呼ばれる逸話は此処が始まりだった。

第80話

迷彩を一切考えてない赤い機体がコロニー郊外で飛行している。後で回収するジャンクを物色しながら赤い機体は曲芸飛行もやったりと快調にテストを続けていたが……動きを止めていた。

ジツと何処かを見てる様に見えた。

『どうしましたトラブルですか』

輸送船にいたラルフは通信で聞いた。

「いや気のせい……ではないか。ドレン、ヘリオポリスから南西方向に爆発光が見える」

『ラルフですって、南西、……ああ、随分盛大に光ってますね。何でしょうか複数の船舶の事故ですかね。まさか海賊？』

暫く様子を見ていると爆発の光が少なくなっていた。

「……………確認しに行ってくる。その船だと危険かもしれない君はここで待機しててくれ」

『了解。海賊かもしれないかもしれませんがあまり無茶をしないで下さいよ』

「此方も了解した」

事故があつた方向に進む。流れてきたデブリを蹴つて加速してデブリの間を潜るように爆発が見えた所に向かう赤い機体。

『無茶をするなど言ったのに……』

蹴るものが多くて加速ははかどる。普通はデブリが多いと減速するものだがむしろ加速するという変態。普通なら自殺行為だとラルフは見送りながら愚痴つた。

『ほんとなんであんなデブリの中で加速出来るんでしょうね……』

ラルフは新しく流れてくるデブリの塊の一団を見つけた。

『流れて来る方向的にさっきの爆発光のですかね』

デブリを拡大してモニターに映した。

『このデブリ……』

モニターに映し出されたデブリは…戦艦や戦闘機。デブリが連合の兵器らしき残骸ばかり、なら此は事故でも海賊でもなく…ラルフは汗を掻いた。

ラルフが通信を入れる前に赤い機体から通信が届いた。

「ラルフ、どうやら連合とザフトほ戦闘が行われてるようだ」

『やはりですか!? 何でこんな所で…いえ! そんな考えてる場合でも無いですね! そちらは大丈夫ですか』

「大丈夫かと言えば…大丈夫じゃないな」

『え、』

通信が行われてる頃、赤い機体から見てとある艦が目視できる距離に居た。

その艦が砲門がありその外観はどう見ても軍艦、ザフトの戦艦か。MSで目視できるなら向こうも確実に気付いている。迷彩とは無縁の赤い機体で気付かれないわけがない。逃げようとした。

逃げる前に戦艦からMSが出てきた。

向こうは武装していて逃げたら射つて来そうだと逃げれない。

『そのMS所属はどこだ！』

戦艦から通信が来た。

所属…さて問題、此処で民間人だと通信をして納得してもらえるか。客観的に見て… MSは最新の軍用機と言う認識がある、そんなMSが一直線に戦艦に向かっていた。民間人と名乗ってもふざげけんなど弾丸が飛んで来るだろう。どう返答しようか考えた。

しかし返答を考える時間も無かった。

『あれが噂の連合の機体か？悪趣味な色除いたら殆んどジンの模造品じゃないか！ふざけやがって！』

ジンのパイロットから見た赤い機体。ザフトはヘリオポリスで連合がMS開発され

ていると聞いて来ていた。奪取しに来ているが味方の識別反応がない。通信にも答えがない。此処から導き出される答えは……敵以外にある筈がない。

『ナチュラルがMSなんて生意気なんだよ！真つ赤な機体で正面からつて舐めてるのか！』

さらに良く見ると武装が一つも有るようにも見えない。

『武装も無しに真つ直ぐ来るなんてバカだろ』

武装が完成してない？それか格闘機……格闘機だろうと隠した武器が有ろうと近付かなければ良い。味方の筈もないとジンのライフルが射たれる。

『なー！』

当たらなかつた

まるで予め射撃すると判っていたかのようにライフルの発射直前に赤い機体が動いた。弾丸は虚しく宇宙に消えていく。

『くそ運のいいやつ』

此方の考えがわかかっていなければ不可能、偶然だと思えば標準を定めて射撃を繰り返す。まるで当たらない。

『な、なんだこいつ！』

動きがザフトエースの赤服に匹敵、上回るような操縦技術がある。その操縦技術にプ

ラスして此方の意図を察した様に直前に動き射撃をかわしていく。ジンのパイロットはゴクリと唾を飲んだ。操縦技術がナチュラルじゃない。コーディネーターとも何か違う。寒気を感じた。

『落ちろ！落ちろよ！』

射撃を繰り返した。

弾切れ、予備の弾倉に変えようとした

しかし弾倉の予備が無い。

『く、さっきの連合の戦闘で予備を使っただった』

後はサーベルしかない。得体の知れない相手に接近したくはない。補給をするか援軍を待ちたい。しかし背後には母艦がある。母艦にこれ以上近付けさせる訳にもいかない

『あ、相手は避けるのが上手いだけだ！接近戦なら!!』

明らかに余裕が無い様相でジンはライフルを捨ててサーベルを持って切り込んで行く。赤い機体も合わせるように向かってきた。

瞬く間に距離は間近となる。ぶつからないように速度を緩めるか方向を変えるか。ジンのパイロットは避けない。相手も速度を緩めたり方向を変えたりしない。ジンのパイロットからして想定外。操縦技術が高い相手なら避けると想定していた。まさか

向かってくるなんて

『こ、このままだとぶつかる!』

衝突する!と腕を盾にする様にジンは身構える。いつの間にか赤い機体の姿勢か足を突きだした形になっていた。

『MSで蹴、ぐふああ!!?』

赤い機体の足はジンの腕ごと胴体、コックピットを蹴りつけた。数十トンのMSの勢いをつけた蹴り、幾らコーディネーターと言えどこの衝撃は堪らなかつた。コックピットに攻撃されて無事で居られるのは一種の化け物だ。

向こうは動く気配がない。

パイロットは気絶したようだ。

「気絶してるな。コーディネーターも天パの様な化物ではないのか…」

中の人の独り言、ジンのパイロットからすれば、お前が化け物だろと言われそうな台詞を吐いた。

「止まったのに攻撃されたから正当防衛と思うんだが…向こうが正当防衛にしてくれないか。逃げるしか無い…ん?」

意識を失いジンは蹴られた勢いのまま元来た逆方向に流されている。ジンは母艦の盾になる様に動いていた。ジンの背後には母艦、ジンが元来た方向に流される。艦は動

いている。致命的に運が悪くないと先ず当たらない筈だが……

『――機！聞こえないのか！動け！本艦とぶつかる！急いで回避運動をとれ！！ぶつか、うわああああ!!』

艦のブリッジがある部分とガスツと衝突した。

まるでコントの様な見事な衝突。

戦艦が大破した感じだ。

MSI撃退、戦艦I大破：見事な戦果か。赤い機体は機体を反転させ戻っていく。

「不幸な事故だった」

悪質な轢き逃げの様な台詞をはいた。

シヤアはラルフの居る輸送船の方に向かう。

ザフトと連合がヘリオポリス近郊で戦闘をしていた。どちらも中立なんて無視して。ならヘリオポリスが戦火に巻き込まれる可能性は十分にある：さつき事故が起きたので雲隠れしないといけない。

急がなければいけない。しかしヘリオポリスによっておきたい理由もある。危険ではあるが：恩返しはしなければいけない。

「：ヘリオポリスに一度よるか」

出来ればヘリオポリスが巻き込まれる前に逃げたい。既にヘリオポリスの中も巻き込まれているなんて想像もしてなかった。

連合がヘリオポリスで秘密裏に開発していた5機の試作MSの中の一機ストライクキラがストライクを動かし、ヘリオポリスの強襲を実行したザフトのジンを破壊した。

灰色の待機状態のストライクの足元にはキラと学友の子供たちがいる。その学生たちに銃を向ける作業員服を着た女性も居た。つい先ほどまで気絶していて学生たちが看病していた女性だ。

「動かないで」

「な、なんで銃を向けるんですか」

学生たちは助けた女性から銃を向けられている。意味がわからず混乱するのも仕方がない。

「この機体は連合の最高機密なの。それを見た貴方達を放置は出来ないのよ」

彼女は連合の軍人なのだろう。

軍人としても見るからに年若い技術者タイプ、訓練は受けても実戦の経験がある様に見える。性格的に非情になれるタイプでもないのか罪悪感が顔に出ていた。さらに言えば先程まで気絶していて体調も良さそうに見えない。なので学生たちも銃を向け

られていても命の危険をあまり感じずに抗議も出来た。

「へ、ヘリオポリスは中立国なんですよ」

現実には戦争に巻き込まれている状況では呑気な主張か。

「中立なら無関係でいられると思っっているの」

ザフトが攻めてきた理由は連合のMS、巻き込んだ連合軍側がこんな言葉を吐けば反発を生む。それに軍事機密の秘匿が目的としても、他国の軍人が他国の領地で誰に見られてるか解らない場所で丸腰の民間人の子供に銃を向けているのは不味い。彼女もあまり冷静な状態ではないのだろう。

冷静でないから気付くのも遅れた。

「……？」

いつの間にか学生達の視線が自分でなく自分の背後に注がれている。何だと眉をしかめた。女性は少しだけ確認する為に振り向こうとしたがその前に……

背中に何か硬いものが当たる。

男の声を聞いた。

「手を上げてもらおうか」

背中に凶器を突きつけられているのだと女性はそう理解した。

「ぎ、ザフト……」

「答える前に銃を捨てて手を上げる」

否定しない事に背後の相手がザフトの軍人だと疑念が確信になる。自分は動けない。近くには学生しかいない。学生たちはついさっき銃を向けたばかりで味方なんてしてくれる筈もない。

カシヤ

大人しく銃を捨てた。

此れからどうなるか考えると嫌な汗も出る。なぜ即座に撃たなかったのか。尋問するのが目的か捕虜にするのが目的か…。

「さて……………暴れられても困るので縛らせてもらおう」

彼女は背後からロープを巻かれ縛られていく。縛られるのはわかるが、何か縛りかたが可笑しい。学生組は無言で眺めた。縛られていく女性をみて学生組はドンドンと顔を赤くしていく。女性は青少年が見てはいけないR指定必須な感じになっていた。

「…ちよちよつと！なんでこんな縛りかたなのよ!？」

言うなれば亀の甲系の縛り方。

拘束にしても可笑しい。

戦争だと女性が辱しめられる事は多々あるが、辱しめられるにしても何かこれは可笑しい。あと短時間でこんな複雑な縛りかたを背後にしながら実現するのは可笑しい。

変態と付くプロの犯行だ。

「もちろん趣味、いや、これが一番拘束として信頼が高いモノだからだよ」

「しゅ趣味って言った!!」

「助けてくれたのはありがたいですけど何をしてるんですか!!」

子供たちの反応に女性は気づく：ヘリオポリスの子供の知り合いらしい。こんな縛りかたを普通は軍人がするとは思えない。ザフトは真つ当な軍人かは怪しいが幾らなんでも

つまりは…

「あ、あなたはザフトでないの!?!」

振り向くと其所に居たのはほぼ真つ赤な衣装の仮面の男。赤い服は軍服にも見えるが：ザフトの赤服とも違う。こんな軍服を採用してる国は彼女の記憶にない。

しかも銃を持ってると思った手には少女アニメに有りそうなオモチャのアイテム、こんな相手に背後をとられてオモチャを突きつけられて、脅されて発禁的に縛られたと言う事実気づき鳥肌が立つ。小太りの男も後ろにいたが赤い男が濃すぎて視界には入らなかった。

「あの、そのオモチャは…」

「ああさつきそこで拾ったものだよ」

ポイと捨てられた。プライベートの私物と言われなくて心底良かったと思う。「な、何者なの」

手を顎に乗せて数秒沈黙してから答えた。

「ただの通りすがりのサラリーマンだ」

「いや貴方、サラリーマンでなくてジャンク屋って言っていましたよね?」

「助けられたんだけど…何だかなあ」

緊迫した状況であるのに緩い空気となる。話からするとサラリーマンでなくジャンク屋らしい。変な仮面と赤い服はジャンク屋だから? 少しジャンク屋に風評被害がでていた。

「と、とにかく、シヤアさんありがとうございます。助かりました」

キラがお礼を言った。

「素直にお礼を言いくいですがありがとうございます…」

ミリアリアが礼をいい他の学生も礼を言い出した。

「で、どうして銃を向けられてたんです。察するに其方のMSが関係があるんですか」

「まさか君達の方が悪いとかないだろうね? MSを強奪しようとしたとか」

ガンダム的に少年がMSを奪う事例が結構あるので聞いてみた。グレーな商売のジャンク屋をしてるが流石に完全にアウトな犯罪には手を貸したくなかった。

「だれがそんな事をしますか!？」

「私たちは悪いことなんてしてません!!」

「其所の連合の人に、そのMSは機密で見られたからには放置は出来ないみたいな事を言われたんです……」

本当なのか確認するように二人は縛られた女性をみた。後ろめたい事があるように目を逸らした。嘘ではないんだろう。

「それだと君達は何も悪くないな」

外見はあれだが大人に自分達が悪くないと言われると安心できた。

「あの俺達ってこれからどうしたらいいんでしょう……」

「急いでシエルターに避難した方がいい」

「ザフトが引き上げてもう安全なんじゃ」

「引き上げた?」

彼が戻ってきた時にはザフトらしい機体や人間は見えない。もうヘリオポリスにきた目的が終わったんだろうか。

ザフトがヘリオポリスに来た目的はどう考えても此処に有る連合のMS。：鎮座しているMSを見る。今さらMSの顔をしつかりと見て目頭を押さえた。

「どうみても……」

ガンダム

改めて間違いなくガンダム世界だと思った。

ガンダムの開発したのは連合だろう。恐らく連合がMS（ガンダム）を秘密裏にヘリオポリスで開発、開発がザフトにバレて襲われた。

「どうみても……？」

ミリアリアが聞いた。

「うん、ああ……どうみてもそのMSがザフトの狙いだと言ったんだよ」

「確かにザフトはこのMSを狙ってたみたいでした。あす……ザフトがこれと似た機体を奪っていったんです」

キラの証言からMS狙いだという保証がたった。

「……………また来るか？このMSを狙って」

キラの発言だとザフトはもうMSはもう奪取したようだ。普通なら戦果は十分だと思える。だが外に連合はいたが……MSがない時期の連邦並みにボコスカにされる連合。連合という邪魔がないならもう一度MSを狙いに来ても可笑しくない。

「ま、また来るんですか。そのMSを狙って」

「可能性が無いとは言えないだろう」

本人は自信があつて発言してないが無駄に堂々としていて、ザフトがまた来るんだと

思えた。

「襲ってこない可能性もあるがザフトがまた襲ってくる前提で動いた方がいい」

真つ当な意見だと思え学生達にもスンナリ受け入れられた。

「そう…ですね。俺たちは直ぐに避難した方がいいんですね。忠告ありがとうございます。急いでシエルターまで行こう皆」

「けどシエルターって何処に行くんだ、前の所は一杯だったんだろ」

学生たちは何処のシエルターに向かうか話し合う。ラルフは携帯端末を操作してシエルターの確認をしようとした。

「あの」

キラが声をかけてきた。

「ん？なにかな」

「シヤアさんって船を持ってましたよね」

「持ってるが」

「え！船があるんですか！」

台詞は途中なのに少女に遮られる。学生組は話を中断してシヤアを見ている。期待した視線で何が言いたいかはわかる。

「そ、その船って…五人ぐらい余分に乗れたりは」

「乗ることはできませんよ」

ラルフが答えた。

「そ、それなら乗せて下さい！お願いします!!」

ラルフはどうしようかと言いたげにシヤアをみた。船の持ち主はシヤアで決定権はシヤアにある。別にシヤアとしては構わないと思うが…

「ま、待って！」

答える前に今まで卑猥な格好で転がされて睨んでただけの女性が声を出した。声に反応して視線をむけ…学生組は真っ赤になり直視出来ないでいた。

「去る前にこの縄を外してもらえませんか…」

気まずそうに女性はそう言うと言った学生たちは顔を見合わせた。

「また此方を捕まえようとされたら困るのだが」

「……捕まえようなんてしません。そもそも出来ません」

銃はシヤアが回収している。銃もない女性の身で六人を拘束するなんて確かに出来ない。しかし少し前に銃を向けておいて解放してもらおうと言うのは…むしがいい話だろう。

「私はこのMSを艦のある港にまで運ばなければいけません。…どうかお願いします」

女性は頭を下げた。

学生組は拘束を外しても良いのではという顔をしている。

『今は』捕まえる気はないと言う意味じゃないかな？君の証言を聞いて連合軍が後から我々を捕まえないうと言う保証は？』

学生たちはギョツとし女性は言葉に詰まった。

仮にそんな事はしないと云ったとしても、捕まえようとした自分の保証を信じて貰えるとは思えない。彼等にとつて自分の存在は不都合だ。向こうには銃があり自分は動けない。そしてこんな状況では軍人の女性の死人が出ても……

シヤアは女性の拘束を外す。

学生も女性も驚いていた。

「どういふつもりですか……」

自由になったのに女性は困惑している。話の流れからいつて助かるとは思えなかった。

「いや、考えてみればMSの姿を見ただけなら軍も態々拘束しようとは思わないと思ってね」

「ヘリオポリスに該当者は何れだけ居るかと考えればですね」

シヤアの言葉にラルフが続けた。

此処は市街地も近い。MSを避難する前に目撃した人間が居ないと考える方があり得ない。見ただけなら捕まえるなら対象の範囲が広すぎる…

「なによりここで開発されたMSは既にザフトに盗られてるんだろう。見られたぐらいでは機密もなにもない…ん？」

「どうしたんですか」

おかしいことに気付いた。

「…なんで君達を拘束しようとしてたんだ…見ただけじゃないのか？」

「え？」

彼女は機密らしいMSの確保もしなければいけない。そんな時に一人で学生五人も見られたというだけで捕えようとするだろうか？追いつ散らしてMSの確保を優先するんじゃないか。

混乱してたとしても違和感がある。何かMSを外から見ただけ以外の要因があるんじゃないか。面倒ごとの臭いがした。

「その少年が問題なんです」

追及をするつもりがないのにキラを見ながらそう発言した。

「ボクが、ですか」

女性の方がその反応に驚いていた。

「……な、なんで驚くの。自分が何をしたのか判つてないの」

「あの、キラはいつたい何を……」

女性 は 呆れながら話した。

キラが少し前に自分と一緒にMSに乗り込んで操作していたと……それに自分が気絶していて不明だが戦闘をしていた状況的に、MSの撃退か撃破もしたと

「え、それ本当ですか!？」

ラルフは驚きの声をあげキラや学生に視線を向けた。

「え!?! えい! キラがそのMSから降りてくるのは見ましたけど……MSを撃破したのかは……キラどうなんだ」

「……う、うんザフトの機体をボクが撃墜したけど」

なんと言うのか。本人はとんでもない事をした自覚があまり無い様子だ。女性 は 益々呆れた視線を向けていた。襲撃されたコロニーでド素人がガンダムを動かす。敵の撃墜もした。初代ガンダムのオマージユい加減にしろとシヤアは思う。

「それに加えて彼は戦闘中に……OSの書き換えも行ったんです」

「……はい?」

ラルフは意味不明な言葉を聞いたと思う。巨大なロボットを動かす脳が簡単なわけがない。相当に複雑なプログラムになる。それを戦闘の間に書き換える? キラにOS

開発で協力してもらってるのでコーディネーターの中でも能力が高いことは知ってるが……しかし幾らなんでも……

「事前にMSのOS関係の知識が相当あったとしか思えません。その知識の出所が何処か考えれば……彼も、彼の知り合いの彼らも拘束しようと思うのは当然だと思いますか」

ザフト側かオーブ、又は企業スパイの類いと思われたのだろうか。そして学生組も関係者や協力者などと思われたということか。

「ち、違います…僕は……」

やらかしに気付いたのかキラ少年の顔色が悪い。女性はその反応にスパイの類いには見えないと思うが……現実的にOSを変えた理由が他に考えられない。

「彼のMSのOSの知識はこのMSは関係ないよ」

キラを庇うようにシヤアが女性にそう言った。

「……何でそういえるんですか」

怪しい人間の保証なんてなんの意味もない。

「実は私は集めたジャンク品からリペアしたジンを所持していてね」

「リペアしたジンですか……」

戦場後からも捕っていくジャンク屋なら、戦場後に残ったジンの残骸を集めてリペア

するのも不可能とは言えない。

「そのリペアしたジンがなんだというんです」

「その機体を動かすOS造りに彼には協力してもらってね。そのMSのOSを変えたのはその経験を生かしたんだろう」

「……」

別のOSを作っていたからストライクのOSの書き換えも直ぐに出来るわけない。納得いかない。拘束は本音を言えばしたいだろうが…

「早くそのMSの移送をした方がいいんじゃないか」

「……………そうですね」

女性は諦めた顔をしMSに向かおうとした。

爆音がした。

「またMSがコロニーに!?!」

コロニーに侵入したジンと少し違うMSは一機の戦闘機、MAを追ってるようだ。

メビウス・ゼロというメビウスにガンバレルを装備したMSとも戦える連合のMA、コロニーの際どい所で戦闘をしている。

コロニーが戦闘に巻き込まれている。

シヤアは……冷や汗を掻いていた。

これまで初代のガンダムに似たような事が起きている。初代ガンダムだと民間人がガンダムに乗り込み戦闘をしザクを破壊して：コロニーが壊れている。民間人のキラがガンダムにしか見えない機体に乗ってMSを撃破してる。……こうなると次にあるのは：ガンダムが戦闘をしてコロニー破壊をする？……女性がガンダムを動かそうとしてる。解放したのを今更ながら後悔した。

そう思ったのにMSから降りてきた。

「どうしたんです。せめてMSを見えにくい所に移動させた方が良いと思うんですが」
ラルフが女性にきいた。

「バッテリー切れで動かないのよ……」

バッテリー切れで動かない。そんな都合よくバッテリーを早急になんとかする手段なんてないだろう。それに良く考えれば初代ガンダムでコロニーを破壊したのは核が動力のザクのエンジンを破壊したから、この世界のMSの动力的にエンジンを壊してもそんな大爆発は起きない。仮にガンダムが戦闘をしても大丈夫だろうと女性からもガンダムからも目を離す。

嫌な予感でしたが、それよりもメビウスとザフトの戦闘、注目したのは巻き込まれない様にという警戒も理由もあるが……何とも言えない不思議な感覚を感じて気になった。

彼は戦闘に集中して女性や学生達が何をしてるか見てなかった。

ガンダムにしかみえない機体はストライクと言って……装備換装出来る機体。近くに換装する装備があつた。ランチャーパック、それは戦艦並みのビームが射てる砲撃タipesのパーツ。装備にはバッテリーが内蔵されている。学生が何でか装着に協力していた。気付くとストライクにランチャーパックは装備されていた。

彼が気付いたのは起動した音で、起動した証に灰色からカラフルになるストライク、コロニーの外壁をぶち抜きそうな極太の砲を構えるストライク。メビウスを援護しようとしてるのか……コロニーの中心の軸、大黒柱みたいな重要な所に砲身が向いていた。

シヤアはそれを見て……二度目の人生終わりを覚悟してしまった。

第81話

ヘリオポリスにて秘密裏に開発された連合の戦艦アークエンジェル。試作MSを乗せるための母艦であり同時にこの艦自体も様々な新式の機能を搭載したMS並みに重要な連合の次世代艦である。

そんな艦が表面は無傷だがズタバロにやられていた。外でなく中の運用する人間を。多数の犠牲は出ているが連合の兵士は居る。しかし指揮をする高級士官が居ない。

軍隊と言うのは上の命令で動く。軍人とは命令を忠実にこなさなければいけない。命令をされれば動く。言い換えると命令がなければ動けない。

指揮系統の麻痺は致命的。ザフトは指揮系統とMSだけで今回は新型艦自体は狙わなかった。もし狙われていれば奪取されたか破壊されたか。何時までも狙われたいは限らない。

「物資の積み込み急げ………どうすればいいのだ全く」

声を上げているのは女性士官。

士官と言っても最下級の少尉。

士官学校卒で少尉に任官したばかりだろうか、まだまだ上位の上官の指示で動く新米。階級が一番上となつてしまひ済し崩しで指揮をしてるのだろうか。

強気の声で指示を出してるが、士官としての役目を演じてそうだ。隠しきれない不安が垣間見える。恐らく指揮をしているのも仕方なくであり。もし自分より階級が高い人間が来れば指揮権を喜んで渡す。例えその相手がダメそうな相手でも

「…マリユール・ラミアス大尉……？」

見知つた上位の士官と出会つた。

技術士官でこう言う時にはあまりにも……それでも上位の士官、頼りたいと思つたのが……一度は目の錯覚だと思ふ。疲れが出てるのかと思ふ。

改めてみた。

マリユールの頭に見えている『猫耳』は変わらなかつた。

「……」

無能でも許容できると思つたが流石に……ちよつとこれは無理だなとナタルは思ふ。

「お願い。変質者を見るよう視線は止めて……」

こんな時に良い年をして猫耳の装着、変質者でなければなんだろうとナタルは真剣に思つた。何か理由があるんだろうか？物凄く聞きにくかつたが率直に聞くことにした。

「なんで頭に猫耳を？」

「それは…その…亀○縛りよりはマシだから…」

それを聞いて…ナタルは可哀想なモノを見る目を向けた。ああ襲撃で精神が病んでしまったのだろうか…。

「…ラミアス大尉、どうか医務室に……」

ナタルは悲惨なモノを見たと言いたげに目頭を押さえてマリユールに言った。階級が上だから指揮を頼む？流石に病んだ相手に頼る気にはなれなかった。

「え!?……あ、あの、違うのよ！違うの！」

マリユールはどう説明したらいいか猫耳を付けたまま、同じく目頭を押さえて深く悩んだ。どう言えば良いのか。

「お言葉に甘えて行かせて医務室に貰ってはどうか」

「いや貴方はなんですか」

知り合いの猫耳だけで精神的な許容範囲は一杯で、ナタルがあえて認識から外していた存在が声を出したので反応せざるえなかった。

変質者（猫耳装着マリユール）の隣に（赤い服のヘルムの）変質者が居る。真面目なナタルにはとても理解が出来ない組み合わせだ。真面目でなくても理解が出来ないか。

「ただの通りすがりの学生だ」

「サラリーマンでなかったの……」

赤い服に謎のヘルム、学生もそうだがサラリーマンも無いだろう。

「が、学生？」

風格も声も体格も全体的に欠片も学生と思えないが：学生と納得することにした。深く追求する気力がないとも言う。怪しすぎてザフトが化けてると思わなかった。

「ごほん……………それで君はなんだ。…その、ラミアス大尉を届けてくれたのか。そうだとするなら感謝はするが此処には軍の機密があるので直ぐに立ち去ってもらいたい」

穏当な対応だった。拘束しないのは、関わりたくないから追い出そうとしてるだけか。

「スマナイがもう一つの届ける荷物がある。去るのはそれが届いてからにしてほしい」

「もう一つの届け物？」

「私届けられる荷物扱い…」

しやがみこんで落ち込む猫耳ありの成人女性、それを見て目の色が怪しい多数の作業員をナタルは見なかった事にした。

「もうすぐ来る筈だが……………ああ来てるな」

「あれは…!!」

ナタルは目を見開いた。周りで作業しながらチラチラ見ていた兵士も猫耳女性を脳

内に記録しようとしていた作業員も同じ様な反応だ。

MSが歩行してきている。

「あれはストライク」

「ザフトに奪取か破壊されてない機体があったのか!」

「誰か取りに行つてたのか!?!」

「お、おい前のあの車…」

「乗つてるの子供じゃないか!?!」

MSの少し前方に誘導する様に車が走っていた。

「箱がある! キラ左の足に気を付けろ!」

MSの前に後部が荷台の車を運転する小太りの男性に荷台に乗った少年や少女がいた。民間人の子供に見える。子供がMSの誘導を何で?? ナタルは猫耳を見たときの様に目を疑う事になった。猫耳と同レベルの驚きなのか。

「か、彼らは…」

「ラミアス大尉に頼まれてMSの誘導を善意でしてくれている同級生だ。運転してる男性は私の親戚のドレン、因みに機体を動かしているのもラミアス大尉に頼まれた善意の協力者の同級生だ」

自称学生はマリユーに責任の諸々を押し付けていた。あと同級生ととんでもないこ

とを言っていた。

「ら、ラミアス大尉……」

ザフトの手にわたる前にMSは回収しないといけない。しかし誘導を学生にさせるなど問題行動過ぎる。それさえ霞むほど問題なのが、機密の塊のMSを連合兵以外に操作させてる!?!話の流れからして学生に!?!下手しなくても軍法会議待ったなし。錯乱して頼んだとしか思えない。：猫耳を付けてる時点で錯乱してる!!

いや待てとナタルは前提から可笑しい事に気付いた。学生がMSを動かしている。学生が……

「ただの学生がMSを動かせるわけがないだろう!」

「ああ今操縦してる彼は機械が専門の学生でね。それで一応は動かせるみたいだ」
「……」

機械が専門の学生だからなんだ。

そんな理由で動かせかと突っ込もうか葛藤するナタル。

ナタルは開発した側でないが、それでもMSを動かすことが相当に困難なのはわかる。普通に考えれば学生が操縦など不可能だろう。MSより難易度が低い戦車や戦闘機だとしても、機械知識があるからといって学生が動かせるかどうか。

そもそも動作プログラムを造るのに難航していると聞いていた。プロの軍人ですら動

かすのは困難だと。しかし、見る限りMSはマトモに動いている。まさかいつの間にか素人でも動かせるレベルのプログラムが出来立てたのだろうか？ナタルはMS開発陣の一員のマリューを見た。

「素人でも動かせるプログラムが出来ていたんですか」

マリューが口ごもり答えない。まさか民間人に一瞬で動かせるようにプログラムを改編されたなんて言えるわけがない。

返答できない間に機体が到着していた。

「マリューさん！MSは此処で良いですか！」

MSのハッチが開きマリューの名前を出していた。コックピットに見えるのは年若い少年だ。マリューが乗せた少年なのか。マリューは周りの視線に縮こまる。

「き、キラくんはそのまま待機、少し待ってて…バジール少尉、艦長はどちらに」

ナタルは暗い顔をしマリューは察した。この場でナタルしか士官を見てない。本来なら指示をする上位の士官が他に居る筈。この場に居ないとなると……

「残念ながら艦長は先程の騒ぎの時に……」

「そ、そう……なの。なら、今は指揮は副長が？」

「いえ、残念ながら…現状、艦長以下、私より上の階級の方達の生存は確認できていません。ザフトは破壊工作をして指揮をする高級士官を狙ったのだと思われ……」

「……」

残された士官が技術士官の自分に新米の少尉だけ……あまりの被害を知りマリューは絶句した。

自称学生はガンダム的にやっぱりなと思う。戦場などで指揮官が戦死した場合、一番上の階級のモノが次の責任者となる。マリューは技術士官だがナタルより階級が上。ナタルは猫耳を見て……やっぱり指揮を頼めない。

「た、たしか……移送の護衛部隊がヘリオポリス付近にきてるんじゃない。その部隊と連絡は」
「いえ、通信は試みましたが、応答はありません。通信を妨害されているのか……それか」
通信が不能としてももし無事なら護衛として確認にぐらいは来る筈だ。其処から考えれば……来る余裕が無いのか。それか、護衛艦隊が既に存在してないか。
これからどうすれば良いのか。

今指揮をしているのは新米でその上は技術士官、此処には艦やMSの開発に來ていたの
で軍人と言っても後方専門の軍人ばかり。実戦的なアドバイスは誰も出来ない。巻き
込まれた側のラルフや学生が同情の目を向けるほどに重苦しい空気。

そこを無視するのが自称学生のシヤア

「さて、必要なモノは送り届けたのだし皆行こうか」

(「さ、さ」のタイミングで言うう!?)

このときの学生組の思いが一つになっていた。しかし発言のタイミングが最悪としてもここにいる理由がないのは間違いない。

「では…その、失礼します」

「あ、ああ届けてくれて感謝する」

ナタルとその他はそれはまあ微妙な表情だが何も言わない。機密に触れた事を考えれば拘束しないといけないのだが…切っ掛けがマリユーから頼まれたと考えると…いや他はまだ良くても流石にMSを操縦した民間人は放置できないか？MSから降りれば拘束しなければと思う。

確実に確保するのに、警備の人員は艦の護衛に居てこの場には非武装な人間ばかり。MSを艦内に入れてそれから…

「ああキラくんは此処で降りようか、流石に此処から民間人が戦艦の艦内にMSを入れるのは不味そうだからね」

「は、はい」

まるで其方の考えは判つてるぞと言うタイミングの台詞。シヤア達は去ろうとする。

「ま、まで」

ナタルが呼び止めると振り返りこう言った。

「何の用なのか判らないが、ザフトが何時来るか判らない。迎撃なり逃げるなりの準備

を早くした方が良いんじゃないかな。：小事にかまけて大事を見逃すなんて嫌だろう」

暗に：MSを動かした相手の確保よりMSや艦を護ることを優先すべきだろうと言っている。唇を噛みながらナタルは彼等を拘束する指示を出す事は止めた

「行つていいかな？」

「ああ：呼び止めてスマナイ」

「では行こうか。私達はしがないただの学生だからね。ここにいれば邪魔になる」

白々しく感じる台詞を吐くシヤア。

「何時から貴方も学生の一員になつたんですか」

ミリアリアのドン引きした声を無視して、シヤアは学生とラルフを連れて立ち去ろう

とした。

シヤアは立ち止まった。

「私は大人しく去るつもりなんだが：？」

「え、どうしたんですか」

シヤアが突然脈絡のない言葉を言った様に思える。建物の角を見ていた。何も無い

……と、其処から男が出てきた。

「いやー気づかれた？」

銃を構えたパイロットスーツを着た男だった。銃口はシヤアに向けている。

「そ、そのパイロットスーツは連合のひとつですよ。なんで銃をむけてるんですか」
「お、俺達頼まれて届けただけですよ」

学生たちは弱った女性でなく見るからに軍人に見える相手に銃を向けられ先程よりも怯えていた。

「んー…いやいや、君達は関係ない。俺の任務は護衛なんだ。だから護衛対象の近くに怪しい奴が居たら警戒しなきゃいけないだろ？」

一斉に赤い服に仮面の誰かが見られた。

「なるほど、確かに良い歳をした猫耳の女性は怪しいな」

マリューはえ!?私!?と驚いていた。

「え、そつちの場合は怪しいと言うより痛い…」

「……」

猫耳の女性の熱い視線に二人の男が自業自得で冷や汗を掻いた。

「ま、まあ怪しいと言うなら早急に離れよう」

「いやー少し待ってくれよ………礼だけは言わせてくれ」

男は銃を向けながら笑顔で言った。

「銃を向けておいてお礼ね。礼を言われる筋合いはないと思うが」

「はは、そうかな?少し前にな…宇宙で蹴りを噛ましたヤツのお陰で助かったんだ。あ

れで敵が混乱して首の皮一枚で助かった」

「…何のことだ」

「ソコは普通宇宙で蹴りつて何の事か聞かないか？ まったく意味がわからないだろ？…当事者でもないとな」

二人の間にピリピリとした空気を感じてその場の全員が息をのんだ。

「ふむ、意味がわからなすぎて聞く気に成らなかつただけだよ」

「ふーん、そう答えるか。あ、自己紹介してなかつたな。俺の名前はムウ・ラ・フラガだ。そつちは？」

軍人たちはその名前に反応していた。

仮面の男も反応していた。

「その名前はエンディミオンの鷹…！」

「お、綺麗な女性に異名を知ってて貰えたなんて嬉しいね」

「エンディミオンの鷹？」

「俺の異名だよ。ちよつとばかり活躍してね」

「エンディミオンの鷹殿（笑）か」

「なんか不愉快なんだが…てか此方が名乗ったんだ。そつちの名前もさつさと名乗ってくれるか」

「自己紹介の必要はないと思うが」

声にはトゲしかない。

「頼むよ聞かせてくれないか？知ってる名前かも知れないならな」

シヤアは答えた。

「エドワウ・マスという」

堂々とした名乗りに学生組が困った顔をした。ラルフは頭痛を堪えるように頭を抱えた

「ふーんエドワウ・マスさんね。知らない名前だな」

「それは残念だ。ではもういいか」

「最後に……ちよつとそのヘンテコなヘルムをとつてもらえないか？」

「断る。仮面のヒーローの顔を見ようなんて不粋だな」

「…絶対にヒーローなんてタイプじゃないだろ。誤魔化してないで取つてくれるか」

「これはベッドの中でしか取る気はない。それでも見たいか？」

男に対しての台詞である。ウゲエと言う反応のなかで一部の女性陣が違う反応をした。どういふ反応かは…不明だ

「…男にそんな台詞吐かれた吐き気がするな。特にアンタみたいなのと言われるとな」

「ハハハ私も吐き気がしたからお相子だな。いや君以上に吐き気がしたから私の負けか

な？」

「……………」

お互いに思った。

何だがコイツ無性に腹が立つと。

「あ、あのーお互いにこんな所で時間を掛けるのは不味いですよね」

ラルフの常識的な意見にお互いが見合つて舌打ちをした。

「確かにこんなのに構つてる時間はないな。さつきといつちまえヘルムの変質者」

「君が呼び止めたんだらう。まあいい。ではな中二的な異名で呼ばれる痛い軍人殿」

ムウが瓦礫を投げつけるがヘルムの男は中指を立てながら瓦礫を避けて行つた。ラルフも地味についていった。

学生達は去るタイミングを逃していた。

「……………そう言えば何で猫耳してんの？」

「……………その私に來る!?!とマリユーは驚いた。

「これは……えー……なんと言うのか……さっきのヘルムの人に」

無理矢理つけられても外さないか? ナタルはどういった経緯で何ですつと付けていたのか疑問を感じた。

「はー女性に無理矢理猫耳付けるなんて外見同様に中身も変態野郎だったつて事か」

詳しく聞かずにムウはヘルムが悪いと決めつけた。本当に相性が悪かったようだ。マリューは困った。

違うのだが言いづらい。

少し前にストライクにランチャーを付けてコロニーをぶつ壊しそうになった責任の罰として、付けられたとか言えない。

「あの、降りていいんですよね」

どうでもいい事だがMSの中でキラは降りていいのか迷っていた。

第82話

シヤア達はヘリオポリスの港の自分の船の中に戻った。

「どうします」

近くにザフトがいる。指揮がズタズタな連合の新型の船がいる。ヘリオポリスへの再度の襲撃があり得ると思われる。自分達がいるのは港であり此処に居たら巻き込まれる。小太りの男の焦った顔とか気持ち悪いなどわりと酷い酷い内心を隠して落ち着かせ、下手にヘリオポリスから出る方が危険だと言う。

ザフトがどう動くか。

都合が良ければ奪つたらしいMSで満足して去るが、再度の襲撃：または連合の戦艦が出てくるのを待ち受けてる場合もある。

外に出て……ザフトが民間の船を無事に通してくれるか。中立違反をしたからといって、他国の資源コロニーに警告も無しにMSを突入させ強襲した相手を信用出きるわけがない。まだ此処にいる方が安全だと船を何時でも出港できる状態で待機。ラルフはもしもの時に備えてMSを見ておくことにした。

「脚部にダメージは有りますが、簡単な補修でどうにかなるレベルですネ……脚部のダメージが何時もより大きいですが、何を蹴ったんですか？」

「いや逃げるのにMSをね」

「蹴ったんですか!?!いや非武装だから仕方ないですが……戦闘に使うつもりは無いと武装を蔑ろにしたのは失敗でしたね。今後は武装も付けますか」

「武装でジャンク品を使うのは嫌だよ」

「いやですか?なら新品の武器を買いに行きますか。そろそろ私達のMSの外側を本格的に作るための素材を買いにいくついでに」

ヘルムの男は外側という部分に力強く頷いた。

「どうやら彼等が作るMSには外側が重要な様だ」

「武器はともかく外側の素材は買いたいな……改造するのに施設も借りないとダメだろう」

「デザイナーの協力も」

「追加の資金が必要かな」

「ちようど売れるものが外に沢山有りますよ……今さらながら罰当たりな事ですが」

ヘリオポリス周辺では戦闘が起きたばかりザフトや連合の兵器の残骸が漂っている。今なら他のジャンク屋が来る前に回収し放題。

「まあ多少は良いことをするんだ許して貰おう」

「救助活動をするんですね。ザフトはともかく連合は救助なんてする余裕なんてあるとは思えませんし……早く去りませんかね。出来るだけ早く助けたいですよね」

「……」

「あ、いえね……子供の頃なんですけどね。私が乗ってた船が違う船と衝突事故にあったことがあったんですよ。お互いに壊れて漂流。酸素が漏れて、酸素が無くて後一時間で救助が来なかつたら死ぬ！って状態になったんです。残り数分ってギリギリで救助がきて私の船の方は運良く助かりましたが……衝突した相手の方は救助が遅れたんですよ……その頃の事を思い出しましてね」

「……」

それから暫くして……

「どうやら行ったようです」

アークエンジェルが出る時にザフトが戦闘を仕掛けたがうまく逃げた。

「無事に逃げられた様でよかったですね」

「そうだな」

ラルフはホツとしたようだ。ヘルムのオジサンはガンダム的な因果でヘリオポリスが崩壊しなくてホツとした。同じリアクションだが性質は違いすぎる。

「では船を出しますからMSの所に行ってください。本来は観賞用ですが今は仕方ないので作業用に使いましょう」

「わかった」

赤いMSが発進。

『ではお宝漁りに行こうか』

「はい。いや！先ずは救援ですからね!？」

ツツコミを受けながらMSはコロニーの外に出て救命信号が出ている地点に急いだ。救命艇や戦闘不能のメビウスなど漂っているのを見つけて救助した。したのだが……大概、命の恩人なのにMSを使っていることでコーディネーターと思われる敵視された。

はじめはナチュラルだと言ったが信じて貰えない。それは大国ですら現状ナチュラルが使えるMSを作れてない。もしナチュラルと言うなら民間人が大国ですら出来ないMSを作った事になる。……まあ一部、ナチュラルでもMSを使えるのだがあまり知られてないので仕方ない

感謝は無いが救助は遂行。救助した軍人はヘリオポリスに送り届けた。後は救助の報酬として勝手に残骸は貰っていくつもりだ。

救助した人員を下ろせば次はジャンク回収の予定だったが、面倒なことになった。

「その瓦礫をどかしてくれ!!」

赤いMSはヘリオポリス内の救助もやっていたが自主的ではない。

ラルフとシヤアは救援活動を行いを救援した兵士をヘリオポリスに下ろした後、金髪の少女とガタイの良い男にコロニー内の救助の手伝いを頼まれた。救助を手伝ってくと少女の勢いに押しきられてしまった。

「本国の救援が来るまでに出来ることはまだまだあるんだ!!一人でも多く助けるぞ!!」

カガリ・ユラ・アスハ。アスハ、オーブの偉いさんの家名。行動力と異様なカリスマがあった。

カガリはシエルターから出てきた民間人に救援した連合の軍人まで従えて、救援活動をしていた。去ろうとしたシヤアとラルフもカガリに巻き込まれ、本来なら予定になかったMSでの救助や瓦礫の撤去などにも駆り出された。

そして1日で

「有名になってますね……」

「そうだな」

ヘリオポリスでテレビで救助の様子は放送されていた。MSは目立ち救援活動をしたと言うことでヒーロー扱い。

初めは襲ったザフトのMSに似た外見と、MSを動かせるのはコーディネーターだと

言う認識があり：襲ったザフトだと思われたのか救助していても嫌悪の視線を向けられた。ナチュラルと言つても信じてもらえない。

しかしカガリが本人がナチュラルだと言つてるのになぜ信じない！とナゼかキレて、更に証拠をみせる事になり、また押しきられる形でシャアは検査をさせられナチュラルだと目に見える証拠がでた。

しかもナチュラルだとテレビ報道までされた。ナチュラルの乗ったMSと言う事の有名に。：軍服の様な赤い服に仮面を被つてる事もミステリアスと良い風に紹介されていた。救助前は変人扱いだった：

あまり持ち上げられ過ぎて怖いと、ラルフが自分達はジャンク屋で外の残骸も回収する事も話したが焼け石に水ぐらいの結果で終わった。

救助した連合の軍人が情報の拡散に協力しようだ。コーディネーターと疑った詫びというのもあるが……コーディネーターのMSは中立コロニーを襲い。ナチュラルのMSは人を助けた：そう言う風にしたかった様だ。

連合のジャンク品を貰つていく対価と思えば文句も言えない。

ようやく救助作業が終わった。

「オーブ以外にアルスター次官の乗った艦隊が向かつてる？」

「パパが来るの！」

なにやら連合からも救助が来る話が聞こえたが、ラルフには関係ない。話を聞き流しラルフはこっそり出発しようとする。マスコミの取材と感謝した住民達の攻勢は中々に苛烈で逃げようとしていた。

「…疲れた…」

ラルフは感謝の印として貰った色々な荷物を抱えながら黄昏ている。なんだが悲哀すら感じている。人助けをした事には後悔はないがとても疲れていた。

因みにシャアはラルフを置いてMSを艦内に戻してから寝ている、と言うことに成っている。MSでの救助で疲れたんだろうと住民たちも遠慮し、その分の感謝もラルフが受けた。

「絶対面倒だから押し付けられたんですよねえ。……そう言えば救助活動に学生の協力者が結構居たのに、キラちゃんとキラくんの友人の学生たちも見ませんでしたね。彼等なら救助に参加してそうと思うんですが……ん？噂をすれば……げ」

ラルフは誰か走ってきた足音を聞いてキラ達が来たのかと思ったが違った。

「ああまだ居たか良かった！少し良いか！」

巻き込んだ力ガリだ。

「な、なんですか」

カガリの姿にラルフは年齢半分ほどの少女に及び腰だ。本人の性格もあるがオーブの権力者の娘の機嫌を損ねるのが不味い。連合やプラント等に好かれないジャンク屋的に中立のオーブはわりと重要。

後ろの体格の良い中東系の男が何処と無く申し訳なさそうな顔をしてるのに…絶対に厄介な話だと思った。

「お前たちは何処に行くんだ」

「……それはまだ決めてませんが」

「さっき集めたジャンク品を売りに行くんじゃないか」

テレビ取材で赤い人がジャンク品集めのついでの救助だと公言している。集めたジャンクを売りにいくと思うのも可笑しくないし。間違いでもない。

「ああ…咎める気とかは無いぞ。」

そう言うわりに不機嫌そうな顔をしている。戦場で集めたジャンク品、墓荒しの様な行為、死んだ相手からモノを剥な事であり倫理観が有れば不愉快に成るのも当然か。

「それでは何のようなんですか」

ラルフはまさか集めたジャンクを連合に返すように言われるのかと身構えた。

「頼みがあるんだ」

「なんですか」

ラルフの声は固かった。

「其方の船に乗させてもらいたい」

「はい?!」

ラルフは訳がわからなかった。

「色々聞きたいことがあるんだ」

聞きたいことはなんだろうか。

……ラルフはハツとした。

オーブは血筋重視。オーブのトップのアスハは王族みたいなモノ。カガリの立場はお姫様みたいなモノ、そんな相手が自身の国土であるヘリオポリスが襲われて、何の狙いもなしにジャンク屋に近付くと思えない。

ジャンク屋は…

今のジャンク屋は戦場跡でまだ使える高価な兵器をただで奪っていく。奪われる連合、ザフト両方から嫌われているのは当然。戦争には関与してないオーブのヘリオポリスだからジャンク屋も忌避されないが、一年も続く戦争でジャンク屋は儲かり大きな組織も出来るほどの利益。自分達の生き血を吸って肥太るジャンク屋、両国からの嫌悪はどれだけか。

オーブはどうか。

「オーブもジャンク屋並みに立場が良いと思えない。今回攻められた事で中立が怪しく。もし攻められても味方をしてくれる同盟国が有るとも聞かない。中立と言うより孤立無縁、ジャンク屋と同じで何時潰されるかわからない弱い立場。立場が弱い者同士でジャンク屋と連携しようとするのが狙いのだろうか。」

「それかMSについてか。」

「何にしてもオーブとジャンク屋の未来に関わる事と思え断れる案件ではない。」

「良いのか？感謝する！」

「どう考えても裏の目的があるはずなのに、カガリの裏を一切感じさせない笑顔にラルフの顔はひきつった。」

「思ったよりゴチャゴチャしていいいな」

「カガリが船内を見回してそう言った。」

「で、あの少女を乗せると…」

「スミマセン勝手に決めて」

「まあ相手を考えると仕方ないだろう」

「ヤレヤレと言いたげに肩を竦めてMSの方行つた。」

「カガリがスマナイな」

溜め息をはくラルフに対して中東系の男、キサカは謝る。立場的にカガリは一人に出来るお嬢様ではないのでお目付け役兼護衛だろうと思われていた。本当ならアウトローなジャンク屋の船に乗るのは止めたいだろう。

「お互い苦労しますね」

ラルフが苦笑しながらそう言った。面倒を掛けた側と掛けられた側だが、お互いに同じ苦労人の臭いがして親近感を感じてか空気は悪くない。

「……こう言つては悪いが、ラルフは安定を好みそうな感じがするな。なんでジャンク屋に？」

ラルフは乾いた笑いを浮かべた

「元々は機械弄りが好きで個人で修理屋を営んでたんですが……彼にあるMS造りに誘われて、気付くとジャンク屋の一員みたいになってました」

「後悔してるのか」

「いえいえ、後悔もしてませんしジャンク屋は楽しいんですですよ？彼と私の理想のMSを造るまでは止める気も有りません……まあ道を間違えてると言われると否定はしにくいですが」

ラルフは哀愁漂う遠い目をしていた。

「……そうなのか」

キサカは深く聞くのは止めておいた。

「ラルフから見てシヤアと言ったか。彼は……どうなんだ？大丈夫なのか？」

「見掛けは怪しいですけど基本的には善人です」

「……いや俺が聞きたい大丈夫というのは善人とかでなく……あれは大丈夫なんだろうか」

キサカの見る先を見る。カガリとシヤアがMSの前で話していた。

「はあ!?!趣味でこのMSを作ったのか!?!」

「ああ私とラルフの趣味だよ」

赤い人はカガリと話している。話しているのはいいが、シヤアの唯一見える顔の部分の口元が笑っていた。見るからに機嫌がよさそうだ。なんで機嫌が良いのか。キサカが聞きたい大丈夫の意味は……

「……少女趣味という事は」

「……………」

ラルフは無言で目をそらした。

大丈夫ではなかったとキサカは慌ててカガリの元に向かう。

「どうしたんだキサカ」

「な、なんでもない」

キサカはそう言いながらシヤアとの間に立った。シヤアの口元から笑みが消えていく。いや筋肉ムキムキの男が近くに居たらそれは嫌だろう。多分カガリとは関係ない。

「そう言えば集めたジャンク品は何処に売りに行くんだ」

「何処には決めてないな。ラルフ何処にする？近場が良いが」

ラルフに聞いた。

「そうですね…近い所だと」

ラルフはヘリオポリスから近くに拠点を構える買い取り専門の業者を脳内にリストアップしていく、一番近い所…それに信用できる業者……

該当する所を見付けたがラルフは渋い顔をした

「言いつらい所なのか？」

「……ユニウスセブン跡地を拠点に使ってる業者ですね……」

第83話

ジャンク屋は嫌われている。ゴミ漁り等とバカにされるのはマシで、戦争中の今は人の生き死にが関わる兵器の回収等をする火事場泥棒。連合、ザフトからすれば窃盗犯。放置されてる犯罪者と認識されてるのが普通。

戦時の兵器は最新式の高級品ばかり。今だとMSにバカスカ落とされる戦闘機一機でも高級車よりも遥かに高い、部品だけでも札束や金塊が落ちてる様なもの。莫大な予算で造った兵器の残骸をタダで取られるのを許せるだろうか。

なんでジャンク屋は放置されてるのか。

戦争の片手間に潰すには規模が大きいからか。政府に賄賂などが渡されてるのだから。

全体が潰されないにしても、一部だけでも見せしめに潰すなど十分にありえる。そう認識しているジャンク屋は拠点には防衛に長けて隠蔽に長けてる所を選ぶ。

「それで隠す拠点到ユニウスセブンの跡地を選んだと……安全の為に地雷だらけの危険地帯に入ってるように思うのは気のせいかな？」

ラルフからユニウスセブンにある事について説明を受けたカガリは真顔でそう言う。シヤアもカガリの近くで一緒に聞いていた。因みにシヤアとカガリの間を遮る様にキサカが居た。理由は特に無いだろう。カガリの発言にシヤアは思ったことをそのまま話した。

「もしバレたら、プラントなら当事者だけでなくジャンク屋全体の殲滅に乗り出したりしそうだな」

プラントならやりそうと思えたのかラルフは顔色を悪くした。

「…ま、まあ戦時中の今はユニウスセブンに態々行くプラントの人間も居ないですし。バレる心配は先ず無いでしょう。」

何故かラルフがフラグを立てたような気がした。

「それでどうします。ユニウスセブンの業者の所に行きます」

ユニウスセブンの業者の元に行くかどうか。ユニウスセブン跡は言うなれば墓場だ。赤い人としてはガンダム的に亡霊、死後の意思など普通にありそうと思っていた。死者が大量に出る戦場の後でジャンク品集めをして今更な話だが、それはそれとしてやっぱり縁起悪そうなのでユニウスセブンには入りたくない。

誰も積極的に行きたい訳がない。だが地球方面に行く途上で代わりの売り先を知ってるわけでもない。

「よし！ユニウスセブンに行くぞ！」

と、渋る男たちを差し置いてキツパリと決めたのが部外者のカガリ。

シャアの輸送艦とカガリの民間船はヘリオポリスから、地球、ユニウスセブンの方向に出発した。何故かカガリはシャアの船の方に乗っていた。

「何故此方に？」

「ムカつくヤツが乗ってるからだ！」

不機嫌そうな様子から喧嘩でもしたのかと思う。良くも悪くもカガリは真つ直ぐそれで相性が悪いと反発して喧嘩をすることは想像することは容易。解らないのは、何でそんなムカつく相手を船に乗せてカガリが退避してくるのか不思議に思う。こんなものと言つては何だがカガリはオーブの権力者の娘だ。だから直ぐに船の確保もできた。オーブの領地のヘリオポリス住民なら船から追い出されないか？

赤い人とカガリとの間に立つてるキサカを見る。

「相手が連合国の事務次官の娘でな……助けた連合兵と捕虜と一緒に船に乗つて来た」それは娘の事を除いても船に乗ってたくない面子。

シャアはそう言えば連絡していた救助した連合兵士が、事務次官が来るとか言つてたなど思い出す。事務次官が何でとか疑問に思ったから覚えていた。思い出すとパパとか聞こえていた。まさか事務次官が娘を迎えに？それで娘はどうせなら早く会いたい

と同乗してきた？

「酷い職権乱用が起きてそうですね。娘の為に艦隊を動かすとは連合意外と余裕あるんでしょうか」

「流石にそれはないだろう。大方ヘリオポリスで開発していた船とMSの迎えの艦隊に同乗してるんだろ」

カガリは更に不機嫌そうになり吐き捨てた。

連合の船やMSの事を知っていたのかと驚きかけるも、オーブの偉いさんの娘なら知っていても可笑しくないかと納得。

「この速度だと……艦隊とはユニウスセブンの先回りで合流か。ユニウスセブンでジャンク品を売る時間を省いての話だが」

端末を見ていたキサカはそういった。

「彼方のお嬢様は文句を言いそうだな。この輸送艦の速度と合わせてたらこれが限界だと言っても納得するか？」

カガリは良いことを考えたという顔で発言する。

「ならアイツの船だけ艦隊の方に先に向かわせたらどうだ？」

ラルフとしては良いと思った。ユニウスセブン跡で別れる言い訳を考えずに済む。

事務次官の娘や連合兵、ザフトの捕虜にジャンク屋がユニウスセブンに居るとか知られたくない。キサカは首を振る。

「それも無理だな。此方を護衛として宛にしてるようだ」

キサカは寝た状態の赤い機体を見ながら言った。勝手に護衛扱いに宛にされてた事にラルフは顔をしかめた。

「護衛と宛にされても困るんだが。この機体は観賞用で戦闘用でもないぞ」

「ジン一機と戦艦を潰したと聞いたが…」

運良く、いや運悪く救助したザフトの人間が艦の乗員で話しを聞いたらしい。赤いMSを使って救助してたら誤魔化しも出来ない。

「あれは不幸な事故だよ。偶然ぶつかって運悪くジンと船が落ちただけだよ」
だいたい嘘はなかった。

「どんな不幸な偶然だよ」

ジツトとした目でカガリに見られた。

胡散臭いか嘘だと思われたようだ。

ラルフはさっさと先にいって欲しいが相手が権力者の関係者だと思おうと弱い。

「まあ……襲撃を受けたばかりで不安なものも仕方ないですよ。形だけでも護衛を引き受けても良いのでは？ どうせこちらは民間船と輸送艦。先ず襲われる事は無い筈です」

ね」

シヤアはさつきからラルフの発言に嫌な予感がして仕方なかった。

「そう言えばアレは動かせないのか。無傷ほいが」

カガリが指差した先に有るのはジャンク品に埋もれたシヤアに蹴られたジン。救助活動中に中身が気絶したまま漂っていたので鹵獲された。中身は捕虜となった。話からして本来はカガリの乗る船に捕虜として乗ってそうだ。

「状態は良いので動かすだけなら出来そうですが、ジンとなるとコーディネーターでないとマトモに動かせません。生憎此処にはナチュラルしか居ませんから」

カガリは首をかしげた。

「あの赤い機体と同じプログラムにしたらナチュラルもいけるんじゃないのか？ 外見は違うけどジンのリペア機なんだろう」

ナチュラルと言ってる赤い人が動かしていたの勿論カガリも知っていた。血液検査でナチュラルだと確定したと助けられた連合の兵士がこそこそ言ってるのも聞いた。

「あーいえ、同じプログラムにしたら………余計操縦困難に成りますね」

改良どころか改悪？ 赤い機体と同じにしたら酷くなるならそうなる。なら赤い機体を操縦してるヤツはなんだとなる。

「……ナチュラル何だよな？」

「分類としてはナチュラルだな」

「分類ってなんだ!？」

航行を続けた。

カガリは航行中の暇潰しに修理したジンを動かせないか試す事にした。艦内だと無理だと外に出て試した。売り物のジンだ。状態が良いので高く売れる。乗せたくない。しかしラルフは権力の影と若さに押しきられた。

ジンは言うなれば高級スポーツカー。

コーデイネーターで無いと戦闘にマトモに使えないだけで、動かす事だけならナチュラルでも出来る。徐行運転なら問題ない筈だった。

暫くあと

「あんたなに考えてるの!？」

ちよつと慣れてきて調子にのって徐行運転を止めて事故をお越しかけて当然にも、ぶつけられかけた船に乗ったお嬢様に怒られた。

「いや失敗した。失敗した。やっぱりMSは難しいな!!」

「笑ってないで反省しろ!!」

暇潰しを封じられてカガリは暇になった。

「ちよつと話いいか」

同じく暇している赤い人の隣に座ろうとしたらキサカが間に挟まった。仮面の赤い人、ムキムキの男、少女、そんな状態で世間話をしているとカガリは少し真剣な顔で訊ねた。

「なあ中立のオーブが連合のヘリオポリスでMSを造つてたのどう思う？」

コソコソと中立違反をしていた自国をカガリは良く思つてないようだ。シヤアは少し考えてから答えた。

「巻き込まれた事には思うことはあるが……オーブが連合に協力するのは此と違って特に問題あるとも思えないが」

「え」

予想外の事を言われたとばかりの顔だ。

キサカも意外そうな顔をしていた。

「問題あると思わないのか!？」

「中立国がどちらかの陣営の兵器開発をするのは良くあることだろうか？」

「……よくある事だったか？」

あくまでも彼の知る中立国のイメージで実際には不明だ。

「そ、それじゃあオーブの中立についてはどう思う？」

「中立自体は別に良いと思うが……」

中立国が中立国と認められるなら相手からも中立と認められる必要がある。認められてないと中立でなく孤立してるだけになる。

オーブの立場。

地球が一丸となつてプラントと戦おうという事で連合が出来たのに、オーブ等は中立を宣言した。オマケにニュートロンジャマーで各国が甚大に被害を受けるなかで、地熱エネルギー利用をしていたオーブの被害は軽微で。更にコーデイネーター等も多数国民として要している。……

交戦国同士だと交渉も拗れると交渉するために中立国を通す場合もあるが、オーブは別にプラントとの関わりが深いとも。食料輸出など他の国の方がプラントと関わりがあるだろう。交渉の緩衝の為の中立国にもならない。

戦線や戦場を選ぶ為の中立もあるが、宇宙から来るザフトと島国のオーブではほぼ影響もない。

プラントは分裂してる方が都合がいいとして、連合がオーブの中立を認める理由はどこか……。

無価値で放置されて中立もあり得るが……マスドライバー、地熱エネルギー、資源コロニーや宇宙の軍事施設、高い技術と満遍なく価値はある。中立と認められる理由が無い。好かれる要素もない。奪うものはある。オーブはとても危うい。

と、シャアは中立で大丈夫なのか心配な点をあげた。

「……少しは遠慮しろよ」

自国への遠慮のない辛口な評価を聞いてカガリはひきつった顔をするしかない。

「其から考えたら兵器開発の協力ぐらいは仕方ないんじゃないかと思える」

「オーブの立場だと連合の兵器開発は仕方ない?」

「そうだと思うよ」

オーブの中立違反の行動を、回りくどく擁護してくれた様に思えた。他国の人間に自国の擁護をされたと思うと、カガリは何にしてもオーブを悪く思っていない事には感謝した。しかし許容はできなかった

「それでも中立はオーブの理念だ…理念を汚す行動はダメだ」

赤い人は何かを言いかけて口を閉ざした。しかし言わなかった言葉は別の所からでた。

「理念って…ただの中立に成るときの方便ですよね?」

艦の操縦席に居るラルフが笑いながら言った。

ラルフはメカニックとしての腕は一流、人格も常識的、しかしたまに失言をポロツとするのが欠点。

「……」

カガリは無言で拳を握つてラルフの元に向かったので、キサカは羽交い締めする事になった。

ユニウスセブン跡。

ユニウスセブンに着く前に、ジャンク屋の仕事だとカガリの（カガリを乗せてない）船は待つ事になった。

お嬢様がごねると思ったが不満な顔をするだけで何も言わなかった。別にシヤアたちには護衛なんてする義理もない。善意を利用してだけの立場だと判っていたようだ。

まあさつきと先に行きたいとは言ったが其所は連合兵士が止めた。新型艦を迎えに来た艦隊を、ザフトが放置してるのか怪しいからだ。

『少し其所の瓦礫を退けてください』

残骸を掻き分けて進む輸送艦。小さなモノなら問題ないが大きな残骸は赤いMSで退かしていった。なぜかカガリもジンに乗って事故を起こしそうな動きながら瓦礫を退かしていた。ストレス発散らしい。安全運転なら問題ないと許可された。艦内からモニターで見てるキサカはストレスで胃がギリギリしていた。

『ま、まだなのか』

ジンの操作は大変なのか汗を掻いていた。

『もう少し奥辺りに拠点があるそうで……どうしましたキサカさん』

『レーダーに熱反応が、反応が動いてる』

『ジャンク屋の人ですかね。其方から何か見えませんか』

「……………ジンが見えるな」

『は？ジン？』

カガリとは別のジンがユニウスセブン跡を移動していた。シャアの機体に引つ張られ二機は残骸の影に隠れた。

『…………ドレン、この業者はジンを使っているのか？』

『いえないです。ナチュラルだけしか居ない業者の筈でした。普通はナチュラルでジンは動かしません。あとドレンじゃないです』

暗にカガリは普通じゃないと言われていたが、それどころでないので本人は気付かなかった。

『な、ならザフトか!?!なんでここに!?!』

『あのジン…何かを探してるように見えるな』

『業者が居るのがバレたんでしょうか……………どうします』

『出来ればやり過ぎしたいが、ん?』

『な!?!』

ジンが爆発した。

カガリの角度からは解らなかつたが赤い人には光が貫いたのが見えた。

『爆発物でもあつたのか!?!』

カガリは残骸の中の何かが原因なのかと周囲の残骸を警戒し、隠れていた残骸から離れてしまう。

『ツチ!』

『な!・うわあ!?!』

『何をして…!!』

赤い機体がカガリのジンを蹴る。キサカが怒鳴るが閃光がカガリのジンの居た場所を通つた事で言葉が止まる。蹴られて飛ばされてなければ……

閃光が発射された方向、其処には…ライフルの銃口を此方に向けて構えたガンダムがいた。

第84話

シヤアと別れた後、キラはMSを降りるとナタルにより機密保持を理由に拘束された。友人たちも同じ扱いだ。外にザフトがまだ居る事が確認され戦力と人手を欲したと言う理由もある。アークエンジェルに乗りヘリオポリスから出る事になった。

それに伴い万全でない補給状態で出ていく事になった。ヘリオポリスは無事で補給は出来ないことも無かったが、ザフトがまた攻めてくる可能性があった。戦力が無い状態で援軍が来るまで籠城する事は悪手、それに民間人の学生を拘束しているのが問題だった。万一にもヘリオポリス内で発覚したらどうなるか。解放を要求されても解放は出来ない。内にも敵が出来る。

ザフトは追撃をしてきた。

キラの友人のアスラン・ザラを筆頭に連合から奪った4機の新型機を投入してきた。

キラは友人達を死なせたくない一心で友人を相手にストライクで戦った。

味方は強襲揚陸艦のアークエンジェルにムウのみメビウスのみ。

ムウは異名があるほど戦闘機乗りとしては強くMSを相手にも戦えるが、戦力としてストライクよりは下。

相手の奪われた4機のMSは、ストライクとは特色は違うが総合すれば性能差はそれほど有る訳でもない。機体の性能は大差ない。更に相手は正規の軍人でキラはド素人。援護はあったが、どう考えても勝ち目はないが…そんな中でキラは相手を撃退し。相手に手心を加える相手が居るなにしてもキラの異常性が見える。

撃退したが追撃は続いた。

速度を考えれば最新のアークエンジェルでなら、逃げ切れるだろうが水など諸々足りなくなる。

補給を頼みに連合所属のバリア装備で堅牢なアルテミスの傘等に向かう。無事に入れたがしかし歓迎はされなかった。

同じ連合でも所属は違う。しかも正式に出る前でアークエンジェルは味方と登録されてない。そんな最新の戦艦がMS付きで入ってきたらどうなるか。まるで因果応報の様に今度は自分達が拘束されるはめになった。

皮肉にも奪われたステルス特化のブリッツの攻撃により、バリアを張る事も出来ずアルテミスの傘は陥落、混乱に乗じて逃げられた。

しかしアークエンジェルに補給は当然できず状態は更に不味くなった。水不足が深刻。

苦渋の決断としてアークエンジェルは補給を有るところから現地調達することに。

アークエンジェルの居る地点から調達できるのは：ユニウスセブン跡から調達する事になった。

ユニウスセブンを核で吹き飛ばした連合所属のアークエンジェルが調達する。ザフトにバレたらとても不味い所だ。

ユニウスセブンに入り調達。

学生たちも手伝わされた。

キラはストライクで調達をしているとユニウスセブンにてジンを見付ける。普通に考えれば追撃してきた相手、キラは初めは手を出さずにいたが、ジンが見付けた素振りを見せ撃破するしかなかった。

すぐ後に二機目のジンを発見。

そのジンも当然だが射った。

当たると思った攻撃は回避された。

「蹴られた!？」

MSの足らしきモノで蹴られた反動で避けられた。

蹴られたジンの影で見えなかったがジンが蹴飛ばされ赤い機体だとはわかる。まだジャンクの影で全体は見えないが：

「あの機体は」

手が出てきて蹴ったジンを引つ張り入れ替わる様に出てきた。全体像が見えた。ジンは違うが系譜は同じと思わせる機体。キラが何度か見たこともある。プログラム等も担当し直接見たこともあるシヤアの機体。

「…間違いない。あの機体、シヤアさんの…」

先ずキラは考えた。あの機体は自分が協力したシヤアの機体なのか。それか同型の機体なのか。

シヤアの機体とすると、シヤア自身はヘリオポリスにいる筈。もしヘリオポリスに居なくても偶然にもユニウスセブンの跡に来て居るわけがない。と考え同型の機体。

ジンと一緒にいた事を考えるとザフトが作った？

「ザフトに機体の情報が流れてた？」

シヤアの機体の情報がザフトに流れていたとして誰が流したのか。

「シヤアさんは…：多分違う…：かな？援助してたらしいジャンク屋か、それかドレンさんが…」

知ってるだけのスポンサーの見知らぬジャンク屋は兎も角、赤い服に仮面の変人より信頼性が薄いメカニックが居るようだ。

「何にしても倒さない」と…」

ただ自分の関係した機体。シヤアに少し悪いとは思ったが特に容赦する理由がない。

ジンより赤い機体に狙いを変えてライフルを撃ち込んだ。
避けた。

「……射つ前に避けた？」

キラは続けて射つ。次も避けられるが打ち続ける。徐々に赤い機体にビームの光は近付き始めた。赤い機体はこのままだとジリ貧だと思ったのかガンダムに向かい加速した。

「加速がジンより速い！このデブリの中で!？」

デブリを縫う様に赤い機体がガンダムの元に向かう。まるで減速しない。パイロットの腕の高さがわかる。何よりキラを驚かしたのは動きのパターン。

「あ、あの動きボクがプログラムしたヤツのまま」

行き過ぎた設定でマトモに動かせないと思えたプログラム。そんなプログラムを平然と使う相手が近づいてくる。キラは先程より慌ててライフルを射つ。避けられるかビームはデブリが盾になり当たらない。ビームを射つ瞬間に避けるかデブリを盾にする様に動く。まるで見えているように

「周りの空間の全てが見えてる……？」

ライフルを射ちすぎエネルギーの残量が少なくなっている。このまま射つても当たらないと、キラは落ち着いて相手の動きを観察して狙いを定める。距離はもう間近だ。

キラがこの距離まで引き付けたとも言おう。

「このタイミングなら見えていても！」

盾になるデブリは無い。盾になるところかデブリが邪魔で回避は困難。今度こそはと必中を予感した。だが予感の直後、射つ前に赤い機体の足が動く。どういう空間認識能力と操縦技術をしているのか、MSを人間と見ればサッカーボールほどの大きさしかないデブリを蹴った。それはガンダムの方に向かった。

引き付けたお陰で距離が近く直ぐに到達する。

「くっ！」

飛んできたデブリを避ける。PS装甲で無傷なのに反射的に動いてしまった。普通の機体やパイロットなら反射的にも動けない。ストライクの性能とキラの並外れた能力の高さが仇になった。最高のタイミングを逃したとキラは苛立った。

苛立ったせいで避ける時に視界から間近に来ていた赤い機体を外してしまった事への対応が遅れる。次に見たときには赤い機体が、肩の刺を前面に出した体当たりをしてきた姿だ。

「うぐわ?!」

PS装甲で防げて無傷でも数十トンのモノがぶつかってきた衝撃までは無くならない。コックピットに上手く当てたのかコックピットの中でキラは激しく揺さぶられた。

普通なら気絶するかもしれないがキラの意識はまだあった。耐久力が可笑しいのか軽く首を振っただけで建て直し、近接戦になると咄嗟にライフルを離しサーベルを抜く。だがまるでキラの意図を事前に知った様に赤い機体は、自分から近付いた距離をアツサリと捨て距離を開けていた。

「……」

シヤアの機体と同じスペックとすれば性能はジンより少し上程度、性能はストライクの方が上なのに翻弄されている。キラは厄介な相手だと一滴の汗を流した。

『き、キラ大丈夫か!!』

トールの声にキラはバツと視線を動かした。避難してると勝手に思っていたトールは避難せず心配してまだ残っていた。非武装のデブリを回収する作業用の機械でだ。

「トール！こんな所にいちやダメだ！逃げて!!」

キラは必死に逃げる様に伝えた。だがその伝えようとした事が赤い機体にも伝わったのか、赤い機体はトールの方にモノアイを向けて目を光らせた。

「や、止めろ！学生で武器もないんだ!!」

通信回線を開いてキラは叫んだ。

赤い機体のモノアイはまた光った。まるで良いことを聞いたと言うように…キラはゴクリと息を呑んだ。

次に赤い機体からの通信が聞こえた。

『その声はキラくんか』

よく知った声だった。

「は、え??え??しゃ…:シヤアさん??」

『やはりキラくんか。なんでまだその機体に乗ってるんだ?』

キラは友人と戦場で出会った時よりも混乱したかもしれない。

キラは混乱から立ち直った後にシヤアにこれまでの事を話した。

『なるほどそんな事があったと…:随分と活躍もして…:ガンダム主人公だろおめえ』

此までの騒動の話を聞いてシヤアの口から自然と前世の言葉がでてきた。

「え?主人公?」

『ああ、いや、何でもない』

「シヤアさんはなんで此処に?ジンと一緒に居ましたがまさかザフト…」

『いやザフトとは関係ないよ。あのジンは売るのに回収した機体で乗ってるのもオーブのお嬢様だ』

「お嬢様…?」

『なんで此処に居るかと言うと簡単に言えば君とは違う厄介事に巻き込まれてね。地球

方面に行くことになったんだ。その途中で此処にも寄ることになったんだよ」

「そうなんですか」

本当に簡単な説明で良く判らなかったが、少なくともザフトとは関係なさそうと安心した。それと何か巻き込まれたと聞いて運が悪いのは自分達だけじゃ無いんだなとさらに安心した。

キラはハツと何かに気付いた。

「あ、あのスミマセン、勘違いでシヤアさんを射ってしまつて!!…それと…あ、あの、も、もしかして…僕の落としたジンに乗つてたのは…」

キラはシヤアの知り合いを、ザフトでもない相手を間違いで殺してしまったのかと顔色を青くし声も震わせた。

『いや特に知り合いでもないよ。恐らく君達を探してるザフトのジンだったんだろう』
「そう、ですか。」

キラは間違いでなかったと安心した。しかし人を殺して安心した自分に自己嫌悪も感じた。

『ふむ、ザフトに追われてるなら早く物資の調達を急いだ方がいいな。何かの縁だ手伝おう』

シヤアは話を変えるように切り出した。

「…あ…ありがとうございます」

『その前にドレンへの連絡だな。連絡が終わったら手伝うよ』

「はいお願いします………ツールどうよう」

キラは感謝してから、通信が通じてるのになんと黙ったままだったツールにどうするか話しを振る。

『え、いや、取り敢えず艦長たちに連絡して説明した方がいいんじゃないか？』

「…どう説明したらいい？」

『………そこは…うん、頑張ってくれ!!』

シヤアは向こうに連絡した。キラの現状を聞いてラルフは同情し了解し、売る仕事は自分の方でやっておくと言ってくれた。カガリも来ようとしたが流石に売る時に困ると戻された。

連絡を終えたシヤアはキラ達の方を向いた。

『…それは？』

シヤアはキラが牽引しているモノに疑問を感じた。少し前の救助中に結構みたモノだった。

「まだ機能してる救助艇が漂ってたんです」

別に人命救助をする事に何か言うことはなかった。まあ苦勞しない側だからだろう。アークエンジェル乗員の立場ならこんな時に何をしてるんだと思いきや、

『こんな所に?』

普通の人は近付くわけもないユニウスセブン跡に漂ってた救命艇。危ない中身が入ってる気がして仕方なかった。なんだか救命艇が禍々しくも見えてきた。

第85話

マリューたちは物資調達をしてるキラたちからの通信で、ジャンク屋のMSが物資調達に協力してくれると聞いて困惑した。これ迄の道中を思い出す。学生を酷使し過ぎたのかとムウやナタルは真剣に話し合った。しかし本当に赤い機体が来て更に困惑した。

で、困惑させた相手は物資だけを置いてサツサと去ろうとしたが、マリューはお礼を言いたいと引き留めた。相手は通信すら開かなかったがキラが説得し何とか格納庫に入って貰った。

そうしてて赤い機体から降りてきた相手を見て：納得できた。機体の色と服の色を見てだろうか。

縛られ二十代でネコミミという辱しめを受けたマリューは、去って貰った方が良かったと後悔した。ムウは何か気に食わないのか舌打ちした。アークエンジェルで比較的マトモに対応できそうな首脳陣はナタルだけだった。

「物資調達のご協力に感謝します。しかし貴方はジャンク屋ですか。……学生ではな

かったのですか」

え、学生？こんなのが学生と名乗って学生と騙されたの？という視線がナタルに刺さる。ナタルは顔を少し赤くした。

「このMSを造るのにヘリオポリスの教授に学ばせて貰っていた事もある。大卒では学生の一種とも言えないか？」

平然と暴論をのたまう相手に大半はナタルの様に飽きられ、ムウやマリユの額には青筋が出来ていた。その顔を見て言葉を追加した。

「連合ではジャンク屋と言えば印象が悪いと思つてね。隠すのも仕方ないだろう？」
「……」

確かに印象が悪いのは間違いではない。理由があつても騙された側としては気分は悪いが、善意か怪しいが物資調達に協力してくれた相手に強く文句も言えない。

「名前はシャアらしいですね。偽名を名乗ったのは後から私達に調べられても問題ないようにですか？」

「……そんな所かな」

「そうですか。……まあそれはいいです。ヘリオポリスにいた貴方が何故此処に居るんですか。ジャンク屋の仕事としてですか？」

それはユニウスセブンに墓荒しをしに来てるのかと暗に聞いていた。ジャンク屋が

此処に居る理由は他に考えられない。まあ自分達も同じ墓荒しの立場だがそれはそれとして不快には思った口調だ。

「ジャンク屋としての仕事もあるが、此方にきた理由は護衛みたいな事で人を届ける事になったからだ」

「護衛ってそのMSがあるからか？そのMSは何なんだ。ジャンク屋で開発したのか」

ムウがMSを見ながら睨むように聞いていた。

「……」

聞こえてないように無視した。

ムウの額の血管が浮かんで見えるようだ

「あのその機体はなんですか」

「ただのジンをリペアして改造した機体だよ」

マリューが改めて聞くとアツサリと答えた。

確かにジンの面影もあり本当だと信じられた。

問題はマリューの質問には普通に答えた事だ。MSの事に関して黙秘するという理由でムウの発言を無視した可能性が無くなった。

「この赤野郎、ブツ飛ばして良いよな」

ムウのキレた様子を赤い人はまた無視する。殴り合いでも始まりそうな空気となりマリユールはあわてて話す。

「じ、ジンの改造機体ということは、貴方はコーディネーター…ですよね」

マリユールは失言をしたと思った。

キラがコーディネーターとムウが言った時の様に周りがざわめいた。

コーディネーターだと確認しても不和があるだけ、マリユールはコーディネーターと思っても敵（ザフト）だとは疑ってない。敵ならヘリオポリスでストライクが既に奪われているからだ。奪うきならネコミミ等やつてるわけがない。亀の甲な縛りもするわけがない。ザフトのスパイ扱いで銃弾を撃ち込んでも良い気がした。

「いやナチュラルだが？」

嘘をつくのも仕方ないと思う。コーディネーターブツコロと考えてそうな連合の艦、コーディネーターとバレルのはジャンク屋とバレルより不味い。と、嘘自体は仕方ないと思ったが……笑うような言い方にカチンときて突っ込んでしまう。

「そのMSを動かしていたんですよね。もし貴方がナチュラルとすれば何故動かさせているんです……まさか、ジャンク屋ではナチュラル用のOSが既に完成しているとでも？」

あり得ないと目と声が言っていた。

軍人のムウでなく民間人でコーデイナーのキラが機密の塊のストライクに乗っている理由は、ストライクのOSがナチュラルには使えないモノだからだ。開発してない訳でなく開発できていない。開発が困難で複数の国が集まった連合ですら今だ開発出来てないナチュラル用のOS、そんなOSが民間で開発されてる訳がないと考えるのは当然か。

「ジャンク屋でなく…少し特殊な出所のOSだがナチュラルの私でも動かせるモノだよ」

まだナチュラル用だと言い張る相手にマリユは少し考えてから言った。

「そのOSをコピーさせて貰うことは出来ないでしょうか」

ナチュラルが使えると信じてはないが技術者として、ジャンク屋ではどんなOSを使っているのかは気になった。

「別にかまわないが」

キラをチラリと見て躊躇いがちに頷くのを確認してから言った。ただしかしと付け加える。

「戦闘に対応してるかわからないOSだけどいるのかな？」

「なぜ判らないんだ。戦闘関係は一番肝心な所でしょう？」

「別に戦闘に使うつもりが無くてもね。だからそこら辺のプログラムを頼んでない」
「あー…ジャンク屋だから戦闘じゃなくて作業用の機械として使うだけだから？」

MSⅡ戦闘兵器と言う認識から違うのかとマリューは考えた。流石に作業用どころか観賞用だとは思いうわけも無かった。

「なんだよ戦闘に使えない役立たずか。俺もナチュラルに使えるOSあるならMSに乗れるんだって期待して損したな」

端からナチュラル用と信じてはなかったのに鼻で笑うように言った。役立たず辺りはわざとらしく赤い人を見ながら

「軍人が民間人のモノに期待するのが間違いだと思うよ」

「[[[.....]]」

ムウの発言は倍返しに痛い発言で返された。モノでないが民間人のキラに期待してMSに乗せてる側の心情としては痛い。マリュー達の心にもとぼちちりが来る。

「あの…救命挺」

キラは空気に耐えかねて放置されてた救命挺に意識を向けることにした。

「え、ええ！そうねキラくん！それを放置したままなのはダメね」

救命挺を持ってきた事に文句を言いたいナタルたちなども助かった顔をした。

「さて中身は何かしら…」

危険だと思ったのか銃を持った軍人が周りを取り囲む。シヤアはキラの隣少し後ろの方に立っていた。

「そんなに警戒するようなモノとは思えないんですが…」

キラは一番近くの赤い人に話しかけた。

「どうだろうな。何故か私はあの中身はとてつもなく危険な予感がするんだが…」

赤い機体を動かしていたシヤアがこう言うならと、キラは同じ様に救命挺に警戒の視線を向けた。

ハッチが開き中から出てきたのは…

「てやんでい」

警戒の空気が抜けた。

ピンク色の丸い物体は色を除くと、シヤアにはとても見知った形状だった。……ガンダムの主人公の間近にあるハ口。次にピンク色の髪の毛の何かが出てきた。

「……………」ゾワツ

それを見た瞬間に警戒していたマリユータちは更に気が抜けたが。シヤアの全身には鳥肌が立った。本能からこれ以上ないほどに警戒音、ガンダムに当たれば一撃で死ぬビームライフルで狙われた時よりも、最大級の警告を発していた。

「あ」

流されるようにキラ：いやシャアの方にくる。シャアには補食対象を見つけたら蛇が近づいてくる様に見えた。

「すまん」

「え!? シャアさん!？」

隣にいたキラを盾にした。

相手はキラにくつついた。

「あら? あらあら…此処はザフトの船で無いんですか」

「ラクス…クライン…クラインって、まさかシーゲル・クラインの…」

「はいシーゲル・クラインは私の父です」

「げ、現プラント議長の娘……」

良い大人が場所を考えずに頭を抱えたい気分か。

ニユートロンジャマーで人類を何億と死なせたプラント党首の娘。プラントでは歌手アイドルの美少女。そんな彼女の居るのは連合の艦、プラントに対して多かれ少なかれ気が立っている乗組員ばかり…

暴行かR指定まっしぐらな状況だがR指定は無い。残念なことにアークエンジェル

には良心のある人間しか乗ってなかった。何で虐殺などはセーフで性的なあれはアウトなのか。

ラクス・クラインの顔が平然としてる様に見えるのは天然なのか。演技なのか。演技で警戒するとすれば……ハロが最初に出てきたのは偶然でなく意図的だったと考えられる。警戒を緩めるためにわざと、さらにシヤアとキラの方に流れたのは一番身の安全をはかれそうな相手だと瞬時に計算して、計算高い演技の上手い少女……疑って見ればそう見える。赤い人にはガンダム主人公にヒロインが憑いたように見えた。

不貞寝をしたいのを我慢した様なマリユが何故救命艇に乗っていたのか聞いた。

「ユニウスセブンは慰霊の歌の為に来たのですが、船が攻撃を受けて私は一人だけ救命艇に乗せられたんです」

「……そうだったんですか」

慰霊の歌と言うのは有るとして……一人だけ救命艇に乗って助かった？

何でラクス・クライン一人だけなのか。他にもアイドルとしたらマネージャーなど戦闘出来な要員も乗ってたりしないだろうか。船が攻撃を受けて戦闘要員が残ってたとしても、船に乗ってた全員がラクス以外戦闘要員だったわけもないだろう。何でラクスだけ救命艇に乗せられたのか。

それにプラントの船が攻撃をされたとなると、攻撃したのは普通に考えて連合。それなのに連合の船に乗ってて平然としてるように見える。一人だけ助かって連合の船に乗って……不安でも恐怖でも怒りでも悲しみでも何かしら負の感情を見せるのが普通ではないだろうか。

いや仮に襲ったのが連合でなく海賊などとしても負の感情を普通は見せるはず

その認識の上で天然少女と言った表面を見せられたら不気味過ぎる!!と言うのが赤い人の感想だった。

「……」

「あらあら、其方の赤い方はどちらに？」

コツソリと赤いMSに向かう赤い人をピンクが見つけた。全員が視ることになった。

「……私は知り合いのよしみで少し寄らせて貰っただけの一般人だね。用事も終わったから去ろうとしてるだけだよ」

いや！厄介ごと（ラクス）に関わるのが嫌で逃げようとしたんだろう！と直前の内心を知られてたら言われそうだな。

「そうなんですか……」

ラクスが何か言おうとしている。言う前にこのまま去ろうと足を速めた。

アークエンジェル乗組員としては、素性の怪しいコーデイネーターに居てほしくな

い。しかし一人だけ一抜けされた様な事もイヤだという複雑な心情を抱かされた。

「ははは、待てよ。そう慌てて帰ることも無いだろう。ゆつくり調達の礼をさせてくれよ」

笑いながらそう言ったのはムウ、逃がさねーぞテメーはと言う強い（負の）意思がこもった目をしていて。物理的にも逃がさないと肩をととも力強く掴んだ。

「……………」

「……………」

赤い人と連合のエース、お互いの口元だけは笑っていた。

「イヤイヤ、折角のお誘いだが、護衛対象をあまり長く放置しておくのも問題でね……」

「その護衛対象てのもどうせなら此処に呼べばどうだ」

「何でだ。そんな訳に……別にいいか？君達と行き先はたぶん同じだろうし」

「ちよつと待て、なにか判らんが……やっぱ連れてくん。面倒な予感がする」

「……………」

それから暫く後

「サイ！貴方なんでここに!？」

「フレイ、き、君こそなんで」

「私は連合の人と一緒にパパを迎えに来たの！」

「フラガ大尉…ご無事だったんですね」

「ら、ラクスさま!? なぜラクスさまが…れ、連合の船などに!？」

「なんでお前がMSに!？」

「君は…シエルターに入れた娘だっけ」

「連れてくんなって言ったよなあああ!! 予想通り面倒な事に成ってるじゃねーか!」

「イヤイヤ、面倒とはなにかね。連合の人達とザフトの捕虜だよ。ついでに連合側の事務次官の御息女だよ。送る義理もないのに此処まで届けたんだ君達を感じるべきは恩だろう。文句ではなく礼を言うべきじゃないかな」

「恩の押し売り反対すんな!」

「さて、私は去らせて貰うよ」

「押し付けて去るな!!」

「押し付けるも何も元から大体が連合側が何とかする責任がある相手だよ」

「そこは…あれだ…連れてきたならもうお前にも責任あるだろ」

「酷い暴論だな」

「せめて艦隊と合流して厄介な…お客さんを向こうに送るまでは居てくれないかしら
…」

「何故向こうに送るまで」

「…問題を起こさない様に見張る手伝いをしてほしいの。其れぐらい手伝ってくれても
良いでしょう」

「此処に居ると問題に巻き込まれそうで嫌なんだが、まあ、艦隊と合流する間ぐらいなら
何も起き…何か起きそうだな」

「は？」

「何かってなんです。なにを想像したの」

「いや特に…想像なんて…合流する前に追つてのザフトに襲つてくるとか？」

「有りそうな話を…」

「なるほど、正解は合流する前に艦隊の方が襲われるだったと…」

よこしま

ヒーロー、それは英雄。

英雄、それは人々の憧れ。

憧れられる。それはつまり…女の子にも…モテる!!モテにモテまくる筈だ!!

ヒーローになって美人な女性に!可愛い女の子に!ボンキュボンのおネーさんに!ドツキン…げふん!モテたい!!これはそんな純粋な下劣な下心からヒーローを目指した…魂に刻まれるほど筋金入りのスケベな少年の物語である。

「ぜはあ……せひゆうう…げふ…ふう…こ、ここなんか」

ソコにいたのは平凡な顔立ちの学生服を着て額に赤いバンダナを巻いた少年。ボロボロで木の棒を杖みたいについてプルプルしている。救急車を呼ぶ必要があるか迷う姿だ。ここに来るまでに通報されたりしてないか?

「此処やんな。時間は…間に合ったん…か?まだ始まってへんよな。人居るし…大丈夫やんな?大丈夫じゃ無かったら泣く!…時間は…ふうう…ギリギリやけどセーフ

！ギリギリ：！！あの猿！！危うく間に合わなくなる所やったやんか！なーにが：極限状態で受けさせる為だ！絶対ウツカリ忘れてただけやろが！」

ヨロヨロして疲勞困憊な様子と思えば、元氣なのか。最後には天に向かって叫んでいる。

氣付くとなぜか少年の服が戻っている。先ほどまで倒れる寸前といった様子だったのに普通に歩いている。この平凡そうなのに何処か可笑しい少年は高校受験に来ていた。「まあ間に合ったんやからエエか。……エエんか？……人多いなあ」

師匠のお薦めに従った少年はどんな高校の受験かは知らない。倍率300倍という少年からしたら0が二つほど多い高校の受験。倍率に相応しい何百人、何千といふ多数の受験生、

「はあーえー……まさか、これ全員が受験生!? 確かワイが受ける試験には40人しか受からないとか聞いたぞ? ……この人数でって事なら倍率どんだけや…東大とかぐらいか…それぐらいやんな。…ふ、ふふふ…」
笑っている?

少年は合格する自信があるのだろうか!?

ん? 少年の顔から下を見ると…

少年の足はガクガク。

腰が引けている。

いやこれは間違いない…

ビビっている。

「ふ、ふざけんなああ!!合格難しいとか聞いてたけど!最上位の名門みたいな所受けさせるなや!こんなエリート高校にワイが合格出来るわけねえーやろ!!!」

少年は公衆の面前で騒いでいる。無駄に周りの受験生の注目を集めている。そしてなんでこの高校の受験を受けに来てるんだと至極当然の事を疑問視されていた。

心の底からほい叫びは自分に自信が欠片も無さそうな事と、そもそも受験する雄英高校についてよくわかってない事も伝えた。超有名な雄英を知らないって何れだけ世間知らず何だよ!と言うことは置いておいて、この受験に本人の意思で来てない?受ける高校がどんな所かも聞いてない?

何人が受験受けたフリをして帰れよと言おうか迷う。

「くそー!こんな確定で落ちる試験に落ちたら地獄の特訓をさせるって酷いやろ!」

ご丁寧に帰れない理由を叫んだ。

「今まで以上の地獄の特訓とか死ぬ…ワイ死んでしまう…確実に落ちる試験ならあんな発言なんて流石に無効やんな?無効にしてくれる…:わけないな!!あの鬼たちなら!!」

少年は頭を抱える。

「どうする……何とか回避出来へんか。いつそ間に合わなかつた事にして！遅刻も猿のせいにして……アカンか……アカンよなあ……ウソとバレル……バレたら余計に酷いことになる。くそ！何で間に合う様に来てしまった！そもそもなんでこんなエリート高校受験をしながらアカンのや！ワイはヒーローになれてモテれる高校に行きたいって希望だしただけやぞ！」

さつきから独り言にしては声がかい。

ドンドンと周りの目線が冷たくなつていく事には気づいてないんだろうか。

「……名門やから合格したらモテるって事だよな。女はイケメン、金持ち、高学歴が大好き。高学歴だけでもモテモテ街道一直線いけるか？いけたら……沢山の女の子から告白されたり、一夏の誤りとか求められたり！ウツフンな事があつたり、アツハンな体験も！あわよくば合体イベント!!……ぐふ、グフフフフ」

此処に居るのは英雄のヒーロー科試験の受験者。最高のヒーローを夢見る受験者たちだ。

合格した妄想でスケベな笑い顔を晒す。醸し出されるエリートとは真逆な三下感、人としての品性の欠片も見えない。少年は自業自得で周りから蔑みの視線を向けられていた。

いや

までよ！

この場の全員が同じ受験を受ける生徒。

40人しか入れない英雄ヒーロー科の席を取り合うライバル。少年もライバルの一人だ。

しかし先程からの醜態でこの場の全員が少年をライバルと、競争相手と認識しなくなっている。

これは……！

まだ少年が強いのか弱いのかわからない。見掛けが三下だろうとこの個性社会では個性によつては厄介な可能性もある。それに普通に考えて人前であんな台詞をはくだろうか。あんな台詞のせいで少年は見下されてライバルと見られてない。

ただ言葉だけで他のライバルを油断させたとも言える。計画的だとしたら少年は見事な策士ではないか！

「ぐふふふふ……いやあ！アカンよ！お姉さんたち！ワイの身体は1つやから……」

言い換えると本気なら真性のアホ。

それから少しして千人以上が座れる所で説明会が開始されていた。先程の少年も含めた多数の受験生が一同に集まった試験の説明会。少年も帰らずに説明会にちゃんと

来ている。試験について司会説明をする雄英の教師が現れて驚いた。

「今日は俺のライブによるこそ！エヴィバディセイHEY！」

司会をしているのは雄英の教師でプロヒーローのプレゼントマイク。金髪鶏冠にサングラスに服。教師？人気DJを兼業してると…ぼそぼそと誰かが話してる。有名な。少年は派手なおつさんやなと思うのみで視線と意識は別の所に向いている。

「……………」

少年は会場に入る前の醜態が嘘のようにキリツと擬音が付きそうなぐらい真剣な顔をしている。真剣な顔で他の受験生を眺めていた。

どの様なライバルが居るのか確認しているのか。その目は熟練の狩人が獲物を見るように鋭い。

先程のあれはやはり擬態か!!

(む、あの短髪の娘いいな!!おお!アツチのポヤヤンとした娘は胸がバインバイン!スイカ、メロン……むむ、なんだ女の子の服だけ浮いてる…は!?ままましやか、女の子の透明人間だというのか!?く!角度が!服の隙間が…!!)

真面目に聞いている他の参加者に謝れと言いたい観察を熱心に行っていた。そして説明をろくに聞いてなかった。

「て、ここと俺からの説明は以上!最後に雄英の校訓をプレゼントするぜ!彼の英雄ナ

ポレオン・ボナパルトは言った。真の英雄とは人生の不幸を乗り越えて行くもの！つてな！plus ultra（更に向こうへ）！それでは皆！良い受難を!!」

プレゼントマイクの締めという感じの声にツハ！とした。

（は！不味い！殆んど説明会きいてなかった！ポイントやら言つてたような…）

合格する自信は無くても流石に真面目には受けるつもりだ。真剣に受けてない事が師匠にバレたら怖いから。既に手遅れ。

少年は説明会が終わる頃に慌てて配られてた試験の資料を見た。

「ふあ！ロボットにポイントが付いている！ロボットと戦うんか!」

今更な叫びに何だコイツという視線を向けられた。

実技試験を前に着替えていた。

大体が学校のジャージ、もしくは自作らしき服を着てる受験者もいる。少年には此処に来る前に師匠から渡された実技に使えと言われた服がある。包装されていてここではじめてみた。みる前にワクワクドキドキしていた。格好いい戦闘服みたいなのを期待していた。

で、出てきたのは

「なんだこれ!」

出てきたのは青のGパンにGジャン。あと黄色いシャツ。随分と昔のオタク衣装か。良く言ってもセンスの古い普通の私服にしか見えない。しかも新しく貰った新品な筈なのに使用感がある中古のに見える。

「う、ウーン、これ服を間違えたとかじゃかないか？間違えてもこれ着るしかないよな。…これなら何時もの道着の方がええよな。折角用意してくれるならもつとカッコいい感じの用意してくれたら良いのにな。誰のセンスや」

ブツサ文句を言いながらも着替える少年、赤いバンドナはそのまま。着替えて鏡の前でシャキン！とポーズを決めた。その外見は！間違いない！！……そこら辺の一般人！！

「なんだか不思議とシツクリ来る。これ良い感じだな！」

初めて着たのにまるで何年も着てたみたいなさ心地、なんだか格好いい気もしてきた。少し前の文句を簡単に撤回……しようとしたら、ダサイという言葉が飛び交ったので涙目になった。

着替えてからは試験会場に移動。

「はー…学校の敷地でバス移動ってどんだけ広いんや」

幾つかのグループに別れてバスに乗っての移動。バスに乗る相手がライバルか。同じバスに乗る少年を見て一人ライバル候補が減ったなど喜んだ。

移動した先は町だ。町にしか見えない。町の入り口にスタートラインみたいなのがある。まさか……

「これ試験会場……」

この高校の予算がどうなってるのか少年はドン引き。

「とー試験会場よりもー」

今は試験の時間だ。直ぐに意識を切り替える。意識を切り替え……女子をみた。

(むふふふ、ボディラインが出てる女の子ばかりだ)

古今東西、色んな学校の女子生徒のジャージ等の服を胸と尻に太股など然り気無く、ガン見している。女子に気付かれて毛虫を見つけたみたい距離を開けられた。そんな変態少年は例外として他の参加者はスタートラインの近くで緊張を見せていた。

一人だけ試験に集中していない少年……だった……

「はいスタート」

説明の時はクドかったのに今度は酷くアツサリとしたプレゼントマイクからの開始の合図。

「いまスタート……って？」

全員にスタートとは聞こえていた。しかし普通はスタートの前によーい！など何

か言葉があるという認識がある。スタートして良いのか迷って動かない。

ただ1人だけが走り出した!!

それは醜態を晒していたジャージの一般人にしか見えない少年だ!

後ろの方に居たのに他の参加者が動かない横を通り抜ける少年。

少年は異様に速い。少年の個性は身体能力が増す増強系か? 違う。ならヒーローになるために猛特訓で鍛えられた素早さか? これもまた違う!

速さは実戦で鍛えられて産まれたもの! …少年の! その素早さは! …女性の着替えを覗いてバレた後に逃げたり等、様々なスケベ行為の為に鍛えられ産まれた産物なのだ

!!!

まあそんな速さの理由だが一人だけスタートダツシユに成功しているのが現実だ。

本来なら誰の目にも見える形でリード、出し抜かれた。出遅れた! と思う筈なのだ

…

少年を見る受験生の目は冷めていた。

「な、なんで誰もこんの!?! スタートしたらあかんかったん?! いやいやスタートって言ったやんな。え、聞き間違いました!?!」

先行しながらチラチラ不安そうに後ろを見る所で小者感を見せつけられ、あまりの小

者感に馬鹿が一人だけフライングしてるんじゃないか?という感じになっていた。

「HEY! ボーッと止まってる奴は早くスタートしなくて良いのか! スタートって言つたろ。実戦によーいドン! なんて無いぞ! ほら急げ! ハリーハリー」

受験生はギョツとし逆に少年はホツとした。

そして

「よっしやあ! やつぱ聞き間違いでなかった! 先行とつた!!」

先程まで不安がっていた癖に普通に先行していると判ると…。

「…」チラツ

「ププ」

走りながらちよつと後ろを見てププと小馬鹿にする感じに笑った。まるで君達たからおつそーい。え、なに、なんでまーだスタート地点にいるの?? え、ノロマなのか。亀なの。と笑ってるようだ。先程不安にさせられたお返しだろうか。小さい!

まだ始まったばかりで先頭をとつただけ気にする必要はない。だが前に行くのは校門前や説明会で醜態を晒した見るからに小者。この場に居るのはエリートばかり。エリートが見るからに小者な相手に出遅れてバカにされた。挑発としては効果抜群だ!

「くそおお! あんな、あんな奴より出遅れるなんて!! 負けるか!!」

「スタートに遅れただけ…まだいける!」

「あんなのに！あんなのにだけは負けたくない!!」

「ぶつとばしてやる…」

「(コロスコロス)」

「なんか怖い!!」

一部の怒りのボルテージが上がっていた。ちよつと怒りが激しすぎないか。

怒り心頭な受験生を筆頭に猪突猛進といった様子で走り出す受験生。狙いはロボットのなか？少年じゃないか？ポイントのあるロボットと少年が居たら少年の方を刈り取りそうだ！冷静さがみえない。は!!少年は挑発して冷静さを失わせたのか！挑発の効果は抜群だ!!

「ふあ!!ちよ、ちよつと笑っただけで怒りすぎやろ!?!」

少年は後ろから迫ってくる殺気まで感じる形相の集団にビビる。まるで下着ど…げふん、下着の持ち主が追い掛けてくる光景だと！

少年が一人先行。

そんな少年の前にあるビルの影から少年の進路を塞ぐようになにかが出てきた！

『ターゲットホソク!!』

「ロボ!?!」

少年は物影から出てきたのは二台のロボット。近すぎて止まれない！避けられない

！あと少しで走っている少年とぶつかる!!折角スタートダッシュに成功したのに開幕早々ダメージをおっつけてしまう!

「な、なんととおお!!」

あとコンマゼロ秒でぶつかる!と思えるタイミングでジャンプ!ビヨーンと不恰好な姿勢で跳ぶ!!上手くロボットのの上に乗った!!

パイ○ダーオン!などと言っていると後続のロボットが上に乗った少年を攻撃してきた。

「ふぬあ!」

少年は奇妙な悲鳴をあげながら避けるとロボットの攻撃が乗っていたロボの頭に直撃。開発者が装丁してなかった放電、爆発!攻撃したロボも巻き込まれて戦闘不能。少年は爆風に飛んだー

「ふんばあー!」

少年は地面にずベシヤツとおちたが直ぐに起き上がる。爆風に飛ばされたのにピンピンしてる。重症に成りそうな落ち方してなかったか?

「こ、こんな危ない所にいてられるかああ!!」

と、閉じられた場所での殺人事件で単独行動をして死体に変わってる犠牲者その二みたいな台詞を吐く。入口に戻ろうと後ろを振り向くと、ズドドドド!!と向かってくる

それから何日かあと少年の所に雄英から通知が届いた。

『横島忠夫くん、初めましてなのさ。知ってるかなボクは雄英高校校長の根津！此方の事情で悪いけど時間が押してるから早速試験の結果について話すけど…君の試験のポイントについて意見が色々あってほんとーに！時間がかかったのさ！それで君が獲得したポイントだけ…86！君は雄英高校ヒーロー科試験に首席で合格なのさ！』

「いざ出陣じゃー！」

気合を入れ何処かに向かう横島。

何をするつもりだろうか。

ヒント1、横島はエリート高校生なら女の子にモテると思っっている。

ヒント2、街中に制服を着用した横島がいる。

ヒント3、道行く女性を鼻息荒く見ている。

正解は…

「其処行く綺麗なお姉さん！どうですボクと一緒にお茶でも！」

「急いでますので」

「そ、そうですかー。残念です。また今度！ご縁がありましたら！あ、そのの！かわいいお嬢さん、お一人のようですが…どうです。ボクと一緒に何処かに行きませんか！ボクが何処にでもエスコートしますよ！」

「……」ガン無視

「キュートなお嬢さん!!ボクとあそ「邪魔」…はい」

「へい！彼女！お暇ならボクと遊ばないかい！」

「ナンパするなら顔を取り替えてください」
」

横島は雄英の合格を記念してナンパを敢行。制服が届いて直ぐにナンパ、恐らく歴代の雄英の生徒の誰一人もこの様な事をしたことはないだろう。たぶんない。…葡萄頭。

それは！ともかく!!これまで一時間足らずで99人に対してナンパを実行。ナンパ成功率は堂々の0%!命中率ゼロ!!成功なるか!?期待感で言えば9回裏スリーアウト!!じゃん拳で言えばパーを出してチョコキに勝てる確率!

「…どういふことや。雄英の制服着てるのにナンパに成功しない!?あのあと調べたら雄英とんでもないエリート高校やったぞ!雄英高校の生徒ならモテにモテまくるって嘘やったんか!?雄英に騙されたんか!」

騙すも何も雄英のうたい文句に合格すればモテるなんて無い。ないが全国的に有名なエリート高校の合格者は普通ならモテる可能性は多い。なのでモテると言っても嘘にはならないか。ならなんでナンパが成功しないか。例えば雄英の制服で成功率が五十上がるとして、元々の成功率がマイナス100で成功するかどうか

「まだだ!!まだあきらめへんぞ!!」

横島は不屈の闘志、不純なエロ心を燃やしナンパを続行する!次で100人、100にして諦めなかった結果、誰も止めなかった結果、100人目にして!!

「その綺麗なおねえさん！ボクと遊びませんか！」

これまでより声に気合いが入ったナンパ！相手は美人、もう！男が理想とする感じの“作り物”に見えるぐらゐの美人！！服は男を誘つてるように！胸元が開いてミニスカートときわどい！高嶺の花！身の程知らず！こんなの相手にされるわけがない。またすげなくあしらわれるに決まつてる。内心、横島も自分でもダメだと諦めていた。

しかし！！

「あら、かわいい坊や。私と遊びたいの」

先程までと違つて好意的な声色！これまでと違つた反応！予想外の反応に横島は期待に胸を高鳴らせ興奮する！なにか嫌な予感もしたが興奮に打ち消された！！

「！！は、はい！あ、遊びたいです！！遊びたいです！！」

「あらあら元気なお返事ね。ふふ、いいわよ。じゃあ…その路地裏に行きましようか」
「ろ、路地裏…」

どう考えてもあれな発言に横島はゴクリと唾を呑んだ

「あらいヤなの？…オネーさんと路地裏で遊びたくない？」

「い、いえいえ！！滅相もない！！ふしよう！横島忠夫！お姉さんにどこにでもついて行かせてもらいます！！」

「なら行きましよう。オネーさんが楽しませてあげるから…」

「うおおお!!! 路地裏って! あれか! あれだよな!! ピーピー (修正音) なビデオにありがちなあれなんだよな!!! こ、これは噂のビツ〇お姉さま?!)」

横島はホイホイ、自分の本能が鳴らすサイレン並みに煩い警報音を無視して人が居ない路地裏についていく。横島は興奮しながらホンの少しの冷静な一部はどうせ美人局とかだろなと思う。念のため美人局オチではない。

それならまだ…救いはあつた…

横島と美女は路地裏に

誰もいない薄暗い路地裏

獲物が入ってしまう

「ふふ、此処で遊びましょうか。ぼうやこ言うのは初めてかしら?」

「は、はい初めてです!!」

「…嬉しいわ。坊やの初めてを奪えるなんて」

「は、初めて奪う!?! やっぱそういう事ですか! そういうことをしてくれるんですか! ふ

おおお!!!」

「ふふ…喜んでくれて私も嬉しい」

ガツシリと肩を掴まれる。

「あ、あれ、ちよつと予想より力強いですね」

「そうかしら」

その声は野太かった。

「あ、あれ、なんか声が低く聞こえたようなあ…あれれー、の、喉に…さつきまで無かったものが?」

喉に喉仏。

喉仏がある…性別は?

横島はダラダラと汗をながしだす。ようやくさつきから最大音量でワーニン、ワーニンと本能から出てる警鐘に気がついた。

美女の身体がゴキリゴキリと膨張していく。

この個性社会、変身能力を持った人間も普通に居たりする。変身能力で悪質な事をする人間も居たりする。例えば変身能力を使うために必要な血を無理矢理吸ったり。例えば女装好きの変態がいたり…類似して美女に擬態した肉食系のガチムキなホ○がいたり。

「あ、あのー…おねえさん、なんか身体が大きくなってませ…ん…」

「これが本当の身体なの」

「わープロレスラーみたいにマッチョですね」

ボイン

「お顔が…ラオ〇さまみたい」

「ふふ恥ずかしい」

バイン

「…下に…ご立派なモノが………」

ドゴン

「これから貴方に入るのよ」

「……………」

「さ、初めてを奪ってあげるわ」（野性的な野太い声）

「いやあああああ!!!そんな初めてはいやああああ!!!おたすけえええ!!」

数時間後の違う町、電柱から顔を出しブルブルと震える横島がいた。

横島の顔や首にはキスマークみたいなのがついて、上着は乱れ、ズボンがナゼか脱げかけてるが…追及してはダメだろう。気にしてはダメだ。助かったと思おう。ボラギノールをあげよう。

「はあはあはあああ…も、もももも、もうおらんよな…あ、あの化け物から逃げきった……にげきった!?!た、たすかった!?!よがっだ……こーこわかった。こわがっだ…」

！」

よほど怖い体験をしたのか。ぼろ泣きだ。ナンパを99失敗、100で怖い目にあう。普通ならここで二度とナンパなんてしない！と、なるだろうが、普通は帰るだろうが

「つ…次こそ、次こそ！ナンパを成功させる!!」

とやる気は消えてなかった。いや、今はエロ根性が理由というより…ナンパ成功(?)の一件があんなのは絶対に嫌だったからか。切実に記憶の上書きを願ってるのだ。涙で濡れた顔を見たらそう判断せざるえない。

勇気をもってナンパを再開しようとしたが…

「ねえその君、ちよつと良いかしら」

後ろから女性の声、それも美人だ！（声から判別）。まさかの逆ナンか！と横島にはあり得ない事を想像しながら目をキラキラさせながら振り向いた。さっきのあれで警戒しないんだろうか。

「ちよつとよろしいですよ！なんででしょうか！お姉さ…ん…」

其処に居たのはピッチリしたコスチュームな女性、ボディラインがバッチリでいる。十人に聞けば十人がスケベな格好と答えるドスケベ衣装。何時もの横島ならそのエロい格好に喜ぶが、いや、鼻の下が延びているので喜んではいられないようだ。しかし同時

にヤバイと冷や汗も出ている。

衣装から見て相手はどう見ても痴女、違う。女性プロヒーロー。お巡りさんに声を掛けられた様な感じか。お巡りさんに声を掛けられる。即座に逃走の二文字が浮かぶ横島……後ろめたい事（前科）がある人間の思考だ。

しかし待ったと思う。

（てーいやいや別に今回は逃げんでもいいやん。ナンパしかしてないし）

今回は別に悪いことはしてないので逃げる必用がないと、堂々としてればいいと思うが…

「な、なんのご用でございますか」

なんで挙動不審になるのか。

「いえね。少し前にね。女性に声を掛けてる雄英生に擬態した変質者が居るって通報を受けたのだけど…」

ヒーローの目は完全に横島が通報された変質者だとみている。横島を変質者と認識している！なんて酷い！横島を変質者とみるなんて！この女性ヒーローの目は節穴でない！

「その変質者がオレ!? ちゃいますよ！ オレはちゃんと合格した正式な雄英生ですから人違いっすよ！」

「……へー……仮にもし本当だとして、ナンパはしてたんではよ。本物の方が問題あると思うんだけど……雄英に確認してみても良いの？」

（雄英に連絡して確認されるの不味いんか？）

ナンパぐらい良いだろ……と思うが、ナンパしてた事を雄英がどう見るか。怒られるか……いやエリートイメージ的に最悪まだ初日登校もまだなのに停学、最悪合格取り消し退学。

いや横島としては雄英の退学は問題でない、せつかく合格したのにナンパで退学＝激怒する師匠達＝師匠達の物理的なお怒りを受ける＝命の危険。

「ちよーちよつと待つてくだせえ!!な、な、ナンパには理由あるんすよー!」

「へー……どんな理由があるのかしら」

「えーほらー!オレ、雄英に入つてヒーローを目指すんですけどね!俺小心者な人見知りですてね!ヒーローになるなら人見知り直してあとヒーローなら度胸も付けないといけませんよね!なんでナンパで鍛えてたんすよ!」

などと横島容疑者は供述をした。

「色々突つ込みどころはあるけど……はあ……まあ……いいわ。通報されたりもするんだからナンパはもうしないでね」

嘘臭い矛盾ありなツツコミどころが複数の発言。しかし雄英の制服に”似せた服”

を着てナンパをただけだと、軽く注意されるだけで終わる。欠片も女性ヒーローから横島が本当の雄英生だと思われなかったお陰だ。

「あ、ちよつとまっけてください！」

「なに」

横島としてはエロいおねーさんをもつと見ていたいと言う理由で呼び止めた訳でない。女性ヒーローに横島はちゃんとおぞましい…ナンパ100人目の事を伝えるためだ。

「そんなのが居たの」

「はい！襲われかけました！是非ともあの変態を捕まえてください！！」

ヒーローの女性は横島を見て何か言いたげに軽く溜め息をはいた。

「その変質者の情報は前にも聞いたことはあるわ…この近くに居るのね…：私はその変質者を探しに行くけど！念のためもう一度いうけど！ナンパはしないでね。少なくとも雄英の制服を勝手に着てやっちゃダメ！雄英に理想像があつてその理想を壊してらつて襲つてくる過激な人も居て危険なんだから！他のヒーローも近くに居るからね！」

「わかりました気を付けます！…ご苦労様した！」

ビジッと敬礼して見送る。

そして見えなくなるとペツとつばを吐くワルエロガキ。

「くそう！近くに他のヒーローも居るならナンパは無理か。前もヒーローに邪魔されたし：毎度毎度ナンパを途中でヒーローに邪魔されるな！なんとかヒーローを出し抜いてナンパが出来ないもんかな…」

全国トップクラスの高校のヒーロー候補生になった人間の台詞である。とはいっても英雄の制服を宛にしたのにコスプレとか思われて更に危険な可能性があるときいた。雄英の制服を着てのナンパの再開は：今日は止めておく事にした。女性ヒーローのエロい姿で満足する事にした。ナンパ百人目の記憶はむりくり上書きできたのでラツキーか。無駄にポジティブ。

「はー…：日も暮れてきたしもう帰るか」

今日はナンパは出来ないかとトボトボと帰る事にする。あきらめた訳ではない。英雄の制服は着るのは止めるが明日またヒーローが少ない所でナンパをやるつもりだ！不屈という点だけ見ればヒーローに相応しいか？

「必ず明日こそはナンパを成功させる！明日が無理でも休み中に！なんとしても！」

そう沈み行く太陽に不可能な事を誓う横島。

「あれ、そういや…：なにか忘れてるような」

今日はもう終わる。一日の終わり。一日の終わりを意識すると横島は何か忘れてる事が有るような気がしたが、気のせいかと帰った。

今日は修行の日だった。

制服を見て即ナンパに行つた横島は無断でサボつた

休みの間、再犯（ナンパ）は無理となつた。

一般的にいつて地獄の始まり

雄英一年となる生徒達の初登校日。

雄英とい：知っていれば大抵の少年少女が憧れる高校。入るには300倍という難関を乗り越えなければいけない。

多かれ少なかれ誰もが喜びと緊張で初々しい姿を晒していた。チンピラみたいな態度の生徒もきつと緊張してるのか？してるんだらうきつと

そんな生徒達の中、誤解の余地もなく：

「生まれる前から愛してました!!」

「え、：生まれる前からですか？」

緊張感もなく醜態を晒しているのはコイツぐらいだらう。

横島も初めはナンパをするつもりもなかった。くる前にナゼか自分の事を先生と呼ぶ師匠の中では一番甘い相手にクラスメイトをナンパしたらいけないでゴザルよ！と強く言われ、ナンパを自重しようとは思っていたのだ。

しかし：しかしだ！クラスメイトにオツパイが特盛で美人な同級生のお嬢様ぼいのを目にしてスケベの化身が我慢できるだろうか？出来るわけがない！！自重がスコンと何処かに飛び成功率脅威の1%未満のナンパを実行！（成功例は♂のみ）

驚愕の視線が集まる。コイツやりやがったという視線だ。エリート高校、チンピラみたいなのが居ただけでも驚きなのに、まさか初日にナンパ行為に及ぶとんでもないのまでするとは予想だにしていなかった。

「生まれる前からですか：：つまり私と前世でお知り合いという事でしょうか。申し訳ありません：：前世の事は覚えていませんので」

妄言のナンパ発言を真に受け申し訳なさそうに答えてる女子にも驚かれた。生まれる前とかあるわきゃやない。いや横島だと生まれる前からという発言は確実に嘘と言えないのだが今回は違う。

（この娘天然さんか！天然系のお嬢様か！）

天然だと認識した。

横島は天然に漬け込んで更に攻めるか？

「き、気にしなくてええよ！ええと…できれば此れから、クラスメイトとして仲良くしてほしいな！名乗るの遅れたけど俺は横島忠夫！これからよろしく！」

ちよつとナンパ染みてるがクラスメイトに挨拶したとも言える範囲か？さつきより攻めこむどころか後退しているのはわかる。生まれる前とか信じると思えない発言で騙した事に罪悪感が生まれたのか、はたまた天然なお嬢様という単語に何か地雷めいた危険物さを感じたのか。影から何かが飛び出す誰か思い出したのか。

「ありがとうございます。横島さん。前世の事はわかりませんがこれからクラスメイトとしてよろしくお願いしますね。私は八百万百といえます」

いきなり変なナンパをしてきた横島相手への女子の反応と考えれば、恐るべきほどに好意的な反応だ。先ほどの行為をナンパと認識してないからの反応だろうか。世間知らずなんだろうか。やっぱり天然の含有量が多い。

この短い対話で…クラスメイトは八百万の事を世間知らずのチョロい感じの天然お嬢様だと認識した。横島はもちろんスケベなナンパ男だと思われた。

「コチラコソヨロシクオネガイシマス」

横島は棒読みで返事。

心中では世間知らずに漬け込んでセクハラ出来るのでは…いや、それは流石にアカン！と天使と悪魔が内部抗争中。

（うう…惜しいけど流石に弱味に漬け込むみたいなのはなあ…それに…何よりも！天然系のお嬢様と思うとナゼかとても恐い!!影から何か飛び出てきたりしそうな気が!!けど美人なんや…ばいんばいんなんや！ぬううう）

そんな一人下劣な葛藤をする横島の様子に不思議そうな顔をする八百万、他の生徒たちはそんな二人を見たり別の事を話したりガヤガヤと雑談をした。コミユニケーション能力がある生徒が多い。

そんな和やかな空気の中。

「お友だちゴツコがしたいなら余所へいけ…此処はヒーロー科だぞ」

突然放たれた一言。

（教卓に無精髭の不審者がおる!!）

と良く不審者と認識される横島は思った。

此処にいるなら雄英の関係者なんだろうか。ナンパしていた横島はともかく、初登校のクラスで初対面のクラスメイトと話してお友達ゴツコと言う。厳しさも感じるが…何か目的が有るようにも見えるが…本人の性格が素でこじれてそうでもある。

「はい、静かになるのに八秒もかかりました。時間は有限、君達合理性にかくね。…俺は担任の相澤消太、よろしくね」

困惑された側がぬけぬけと言いつた。

担任は初っぱなの発言があれな無精髭の不審者。初対面のクラスメイトと話していただけて合理性がかけるといふ。話せてない方が問題では…本当に教員なのか。これから担任になる相手とすると不信と不安を感じても仕方ない。

(担任はオッサンかあ。ドジっ子美人女教師じゃないんか)

これを考えたのが誰かは言わない。

「体操着に着替えてグラウンドに出ろ」

そう言っただけでメガネの男子が質問したが質問に答えず出ていった。全員がまた困惑した。

(き、着替えだとい)

一人だけ、いや二人反応が違う。当然だが男女別々に着替える。クラスメイトは可愛い女子ばかり、飢えた狼は健全なる男子高生(変態)として理想郷を覗く罪人になるうとしていた。

「…横島だったか…行くぞ」

ガツシリと横島は左右からマッチョな砂藤と細身の瀬呂に腕を捕まれた。

「な、なんだお前ら！ま、まさかお前もそつちの趣味なのか!?!イヤやああ!!お尻が痛いのは!!」

マッチョな砂藤の太い腕…ナンパが成功してしまった相手と同じぐらい…正体を現

した時の顔の系統が似てる感じが、あの時の相手は変身系の個性の持ち主……もしかしたら……砂藤を見る横島の顔は演技の要素が見えないぐらい怯えていた。

「いきなりとんでもない事を叫ぶな!!以前に何があつた!!誤解するな!そう言うのと違うからな!」

疑惑の視線が集まり砂藤は必死に否定した。一緒に掴みこむ瀨呂も少し離れていた。砂藤は自分がそう言う人間に見えるのかと涙目だ。

「な、ならなんで捕まえてるんだよ」

「女子からお前の事を見張つてると言われたんだよ」

「え、なんで!?!なんで見張られるんといかんのや!まだなにもしてへんやろ!」

「……まだって自白してるよな」

「はー!い、いや言い間違いなだけだぞ?なにもするつもりもないぞ。だから離れてくれ!」

「頼まれたから無理だ。このまま行くぞ。……砂藤、俺一人でもいけるぞ」

「なあ?瀨呂だったか。俺を警戒してない??俺から離れようとしてない?コイツの発言から誤解続いてない?そう言う趣味とかないからな!」

「あーうん、ごめん。じゃあ行こうか」

「お、おう……いくぞ!誤解解いてくれたんだよな?心持ち離れてるけど」

「いやー！はなせー！男の感触とか感じたくないんやー！」
騒がしく連行される横島。

こうまでされると今回は覗きを実行できない。

流石は雄英ヒーロー科の女子だ。

事件前に犯人に気付いていた。危険察知能力が高い。着替えと聞いて鼻息荒くして
るの見てたらわかるか。

体操着に着替えた。

そしてグラウンド

無精髭の担任がいた。

「これから個性把握テストを行う」

入学初日にいきなりテスト。

可笑しいだろう。

”普通の高校なら”

入学式もガイダンスなどそんな時間はないと発言。初っぱなから生徒に嘘をついて
いた。入学式はあり同じヒーロー科のB組や他のクラスは参加してる。入学式を必要
ないモノとして無いと嘘をついて不参加にする教師。

初めに発言した友達ゴッコを含め他人との交流が面倒や必要ないと思うタイプか。

積極的に関わってくれ人間が居なきや孤立してそうだ。もしくは下手に積極的な手がいたからコミュニケーションの必要性を学ばなかったか。

「テスト内容、ソフトボール投げ。立ち幅跳び、50メートル走、握力測定、持久走、反復横跳び、状態起こし、長座体前屈、中学の頃にやってるだろ？これ等を個性ありでやる。なんで中学時代にやってないんだろ。個性禁止の体力測定…合理的じゃない」

どうやら高校以前の学校の測定で個性禁止だった事に不満があるようだ。

普通は禁止にする。一般の学校で種類も効果も個人ごとに違う個性を使ってテスト……重火器みたいな扱いもそれてる個性……どう考えても危険。集団で安全にやるには、それこそ個性のプロフェッショナルなプロヒーローが監督でもしてないと。この担任の個性はアンチ個性の抹消。見てる間個性は発動できない。自分が個性でテストを安全にできる事で個性のテストをやる危険性を理解できて無いのか。

そもそも今の社会はヒーロー以外は個性を使わない前提の社会。悪意的に考えすぎかもしれないが発言が危うい感じがする。担任に不信感などを感じてる生徒が居るかもしれない。ただ横島忠夫は欠片も不信は感じてない。そんな思考は存在しない。むしろわりと良い先生だと思っていた！

ガイダンスとか面倒臭いのでサボれてラッキーとしか思わない。それに何よりも早速クラスメイト女子の体操着姿を見れてるのだから！唯一体操着が長袖長ズボンなの

は不満か。

(体操着にはスパッツかブルマがええよな)

「では初めのソフトボール投げをデモンストレーションとして……………横島、お前からやってみろ」

相澤はスケベな妄想をしてるような顔を見て一瞬迷うが横島を指名した。

「へ、俺っすか」

横島はなんで自分が指名されたのかわからない。相澤が指名する前に考えた様子があったので 適当ではないだろう。自分を指名する理由を考えてみる。

(ま、まさかこのクラスで一番平凡そうだからか!? それか一番成績悪いからか!?)

違う。他、結構な人数のクラスメイトは横島が指名された理由を察した。クラス女子にセクハラな視線を向けていた罰だと! これも違う。

「なんで耳を塞いでるんすか?」

相澤はこの後の反応を予想して耳を塞いでから言った。

「お前が入試の実技試験のトップだからな」

「はあ!」

「「ええええ!!!」」

失礼にも絶叫するほど驚いていた。特に横島と同じ試験会場にいた生徒が驚いてい

た。

「ウソアアダア」

「つて、横島くん、君まで驚くのかい!？」

「いや、いや、だつて知らんかつたし。騙しとかじゃ？」

「騙したりするわけないと思うが…雄英から届いた合格通知で教えてくれなかったのかい」

飯田が横島に聞いた。

相澤も気になるのか話を止めない。

全員に届いた立体映像が出てくる無駄に豪華な合格通知。生徒一人一人に送る言葉が違った筈だ。首席なら首席と伝えられると思えるが…

「合格の通知」

横島は難しい顔をした。

「合格の通知も見えないのかい!？」

「いや…えーと…」

見てないのは無いと思う。

師匠から通知を見たみたいいな事を言われた。

ただ見た記憶がない。

「(覗きの罰でも受けた後に見た?)」

横島は普段ナンパ覗きなど見つかった場合、必ず罰を受ける。キツイ時は意識が朦朧として記憶が曖昧になる時がある。そんな朦朧としてる時に合格通知を見た、師匠から見たと言われ記憶にはないなら、横島は普段の自分の生活からそう予想した。どんな生活だ。

「あゝ…：師匠に(覗きとかの罰で)しごかれたりしてたから通知を見た記憶もとんだかな」

モノは言いようだった。

「横島くん、君は…：試験の後に合格の事を聞いた記憶も曖昧になるほど鍛えていたのかい…：流星は実技首席か…：」

何処かで真面目の体現者とも言われる事もある飯田にトップの成績と合わせて好意的に解釈された。

横島は反応に困る。実技の首席と言われても…：試験の時にロボットの撃破でそんなにポイントを稼げてた覚えがない。自力で倒してたロボットは少ない。罠にかけたり他人の攻撃を利用して倒して逃げるぐらいで手一杯だった。

間違いか嫌がらせの嘘かと思う。

(これ、後で落胆される流れでは? 早く誤解を解いた方が!!)

「横島さんすごかったのですね」

「いやー!!ははは!!それほども!!」

悲しきかな。美少女に褒められたら否定する事ができない。一部を除いてたまたまの結果で調子に乗つてるように見られてないか。

ただ結果は結果! 実技トップなら偶然でも横島に負けたと言うことだろう。そんな横島に苛立つたり嫉妬で妬んだり成績を疑つたりするのがヒトだ。しかし此処には下を見る人間はほぼ居ない! 偶然でも敗けを認めてもつと頑張つて勝つと奮起する生徒が多い。さすが! ヒーローを目指すだけあつて人が出来ている! 他人が自分より優秀で妬む小者は居ないだろう! (横島に視線が向く)

「……因みに筆記試験の方だとビリだ」

「それなんて言つた!」

第88話

初日初っぱな

個性把握テスト

「ぷふ…横島、試験の実技でトップだったのに筆記はクラスで最下位だったのかよ」

「アハハハ！横島って勉強苦手なんだねえ！」

「そつちはイメージにあつてるよ！」

「なんで嬉しそう!?おいこら！おまえらドンマイみたいに肩を叩くなや!!!平均が高過ぎるんじゃない!!オレ、バカとちやう!!ちやうんや!!」

ピンク肌の少女が嬉しそうな顔をし肩を叩く男子複数。全員がなんか成績が悪そうな感じがする。その筆頭が横島！いや横島の発言は間違いでなく、平均が高すぎるだけで成績最下位でも中学のクラスで横島は優等生だった…筈だ

「横島さん、よろしければ今度、勉強のお手伝いをいたしますよ」

他の生徒がバカにする中で八百万はそう言った。

まだ入学初日、登校から一時間と経っていないのに、他の女子は既に横島がスケベだ

と警戒している。そんな中で八百万は不思議と横島に好意的だ。女子に勉強を教えて貰えるなんて最高だろう！健全な男子ならスケベなハプニングも期待してしまう！

横島がスケベな人間だと察してる女子が八百万に不埒の事をしないか横島を警戒した視線で見っていた。

「……」

しかし横島はこれをスルー！聞こえてなかったのか。上から目線に思えたのがあれなのか。勉強が嫌なのか。それか周りからの視線にそれどころでなかったのか。なにか他の事に意識を向けてるのか。気づいてて無視してるヘタレなのか。正解はヘタレ……もとい他の事に意識を向けていた。

（担任のオッサン!!なんで持ち上げてから突き落とすんだあ!!）

横島は少し前に本人も知らなかった入試トップという情報で尊敬の視線を向けられた！すぐ後の筆記試験の結果の暴露によりクラス1のアホキャラと認識、一般入試トップという話に鼻高々だったのは儂い優越感だった。横島にとつて優越感を感じるのは希少な体験。そんな希少な体験が直ぐに終わったのには不満を抱いた。

しかし……横島本人の自己評価は合格したのも不思議と思うぐらい。入試トップなんて器で無いことを自覚はしている。自覚はしているのだ!!

（ま、まあ過大評価されたままで……後になって落胆されるより良かったか）

なんで涙が滲んでるのか。

「雑談は其処までだ。ほら横島も泣いてないでさっさと投げろ」
担任が優しくない

「その円からなげろ」

「へーい」

土に円が書かれた投げる場所に立つとみんなから注目される。入試トップだと知れた横島が何れだけ投げられるか興味津々なんだろう。

（全員がアホなんやって視線を向けてくる！）

単なる被害妄想。

横島は過大評価も嫌だが底辺評価も嫌だ！評価をあげたい！と思う。

（名誉返上！汚名挽回や！）

とネタを交えて横島忠夫、テストの口火を切る

ソフトボール投げ！

「こんちくしょうが!!」

すでに負け組ほい台詞と共に投げる！

ヒューーーと飛んで100メートル近くでポストと落ちた！

「よしーこれならーやったかー！」

何をやったのか知らないがフラグ？

因みに後々の横島他の生徒のソフトボール投げ！百メートルを越える記録者多数、上位の場合。大砲でキロ単位！無重力で無限！！

「そんなん勝てるかあ！！」

入試トップなのにソフトボール投げでベストテンにも入れず！別にそこまで悪くない成績なのに叫んだせいで他から悪い結果と見られる墓穴掘り。

汚名返上もあるが担任の発言から成績の事を過剰に意識し過ぎていた。

なんの発言かと言えば…

「……」のテストの総合成績の最下位は見込みなしと判断しヒーロー科を除籍とする」

ソフトボール投げで横島の後に爆豪が改めて投げクラスメイトが楽しんだ様子を見せた後の発言。当然だが非難轟々。

「雄英は生徒の如何は教師の自由、ようこそこれが雄英高校ヒーロー科だ」

相澤はヒーローには理不尽が付き物だと正論の様な理不尽を突き付けた。

最下位は除籍なのは嘘である。最下位が除籍でなく相澤が見込みがないと判断したら除籍とさらに容赦がない。いきなり除籍にするのは酷いが、一度の失敗が命に直結するヒーローを目指すなら其処まで厳しくするのも間違いとも言いがたいか。横島は其

処まで理不尽なモノとは思わない…

(大した説明もなしに死ぬ危険のある仕事に連れてくあの女みたいなのよりはマシやな!!……あれ?あの女で誰やつけ?)

横島の脳裏に金髪ボンテージ美女の幻影が…金にがめつそう…年齢は…あれ、美女の顔が鬼女に!!

「ピンチを覆してこそそのヒーローだ。プルスウルトラさ。全力で乗り越えろ」

担任の権威に負けたのかある程度の理解を示したのか納得した様に黙る。

いや一人だけ納得してない!

「そんなん納得できるか!権力の横暴や!横暴!」

「ほお…」

最下位が除籍なんて理不尽を突きつける相手のような相手に逆らう、テスト関係なしに除籍にすると思わないか。除籍が怖くないのか!

横島が雄英ヒーロー科を受けたのは師匠たちに誘導されて、雄英高校に入ればモテるといふ横島専用の餌にハゼの様に釣られた。

なのに前の中学で雄英に合格したと言っても一向にモテない。雄英生の立場でのナンパにも失敗してる。八百万筆頭に可愛い女子は多い。しかしヒーローに成るために全力という事なら仮にモテても女の子を彼女にしたりイチャイチャするなんて無理そ

う。汗臭いスポコンモノみたいな青春が想像できてしまう。それでは意味がない!!
ヒーローを指摘すだけなら他の場所でもいける。再起を指摘すなら早い方がいい。な
ので!!

(普通に試験に落ちたとかなら師匠たちが怖い!修行不足だって地獄が待つとる!なら
!!理不尽な教師に逆らったという方向で行けばいい!教師の理不尽に抗議して除籍な
ら師匠たちも納得してくれるやろ!!…してくれるよな?)

相澤は横島をギラツとした目でみた。

「抗議は撤回する気はないっすよ」

強気に堂々と…言つてない。腰が引けてる。周りの生徒が恐々と見ている。目で心
配そうに止めてきている。

「…:…なんだ物足りないのか。確かに入試トップのお前だとビリでは乗り越える壁にな
らないな。なので横島お前だけはベスト10に入らなければ…」

相澤は言葉を止めて横島を見る。

「入ら無ければ除籍すか?」

「…:ああ…いや」

相澤は横島の様子を見て台詞を変える。

「…ベストテンに入らなければ、改めて横島、お前だけには特別な理不尽をプレゼントし

よう」

「そんな特別なプレゼントいらんわい!! いや! さっきのは除籍つて言う流れやったやないか!？」

「そんな流れはお前の気のせいだろ。それより、さあ、本番始めるぞ。余計な時間を掛けたから早足でやれよ」

こうして始まったテスト。

第一競技!

50メートル走!

横島が走った。

「早いー!」

横島は逃げる。走るのは大の得意。結構な頻度で命懸けで走っているので早くなる。スケベなこと以外にも師匠の一人の散歩で鍛えられている。如何わしい意味でなく文字通りの散歩、因みにその師匠の足の速さはバイクや車並み。

「けど走り方が気持ち悪い」

正直な女子の発言にゴールした後にはスツ転ぶ。

第二競技!

握力

「ふぬぬぬぬ!!!」

横島は顔を真っ赤に頑張った。

まあ結構高い。

第三競技!

立ち幅跳び

「ぬりゃああ!!」

横島はビヨンとバツタかカエルの様に跳んだ。

なぜか自分に飛び掛かって来そうな姿だと女子からの好感度が落ちるといふ謎。

第四競技!

反復横跳び

横島の素早い反復横跳び! その有り様はカサカサ動く…その姿は…! 高速で左右に動くゴキ〇リのごとし!

「女子の皆さんなんで離れてらっしやる?」

第五競技!

上体起こし

足を抑えるのにペア。

横島には切島が選ばれた。

「……」

「おい余所見すんなよ」

上体起こしをしながら横島の視線は女子のペア。切島に呆れられる。他所を見ながら上体を起こしてたら回数はあるが、横を向きながら上体を高速で上げ下げする姿は不気味。（興奮に比例する様に高速化、女子が視線に気付いて男子を壁にすると速度低下）卑猥に見えるのなんだろう？

第六競技！

長座体前屈！！

また切島とのペアで

横島の視線先は……お察し

「おいまた余所見してやるな！というか何で俺が連続してお前とペアなんだよ。押し付けられたのか!？」

第七競技！

ソフトボール投げ！

もう投げたので横島は割愛。

横島は見ていて圧倒的な差にこんなん勝てるかと叫ぶ。それと生徒の一人が指の骨を折って投げた事にビビる。指を折ったのに問題ないとした担任にもビビる。

ラスト第八競技！

持久走（五キロ：尚、横島だけ体力尽きるまで）

「なんでやねん!!」

「もうベストテンはダメだからな。始まる前にいった理不尽のプレゼントだ」

「え…：ベストテン入って…ないんで？」

横島は、一つも最上位は取れてないモノの全般的に平均よりは上、ベストテンにギリギリ入れる可能性はあると思っていた。間違つてないが…ギリギリ過ぎて相澤含めて何人かから手を抜いてると思われていた。

「入ってない。だからありがたくプレゼントを受けとれ」

「男からのプレゼントなんていらんわい！」

「いいから行け。スタートするぞ」

「鬼！悪魔!!無精髭！」

悪態をつきながらスタートラインに行く横島。

全員が走る持久走。

有利と思えるのは短距離トップな飯田。持久走でも飯田は鍛えられたスタミナと個性で走る事なら誰にも負けないと自信があつたが、短距離と違って長距離は時間があつた。スクーターを造り出した八百万には流石に勝てなかつた。

飯田が遅れ八百万がトップになる……そんな八百万の少し後ろから追走する影が！

「横島さん……」

横島は八百万のスクーターのすぐ後ろを走っている。パト、白黒の車に追われて逃げ切つた事もあるので、スクーターぐらい追い越す事すら出来る！

「ふうふう」

速度を落とし追い抜かない。スクーターを追い抜かないのは持久走なので体力の消費を抑えるためか！。決して後ろから八百万のお尻を見るためではない！息が荒く興奮してる様子は疲れからだ！相澤には八百万が性犯罪者に追われてるように見えたが勘違いだ。

そのまま持久走は変態に追われる少女と変態のワンツーで終わる。間違えた。八百万が一位、横島が二位だ。遅れて飯田が。

「く……ボクの個性で三位……！」

「横島さん、スゴいですわね。もう少しで負けると思いましたわ」

八百万は真後ろからの横島の視線には気付いたが、自分に勝つため強い視線を向けていたんだと誤解し横島を称賛した。

「ふう、えがった……じゃない終わった！あーもう動きたくない！」

と言ってるが横島は大して汗を掻いてない。そんなに疲労してる様子も見えない。汗を掻いて息がまだ荒い飯田と比べると、八百万は横島の様子を見て……。

「……何してるんだ。言つたらお前は体力が尽きるまで、まだまだ体力あるだろ走れ」

相澤の台詞に確信を得て八百万はショックを受けたように聞いた。

「……横島さん……やはり……手加減をされたのですか」

「え!?……いい、いやいや！手加減なんてしてない!!してない!!」

「では……なぜ飯田さんの様に息が乱れていないのですか」

「……横島くん……!」

「ちや、ちやうよ!……ほ、ほら!いい、息は上がってるし!ゼエゼエ」

それは騙され易い飯田と八百万から見てもわかる大根演技。横島は本気での演技だったが相澤からも同じだ。先にベストテンに入れないからと言ったから手を抜いた様にも見えた。その前にもベストテンにギリギリ入れるぐらいに手を抜いていた疑惑もある。

「……体力はあるな。走れるな？」

「はあはあ……気のせいです。体力は限界ですんで」

「……そうか。もし本当に限界なら今度からテストは女子と別の所でやってもらおうか？女子をみて余計な体力を使つてみたいだしな」

内容はあれだが横島には最大級の脅迫だ。どうやら担任が横島のスケベに気付いたようだ。いや一人除いてもう全員が気づいてるか。

「はっはあーいやあー！先生さま！体力あります！限界と思つたの気のせいした……は
！」

ほぼ反射でそう言つた横島は不味いと八百万を見た。

「……私は……一位を譲られたのですね」

八百万の中で横島が手加減していた事が確定したようだ。手加減されたんだと、一位を譲られたと八百万が落ち込む。横島は焦つた。後ろを走つてたのは手加減ではない。下劣なエロ心、むしろ手加減の方が圧倒的にマシだ！だからこそ横島が前に出なかつた本当の理由を説明する訳にもいかない。

「……八百万、ヒーローを目指すなら手加減された事に落ち込んでる暇はないぞ。本気を出されても勝てる様にしろ」

「っ、は、はい！横島さん……この様な機会が有りましたら手加減などしないでください

ませ！今度は貴方の全力に勝つて見せます！」

「……ボクも君達に負けないと宣言させてもらおうよ」

飯田と八百万の目が挑戦者のそれ、二人からライバルと認定された？客観的にみて二人とも横島よりテストは好成績、特に八百万等是一位。二人は他のテストでも手加減したと思ひ横島を格上だと評価してないか。

(狼にライバル意識を向けられる仔犬みたいな立場やない……)

「さて、手加減した罰だ走れ」

「……」

(このオッサンに此処で反論してもどのみち走らされるのは決定事項な気がする！)

なら抗議せずに全力で走って一気に体力を無くしてさつきと終わろうと思う。

「……ああ、出来るだけさつきと同じ程度の速度で走れよ。あまり速いと手加減された二人が傷付くだろうしな」

二人が傷付くからでなく横島をなるべく長く走らせる為の方便にしか聞こえない。二人の心が傷付く事とか気にするようなタイプでない。むしろ傷付いても乗り越えるのがヒーローとか思ってるだろう。

(てか……もし傷付けないとか言うなら、二人に聞こえるようにさつきの台詞を言うわけがないやろ!!)

「先生…ボクも走らせてください!!」

「…：飯田、お前は今出せる全力を出してしつかりやったからダメだ。その横島と違つてな」

「ちよいまで!!オレも全力でやったんすけど!」

「…：…：全力でやったヤツがそんな元気よく叫べるか。良いからはよ走れ」

「…：…：へいへい!わかりましたよ!（このオッサン!ろくな死にかたせんぞ!）」

ゴネるのを諦め横島は走りだす

入れ替わるように他の生徒達が走り終わりだす。横島を見て不思議そうな顔をした。

「なんで横島はまた走っているんだ?先頭の方で終わったんじゃ」

「横島の事は気にするな。それよりもこれでテストも終わった。つまり最下位も決まるということだ」

((!!))

相澤なテスト前にビリだと除籍するといった。ビリに近い生徒は勿論、確実にビリでない生徒も不安そうな顔をしている。横島一人だけ蚊帳の外。

「…：ビリが除籍は嘘。君達に全力を出させる合理的な虚偽だ」

「…：はああああ!!」

実は本当はもっと酷い条件だった事を隠してそう言う相澤。

「全員騙されんなーきつとビリが除籍なのが嘘とかって意味や！考えてた事はもつとひどかったんや！質が悪そうなおツサンだしな!!」

聞こえてたのか横島が走りながら言った。聞いてる方は走らされた事への仕返し of 悪口なんだろうと思う。しかし実際には正解。

相澤は隠した意図に気付いたのか。それとも適当な悪口でも正解を引き当てたのかと感心した。感心したので次の言葉をいう

「……よし体力まだまだありそうだ。クラスは解散するけどお前だけまだ走つてろ」

理不尽過ぎる？まあ理不尽なよう気もする。クラスの誰も特に止める言葉が出なかったのは横島のキャラクターのせいか。競技中に女子の身体を眺めすぎたせいか。相澤が教室に戻るようというところクラスの全員が素直にグラウンドから出ていく。

「横島さん、頑張ってくださいまし！」

八百万だけ声を掛けてくれた。

恋愛意識でなく挑戦するライバルとしての応援だろうか。

「横島くん！ボ、オレは必ず君に追い付くよ！」

飯田の台詞は聞かなかつた事にする。横島の中で八百万への好感度は爆上がり。今度からなるべくエロい目で見ないよう心掛ける事にした（見ないとは言っていない）

相澤まで含めて誰もいなくなつた。

「一人放置はひどいやろ!!」

横島の叫びは一人だけのグラウンドで響く。

ただ走り続ける。

それから何時間のグラウンド。

辺りは完全に暗くなっている。

ミッドナイトからグラウンドに呼び出された相澤。

「……………」

そこにゾンビのような目で走っている横島がいた。

「ほら居るでしょ」

「横島おまえ…本当にまだ走つてたのか…もう止めて良いぞ」

と、ようやく相澤から言われたのは夜になってからだ。聞こえた瞬間に電池が切れたみたいになべチャツと倒れる横島。

「横島、おい、大丈夫か？」

(どういふヤツなんだ)

「イレイザー貴方ね。流石に初日にこれはやりすぎでしょ」

「…スミマセン…不真面目なヤツだと思っていたのでもう帰つてるとばかり…まさかこんなになるまで走るなんて」

相澤は忙しく様子を見に来る時間がなかった。横島の態度から不真面目な人間だと思っていた。なので既に途中で帰っていたと思いきんでいた。

「予想外な事だったの。まあ確かに監視もないなら帰ると思える子よね…意外とストイックなタイプだったのね」

「…態度から勝手に不真面目なヤツだと思つたのは失敗でした」

「そうね。不真面目で入試でトップはとれないわよね」

横島は根本はストイックで生真面目、努力を惜しまない性格なんだろうと評価は無駄に上がる。

だがそうなると相澤としては不思議なのが…なんでテストの時に個性を使った様子が無いのか。何度もテストの時に自分の目で横島を見ても変化は無かった。

つまり個性は使っていない。幾ら順位が悪くなくても手抜きをしたんだと思う。10位に入れなかった事もあるが、手抜きをしたと思つたから走らせた。

(……………手抜きなんて事じゃなくて理由があつたのか？それだったら少し悪いことをしたか。個性についても含めて聞きたいがこれじゃ無理だな)

相澤は倒れた横島を背に抱えて運ぶ。

「ううううう!!!」

呻く横島。

「なにかスゴくうなされてるわね？」

横島はオツサンの背に背負われお持ち帰りされる悪夢をみている。悲しいことに現実だ。

もちろんの話だが、横島はストイックでも生真面目でも普段は努力家でもない。ならなんで倒れるまで走っていたのか。ただ一言で言えば横島の修行の参考に使われた昔々に書かれたある本の成果

『言うことを聞かない駄犬の優しい躰方厳選百選、屈強な海兵隊も泣いて逃げerお手軽な躰!これでどんなアホな駄犬も命令絶対順守!!』

著作MR』

尚、作成当時に本書を書いた著者の目的はある少年の助平根性の抑制だったが、肝心な部分には大して効果はなしだった。

第89話

「あーだるい……」

横島は雄英に登校していた。

「初日であれだけ走らせるってあの鬼きようしめ……いやまてよ！師匠の修行よりマシやけど、オッサンに受けさせられるってマイナス考えたら師匠のより辛い特訓か……あー行きたくないなあ……けどヒーローコスチュームの要望とかあったし、コスチュームとか着たりする授業いつあるかもしれへんし休むわけにもいかんよな……どんなコスチュームやろ。ぐふふ」

口では愚痴愚痴言ってるが……昨日気絶するぐらい走った後なのにピンピンしてないか。

女子のコスチュームを想像してスケベな笑みを浮かべている不審者。ヒーローに呼び止められた雄英の生徒が……

「おはよ横島、ギリギリだぞ」

教室に入ると扉の一番近くにいた男子生徒が横島に挨拶した。

「おう、おはようさん。何もしてへんのにヒーローにイチャモンつけられてな…誰？」

「いや切島だよ！切島！昨日自己紹介したろ！てか！二回もペア組んでたのに覚えてないのかよ！」

「ペア……………あー！うん覚えてる！覚えてる！！昨日の屈伸とかで一緒にイイモンを見た仲だよな！！良かったよな！！」

笑顔でグツとサインを見せる横島。

切島とペアでやった屈指や長座体前屈、テストの時の横島視点は女子の方に固定されていた。良いものとは……………？

「……………」ジューー

昨日の横島の通報待ったなしな視線には女子達も気付いている。クラスには当然だが女子はいる。横島の会話を聞いて意味を理解した女子の目があれだ。…ツアアウトツーストライクだ。もう入学二日目で崖っぷち

「な、なあ、横島…視線…気付いてるか？」

「なんか見られてるな。何でだ？」

「…気付いてるのかよ」

（近くにいるだけのオレでもキツいんだけど、良く平然としてられるな。これは漢らし

いのか?)

切島は周りの視線を気にせず明け透けに本音を話すのは漢らしいのかと：漢らしい人間を目指した高校デビュー男子なので迷走した余計な思考を入れて、一緒に見たという横島の発言を否定してない。

しなかった事でオーブンスケベ男と同類と見られかけている。硬派なヒーローを指してる切島には致命的な風評被害。まあスケベでないなら一時的な誤解で済むだろう。普通の男子なら一時でもエロいなんて噂は致命的だが

「横島ようやくきたのか」

男がワラワラと集まってきた。

「むさ苦しい!!」

昨日のテストの後、クラスメイトは多少はお互いに交流していた。そんな中で横島は一人だけ居残って他のクラスメイトと違って話が出来なかった。人によつては下手すると学生生活ボツチルート。

ただ昨日の集まりのなかでの話題の中心は横島、実技入試トップ、成績最下位、スケベ、アホという情報しかない。性格については十分にわかったが、昨日のテストでは個性が何なのか不明、クラスの誰もが気にしていたので近付いてきた

クラスの誰もがなら何で男子だけか。さっきの発言の後に横島に女子が近付くことで

もっ？

いや横島を嫌悪して無い女子もいるが男子ばかりの所に近付こうとも思わないだろう。

「おはよう横島くん、昨日は君に自己紹介してなかったよね。名乗るのが遅れてスマナイ、ぼ、俺は聡明中学出身の飯田天哉だ」

(む、真面目系か！)

真面目な委員長ほい男子だ。

横島は自分の天敵になりうる可能性があると思う。此で女にモテてる素振りでも有れば確定で横島は敵になる。ヒーロー候補としてのライバル意識は？

「障子だ」

(あ……)

大柄な少年。横島は昨日のテストで腕などを複数出してる所を見ている。エロい事に使えると思っていた事は懸命にも口には出さなかった。

「昨日運んだ俺は覚えてるよな？瀬呂半田だ」

その男子の特徴は……特徴は……地味なこと？

(まあオレも地味系だし人の事をいえないんだよな。次は……ひえ)

「オレは砂藤力道……お前の昨日の発言のせいでそう言う趣味なのって女子に聞かれてる

んだけど？否定しても疑われてんだけど、どうしてくれるんだ？ドウシテクレンドア??」
暗い目で横島を見るマツチヨ。

「どうやら昨日の発言が尾をひいてるようだ。」

横島は目をそらした。

そして男子は砂藤から少し離れている。

誤解は更に酷くなつてるようだ

「は、はは俺は尾白、よろしく頼むよ横島」

（おー…普通だ）

「普通…：太い尻尾を生やした少年。横島は尻尾を生やすなら女子だろと思う。いや男なら前に一本尻尾がある、後ろに2本目の尻尾があると思えば…なんだろう。」

「オイラは峰田実……」

頭がブドウみたいな少年。

ジーっつと横島を観察する様に見える。

（何だコイツ）

「俺は上鳴だ。よろしくな！横島は昨日は大変だったな」

（見掛けはチャラチャラしたナンパな男や！）

近付いてきた男子は其々自己紹介をして挨拶をした。来てない男子も女子も横島の

方を意識している。そんな中で横島は言った。

「俺は横島忠夫！此方こそ是非ともよろしく頼む！あの極悪非道な鬼畜担任とはクラス皆で一致団結して戦わなきゃいけないからな！」

そんな事をいう横島に反応に困った。

「横島くん！担任の先生を極悪非道なんて言うのは止めないか！」

「スゴいこと言うな……」

「先生に何か恨みでも……あつたか。昨日、一人だけ残されてたか。あの後どれぐらい走らされたんだ」

上鳴が恐る恐るきく。担任が何れだけ厳しいのかの確認。担任なので自分達に振り掛ける事も十分にありえる事。全員が耳を澄ました。

「何れだけ……時間とかは覚えてへんけど、辺りは真っ暗になってたな！知ってるか！誰も居ない所で一人で走るとか無茶苦茶寂しいんやぞ!!寂しいんやぞ……！」

「うわあ」

「あの時間から暗くなるまで……二時間以上は走らされてたのかよ」

やっぱり厳しい教師なんだとウゲエという顔をした。

「……」

一部の生徒は相澤の厳しさよりもテストの後に夜中まで走らされていた。テストの

後だ。

……横島に体力がそれだけ残っていたと言うことじゃないか？ テストで手抜きしてたんじやないか？ という視線を向けていた。

「けど恨むのはダメだろ。横島の自業自得な部分も大きいし」

「なんでや！ オレなんも悪いこととかしてへんやろ！ ……なに言ってるんだコイツみたいな視線向けられてる!？」

「そりゃ向けるだろ」

「先生に暴言はいてたよな。無精髭とか」

「ええあれぐらいでもアカンの」

「横島、あの先生に良くあんな事を言えたよな。オレ、先生がキレてマジで除籍すると思っただぞ」

「他にも横島はテストで手抜きしてた様に見えたしな。…横島、テストの時に個性使ってたのか？」

「使ってた…ぞ？」

「何で疑問系なんだよ！ 横島の個性ってなんだ」

「おうおう！ そうだ！ 横島の個性なんだよ！ 昨日からずっと気になってんだよ！」

「なんでオレの個性の話しになってんだ？」

「まあ話は違うけど、個性を教えてくださいよ」

「横島の個性だけ誰もわからなかったし」

「オレの個性とか気になる？」

「「「気になる！」」」

集まってるないクラスメイトまでも声を出して横島はビビる。

「そ、そんな興味津々にされても大した個性じゃないぞ。オレの個性は」

「個性は？」

「いや、そんな注目されたら言いにくいんやけど、霊能って言ったたらわかるか？」

「レイノウ？」

殆どが首をかしげた。

「冷凍？」

「言い間違いでないぞ」

「よくわからんけど、レイノウって具体的にどんな個性なんだ」

「具体的に…？」

「ほら！何が出来るとかだよ」

「何が出来るかと、言われたら…あー身体能力は強化されてるのかな？」

「やっぱ身体能力の強化はされてるのか」

「何で自信なさげな言い方」

「他にも何かあったりしない？」

「ほかは…ドアの前にデカイ影が？」

ドアに視線が向く。だれかが入ってきて横島の個性についての話は中断されることになった。

「ワタシが普通にドアからキタア!!」

現れたのは現役ナンバーワンヒーロー。

異質な画風の濃い顔！

「「「おおお!!」」」

自分達が生まれる前から活躍してるナンバーワンヒーローの入室にクラス全体が沸いた。

「生オールマイトだ！　すげえ！本当に先生やるのか!!」

「あれシルバーエイジのコスチュームだよ！」

大人気アイドルが来たみたいは大騒ぎ。

横島は周りの反応のデカさに引いていた。

（ええあのオッサン大人気やなあ。…オールマイトってナンバーワンのヒーローやっけ？男ヒーローのあのパツンパツンなタイツな格好何時見ても……無いな!）

ヒーローに有りがちなピッチリタイツで筋肉がムキムキな姿。女性ヒーローしかピッチリなのはアカンやろと思う。もし口に出していたら男女共に激怒させる事間違いない無しな事を考えていた。

「早速だけど今日はこれ！」

示されたプレートにはBATTLEと書かれていた。

「戦闘訓練だ！」

「はあ!?二日目に戦闘訓練!?!」

「それに伴って…入学前に君達は個性届けと要望を出してたよね!それに沿ってあつらえた…戦闘コスチューム！」

壁が回転して出てきたカバン。戦闘コスチュームがはいってるんだろう。収納スペースをなんであんな所に作ったんだろうか。

「着替えたら順次グラウンウンドβに集まるように！」

(着替え…!)

着替えという言葉に反応してしまう横島。

反応したことを女子に気づかれる。

横島はまた男子に連行された。

男子更衣室。

「くそお！何で男子に取り囲まれて着替えんといかんのじゃ！男の熱とか感じたたくない！・スメル嗅ぎたくない！」

「煩いぞ横島：また女子から頼まれたんだよ」

「なんでや!?!」

「それだけ信用がないって事だな」

「まだ何もしてないのに!!」

「まだとか言っている。」

「横島よー」

絡む様な声だった。

下から聞こえた。

中学生、小学生サイズの男子。

「な、なんだ：峰田だったか？」

峰田はどす黒い空気を発して横島を見ていた。

まさか横島のスケベさに怒っているのか？

「横島、お前、スケベな事が好きだよな」

「大好きだ！けど、それ別におれだけじゃないよな。スケベな事が好きでない男子高
校生がいるわけないだろ」

真面目な顔をして言う。

「そうだな」

峰田は間違いないと頷く。

「横島、お前イケメンが嫌いだろ」

「嫌いつてかイケメンは男の怨敵だろ常識的に考えて」

「そうだよな常識だよな」

何かへんだ。この発言を二人とも真顔で言っている。他の男子は途中から少し離れて着替える。二人の発言を注視はした。警察が不審者の行動を確認するような感じか。

「横島……おっぱいは好きか」

「おっぱい……オツパイは大好きだ!!!」

魂からの叫びだった。

隣の女子更衣室にも聞こえた。

「横島なに叫んでんだ!」

「隣は女子更衣室だぞ」

「ゴホン、峰田お前はどうかんだよ」

「大好きに決まってるだろ!いや崇拜してると言ってもいいな。オツパイイズゴッド」

「おっぱい様が神さまなの否定はしない。けど尻神様とフトモモ神様も忘れたらアカン

…3柱の神様が女体にはあるんやで？」

「ふ、忘れるわけないだろ？オレの脳内はその女神さま達の事だけで一杯だ！」

「峰田、お前とは仲良くなれそうだ。よくエロ本が落ちてる河原を教えてやろう」

横島と峰田は認めあうように感動の握手を…しない！ 峰田はパンと横島から差し出された握手する手を弾いた!!拒否した！

「な、なんでだ！峰田！」

「横島…お前とは仲良くなれねーよ！だってお前…お前は!!…オイラとエロキャラ被りしてるんだよ!!」

「は、別に被ってても何も問題ないやろ!？」

「大・問・題なんだよ!!」

キャラ被りいったい何が問題なのか。

出番が減るからか。

「あ、それは、それとしてエロ本が落ちてる河原について詳しく。代わりにオイラの知ってるベストエロスポット教えるぜ」

「騙した系のスポットじゃないやろな」

「安心しろよ…若い女子大生の生着替えが覗けるスポットだ」

「おおー！」

「普通に犯罪!!」

何かそこそこと会話をする二人

「おいソコのワイセツ物コンビ、着替えないと遅れるぞ」

「うお! 皆殆ど着替え終わってる!?! 何時のまに!?!」

「何時のまにって…」

「お前らがいかかわしい話してる間にだよ」

「早く着替えろ」

「おう!」

「「……………」」

「な、なあ」

「……………着替え終わってるのになんでまだ居るんだ」

「お前らが着替え終わるの待ってんだよ」

「……………待たせるのも悪いし先に行っててくれても良いんだぞ?」

「そうそう、オイラたちの事は遠慮なく置いていってくれていいぜ!」

「…お前から置いて言ったら隣の女子更衣室に行きそうで不安なんだよ」

「そ、そそそそ、そんなことするわけないしな! そうだよな! 峰田!」

「お、おう! オイラ達がそんなハレンチな事をするわけないだろ!」

何でなのか横島、峰田は身の潔白を信じて貰えない。峰田より先に横島は着替え終わった。

他と違つて着方に迷うようなモノでなくすぐに着替え終わった。

「……横島……何で私服に着替えてんだ?？」

「私服とちやうぞ。俺のヒーローコスチュームだぞ」

そう言う横島の目は遠い所を見ていた。

「いや……どうみても普通のシャツにGジャンとGパンじゃねーか!？」

「うるせー！これがオレのコスチュームなんだよ！こんなんがコスチュームなんだよ

！チクシヨウー！」

「なんで横島がキレてんの」

「本当にコスチュームなのか?？」

「ちゃんとヒーロー関係の会社が造つてくれみたいだぞ……ほれ仕様書」

「うわ仕様書にその服が書かれてるな。本当にヒーローコスチュームなのか」

「うーん、それヒーローのコスチュームに見えねえよ……」

「峰田のでもヒーロースーツに辛うじて見えるのに」

「おい、辛うじてってなんだ。ヒーローらしいだろ」

「まあ、横島のに比べたら……」

「物凄い大昔のオタクがそんな格好かそれ。爺さんより前の世代の映画で見たことある」

「いや!!最初は要望で!こう!特撮ヒーローみたいに格好いい感じのにしようとしたんだよ!!けど師匠がさ。師匠全員がさ…ヒーローらしい格好はオレに…似合わないって…:口を揃えて皆…コレが似合うって…:ははは」

「「「……」」」

横島にヒーローらしい格好が似合わない。ヒーロー科なのに…:哀れではあったが、全員が否定できないと思ってしまう事を口に出さなかったのはせめてもの優しさか。

何とも言えない空気、師匠が複数居るみたいな発言が気になったが聞けない

「はあ…:さっさとグラウンドに行こう」

切島が有ることに気付いて呼び止めた。

「あ…:横島そのバンドナは外しとけよ」

「なんで?」

「なんでって、それコスチュームの仕様書に書いてないし普通のバンドナだろ。付けてたら戦闘訓練で破れるかもしれないぞ」

その言葉に横島は不敵に笑った。

「なんだその笑い」

「ふふふ、これは普通のバンダナじゃないぞ！俺の師匠が用意してくれた特別なヤツだからな!!……でへへ」

笑い顔がダラしない。

「よ、横島くん、その顔はなんなんだい」

「…特別なバンダナ用意できるって横島の師匠ってヒーロー関係者なのか？いやもしかして関係者どころかヒーロー？」

「用意した人間も気になるけどさ。なんでワザワザそのバンダナのデザインで造ったんだ？言っちゃ悪いけどダサいぞ。そのバンダナ」

『……ダサいとは失礼だな』

「ゴメンゴメン、ん？さっきの声だれだ。横島……？」

「オレなんも言っていないぞ！俺も声は聞こえた!?物凄い近くで……」

横島は怯えたような反応をした。

「横島の方から聞こえたけど横島の声じゃなかったな。横島には峰田が一番近いけど……」

「お、オイラじゃないぞ」

「うん、峰田の声でもなかった」

「じゃあ誰だ？横島も聞いたみたいだし気のせいじゃないよな」

「不気味だな。さっきの声は何処から聞こえたんだ」

『ここだ』

「ここだって……………どこだよ」

「よ、横島、頭の上!!上!!」

「うわ!横島の額!!」

「え!?!なんだ!?!何があるんだ!?!」

横島以外は声があった方を見ている。横島は見れない。横島の額に巻かれた赤いバンダナ……………バンダナに…

…目が出ていた。

「「「きもちわるー!」」」

『失礼だな』

「なに!?!俺の頭の上に目があるの!?!」

第90話

自身の初の授業でオールマイトは初っぱなから想定外の困った相談をされた。横島の額の『心眼』は戦闘訓練でセーフなのかどうか。

衣装を変えた1ーAの全員が集まるなか、オールマイトの前に私服にしか見えない横島が前につき出された。皆が憧れるオールマイトを前に横島は渋い顔だ。

(筋肉が！筋肉の圧力が!!)

横島のバンダナに付いた目。

師匠に用意されたバンダナで、横島本人も知らなかったらしく何処から声を出してるのか『心眼』と名乗った。

オールマイトは心眼を近くでみる。

必然横島にも近くなる。

(チカイ！チカイ!!筋肉の近くはイヤなんや!!ムワツとした熱が来る!!)

説明の間、当事者の横島は筋肉の圧力に苦しんだ。どうでもいいか。

「もう一度説明頼めるかな心眼くん」

『私は主、横島忠夫の師匠である創造者の手によってバンダナに宿された存在であり、主の力のコントロールとアドバイスが私の役目だ』

「つまり君は横島少年の師匠の個性で出来た横島少年の補助役という事かな…?」

『概ね認識としてそれであっているな。補助輪と言ってもいい』

「補助輪…ワイは小学生低学年か幼稚園児扱いなんか!」

大の高校生の横島がハンモックを着て補助輪付きのお子様自転車をキコキコしてるイメージが…吹き出した生徒が多数。

『それで戦闘訓練への参加は良いのだろうか』

「う…う…ん…:…:…:…:やれることがアドバイスと力の制御だけなら…:良いのかな?力を増幅とかしないんだよね?」

『増幅などはできない。主の本来あるべき力の補助が役割だ。しかしなるべく手を出すつもりもない。主の成長の障害になるからな』

「…成長についても考えているのか…: なら、よし!今後の事は保証は出来ないけどこの戦闘訓練への参加は私が認めよう!」

『感謝する』

オールマイトはアツと何かに気付いた。

「どうかしたんですかマッスルティーチャー」

「私の事をそんな風に呼ぶのは君が初めてだよ。一つ聞きたいんだけど、横島くんの入試の時にも君はいたりした？」

試験で個人で道具などの持ち込みは自由だった様だが他人の個性が関わるのは……不味いのかも？不正として一発アウトもあり得そうだ。

『いや、本来なら入試試験の時から主のアドバイスをする役目があったんだが……主が私を置いて別のバンダナを付けていってな』

不満ありげな声だ。

発言を信じてオールマイトはほっとした。

「そうか。横島少年は試験で誰かの個性の援護を受けるのを良しとしなかったんだね……違うのかい？」

目をそらす横島。

個性の援護とか気にする以前に、横島は心眼について知らなかったのもそんな高潔な精神を持ちようがない。因みに知ってたら平然と普通に迷いもなく心眼ありのバンダナを巻いていった。

バンダナの目がジトツとした感じになる。

『しよ……創造者が主のバンダナに私を宿す時に額に口づけをする必要があつてな。それに主が興奮し記念にと私をガラスケースに……』

変態だ。もしくは思春期だ。

これをクラスメイト全員の前で話している。クラスメイトの横島へのエロ坊主という印象は、もう確固たるものと言っても言いかもしれない

「…そ…そ…うなのかい。…うん、まあ理由はなんにして…入試に使われてないんならいいんだよ。うん…」

師匠の口づけのバンダナをケースに入れて保管。引くような話なのだが…：…オールマイトは自分に置き換えて考えてしまう。

オールマイトは自分の師匠を母みたいな人と思うほどに相当に慕っていた。もし横島と同じ様に試験の時に口づけされた物があつたらと考えてみて…：…：…想い出の品としてガラスケースにでも入れて残すなんて事は絶対に無いとも言えない。下心ゼロでも同じ事をしてたかもと…：ちよつとシヨックを受けた。

「さ、さて時間が少し押ししてるならサククリ説明するよ！今回の戦闘訓練では二人一組でヴィランとヒーローに別れて模擬戦闘を行ってもらおう」

「ヒーローとヴィランに別れてですか」

「そう！ヒーロー、ヴィラン其々二人一組になってもらおう。皆には二組の戦いをモニターで見てもらおう。それで、戦いが終わった後に反省会もするよ！」

「タッグ戦ですか」

「そうとも言うね！」

「彼方の町で戦うんですか」

「そうだよ。設定としては核弾頭を持って潜伏してる凶悪ヴィラン二人の鎮圧にヒーロー二人が出陣！という感じだ」

「アメリカンな設定だあ」

（核弾頭って……ヒーローやってたらそんな事態と遭遇したりすんの？てか、核があるのに二人で突入……？）

「勝ち負けはどう決めるのですか」

「ヒーローの勝利条件は、核設定のハリボテがあるからヒーローはこれを確保する！今回は核のハリボテをタッチしただけで確保した扱いになるよ。それか捕獲テープをヴィラン役の二人の体の何処かに巻く！逆にヴィラン側の勝利条件はヒーロー二人を同じようにテープか制限時間が過ぎる事だ！」

（聞くだけやとヒーロー側が少し有利な気がする……）

「組み合わせはどうするのですか」

「組み合わせはクジで適当に振り分けるよ」

「適当なのですか!？」

「実際の現場では即席で誰とでも組まないといけない事もあるからね」

「なるほど！将来を見据えた事なんですわね！失礼しました!!」

「いいよ。他にナニか質問あるかな？」

幾つか質問はとびオールマイトはなるべく平気な顔をして、新人なので内心は四苦八苦しなから答える。質問はもう終わりという空気になる。それに対して横島は疑問を感じていた。

(なんであのこと誰も聞かないんや？あれ、もしかして聞き逃した？)

『主よ。聞き逃しては無いぞ』

心眼は横島の内心がわかるのかそう言った。

横島は少し前に現れた心眼に既に馴れたのか普通に返事をした。

(いやいや、だったら何で誰も質問しないんだ？俺だけ気付くとかないやろ!?)

「質問はもうないね！じゃあ！クジを：横島少年どうかした？」

オールマイトは何か聞きたげな横島に目敏く気付く。横島としてはありがたくない。

「え、…いえね：クラスが21人だし：21人で二人一組なら1人余るんじゃないかなあつて」

初歩的な話なので、聞き逃したと可能性が高いと思ってるので声が自信無さげだ。

「「「あ」」」

オールマイトもクラスメイトも今更ながら気付いた模様。遠くを見すぎて近くを見

ていなかったと言う感じが。

「…いやー！言うのを忘れてたよ！…うん！…一組だけ三人一組になってもらうよ！！
言い忘れてたんだよ？ホントだよ？」

本当に忘れてたのお？という視線にオールマイトは晒される。正直に言えば忘れていた。新人教師なんだから仕方ない。

決して途中まで20人の予定だったとかそう言う事ではない（メタ発言）

「さー皆クジを引いて！何も書いてないのを引いたら三人目になってもらうよ！」

まるで想定通りという言い方してるが、追加で一枚箱に何か入れたのを皆が生温い目で見なかった事にしてあげていた。

順番にクジを引いていく。

「……………」

横島は他の生徒のコスチュームを観察している。コスチュームから情報を少しでも得ようとしてるのか。横島は一見したら模擬戦闘について真面目に考えて…な訳がない

（ぐふふふふ…女子のコスチューム！水着みたいにピッタリしてなんてスケベなんや！！
殆んど全員がボデイルインが出る！特に八百万さんのあの衣装は素晴らしい！犯罪
やろ！！八百万さんみたいなお嬢様系で大胆に見せるって！！コスチューム会社の皆さん

ありがとう!!ホントありがとう!!感動した!」

女子のコスチュームを熱心に見ている。そんな煩惱の塊に頭を痛める存在が額にいた。「プラスにはなるのだが」肝心の戦闘訓練に欠片も意識が向いてないのもダメだと

『…主としてはこの戦闘訓練で誰と組みたい』

心眼は真面目に訓練について考えさせる様に誘導。

「誰とつて…それは勿論!!可愛い女の子と!」つて言いたいけどなあ…戦いはコンビの相方に押し付けたいからなあ…女の子に押し付けるのは流石にいややし。(盾として)頼れそうなのがいいよな…うん…切島とか?」

『…選んだ理由はともかく悪くなさそうな相手ではあるな』

心眼は横島の切島に対しての認識も知ってるので少し同情した声になっている。

だれか忘れてたのに切島の個性を覚えていた。テストの時に個性を使ってる所は見えないが、硬化という個性がテストにまるで使えないと愚痴ってるのを聞いている。盾に使えるそうだと思っていた。ヒドイ。

そんな事を思われてるとは知らない切島は近くにいた。横島の会話はちゃんと聞こえていた。

「頼りになるって思ってくれるのは良いけど戦いを押し付ける気満々なのか!」

横島はギクツ！として近くに居たの忘れてたという顔をした。

「誰と組むとしても三人と戦う組には成りたくないな。切島も嫌だよな！」

横島は話を逸らすと切島は勢いに流される。

「え、あ、おう？それはそうだな。相手の数が一人増えるのはキツイよな」

『戦うのが嫌な相手は誰になる』

「嫌な相手？……そりゃ……うくん……八百万さんかなあ。昨日のテスト見ると……

(あのエロいコスチュームを) 間近で見たいけどなあ……」

「八百万か。昨日のテストで大砲とか造ってたよな。確かに戦うとなるとあれか……俺なら轟かな。凍らされたらどうにも出来ないし」

「凍らされる……氷、テストの時に氷を使ってたのは……ああ轟ってあのイケメンの事か！テストで上位やったな、ケツ！」

轟を見る横島の目付きが悪い。

単なるフツメンのイケメンへの妬みである。

「八百万が一位で轟は二位だった。二人とも推薦入学者なんだよな。やつぱ推薦されるだけある」

「推薦……つまり……イケメンただけやなくて……エリートの子ケメン！天はイケメンに幾つものモノを与えるんや!!……グギギギ」

「よ、横島そんな血走った目をするなよ怖いぞ。と、横島、ほら!!お前がクジを引く番だ!」

「あー呼ばれてるな。じゃあ切島お先に行ってくる」

オールマイトの前のクジの箱

「さあ横島少年どうぞ」

横島はガサゴソとクジを引く。

「どうか!弱い安全な相手と当たります様に!神様おねがいます!...あ、神様に祈ったらダメそうな気が」

クジを引いた後の試合表。

片方が三人になる試合。

「八百万・轟・峰田VS横島・切島」

ヒーロー側が左で右がヴィラン側。

「ウツソだろ!」

「ふざけんな!?!こんなんあれや!不正や!イジメや!」

「ど、どうなってるんだ!?!あの会話の後にこれって...こんな偶然あるのか!?!どんだけ俺たち運が悪いんだ!?!も、もしかして雄英入学で運を使い果たしたなんてことなのか!?!」

『ふむ、見事にフラグを撃ち抜いたな。流石は主か』

切島、横島コンビの対戦相手が推薦入学者二人。更にオマケに1人。1人が大した事がないと認識できても……ラスボスと裏ボスタッグとの対決か？

「横島さんが相手ですか！」

八百万は相手にとつて不足なし！という気合いのこもった視線で横島を見ている。昨日の事でライバル的な意識があるようだ。轟は特に反応はない。横島や切島に興味がないと言うよりも周りに意識をあまり向けてない？

「むぎああああ!! やっぱ神様に祈ったらダメやったああ!!」

「じゃあ!! 勝ち確!!」

味方が最上位二人で峰田は喜んだ。

推薦二人が当たると奇跡的な運の悪さ。切島はクラスメイトから同情の視線を向けられていた。横島が相方な事も含めてか？

くじにしたオールマイトとしても此処まで片寄った結果が出るとは予想外。このまま進行しても良いのか迷っている。

「ふう……安心しろよ切島」

先程まで叫んでいたのが嘘のように落ち着いた様子で横島は真剣な目で切島を見ていた。

さっきまで狼狽えていたのに……今のその目には迷いも恐怖もないようにみえる。その目に……希望を感じてしまう切島。

(横島……!!)そ、そうだ。……こうみえても横島は一般入試トップ!推薦者相手でも対抗できるとは思えない。相手が推薦者二人だからって諦めるのはまだ早いよな!

「もう白旗の準備はしてある!」

何処から取り出したのか白い布と棒があった。

「おおい!?初手降伏でもするのか!?お前もう諦めてるのかよ!!」

「そんなん諦めるに決まってるやろ!!勝ち目が一切無いやないか!!無いやないか!!」
涙を流して横島は主張した。

「い、いやな。横島、ヒーロー目指してるのにながそんな簡単に諦めたらダメだろ」

自分も諦めていたとはいえこうも横島がアレだとそうも言いたくもなる。

「今回俺たちはヴィラン役だ!ヒーローやない!諦めても問題ない!」

「そ、そういう話か?」

「考えてみれば……向こうがヒーロー役なのに戦力過多なの可笑しいよな!アカンやろ!反則やろ!普通ヴィラン側が有利で数が多いのが普通やないか!」

「そう……か?」

「理不尽を乗り越えるのはヒーローって言うてたやん!ならヒーロー側を不利にするべ

きやんか!!」

難癖だったが確かにそうかと少しは思わせる話でもある。横島はこのタイミングでオールマイトに要求した。

「マッスルティーチャー!!此方が不利すぎるんでハンデを下さい!」

「え」

心眼を入れて3対3なんてのも可愛そうに思う。ハンデも必要かな…と思っているもまさか本人から言われて驚いた。こんな要求をするヒーロー候補なんて普通は居ない。ヒーローになろうという高いプライドと自負と羞恥心があるからだ。ある意味ですごい。ちよつとした爆弾発言。

で、その発言が爆竹になるような爆弾発言が追加される。火に油…味方と思った相手からの後ろからの銃撃か

『何を言っている。主の記憶にあの”程度”の相手なら…別にハンデなど主には必要ないのではないか?』

全員バツチリ聞こえる大ききさの声だった。

第91話

「し、し、心眼何してくれとんじやああああ!!」

『…主よ。何の話だ』

「な、何の話もくそも! そんなん!! 組み合わせ発表の時の事に決まっとるやろがい!!! ワイから見て雑魚みたいな発言したの問題と認識しとらんのかアホお!!」

『……またその文句か。もう何度か模擬戦闘が終わった後だぞ』

「模擬戦みたから改めていうてんるんやろがボケえええ! オドレの発言は事実無根で俺達の方が雑魚です! っつて弁解したのに、向こうはヤル気満々なんやぞ!!」

「横島あ。お前さ、対戦相手に自分達が雑魚つて言うなよ…油断させるにしても、お前、実技で一位なんだろ」

「違うんや! あれな何かの間違いなんや!!」

「自分でそれを言うのか!？」

「はっ! お前からかてワイが一位なの可笑しいとか思ってるやろ!」

『自分で言つて悲しくならないか?』

「正直、まあ…」

「やろ！なのに少なくとも八百、万さん、実技一位をそのまま信じて過大評価してるんや。過大評価で全力で来るつもりなんや。やばいんや……こ、こうなったらリタイヤを!!」

「待てつて!!模擬戦だしそんな危ないこと無いつて!」

「は??見てないんか!?爆破やらパンチで床の破壊やぞ!?安全つてどんな認識やねん!」

「いや、…あれは…緑谷と爆豪は二人とも知り合いで因縁があつた感じだろ。それでヒートアップしてあんな事になつたんだよ。俺達の相手は過激なタイプで無さそうだし大丈夫だつて」

「いやー！八百万さんは優しくても！あのイケメン絶対過激なタイプや！それにな……心眼が挑発しとんねん!!やり過ぎる理由があんだよ！安心とか思えるか!!あー心眼なんで挑発なんてしたんや!!アドバイスどころか……全く逆の……は!!……し、心眼……お前……ワイの所に来たのアドバイスのためにとか嘘やろ……」

『p.6』

「本当はワイの抹殺を師匠に請け負つたんやろ!?そうなんやろ!?そうなんや!!」

「横島なに言つてんの!?てか！師匠に抹殺される覚えがあるのか!」

「覚え!!……少し前に師匠のパンツ盗んだのがバレた……それかこの前の覗きの事をまだ

怒ってて!？」

「横島……お前、覚えあるのかよ!しかも師匠のパンツ盗んだのかよ!?!……いや!本当だとしてもそれが理由で抹殺はないだろ!」

「……………」

「あ、ありそうなのか」

『思考を飛躍させるな主よ。単に全力で向かってきてくれた方が主のよき経験となると判断したまでだ』

「そんな経験いらん!!」

「てことは本当にわざと挑発したのか!?!負けるなら負けるで、全力の方が負けても良い経験になるって事か……!?!」

『ん?負けるとはなんだ。負けるとは一言も言っていないが』

「「え」」

「勝ち目あんの!?!」

「ないない。俺達二人であるわけない」

「横島あ」

ヒーロー的にアウトな言葉を堂々と言う横島。

『主の自己評価は……………主は置いておくとして、切島だったか。負けるつもりで戦いに

挑むのか?』

「え、……そりゃ勝ち目は少ないとは思うけど……負けるつもりもないぞ! 戦うのに負けるつもりなんて男らしく無いからな!」

『そうか。なら文句を言うのでなく早く勝つ為の作戦を立てるべきではないか。時間はもうあまり無いぞ』

「そ、それもそうだな! よし! 横島考えるぞ!」

「降伏の方法についてだな!」

「違ーーう!! 勝つ作戦!」

『ツツコミを入れているとキリがない。勝つ作戦を立てるのに重要なモノは先ずは相手の情報だ。模擬戦闘の本番中には口出しはしないが作戦作りぐらいなら協力しよう』

「相手の情報つて、八百万さんとイケメンの情報を教えてほしいんか?」

『いや主の情報なら話して貰わなくても記憶を読み取つてわかる』

「(え、心眼に頭の記憶を読み取られるのか。怖い個性だな。相手は師匠らしいけど無断でバンダナに心眼を付けられたんだよな。横島平気なのか?)」

「(こいつオレの記憶わかるのか: 別に見られて困る記憶は……は……こ、コイツからエロ本の隠し場所だったり、今度の覗きの計画がバレたりせえへんか!?!……こ、此所で何とか口止めせんと命が!)」

『主、創造主に個人的な情報は言うつもりは無いから落ち着け。そもそも創造主は……いやなんでもない』

「え!? なんやそもそもって! ……ハッ! もうバレてるんか!？」

『……ただ持つてるのは主の記憶からの情報だけだ、情報を上げていきソチラの認識とあっているか擦り合わせていこうと思うがいいか』

「オツケイだ。横島もいいよな」

「ええけど……話し逸らしたよな。バレてるのか。帰ったらヤバいんか!？」

「…ソコは今は気にするなよ。心眼、話を続けてくれ」

『まずは赤と白のイケメンについて。見たままで在れば氷らせる個性、テストの時に出した氷の量や範囲から言って上位の力量と技量がある。個性抜きの高身体能力も高い』

「赤と白のイケメンでなく轟。轟についてはそっちと同じ事しか言えないな。クラストップクラスの實力者だな」

『戦った場合どうなると判断する』

「戦つたら? オレだと…オレの硬化が意味ないよな。凍結も早いし近付く間もなく凍らされる。避けれそうにもないし、真つ正面からだ絶対勝てねえ。漢らしくないけど隠れて接近して奇襲したらワンチャンあるかな…そう考えると建物の中で戦うなら有利か」

『どちらが有利とも言えない』

「そうなのか？」

『相手は壁ごとか室内ごと凍らされるぐらいは確実にできる。それと、これは予想だが恐らく建物丸ごと凍結させるぐらいできる力量があるかもしれない』

「そんな事できるのか!？」

『出来ると思った方がいい。推薦入学の一人のようだからな』

「うーん言われてみたら推薦されるレベルの個性なら出来て可笑しくないか。なら核の部屋で籠城なんての出来ないよな。建物ごと凍らせられたらどうにもできないし…確かに建物が有利って言えないな」

『奇襲自体は悪くないと思うがな。話しは少し変わるが主の記憶だと昨日のテストに使われた氷がグラウンドに残っていなかった』

「そう言えば…結構氷を出してたのにグラウンドには残ってなかったな…けどそれがどうしたんだ？」

『氷を本人が後片付けしたのか』

「それはそうだと思うけど…自分の出した氷は消せるんじゃないか」

『自分で産み出した氷を操る事で溶かす事も可能と言う話もあり得るが、熱を操り溶かしたとも考えられないか』

「は、轟は氷の他に熱を操る感じの個性が有るってことか？どうしてそう思うんだ」

『根拠は無い。ただ二つの個性が使えるタイプも存在すると主の記憶にあるのでな。違うかもしれないが炎などを使えることを想定しておいても損はない』

「…そうだな。推薦だしありえるかもな」

『他に何か情報はないか』

「…：情報っていうか、轟の個性テストをみた時の感想なんだけど、身体能力が高いって言うってたけど、轟の動きは無駄な動きが少ない。洗練されてるって感じがしたな」

「無駄な動き少なかったか？」

『主の思う比較対象から思えば無駄はあるが、他の生徒と比べれば格段に動きは良かった。個性だけと思えば痛い目を見るタイプと思われる』

「個性抜きにも強いのか…：これ遠近どっちも隙がねえって事にならない」

『隙がないこともないが、他にはなにかないか。例えば性格など』

「お高くとまったいけすかないイケメン！」

「それ個人的な妬み入ってないか？まあ気難しそうとか、プライドが高そうとかって感じはしてたな」

『ふむ印象だけでいえばチームワークに難が有りそうか。流石にチーム戦で単独行動をする愚行は無いだろうが、力量の高さから考えれば控えめに動くとは思えない。』

轟については此処までとして、次に八百万百、轟と同じ推薦組か。主が昨日日本人から教えられた事だが体内の脂肪を使用して物を創る個性らしい。明らかに脂肪で足りない量が出ていたがな』

「何でも造れるのか。轟と並んで推薦されるだけある個性だな」

「八百万さんたら怖すぎ!!何でも作れるなら勝ち目が0や!」

「なあ横島、何を作るの想像したんだ?」

『主、バイクや大砲などを創っていた事を考えれば大抵の物を創れると判断できるが、しかし法で許されてもいないモノは造れても造らないだろう』

「法律的に!?!おい横島マジで何を作るの想像したんだ!?!」

「それは、ほら、…話が逸れてるぞ?話の続き続き!!」

「…本当に何を作るの想像したんだよ…」

『物を創れるならどの様な場面でも対処が出来ると思える。しかしそれが弱点にもなるな』

「弱点?」

『どの様な時にも対処が可能という事は判断する選択肢が誰もより多いと言うことにもなる。経験があれば最善の選択を素早く出せるかも知れないが。初めての模擬戦で即断即決で動けるほどの経験はあると思えない。それと創るまでのタイムラグもある。』

速攻にも強いとは思えない』

「なるほど」

「八百万さんは一気に襲えつてことか…」

「言い方!!」

『いかがわしい想像をするな』

「うーん物を作る暇を与えずに一気に攻めれば勝てそうな気もするけど……普通に考えれば八百万も接近には警戒してるだろうし。単独行動でも無いと轟が氷で牽制して近付けさせないよな」

『近付いても油断は禁物。テスト全般で個性を使っけていて身体能力についてはわからないが、低いと期待しては駄目だろう』

「まあ真面目ばいし個性だけ鍛えて身体を全く鍛えないなんて性格には見えないよな」

「あとチーム戦だと創造したモノを仲間に渡せるよな」

『あり得るだろう』

「他の二人も渡された装備かアイテムで何かしてくるのかもしれないと…仲間が増えるほど厄介なタイプだな。改めて一人多いのが最悪だな」

『性格についてはどう思う』

「優等生で真面目で美人！」

「美人は性格でないだろ。話したことは無いけど真面目で固そうってイメージ」

『真面目な優等生、私の創造者と同じタイプか。想定外には弱そうではあるな。最後に峰田実なのだが……主の記憶に試験の時に見た記憶が無いな』

「…ああ横島が女子ばかり見てたから。轟みたいに目立たないと男とか見ないよな」

「し、仕方ないやないか。健全な男子校生なんかから！一応男でも目立ってたのは見たし、覚えてないってことは峰田で昨日のテストで目立った成績はないだろ」

「いや一つだけ目立ってたぞ」

『一つ？』

「反復横飛びだよ。頭の玉を外して球の弾力で凄い勢いで跳ねてた。たぶん反復横飛びではトップだったな。あ、それと、たしか玉を自分以外が触ったらくつつくから気を付けろとか言ってた」

『頭の玉を自分ならトランポリンの様に使えて、他人なら粘着させる事ができるのか？』
「そんな感じだと思う」

『反復横飛びだけで、他のテスト、短距離か長距離走などではその個性を使っではないのか』

「いや普通に走ってて…走りの速度は…印象に残ってないしそんな速くも無かったと思う」

『ふむ、身体能力は高そうにはないか。予想では個性による妨害や奇襲等で真つ正面から戦わないタイプ……場合によっては推薦された二人よりも厄介な油断してはいけない相手かもしれない』

「その本人が二人が居るから楽勝!とか思いつきり油断してた感じやったけどな。くそう!何でワイが峰田の立ち位置でないんや!」

『ふむ……油断も演技と言いうこともないだろう。此方としては油断は有り難いな……さて三人の情報は以上か?』

「そうだな。次は肝心の作戦か」

『いや次は自分達の事だ』

「此方の戦力ってことか?じゃあ先ず俺から。俺の個性は硬化、意味はまんまで硬くなる個性で接近戦しかできない。まあ轟との相性が最悪だな。で、横島の能力は身体能力の強化だろ。相性俺と同じで悪いよな」

『いや間違つてはいないが主の能力は……』

「白旗の準備は任せろ!」

「いや!まだ相性悪いって言うてるだけだろ!?!白旗用意するなよ!」

「だってどう考えても勝ち目ないやん!」

『……………主、戦う前から勝負を捨てたと創造主に報告する事になるぞ』

「勝負は最後まで捨てたらアカンぞ切島！」

「…手のひら返し早いな横島！俺は諦めてねーよ！って…：…言いたいけど、戦う前から勝負は捨てたくないけどさあ…：…言葉にして改めて戦力比べると勝つ方法がなあ。何とか気づかれずに接近しないと話にも成らないよな。作戦何かあるのか」

『私から推奨する作戦はないが』

「が？」

『主が既に作戦を思い付いている』

「横島が!？」

「え…おれの作戦!?それってもしかして今考えてたの?」

『そうだ』

「いやいや!!こんな作戦だと勝てへんやろ!？」

『私は勝機は十分にあると判断するが?』

「ないない。成功する確率低いだろ」

「…：…勝てる可能性はあるんだよな。横島、作戦教えてくれ」

「ええけど、宛にするなよ」

『では私から説明しよう』

「んーそういう作戦か…横島の作戦で勝てる…のかな？」

『作戦に乗るかどうする』

「…他に思い付かないし横島の作戦に乗らせてもらう」

『良いのか。活躍はほぼできないぞ』

「活躍出来ないのは問題ない。活躍出来ないからって駄々を捏ねるなんて男らしくねーし…ただ…この作戦って反則にならないか？」

「何処に反則が？」

「それは…こう倫理的に」

「倫理的って、ヒーローでなくてヴィラン役やぞ」

『ヴィラン（犯罪者）が倫理的で手段を選んでくれるという認識を持つのが可笑しい。訓練として大ケガをさせるようなのは流石に駄目だろうが。それ以外なら対応できないヒーロー役の失態となる。むしろヴィランなら当然する事をしない訓練などやる意味がない』

「…あーやらない方がダメなのかな」

「あ、そう考えたら！素直に負けを認めても良いんじゃないやね！ヴィランなら自分の身の安全第一でも可笑しくないし！」

「それはダメだろ」

『……主、そう言えば創造主さまがクラスでの対決があつた場合に勝てば褒美をくれるつもりらしい。……そうだな主が今思い浮かべたご褒美がもらえるかもな』

「切島ああ！死ぬ気で勝つぞ!!!」

横島の目は燃えていた。

「……………」

代わりに切島の目が死んでいた。

『主がすまない』

町並みを再現した戦闘訓練。

町中なら人の巻き添えなど注意しないとイケないと思うが、初めての戦闘訓練だから、核があり人が避難した設定なのか制限などは課せられていない。建物を破壊し過ぎるのは減点されるだろうが。

八百万、轟、そして峰田のヒーロー役の三人は分散せず固まって行動している。分散しての各個撃破を警戒してという訳でもない。

クラスで最上位の推薦組二人にプラス一人。

対して相手は一人少ない二人、入試トップと思えない横島に、弱そうにも見えないが突出して強いとも思えない切島。横島の個性は正確には不明だが、切島の個性は解っている。硬化、肉体を硬く変化させる個性、身体能力は高くなつてない。硬いだけなら氷で凍結させられる轟のカモダ。峰田のモギモギも効果的。

核のハリボテの確保などで一発逆転が狙えるヒーロー役でもない。勝ちも確定してると思つても慢心とは言いがたいだろう。

「なあ八百万も轟も、そんな気合いいれなくて良いだろ。ほ、ほら、あの心眼つてのが言つたのただの負け犬の遠吠えみたいなものだつて」

峰田には二人が気を張りすぎてる様に見えた。

「……」

別に轟は心眼の発言については初めは苛立ったが其処まで意識もしていない。今あるのはただ「片方の力」だけで戦えると証明したいという思い。横島達個人を意識してる訳でもない。

轟は勘違いだが八百万の方は確かに気負っていた。

「峰田さん、横島さんは一般入試のトップなのですよ。個性もハッキリとは判つていません。油断して良い相手では有りませんわ」

「……」

峰田の顔には警戒する必要があんの？と露骨に出ている。八百万だけは横島の能力を高くみているようだ。横島を思い出し峰田はやっぱり過大評価だと思ふ。他の生徒も峰田と同じく八百万の過大評価だと判断するだろう。

複数の建物はあるが核がある建物は決まっている。実戦を想定するなら建物を見つけることから始めなければいけないかもしれないが、決めず探索も含めると今日の内に全チームの模擬戦をするのは困難だからだろう。

「彼処が核のある建物ですわね」

八百万は核の建物を観察し、上の階の一ヶ所が外から見えない様に塞がれているのを見つけた。

「あの階だけ外から見えないようにされてますわね……外からの侵入を防ぐ為か、内部の様子が見ええないようにするためでしょうか」

「なら？」

「ええ恐らくあの階に核があるのでしよう」

「そう思わせて別の階に核があるって事はないか？横島とかセコイ作戦立てそうだし」

「…無いとは言えませんわね」

「うーんどうする」

「迂闊に入るのも…奇襲の待ち伏せか罨がありそうですし」

「あー横島は罨仕掛けそうだよな」

「此方は策を立てて行きたいですわね」

「オイラの”モギモギ”は壁にくつつくから、モギモギで外の壁を登ってオイラは外から潜入するのは？上の階の方は防がれて無いぽいし」

「私たちが囷になつて二人を引き付けければ峰田さんが核を確保などできますわね。いえ、しかし上の階が無防備だとも限りませんわ。既に麗日さんが飛んで侵入しましたし」

「あー上からの侵入を想定してるかもしれないのか」

「轟さんはどう思いますか」

峰田と八百万は話しあつたが轟は一言も何も言わない。口を出さない理由は無口なせい。そうでなく。勝ちを確定してると轟は話し合いの必要を感じていなかった。

「罨があつても関係ない」

「関係ないとは…」

疑問には答えず轟は建物に向く。轟から出た冷氣。冷氣は氷となり自然の凍結ではあり得ない速度で凍結が進む。瞬く間にとつていい時間で氷が建物全体を覆つた。

「これは…」

「す、すげええ」

啞然とするしかない。

自分達に一言もなく勝手に攻撃した轟に文句も言えない。勝ったと思ったからだ。

建物の中で逃げ場なんてあると思えない。二人は突然の凍結に対処できる個性持ちでもないと思う。ヴィラン役の二人は建物の中で凍りついてる筈だ。少なくともマトモに戦闘が可能な状態で居られると思えない。

勝負はついた。

そう思うのを……油断という。

これまでの模擬戦闘では勝ち負けが決まった後にオールマイトから勝者の側が陣営の名称が出ていた。ヒーローの勝利と宣言が出されていない。もう少しすれば気付けただろうか…

それに気付かない内に相手は動いた。

勝ったと気が緩んだ所を狙う。八百万は横島を高く評価していたのでまだ完全には油断はしてない。轟も油断はしても不意打ちには反射的に反応出来るぐらいの訓練を受けているだろう。しかし油断もあり反射的に動けるほど特訓も受けてない峰田は

……

「ほげえええ?!」

「おらあ!! 確保じゃああ!!! くそ! 八百万さんが良かった!!」

「峰田さん!」

現れたのはビルの中で凍ったと思っていた横島。頭に袋を被せ峰田を羽交い締め。

「へ、へへ、ヒーローどもめ。大人しくしろよ。コイツがどうなつてもええんか?」

「よ、横島さん…」

ゲスな顔をしてそういう。三下ヴィランの演技だろうか。まるで演技でなく素にみえるほど自然だ。演技なんだろうか?

横島は何で無事なのか。何らかの手段で建物から逃げた? それか、そもそも建物の中に居なかった! 八百万は正解を確認するために聞いた。

「…建物の中に居なかったのですか」

「本来なら建物の中に入ってきた後に後ろから挟撃する予定やったんだよ! なのにソコのイケメンが凍らすから折角考えた作戦が台無しだ!! 建物全部凍らせるとかイケメンでチートめ! お前みたいなのが居るからワイがもてないんじゃない!!」

横島は特に隠すことでもないのか素直に答え、作戦を台無しにされた事が怨めしいとばかりに轟を睨む。…半分ほど本音ではある。

「挟撃狙いで外に…なるほど、外から見えないようにしていたのは横島さんが居ないこ

とに気付かせない為でしたか」

八百万は納得し轟は苦い顔をした。

戦力が少ないのに戦力を分散するとは普通は思わない。それに挟撃にはタイミングが重要。即席のチームでやるには難易度が高い。

外に出ている事を予想しろというのも酷かもしれないが、轟の行動が峰田が捕まった事に繋がった事は否定できない。

横島は轟を見てペツとつばを吐いた。小者らしい妬みの入った表情をしている。これについては完全に素だ。

「これやと建物の中の切島は……よおくも！切島をやってくれたなヒーローども!!この落とし前に……おっとイケメン、下手に動くなよ。ヒーローなら人質ごと攻撃なんて出来ないよなああ。くくくくく」

「っ」

動く気配を見せた轟の動きを止める。横島は峰田を前につき出す。いつの間にか峰田に捕獲テープも巻いてある。二人に対して捕獲した峰田を向けている。そう！盾にするように……するようになんていうか盾だ。峰田シールドだ。

「むぐおおお!! (オイラ盾にされてる!?)」

「暴れるんな峰田。もう捕獲テープ巻いて有るんだからな。捕獲されたヤツは動くな。」

戦闘不能扱いだろ。抵抗したりしたら反則負けだぞ」

反則なのか知らないが反則の可能性があるのかと峰田は抵抗できない。横島は峰田を下ろさない。

「ふごお!!ふぶー!ふいははなへよ!!ふおいらへんほうふほうふふかいなんふある!ひほひちにふんぬあ!(いや!なら!オイラを離せよ!!オイラもう戦闘不能扱いなんだろ!人質にすんなよ!!)」

「…何で自分を離さないかって?」

「ふおうふおう(そうそう!)」コクコク

「何いつてんの?」

「ふあ(え)」

横島は悪い顔をしていた。

「ヒーローなら戦闘不能のヴィランになんもせえへんやろけど、戦闘不能扱いなヒーローをヴィランが捕まえたなら……」

「ふふあはへたなら(つ、捕まえたなら?)」

「それヒーローをボロきれになるまで利用するやろ!おら!負け犬は大人しく盾になつてろや!!」

『『『くっそ外道!!?』』』』

モニターで見てる側の台詞とシンクロしていた。

「ふおまへひーほーほうほほしてはへはろ！はんほふはろ！（お前ヒーロー候補としてそれは駄目だろ!!反則だろ!!）」

「今はヴィラン役やし。あと反則つてヴィランが人質取つて反則？へ！ヴィランが人質取らへん方がありえへんやろ！」

横島の発言は間違つてない？たぶん

監督のオールマイトもヴィラン役としたら正論なので止める様には言えない。いいないが、実戦を想定したら人質は普通に有ることだが…やるのが早すぎる。これは初めての模擬戦だ。初手からこんな捌め手を使つてくることは想定外。さらにもうひとつやらかしてもいるのだから。

「さて、切島を凍らせてくれた礼はコイツに受けてもらうか…くく…さあ覚悟はええか!!」

人質を盾にして戦闘を仕掛けてくると二人は身構える。観戦してる生徒も卑劣なヴィランとヒーローとの戦闘が起こると思つていた。

良くも悪くも決着が付く!!戦いの行方は!!

「このまま逃げて！コイツをおホモなヴィランに売つてやる!!つて事でサラバ!!」

「ええ」

横島は逃げた。

第92話

横島が逃げた。

それはもう見事な逃げっぷり。

二人が呆気に取り残されてる内に部屋に現れた黒い虫を彷彿される素早さで峰田をさらったまま視界から消えた。ホモに売るとかなんとか言いながら逃げた：模擬戦闘なので考えるまでもなくホモ云々は嘘だとはわかる。どう考えても逃げる為の適当な言葉…。

何で逃げた?!

取り残された二人は顔を見合わせる。人質を盾に戦闘を挑んでくると思ったのに拍子抜け…：逃げたのは…：なんだろうか。

逃げてても模擬戦闘に勝てない。ヴァイン側の勝利条件はヒーローの確保か。時間が制限時間を経過すること。

「時間稼ぎか?」

「…私達を追わせて時間稼ぎが狙い…という事ですか」

「…それ以外には考えられないだろう。相手の思惑に乗る必要もない。峰田を放置して核の方を狙えば良いだけだな」

「救援には行かないのですか」

「ああ核の脅威を考えれば仲間の救出を後回しにしてもいいだろう」

「確かに…そうですね。捕まったのが一般人役ならともかく、捕まったのは同じヒーロー役。ヒーローを助ける為に核を後回しには出来ませんわよね……」

「…そう言うことだ。オレは峰田を見捨てて核の方に行くべきだと判断する」

「……私も同じ判断をしますわ。峰田さんには悪いのですが」

決して峰田だから見捨てても良いやと思っただけでない。ウイルスのホモ云々の発言で人質を殺すきはない。後から助けられると判断できる。死ぬより悲惨な目に合いそうな気もするが……。

……追わせるのが目的なら命の保証が有るような発言をするかと疑問を感じた。

「…俺達が絶対に追ってくると思えたのか…普通は核を優先しても可笑しくねえよな。俺達が核を優先するとか考えなかったのか？…仮に追うにしても、両方でなく片方だけって事の可能性は考えるよな…」

轟は疑問を口に出す。

「…切島さんの救出に向かったのでは…」

「…切島を？…無いとも言えねえが…切島の救出の前に峰田を拐ったのは？」

「轟さんの凍結を警戒してでは、切島さんを助けてもまた轟さんの凍結の餌食となつては意味が有りませんし。それと時間稼ぎ狙いと思わせれば建物の中に居ないと思わせる事が出来ると思つたのでは」

つまり峰田は盾として、

「…もし切島の救助狙いなら問題ねえ。熱を使う個性でもなきや模擬戦の時間で解放はできねえぐらいには凍つてる筈だ。…あの二人の個性は知らないが熱が関係したの
は使つて無かつた…よな？」

「判りませんわ。横島さんの個性は正確には不明ですので」

「…そうか。わからないことは考えても仕方ない。個性で救出できる可能性があると思定して……」

八百万の予想通りに横島は救助に向かったのかどうか。横島は建物の入り口とは違う方向に逃げた。

「……アイツは向こうに逃げたよな」

「ええですがグルツと回つて別の所から建物の中に入る事はできると思います」

「…アイツが建物に入ったとして、今からまた凍結を使えば今度こそ仕留められる。峰

田ごと凍結させて良い思うか？」

「流石に仲間ごと攻撃は出来れば避けたいですが……」

八百万は気が進まない様子だが否定はしなかった。実際に攻撃することになる轟に選択肢を委ねるように見た。

ヒーローが仲間を巻き添えで攻撃をして良いのかどうか。成るべく避けるべきだろうが緊急時には仕方ない。まだ巻き添えにしても良いほど逼迫してると思えなかった。

「……………いや、このまま建物の中に入る」

「わかりましたわ」

轟の選択に八百万は安心した様に頷いた。

「行くぞ」

轟と八百万は凍った建物の中に入る。見回すと入り口とは別に入れる所があった。

「向こうから入れるな……」

「やはり横島さんは中にいるのでしょうか」

「入っていると考えた方がいい」

「そうですね。こうしてみると隠れる死角も多く有りますわ。峰田さんを浚った時の様に奇襲してくるかもしれません気を付けましょう」

「…ああ」

上の階に続く階段。

轟が階段に近付く。

八百万は周りの警戒をし轟は更に階段に近づく。横島が奇襲してくる様子は………
ベチャ

轟は足を上げる。

「それは……ネズミ取り……でしょうか」

凍った階段の上に粘着式のネズミ取りが置いてあった。

「………確実に居るな。しかし……」

ネズミ取りが靴にくっついてるが足はうごく。

付いたままだと少し動きづらいがネズミ取りを靴から剥がせば何の問題もない。何の意味もない様に思えた。

意味がない。根が真面目な二人だからこそ深読みしてしまう。

「何か薬品でも塗られてねえだろうな。下手に触るのは危険か？」

「危険性の低い薬品ならあり得ない事もないですわね。代わりの靴を造りますわ」

「……わかった。靴ごと脱ぐ」

轟は八百万に新しく靴を作ってもらい靴を変える。靴ごとネズミ取りを置いてから階段を再度登る。ネズミ取りはおとりで本命の罠があると警戒。横島の奇襲があるの

かと警戒をし……特に何もなく拍子抜けをさせられた。

階段を登りきり次。

「…まだあるのか」

今度もネズミ取りが置いてある。

しかも多い。

ただネズミ取りは地面には接着されてないので、八百万の作った棒でネズミ取りを退かせられる。これだとネズミ取りに何の意味もない。何かしらネズミ取りに仕掛けられてるか、注意を逸らせて今度こそ奇襲をしてくるつもりかと、鉄の棒でネズミ取りを退かせながら、奇襲も警戒しながら注意をして階段を上が……

スコーン！

ネズミ取りに気を取られればかり警戒していると、退かせたネズミ取りに糸が、糸の先は上、糸に吊るされた何かが上から落ちてきた。油断はしてなかったが、一枚上手だった。意識の隙間をついて落ちてきて、轟の額に当たり軽い感じの気持ちいい音を鳴らした。

「と、轟さん大丈夫ですか」

「ああ…ダメージはねえ…さっきのはなんだ」

「空き缶ですわね」

吊るされた缶がブラブラしている。

叩くとカンカンと軽い音。

中身が空っぽな音だ。

ただの空き缶でちよつと痛いぐらいか。

なんの為の罨なのか。

轟の怒りだけはかった。

「轟さんー」

また何かが振ってきていたのだ！時間差の二段構えの罨か!!降ってきたのはさつきと同じ缶だが中身が入ってるのか速度も早い!今度が本命か!しかし轟はそんなのにまた当たるかとばかりに軽く避けた。空き缶は横を通り抜け…壁にぶつかり

ベチャ

今度の空き缶の中には泥みたいなのが入っていた。空き缶の中身が轟の服と顔にベチャツと掛かる。顔と服が汚れた。汚したモノは掛かると不味い薬品の様でもない。毒性などは皆無。ただの水っぽい泥だ。ただ汚れただけだ。

「何か体調に変化などは」

「……無い。ただの泥水だ」

轟にダメージは無い。

無いが轟の額には青筋ができていた。

「何か落ちてきてー……いきましたね」

三階、ビー玉がジャラジャラ流れてきた。

……なんの意味もなく階段を流れ落ちていった。

三階フロア

階段のど真ん中に何かがある

「お猿さん……ですね」

凍らされたシンバルを持った猿のオモチヤが、何か紙がシンバルの間に紙が挟まって
いる……

「何かありますわね」

「……確認してみてるか」

轟が解凍するとキーキーシンバルを五月蠅く鳴らす。シンバルにはアホが見ると書かれた張り紙が……おサルさんはまた轟によって凍らされた。

「……なんなんだ」

「何かしらの意味があるのでしょいか」

ネズミ取り。空き缶、泥要り缶、ビー玉、猿のオモチヤのラインナップ……ダメーヅ皆無の罨。罨なのか？何か意味があるのかと深読みし、真面目な二人は真面目に考える。

ツツコミとして今はなき峰田が惜しい。

時間稼ぎだと結論を出して昇る。

「隠されていたのはこの上辺りだったけど……」

そして4階、二人が無言で登っていくと声が聞こえた。　上は外から見えないように

細工されてた階だ。

「あーくそ!!まったく溶けへん!!」

横島の声がする。ユックリと物音を極力出さずに声が聞こえてくる方向に向かうと壁の向こうから声が聞こえる。轟は壁際からコツソリと中を見た。

横島がいた。

横島の近くには核のハリボテもある。

それと：ハリボテの近くには人の形に膨らんだ工事によくある青いシート。何処からか調達したシートか。形からいってシートの中身は切島と思える。横島は暖める様に足を必死にシートを擦っていた。あの畏みたいなのは救助するまでの時間稼ぎか。

横島に気付いてる様子はない。

轟は直ぐさま攻撃したいと思つたが、捕獲テープだけでなく更に簧巻きにされた峰田（人質）が足元にいる。何の為なのか頭に被せていた袋の代わりに口にガムテープが、轟の水ではどうやっても峰田が攻撃の巻き添えになる。地面に寝転んだ状態で凍らせる

と鼻等も塞いでしまう。命が危険だ。

「……八百万ちよつといいか」

轟は八百万に目を向け小声で居る事を伝え、横島だけを攻撃できるかきいた。八百万は轟と場所を代わり横島を見る。八百万が見た時には切島の入ったシートの裏にいた。峰田も持っている。

八百万は無理だと言うように首をふる。それに対して轟はなにかを提案する。八百万は少し迷った様子を見せたが頷いた。

「切島まだアカンのか」

横島は文句を言いながらシートでゴシゴシと足元を拭いている。切島が中に居ても温度を上げるためにシートを被せ、擦って摩擦熱を発生させて溶かそうとしているんだろが……

「……それじゃ模擬戦の間には何とかできねえよ」

轟は隠れるのをやめ一人で堂々と横島の前に出る。

「な！もう来たんか！冷血イケメン……ひとり？」

横島は今気付いたとばかりにドタバタと慌てた様子、落ち着くとなるとひとり足りない事を指摘する。

「八百万は……人質を助ける必要がって言っつてな。」

議論をしてた時の発言の一部で、助けに行つたとは言つてない。

「やっぱりヒーロー様には人質が有効なんやな。なら!!」

足元の峰田をなんの葛藤もした様子もなく盾にする様につきだす。轟はコイツ本当にヒーローを目指してるのかと思う。

「うう!!!うん!!!」

峰田の口は塞がれている。何かを必死で訴えかけてる。助けってくれと言っている? いや、こう峰田もヒーローの卵だ。ヒーローなら自分を見捨てて攻撃しろと言ってるんだらうか。

「へ、へへ、此方には人質がいるんや!ヒーローなら攻撃でけへんやろー!」

そう言つて峰田を人質に……さらにそれだけでなく切島が中にいると思えるシートの子の後ろに居る。動けない味方まで盾にしている。チンピラヴィランでももう少しマシだろう。ヒーロー候補にあるまじき、人としても最低すぎる姿に轟が若干引いた。再度ヒーローを目指してるのかと心底疑問に思う。

しかしこうもあからさまに、ヒーロー的に人質を無視する事も出来ないもので有効ではある。

「……………取引をしよう」

轟は少しづつ横島の方に歩きながらそう言った。轟の身体で横島には入り口が見え

辛くなっていた。

「…おっとそれ以上近付くなよ！」

轟は足を止める。

「で、取引ってなんや。人質を離せって取引ならどんな交換条件でも応じる気は受けるきはないぞ！…：…まあ…：可愛い女の子を紹介してくれるなら検討してもええかもしれんけどな！」

最後のは冗談だろう。

物凄く期待した様な目をしてるが。

「…紹介してもいいぞ」

「な、なに!!女の子を紹介してくれんの!?!」

「…ああ紹介してやる…：八百万」

「おお!八百万さんを!!…え、八百万さん??」

轟は目を閉じる、入り口にポイとなにかが投げ込まれた。金属製の何かが床に落ちた。

横島は何だと反射的に落ちたものに視線を向けると…：強烈な閃光が発生!!

「目がああ!目がああ!!」

某大佐の様な叫び声をあげる横島

「フンヌオオオ!!」

あと横島の巻き添えで峰田も悶えていた。

相当に強烈な光だったのか。目を閉じていた轟の目まで少し眩んでいるが、問題なく動くことはできる。轟は走って横島の方に向かう。核の確保か。横島の確保か。峰田の救助：はないか。

轟は走った。

捕獲テープを手に持っていた。

横島の確保を先にするつもりか。

油断をしてないのか恨みか。

「ああああ!!目がああ!!」

目の前まで来たのに横島が苦しうにまだ叫んで：横島が目を押さえて転がりだした!

ゴロゴロ転がって核のハリボテから離れている。完全に無防備な核のハリボテ、絶好の機会。転がった横島は捕獲は少し面倒、今なら簡単に氷で拘束する事も出来るが、そんな手間をかける必要もない。轟は横島の捕獲よりも核の確保をすることにした。

轟に何かがぶつかった。

一度勝利を逃してからの今度こそ勝利したという油断、煩い峰田の声、足元がガクンと下がる。足元に窪みの様な穴がある。

「っ!!」

そこは横島が立っていた場所だ。横島の身体で隠れていたのか。なんでこんな場所に、しかし穴と言っても浅いもので直ぐに抜かれる。バサリと何かが落ちた音。何かが横合いから来たのに気付くが：同学年の重石がくつき片方の足が少しでも不自由な状態では!!

何かが腕に。

峰田を退かし腕を見た。

「……」

捕獲テープが腕に巻かれていた。

それを見て轟の動きを止める。先ず考えたのは、誰に巻かれた？横島：？横島の声は離れた所から聞こえる。ちがう。テープを巻いてくるのは横島だけ：切島は初めの凍結で動けなくなり横島以外に敵は居ないは：いや、切島？

思いつくのは視界が塞がれた時に聞こえたバサリと何かが落ちた音。あんな音がするのは切島の被っていたシート。

「切、島？」

見えたのは複雑そうな顔をした切島。凍つてろくに身動きが取れなかった筈……もし動けても、素早く轟に捕獲テープを巻くことは……

身体を隠していたシートが無くなって見えた切島の身体……凍結していた筈の切島には、身体には……凍結したような様子が一切ない。横島が溶かしたのかと思つたが、霜焼けや溶けた氷の水滴もないのは……つまり解凍されたという事ですらなく……

「おまえ……初めから凍つてなかつたのか」

「あ、ああ……建物凍らされた時には外に居たから」

初めから凍結してないなら切島の救助なんて必要がなかつた。なのに横島は切島を救助する様な行動をしていた……いや……轟たちに”そう思わせた”……初め……峰田を狙いに来たのだけでなく切島が行動不能だと思わせるため……横島が転がって核が無防備になつたのも、轟に核を狙わせて切島に確保させるため……峰田が口を塞がれていたのは切島の事を隠すため……あの時、峰田がくつついた時に、峰田の口が塞がれてたのを外せば切島が無事なのは判つたかもしれない……自分なら後回しにすると見切られ……轟は思い起こせば全て横島の掌の上だつたのではと疑心暗鬼に陥っていく。

まだ戦闘は終わってない。

そんな轟の耳にはずつと目が痛いと呼んでる横島の声が聞こえていた。横島から聞こえる呻く声は入り口の方に向かっている。八百万がいる入り口の方向に……真つ直ぐ

に…??

不味いとは思ったが確保された轟は動けない。

「八百万!」

注意を促すつもりで名前を呼んだ。

「と、轟さん!?!切島さんがうごけて…まだ!横島さんを捕まえれば対一になりますわ!!」

八百万は捕獲テープを巻かれた轟の姿を見る。そして動いてる無事な切島の姿も…三対二だったのが残るは自分だけ、理解した後に足元で目を押さえて無防備に見える横島がいる。都合が良すぎると不安は感じたが…それでも不安という理由だけでチャンスを逃すことも出来ない。急いで捕獲テープを巻こうとしていた。

切島が全く慌てた様子を見せない。

「畏だ!!!」

「あ…言うの遅かった」

轟の叫びが聞こえる前に横島に対して八百万の捕獲テープをもった手が伸びていた。

目を押さえてる横島の口がニヤリと笑う。横島はギョルン!と回転!八百万の更に足元に更に横島が芋虫が巻き付くように足元にくっついた。

「きゃあああああ!!」

足元に引っ付いてきた横島に八百万は悲鳴をあげる。痴漢にあった悲鳴にしか聞こえない。間違つてないか。

「……えがった……じゃない！捕獲成功！」

何故か上を見上げている横島、八百万の足には捕獲テープ。巻き付いた時に付けたのか。痴漢でなかったのか。横島はダメージはおつたのか鼻を押さえていた。物理的なダメージなんだろうか？

『あー……うん、勝負あり！ヴィラン組の勝ちだ！』

模擬戦は終了。

……誰もマトモに戦ってない。

怪獣配信さん

『どうもこんにちは、着ぐるみを着た兄の妹です。前回と比べて何と驚きです。目を疑いました。登録が4桁上がってますね。流石大企業がスポンサーだと判明しただけありますね！あ、初めに言うべき事がありました。前回の動画のラストなんですが。実はCG合成です！驚きました？驚かせたならスママセン』

- ・ ウツソだろ。なんでまた投稿が!?
- ・ 投稿ちやう！生だ!!生放送!!
- ・ リアルにうお!!?て声が出た。
- ・ 妹さんだけだな。相変わらず覆面。覆面意味もう無いよね。
- ・ 冒頭のOP作ったの誰だよ。
- ・ 怪獣の画像集みたいな映像が流れた後に、覆面を付けた女の子に工事中で謝るみたいな画像が背景、聞いたことがないBGM付き…
- ・ 画像の所、怪獣が戦ってるシーンみたいな捏造もあつたんですが
- ・ スタジオ撮影…

・無駄にクオリティー高いな！

・スポンサーのしわざ

・スポンサーさんコメント出してくれない。

・怪獣どうした！

・星見華美亜ちゃん……顔写真が出てたけどスゴく可愛いんだね。

・キモいのだが

・事実から目を背けるな

・某田舎テレビ局に怪獣の姿が撮影されてたんだよなあ……

・登録が桁違いに増えたのスポンサーのせいでないわ。テレビ局が連日放送してるあ

の怪獣の映像と政府発表まであったせいだわ。

・海外でも騒がれてんだよな。

・余波で紹介したミルクプリンさんの所も登録者増えて荒れてんだけど。

・ミルクプリンさんとこどうしてくれんだ！立ち絵詐欺のコメントで埋め尽くされて

んだぞ!!

・タグに無駄乳から駄が無くなって……

・野球の勧誘もあつたぞ。石投げの速度を計測した結果で

・拘束されてると思つた。

・ 政府発表は事実なんですか!?!お二人異世界の住人なんですか!!

・ お兄さんの日実加くんどうなったの。

・ 今つて政府に保護されてるんでは…放送する許可もらえたんです

・ 貰えるわけないだろ。生放送とか

・ スポンサーなら政府を動かしてやらせそう。

『まー誤魔化せませんよね。では、折角なのでコメントの質問に1つ答えます。異世界の住人ではないですよ。政府の人に異世界っぽい世界にいた妄想な記憶があると言っただけです。妄想なので異世界人でないです。私はミルクプリンさんよりは胸が大きい極々普通の女の子です』

・ お前ええ!!バスト詐欺をさらに広めようつてのか!! 何かプリンさんに恨みでもあんのか!

・ 真っ先にそんなコメント出すから余計に広まるんだよ。

・ それより異世界が妄想つてどう言うことですか!

・ 拘束されてるかどうか教えて下さい

・ アナタも化け物なんですか

『自分がどうなってるかは教えられません。前回の投稿の後に個人情報容赦なくばら蒔

かかったので自分の現在の情報は教えたくありません。あと私が化物？化物は高校時代に買ったエログッズを晒された兄さんだけです！半分ぐらい妹モノってなんですかね？』

・この妹ひどい

・話を逸らしたいにしてもよりにもよってその話題かよ!?

・…うわあ…

・これ怪獣のお兄さん近くにいないよな…

・妹モノのエロを買ってるのが妹にバレるかあ…妹さんが言うのかー。

・ネットで買ったから履歴がね。

・有名なハッカーが調べて公開してくれやりました。

・違法情報なのに変態学者が一点一点見て本人の性格を測る公開処刑してた。

・怪獣騒動の後に根掘り葉掘り…海外のはエゲツない。

・葉掘りってなんだよ!!!なめてんのかテメエ!!

・ガチでお兄さんがこれが原因で暴れると思ったの。

・いやだわエロ関係のモノで暴れる怪獣って

・そんな軽い話でないだろ

・よく怪獣になって自暴自棄で暴れなかったな。

・ 最初にあったプロフィールで子供ばい食い物が好きだな……って思ってたけど……騒ぎの後の怪物になる前の写真を見て吐いた。

・ その話ははやめろ！

・ そう言えばエロと言えば、お兄さんって肉体的にキノコというのか息子というのか、あの部分はこのこつてます……？

・ バカ野郎!!!

・ 卑猥な質問はやめろ！

・ それ聞くか!?

・ でも……気になりますよね。

・ 気になるけど妹に聞くな!!

・ けど妹さんなら答えてくれそう

・ たしかにそうだな！畜生が！

・ 答えなくていいから妹さん！

『みなさん兄さんが死にかけてるので酷いことを言うのを止めてください！高校生の分際でエログッズを合計したら6桁円買った過去があるからって！止めてください！あと下のあるかですか？……どうなんですかね。それぼいがあるような……確認してみますね』

・ 誰も言っていない暴言なんですが？

・ ちよ!? 視線を下に向けてなにを見た!!

・ か、確認してるようにみえるんだけど

・ え、それって、お兄さんいんの!?

・ 姿を見せてください!

・ 怪獣がしにかけ

・ いや…ここで姿を見せ てと言うのは流石に

・ 確認するってなに!? やめる!? 行くな!!

・ まさか流石に冗談でしょ

・ 画面外に

・ うわああ!!! 悲鳴みたいな鳴き声が!!!

・ 冗談じゃなかった…

・ ひでえよ。彼処があるか妹に調べられてるの (戦慄)

・ 6桁かあ…

・ 妹さんお兄さんに酷すぎるよ。なんか恨みでも

・ 悪魔が、じゃない妹さんが画面に戻ってきた

『恨み? 自分の個人情報バラかれるほどの騒動に巻き込まれて恨みが無いと?』

・……それがありませんね

・あるのわかったけど……

・妹さんも完全に調べ尽くされてネットの海どころか、公共二ユースにも出たよな、せめてスリーサイズや趣味については隠せよ。

・そら……恨むか

・妹さんが恨んでる個人情報で……購入履歴もあつたな。中2の黒歴史みたいな。

・……妹さんの趣味、腐ってやがるよね

・年齢制限で無いのかなあいう本で……中学生だよな

・あの……騒動で妹さんも大変なの判ります。わかりませんが！すこし、お兄さんに少し手心を願いませんか。自分も妹が居るので、同じことをされると思うと心がキュツてくるんです

『私の事について追求した人は財布を落として不幸になれ。もしくは同性から狙われる。まあエロの化身から怪獣になった存在ですが、兄さんですからね。ほどほどにしといてあげますよ』

・妹さん優しい

・優しい……？

・もによる気持ちはなんだろう。

・妹さんも購入したモノの履歴的にエロだと思うんだ。

・ちよい待て：その前に：根本的に：Y o u O u b e rに成れとか唆したの妹さんじゃなかった。お兄さん一方的に恨める立場か？

・あ

・：：：そーいやそーうだ。

・妹さん最初からお兄さんがマジで怪獣に成ったと判ってましたよね。あの映像が無くても騒ぎに成るのはわかりますよね。

・普通は：：：隠蔽するよな。

・なんでむしろ表に出してんの。

・故意？

・騒ぎ起きたの妹さんに責任が無いとかはないな。

・被害者面できない立場やないけ！

・むしろ謝らないといけない立場では？

・本当になんでY o u T u b e Oなんて事をしようとしたんだ

・：：：騒動になるのわかってましたよね

『さて！異世界の妄想の記憶について皆さん知りたいみたいでしたね！』

・話し逸らした：：！！

・何か隠してることもある？

・けど知りたいうって聞かれたら！無茶苦茶知りたい！

・なんで妄想って言ってるの。

・妄想設定にしろってことじゃね。

・なんだろう。妄想を保険にしてとんでもない事を言い出すんじや。

・お兄さんはどうなってるん

・ぐあ!!画面の端にピクピクしてる！黒い影がちよっ見え、腹筋がwwwwwwwwww

『時間もありませんからね。どちらかだけで、死にかけの虫けらみたいになってる兄さんの事と世界的に重要な事かもしれない妄想の設定についての話し…どちらが聞きたいです?』

・なにその選択肢は!?

・………妄想って言ってるのに世界的に重要なもの。

・時間制限なんであるのか。

・お兄さん死にかけの虫けら扱い…

・くそ、見えないのにどんな姿か想像できるww

・可笑しいな。巨大怪獣姿を見せて軍隊が動くレベルで騒がれてたのに…妹さんの方

がヤバく思えるぞ

・ぶふ！またそれっぽい影が…震えてるのが影なのにwwww

・お兄さんはソツとしところ。

・そうですね。世界が重要な妄想話の方で

・嫌な予感がしない？保険みたいな前置きするなら話すの危険なのじゃ

・まず政府の人に話したのかどうか教えてください。話した上で発表されてないなら…ダメですよ。

・政府の人に保護されてんの？スポンサーの方に保護されてんの？

・妹さん話して問題ないの

『どうなんでしょう。話すのはダメだと思うんですが、話さない場合にも問題があると思うんですよ。因みに兄さんは話したらダイサンジに繋がりそうって言っていました』

・お兄さん話せるの？

・ダイサンジがカタカナなのが怖いんだけど…

・なんで誰も止めに来ないんだ。スタジオだろうしスタッフの人とかいるんじゃないのか

・話したらダメな話じゃないのか？

・この前置きだと下手に話したらアカン類いの話しだと思う。

・大惨事になるような話なのか!?

・此処での話って世界中の人が見ることになるよ。不味い話しならやめよ

・せめて話す前に誰かに確認とろうか!

『聞きたいですよね?』

・なんで此方に聞いてくんのですかね。

・言わないで欲しい気持ちが八割

・聞きたいですけど

『よし、話します。聞きたい気持ちが二割もあるようですしね。なにか起きたらいや聞きたいとか言った人が悪かったと言います』

・唐突に人の責任にして突っ走ろうとするな!?

・待って!まって!!

・はは、もしかしたら歴史的な瞬間に立ち会ってるのかも。冗談ですけどね。

・冗談になるのかな

・胸がドキドキして痛い

『では、妄想という前提で聞いてくださいね。信じて騒動が起きても私は責任はとりませんので:先ずですが、私はアニメやら漫画の二次元作品に有るような転生をしたと思ってください。転生前は異世界と言いましたが、此処とは少し違うだけのほぼ同じ地

球でした。もう一度言いますが妄想ですよ？』

・妄想で前提でなにを聞かされたの

・何か不穏な気配がする！妄想と付けければ何でも言っただけじゃないぞ!!

・少し違う別の地球から転生した？

・アニメやら漫画の二次元にある転生って神様転生？

・地球から前とほぼ同じ地球への転生…二次元によくある…それって、もしか、この世界が何かアニメか漫画の世界って事ですか？

・二次創作云々ならこの世界がなにかしら物語のある世界ってなるよな。

・マジかよ。

・はい！おふぎけの嘘だな!!

・……怪獣が現れたんだけど。アニメや漫画の世界だと言われても納得はできる。

・一概に否定は出来ないけど……ええ

・反応に困るな。

・この世界は……やはり!!

・これがどう大惨事になんの。

・本人わかって言ってるだろ……

・騒動になりますわ。

・これは妄想って事にしても言ったらアカン類いの情報だ

・そうか？ 仮にこの世界がアニメやらの世界としてそんなに問題な話なのか。

・作品の系統次第だよな

・不明でも騒いだり精神がやられそうな人は居るけどね

・作品内容なんだろ：日常系なら良いけど：

・怪獣が出てきた後の日常系とか怖いわ

『ちがいますよ。少なくとも私はこの世界がアニメとか漫画の世界だと思ってる訳ではないですよ：微妙ですが』

・あ、違うのか。

・ホッとした。

・不穏な言葉があるんですが

・じゃあどういう意味ですかね。

『逆ですよ。たぶんですが、妄想ですが』

・たぶん

・逆？

・なにがどう逆なの

・転生についてとかか。

・ 漫画やアニメ世界に転生と逆て話？

・ つまり転生前がこの世界にあったアニメか漫画の世界…？

・ そういうことなの!?

『いえ作品は無いんです。改めて思うと前…妄想の世界がアニメか漫画みたいな世界だなと』

・ アニメ世界と考える世界から転生してきたって方なの？

・ 前世どんなのだよ

・ 超能力者が居たりするとか？

・ お兄さんが怪獣になったりしてましたが…前の地球は怪獣が出たりする世界ですか
『私が…妄想の世界に怪獣が居たかですが、怪獣は居たと言えば居たような。まあ普通に怪獣が出て驚けませんね』

・ アニメでなく特撮世界かな？

・ サラツと…

・ 同じ地球じゃないだろ

・ だからアニメとかの世界ってことだ。

・ その世界だと人が怪獣になったりするの

・ お兄さんが前世の影響を受けて…姿が怪獣になって事なの

・ お兄さんも妹さんと同じ世界から転生してたの？

『……………そうですね、たぶん。私の知ってる世界だと人が怪獣になるのは…見たことは無いですが、無いことも無いような？』

・ 人が怪獣になるかもしれない世界…………。

・ それお兄さん前世のせいで怪獣に…？

・ 言っただけで人が化け物になる世界か…。

・ 恐ろしいけど怪獣になるぐらいなら普通の特撮でもあるんだよなあ。

・ 特撮って子供向け多くて子供が見て問題ないのだけど、実際に起きる世界なんて想像したら寒気がしてくる話が山ほどあんのよ。

・ 怖いんですが

・ ほぼ同じとか言ってたのにどう考えても今の地球と同じじゃないですよ。

・ 誰かに相談してから話して貰えるかな

『覚えてる限り今の地球と同じでしたよ。魔物が出てくる前は』

・ 魔物…？

・ 今の地球と同じ様な世界なのに魔物が出てくる世界なのですか。

・ 特撮かと思っただけなら想像と違う単語が

・ 魔物が出て人が怪獣になっても驚けない…？

・女神転○みたいな世界かもしかして

・地獄じゃねーか!!

・なんでこんな話を、この世界に無関係な話と思つて良いんだよな?? 思つたらダメなの!?

・それ…魔物が出て来た後はどんな感じだったんです。言いたくないなら良いです!

『出てきた後の世界は…バイオハ○ードで言えば3いこうぐらい?…あ、妄想ですよ』

・思い出したみたいに妄想付けるな!

・……反応に困る

・それハッキリ言えば人類が絶滅しても驚けないレベルのデストピア…

・改めて…出てくる前は此方の世界とほぼ同じって言い回しが不吉なんです

・妹さんがこの話が必要つて思うのは…魔物が関係してる? それかお兄さんのことが関係してる?

・聞きにくいんですが、お兄さんの存在がヤバイなんて事は…

『兄さんは全く問題はないですよ。エロいこと以外は、厳密に検査もされましたが前世に有ったような有害なモノも含めて、人体に悪影響のあるものは放出してないことも確認されましたし』

- ・ エロい事を問題に含めない！
- ・ 検査されたのか。

- ・ されてない方が怖いぞ

- ・ 前世にあつたような有害なモノ？

- ・ またヤバそうな話をサラッと

- ・ その有害なモノってなんですか

『前の世界の認識で言えばTなウイルスみたいな元凶？詳しくは知りません』

- ・ 例えはまたそれか。バイオハザード好きだな

- ・ 好きなのかな。

- ・ バイオと似たような世界に居た上で好きなら精神がヤベーやつ…

- ・ そのウイルスを例えに出すって事は魔物は…変化した生き物？

『そうですね。ある人が見付かった後に研究された結果、魔物は既存の生き物が変異した生き物でしたね。全部ではありませんでしたが』

- ・ 魔物って呼び名なのに地球の生き物の変異なの。

- ・ 魔物じゃないじゃん

- ・ バイオのゾンビの役割が普通の生き物なのかしら。

- ・ 今さらだけど…これ、なんの話？

・さあ？

・変異して人が怪獣に成るのも可笑しく…ある人が見付かってから判明した…ある人って魔物に変化したヒトなのかな。

・ねえなんでこの話をしないといけないと思ったのですか。

・さつきから通報してるのに向に放送が止まらない

・他サイト、てかニュースも騒ぎがエライことに成ってんだけど…海外のニュースが生で此処を放送してるぞ

・なんで中断されないの

・この先を聞いても最悪な話があるような気がしてならない。けど此処まで来たら聞かないのも怖いよ

『たしかにニュースになってますね。へー…まあそれはどうでも言いとして、で、私の知る妄想の地球では魔物が現れた時には空が赤紫になったんですよ。赤紫の空の下では魔物が何処からともかく現れたんです。赤紫がウイルス？みたいなので空が赤紫でない限りは安心だと思ってました』

・どうでもいい扱い!?

・スマホを見て確認したんだよな…なんで平然とできるの(震え声)

・世界から注目されると知っても声に変化がない妹さんの神経が怖い

・今はゆっくりりボイスじゃないよな。ずっと声が平坦なだけで
 ・やっぱあの騒動起きたの計画的だよな

・……ました？

・赤紫の空ってどんなのだ。

・不気味な色

・……そんな色の空なんてあつたらニュースで放送されるだろうし此方は関係ない
 な。目撃例とか無いよな？

・似た色の空とか有ったような……けど妹さんが話してた事なんてないし違うだろ。

・何処からともなく……現地の生き物が変異したって言うなら言い回しが変でない
 か。

『まあ長々話して時間もありませんね。では肝心な話を言いますね。実はこの前……あ、兄
 さん生きてたの？』

・あ、怪獣の人!!!復活したのか！

・生きてたのってこの妹酷い

・画面の端で影がチラチラしてたけどついに出た

・……怪獣の人が遂に出たのに反応が薄くない？

・騒動の元凶……の筈なだけでな

・まあ妹さんのせい（お陰）で危険は感じないし

・妹さんの発言の方が致命的ななにか危険な感じがする。

『なんですか』

・おお！妹さんを止めしようとしてるんだ…よな？

・頑張れ!!…つて応援したら良いのかわからないぞ!!?

・襲つてる様に見えませんか

・見えないのか

・まあ傷付けない様に慎重に動いてる感じだもんな…シスコン…

・だから怪獣の人が出たのに反応が…

・止めなきやいけない話なの

『兄さん…別にそんな慌てなくても、前の世界と同じになる前兆みたいなのが出てると言うだけですよ』

横島 8

轟、八百万、峰田組VS横島、切島組の模擬戦終了。

全員の予想を覆し横島組の完全勝利。

五人が他のクラスメイトが居る所に戻ると誰もが…色んな意味で予想しなかった勝利に貢献した横島、戻ると女子の皆さんが近寄ってきたのでチャホヤされる！と期待した横島！

戻ってきて女子に囲まれる…

そして!!チャホヤ!

なんてあるわけない。

戻ると速やかに女子たちに正座をさせられる横島。

「なんでや!?!」

「は、なにも可笑しくないでしょ」

「おかしーやないか!!?ここはキャー!スゴイ!格好いい!とかそういう感じで女の子が出迎えてくれるんと違うんか!?!なんで正座!?!」

「なにいつてんの?!?」

「キャー!って声は上がったよ!悲鳴でね!!」

「何で悲鳴!?!」

「八百万にセクハラしたからにきまつてるでしょ!!」

「マジである模擬戦の何処にカツコいいなんて要素があると思ったの」

「せ、セクハラ!?!ほ、ほんの少し八百万さんの足にくっただけやないか!?!」

「だけ!?!」

「ほんの少し?!嘘つくな!ガツクくっついてたでしょ!!」

「あれセクハラだよ」

「いやセクハラどころじゃないでしょ」

「痴漢、猥褻行為」

「うんうん!そう言うのだよね!私がされたらトラウマになるよ!」

「……服を着てない葉隠ちゃんにくつつく？」

「いやああ!!想像しないでよ!!」

「八百万、大丈夫？」

「え、ええ突然足にくつつかれたのは驚きましたが大丈夫です。あ、あの横島さんも模擬戦で真面目に戦われただけです……そんなに責めなくても」

「甘いよ！絶対下心ありでやったんだよ！」

「凄くスケベな顔をしてたもんね！」

「真面目はない」

「……君達！さっきの模擬戦の評価をしたいから集まってね！横島少年を怒るのはその後でね！」

「「……はーい」」

「ふー助かった……あれ？後で？」

オールマイトから言われて横島を渋々と言った様子で解放する女子達。立ち上がった横島の隣には疲れたような切島がいる。横島が正座してるときは巻き込まれないように空気でいた。

「怒られたの納得いかーん……セクハラ、セクハラって、あれぐらいセーフやんな切島？敵なら足にくつつくぐらいするよな」

「……………あー…それは…」

女子の視線が向くなか物凄く答え難い質問だった。

『主にしては相当に自重していたんだがな。あの程度でも不味いのか？今回はヒーロー役ではなく、ヴィラン役、敵ならもつと酷いことをしてくるだろう。実戦を想定した訓練ではないのか』

困ったようにオールマイトが答えた。

「うん、まあヴィランが女性ヒーローにはもつとアレな事をする場合はあるとは聞くよ……………訓練で慣れたりした方が良いんだろうけど……………ほら、初めの授業だし、倫理的な問題もあるからね」

「オールマイト…それって女性ヒーローだとさっきの横島くんより、酷い何かされる場合があるんです」

「どの様な事をしてくるのでしょうか…」

さらに答えにくい質問にオールマイトはちよつぷり冷や汗をかいた。

「んーゴメン！男の私だと教えるのは……………ちよつと…ね！だからヴィランが女性ヒーローに何をしてくるか知りたいなら、ミッドナイト先生とか女性のヒーローに聞いた方が詳しく聞けると思う！」

新人教師として先輩教師（ヒーローとしては遥か後輩）に矛先を逸らす。丸投げ。

ミッドナイト、この学校の教師だが……18禁ヒーローと呼ばれるぐらいいけない格好をした女性ヒーロー。全身タイツな格好に女王さまの様に鞭を装備として使う。更に個性を使うのに肌を露出させる必要がありタイツを自分から破く。素手で破ける様なタイツで戦う三十路……因みに関係ないが八百万も個性を使うのに肌を露出させる必要がある。

「判りました！」

「……なんで横島少年と峰田少年が返事をするの？」

「では改めて、さっきの試合……試合についてだ！ MVPは！……うん、色々言いたい事は有るだろうけど横島少年かな！」

そのオールマイトの発言に言葉通り何か言いたげな様子を見せる。強い異論は無さそうだが何か言いたげだ。

「横島がMVP……」

「あーんー横島なのか？」

「理解は出きるんだけど、スッキリしないよなあ」

「横島少年やヴィランチームには幾つか良かった点がある。まず一つ目は自分達にとって有利な筈の建物の中に居る事に固執しなかった事だ！」

「ケロ：あのまま建物の中に居たら轟ちやんの氷で即負けだったものね」

「外に出るの切島、それか横島が提案したの？」

「オレと横島じゃなくて心眼が建物を凍らせる可能性を指摘してくれた」

「へー！心眼って優秀なんだ」

『建物を凍られる可能性については主が思い付いたことだ。私は言葉として出したただだ』

「思い付いたことを……ってことは心眼は横島の思考が読めるのか……」

「君が作戦を立てたか思ってたんだけど、作戦を考えたのも横島少年なのかい？」

『大本は主が考えたのを私が話したただけだ。今回は主が考えてる範囲以上の事は何も言っていない』

「あの作戦立てたの横島だったんだ」

「横島って成績悪かったのに頭脳派なのかよ」

「あれ相当博打要素がある作戦じゃなかったか。頭脳派か？」

「考えたと言えば、考えた？……こう、適当に考えてたのを心眼が悪辣な作戦にしてくれてたな」

「悪辣……」

「考えたことをまとめて作戦にしてくれて、その心眼スゴい！欲しい！」

「……心眼を宿した横島の師匠どんな人か凄く気になる。プロヒーロー？」

「心眼みたいなのを作れるプロヒーローなんて聞いたことないけど……いや個性の応用で出来るプロヒーローが居るのかな」ブツブツ

「……あの八百万にくつついたのとかも作戦のうち？」

『捕獲する事だけは決まっていた』

「……捕獲の仕方については横島の独壇なのね」

「あのさ、建物の外に出てたの轟達が普通にさっさと入って行ったら不味かったんじゃない。二人とも外で核の守りが無いんだし。轟くんが確実に凍らせるみたいな確信あったの？」

『いや確信はない。もし何もせずに入ろうとした場合は入る前に後ろから強襲する予定だった』

「どちらにしても建物の中で戦うのは避けようとしてたのか」

『まだ建物の中で戦うよりは有利だからな』

「……ヒーロー組の面子考えたらそうか」

「考えてみたら轟の昨日のテストで出してた氷を覚えてたら、逃げ場が少ない建物の中

とか厳しいと思うよな……氷なら核を巻き込んで攻撃出きるし」

「轟だけでなくて八百万の個性もわりと建物の中の方が厄介じゃね。最後の方に投げてたフラッシュみたいなの鎮圧用の道具とか造られるし」

「…それなら峰田も、昨日峰田から聞いたけど頭のボールに粘着性がありくつつける事が出きるんだよな？ 建物の中で使われると面倒そうだろう」

「外で戦うのが当然って今話してみると思うわね」

「建物中で核の防衛に徹するのダメか」

「外で戦うのが当然だと思うなら逆に言えば！ 轟少年の事を知っている相手なら外に出ている事も想定ができた！ ヒーロー側三人のミスは相手が二人とも建物の外に出ていると想定しなかった事だね。中に居ると思わせる細工もあつたから難しいけどね」

「壁に板が張られてたりしたのその為の細工だったのか」

「…其れがなくても此までのヴィラン役が大体建物の中で待ち構えて居たので、普通は籠城して防衛する方が有利なので籠城すると思ひ込んでいましたわ…建物での防衛が有利だと思ひました」

「うん、まあ普通は居ると思うよね」

「そう思ひ込みでの油断は今回みたいに致命的なミスにも繋がる！ 他のみんなも他人事じゃないよ！ 今回のヒーロー組の立場で相手が中に居ると考えて轟少年が建物を凍結

させた後、勝ったと油断しないと自信を持って言えるかい？」

「それは…言えない…です」

「同じく。轟のあの凍結を見た後に勝ったと思うと思います」

「結果的に油断のせいで峰田少年が捕まった。これについては油断だけでなく、三人の意識の隙間について動いた横島少年が見事とも言えるけどね。

あ、そうだ。君達は判つてそうだけど一応。観戦していた時に人質が反則でないかなんて抗議があつたけど、実戦でヴィランが人質を取らない何て方がありえない。反則なんて事にはならないよ」

「わかつてます。直ぐ近くで人質を取られた俺達が間抜けだつただけだ…」

「…あのオールマイト…」

「なんだい八百万少女」

「人質にされたあと…拉致された峰田さんを、横島さんと建物の中に向かつたと判断しましたが、その前に見捨ててる判断をしました。これは…ダメだったのでしようか」

「……うん、それは、ダメとはいわないよ。今回みたいな核の脅威がある設定の状況だと……核の危険を放置して仲間を優先しろ！なんてことも言えないかな」

「そうですか」

「ヒーローなら仲間も助けるべきじゃ」

「理想を言えばそうだね。状況にもよるけど、別に助けに行くことは否定はしない。けど助けられない事も否定もできない。どちらも救おうとするヒーローもいる。逆にリスクを危険を少なくする為に苦渋の決断で見捨てる事を選ぶヒーローもいる。私からはどちらのヒーローが良いとも悪いとも言えないかな」

「正解はないんですか」

「状況にもよるからね。厳しいけど何が正解か不正解かは自分自身で決めなければいけない。その場その場で自分で選んで行動するしかない！

ヒーロー組二人の核を優先する決断は間違いとは言わない。ヒーロー失格とは思わないよ」

「はい」

「ただ、二人は仲間を見捨てる判断をしたそうけど、模擬戦だからアツサリ見捨てることも出来たんじゃないかな。本番の実戦でも同じ事が起きたら同じ判断をできたと思うかい？」

「それは……………本当に仲間が拉致されたとしたら、また違った判断をするかもしれない」

「……………誘拐したヴィランがどんな奴かで変わると思いますが。今回の横島みたいな相手だったら後回しにしてたと思います」

「模擬戦というのは実戦で戦うための予行練習だ。模擬戦と実戦の時の判断が違ったら意味がない。それと轟少年の言う通り相手によって違う判断をする場合もあるね。他のみんなもだけど！模擬戦でやった事を実戦でも同じようにできるか、相手や状況次第で自分がどう行動するかも考えてみてね！」

「はいー！」

『そもそも実戦を想定すれば核の対処をヒーロー二人ではやらないのでは』

「そういうツツコミは勘弁してね！さて、話を戻して：八百万少女達は峰田少年が拐われたのは人質だと予想をしたんだよね」

「え、ええはい：時間稼ぎか、切島さんを救出する時に建物ごと凍結させられないよう盾にしたんだと……」

「二人は横島少年が峰田少年と建物の中に入ったと判断した。少し違うけど実際に横島少年と切島少年も加えて建物の中に入っていった。ヒーロー組は入ったと予想し人質ごと攻撃する事になるから二回目の凍結は避けたけど、横島チームは峰田少年ごと凍結をしてくる場合は想定しなかったのかな」

『仲間ごと攻撃してくる可能性は少ないと思っただが、確実に仲間ごと攻撃されないとは考えてはいない。が、仮に攻撃された場合でも問題はなかった。主なら対処はできた』
「本人がおもいつきり首を振ってるけど？」

『主は自分を過少評価しているからな』

「…横島少年の実力が気になるけど、話を進めるね。次は建物の中での話だ。先ずはあの罠についてだね」

「罠てかイタズラだよな」

「あのビー玉やネズミ取りなどはどの様な意味があったんでしようか」

「嫌がらせ?」

『嫌がらせでも意図としてはあっている。相手の位置を確認する為と集中力を削ぐために用意していた』

「わたし達達の位置を…」

『位置についてはおまけで本命としては集中力を削ぐことだ』

「…ああ確かに集中力は削がれたな。最期の為の仕込みか。…よくあんなに用意できたな。仕掛ける時間あったか」

「轟少年たちは知らないだろうけど、屋上とかにも用意されていたんだよ」

「私たちが何処から侵入してもバレていたと…あのそんなに罠をはる時間ありましたか?」

「………横島の個性は罠を作るのに適していたのか?」

「あーいや個性使ってるようにみえなかった。凄く手際よく用意してただけだった」

「凄かった！」

「凄かったけどキモかったよね」

「いったいどんな動きしてたんだよ……」

「動きも凄いいけど、よくあんなに物を持つてたよな」

「横島で四次○ポケット持ってたりする」

「ヨコシマエモン……」

「四○元ポケットとかないわい！。そこら辺にあったの持ち込んだだけだ！……四次○ポケットとかあったら石ころ帽子欲しいなあ」

「なんでそのちよいす？」

「ん？そこら辺にあったのビー玉」

「猿のオモチャも？」

「ネズミとりはあつても変でないけど」

「いやネズミ取りあるのも……校長的に良いの？」

「まあ何処から調達したかは気になるけど次の話だ！わざわざ核のある部屋で二人を待ち伏せていたのも意図はあるのかな」

『核は勝利条件ではあるが相手の思考を狭め相手の行動を制限する枷でもあるからな。轟の凍結の様な例外もあるが核を巻き込んだ攻撃ができない。攻撃の選択の幅が狭く

なる。それと触るだけで勝てるモノなら優先的に狙うだろう」

「なるほどデメリットをメリットと見たか」

「八百万達が仲間ごと攻撃したら不味かったんじゃないか。さつき言つてたみたいに轟の水なら核を巻き込んでも問題無さそうだし」

「峰田が核と横島の近くの床に転がされてたから無理だろ。あの体勢で凍結に巻き添えになつたら口と鼻が塞がれる」

「あれ適当に転がされてたんじゃなくてそう言う意図だったのか!」

『いや主が雑に扱つてただけだぞ』

「おいしい!横島テメエ!!純粹にオイラを雑に扱つてだけなのかよ!!」

「けど、彼処まで誘き寄せたら轟達が予想外の事をしたらやばかつたんじゃないの。例えば緑谷みたいに床をくり貫くとかり。八百万の個性なら何とかいけそうだろ」

『推薦者二人とも思考が柔軟さが無く、予想ができる正攻法で攻めてくると考えた。峰田はそう言う意味では不安要素ではあつたので人質に狙つた』

「一番狙い易かつたからじゃなかつたの」

「まあ一番狙い易かつたのも正解だろ。轟は反撃しそうだし。八百万は横島だと…ほら」

「事件になるわね」

「…思考に柔軟さが無い…」

「は！もしや、組み合わせ発表の時に挑発してたのも、ヒーロー組の性格から行動を予想するため」

『そう言う目的があつたことは否定しない』

「そうだったのか…」

「あの時の反応で行動を予想できたの？」

『予想する一つの材料とはしたが確実に予想通りの行動をすると考えた訳でもない。予想外な事をされてもその対処で主の経験になれば良いと考えた』

「おい!!」

『しかし実際には予想が外れることはなかった。特に主の下手な演技でバレるかもと思つたが…』

「……………」

「あー、うん！いや！わりと良い感じの演技だつたと思うよ！それと初めての訓練なんだから上手く行くなんて事は少ない！気にしすぎたらダメだよ！…次にベストだったのは切島少年だ！」

「オレ!?!」

「切島なんですか」

「あの、切島は最後の最後までなにもしていないですよね」

「うん、最後にテープ巻いただけ……」

「そうだね。ぶつちやけ彼には活躍の場がなかった！正確には活躍した様には見えてない。けど、彼はちゃんと勝利の為の重要な役割は果たしていた」

「そうなんですか？」

「……ケロ、切島ちゃんが最後まで動けないフリをしていたからこそあつた勝利よね」

「梅雨ちゃん気遣つてくれてありがとう」

「切島少年、君は最期まで動かない事を承知の上で横島少年の作戦に乗つたんだよね」

「はい……作戦も心眼と横島が作つたのに乗つただけです」

「いやいや！悪い意味じゃないよ！君は勝てる作戦だと思つたから横島少年の作戦に乗つた。自分が目立って活躍しない事を承知の上でさ！」

「それは……オレが他に勝てる作戦とか思い付かなかつたんで、作戦の案も出せないのに活躍出来ないからつて文句を言うのは男らしくないですし」

「それでも勝つために自分が活躍しない事を受け入れられるのはわりとスゴい事だと思うよー！」

「……そうなんすかね」

評価された側の切島がそんな様子で…それ以下の評価の負けた側はどういう気持ちになるか。

「……」

「そ、そんな落ち込むなよ。二人なんかマシだろ。開幕拐われて最後に味方のお邪魔虫に使われたオイラなんてどうなるんだよ」

戦闘訓練の翌日。

「……昨日の戦闘訓練は見せて貰った。初の戦闘訓練だ。当然だが満点だったと言えるやつは居ない。良くなかった部分があったと自覚した上で、次の訓練までに其々自分の何処が問題で最善の行動が何だったか考えろよ。特に緑谷に爆豪、お前らは喧嘩がしたいのか。違うなら目的と手段で手段の方を優先するな」

「…はい」

「っす…」

相澤は次に横島を見た。

「それと横島……」

「え、なんすか!? オレも何かダメやった!? まさか! また限界までマラソン!? 一人マラソンとかはいややあ!!」

「落ち着け違う。ただ少しは真つ向勝負をしると言いたかったただけだ」

「……え、真つ向勝負…真つ向から戦う必要ってあるんすか？」

相澤は堂々と言えることに呆れもしたが感心もした。

「……………まあ今回の訓練では自分から真つ向勝負を仕掛ける必要はないか。だが真つ向から戦う事が避けられない時も多々ある。そう言う場合に備えなきやいけないのは忘れるな」

「そうなんすか」

「…露骨に嫌そうな顔をするな。そんなに真つ向から戦うのが嫌なのか」

「オレって正面から戦えるほど強くないですし」

「……」

「え、なんすか」

相澤は横島のバンダナを見る。

「……………オールマイトから聞いたが横島のそのバンダナには心眼ってやつが宿っているんだよな？聞こえてるなら答えてくれるか」

『うむ何か御用か。』

バンダナに瞳が現れる。

「心眼ちゃん居たのね」

「顔、じゃなくて目が出てないから別のバンドナだと思つてた」

『不必要に出ていると生活の邪魔になるからな』

「氣遣いの紳士」

「…お前が心眼か。質問なんだが横島は真つ向からの戦闘は出来ないのか」

「なんで本人でなくて心眼に聞くんすかね」

『別に出来ない訳でもない。ただ格上との戦闘ばかりを体験していて正々堂々と戦うのに全く慣れてはいないな』

「……………格上、お前を産んだ師匠とかか？」

『そうだな。他にも居るが』

「…どういふ相手と修行してたか気になるが今は聞くことでもないか…横島、今の戦闘スタイルを変えろとは言わないが、今度の模擬戦がある時は一時的にでも今のスタイルを止めて一度真つ向から戦つてみる。格上でなく格下相手なら練習相手にちようど良いだろう」

格下という部分に生徒たちは反応した。

「ちよ?!挑発すんなや!!」

相澤は横島の抗議はスルーして本題を話すことにした。

「さて、今日はこのクラスの委員長を決めて貰う」

「「おお！学校ほいのきた!!」」

反応が大袈裟過ぎる。いや担任が入学式にすら参加させなかつたせいか。

「オレ、委員長やる！」

「うちもやりたい！」

「リーダーになりたい！」

「ボクのためにあるやつ☆」

「オイラが委員長に成つた時のマニフェストは女子のスカートは膝上30センチ！」

「なに！そう言うのもありなんか！なら！ワイが委員長になつた時のマニフェストは！

女子の制服を……ふざあ!」

バンダナが横島の口に移動して塞いでいた。

『止める主、その後の発言は発禁だ』

「静粛にしたまえ！多を牽引する重大な仕事だ!……やりたいからと言つてできるものでもない！周囲からの信頼があつて務まる聖務！真のリーダーを決めるなら民主主義ののつとり……投票によつて決めるべき議案!!」

「手えおもくそ上げてる！」

「そびえ立つてんじゃねーか！なんで発案した!?!」

「なんでも良い。早く決めろ」

平和に選挙に似た形式で投票による委員長決めが行われた。

クラスの全員が一人一人其々委員長となる為に自己アピールをした。この自己アピール、担任が他生徒との交流を軽視するので、軽い人物紹介、いや自己紹介の様なモノも兼ねていて丁度良かったのかも知れない。

公正な選挙の結果！

大体が自分に投票し極少数の生徒が他者に投票。

委員長は緑谷、副委員長は八百万と決定。

「私が…選ばれたからには全力でやりますわ！」

副委員長は問題ない。問題ないとして

「ぼ、ぼく!!？」

委員長が…これまでのテストや訓練ではあった狂気は成りを潜め、人前に出ることに慣れてない様子でオドオドした様子。どうみても相澤とは違った意味でコミュニケーション能力がない。

尚、誰がトチ狂って投票したのか八百万と同じ二票だった横島、問答無用で落選とな

る。女子からは冷たい目で見られ反省文を書くことも求められた。

「なんでワイはシバかれて反省文書かんとアカンのや!!! 不正したとかいわれたし! 不正なんてしてへんぞ!」

『……いや不正に関係なく反省文は書かされるだろう…一度止めたマニフェストを何故言った』

横島、違いの

ボクは緑谷出久、個性は無いけどヒーローを目指す極々平凡な中学生だ。

川原近くの橋で声が聞こえた。

始め、近くの小学生でも居るのかなと特に気にせず通りすぎようとしたけど…
胸がどうたら…良い身体してるとか…

下は人気のない場所。

背が高い草むらもある。

…声も合わせて考えたら!!!

…確認しないと!!

ランニングした帰りだから体力は限界近いけど様子を見に行く。スマホを出して何時でも警察に通報できる用意をして…手頃な石も持つて。

草むらには誰かいた。

屈んで興奮した様子。

…あれ?一人しか…居ない?

「これは、うほお!! ええなあ!! ええなあ!! 良い乳しとる!」

橋の下の草むらで露出過多な女の人がかかれてる本を読んでる知らない男の人が1人。とても見覚えがある人に見える。いや、気のせいか!

「…1、1、0、番と…」

「ちよ! だれや通報しようとしてるの! ……つて…イズクやないか!? 久しぶりだな!」

ボクを知ってる。

はああああ…気のせいじゃないのか。

「お久しぶりです横島さん…イヤになるほど全く変わりませんね」

代名詞は歩くワイセツ物、有名なスケベ。評判はヴィラン間際な人だったけど…苛められてたボクを助けてくれてやるべきことも教えてくれた恩人。こんなんだけど

女の子からはあれだけ僕を含めた男子からの評判は良かった。年上なのに対等に遊んでくれたりしたから、精神年齢が低いとは言わない。

小学生の低学年の時に出会って最後に会ったのは…たしか、中学に進学して、横島さんが高校に進学してからだから、二年ぶりか。だいぶ久しぶりにあつただけど…昔と全く変わらないなあ。ほんと変わってほしかつたなあ。

初めて会った時もこんな感じだった。

「…昔も此処でそういういい本を読んできましたよね。なんでこんな所で読んでるんですか」

「家だと読めないんだよ！師匠が怖くて」

あー昔から師匠が怖いとか言ってたっけ。いまでもダメなのか。そう言えば何の師匠だろ……。横島さんてボクの師匠みたいな所があるから師匠の師匠に、いや、自分で考えたんだけど、この人が師匠はやだな…。

「久し振りですけど、これまでどうしてたんです」

高校になったぐらいの時期に途端に居なくなつた。知ってる人からは高校が忙しいから、他には遂に痴漢で捕まつたという説が…通説は圧倒的に後者。釈放されたのかな。

「どうしたもこうしたも!!師匠に騙されて入学した高校がアホみたいに厳しくて！無精髭の不審者教師が特に鬼みたいに厳しくて！……師匠の追い討ちもあつてな！…自由時間がまるでなかつたんや!!」

騙されて入学……厳しい高校……ああ横島さんの性格を矯正する為に規則が厳しい高校に入れられてたんだ。

「おいイズク、その納得したみたいなのがなんかムカつくぞ！絶対オレをバカにした様な事を考えたやろ！」

「きのせいですよー」

「ホンマ?」

「ホンマホンマです…はあ」

「それなら良いけど…イズク随分疲れてるな」

「ランニング帰りなんで」

本当なら直ぐに休みたかったんですよ

「はーランニングか。運動系の部活か何か入ってんのか。それか相変わらずヒーローになるのに鍛えてるんか」

「ええ、はい、何処かのスケベな誰かにヒーローになるのに鍛えてないのはバカにされましたしね」

横島さんは昔、ボクがヒーローを目指してると聞いて、個性抜きでヒーローを目指すことはバカにしなかった。…個性無しな事にはね。代わりに運動してない事はおもいつきり馬鹿にされた…ヒーローは人助けするもんやろ? 鍛えてない身体でどう人を助けるんだよプププってね。今でも思い出すと腹が立つ顔で言われたけどぐうの音も出ない正論……!

「そんなん言ったの何処の誰だろな。そう言やイズクは…今は中学二年か三年で来年から高校になるんだよな」

「ええそうですよ、」

「何処の高校か決めてんの。やっぱヒーロー科のある所?」

どの高校か。あまり言いたくないけど…横島さんなら良いか。

「雄英のヒーロー科を受けるつもりです」

「…雄英?」

横島さんが顔をしかめた。

この反応、まさか、横島さんまで…

「悪いことは言わん。雄英は絶対やめた方がいいぞイズク」

とても真剣な顔でそう言われた。

横島さんの口調には…ボクを馬鹿にするような悪意なんてなくて、善意で言ってくれてる事が伝わる。そうなのか。横島さんも無個性のボクだと無謀って思うのか…馬鹿にされた方がまだマシだな。

「ホントマジで! あんな所は目指すのは止めた方がええぞ!! 自分から地獄に落ちるようなもんやぞ!」

「……はい?」

んんん? あれ? これ横島さんボクが無個性とか関係なくて雄英自体がダメって言ってる?!

「雄英に入るのが地獄に落ちるようなものって何ですか」

「なんで？それはなあ!!それはなあ!!…まず!…雄英の教師が地獄の獄卒ばりな鬼畜生
ばっかりだからだ!!」

「き、鬼畜ばっかりて…」

「なんで鬼畜なんて言うんだ。地獄の獄卒って横島さん雄英の教師の人とどこかで
会った事が？」

「横島さんが雄英の教師にあうような機会なんてあるの？雄英の教師はプロヒーロー
ばかりで多忙そうで…あ…ああ、そう言うことか。横島さん痴漢か覗きでもしてる時に
雄英の教師の人にヒーローとして捕まったりしたのか。は、つまりは逆恨みか」

「なんで蔑んだ目をしてくるんや？」

「気のせいですよ」

「そうか?…まあええか!それより教師の他にも雄英がアカン理由はあるぞ!」

「へーなんですか」

「どうでも良いとか思ってたへんか?良いか!雄英を目指すなら!よく聞けイズク!…二
つ目の雄英に入るのなんてダメな理由はなあ!!雄英はマッドに変人の巣窟やからや!」

「変人とマッド?」

「雄英の大抵のヤツが変人やらマッドやけど!特にヤバイのは!雄英のサポート科の連

中！アイツらな！人道無視して人を実験動物みたいに扱ってくる連中なんやぞ！！何度……殺されかけたか！！」

「……はあ」

横島さん、ヒーローの人なら（捕まる側だから）関わるのわかるけど、雄英のサポーター科の人達と何処で関わるの？

「そして何よりも大事な事やけどな。絶対に、絶対に！！後悔する雄英に行かん方がいい理由……！！」

横島さんの顔に……み、見間違いないかなよね。憎悪と怒りが浮かんでる。ボタボタ涙が落ちて……雄英の誰かによほどに酷いことでもされたの！？それか雄英に入らない方がいい理由で泣くほど酷いのが……？

「……雄英生って肩書きがあってもな……女の子にな……女の子に……モテ……へん！雄英生徒って肩書きがモテるのに！欠片もやくに立たん！！むしろ引かれる！雄英生になっても、まるでモテへんのや……！」

「……そうですか」

雄英生がモテないって誰の情報？

モテたいって理由で雄英に入った知り合いに居たのかな。類は友を呼ぶみたいな。

「あと！雄英の女子は可愛い！美人も多い！けど……ヒーローを目指した修羅ばかりなん

や……!!」

「はあ」

「イズク全く信じてない顔をするな！ 実体験からの話やから嘘じゃないぞ!!」

…モテない事が？

違うか。話の流れだと雄英に入ったのにモテなかったって事か。横島さんが？…横島さんが雄英に通ってる。いやいやそんなこと無いよね。無個性の僕より入るのが無理あるでしょ。鍛えてない頃のボクが入りたいとか言うぐらいの話だよな。

「はは、それって横島さんが雄英高校に通ってるって話ですか」

「雄英ヒーロー科にもう二年通ってるぞ」

なんで肯定するの？

「冗談やめてくださいよ」

「いや冗談違うけど」

「横島さん…：冗談でなく本気だっけ言うんですか？あ、冗談じゃなくて嘘ですか？」

「なんで嘘なんてつかないアカン」

本気で言ってる顔だ。

え、どうして横島さんは自分が雄英の生徒なんて”思い込んでるの”

っ!!まさか…：そうなの、横島さん高校からずっと自由な時間とか無くて厳しい生活

だった筈だ。精神的に追い詰められてた！それで：追い詰められて自分は雄英高校に居るんだって！：皆が憧れるような高校に居るんだからその分辛いんだって：現実逃避：してる…

横島さんの為にそう言うお医者さんを紹介した一年後、ボクは憧れのあのヒーローに個性を貰い雄英に合格した。それから何カ月。

雄英が襲われたり。幼馴染みが拐われたり、寮暮らしになったり：色々とおつたけど、ホント一言で言えないぐらい色々とおつたけど雄英での生活は何とかやれてる。横島さんが妄言で言ってた雄英のあれな所は……：まあだいたい否定できないかも。

相棒先生が誰か呼んだらしい

「今日は特別ゲストとして雄英生徒のトップ、ビッグ3と呼ばれてる三年生の三人に来てもらった。あとオマケ一人」

三年生のトップの先輩が来るのはわかったけど…

「オマケ？」

何でだろ。この部分がスゴく気になった。

この感覚は……嫌な予感？

……何となく、ほんと、理由はわからないけどかつちゃんをみた。かつちゃんも此方を見ていた。ボクと同じで理由は自分でも判らないのか困惑した様子だ。なんだから、なにか怖い。誰が来るの。

「前途——多難！なんつって！はい！駄目だね！白けてるね！」

「ねえねえ何でスベるってわかってるのにやっちゃうの」
「もうだめだ帰ろう……」

入ってきたのは……その……何て言ったら良いのか。変な人達だった。けど嫌な予感を感ずるような人達でも……予感が外れたかな……ん？

「……三人？」

「相棒先生、来るの四人じゃ」

来てない人はトイレとかかな。

「……おい、あのバカはどうした」

「わかりません!!」

「わかんない！」

あの二人は知らないんだ。

けど……一人だけ目を逸らしてる人がいる。

「知ってるんだな」

「し、知りませ……「ほう」……何かやることがあるって言っていました……!」

「……やること……アイツまたか……」

「わー相澤先生激怒してる。なつかしー」

「ハハハハ、懐かしがる事じゃないと思う!」

結局四人目の人は来なくて実力を教えてくれるみたいな話で外にでた。

「じゃあ早速……あ」

「パーーーーー!! パラッパラッパーーーー!!」

「え、なにラッパの音」

屋上から!?

此まで僕達は雄英でヴィランの襲撃を二度も受けた。校内だからって安全の保証はない。異常な事が少しでもあったら臨戦体勢になるか警戒をしなきゃいけない!と思考では思うんだけど……本能の部分が脱力していた。

いつの間にかラッパを吹いた誰かが屋上に!屋上に居るのは……物凄く、物凄く……見覚えが……疲れてるのかな。幻覚かな。

「おい、デク…」

「あ、そうか!! ヴィラン連合に居た変身できる娘か! きつとそうだ!!」

「じゃなかったら! 何か…なにかしら、個性の攻撃だ!!」

「ねーよ!! 現実みろよ!!…いや、やっぱ見たくねーよボケが! なんていんだよ!!」

「緑谷くんと爆豪くんの知り合いなのかい?」

「違うよ! えつと知り合いに似てるな! って感じで絶対に知り合いじゃないから!」

「そ、そうなん」

「一年の女子の皆さん初めましてこんにちは!! ボクは雄英のエースで君たちの先輩の横島忠…「バキューン!」ふああ!? ちょ!? だ、誰や! いま撃つたのは!! って! なんやこれ!!」

武装した感じのドローンが取り囲んでる。ワイワイガヤガヤ…って感じで人がきた。エンジニア、発明家って感じの人達だ。…さつき言おうとした名前…いや気のせいだ!! いや! じゃなくて! 射たれた!? よこ、誰かわからない人の後ろの壁に銃弾受けたみたいな穴が!

「外れましたね直撃コースだったんですが」

「彼に狙撃でも単発では意味がありません。確実に仕留めるならミサイルで飽和攻撃するぐらいでない」と

ふぎけんなー!!! って屋上からの叫びは無視して。発明家ぽい人たちの中に知ってる人が…

「発目さん!?!」

「な、なんでここに!!!」

「おや緑谷さんたちですか。サポート科で自作ドローンの射撃能力を試しているのですよ! 標的はサポート科の更衣室に侵入した変質者の仮想ヴィランです」

「ちよい待て!! なんやそれ! サポート科の更衣室には入った覚えはないぞ!!」

…には?

あ、ドローンがガチャガチャって射撃準備完了したみたいな音を出した。

「覗き容疑、ナンパ、セクハラ訴え多数、そして一年に如何わしい事をさせないために、ヒーロー科から我々サポート科にダミー人形として使う許可が出ている。大人しく標的となれ…!」

「誰やそんな許可だったの!!」

「大丈夫です。計算では貴方なら9割生き残れます!」

「それ一割ダメってことやないかあああ!!!…ちよいまで!! 怪我とかじゃなくて生き残れる!!」

「射撃開始」

屋上から聞こえてくる悲鳴と射撃の音と爆発。ぼくらはただ呆然と見てるしかなかった。

「ほんぎやあああ!!! やめてー!!! いやー!!! おたすけー!!!」

助け呼ばれてるけどヒーロー科だけど誰も動こうとしないや。

暫くして

「では緑谷さんたち方、お騒がせしました」

いやー良い記録が取れたとサポート科の人達は帰っていった。そして屋上から落ちてきた黒焦げの何かが残されてる。これどうみても死た…

「り、リカバリーガールをすぐに呼ばなければ!!」

「こ、これ、どうみても…手遅れ…だろ…ん」

「あー死ぬかと思った」

さつきまで焼死体って感じの人が起き上がって黒焦げ部分がペリペリって日焼けみたいに落ちた。わーっ知ってる人みたいな異常な回復力だ。けど絶対に知らない人だよね!!

「いやああ!!! 死体が起き上がった!!」

「おい、上級生が恥を晒すな」

「いや! 相澤先生! 恥とかじゃなくて!! どうみてもさつきの致命傷!!」

「なんで平然としてるんすか!？」

「…コイツの担任を経験した事があつたら此れぐらいで驚いてらないんだよ」

「こ、この人、これが普通なの…」

「…脳無の様な再生する個性もちか」

脳無…複数の個性を持ったウイルス、脳無ならどんな個性を持つても不思議じゃない。そうか！変身して変態に化けてる脳無！それか他人の空似!!あの人とは違う。違う筈だ。

もし億が一例えば名前が一緒なら、もしボクを知つてたら…ほ、本当にあの人だつて認めないと、ダメになるかな！違うだろうけどね!!

「ゴホン！改めてボクは横島忠夫!!よろしく!!綺麗なお嬢さん!」

「…よ、よろしくお願ひいたします」

「…この反応、可愛い感じの女の子！まだ修羅じゃない!!サポート科は一年でもあれやったけど！ヒーロー科の一年の娘はまだ…!れ?そこに居るのはイズクに…そのツンツン頭は爆豪?」

「緑谷！爆豪！知り合いなのか!？」

「……………知らねえし」

「知つてる反応!!」

「緑谷はどうな……え、緑谷？」

あーはは名前は同じだし。僕の事も知ってる。これは億が一が正解で間違いなく横島さんかー。横島さんが雄英に本当に入学してたのかー。してたしてたしてたしてた……

「あ、そうか。これは夢だ。夢をみてるんだ。わー！思い返したらオールマイトに出会ったり雄英入学したり……夢みたいな事ばかりだったけど……そっか全部夢かアハハハ……そうか！夢なら横島さんも雄英に居ても可笑しくない！起きたら雄英に入る前ぐらいいかなww……頑張つて雄英に合格しないと……ふふ……ふひ」

「緑谷あああ!!!」